

# 医者どん坂遺跡

— 熊本県菊池市出田所在の遺跡 —



2022年

菊池市教育委員会





図版 1 菊池飛行場



图版2 九五式演習彈出土狀況



图版3 九五式演習彈



图版4 九五式演習彈

## 序 文

菊池市は熊本県北東部に位置し、阿蘇外輪山を源とする1級河川菊池川とその支流合志川、迫間川によって、豊かな自然環境が育まれています。その歴史は古く、旧石器時代から近代にかけて、長い間人の生活が営まれていました。南北朝時代には南朝方に忠節を尽くして戦い、その名を謳われた菊池一族の本拠として知られています。また文教の地としても知られ、多くのすぐれた学者や教育家を輩出してきました。

本書は平成23～30年度に花房中部2期地区県営ほ場整備事業に先がけておこなった「医者どん坂遺跡」発掘調査報告書です。調査の結果、道路跡と住居址を中心とした古代の遺構・遺物、近代の陸軍飛行場に関連する遺物、その他縄文時代などの貴重な遺構・遺物が発見されました。当遺跡が所在する花房台地は、菊池から熊本方面と阿蘇方面へ向かう道路が存在すると考えられており、以前調査をおこな<sup>ま</sup>だ<sup>ら</sup>「万太郎遺跡」では、古代の道路跡が見つかっています。今回の調査は、周辺の古代の交通事情を解明するうえで、さらに重要な資料となったと考えております。また太平洋戦争時の菊池飛行場に関する遺物が出土したことにより、調査事例の少ない近代の戦争関連遺跡の解明について、一助になるのではないかと考えられます。本書が、文化財保護と学術研究の推進に寄与できましたら幸いに存じます。

最後に、発掘調査から本書の作成にいたるまでご協力をいただきました多くの方々に、心から感謝申し上げます。

令和4年3月

菊池市教育委員会  
教育長 音光寺 以章

## 例 言

1. 本書は花房中部2期地区県営ほ場整備事業に伴い、事前に実施した埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査を実施したのは熊本県菊池市出田に所在する「医者どん坂遺跡」で、県農政部からの委託を受けて菊池市教育委員会が実施したものである。
3. 当遺跡の発掘は平成23～30年度にかけておこなわれたもので、整理は平成26～令和3年度におこなった。
4. 遺跡名は「医者どん坂遺跡」と呼称する。
5. 遺構は調査者が実測をおこない、一部委託をおこなった。遺構内の遺物は調査者が図面におとした。それ以外の包含層中の遺物は基本的に光波トランシットで点取りをおこなった。現場写真撮影は調査者がおこなった。4級基準点・水準点測量・メッシュ杭設置・遺構実測・遺物取り上げ業務は株式会社ダイチプラン(平成23・25年度)、株式会社イビソク(平成24年度)、株式会社ワールドコンサルタント(平成26・27年度)、扇精光コンサルタンツ株式会社(平成29・30年度)、航空写真撮影業務は九州航空株式会社(平成23～26年度)、株式会社ワールドコンサルタント(平成27・29・30年度)にそれぞれ委託した。整理作業において、自然化学分析業務は株式会社古環境研究所(平成23～27年度)に、遺物実測業務は株式会社有明測量開発社(平成26・29・30年度)、株式会社イビソク(平成27年度)、八洲開発株式会社(令和元年度)、株式会社埋蔵文化財サポートシステム(令和2年度)、遺物写真撮影業務は株式会社埋蔵文化財サポートシステム(平成27年度～令和2年度)にそれぞれ委託した。
6. 本書の図面は基本的に遺構を1/60、遺物は土器を1/3、石器を1/1、1/2で記載し、図版中に明記している。それ以外の縮尺についても図版中に明記している。
7. 出土遺物および実測図などは菊池市教育委員会が整理保管している。

# 本文目次

## 序文 例言

### 第Ⅰ章 序説

- 第1節 調査の経緯と経過 .....1
- 第2節 調査の経過(平成23～30年度調査) .....1
- 第3節 調査の組織 .....2

### 第Ⅱ章 環境

- 第1節 地理的環境 .....3
- 第2節 歴史的環境 .....3
- 第3節 基本層序 .....4

### A-2・3区

- 調査の成果 ..... 7

### A-4区

- 調査の成果 ..... 11

### A-5・6・7・8区

- 調査の成果 ..... 14

### A-9・10区

- 調査の成果 ..... 21

### A-11・12・13区

- 調査の成果 ..... 30

### B-1・2区

- 調査の成果 ..... 47

### B-3区

- 調査の成果 ..... 72

### B-4・5区

- 調査の成果 ..... 83

### C-1・2・3区

- 調査の成果 ..... 97

### D-1・2区

- 調査の成果 ..... 115

### D-3区

- 調査の成果 ..... 131

### D-4区

- 調査の成果 ..... 136

### D-5・6区

- 調査の成果 ..... 156

### D-7・8区

- 調査の成果 ..... 178

### D-9区

- 調査の成果 ..... 188

### D-10区

- 調査の成果 ..... 199

### D-11区

- 調査の成果 ..... 212

### D-12区

- 調査の成果 ..... 226

### D-13区

- 調査の成果 ..... 240

### E-1区

- 調査の成果 ..... 244

### E-2区

- 調査の成果 ..... 247

## 考察

### 第Ⅰ章 古代の成果

- 【1】医者どん坂遺跡の古代道について ..... 278
- 【2】墨書土器について ..... 278
- 【3】瓦について ..... 279

### 第Ⅱ章 近代の成果

- 【1】菊池飛行場について ..... 279
  - (1)菊池地飛行場の沿革 ..... 279
  - (2)菊池飛行場にのこる施設 ..... 279
  - (3)医者どん坂遺跡出土の  
戦争時代遺物について ..... 279
- 【2】医者どん坂遺跡の発掘調査からみる  
菊池飛行場の歴史的意味 ..... 294

### 第Ⅲ章 医者どん坂遺跡の性格 ..... 294

#### 医者どん坂遺跡における自然化学分析

- I. 放射性炭素年代測定 ..... 297
- II. 炭化材の樹種同定 ..... 299
- III. 種実同定 ..... 302

# 本文図版目次

序説		
第1図 基本層序	4	
第1表 医者どん坂遺跡 発掘調査工程表	5	
第2図 周辺遺跡分布図	6	
第2表 周辺遺跡一覧表	6	
【A-2・3区】		
第3図 A-2・3区遺構配置図	7	
第4図 1号道路実測図	8	
第5図 1号道路、1号土坑完掘状況	8	
第6図 2号道路硬化面検出状況	9	
第7図 2号道路完掘状況	9	
第8図 1号溝実測図	9	
第9図 2号土坑実測図	9	
第10図 A-2区出土遺物実測図	10	
第11図 A-3区出土遺物実測図	10	
【A-4区】		
第12図 A-4区遺構配置図	11	
第13図 1・2号掘立柱建物実測図	12	
第14図 3号掘立柱建物実測図	12	
第15図 3～5号土坑実測図	13	
第16図 6号土坑、1号焼土集中実測図	13	
第17図 A-4区出土遺物実測図	13	
【A-5・6・7・8区】		
第18図 A-5・6区遺構配置図	14	
第19図 3号道路硬化面検出状況	15	
第20図 3号道路硬化面検出・完掘状況	15	
第21図 4号道路実測図	16	
第22図 3号道路出土遺物実測図	16	
第23図 5号道路実測図	17	
第24図 6号道路実測図 6号道路出土遺物実測図	17	
第25図 7号道路実測図	17	
第26図 1～4号踏み分け道実測図	18	
第27図 5～8号踏み分け道実測図	19	
第28図 7号土坑実測図	19	
第29図 A-6区出土遺物実測図	19	
【A-9・10区】		
第30図 A-9・10区遺構配置図	21	
第31図 1号住居址、2号溝実測図 1号住居址出土遺物実測図	22	
第32図 2号住居址実測図	23	
第33図 2号住居址完掘状況 3号住居址カマド検出状況 3号溝検出状況	23	
第34図 2・3号住居址、3号溝完掘状況	24	
第35図 2・3号住居址 3号溝出土遺物実測図	25	
第36図 8号道路硬化面検出状況	26	
第37図 8号道路完掘状況	26	
第38図 4・5号溝実測図	27	
第39図 6号溝実測図、6号溝出土遺物実測図	27	
第40図 1号ピット列実測図	27	
第41図 8号道路出土遺物実測図	28	
第42図 A-9・10区出土遺物実測図	28	
第43図 A-9・10区出土遺物実測図	29	
【A-11・12・13区】		
第44図 A-11・12・13区遺構配置図	30	
第45図 4号住居址実測図 5号住居址カマド検出状況	31	
第46図 4・5号住居址完掘状況	32	
第47図 4号住居址出土遺物実測図	33	
第48図 6号住居址、2号ピット列実測図	34	
第49図 6号住居址出土遺物実測図	34	
第50図 9号道路硬化面検出状況	35	
第51図 9号道路波板状凹凸面検出状況	35	
第52図 9号道路波板状凹凸面下硬化面検出状況	35	
第53図 9号道路(A-12区)完掘状況	36	
第54図 9号道路(A-11区)検出状況	36	
第55図 10・11号道路、7号溝実測図 10号道路出土遺物実測図	37	
第56図 12・13号道路実測図	39	
第57図 14号道路実測図	39	
第58図 15号道路実測図 15号道路出土遺物実測図	40	
第59図 4号掘立柱建物実測図	40	
第60図 8号溝、9号踏み分け道 8・9号土坑実測図	41	
第61図 10号踏み分け道実測図	41	
第62図 A-13区遺物集中部	42	
第63図 A-13区遺物集中部出土遺物	42	
第64図 A-11区出土遺物実測図	43	
第65図 A-12区出土遺物実測図	43	
第66図 A-12区出土遺物実測図	44	
第67図 A-13区出土遺物実測図	44	
第68図 A-13区出土遺物実測図	45	
第69図 A-13区出土遺物実測図	46	
【B-1・2区】		
第70図 B-1・2区遺構配置図	47	
第71図 7号住居址、5号掘立柱建物実測図	48	
第72図 8号住居址、9号溝実測図	48	
第73図 9号住居址実測図	49	
第74図 16号道路実測図	50	
第75図 16号道路南部分硬化面検出状況 16号道路出土遺物実測図	50	
第76図 17号道路(B-1区)実測図 17号道路(B-1区)出土遺物実測図	51	
第77図 17号道路(B-2区) 遺構内集石実測図	52	
第78図 18号道路、遺構内集石実測図	53	
第79図 19号道路実測図	54	
第80図 10号溝実測図	54	
第81図 11・12号溝、3号ピット列実測図	55	
第82図 13号溝、11号踏み分け道実測図	56	
第83図 14～16号溝、10号土坑実測図 10号土坑出土遺物実測図	57	
第84図 17号溝、4号ピット列実測図	58	
第85図 18号溝実測図	58	
第86図 19～22号溝実測図	59	
第87図 23号溝実測図	59	
第88図 24号溝実測図	60	
第89図 25・26号溝実測図	61	
第90図 12・13号踏み分け道実測図	63	
第91図 27号溝実測図	64	
第92図 11号土坑実測図	64	
第93図 12号土坑、5号ピット列実測図 12号土坑出土遺物実測図	64	
第94図 B-1区出土遺物実測図	65	
第95図 B-1区出土遺物実測図	66	
第96図 B-1区出土遺物実測図	67	
第97図 B-2区出土遺物実測図	68	
第98図 B-2区出土遺物実測図	69	
第99図 B-2区出土遺物実測図	70	
第100図 B-2区出土遺物実測図	71	
【B-3区】		
第101図 B-3区遺構配置図	72	
第102図 10・11号住居址実測図	73	
第103図 10・11号住居址出土遺物実測図	73	
第104図 20号道路、28号溝実測図 20号道路出土遺物実測図	74	
第105図 21号道路実測図	74	
第106図 22号道路実測図	75	
第107図 23号道路実測図	75	
第108図 24号道路実測図	76	
第109図 25・26号道路、29号溝実測図 25号道路、29号溝出土遺物実測図	77	
第110図 25・26号道路 29～31号溝実測図	77	
第111図 27号道路、32号溝、13号土坑実測図 27号道路内集石実測図 13号土坑出土遺物実測図	79	
第112図 33・34号溝実測図	80	
第113図 14・15号土坑実測図	80	
第114図 16号土坑、2号焼土集中実測図	80	
第115図 B-3区出土遺物実測図	81	
第116図 B-3区出土遺物実測図	82	
【B-4・5区】		
第117図 B-4・5区遺構配置図	83	
第118図 28号道路硬化面1枚目検出状況	84	
第119図 28号道路硬化面2～4枚目 検出状況	84	
第120図 28号道路波板状凹凸面検出状況	85	
第121図 28号道路完掘状況 29号道路硬化面検出状況	85	
第122図 30号道路実測図	86	
第123図 31・32号道路 35～39号溝実測図	87	





# 写真図版目次

## 巻頭カラー

- 図版 1 菊池飛行場
- 図版 2 九五式演習弾出土状況
- 図版 3 九五式演習弾
- 図版 4 九五式演習弾

## 写真図版

- 図版 1 花房台地全景(東より) ……304
- 図版 2 A-11・12・13区 ……304
- 図版 3 D-4～6区 ……304
- 図版 4 D-4・5区 ……304
- 図版 5 D-10区 ……304
- 図版 6 医者どん坂遺跡出土墨書・線刻土器 ……305
- 図版 7 九五式演習弾 出土状況 ……306
- 図版 8 九四式十挺代用爆弾 信管出土状況 ……306
- 図版 9 九四式十挺代用爆弾 出土状況 ……306
- 図版 10 九四式十挺代用爆弾 出土状況 ……306
- 図版 11 九五式演習弾  
九四式十挺代用爆弾 出土状況 ……306
- 図版 12 九四式十挺代用爆弾 出土状況 ……306
- 図版 13 九五式演習弾 出土状況 ……306
- 図版 14 九四式十挺代用爆弾 出土状況 ……306
- 図版 15 九五式演習弾 取り上げ後 ……307
- 図版 16 九五式演習弾 コンクリート部分  
(固定用の釘が見える) ……307
- 図版 17 九五式演習弾 連結金具 ……307
- 図版 18 九五式演習弾 尾翼部分  
(固定用の釘が見える) ……307
- 図版 19 九五式演習弾 取り上げ後 ……307
- 図版 20 九五式演習弾 先端部木片露出状況 ……307
- 図版 21 九五式演習弾 弾頭部分 ……307
- 図版 22 九五式演習弾 弾頭部分 ……307
- 図版 23 九五式演習弾 尾翼部分 ……308
- 図版 24 九五式演習弾 部品 ……308
- 図版 25 九五式演習弾 木ねぢ ……308
- 図版 26 九五式演習弾 弾頭部分固定用釘 ……308
- 図版 27 九四式十挺代用爆弾 四翅尾翼部分 ……308
- 図版 28 九四式十挺代用爆弾 弾頭信管 ……308
- 図版 29 九四式十挺代用爆弾 弾頭信管 ……308
- 図版 30 12.7mm機銃弾 (米軍) ……308
- 図版 31 12.7mm機銃弾薬莖(米軍) ……308
- 図版 32 九九式特殊実包(日本軍) ……308
- 図版 33 医者どん坂遺跡調査区配置図  
(菊池飛行場との対比) ……309
- 図版 34 A-2区 2号道路硬化面検出状況  
(南→北) ……310
- 図版 35 A-2区 2号道路完掘状況  
(南→北) ……310
- 図版 36 A-3区 1号道路埋土除去状況  
(南東→北西) ……310
- 図版 37 A-4区 1・2号掘立柱建物完掘状況  
(東→西) ……310

- 図版 38 A-6区 3号道路硬化面①検出状況  
(南→北) ……310
- 図版 39 A-6区 3号道路完掘状況  
(南→北) ……310
- 図版 40 A-6区 3号道路南北断面  
(西→東) ……310
- 図版 41 A-6区 4号道路完掘状況  
(南→北) ……310
- 図版 42 A-6区 6号道路硬化面検出状況  
(東南東→西北西) ……311
- 図版 43 A-6区 4号踏み分け道検出状況  
(東南東→西北西) ……311
- 図版 44 A-10区 2号住居址硬化面検出状況  
(南→北) ……311
- 図版 45 A-10区 2号住居址カマド検出状況  
(南→北) ……311
- 図版 46 A-10区 2号住居址カマド内  
遺物出土状況(南→北) ……311
- 図版 47 A-10区 8号道路完掘状況  
(西→東) ……311
- 図版 48 A-12区 9号道路硬化面検出状況  
(東→西) ……311
- 図版 49 A-12区 9号道路完掘状況  
(東→西) ……311
- 図版 50 A-12区 9号道路完掘状況南北断面  
(東→西) ……312
- 図版 51 A-13区 4・5号住居址完掘状況  
(南東→北西) ……312
- 図版 52 A-13区 5号住居址カマド検出状況  
(南→北) ……312
- 図版 53 A-13区 6号住居址硬化面検出状況  
(東→西) ……312
- 図版 54 A-13区 14号道路硬化面検出状況  
(北→南) ……312
- 図版 55 B-1区 16号道路硬化面検出状況  
(南→北) ……312
- 図版 56 B-1区 17号道路(B-1区)硬化面①  
検出状況(東→西) ……312
- 図版 57 B-1区 17号道路(B-1区)硬化面③  
検出状況(東→西) ……312
- 図版 58 B-1区 17号道路(B-1区)硬化面④  
検出状況(東→西) ……313
- 図版 59 B-1区 17号道路(B-1区)硬化面⑤  
検出状況(東→西) ……313
- 図版 60 B-1区 17号道路(B-1区)完掘状況  
(東→西) ……313
- 図版 61 B-2区 17号道路(B-2区)硬化面①  
検出状況(西→東) ……313
- 図版 62 B-2区 17号道路(B-2区)硬化面  
③・④検出状況(西→東) ……313
- 図版 63 B-2区 17号道路(B-2区)硬化面⑤  
検出状況(西→東) ……313
- 図版 64 B-2区 17号道路(B-2区)硬化面⑨  
検出状況(西→東) ……313
- 図版 65 B-2区 17号道路(B-2区)完掘状況  
(西→東) ……313

- 図版 66 B-2区 18号道路硬化面③検出状況  
(東→西) ……314
- 図版 67 B-2区 18号道路硬化面⑤検出状況  
(東→西) ……314
- 図版 68 B-2区 18号道路完掘状況(東→西)  
……………314
- 図版 69 B-2区 19号道路完掘状況(北→南)  
……………314
- 図版 70 B-2区 9号住居址硬化面・カマド  
検出状況(南→北) ……314
- 図版 71 B-2区 9号住居址カマド検出状況  
(南→北) ……314
- 図版 72 B-2区 9号住居址完掘状況(北→南)  
……………314
- 図版 73 B-3区 10・11号住居址硬化面  
検出状況(南西→北東) ……314
- 図版 74 B-3区 10・11号住居址完掘状況  
(南西→北東) ……315
- 図版 75 B-3区 20号道路、28号溝完掘状況  
(東→西) ……315
- 図版 76 B-3区 20号道路南北断面(東→西)  
……………315
- 図版 77 B-3区 21号道路完掘状況  
(南東→北西) ……315
- 図版 78 B-3区 22号道路硬化面検出状況  
(南西→北東) ……315
- 図版 79 B-3区 23号道路硬化面①検出状況  
(南西→北東) ……315
- 図版 80 B-3区 23号道路硬化面⑤検出状況  
(南西→北東) ……315
- 図版 81 B-3区 23号道路硬化面⑧検出状況  
(南西→北東) ……315
- 図版 82 B-3区 24号道路硬化面①検出状況  
(北東→南西) ……316
- 図版 83 B-3区 24号道路硬化面②検出状況  
(北東→南西) ……316
- 図版 84 B-3区 24号道路完掘状況  
(北東→南西) ……316
- 図版 85 B-3区 25号道路、29～31号溝  
完掘状況(西→東) ……316
- 図版 86 B-4区 28号道路硬化面①  
検出状況(西→東) ……316
- 図版 87 B-4区 28号道路硬化面⑤  
検出状況(西→東) ……316
- 図版 88 B-4区 28号道路波板状凹凸面  
検出状況(東→西) ……316
- 図版 89 B-4区 28号道路完掘状況  
(西→東) ……316
- 図版 90 B-4区 30号道路完掘状況  
(北→南) ……317
- 図版 91 B-4区 31・32号道路完掘状況  
(北→南) ……317
- 図版 92 B-4区 33号道路硬化面検出状況  
(北→南) ……317
- 図版 93 B-4区 1号集石遺構検出状況  
……………317

図版94	C-1区	54号溝完掘状況(南→北) .....317	図版124	D-5区	51号道路(西側)検出状況 (西→東).....321	図版154	E-2区	77号道路完掘状況(東→西) .....325
図版95	C-2区	42号道路硬化面①検出状況 (西→東).....317	図版125	D-5区	53号道路硬化面検出状況 (南→北).....321	図版155	E-2区	78号道路、45号土坑 完掘状況(南→北).....325
図版96	C-2区	42号道路硬化面②検出状況 (西→東).....317	図版126	D-6区	9号掘立柱建物完掘状況 (西→東).....321	図版156		発掘調査風景.....325
図版97	C-2区	42号道路完掘状況(東→西) .....317	図版127	D-6区	2号集石遺構検出状況 .....321	図版157		発掘調査風景.....325
図版98	C-3区	37号道路硬化面①検出状況 (西→東).....318	図版128	D-7区	59号道路完掘状況(西→東) .....321	図版158		発掘調査風景.....325
図版99	C-3区	37号道路硬化面③検出状況 (東→西).....318	図版129	D-7区	82号溝完掘状況(北→南) .....321	図版159		発掘調査風景.....325
図版100	C-3区	37号道路硬化面④検出状況 (西→東).....318	図版130	D-7区	83号溝完掘状況(南→北) .....322	図版160		整理作業風景.....325
図版101	C-3区	37号道路南北断面(東→西) .....318	図版131	D-8区	56号道路硬化面検出状況 (西→東).....322	図版161		整理作業風景.....325
図版102	C-3区	38・40号道路硬化面検出状況 (西→東).....318	図版132	D-9区	59号道路波板状凹凸面 検出状況(西→東).....322	図版162		現地説明会風景.....326
図版103	C-3区	41号道路硬化面検出状況 (西→東).....318	図版133	D-9区	59号道路完掘状況 (南西→北東).....322	図版163		現地説明会風景.....326
図版104	D-2区	14号住居址完掘状況 (東→西).....318	図版134	D-9区	43号踏み分け道検出状況 (南→北).....322	図版164	医者どん坂遺跡	出土遺物.....326
図版105	D-2区	15号住居址カマド焼成面 検出状況(南→北).....318	図版135	D-9区	60号道路完掘状況 (北西→南東).....322	図版165	医者どん坂遺跡	出土遺物.....327
図版106	D-2区	16号住居址完掘状況 (南→北).....319	図版136	D-9区	61号道路完掘状況 (北西→南東).....322	図版166	医者どん坂遺跡	出土遺物.....328
図版107	D-2区	17・18号住居址硬化面検出状況 (南→北).....319	図版137	D-10区	62号道路完掘状況(北→南) .....322	図版167	医者どん坂遺跡	出土遺物.....329
図版108	D-2区	18号住居址壁周溝完掘状況 (南→北).....319	図版138	D-10区	63号道路完掘状況(西→東) .....323	図版168	医者どん坂遺跡	出土遺物.....330
図版109	D-2区	17・18号住居址完掘状況 (南→北).....319	図版139	D-10区	64号道路硬化面検出状況 (西→東).....323	図版169	医者どん坂遺跡	出土遺物.....331
図版110	D-2区	43号道路硬化面②検出状況 (西→東).....319	図版140	D-10区	10・11号掘立柱建物 完掘状況(北→南).....323	図版170	医者どん坂遺跡	出土遺物.....332
図版111	D-2区	43号道路硬化面③検出状況 (西→東).....319	図版141	D-10区	11号掘立柱建物ピット9・10 須恵器埋設状況(南→北).....323			
図版112	D-2区	43号道路完掘状況(西→東) .....319	図版142	D-10区	33号土坑完掘状況 (南西→北東).....323			
図版113	D-3区	20号住居址硬化面・カマド 検出状況(南→北).....319	図版143	D-11区	65号道路完掘状況(南→北) .....323			
図版114	D-3区	44号道路完掘状況(北→南) .....320	図版144	D-11区	66号道路硬化面 集石検出状況(北→南).....323			
図版115	D-4区	26～29号住居址硬化面 検出状況(北→南).....320	図版145	D-11区	66号道路集石 検出状況(南→北).....323			
図版116	D-4区	26～29号住居址完掘状況 (北→南).....320	図版146	D-11区	96号溝完掘状況(北→南) .....324			
図版117	D-4区	46号道路硬化面検出状況 (東→西).....320	図版147	D-12区	34号住居址完掘状況(北→南) .....324			
図版118	D-4区	46号道路波板状凹凸面 検出状況(東→西).....320	図版148	D-12区	35・37号住居址硬化面 検出状況(西→東).....324			
図版119	D-4区	47号道路硬化面検出状況 (北→南).....320	図版149	D-12区	36号住居址完掘状況(東→西) .....324			
図版120	D-4区	47号道路完掘状況(北→南) .....320	図版150	D-12区	35～38号住居址、36号土坑 完掘状況(南→北).....324			
図版121	D-4区	踏み分け道集中検出状況 (北→南).....320	図版151	D-12区	53～56号踏み分け道 検出状況(北→南).....324			
図版122	D-4区	踏み分け道集中隣接 獣骨出土状況.....321	図版152	D-13区	109・110号溝完掘状況 (北→南).....324			
図版123	D-5区	51号道路検出状況(南→北) .....321	図版153	E-1区	76号道路硬化面検出状況 (西→東).....324			

# 第 I 章 序 説

## 第 1 節 調査の経緯と経過

平成20年度、菊池市において花房中部2期地区県営畑地帯総合整備事業が採択された。この事業は本市花房台地のほ場整備事業であり、受益面積は61.9haである。事業に先立ち、熊本県教育庁文化課では遺跡台帳の照合、現地踏査を実施して、当地に埋蔵文化財が存在する可能性が高いと判断した。その結果を県農政部へ通知して、併せて確認調査の実施を求めた。確認調査は平成16年3月23、24日、5月17～21日、平成18年1月25～27日、2月1、2日、4月25、26日に県文化課によって実施されている。その結果、一部において遺跡の存在が確認された。これを受けて遺跡保存の協議を重ね、やむをえず削平される部分について、記録保存のための発掘調査が必要と判断した。菊池市教育委員会では熊本県菊池地域振興局の委託を受けて、平成23～30年度にかけて、熊本県菊池市出田に所在する「医者どん坂遺跡(遺跡番号：菊池94)」の発掘調査を実施した。

平成23年度は平成23年9月2日付け菊池土改第25号により依頼を受け、平成23年10月6日付けで実施協定書を締結。平成24年度は平成24年4月20日付け菊池土改第6号により依頼を受け、平成24年6月8日付けで実施協定書を締結。平成25年度は平成25年3月13日付け菊池土改第91号により依頼を受け、平成25年6月7日付けで実施協定書を締結。平成26年度は平成26年4月15日付け北菊土改第3号により依頼を受け、平成26年6月2日付けで実施協定書を締結。平成27年度は平成27年6月22日付け北菊土改第16号により依頼を受け、平成27年8月3日付けで実施協定書を締結。平成28年度は平成28年4月14日付け北菊土改第4号により依頼を受け、平成28年6月20日付けで実施協定書を締結。平成29年度は平成29年4月27日付け北菊土改第4号により依頼を受け、平成29年7月7日付けで実施協定書を締結した。平成30年度は平成30年5月1日付け北菊土改第6号により依頼を受け、平成30年6月21日付けで実施協定書を締結した。

報告書作成のための整理作業は、菊池市教育委員会が平成26年度～令和3年度におこない、令和3年度に報告書を刊行した。詳細は調査区ごとに記載する。

## 第 2 節 調査の経過(平成23～30年度調査)

### 【平成23年度】

(平成23年11月21日～12月2日) A-2～9区表土剥ぎ。(12月5日) A-2～9区調査開始。(3月7日) A-2～9区空中写真撮影。(3月22日) 23年度調査終了。

### 【平成24年度】

(平成24年7月19日～27日) B-1・3区表土剥ぎ。調査開始。(10月9日～10月31日) A-10区、B-2区表土剥ぎ。調査開始。(10月11日) B-3区空中写真撮影。調査終了。(11月14日) A-10区空中写真撮影。調査終了。(平成25年1月10日) 県文化課廣田氏来跡。(2月14日) B-1区の一部、B-2区空中写真撮影。B-2区調査終了。(2月26日) B-1区空中写真撮影。(3月14日) 堂坂横穴墓踏査。(3月14日) 24年度調査終了。

### 【平成25年度】

(平成25年7月29日～8月20日) A-11～13区、D-1・2区表土剥ぎ。(8月1日) A-11～13区、D-1・2区調査開始。(9月17日～10月10日) D-5～8区表土剥ぎ。調査開始。(10月15日) A-11～13区空中写真撮影。調査終了。(10月29日) D-1区調査終了。(10月31日) 菊池市文化財保護委員10名来跡。視察、調査指導。(11月20日) D-2・7・8区空中写真撮影。調査終了。(11月28日～12月11日) D-3・4・9区、E-1区表土剥ぎ。調査開始。(平成26年2月5日) 県教育委員会文化課岡本主幹・馬場参事来跡。(2月13日) D-3～6(北)区空中写真撮影。D-3区調査終了。(2月25日) D-6(南)区調査終了。(3月4日) D-9区調査終了。(3月5日) D-4・5区調査終了。(3月6日) E-1区調査開始。(3月18日) E-1区調査終了。25年度調査終了。

### 【平成26年度】

(平成26年7月24日～8月11日) D-10区、E-2区(一部)表土剥ぎ。(8月6日) D-10区、E-2区(一部)調査開始。(9月6日) D-10区調査終了。(9月26日) D-10区、E-2区(一部)空中写真撮影。(9月18日～10月24日) E-2区(一部)表土剥ぎ。調査開始。(11月10日) D-11区調査開始。(12月9日) E-2区空中写真撮影。(12月12日) E-2区調査終了。(平成27年1月27日) D-12・13区調査開始。(2月3日) D-11区調査終了。(3月3日) D-12・13区空中写真撮影。(3月3日) D-12・13区調査終了。(3月20日) 26年度調査終了。

### 【平成27年度】

(平成27年11月16日) B-4区、C-2区表土剥ぎ。(11月24日) B-4区、C-2区調査開始。(12月11日～22日) C-1・3区表土剥ぎ。調査開始。(平成28年1月7日) 花房飛行場の戦争遺産を未来に伝える会事務局長高谷和生氏来跡。調査区出土の投下演習弾などについて、ご教示をたまわる。(1月15～22日) B-5区調査開始。(1月20日) 県文化課村崎課長補佐・長谷部係長来跡。(1月23日) 戦争関連の成果に関して、C-3区の現地説明会実施、参加者約30名。(2月4・5日) B-4区(一部)表土剥ぎ。調査開始。(2月25日) C-2区調査終了。(3月2日) B-4・5区、C-1～3区空中写真撮影。(3月11日) C-1・3区調査終了。(3月15日) B-4区調査終了。27年度調査終了。

### 【平成28年度】

(平成28年8月1日) 高谷和生・山本達也氏より戦争時代の爆弾等の遺物についてご教示をたまわる。

### 【平成29年度】

(平成29年11月13～18日) B-4区、D-11区表土剥ぎ。(11月27日) B-4区、D-11区調査開始。(平成30年2月2日) B-4区、D-11区空中写真撮影。(3月7日) B-4区、D-11区調査終了。29年度調査終了。

### 【平成30年度】

(平成30年12月13・14日) D-11区表土剥ぎ。(12月20日) D-11区調査開始。(平成31年2月5日) D-11区空中写真撮影。(2月8日) 調査終了。30年度調査終了。

## 第3節 調査の組織

調査主体 菊池市教育委員会

調査責任者 倉原久義(菊池市教育長)平成22年7月8日～平成26年7月7日  
原田和幸(菊池市教育長)平成26年7月8日～平成30年7月7日  
渡邊和博(菊池市教育長)平成30年7月8日～令和3年7月7日  
音光寺以章(菊池市教育長)令和3年7月8日～

調査総括 樋川健治(生涯学習課長)平成23年度  
原本裕之(生涯学習課長)平成24、25年度  
田嶋晴雄(生涯学習課長)平成26、27年度  
笹原 猛(生涯学習課長)平成28年度～30年度  
山本美千代(生涯学習課長)平成31年度～令和2年度  
古庄和彦(生涯学習課長)令和3年度

調査担当 阿南 亨(生涯学習課)平成23年度～平成30年度  
中尾健照(生涯学習課嘱託・臨時職員)平成23年度～平成30年度  
茨木浩一(生涯学習課嘱託・臨時職員)平成23、25～27年度  
久保田陽香(生涯学習課嘱託)平成25年度～27年度  
西坂知紘(生涯学習課嘱託)平成25年度～平成30年度  
田中 暁(生涯学習課嘱託)平成25、26年  
士野雄貴(生涯学習課嘱託)平成27・28年度

報告書作成 阿南 亨、西坂知紘、中尾健照、茨木浩一、久保田陽香、田中 暁、土野雄貴(生涯学習課)

**【発掘調査調査作業員：平成 23 ～ 30 年度】**

荒木征子、荒木康利、入家絵理、井上洋子、岩下 孝、岩下都子、岩見 俊、上田恵子、上田信子、浴永トモ子、江崎正弘、尾池 稔、大坂幸子、大隅清成、岡内正子、岡本晃誠、甲斐孝志、甲斐時男、垣田 優、金子幸太郎、川上紀男、川上富美子、川口ます代、河村セイ子、木下美智子、木村紀美子、桑畑智子、黒田一優、古閑アツ子、古閑誠也、後藤光子、坂口澄子、佐々誠毅、佐藤シモ子、佐藤隆幸、佐藤フジエ、澤田和久、下川妙子、下田誠一、城修一、杉内勝利、高野勢子、田中栄一、田中清子、田中智恵、田上征郎、富田美和、豊岡キヨミ、豊村順子、永田宗一、中村規矩雄、中村小夜子、中村 勝、二階堂千里、西村清美、袴田勝志、濱村経也、林 幸枝、東とし子、東洋一、福喜雅美、福田勝久、福田了、藤島 篤、藤永一也、本田 徹、松岡千代香、松原衣梨、松原隆典、松本菊代、三池 恵、水上直美、宮川エイ子、宮木貴史、宮崎和喜、宮崎タエ子、宮本愛子、宮本敦史、宮本立子、宮本博喜、三好茂昭、武藤静子、村上奈穂、村山國誠、村山明子、森 昭彦、森 美香、守井昭雄、森本勝行、森本紀代子、森山美代子、梁池孝子、吉畑政登、吉村 弘、和田哲幸

**【報告書作成整理事業員：平成 26 年度～令和 3 年度】**

井上多恵子、上田恵子、宇野文子、垣田 優、木下美智子、木村紀美子、國崎亜里沙、桑畑智子、藏本広美、塩先真喜子、下田麗子、堤 佑季、中川秀美、林田由美子、平野智子、古田喜美子、松尾由希

**【調査協力者】(順不同・敬称略)**

工藤洋三(空襲・戦災を記録する会 全国連絡会)、高谷和生(くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク)、山本達也(三重県四日市市社会教育課)、弘中正芳(宇佐市社会教育課)、村崎孝宏、廣田静学、岡本真也、長谷部善一(熊本県教育庁文化課)、鶴嶋俊彦(熊本市)、後藤博己、勝又俊一(菊池市)、末武希代子、西住欣一郎、北原美和子、椎葉天昭(菊池市教育委員会)

## 第II章 環境

### 第1節 地理的環境

まず当遺跡周辺の地理的環境について述べてみたい。「医者どん坂遺跡」の所在する菊池市は、九州の中部熊本県の北部に位置し、東に阿蘇郡、西に鹿本郡と接し、北に大分県と県境を接する。平成17年3月に旧菊池市、七城町、泗水町、旭志村の4市町村が合併して現在に至る。市の面積の大半は山地が占め、起伏の激しい北部の八方ヶ岳連山と、なだらかな裾野を持つ東部の鞍岳につらなる山々は標高が1000mを測り、南西部に向かってゆるやかに傾斜していき、標高400～100mの丘陵地が広がる。菊池を流れる主な河川は菊池川、迫間川、合志川である。ともに多くの支流を伴いながら西進し、阿蘇山の大爆発で形成された阿蘇溶結凝灰岩(火砕流堆積物)を侵食して流域に平野部を形成する。当遺跡は菊池川と合志川にはさまれた丘陵地に位置し、その基盤は阿蘇溶結凝灰岩と軽石を含む凝灰層であり、その上に火山灰が堆積したものである。

### 第2節 歴史的環境

**【旧石器時代・縄文時代】**

旧石器時代、菊池川流域の伊野遺跡、原遺跡、細長地区では数点のナイフ形石器、長野地区では黒曜石製の尖頭器、鞍岳山麓では馬糞塚遺跡から石槍、湯舟地区から尖頭器が採取されている。

縄文時代早期から中期にかけては、早期の押型文土器などが少量出土する他、目だった生活痕跡はみとめられない。後期から晩期は、平野部や台地に大規模な生活拠点が出現する。菊池川流域の平野に天祇遺跡、花房台地上に万太郎遺跡、木柑子遺跡群、台地の南に三万田東原遺跡、合志川をはさんだ南の丘陵に伊坂遺跡群などが所在する。三万田東原遺跡は、昭和6年に県内の考古学研究の中心的人物であった坂本経堯氏らによってトレンチ調査がおこ

なわれた住居址、多量の土偶が確認された熊本を代表する縄文時代の遺跡であり、縄文土器の一形式である三万田式土器の指標遺跡である。また近年の研究では、クロム白雲母を原材料とする玉の製作遺跡であるとの指摘がある。

**【弥生時代】**

菊池川流域に西寺遺跡、北田遺跡、外園遺跡、合志川流域に藤巻遺跡、平町遺跡があげられる。弥生時代後半に、菊池川上流域の台地上では、小野崎遺跡、うてな遺跡、山鹿市の方保田東原遺跡で大規模な環濠集落が営まれていた。鞍岳からのびる丘陵上に位置する藤尾支石墓からは、約10基の支石墓、積石墓4基、甕棺墓2基などが発見された。外園遺跡、うてな遺跡からは、中国の新代(9～23年)に鑄造された古銭貨泉が出土している。

**【古墳時代】**

合志川流域には久米若宮古墳など5世紀代の古墳群、合志川支流の塩浸川流域には大陸の様相が見てとれる5世紀代の古墳群、菊池川左岸の花房台地には木柑子(フタツカサン)古墳、木柑子高塚古墳などの6世紀前半代の古墳、菊池川右岸には袈裟尾高塚古墳など6世紀中ごろの小古墳群が所在し、流域ごとの古墳の変遷をみてとることができる。また菊池川や合志川にも小規模の横穴墓が点在する。

**【古代】**

天智2(663)年の白村江の戦いの後、唐・新羅軍の侵攻にそなえて配置された城のひとつが鞠智城(久々智城)であると考えられ、『続日本紀』に修復の記録がのこっている。大化の改新以降の郡国制の下、肥後国は14の郡に編成された。菊池郡と皮石郡、後に皮石郡から分離した山本郡の一部が現在の菊池にあたり、菊池郡と皮石郡は菊池川と合志川流域を主体とする郡であったと考えられる。菊池郡は9郷あり、そのうち8郷は現在の地名から菊池と七城にまたがる一帯、皮石郡は、現在の旭志と泗水、山本郡は現在の泗水の西部と想定される。『日本書紀』では持統10(696)年の4月、肥後国皮石(合志)郡の郡名が初見される。当時の九州の交通網は、大宰府を中心として整えられていた。鞠智城は後に肥後国の北部に位置する政庁のような役割をはたしたと考えられ、大宰府との間に車路と呼ばれる官道が通っていた。花房台地上の方太郎遺跡では、古代官道が敷設されていたことも判明しており、遺跡周辺にも車町、車地、馬渡の地名がのこる。

**【中世～近代】**

中世菊池一族は蒙古襲来時には国防に務め、南北朝時代は南朝方の懐良親王を擁し、九州の南朝勢力の中心であった。隈府土井ノ外遺跡では14世紀後半～15世紀前半の館跡が確認され、当時から隈府の街並みが形成されていたことが推測される。近年、菊池川に面した菊之城跡とその周辺の確認調査により、居館と川港が存在していた可能性が示され、中世の景観が整えられていたと考えられる。この他、菊池市南部は合志一族の勢力圏であり、南北朝期には宮方、武家方が争う緊迫した情勢をうかがうことができる。

戦国時代後半になると菊池一族の力は衰え、隈部、城氏などの家臣の力が台頭し、彼らの動静が肥後国衆一揆のきっかけともなる。その後の菊池は細川氏の肥後藩政下、隈府が在町として栄えた。

近代、花房台地上に約150haの面積に大刀洗陸軍飛行学校の花房分教所として菊池飛行場が建設されていた。戦後の開拓でも利用された給水塔をはじめ、兵舎や弾薬庫、格納庫の外壁など当時の建造物群が現在ものこる。

**第3節 基本層序**

当報告書において、遺跡の基本層序は右図のとおりとする。

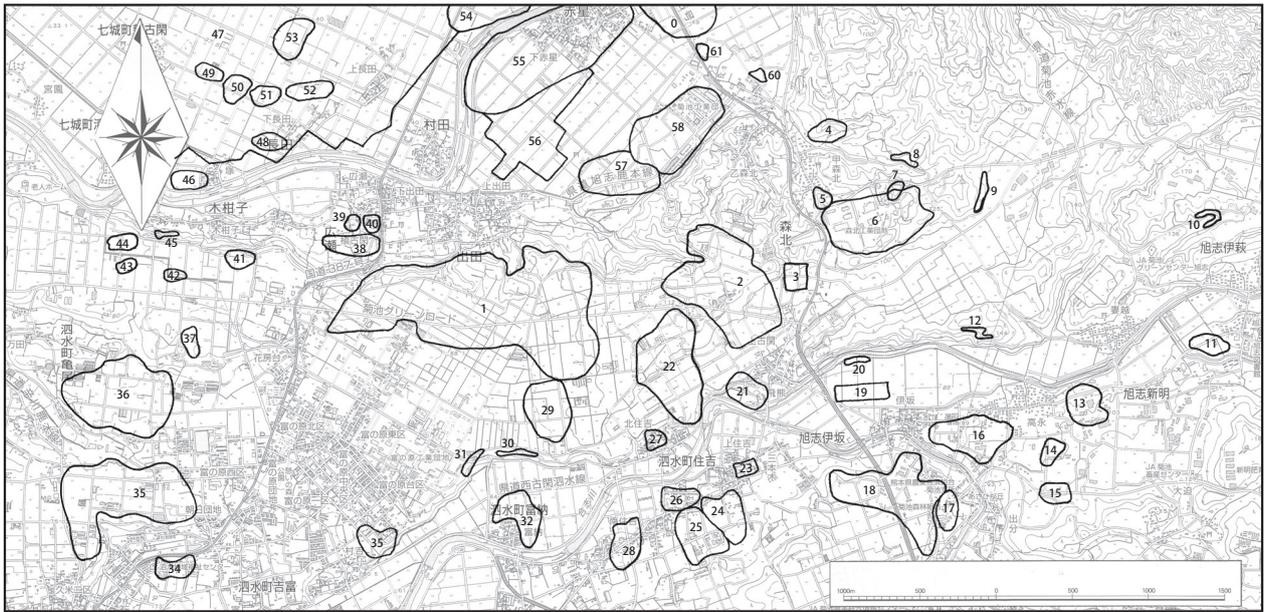
<b>表土</b>
<b>客土</b>
<b>1層</b> 暗褐色土 きめが粗く、ややしまらない。 橙色粒を多く含む。古代以降の遺物を含む。
<b>2層</b> 暗褐色土 きめが細かくしまる。 主に縄文時代・古代の遺物を含む。
<b>3層</b> 明褐色土層、きめが細かく、しまる。 アカホヤ二次堆積層。縄文時代の遺物を含む。
<b>4層</b> 黒色土 きめが細かく、しまる。
<b>5層</b> 明黄褐色粘質土 粘質が非常に強い。 ローム層上層でシロニガがみとめられる。

第1図 基本層序

調査区	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度(平成31年度)	令和2年度	令和3年度
A-1区( )m											
A-2区(65m <sup>2</sup> )											
A-3区(238m <sup>2</sup> )											
A-4区(450m <sup>2</sup> )											
A-5区(130m <sup>2</sup> )											
A-6区(226m <sup>2</sup> )											
A-7区(85m <sup>2</sup> )											
A-8区(40m <sup>2</sup> )											
A-9区(76m <sup>2</sup> )											
A-10区(635m <sup>2</sup> )											
A-11区(440m <sup>2</sup> )											
A-12区(280m <sup>2</sup> )											
A-13区(446m <sup>2</sup> )											
B-1区(1,188m <sup>2</sup> )											
B-2区(2,838m <sup>2</sup> )											
B-3区(1,615m <sup>2</sup> )											
B-4区(2,030m <sup>2</sup> )											
B-5区(250m <sup>2</sup> )											
C-1区(700m <sup>2</sup> )											
C-2区(260m <sup>2</sup> )											
C-3区(1,940m <sup>2</sup> )											
D-1区(210m <sup>2</sup> )											
D-2区(907m <sup>2</sup> )											
D-3区(926m <sup>2</sup> )											
D-4区(1,235m <sup>2</sup> )											
D-5区(909m <sup>2</sup> )											
D-6区(382m <sup>2</sup> )											
D-7区(945m <sup>2</sup> )											
D-8区(249m <sup>2</sup> )											
D-9区(199m <sup>2</sup> )											
D-10区(730m <sup>2</sup> )											
D-11区(1,923m <sup>2</sup> )											
D-12区(970m <sup>2</sup> )											
D-13区(610m <sup>2</sup> )											
E-1区(500m <sup>2</sup> )											
E-2区(1,540m <sup>2</sup> )											
整理作業											

※調査区を設定したが、工事の変更に伴い、当該地区は調査対象外となった。

第1表 医者どん坂遺跡 発掘調査工程表

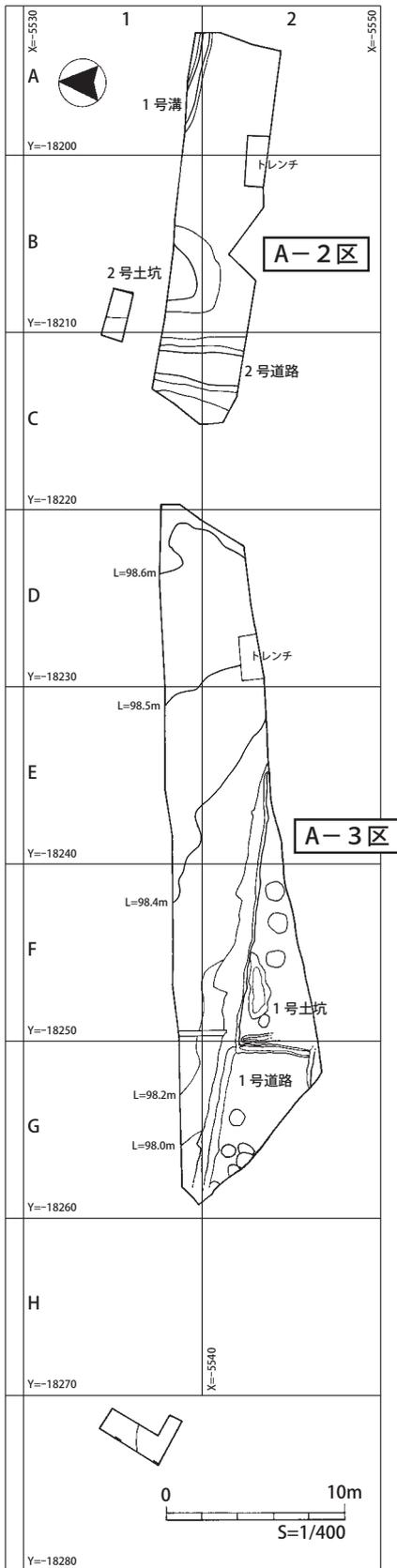


第2図 周辺遺跡分布図

遺跡番号	No.	遺跡名	所在地	時代	種別	備考
210-94	1	医者とん坂	菊池市 赤星西鶴ほか	縄文・弥生	包蔵地	
210-100	2	万太郎	赤星万太郎	縄文・古代	包蔵地	平成22年度、万太郎A遺跡、万太郎B遺跡、城山遺跡を統合
210-171	3	森北院ノ馬場・追畑	森北院ノ馬場・追畑	縄文・古代	包蔵地	平成19年度、新規登録
210-164	4	妙見尾追横穴墓群	森北尾追	古墳	横穴墓	
210-165	5	妙見馬渡横穴墓群	森北馬渡	古墳	横穴墓	
210-124	6	森北立石	森北立石	弥生	包蔵地	
210-166	7	妙見馬渡横穴墓群	森北馬渡	古墳	横穴墓	
210-125	8	森北後田	森北後田	古墳	包蔵地	平成15年度調査【市】
210-126	9	モトドリ山横穴墓群	森北鬻山	古墳	横穴墓	
402-003	10	松尾横穴墓群	旭志伊萩松尾	古墳	横穴墓	
402-023	11	古宮	旭志新明妻越	縄文	包蔵地	
402-004	12	土平横穴墓群	旭志弁利土平	古墳	横穴墓	
402-020	13	高永	旭志新明高永	縄文・古墳	包蔵地	
402-036	14	前畑	旭志神明前畑	弥生・奈良	包蔵地	平成9・10年度調査【村】
402-037	15	栄ノ平	旭志新明栄ノ平	縄文～中世	包蔵地	平成12年度調査【村】
402-038	16	伊坂東原	旭志伊坂東原	縄文～中世	包蔵地	平成10・11年度調査【村】 古代道路遺構
402-022	17	西原	旭志川辺西原	縄文	包蔵地	
402-016	18	伊坂上ノ原	旭志川辺上ノ原	縄文・弥生	包蔵地	昭和57年度調査【県】 平成14年度調査【村】
406-078	19	糸里跡		古代・中世	生産	
406-066	20	平町横穴墓群	酒水町住吉上鶴	古墳	横穴墓	
406-065	21	飛熊	酒水町住吉城下	古代	包蔵地	
406-056	22	城山	酒水町住吉城山	縄文～古代	包蔵地	
406-063	23	上住吉	酒水町住吉福島	古墳	包蔵地	
406-062	24	南山王	酒水町住吉南山王	縄文	包蔵地	
406-061	25	東駄銅城	酒水町住吉東駄銅城	古代	包蔵地	
406-064	26	池上城跡	酒水町住吉古園	中世	城	
406-059	27	住吉日吉神社	酒水町住吉北小路	古墳～中世	包蔵地	合志郡家跡推定地
406-067	28	南住吉	酒水町住吉新屋敷	縄文	包蔵地	
406-052	29	下峯	酒水町住吉狐塚	弥生	包蔵地	
406-051	30	槻町横穴群	酒水町住吉狐塚	古墳	横穴墓	
406-034	31	今寺横穴群	酒水町富納野添	古墳	横穴墓	
406-050	32	富納	酒水町富納居屋敷	弥生	包蔵地	
406-033	33	村吉	酒水町吉富高島	古代	包蔵地	
406-031	34	牛畑	酒水町吉富坂上	古墳	包蔵地	
406-028	35	古閑原	酒水町吉富古閑原ほか	弥生	包蔵地	
406-027	36	三万田東原	酒水町亀尾東原	縄文	包蔵地	
210-160	37	下辻	木柑子	縄文・古墳	包蔵地	
210-167	38	広瀬下ノ平	広瀬下ノ平	古代	包蔵地	
210-169	39	広瀬無田B	広瀬無田	縄文	包蔵地	
210-168	40	広瀬無田C	広瀬無田	中世	生産	
210-159	41	東山ノ上	木柑子	古代	包蔵地	平成11・12年度調査【市】
210-158	42	西原B	木柑子	古代	包蔵地	平成11年度調査【市】
210-157	43	西原A	木柑子	古墳	包蔵地	
210-156	44	西ノ平	木柑子	縄文・弥生	包蔵地	
210-039	45	木柑子横穴墓群	木柑子下向原	古墳	横穴墓	
210-041	46	大塚	長田	弥生～古代	包蔵地	
210-161	47	糸里跡		古代・中世	生産	
210-074	48	外園	長田	弥生	包蔵地	冥泉出土
210-038	49	水町	西寺水町	古墳	包蔵地	
210-037	50	狐塚	長田	古墳	包蔵地	
210-073	51	長田	長田中久保	弥生	包蔵地	
210-089	52	長田狐塚	長田狐塚	弥生	埋葬	
210-036	53	西寺辻	西寺辻屋敷など	弥生	包蔵地	
210-076	54	深川古屋敷	深川古池	弥生	包蔵地	
210-078	55	赤星	赤星宮の前	古墳	包蔵地	
210-162	56	糸里跡		古代・中世	生産	
210-082	57	天城池畑	赤星池畑	縄文	包蔵地	
210-081	58	天城	赤星銭塚	縄文・弥生	包蔵地	昭和49年発掘調査【県】 古代道路遺構
210-092	59	赤星福土・水溜	赤星福土・水溜	縄文～古代	集落	
210-185	60	赤星灰塚	赤星灰塚	古代	包蔵地	平成29年発掘調査【県】
210-186	61	赤星石道	赤星石道	古代	包蔵地	平成30年発掘調査【県】

第2表 周辺遺跡一覧表

## A-2・3区



第3図 A-2・3区遺構配置図

### 調査の成果

#### 【道路】

##### 1号道路【第4・5図】

西北西⇨東南東方向に延びる。残長25.5m、南側の立ち上がりが調査区域外のため、検出面幅は不明だが、5.8m以上はある。深さ0.55mを測る。北側の立ち上がり際には一部側溝がみつめられる。ローム層を掘り下げ、一度埋設して底面を平坦に造成している。その面は硬化しているが、ややしまりが悪く硬化面かどうかは判断できないが、北側で側溝らしき溝が検出されたことと規模から考えると、道路として利用されていたと推測される。道路であれば、非常に規模の大きいものになる。

##### 2号道路【第6・7図】

南北方向に延びる。残長4.2m、検出面幅4.2m、底部幅1.2m、深さ1.2mを測る。逆台形の断面を持つ溝の底部を路面として利用しており、硬化面は2面確認された。

#### 【溝】

##### 1号溝【第8図】

西北西⇨東南東方向に延びる。残長5.4m、検出面幅0.6～0.8m、底部幅0.3m、深さ0.25mを測る。

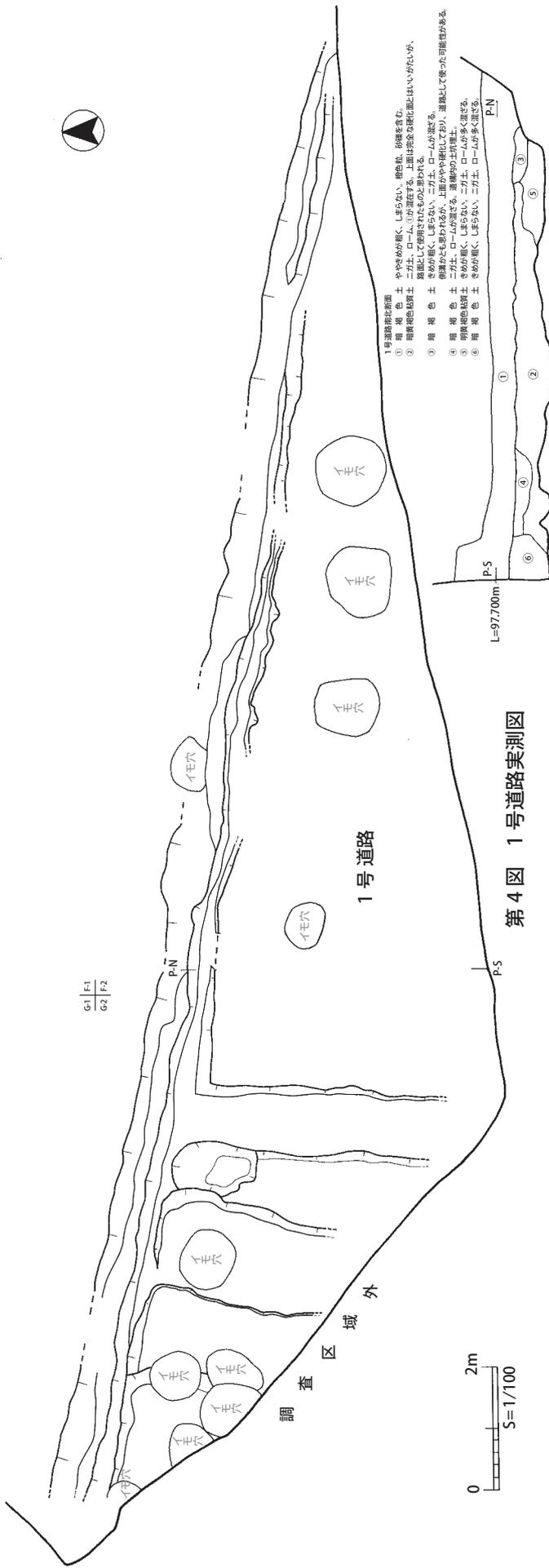
#### 【土坑】

##### 1号土坑【第5図】

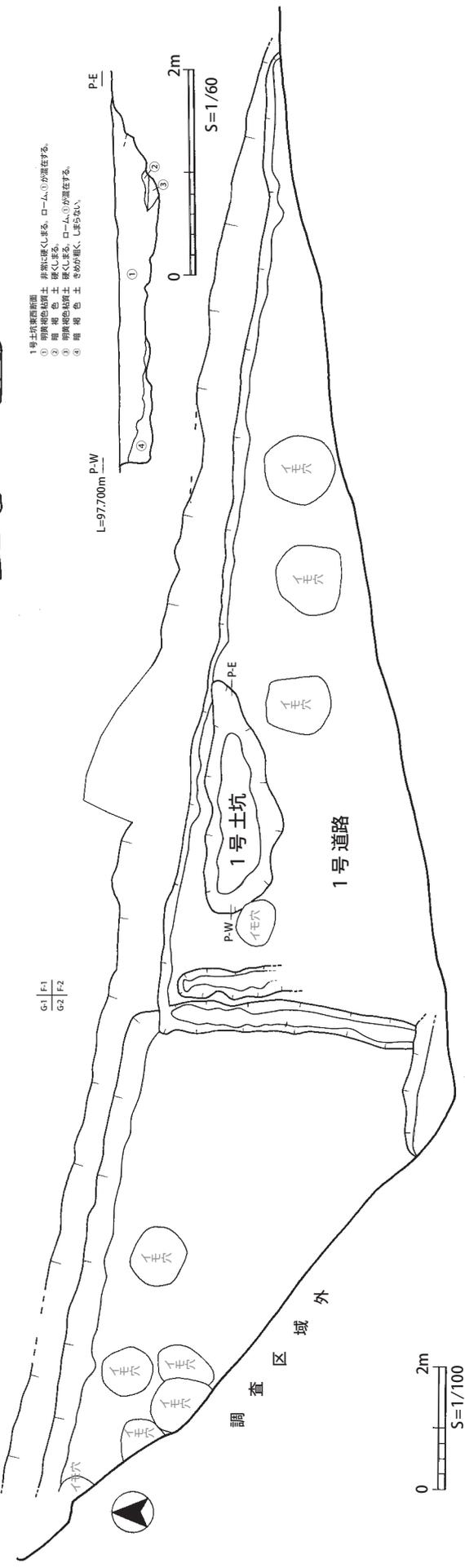
1号道路内の掘り方でみつめられる。長軸2.3m×短軸0.8m、深さ0.4mのいびつな楕円形を呈する。道路に関連する遺構と考えられる。

##### 2号土坑【第9図】

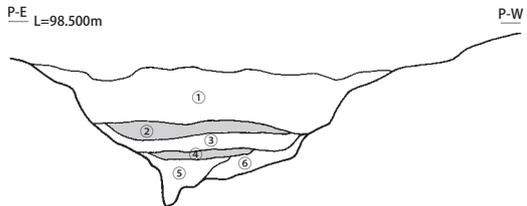
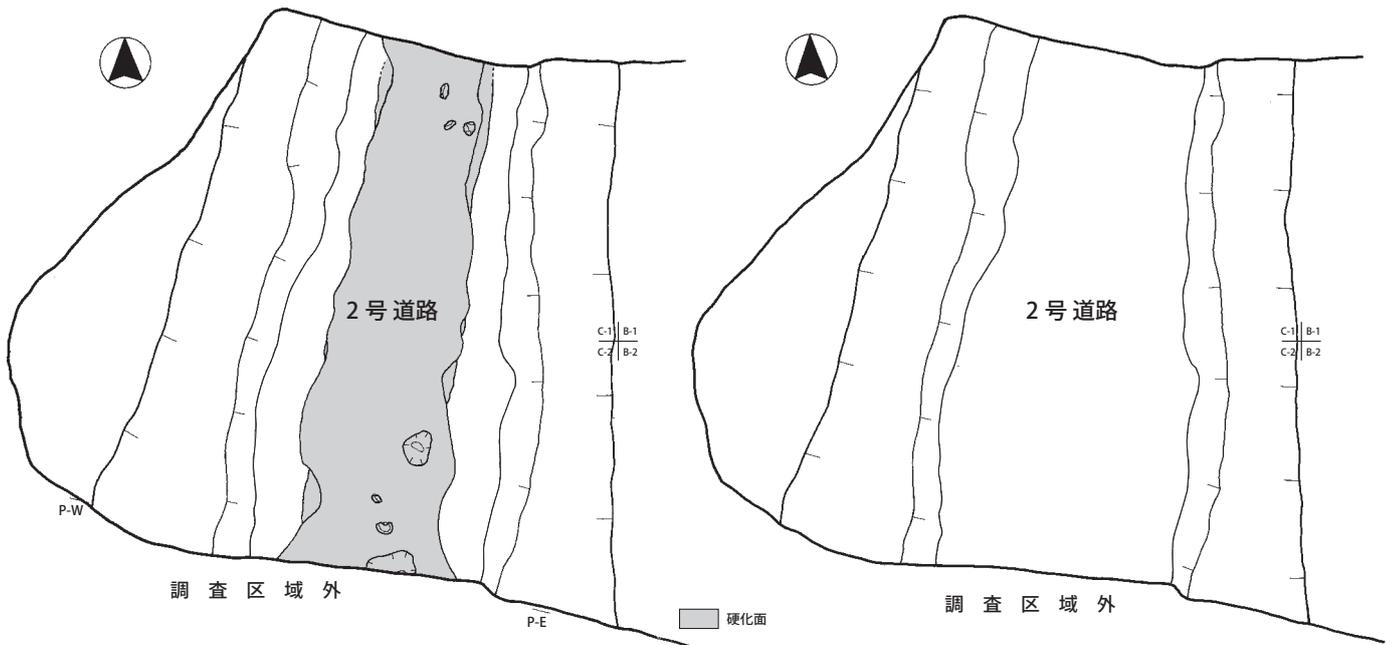
幅4.9m、深さ1.3mを測る非常に規模の大きな土坑。埋土は大きく2層に分かれ、上層は灰褐色土を部分的に含む暗褐色土、下層は粘質の暗褐色土であり、短期間で埋まったものと考えられる。



第4図 1号道路実測図



第5図 1号道路 1号土坑完掘状況

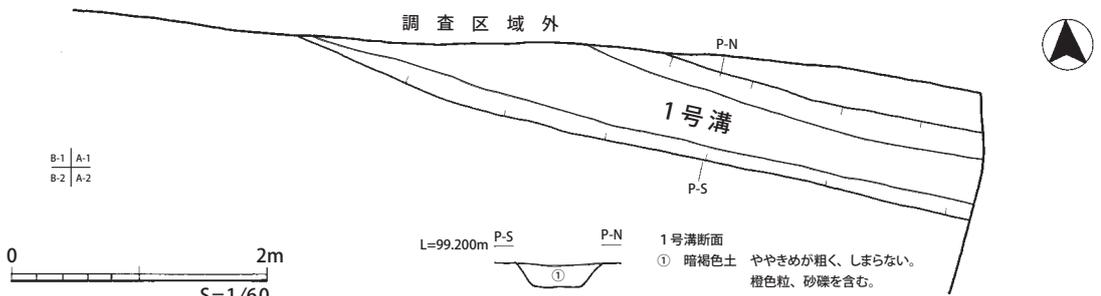


- 2号道路東西断面
- ① 暗褐色土 ややきめが粗く、しまらない。橙色粒、砂礫を含む。
  - ② 暗褐色土 きめ粗く、上層の土にロームが混入したもの。硬化面。
  - ③ 暗色土 きめが粗く、しまらない。砂礫、橙色粒を多く含む。②よりも暗い。
  - ④ 暗褐色土 きめが粗く、ロームが混入する。硬化面。
  - ⑤ 暗色土 きめが粗く、しまらない。
  - ⑥ 暗色土 きめが粗く、しまらない。



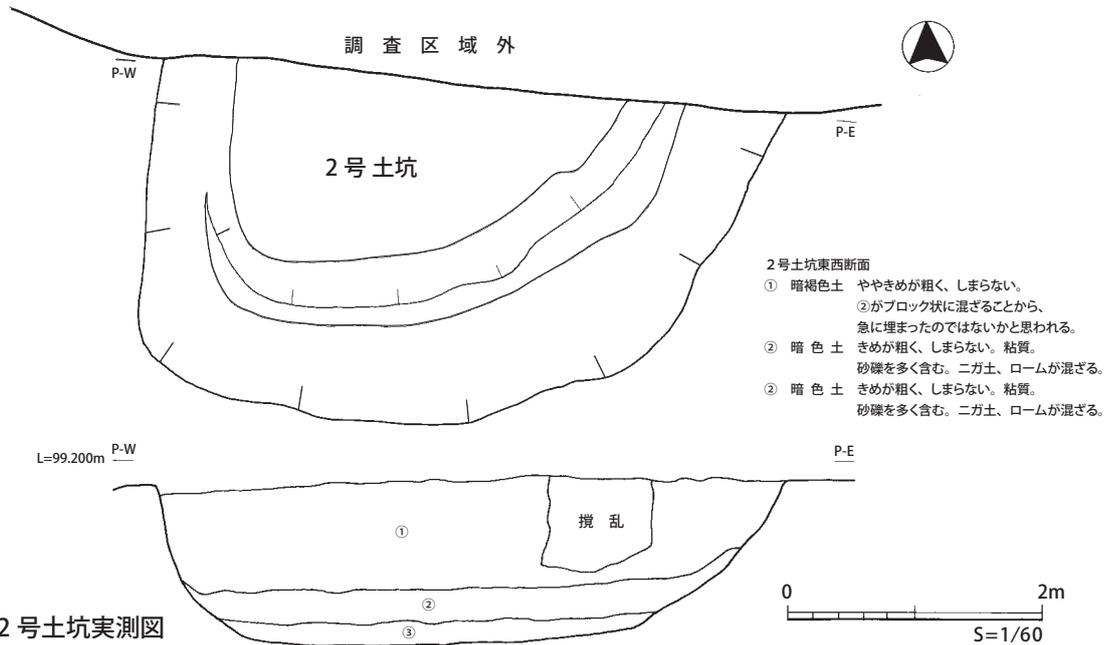
第6図 2号道路硬化面検出状況

第7図 2号道路完掘状況



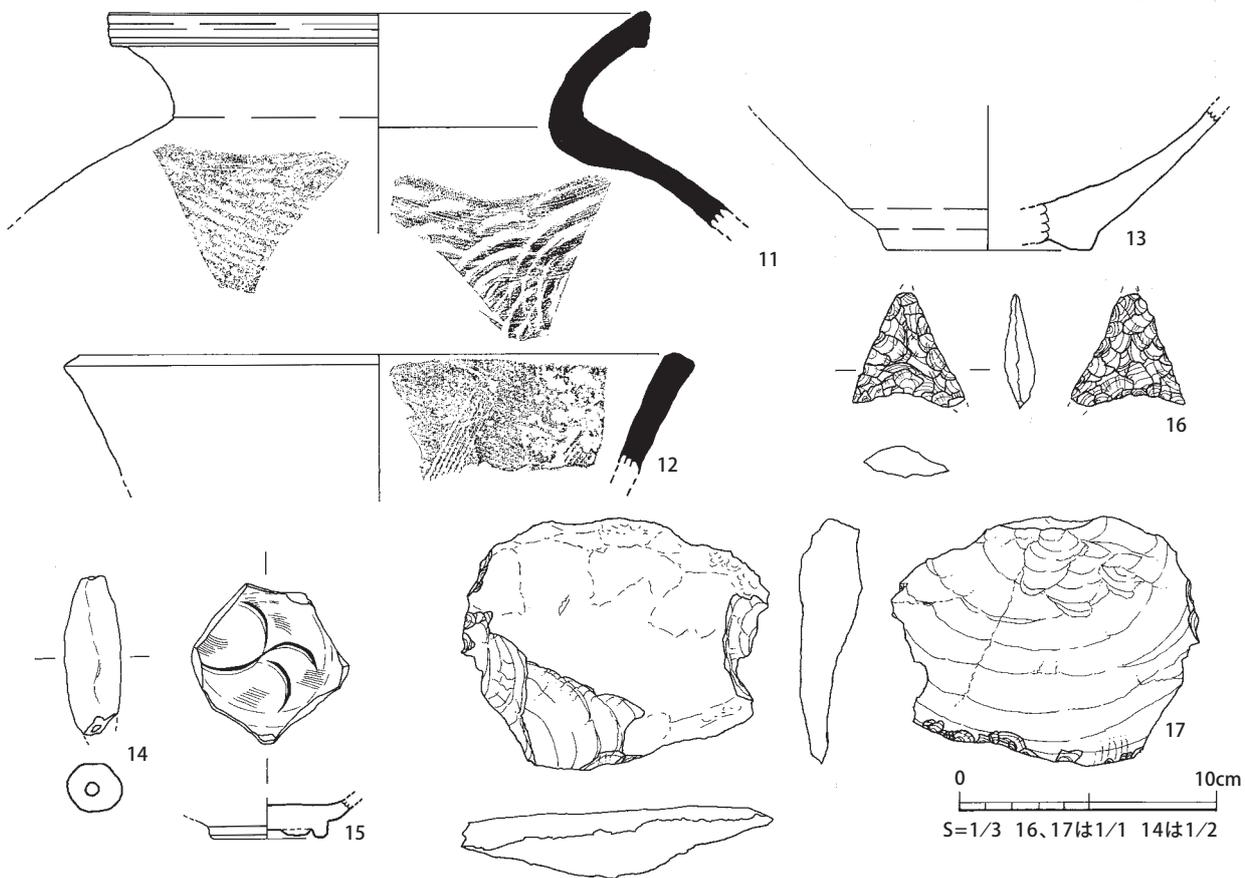
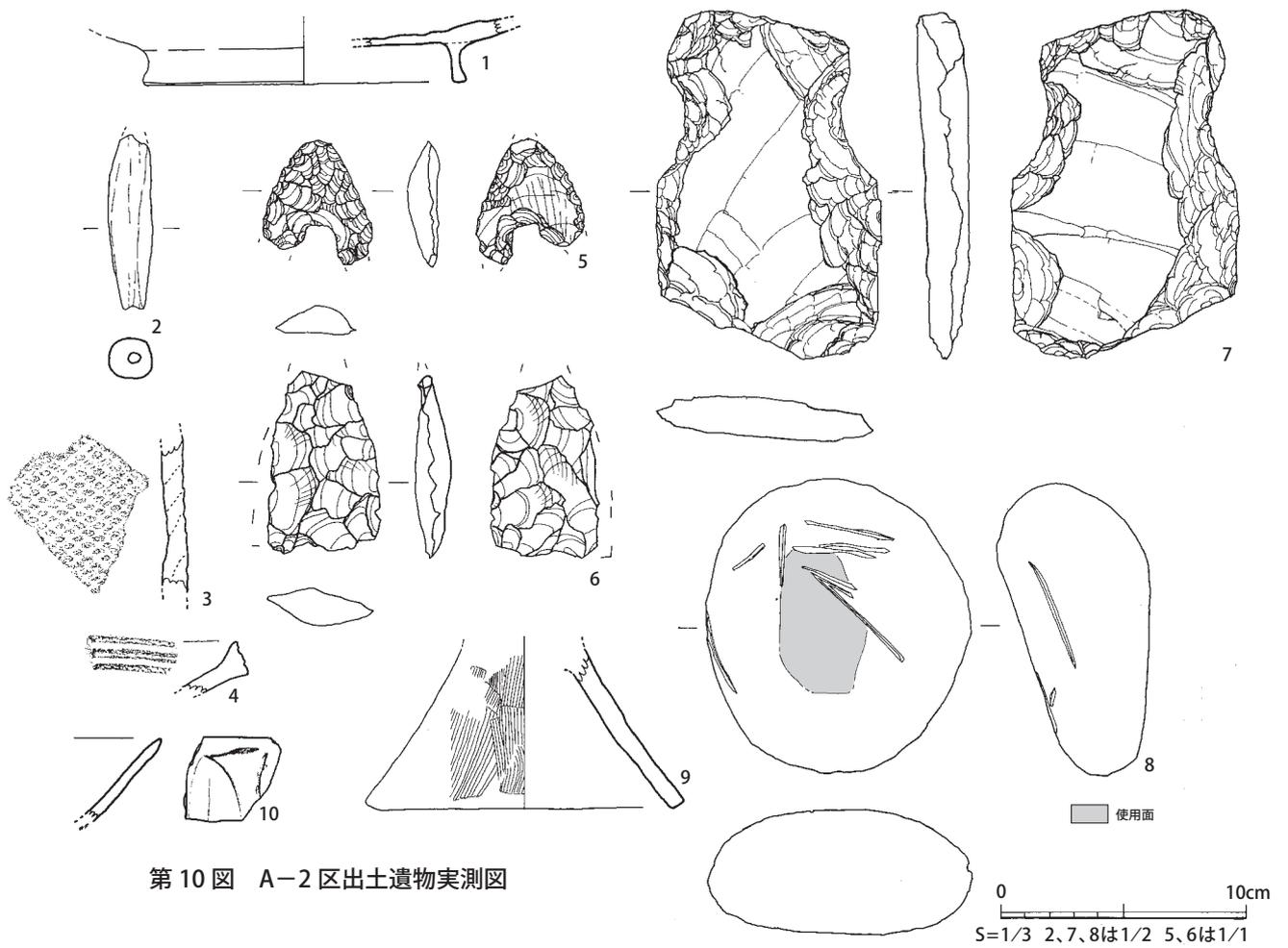
- 1号溝断面
- ① 暗褐色土 ややきめが粗く、しまらない。橙色粒、砂礫を含む。

第8図 1号溝実測図



- 2号土坑東西断面
- ① 暗褐色土 ややきめが粗く、しまらない。  
②がブロック状に混ざることから、急に埋まったのではないと思われる。
  - ② 暗色土 きめが粗く、しまらない。粘質。砂礫を多く含む。二ガ土、ロームが混ざる。
  - ② 暗色土 きめが粗く、しまらない。粘質。砂礫を多く含む。二ガ土、ロームが混ざる。

第9図 2号土坑実測図



## A-4区

### 調査の成果

#### 【堀立柱建物】

##### 1号掘立柱建物【第13図】

東西方向に長軸を持つ。南北2間×東西3間。東側の南北柱穴ラインは、調査区域外のために検出することはできなかった。柱穴間は南北1.8m、東西1.6～1.8mを測る。

##### 2号掘立柱建物【第13図】

1号掘立柱建物と重複して検出されたが、先後関係は不明である。東西方向に長軸を持つ。わずかに東に振れる。南北2間×東西3間(?)。東側の南北柱穴ラインは調査区域外のために、検出することはできなかった。柱穴間は南北1.8m、東西1.2～1.6mを測る。

##### 3号掘立柱建物【第14図】

ほぼ南北方向に向く。南北2間×東西2間。南側の東西柱穴ラインは、調査区域外のために検出することはできなかった。柱穴間は南北1.7m、東西1.7mを測る。

#### 【土坑】

##### 3号土坑【第15図】

南北1.7m、深さ0.1mを測る。西側が調査区域外であるが、円形の平面形状を呈すると思われる。

##### 4号土坑【第15図】

攪乱により、長短軸ともに0.6mほどしか残存していない。

##### 5号土坑【第15図】

長軸1.8m。遺構の大半が調査区域外であり、遺構の性格は不明。

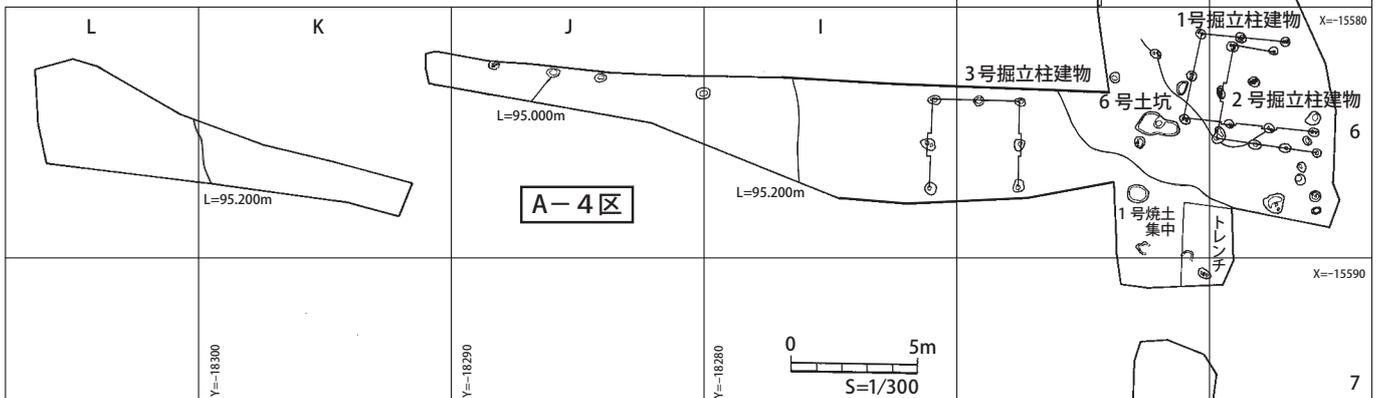
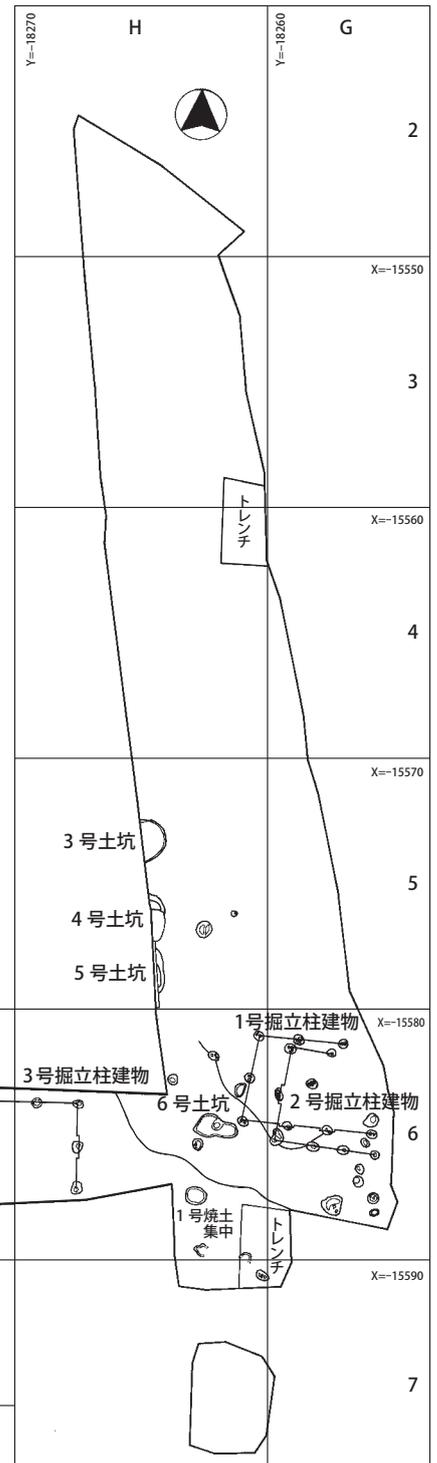
##### 6号土坑【第16図】

長軸1.5mのいびつな形状の土坑。深さ0.2mを測る。中央にピットがみとめられるが、遺構の性格は不明。

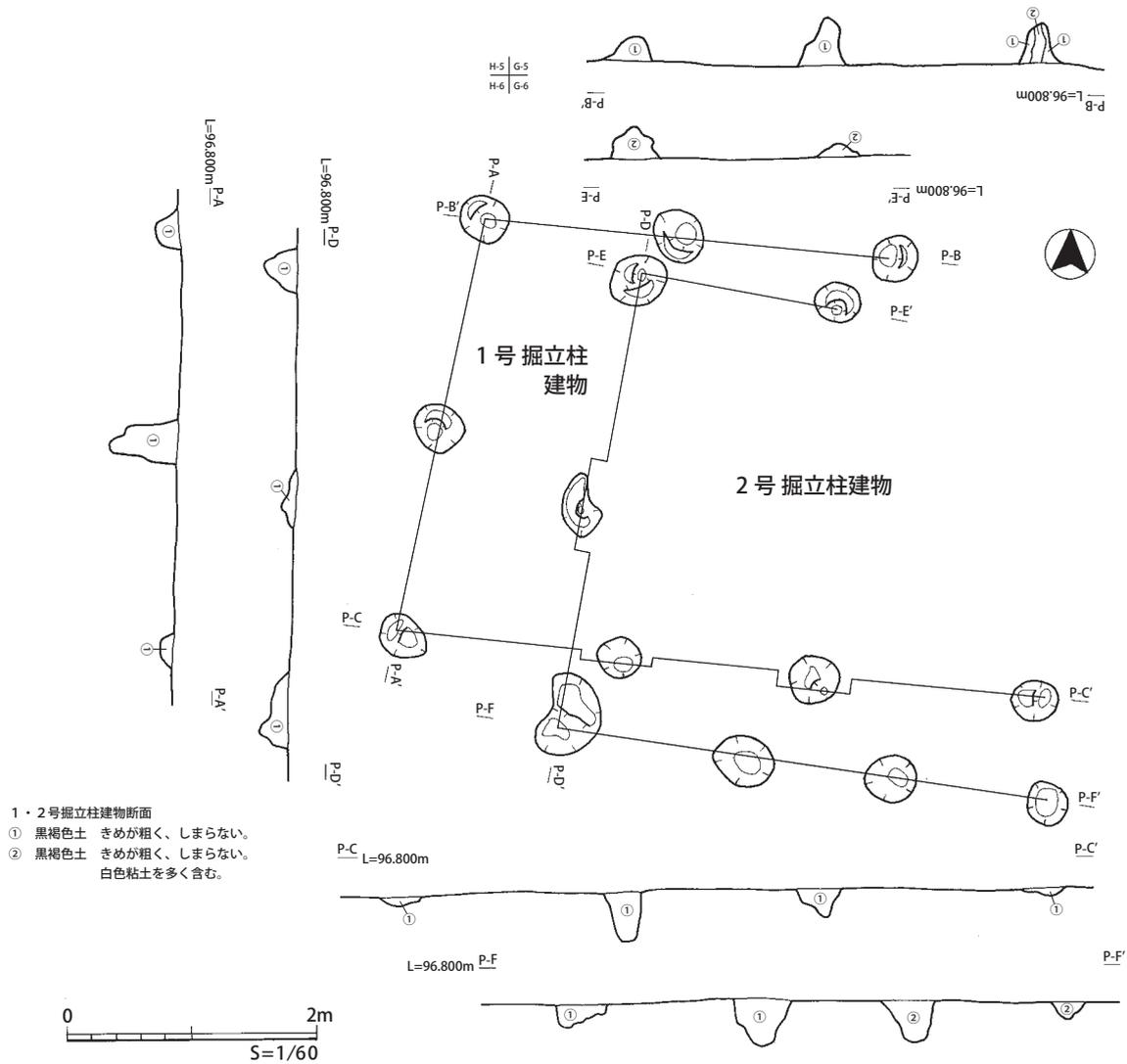
#### 【焼土集中】

##### 1号焼土集中【第16図】

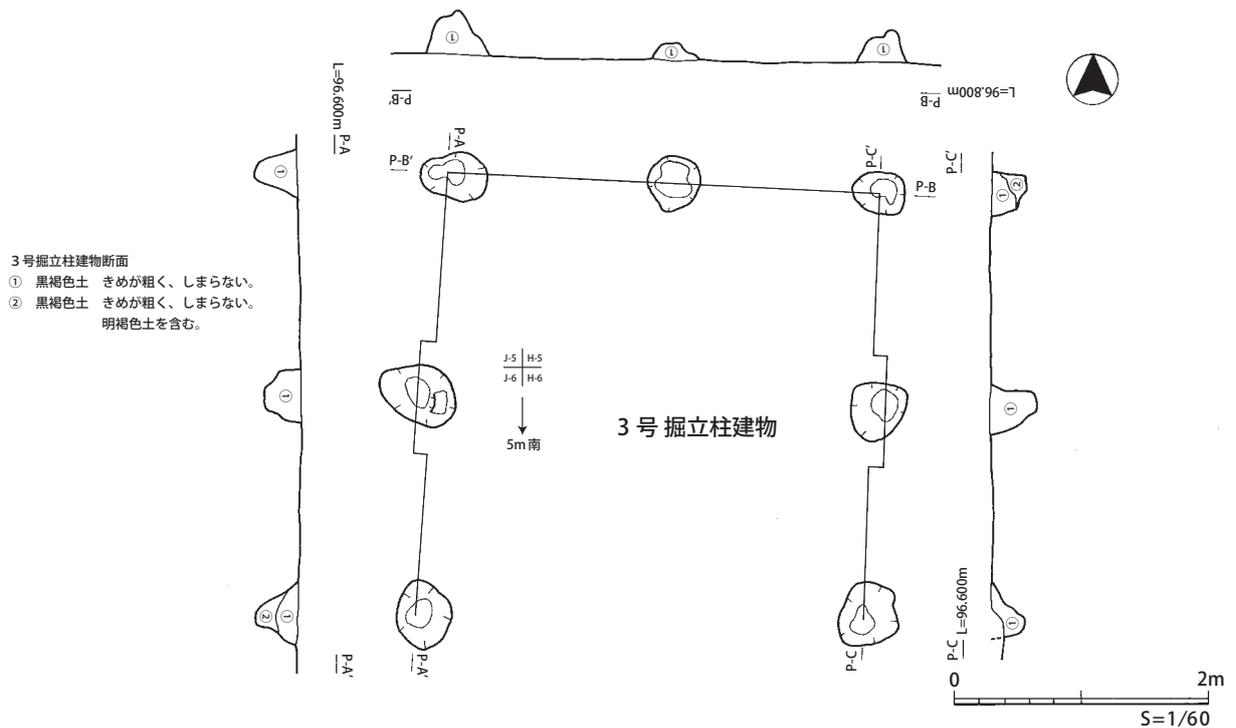
直径0.8m、深さ0.15mの円形の土坑。埋土に焼土の塊を含む。



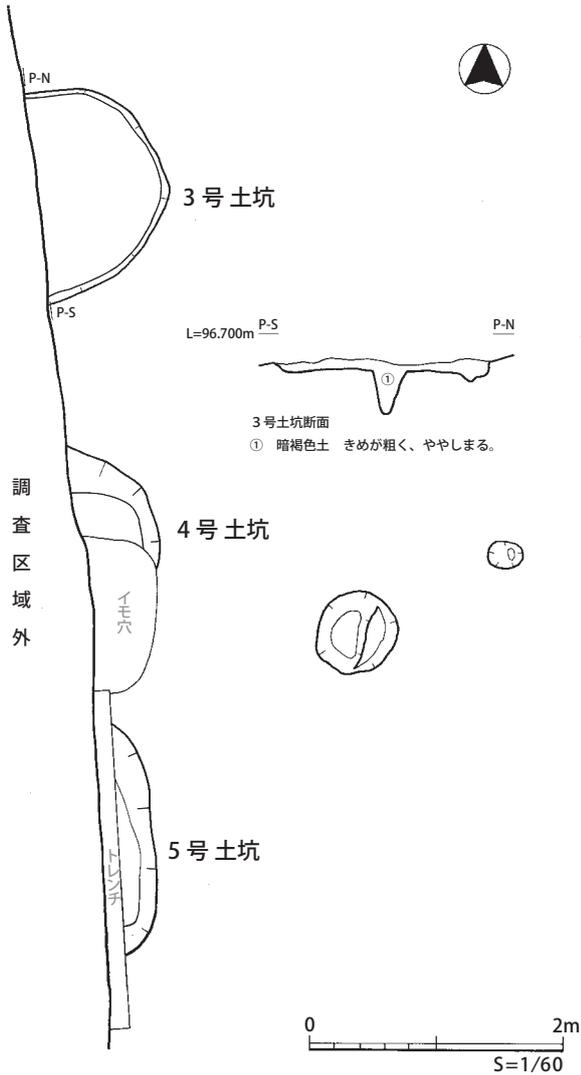
第12図 A-4区遺構配置図



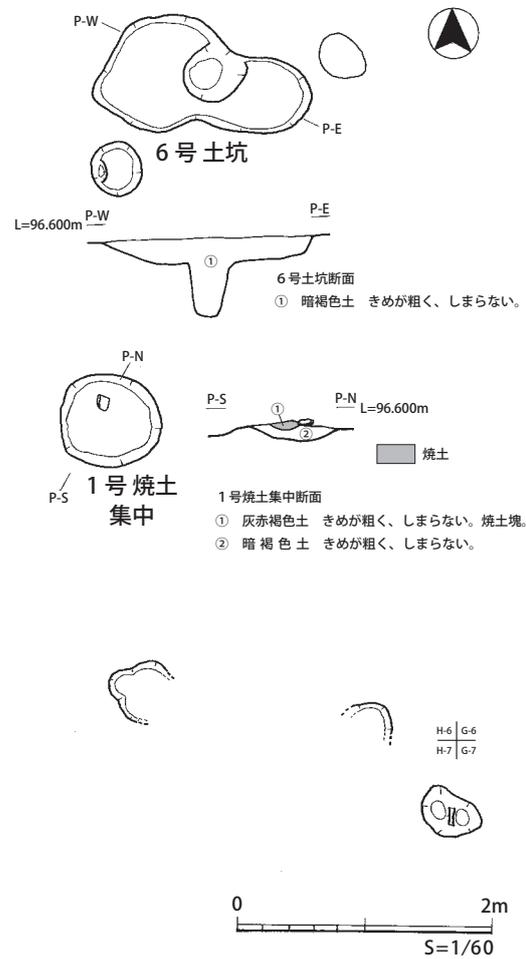
第13図 1・2号掘立柱建物実測図



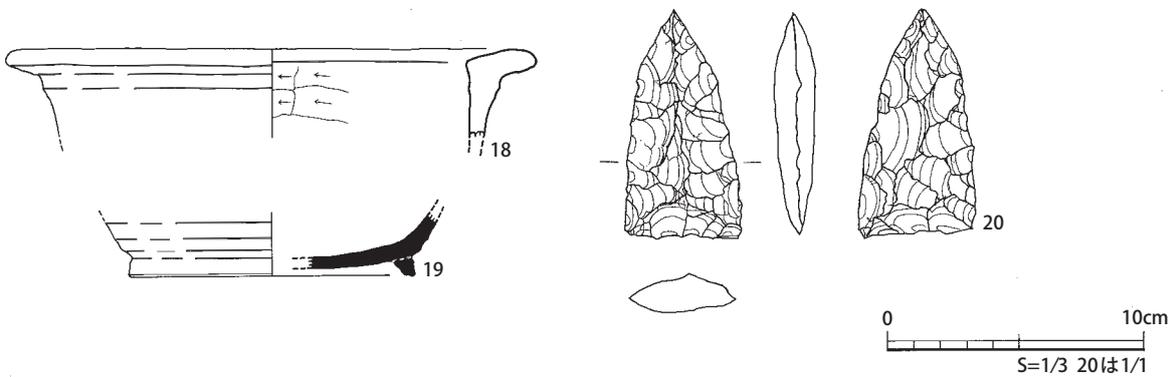
第14図 3号掘立柱建物実測図



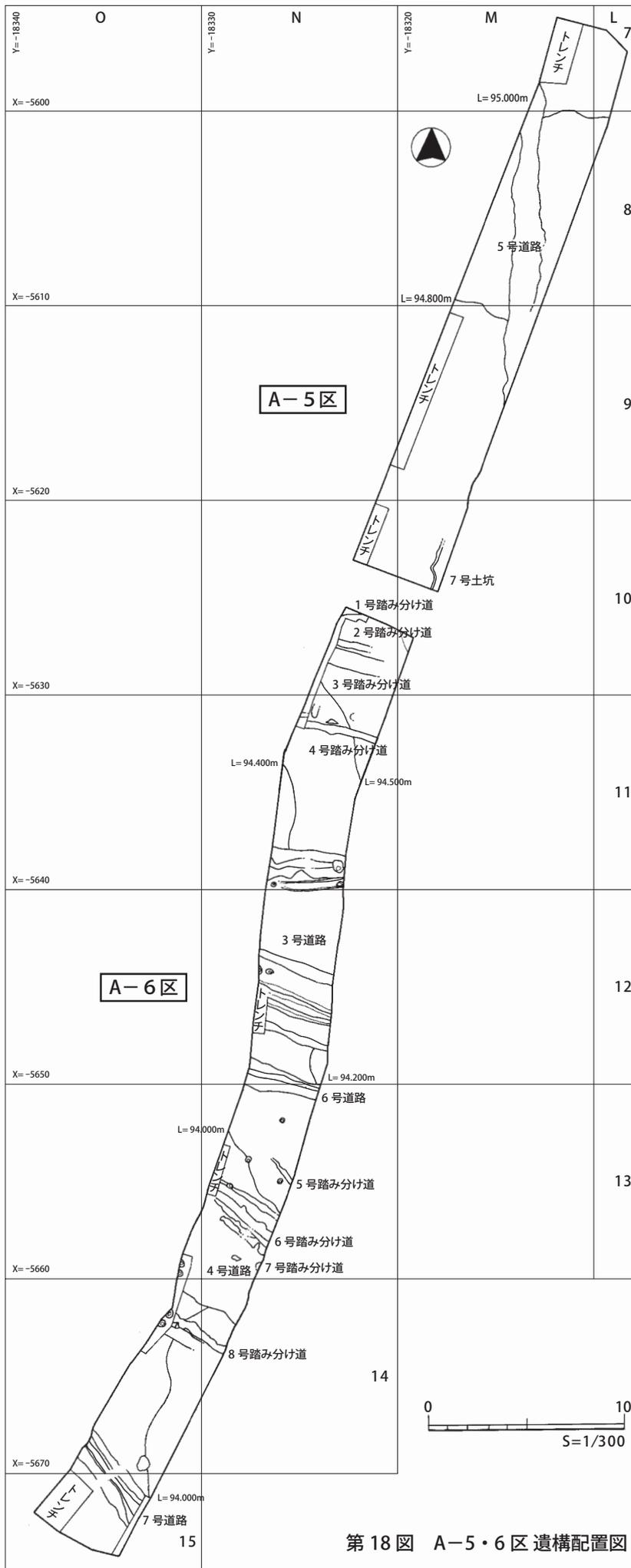
第15図 3~5号土坑実測図



第16図 6号土坑、1号焼土集中実測図



第17図 A-4区出土遺物実測図



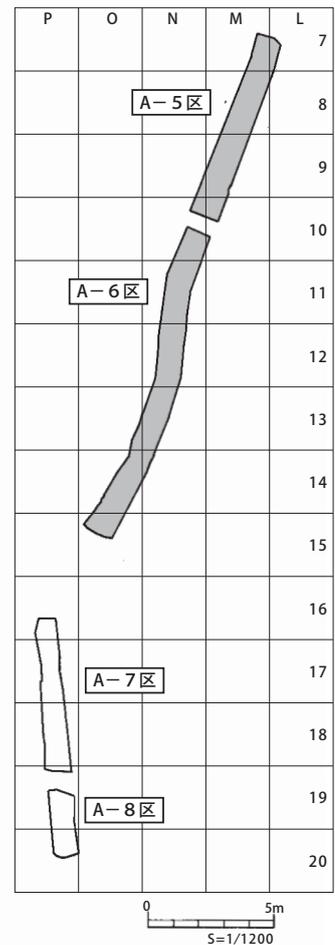
## A-5・6・7・8区

### 調査の成果

#### 【道路】

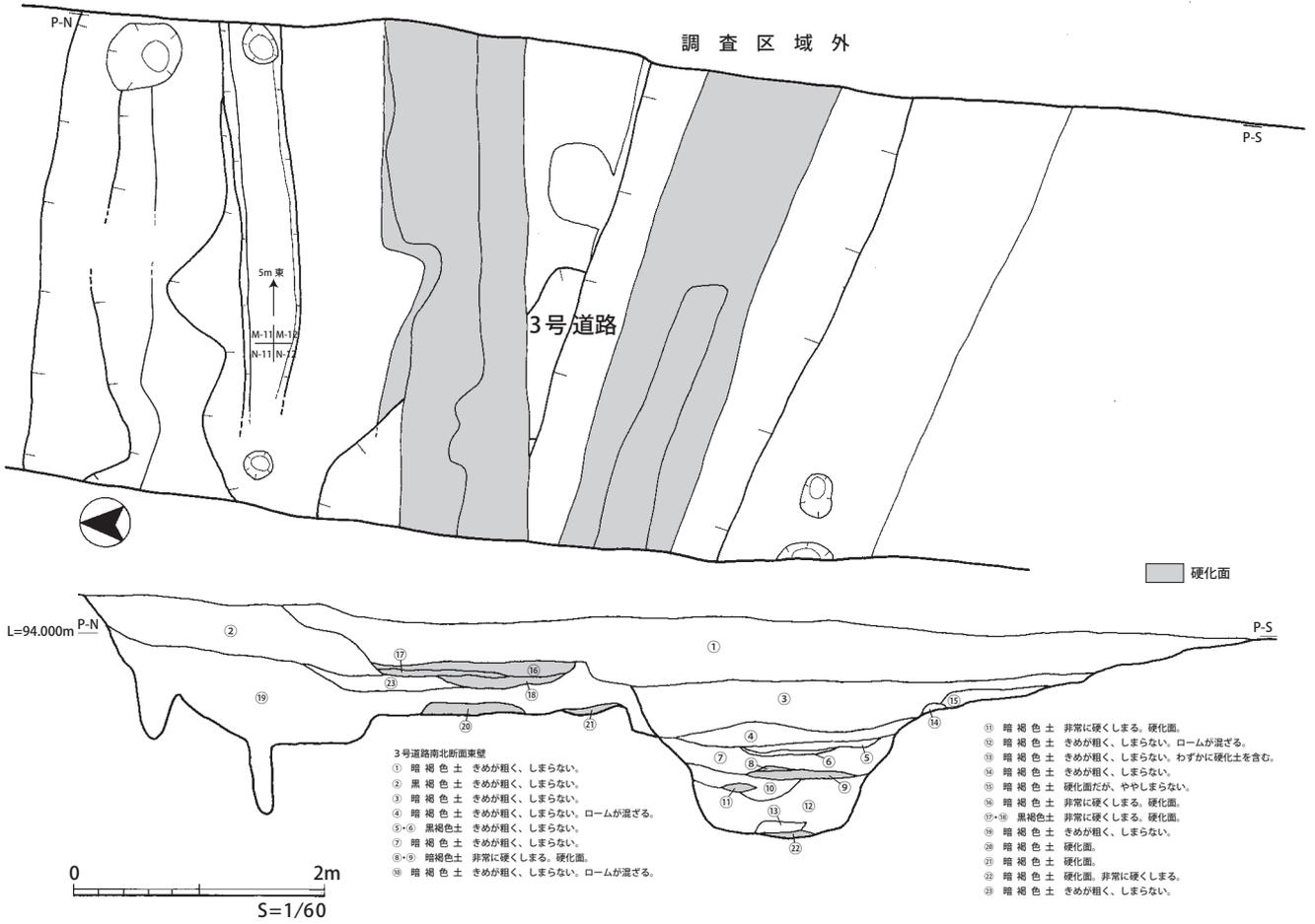
#### 3号道路【第19・20図】

西北西⇄東南東方向に延びる。検出面幅6.9～8.0m、底部幅1.2m、深さ1.7mを測る。北側がテラス状に平坦面を呈し、2段に形成された溝状の道路で、一部を断面逆台形に0.8m深掘りをして、その底部は幅1mほどが硬化している。北側テラスにも硬化面がみとめられる。調査区東側では深掘り部が北側に向かって拡張されている。この部分の埋土はニガ土のブロックが混在するなど、意図的に埋め立てられたようで

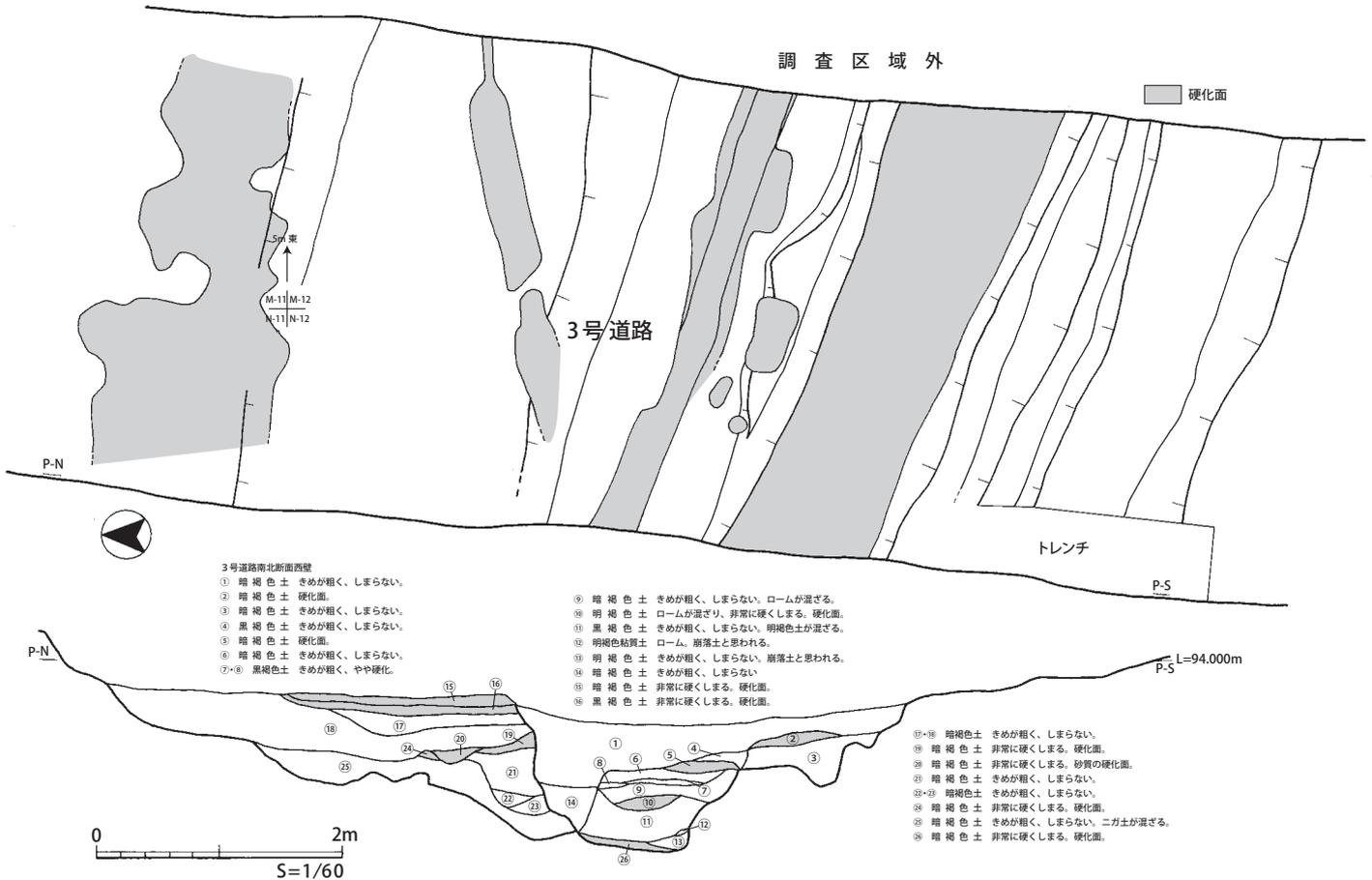


A-5～8区調査区

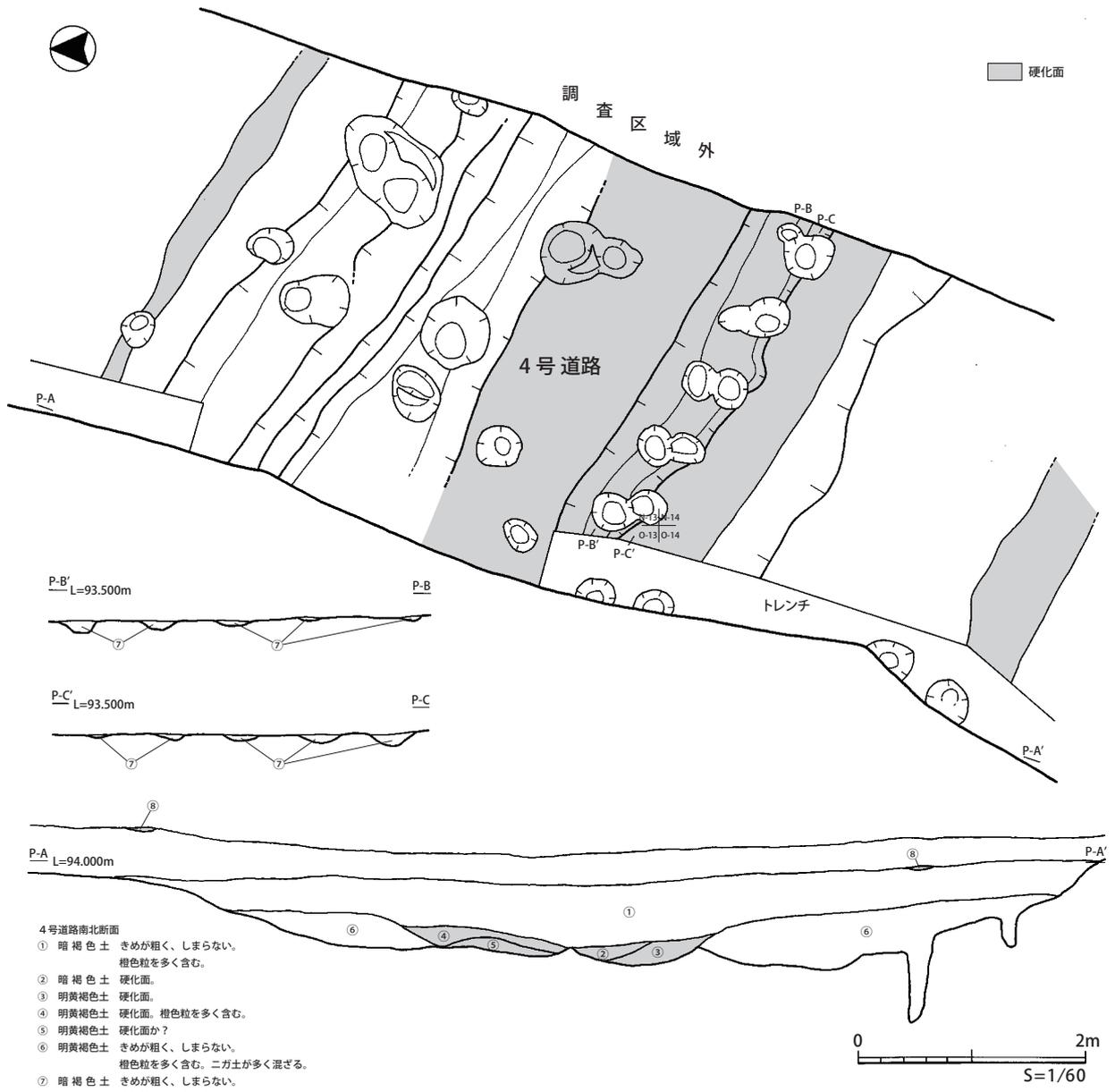
第18図 A-5・6区遺構配置図



第19図 3号道路硬化面検出状況

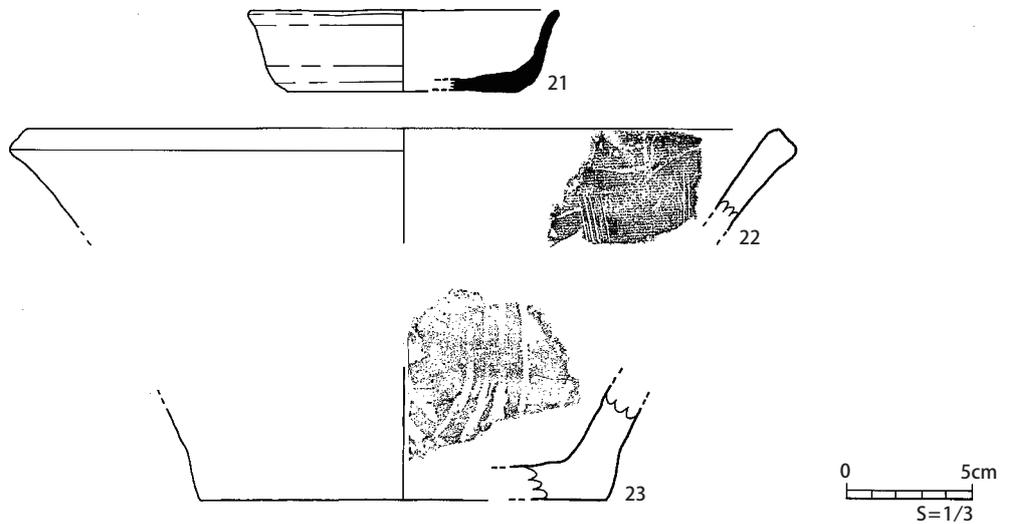


第20図 3号道路硬化面検出・完掘状況

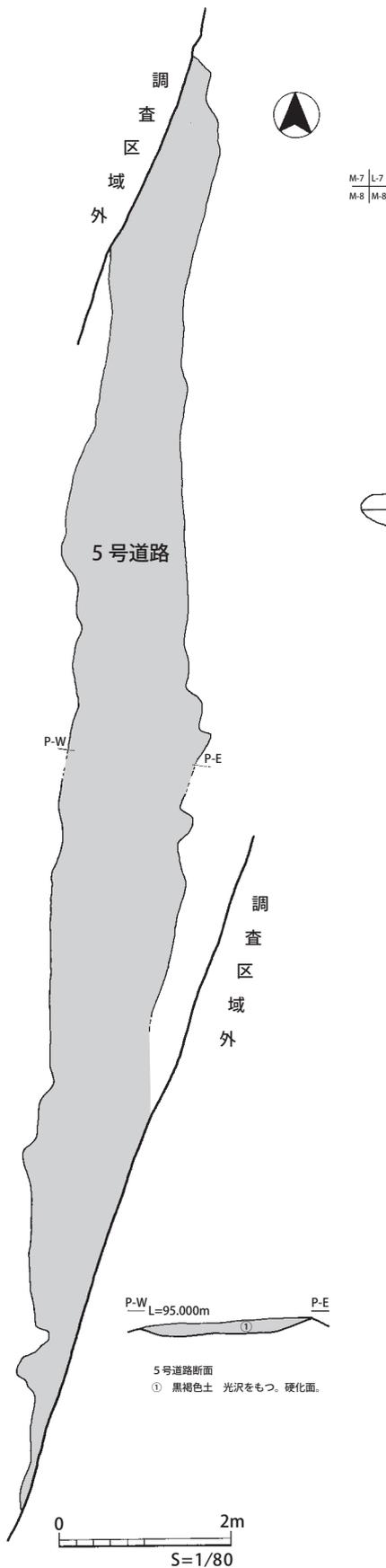


- 4号道路南北断面
- ① 暗褐色土 きめが粗く、しまらない。  
橙色粒を多く含む。
  - ② 暗褐色土 硬化面。
  - ③ 明黄褐色土 硬化面。
  - ④ 明黄褐色土 硬化面。橙色粒を多く含む。
  - ⑤ 明黄褐色土 硬化面か？
  - ⑥ 明黄褐色土 きめが粗く、しまらない。  
橙色粒を多く含む。二方土が多く混ざる。
  - ⑦ 暗褐色土 きめが粗く、しまらない。  
波板状凹凸面内埋土。
  - ⑧ 黒褐色土 光沢をもつ。硬化面。

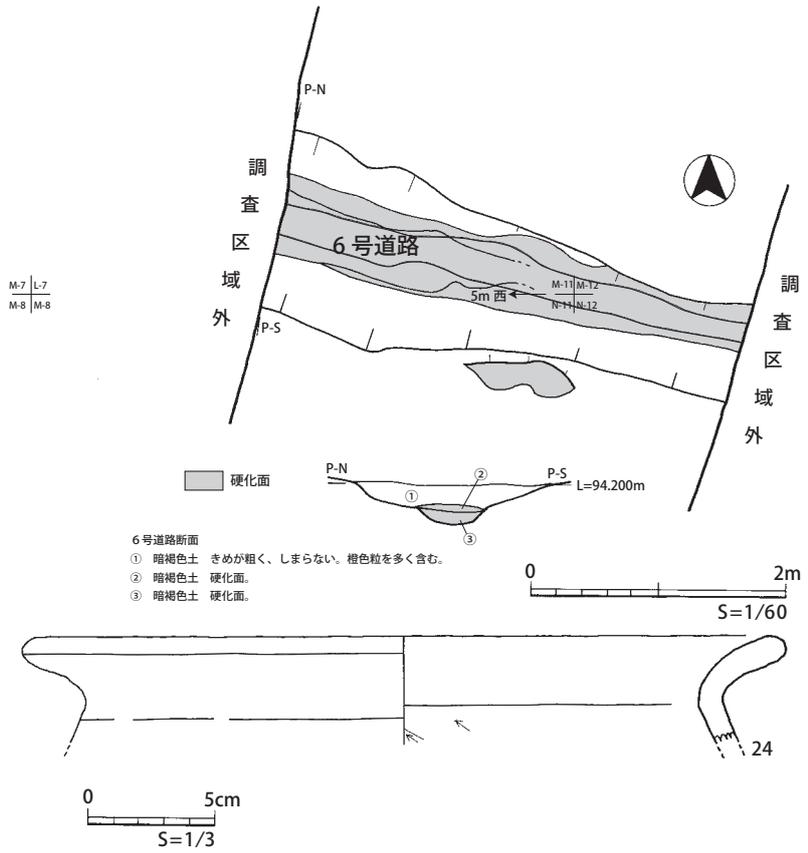
第21図 4号道路実測図



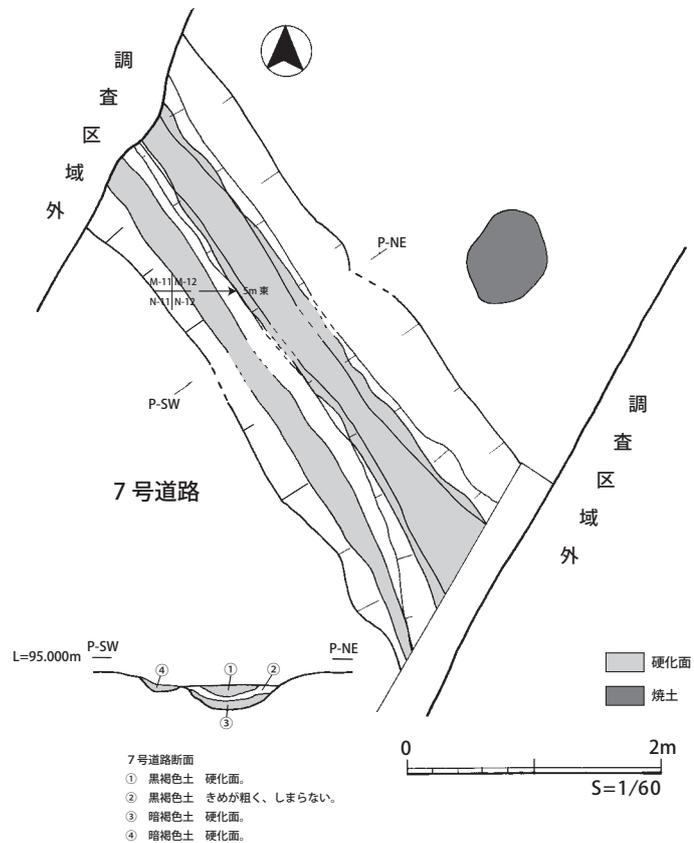
第22図 3号道路出土遺物実測図



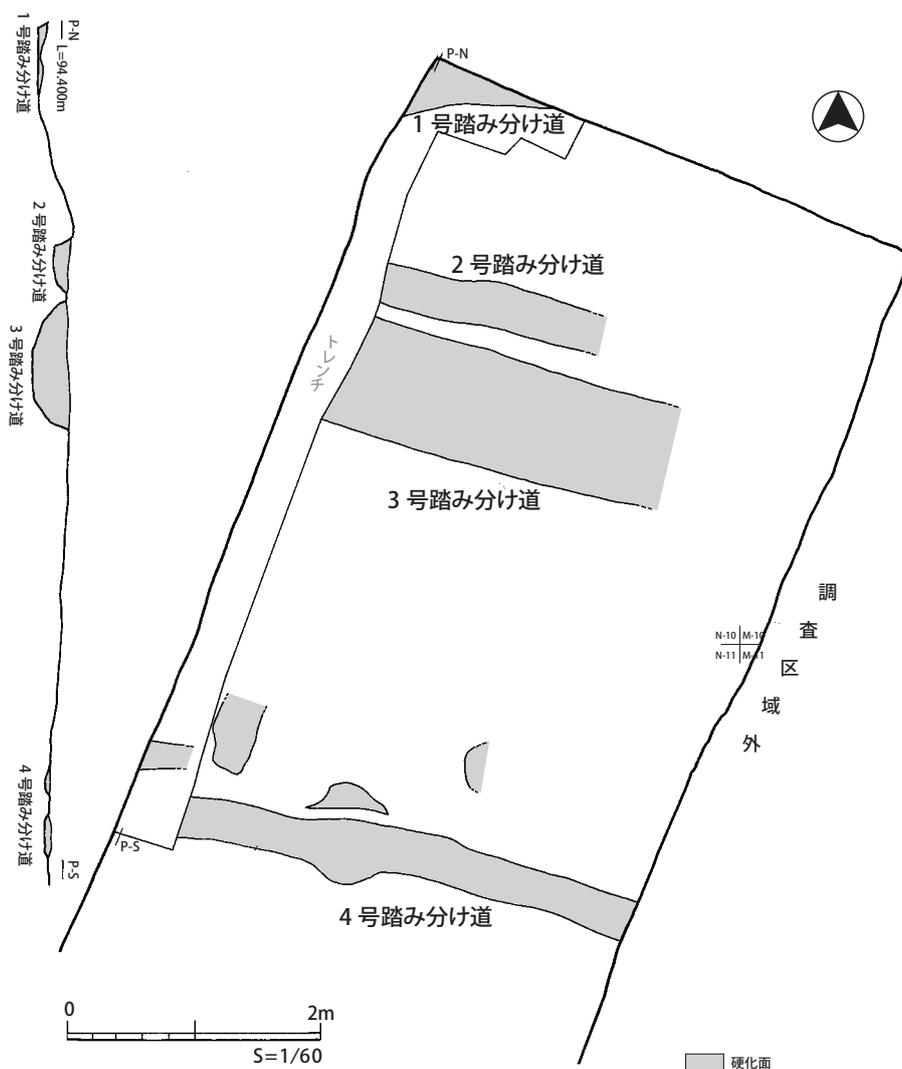
第23図 5号道路実測図



第24図 6号道路実測図、6号道路出土遺物実測図



第25図 7号道路実測図



第 26 図 1～4 号踏み分け道実測図

あり、埋め立て後も硬化面が全面に拡がっていることから道路として利用したことがわかる。深掘り部分で 2 面、テラス部分でも 2 面の硬化面が確認されており、頻繁な利用があったことがうかがえる。

#### 4 号道路【第 21 図】

北西⇨南東方向に延びる。立ち上がりが緩やかで上端、下端は確実に検出できなかったが、検出面幅 8.6m と推測され、深さ 1.0m を測る。底部は中央部で 2 条の硬化面が溝状に検出され、波板状凹凸面が検出され、幅 2.9m が道路として使用していたと考えられる。

#### 5 号道路【第 23 図】

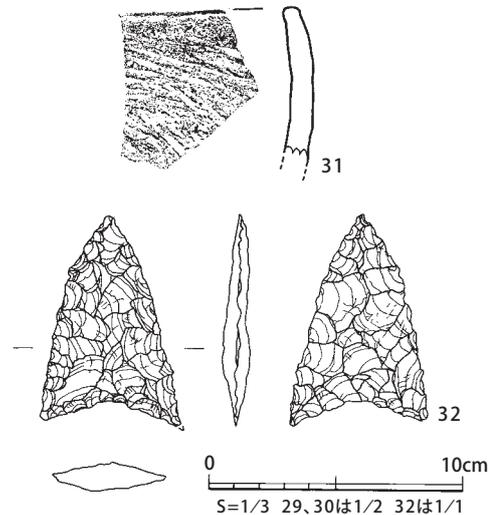
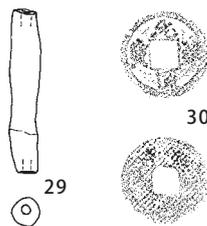
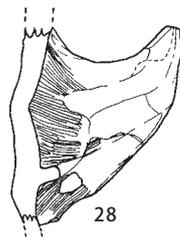
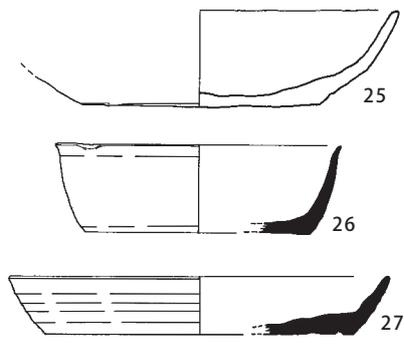
南北方向に延びる。残長 17m、検出面幅 0.9 ～ 1.6m を測る幅広の硬化面である。硬化面は 1 面のみで、0.1m 程度の厚さを測る。一帯では掘りこまれた溝の底部を道路として使用する事例が多いが、これは硬化面のみの検出であり、掘りこみはみとめられなかった。

#### 6 号道路【第 24 図】

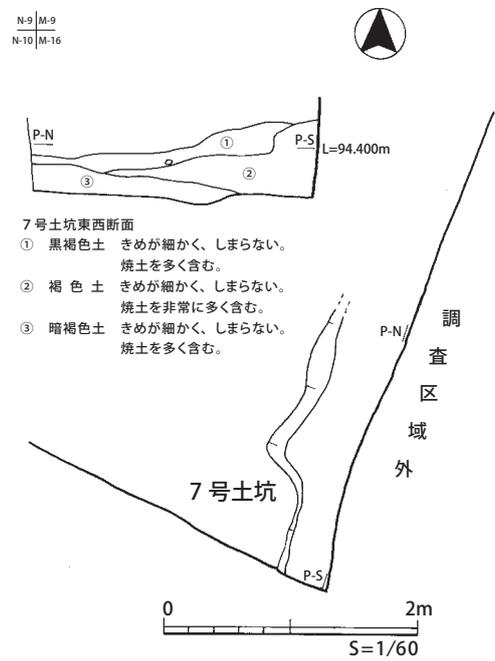
西北西⇨東南東方向に延びる。残長 3.8m、検出面幅 0.7 ～ 1.4m、底部幅 0.4m、深さ 0.3m を測る。底部で硬化面 2 面が検出され、底部を道路として使用したと考えられる。



第27図 5~8号踏み分け道実測図



第29図 A-6区出土遺物実測図



第28図 7号土坑実測図

- 7号土坑東西断面
- ① 黒褐色土 きめが細かく、しまらない。焼土を多く含む。
  - ② 褐色土 きめが細かく、しまらない。焼土を非常に多く含む。
  - ③ 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。焼土を多く含む。

### 7号道路【第25図】

北西⇨南東方向に延びる。残長4.4m、検出面幅1.5～1.7m、底部幅0.3～0.4m、深さ0.2mを測る。底部と南側で2条の帯状硬化面がみとめられる。なお、北東側に隣接して長軸0.8×短軸0.6mの範囲で焼土と炭化物の集中がみとめられたが、関連は不明である。

### 【土坑】

#### 7号土坑【第28図】

調査区端で検出されたため、詳細は不明。土坑、もしくは、溝状遺構と考えられる。

### 【踏み分け道】

#### 1号踏み分け道【第26図】

東西方向に延びる。調査区端で検出されたため、詳細は不明。

#### 2号踏み分け道【第26図】

西北西⇨東南東方向に延びる。残長1.7m、幅0.35m。

#### 3号踏み分け道【第26図】

西北西⇨東南東方向に延びる。残長2.5m、幅0.9m。

#### 4号踏み分け道【第26図】

西北西⇨東南東方向に延びる。残長3.6m、幅0.3m。周囲にわずかに硬化がみとめられるが、関連は不明。

#### 5号踏み分け道【第27図】

北西⇨南東方向に延びる。残長1.5m、幅0.3m。

#### 6号踏み分け道【第27図】

北西⇨南東方向に延びる。残長3.5m、幅0.3m。4号道路の上面で検出されたが、関連したものかどうかは不明。

#### 7号踏み分け道【第27図】

北西⇨南東方向に延びる。残長2.8m、幅0.3～0.5m。4号道路の上面で検出されたが、関連したものかどうかは不明。

#### 8号踏み分け道【第27図】

北西⇨南東方向に延びる。残長3.2m、幅0.4～0.6m。4号道路に隣接して検出されたが、関連したものかどうかは不明。

## A-9・10区

### 調査の成果

#### 【住居址】

##### 1号住居址【第31図】

2号溝と切り合っており、プランは明確ではない。硬化面、カマド、柱穴、壁周溝などは検出されず、北側の掘りこみから、遺構の存在が想定されるのみである。

##### 2号住居址【第32～34図】

3号住居址、8号道路、3号溝、さらに後世の畑地整備により約1/3しか残存していない。北側壁にカマドを持つ。床面は硬化が著しく、8cm程度の白色粘土を含む貼床であろうと推測される。支柱穴は東側の2基がみとめられた。西側の2基は硬化面の下から検出されたため、別遺構のものと考えられるが、8号道路により失われているものと考えられる。カマドを持つ辺の壁周溝は他の3辺にくらべてやや狭く浅く、一度掘り下げてから再度埋めなおして設営したものと考えられる。カマドは白色粘土で構築されており、内面は被熱している。カマド中央部に焼成面がのこり、袖は一部損壊しており、煙道は白色粘土で作られているようだが、崩落しており痕跡をとどめるのみである。袖石と思われる石材が出土している。

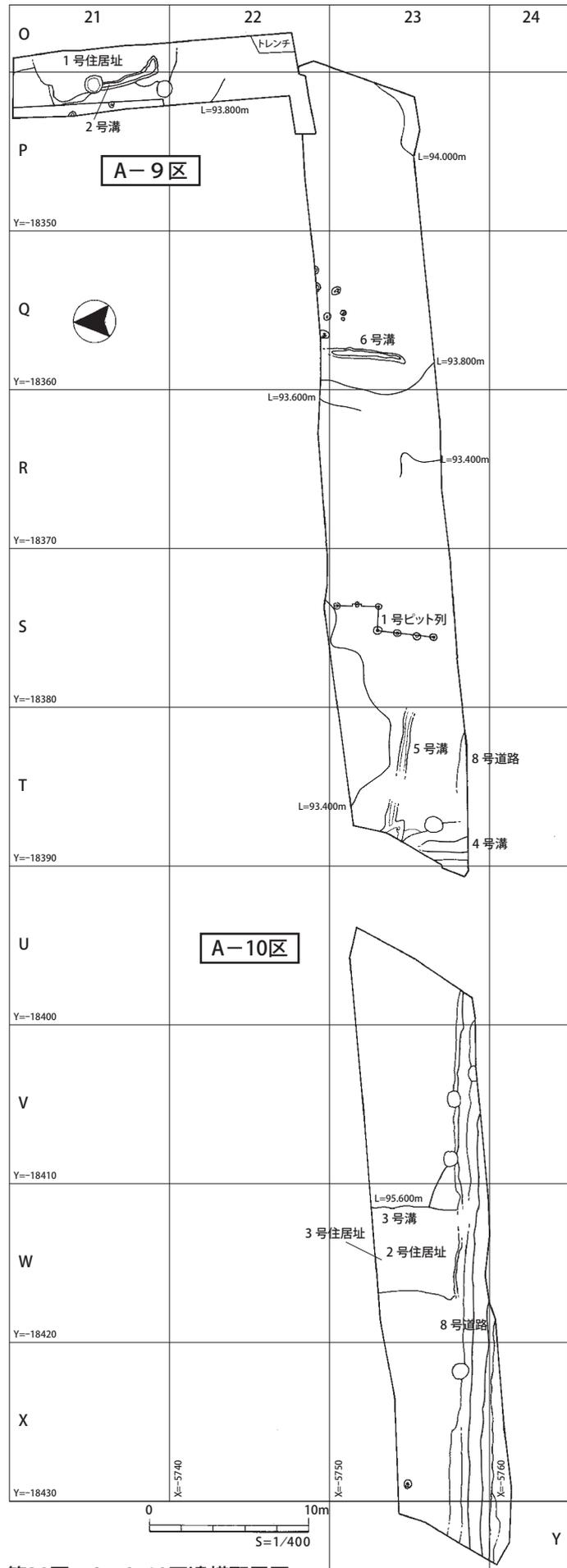
##### 3号住居址【第33・34図】

2号住居址と3号溝に切られており、ほぼ残存しない。わずかに硬化面が検出されたことから、住居址であったと思われるが、詳細は不明。

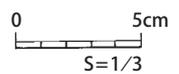
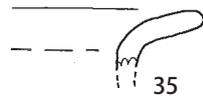
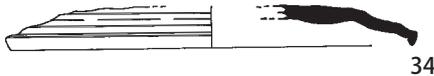
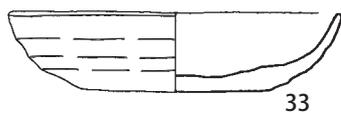
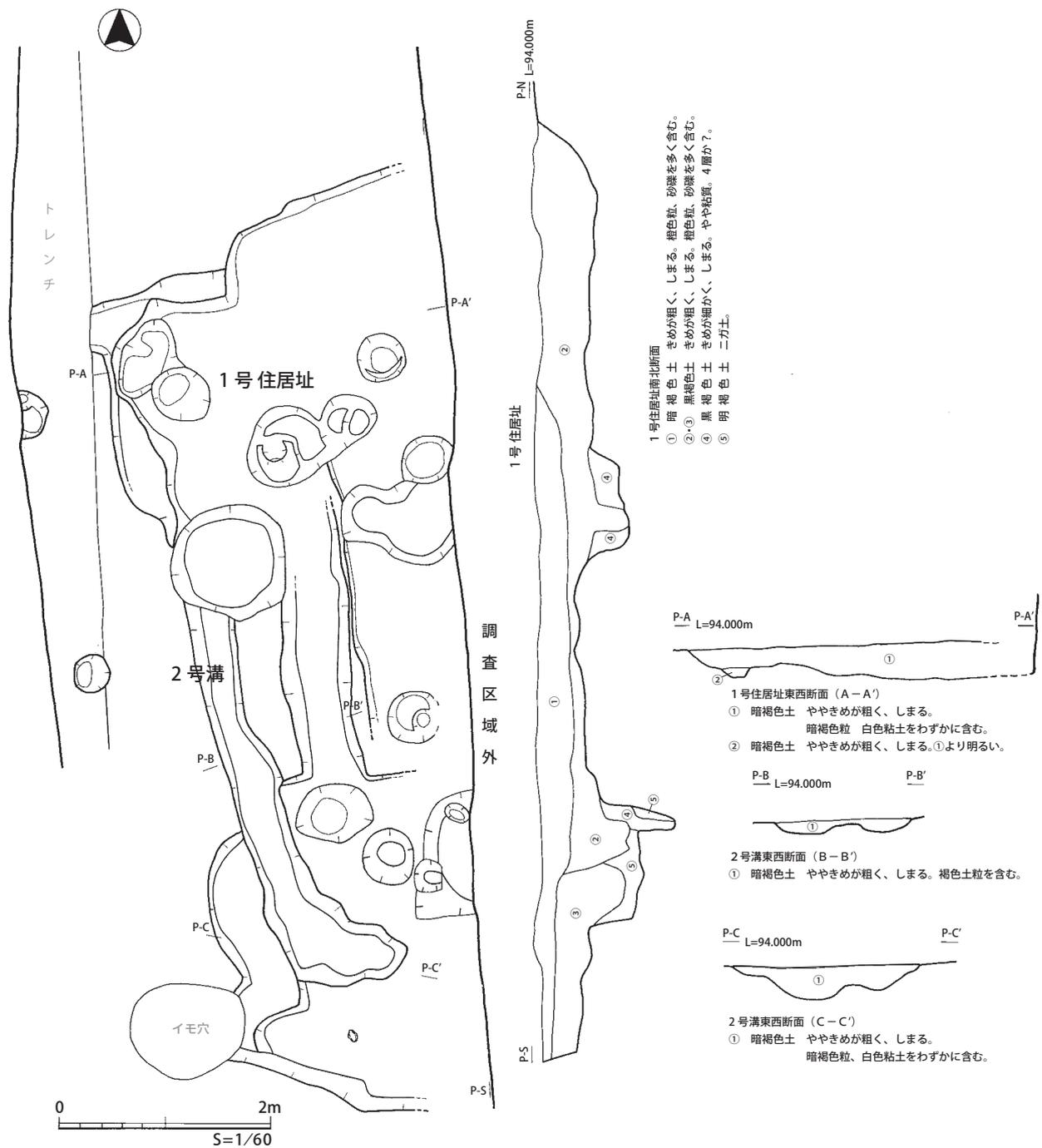
#### 【道路】

##### 8号道路【第36・37図】

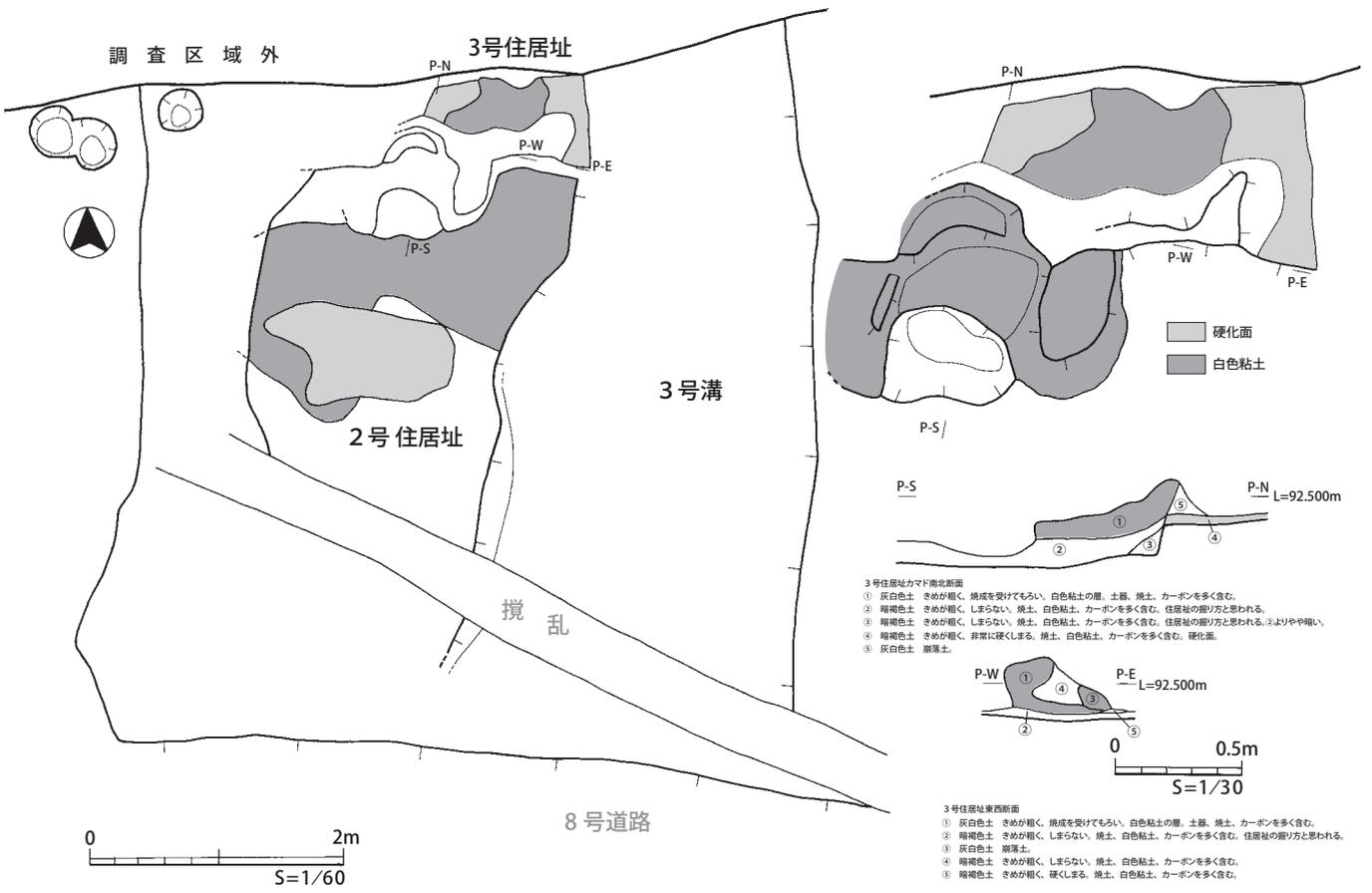
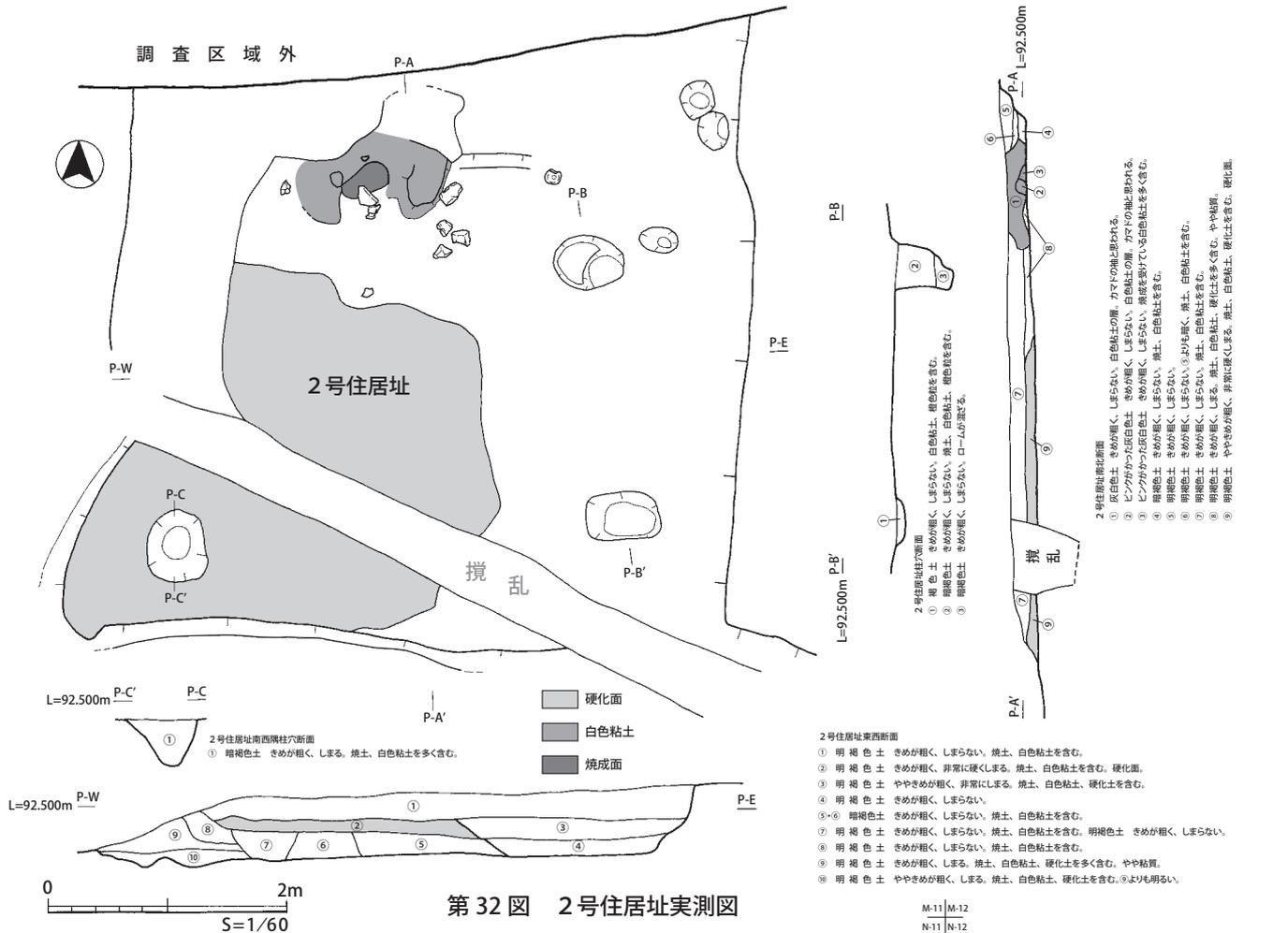
ほぼ東西方向に延びる。残長51m、検出面幅2.0～3.0m、底部幅20m、深さ0.7mを測る。3～4層の帯状硬化が検出され、一部2号住居址を切っている。非常に長く伸びた溝を道路として使っていたと思われる。



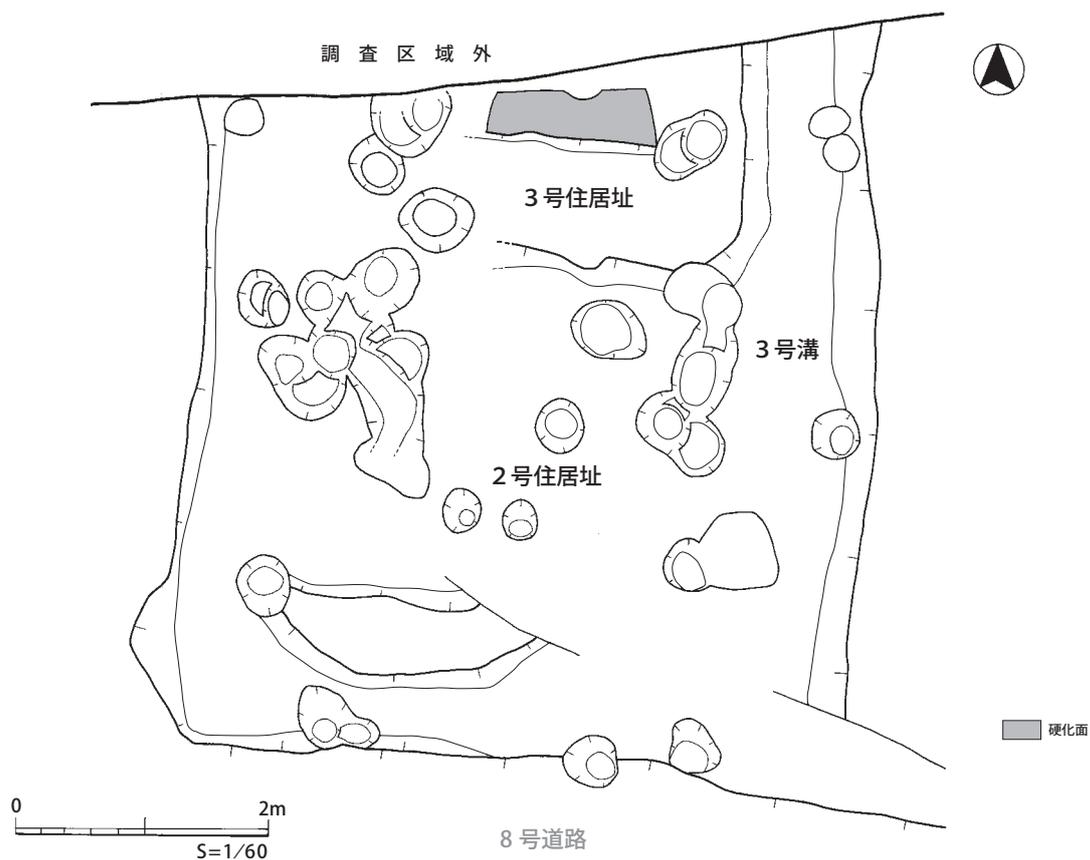
第30図 A-9・10区遺構配置図



第31図 1号住居址、2号溝実測図、1号住居址出土遺物実測図



第33図 2号住居址完掘状況、3号住居址カマド検出状況、3号溝検出状況



第34図 2・3号住居址、3号溝完掘状況

W-23/V-23  
W-24/V-24

【溝】

2号溝【第31図】

検出面幅0.3～0.7m。1号住居址の壁周溝の可能性がある。

3号溝【第33・34図】

南北方向に延び、2号住居址を切っているが、8号道路との先後関係は攪乱により不明である。残長5.0m、検出面幅1.9～2.6m、底面幅0.6m、深さ0.3mを測る。硬化面は検出されず、道路として使用された痕跡はない。当遺跡の性格上、道路であった可能性は大きいだが、現時点では溝状遺構としてとらえておく。

4号溝【第38図】

南北方向に延びる。幅1.7～2.3m、深さ0.8mを測る。8号道路を切っている。

5号溝【第38図】

西北西⇄東南東方向に延びる。幅0.5～0.7m、深さ0.1mを測る。

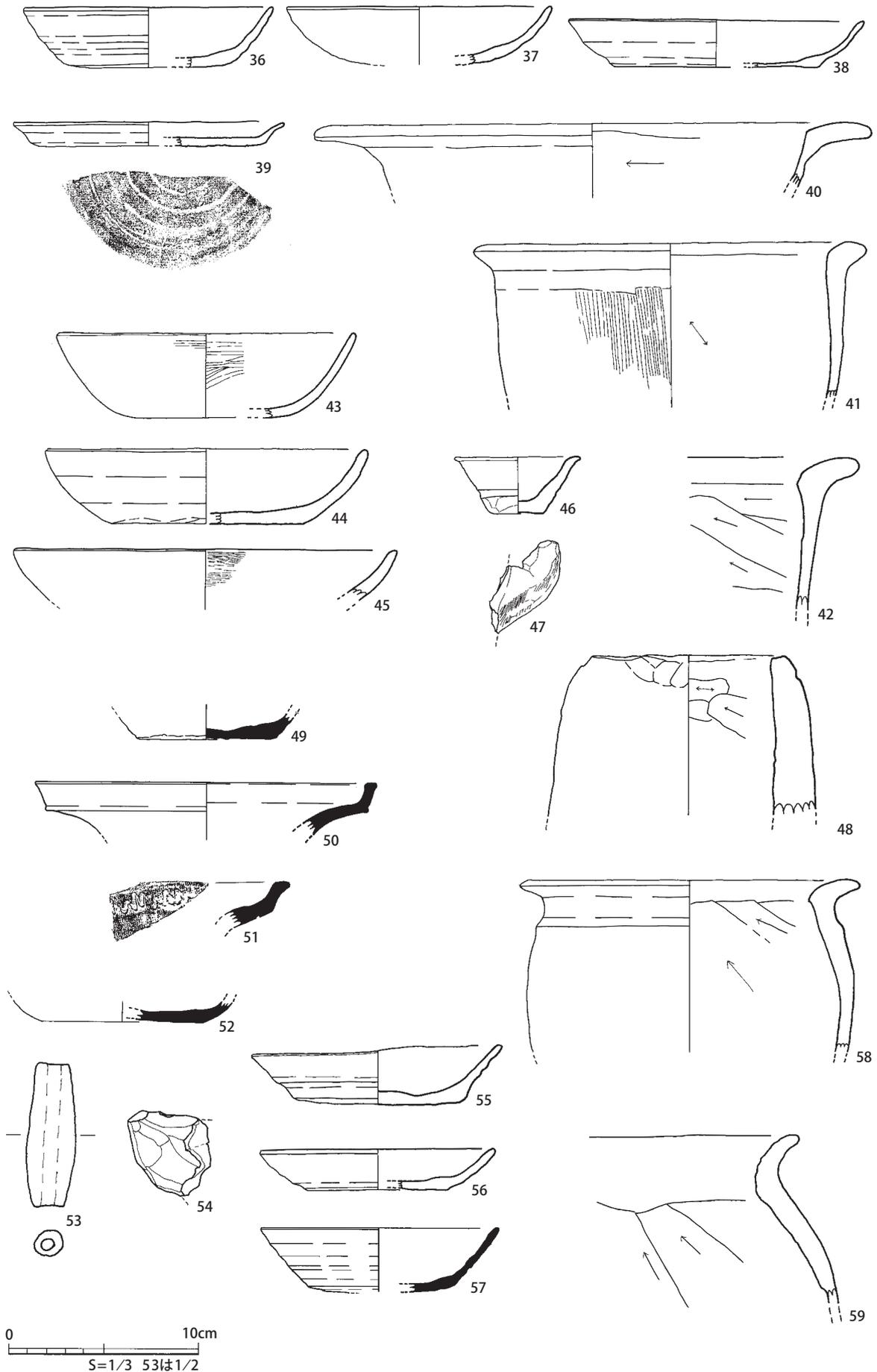
6号溝【第39図】

北北東⇄南南西方向に延びる。幅0.6m、深さ0.15mを測る。

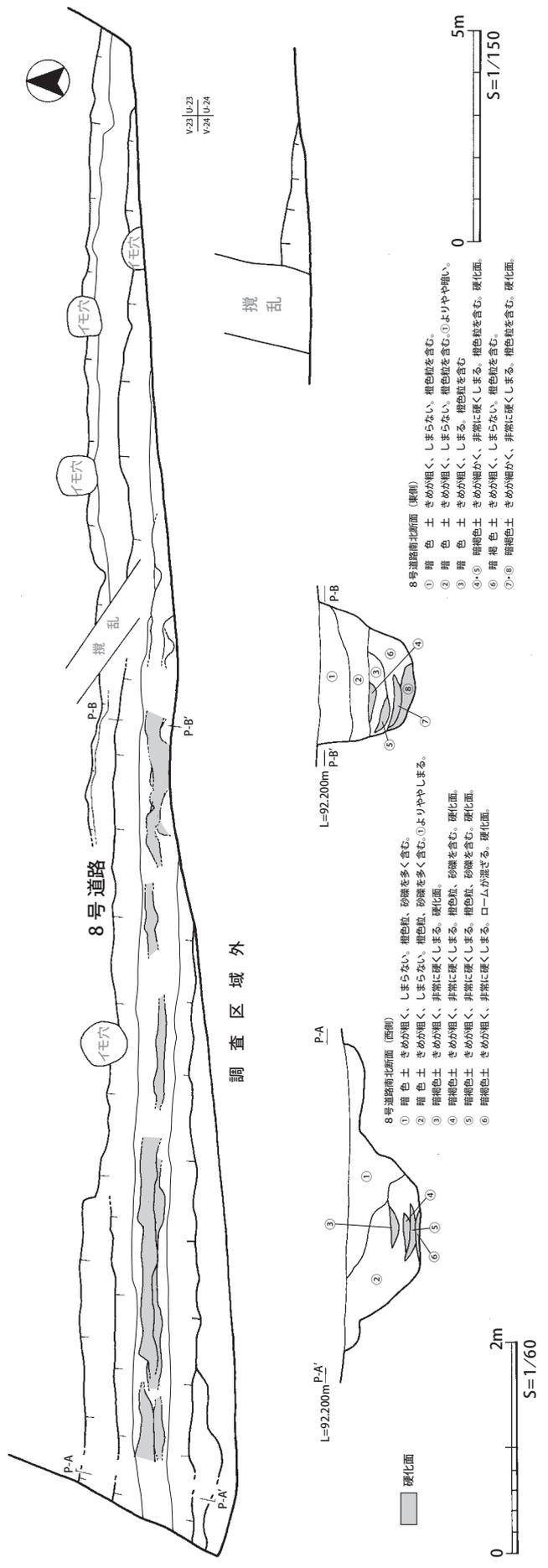
【ピット列】

1号ピット列【第40図】

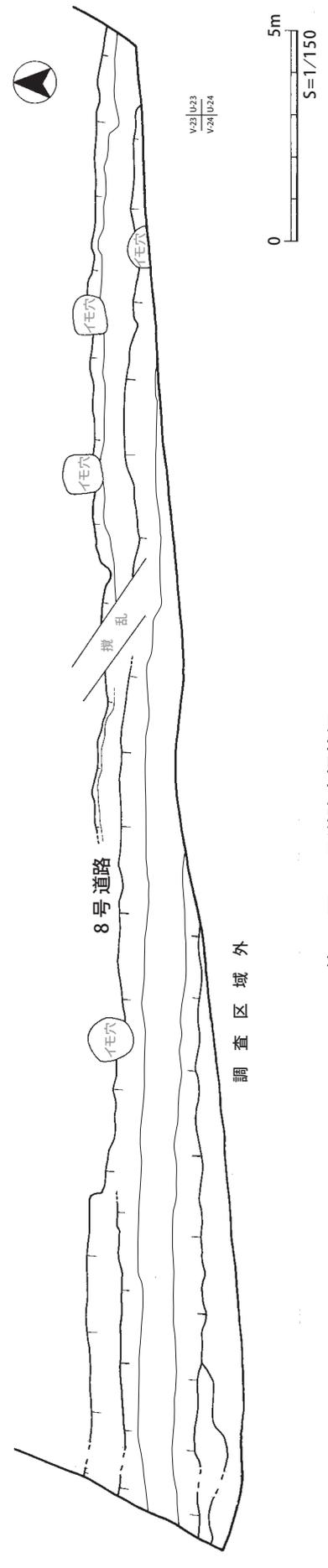
1.0～1.3mの間隔で規則的に並ぶ7基の柱列を確認した。かぎ状に並び、掘立柱建物とは考えにくく、柵列ではないかと考えられるが、詳細は不明。



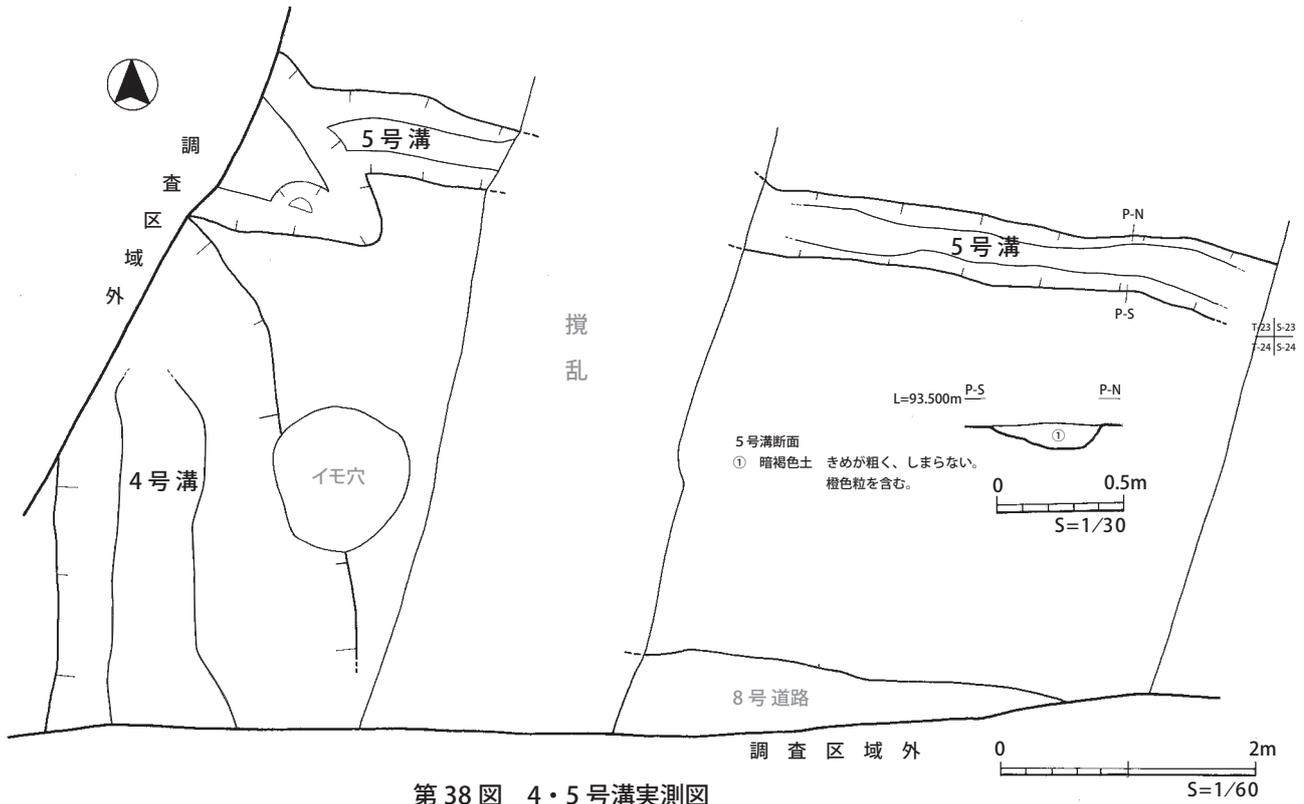
第35図 2・3号住居址、3号溝出土遺物実測図



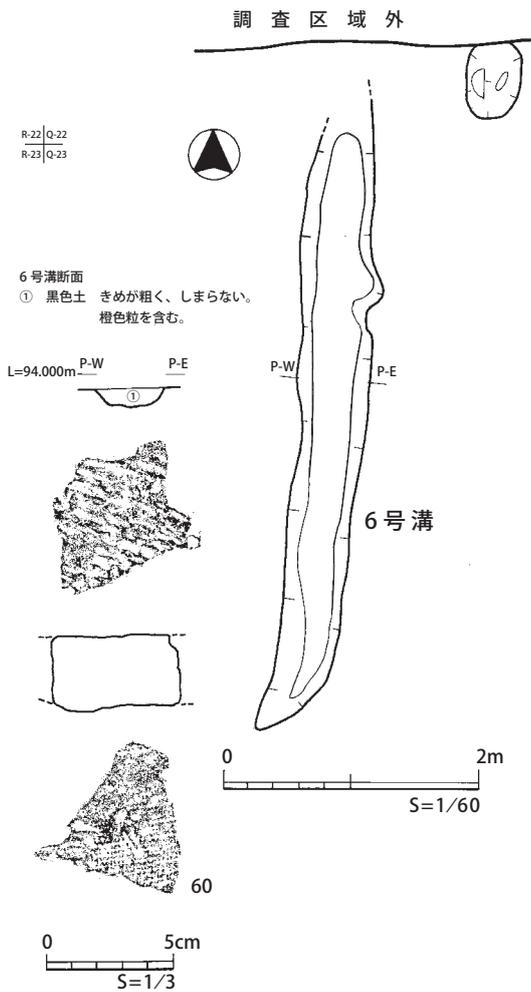
第36図 8号道路硬化面検出状況



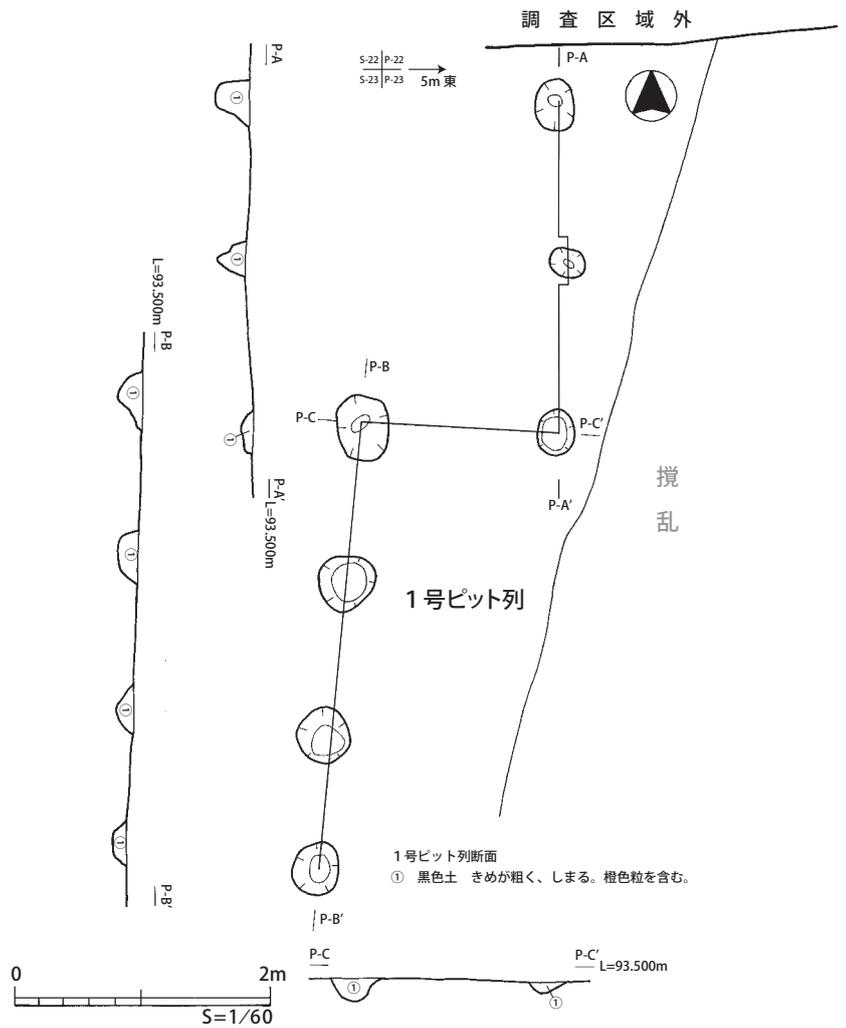
第37図 8号道路完掘状況



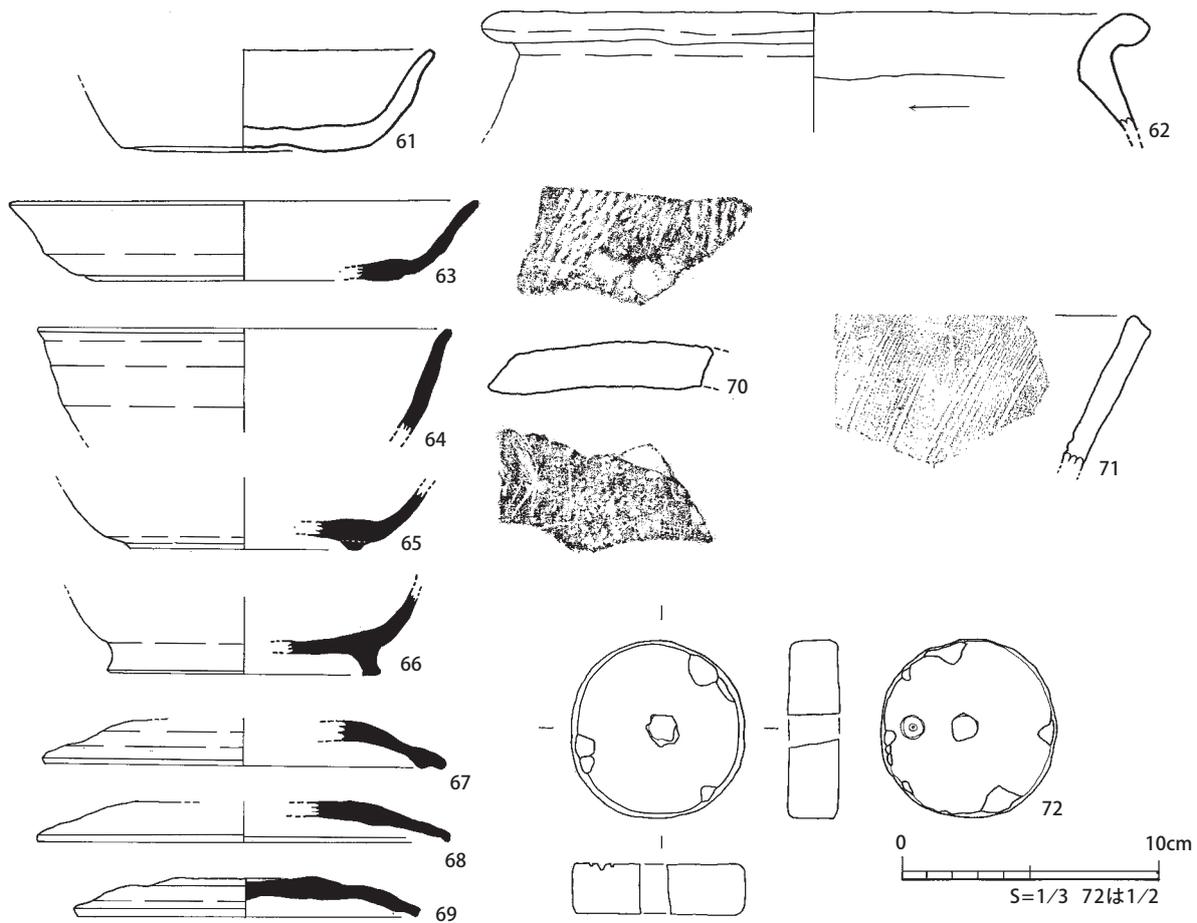
第38図 4・5号溝実測図



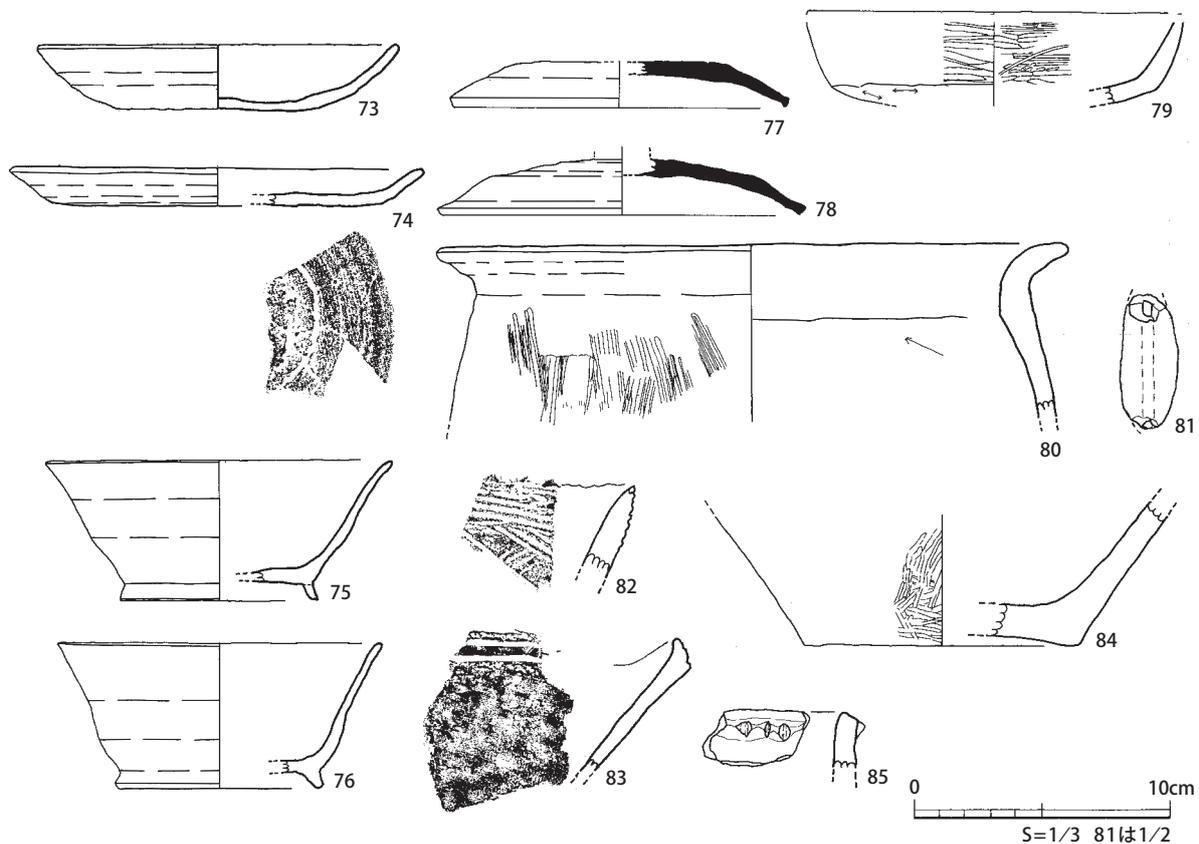
第39図 6号溝実測図  
6号溝出土遺物実測図



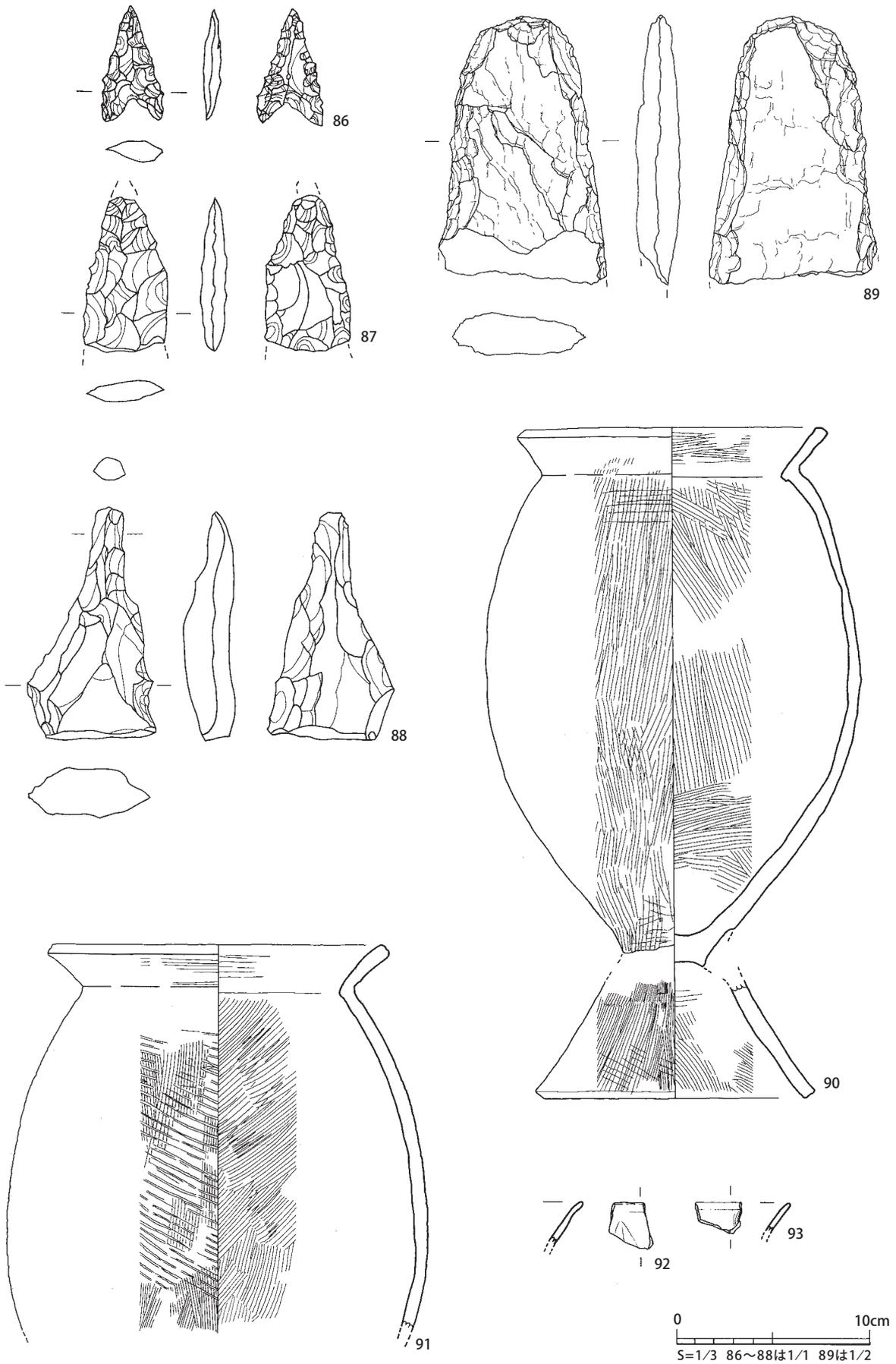
第40図 1号ピット列実測図



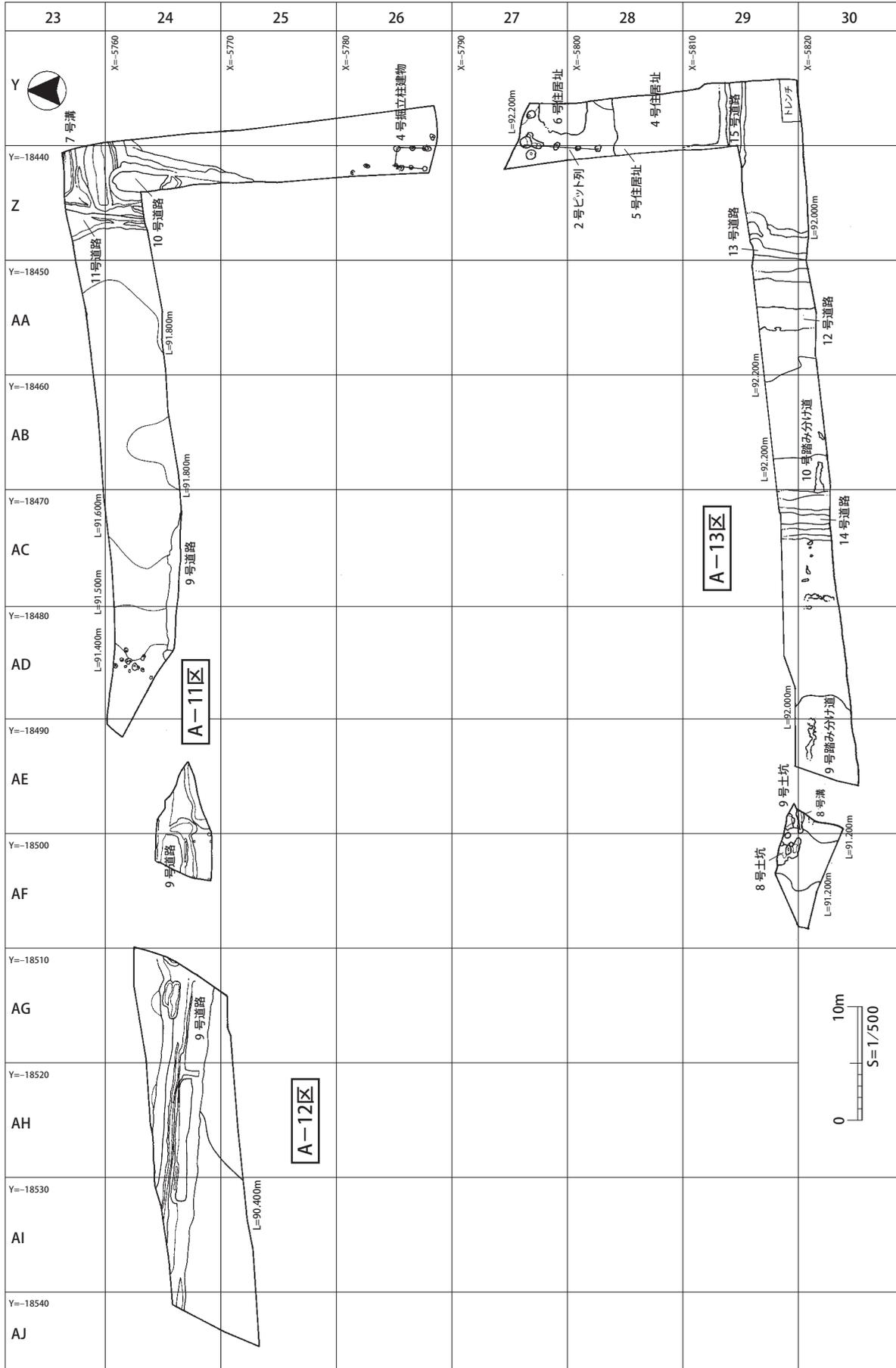
第41图 8号道路出土遺物実測図



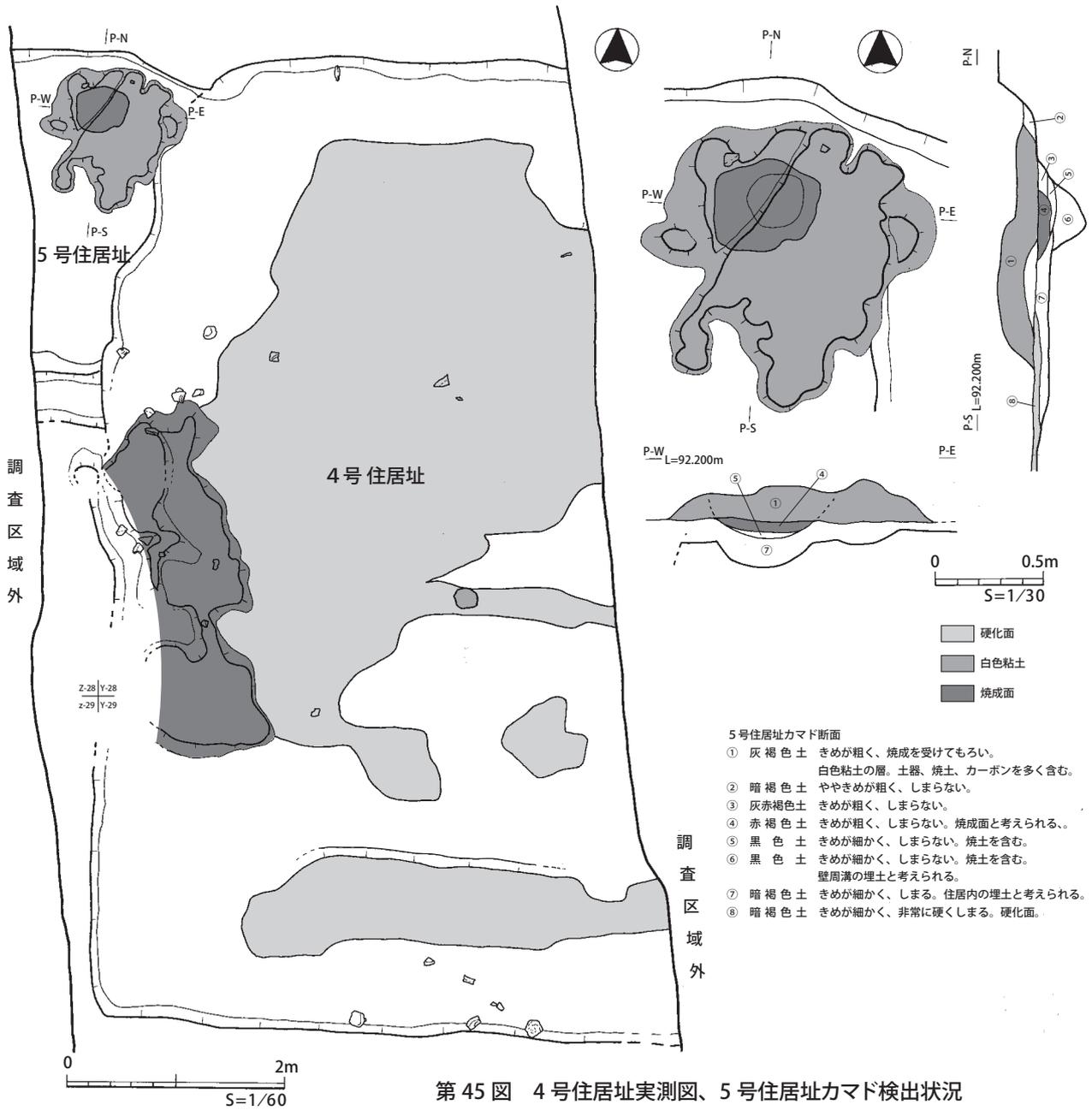
第42图 A-9-10区出土遺物実測図



第43図 A-9・10区出土遺物実測図



第44図 A-11・12・13区遺構配置図



## A-11・12・13区

### 調査の成果

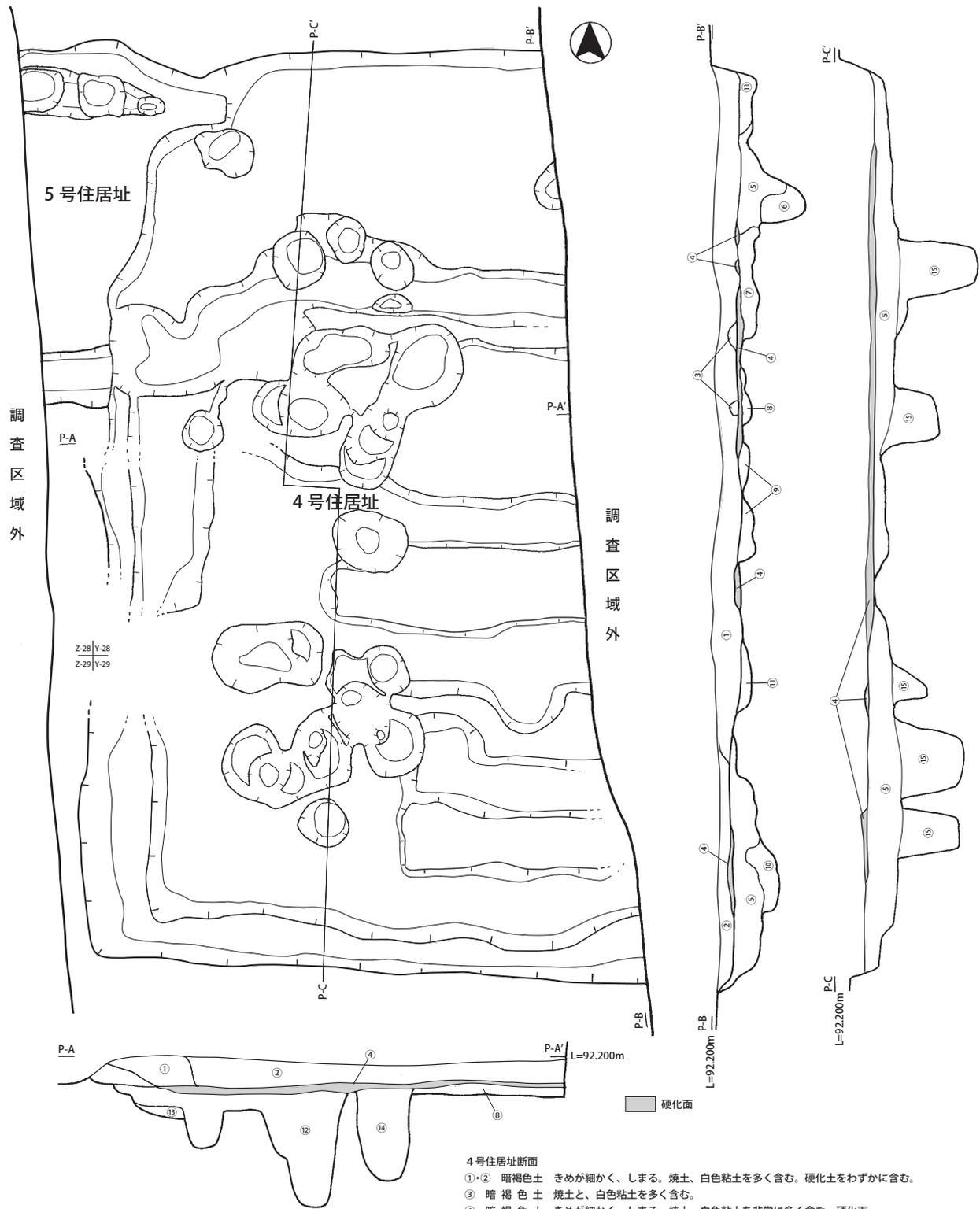
#### 【住居址】

##### 4号住居址【第45・46図】

南北に8.8mを測る。東側約1/3は調査区域外である。床面は全面で白色粘土が混ざった硬化面が検出された。西側中央壁にカマドを持つと推測されるが残存しておらず、焼土が確認され、周囲に土師器が多く出土した。硬化面除去後、南と西に壁周溝は検出されたが、北側では1.5m程度のテラスがみとめられるが、遺構として規模が大きいことからこの部分については異なる遺構であり、2軒が切り合っている可能性もある。その場合、南北幅は7.0m程度と考えられる。

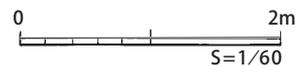
##### 5号住居址【第45・46図】

北西端にカマドが残存するが、遺構のプランは明瞭ではない。カマドの南側に東西方向の溝が検出されたが、壁

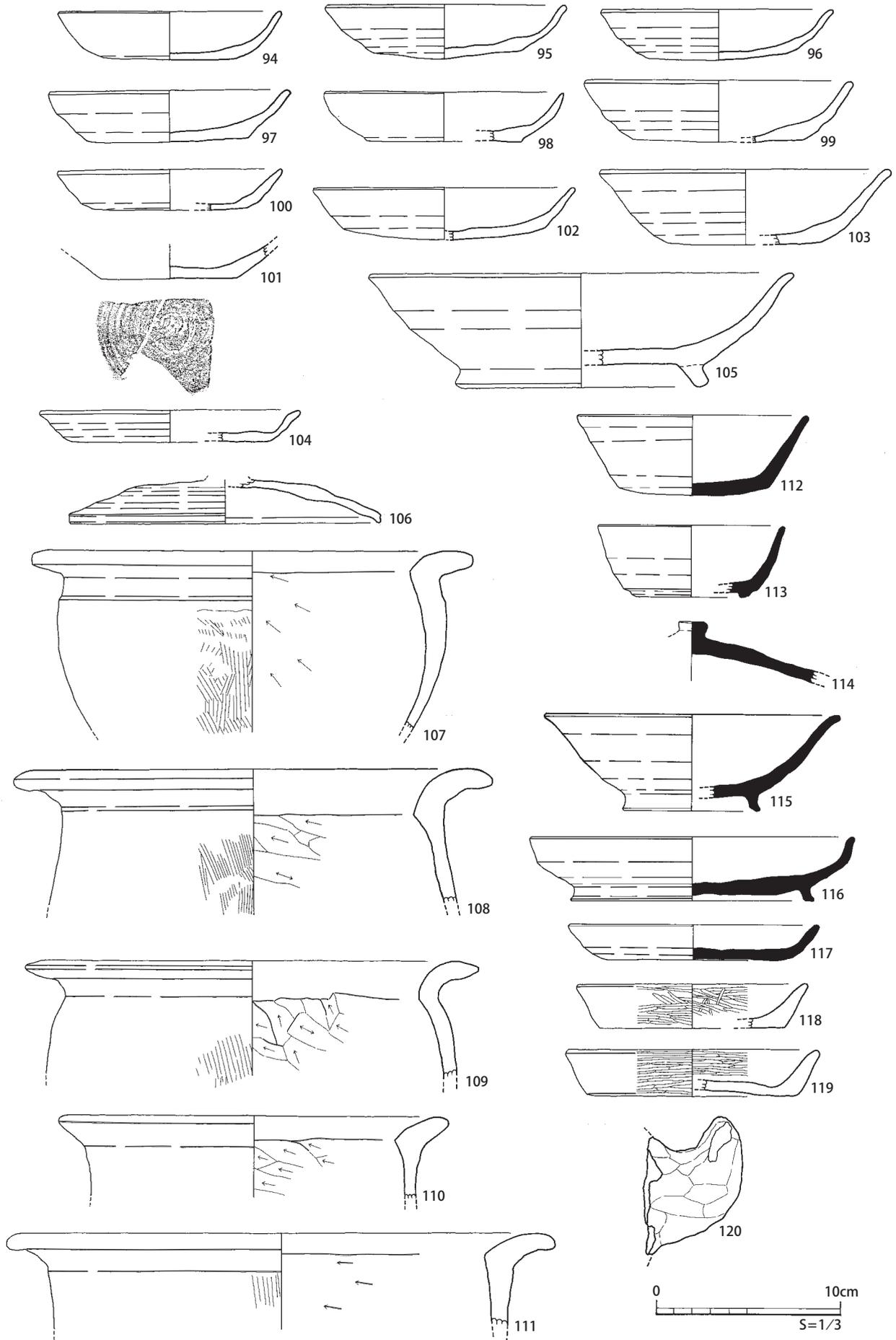


4号住居址断面

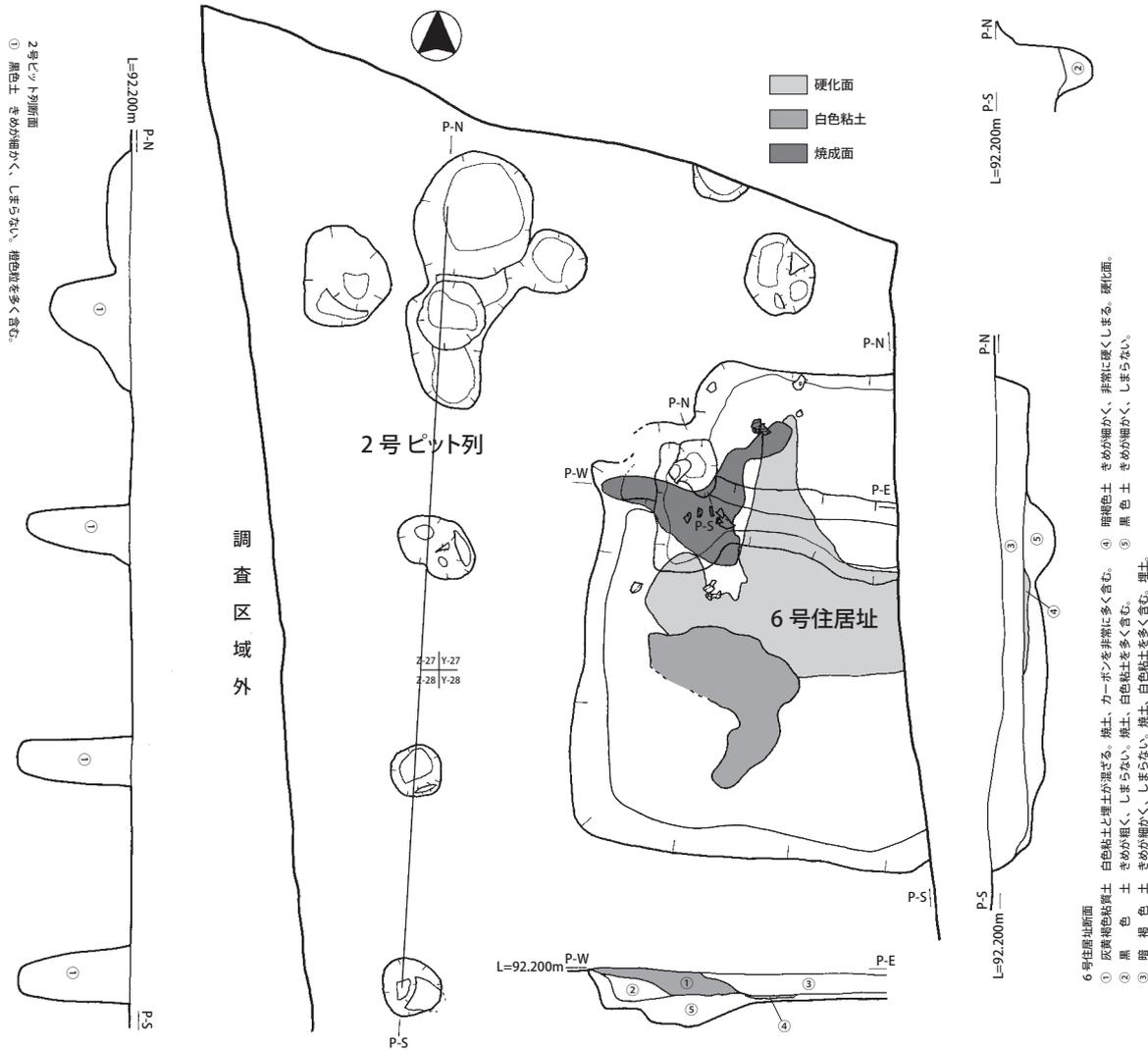
- ①・② 暗褐色土 きめが細かく、しまる。焼土、白色粘土を多く含む。硬化土をわずかに含む。
- ③ 暗褐色土 焼土と、白色粘土を多く含む。
- ④ 暗褐色土 きめが細かく、しまる。焼土、白色粘土を非常に多く含む。硬化面。
- ⑤ 暗褐色土 焼土、白色粘土を非常に多く含む。
- ⑥ 暗褐色土 きめが粗く、しまらない。焼土、白色粘土を非常に多く含む。
- ⑦ 暗褐色土 焼土、白色粘土を非常に多く含む。
- ⑧ 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。焼土、白色粘土を多く含む。
- ⑨・⑩ 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。焼土、白色粘土を少量含む。
- ⑪ 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。焼土、白色粘土を少量含む。
- ⑫ 暗褐色土 ややきめが粗く、ややしまる。焼土、白色粘土を多く含む。
- ⑬ 暗褐色土 ややきめが粗く、ややしまる。焼土、白色粘土を含む。
- ⑭ 暗褐色土 ややきめが粗く、ややしまらない。焼土、白色粘土を含む。
- ⑮ 暗褐色土 きめが粗く、しまらない。焼土、白色粘土を多く含む。



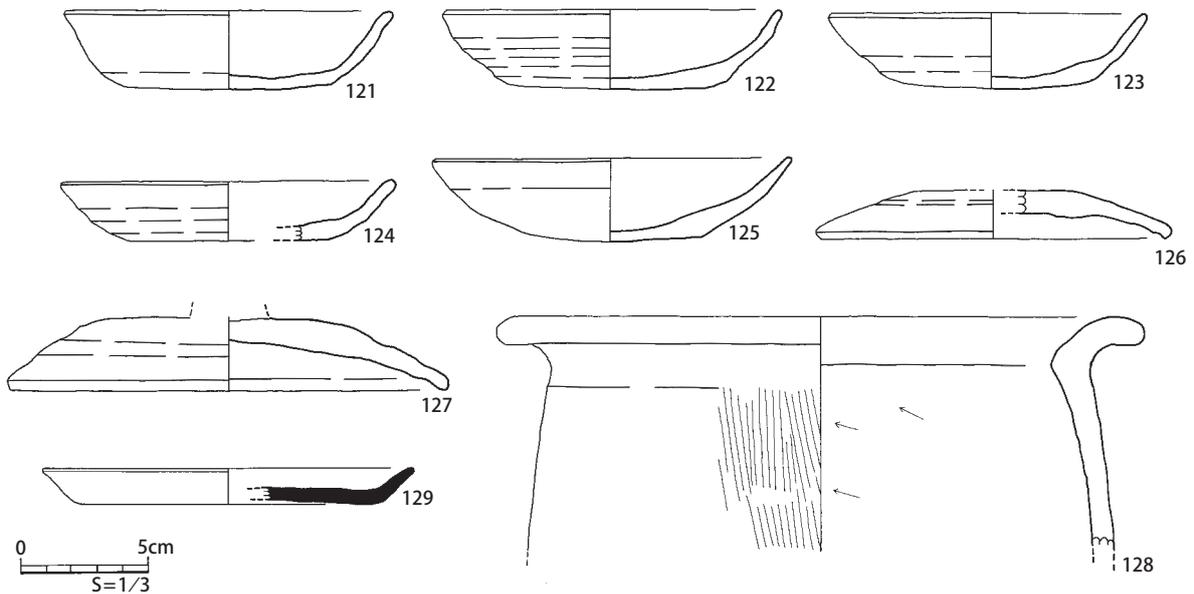
第46図 4・5号住居址完掘状況



第47図 4号住居址出土遺物実測図



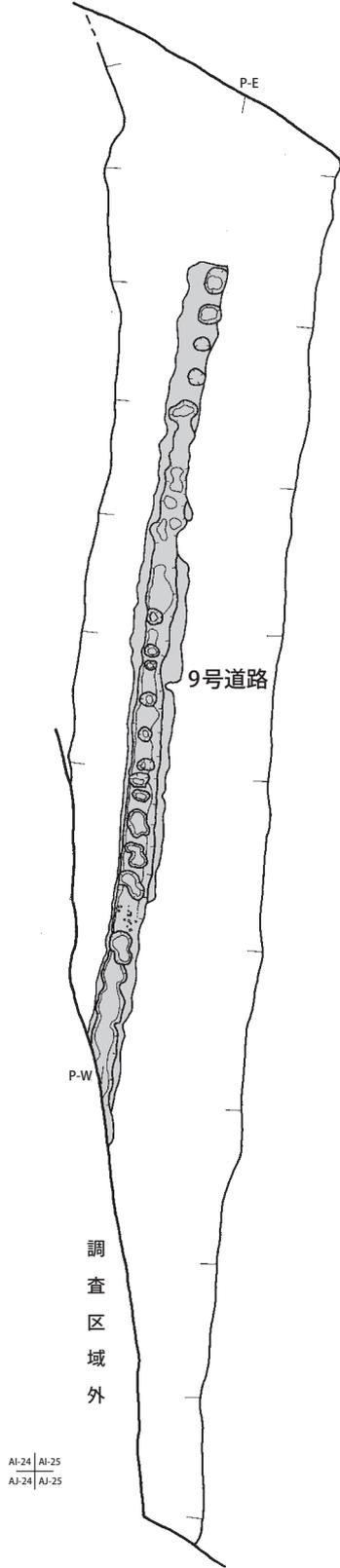
第48図 6号住居址、2号ピット列実測図



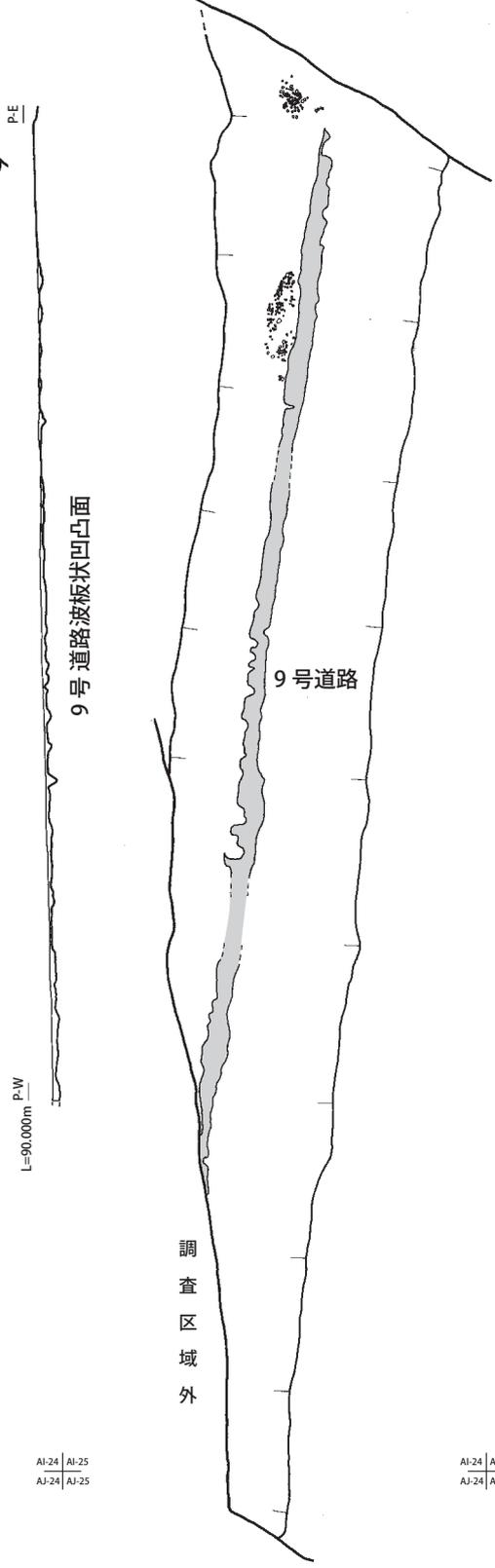
第49図 6号住居址出土遺物実測図



第50図 9号道路硬化面検出状況



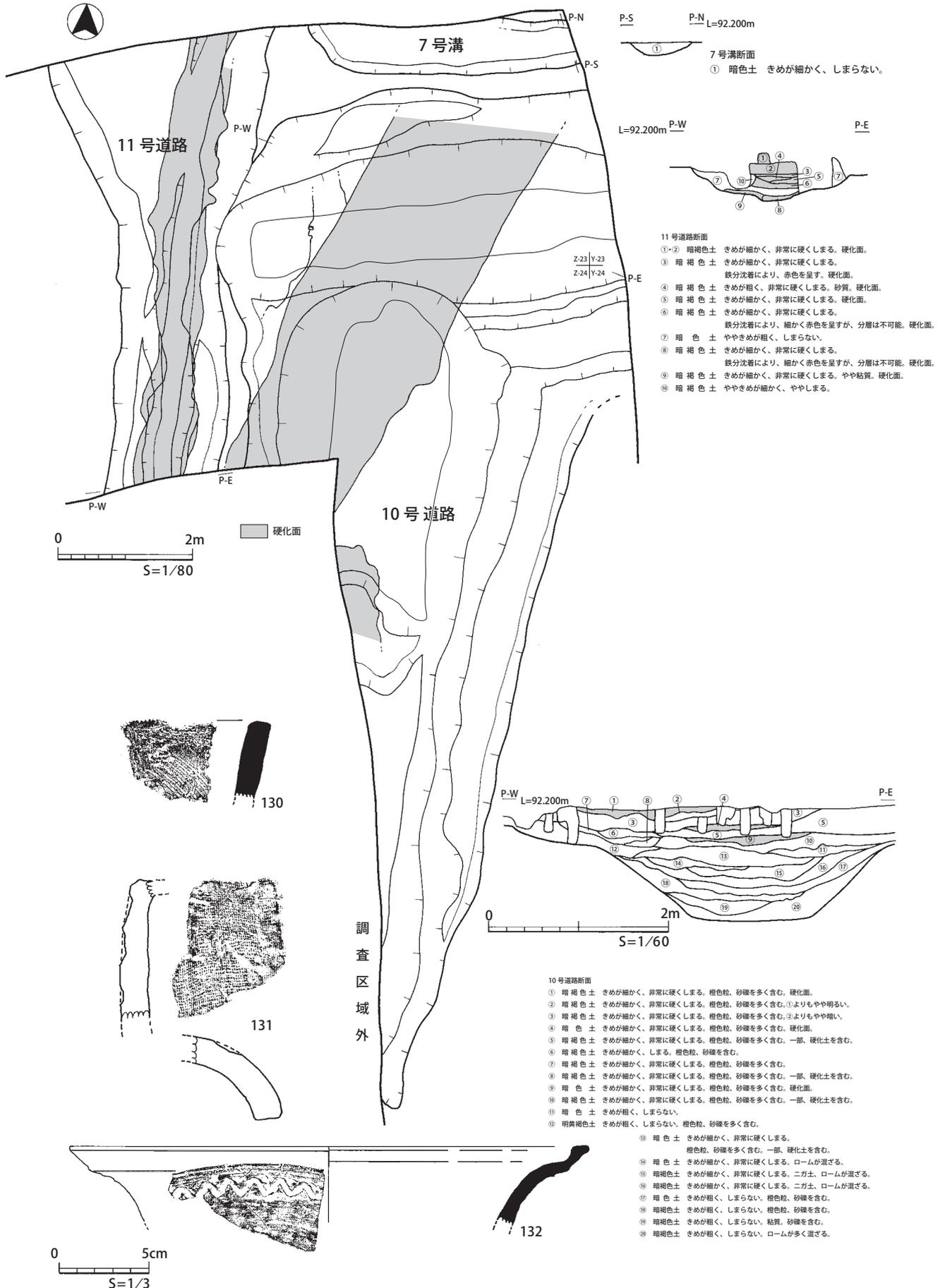
第51図 9号道路波板状凹凸面検出状況



第52図 9号道路波板状凹凸面下硬化面検出状況







第55図 10・11号道路、7号溝実測図、10号道路出土遺物実測図

周溝だとしたら南北に3.5m程度の規模であり、住居に伴うものかどうかは判断できなかった。

#### 6号住居址【第48・49図】

南北に4.0mを測る。西側約1/3は調査区域外である。床面は中央部が硬化し、西側中央壁のカマドははっきりと残存していないが、焼土と白色粘土が確認される。硬化面除去後、明確な壁周溝はみつめられなかった。

#### 【道路】

#### 9号道路【第50～54図】

西北西⇨東南東方向に延びる。残長70m、幅8.0m、底部幅0.8～3.2m、深さ0.9mを測る。A-11、12区にまたいで残存する。比較的残存状態のよいA-12区側では幅0.6～1.2m程度の硬化面が複数検出され、さらに礫の集中、波板状凹凸面が検出された。規模の大きい溝を道路として使ったものと考えられる。

#### 10号道路【第55図】

北北東⇨南南西方向に延びる。幅7.0m、底部幅1.4mを測る。遺構検出段階で、北東⇨南西方向に幅2.2mの硬化面が検出され、除去後、北北東⇨南南西方向の深さ0.9mの溝が検出された。そのため、方向が近い2条の道路が重なり合っているのではないかと思われた。完掘した段階で、東西方向の深掘りの溝が確認されたことから、道路が東へ延びる可能性があり、丁字状に道路が交差している箇所である可能性がある。しかし東西方向への硬化面は確認できなかったため、ここでは可能性だけあげておく。13号溝と同一か？

#### 11号道路【第55図】

北北東⇨南南西方向に延びる。残長5.2m、検出面幅1.3～2.5m、底部幅0.2～1.8mを測る。北側で拡張をしている。複数の硬化面が検出された。10号道路に隣接することから、関連する遺構の可能性はある。

#### 12号道路【第56図】

南北方向に延びる。残長3.2m、検出面幅1.8m、厚さ0.1mを測る。硬化面のみの検出。

#### 13号道路【第56図】

南北方向に延びる。残長3.6m、検出面幅3.0m、底部幅1.0m、深さ1.3mを測る。10号溝と同一か？

#### 14号道路【第57図】

南北方向に延びる。残長4.2m、検出面幅4.2m、底部幅0.9m、深さ1.2mを測る。2段に形成された溝状の道路で、一部を断面逆台形に0.8m深掘りをして、底部は幅0.9mほどが硬化している。深掘り部分以外はテラス状を呈している。

#### 15号道路【第58図】

東西方向に延びる。残長7.4m、検出面幅1.5～1.8m、底部幅0.8～1.0m、深さ0.7mを測る。逆台形の断面で、複数の硬化面が検出された。

#### 【溝】

#### 7号溝【第55図】

東西方向に延び、検出面幅0.7mを測る。10号道路に隣接する。硬化面は検出されなかったが、道路に伴う遺構の可能性はある。

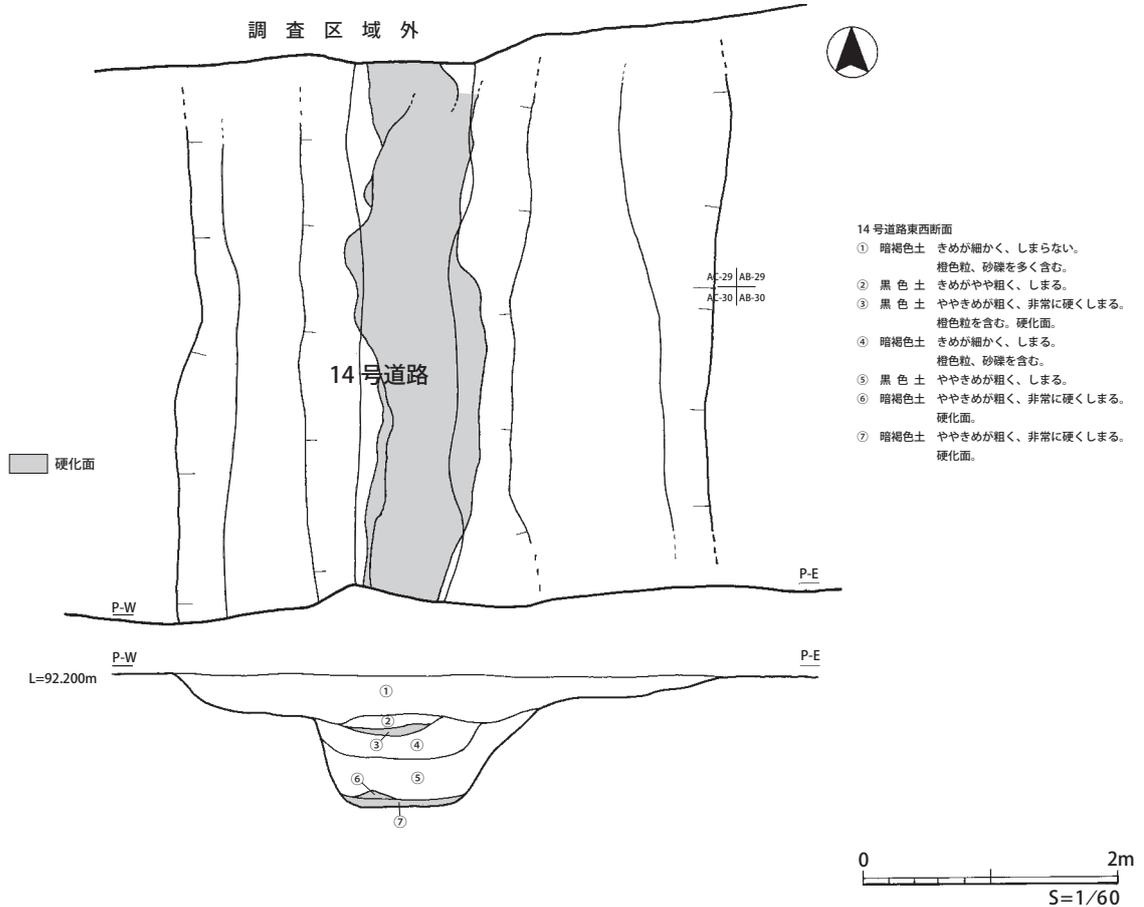
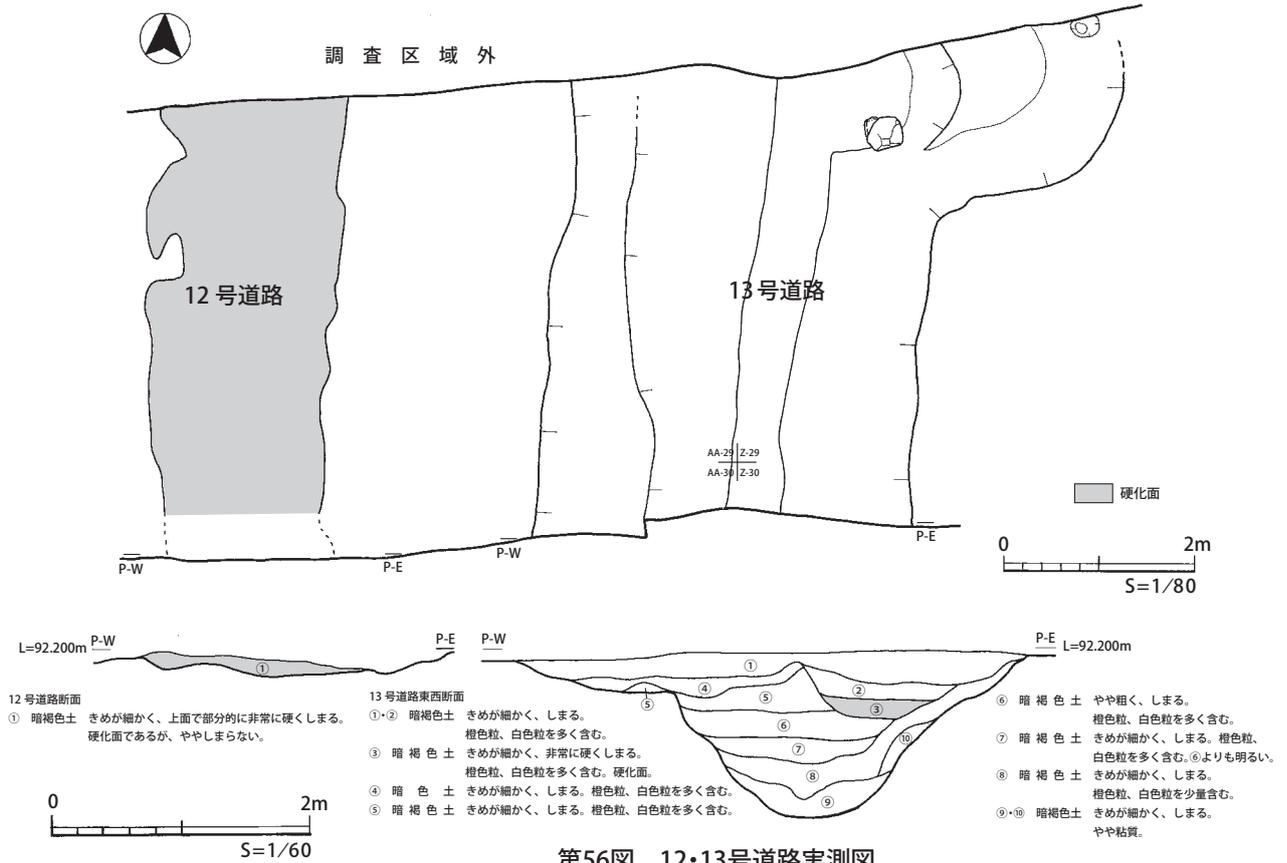
#### 8号溝【第60図】

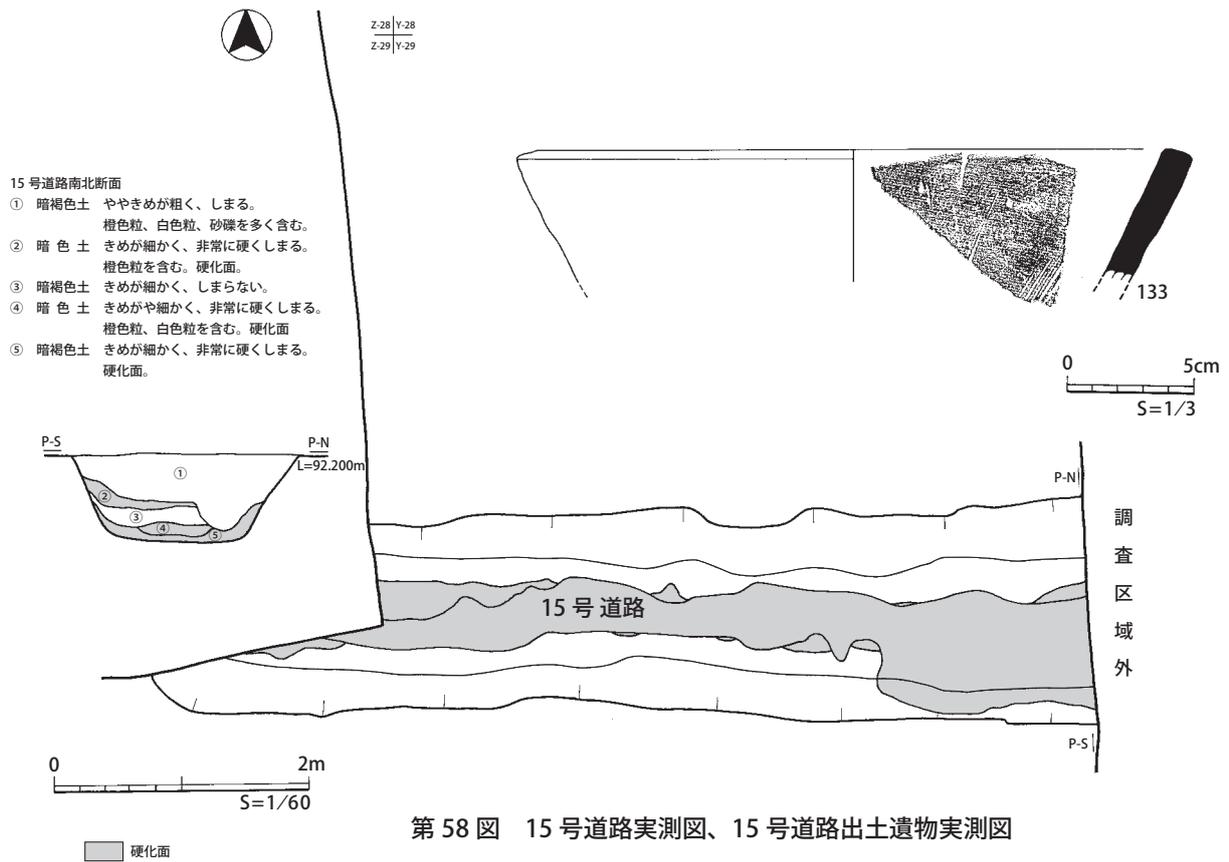
東西方向に延びる。残長2.3m、検出面幅0.4～7.0m、底部幅0.3m、深さ0.1mを測る。

#### 【掘立柱建物】

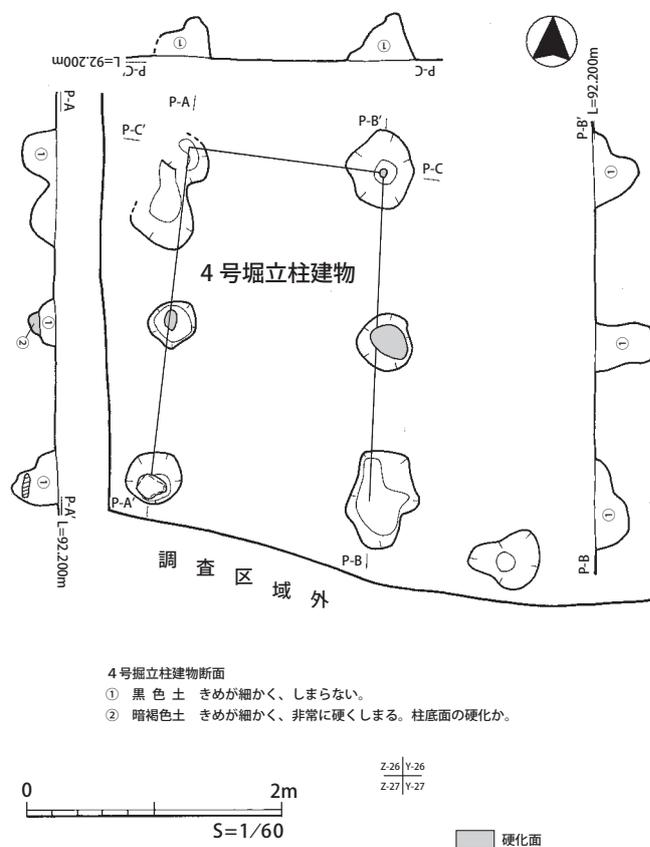
#### 4号掘立柱建物【第59図】

1間×2間の掘立柱が残存する。調査区最南端であるため、調査区域外に拡大する可能性もある。3基のピットに硬化面、1基のピットに礫が確認された。





第 58 図 15号道路実測図、15号道路出土遺物実測図



第 59 図 4号掘立柱建物実測図

【土坑】

8号土坑【第60図】

東西幅1.6m、深さ0.1mを測る。平面形状は不定形で、ごく浅い土坑。

9号土坑【第60図】

東西幅1.4m、深さ0.1mを測る。平面形状はいびつな円形。ごく浅い土坑。

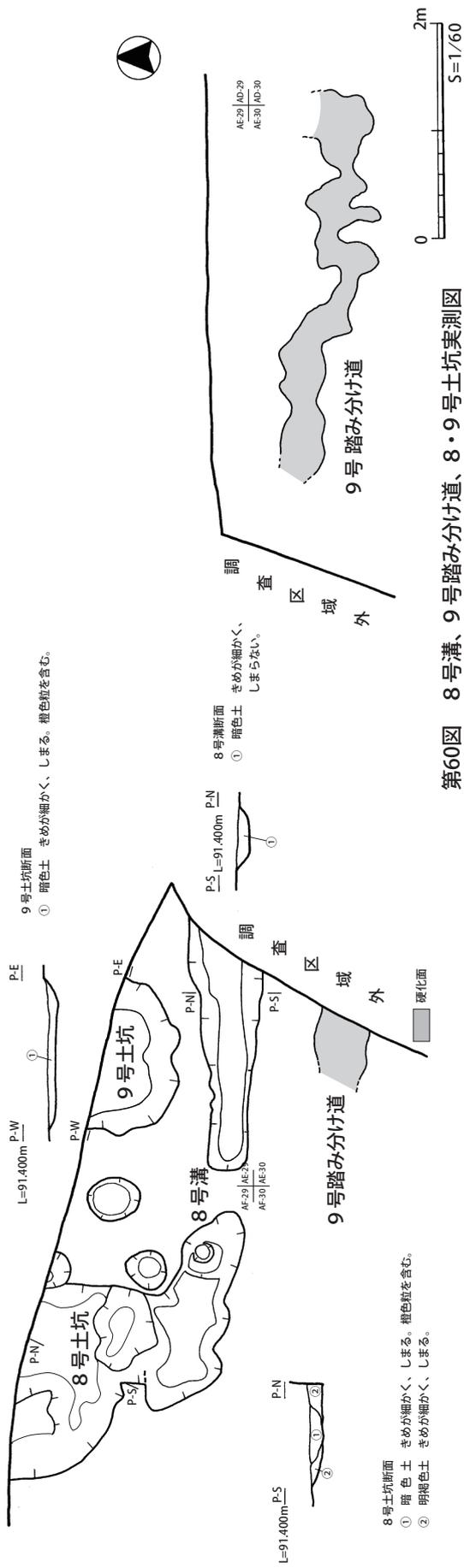
【踏み分け道】

9号踏み分け道【第60図】

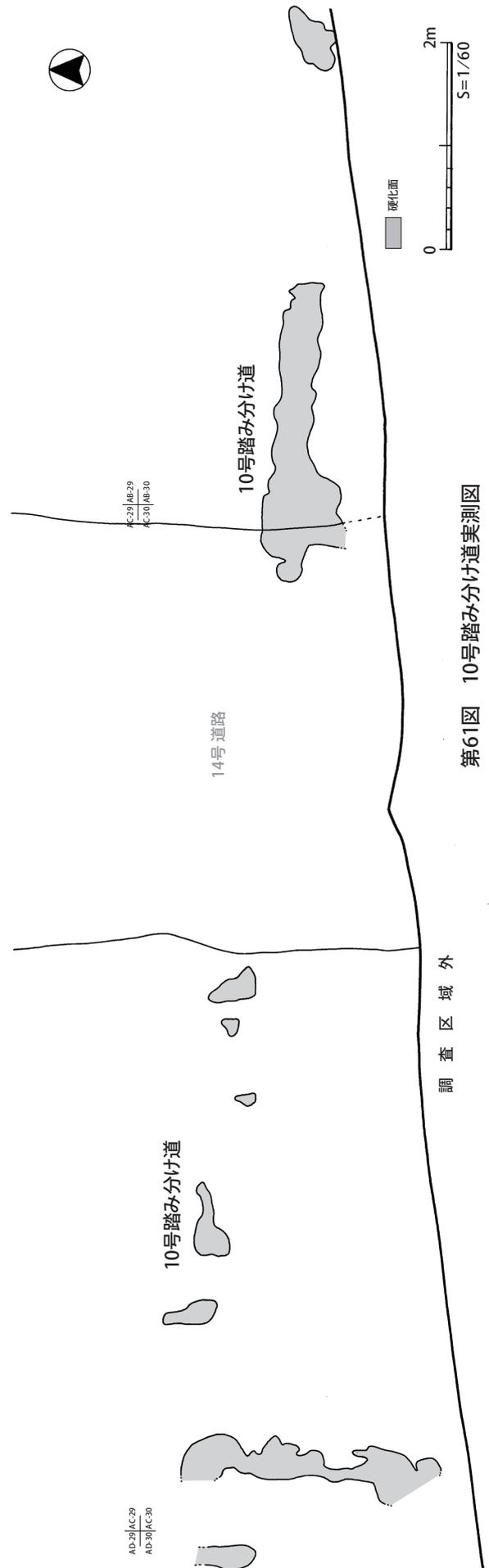
東西方向に延びる。残長は断続的に9.2m、幅0.3mを測る。

10号踏み分け道【第61図】

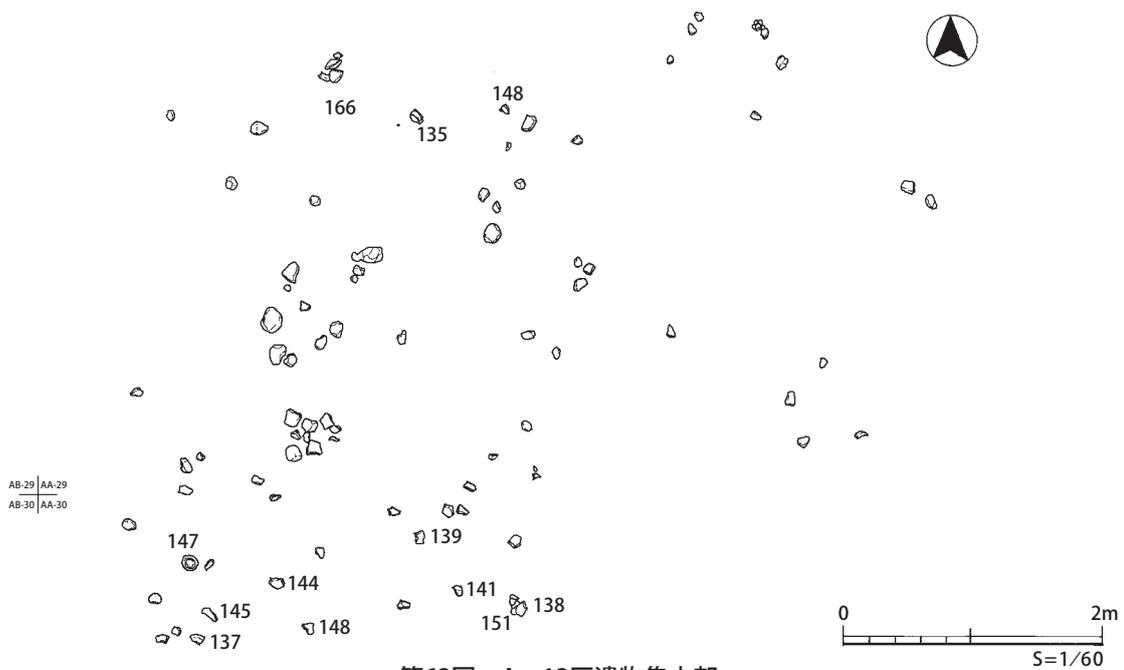
西北西⇄東南東方向に延びる。残長14.0m、幅0.3～0.6mの硬化面が断続的に延びる。西端で南南西方向に方向が変わるが、同一の遺構か否かは判断できない。



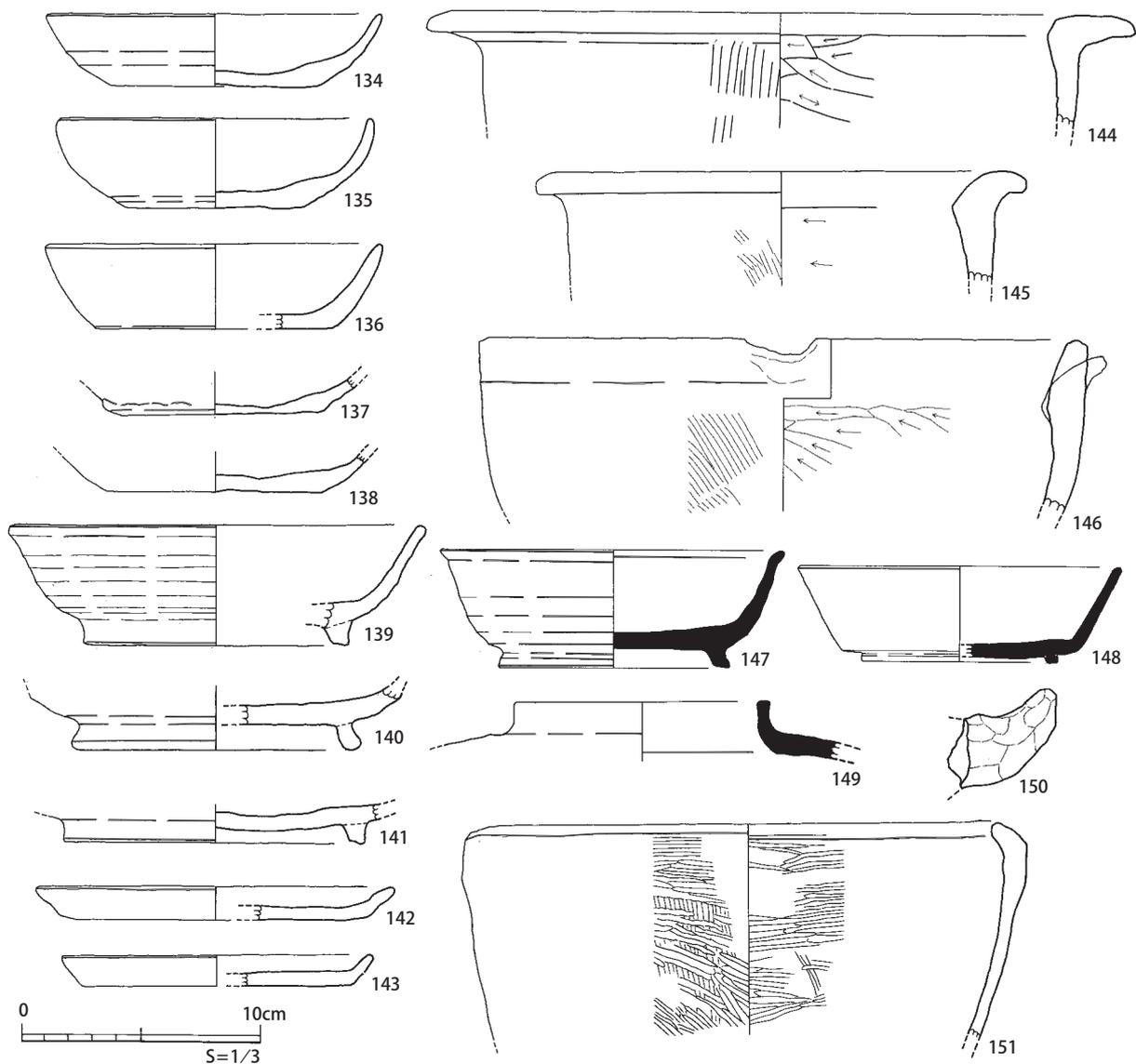
第60図 8号溝、9号踏み分け道、8・9号土坑実測図



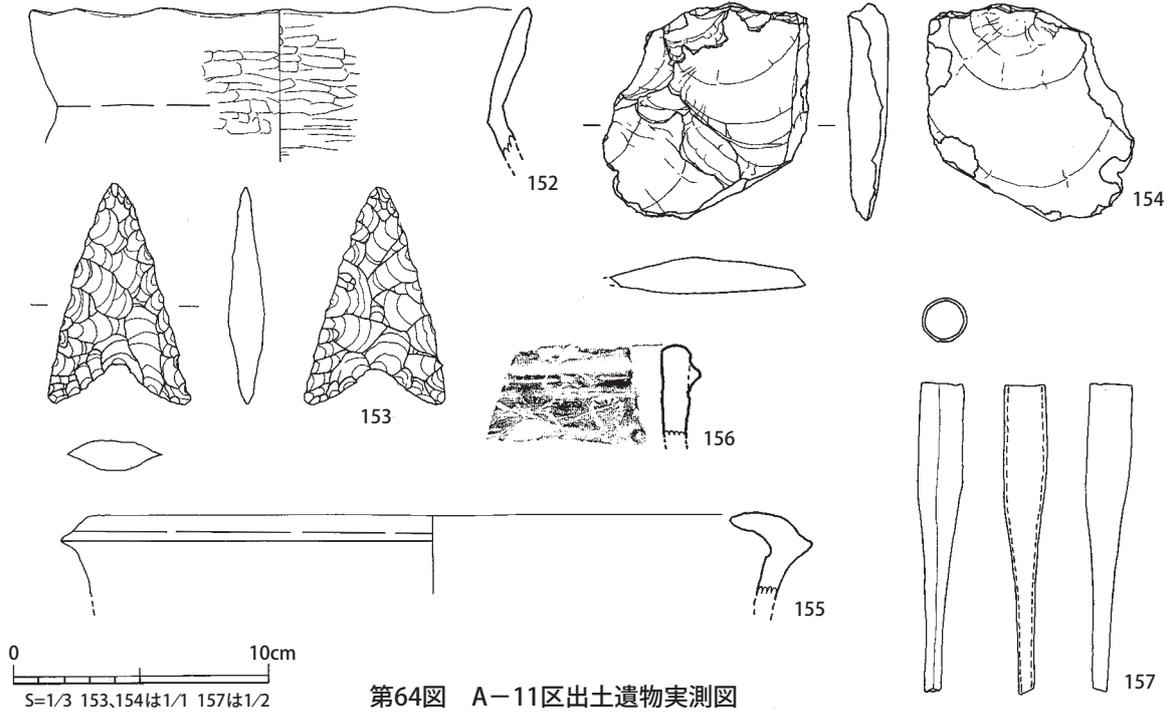
第61図 10号踏み分け道実測図



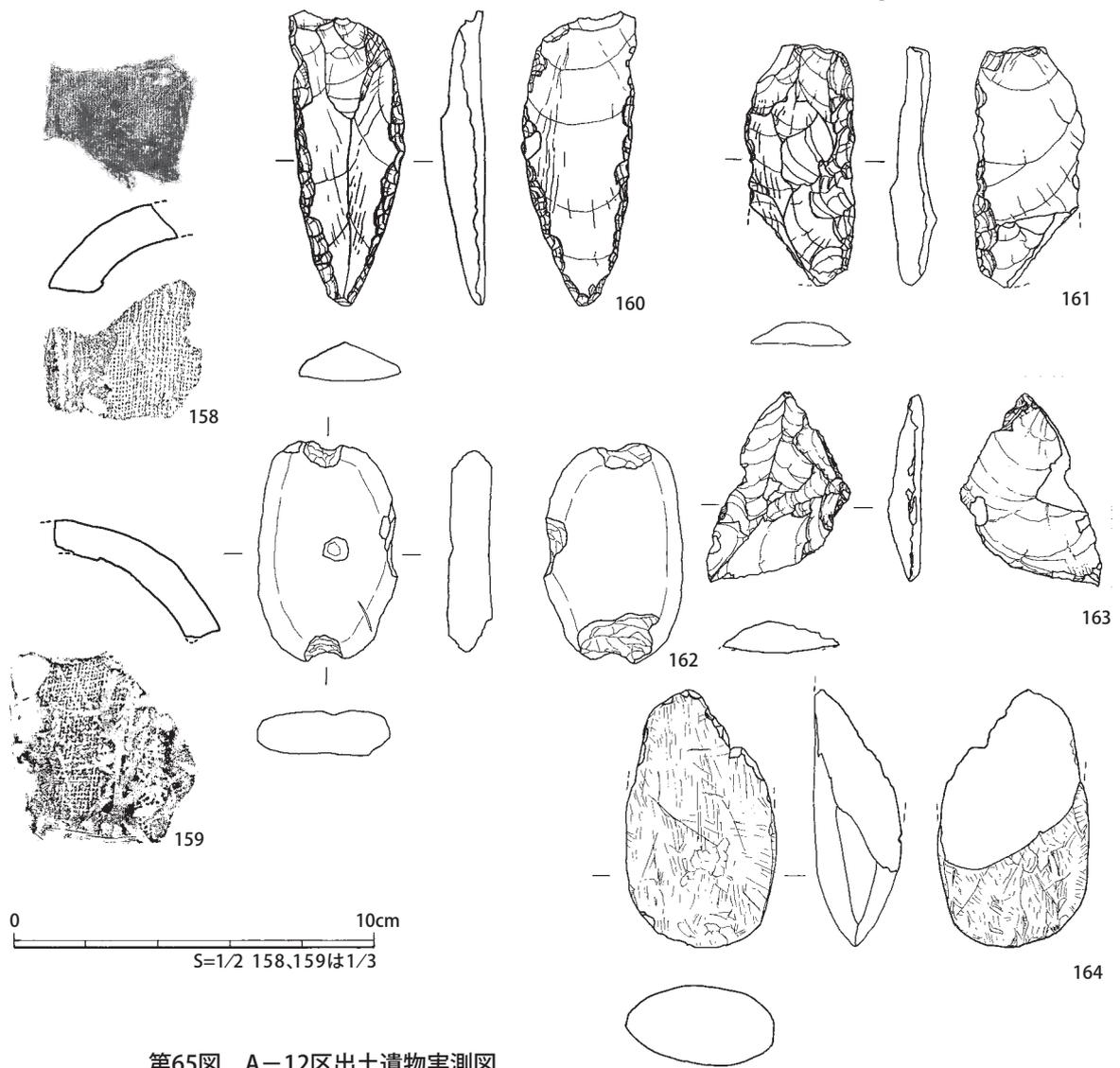
第62图 A-13区遺物集中部



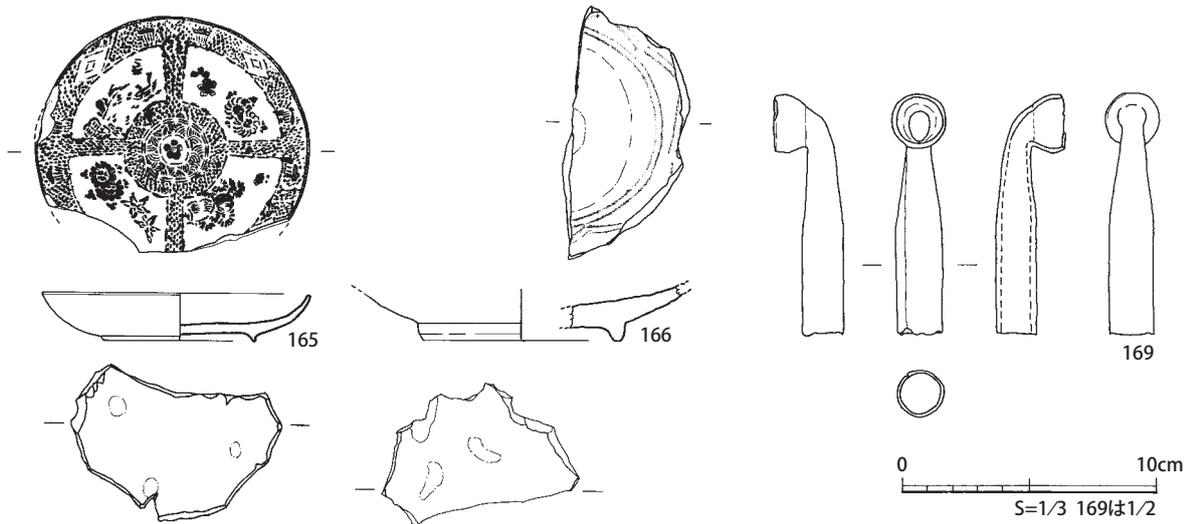
第63图 A-13区遺物集中部出土遺物



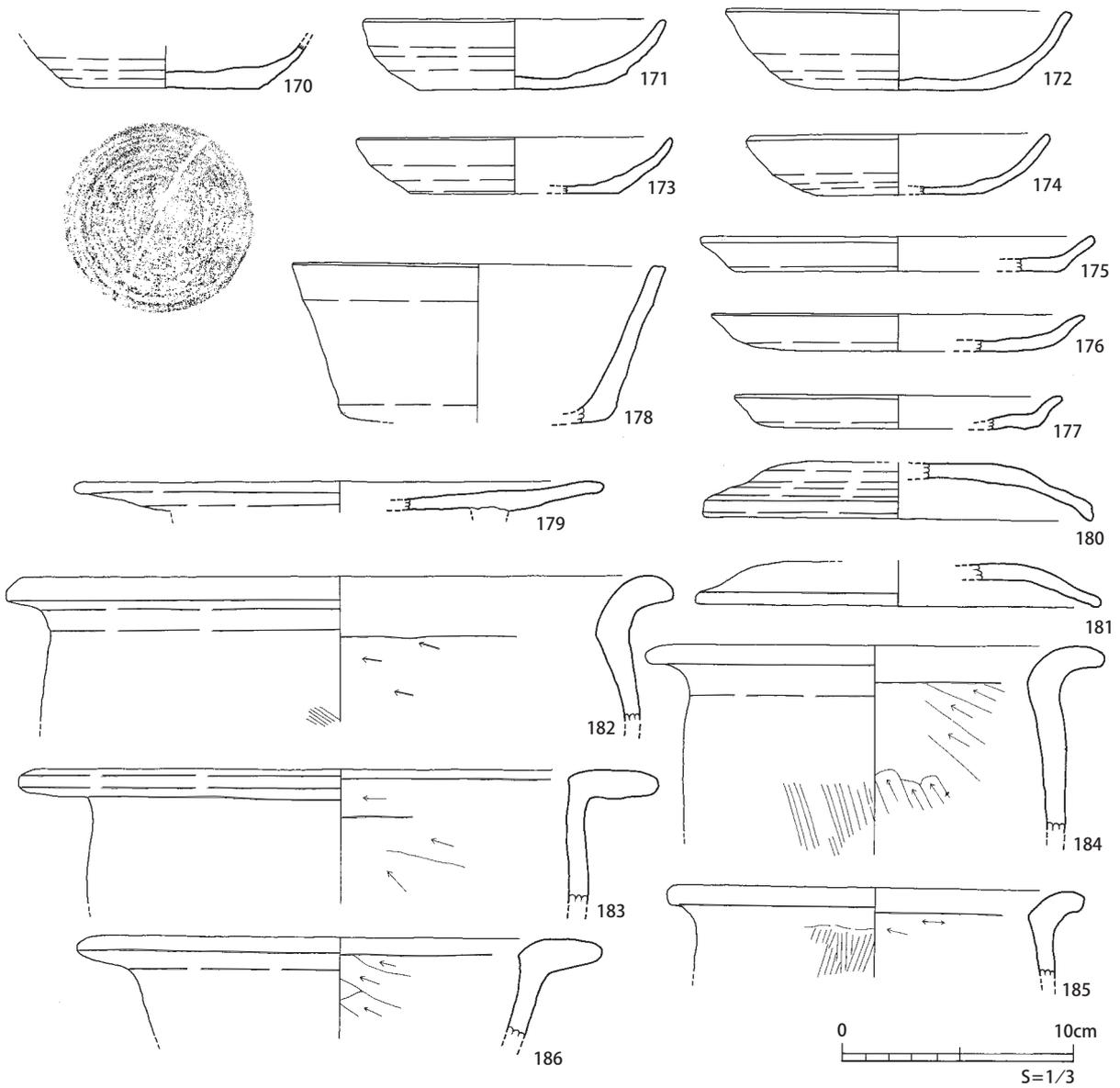
第64図 A-11区出土遺物実測図



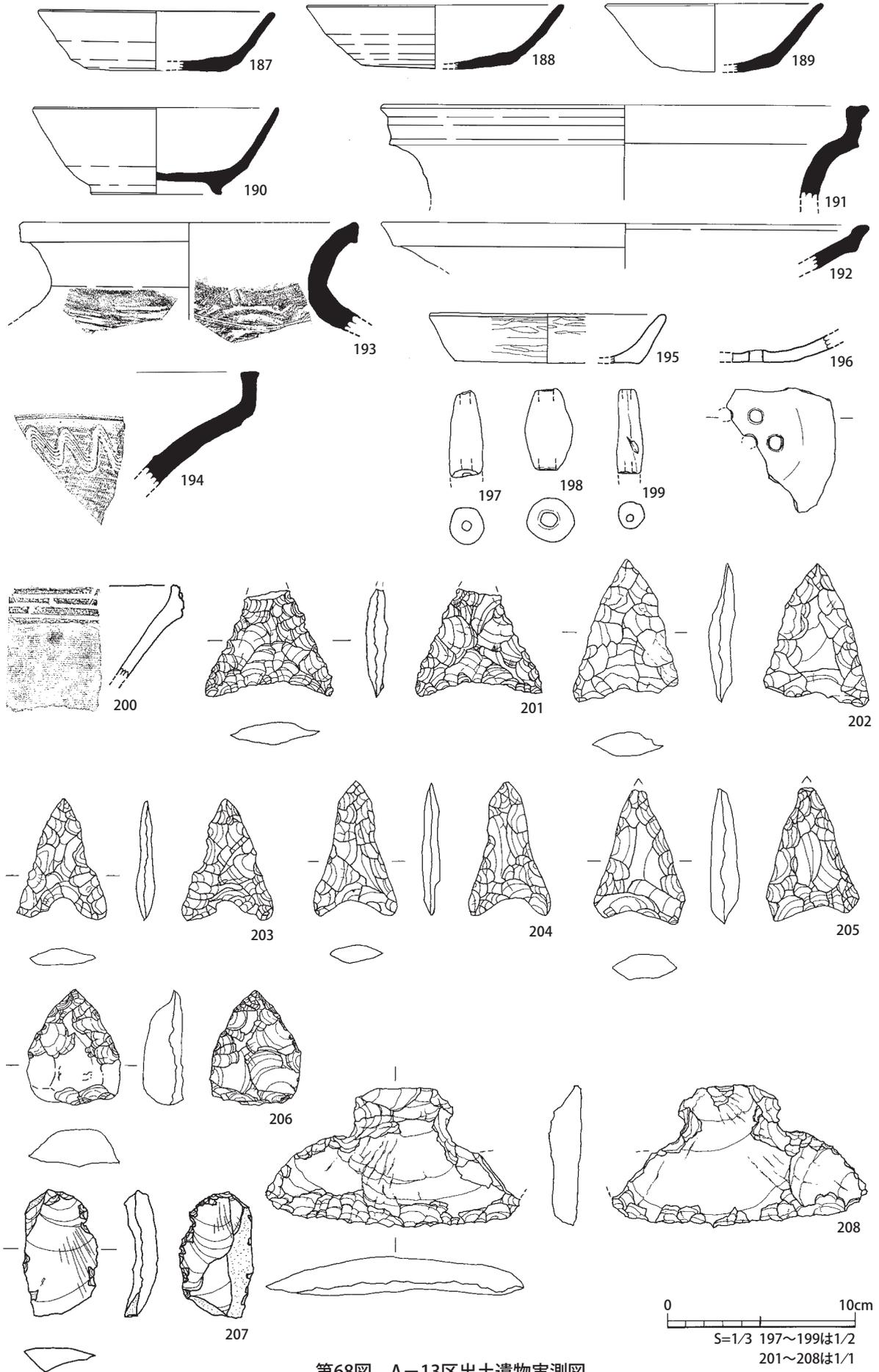
第65図 A-12区出土遺物実測図



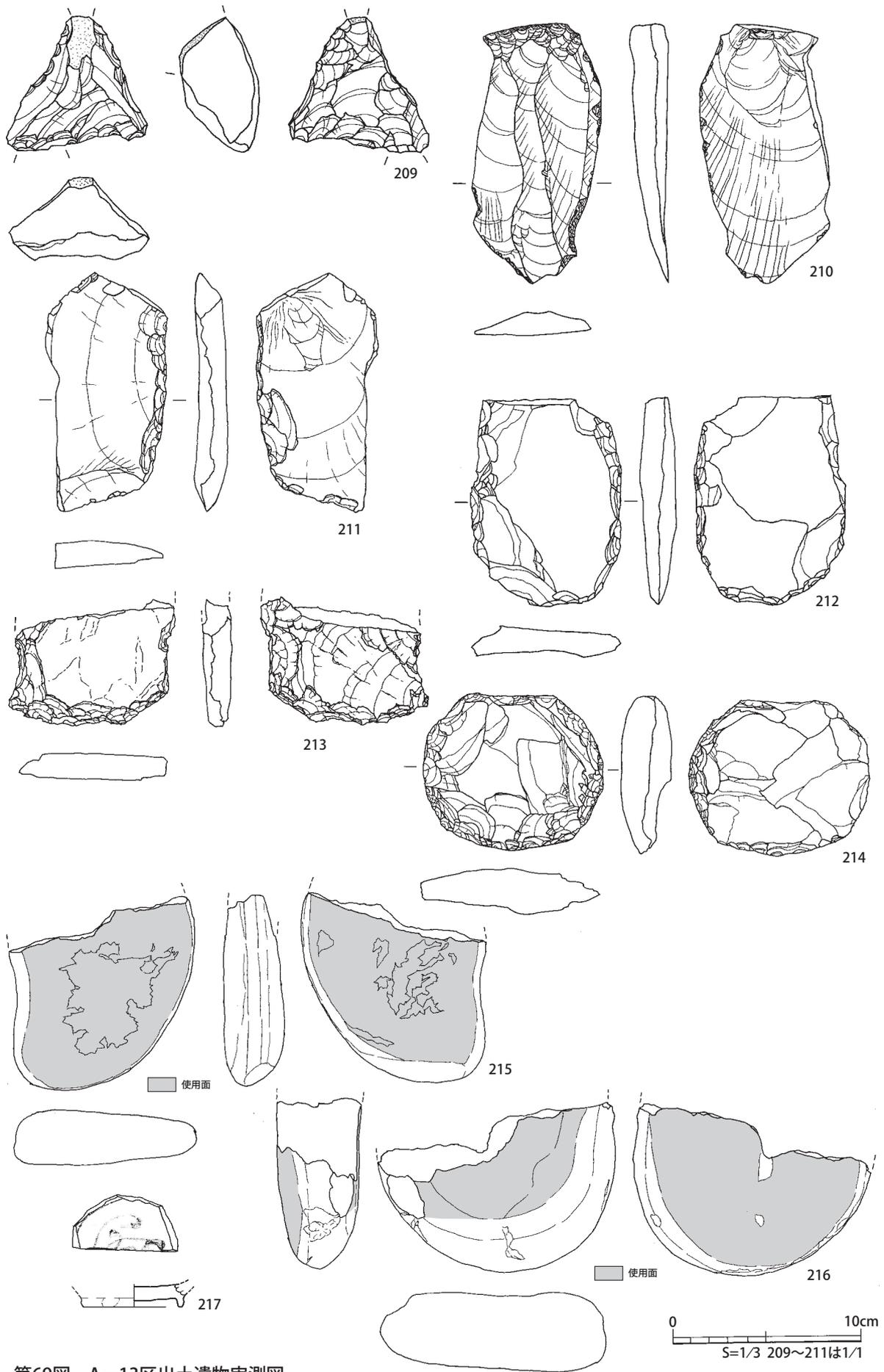
第66图 A-12区出土遺物実測図



第67图 A-13区出土遺物実測図

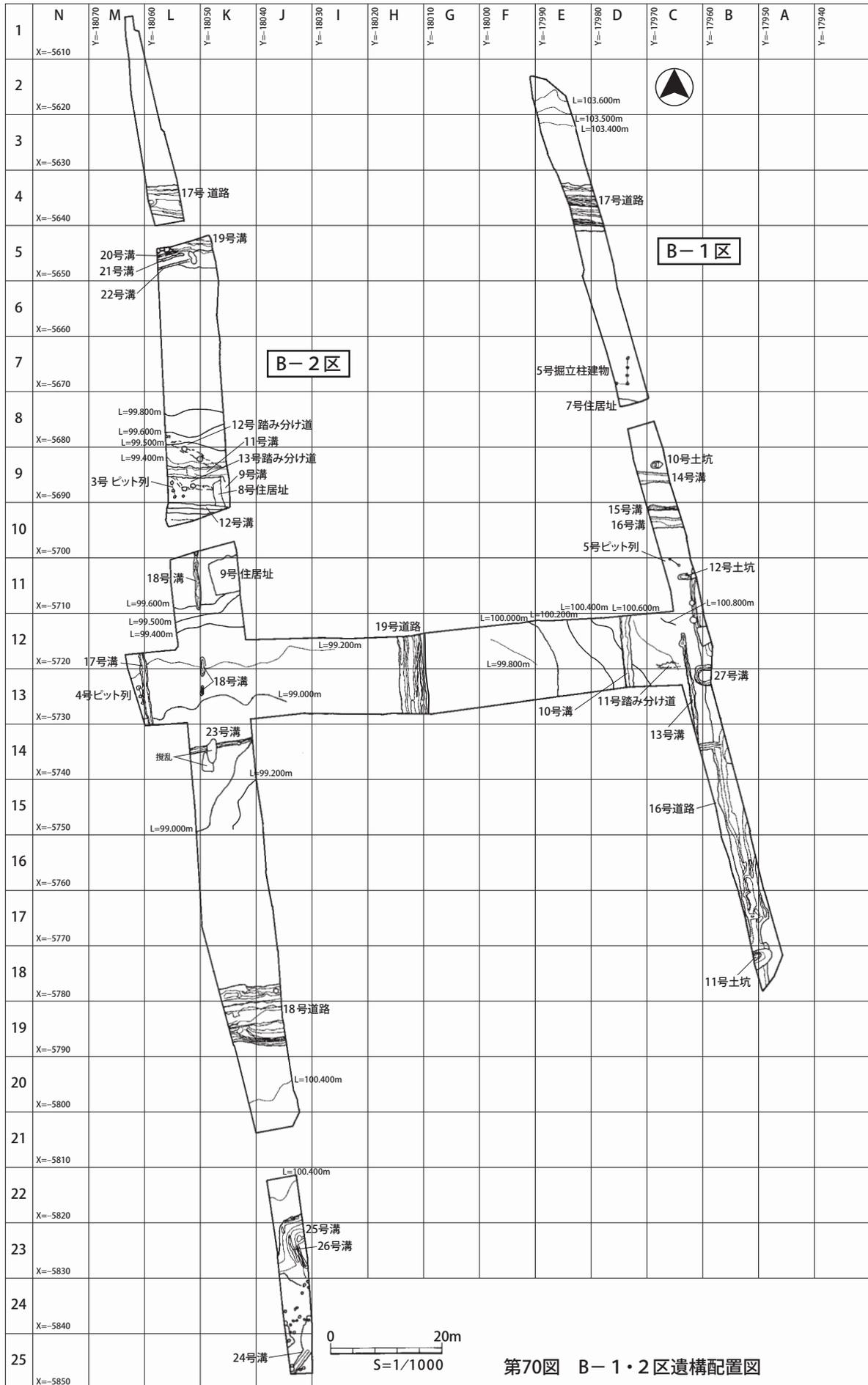


第68図 A-13区出土遺物実測図

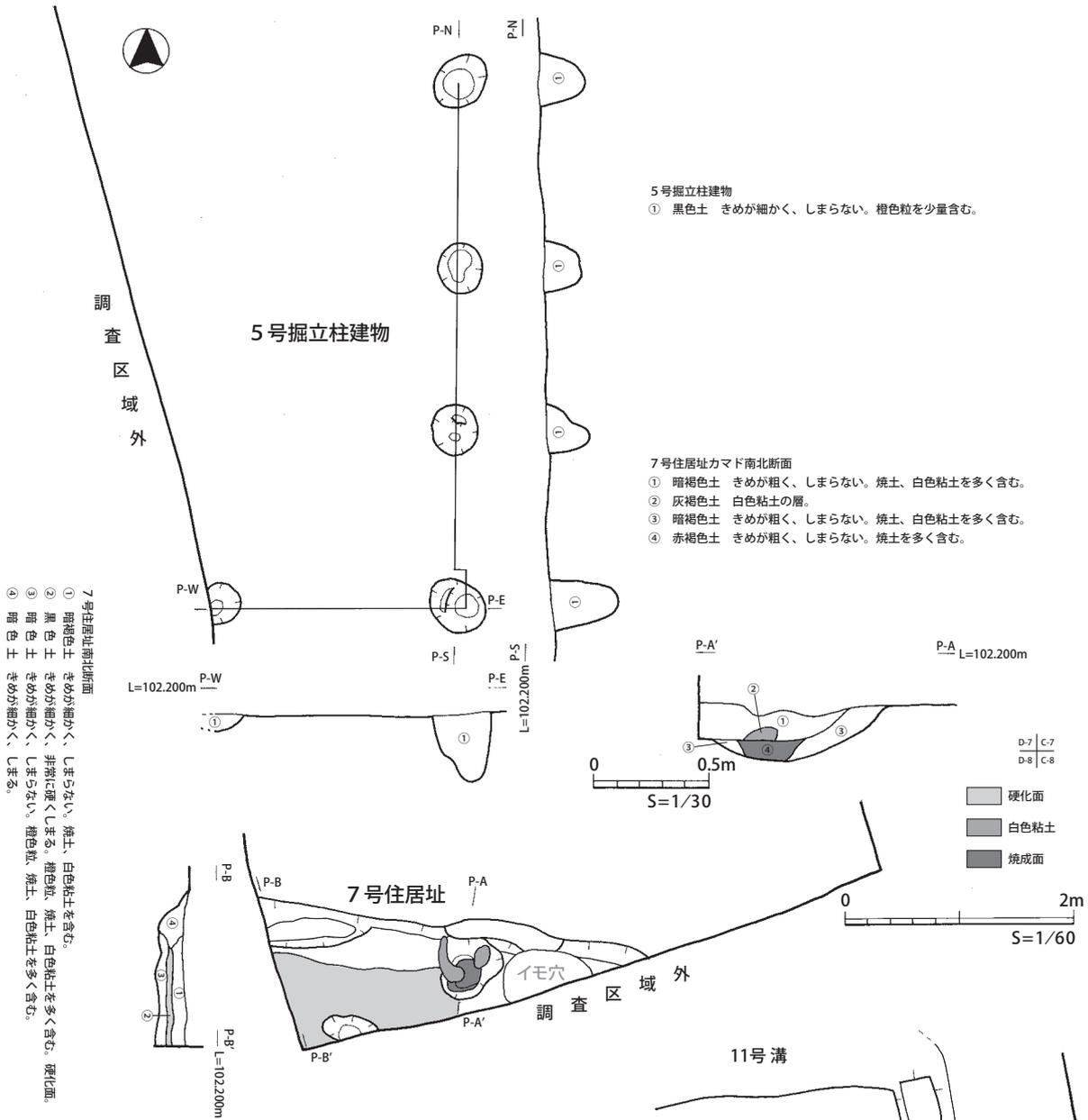


第69图 A-13区出土遺物実測図

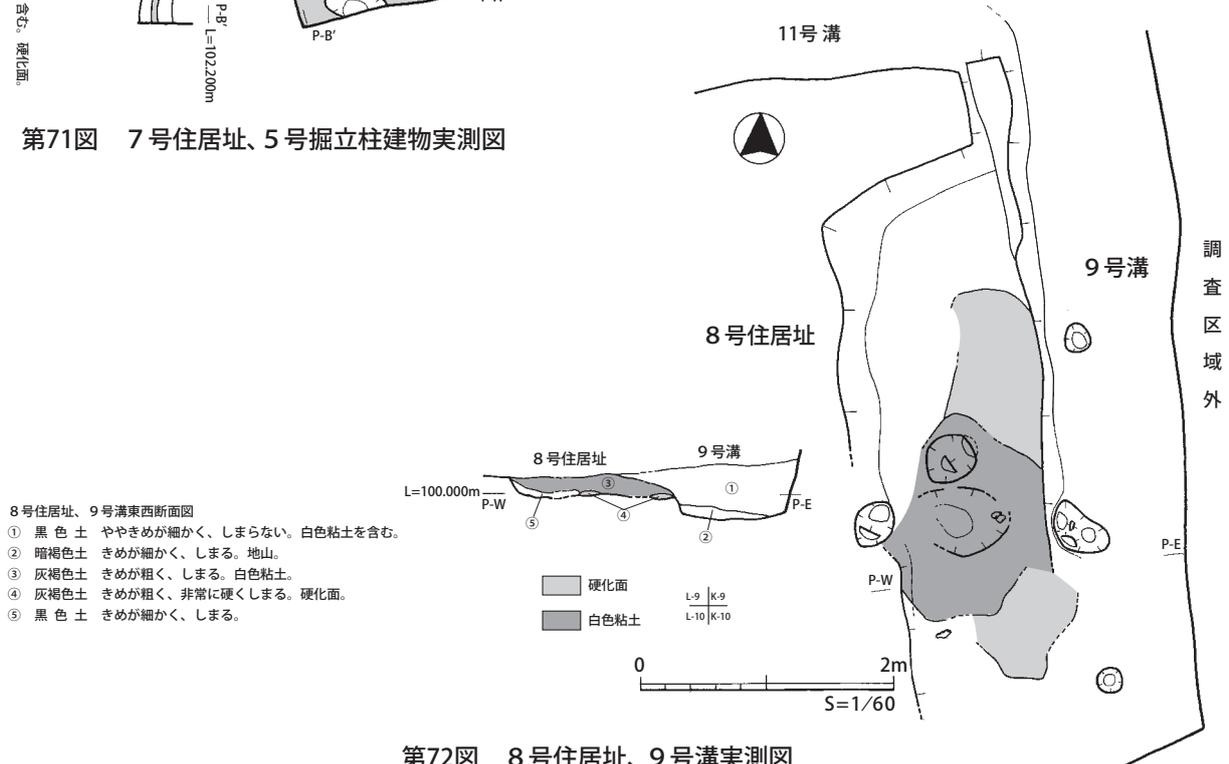
# B-1・2区



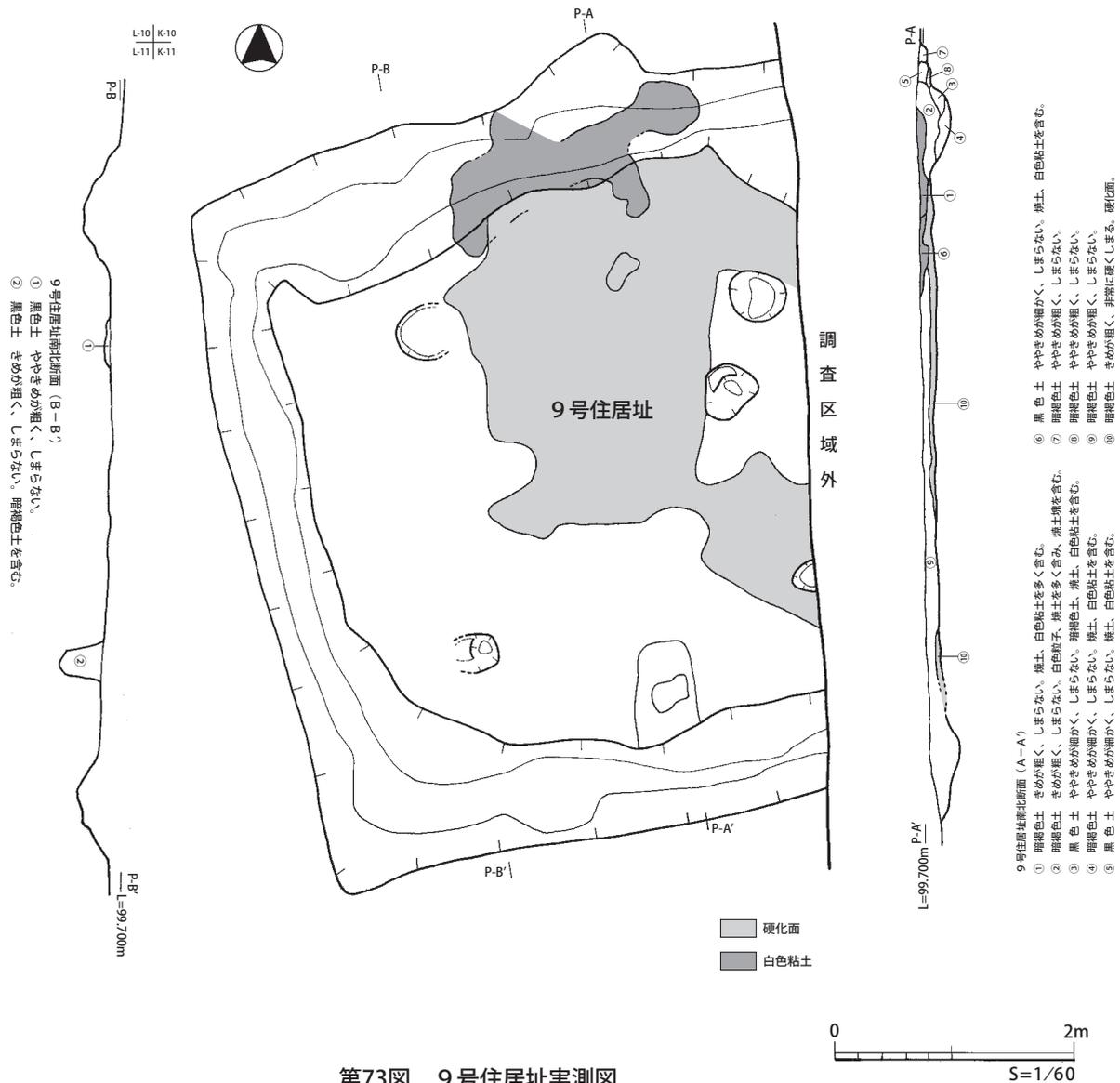
第70図 B-1・2区遺構配置図



第71図 7号住居址、5号掘立柱建物実測図



第72図 8号住居址、9号溝実測図



第73図 9号住居址実測図

## 調査の成果

### 【住居址】

#### 7号住居址【第71図】

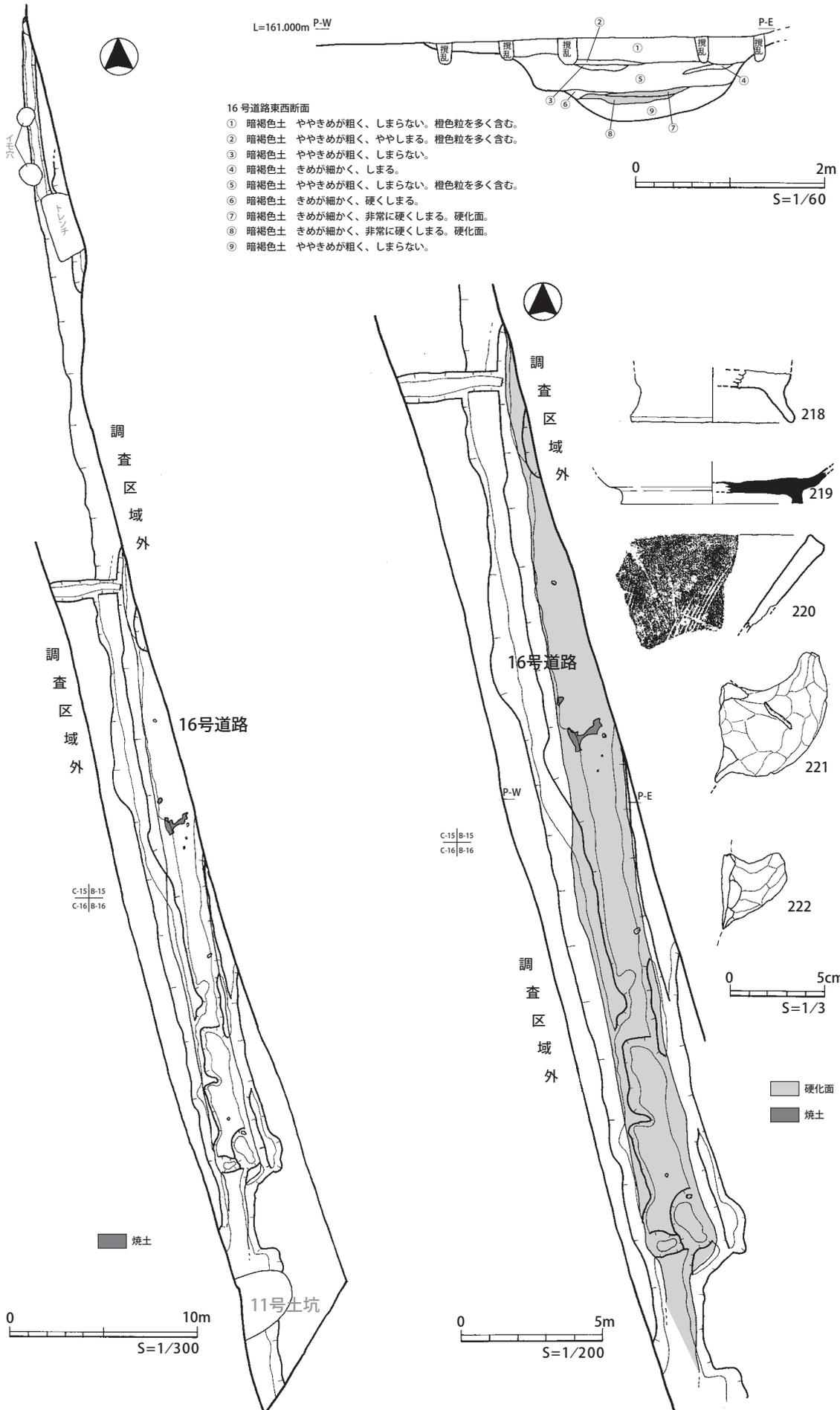
大半が調査区域外のため、詳細は不明。北側壁のカマド付近が確認されたのみである。厚さ5cm程度の硬化面がわずかに検出された。カマドは白色粘土の袖がわずかにのこる。

#### 8号住居址【第72図】

西側の1/3程度が残存しているが、東側が9号溝に切れ、南側の立ち上がりははっきりとしないため、プランは不明である。西側壁付近で白色粘土が広がり、消失しているがカマドを持つと考えられる。カマドの焼土範囲中に土師器破片がみつめられる。またカマド周辺にわずかに硬化面が検出されたが、壁周溝と明確な柱穴はみつめられなかった。

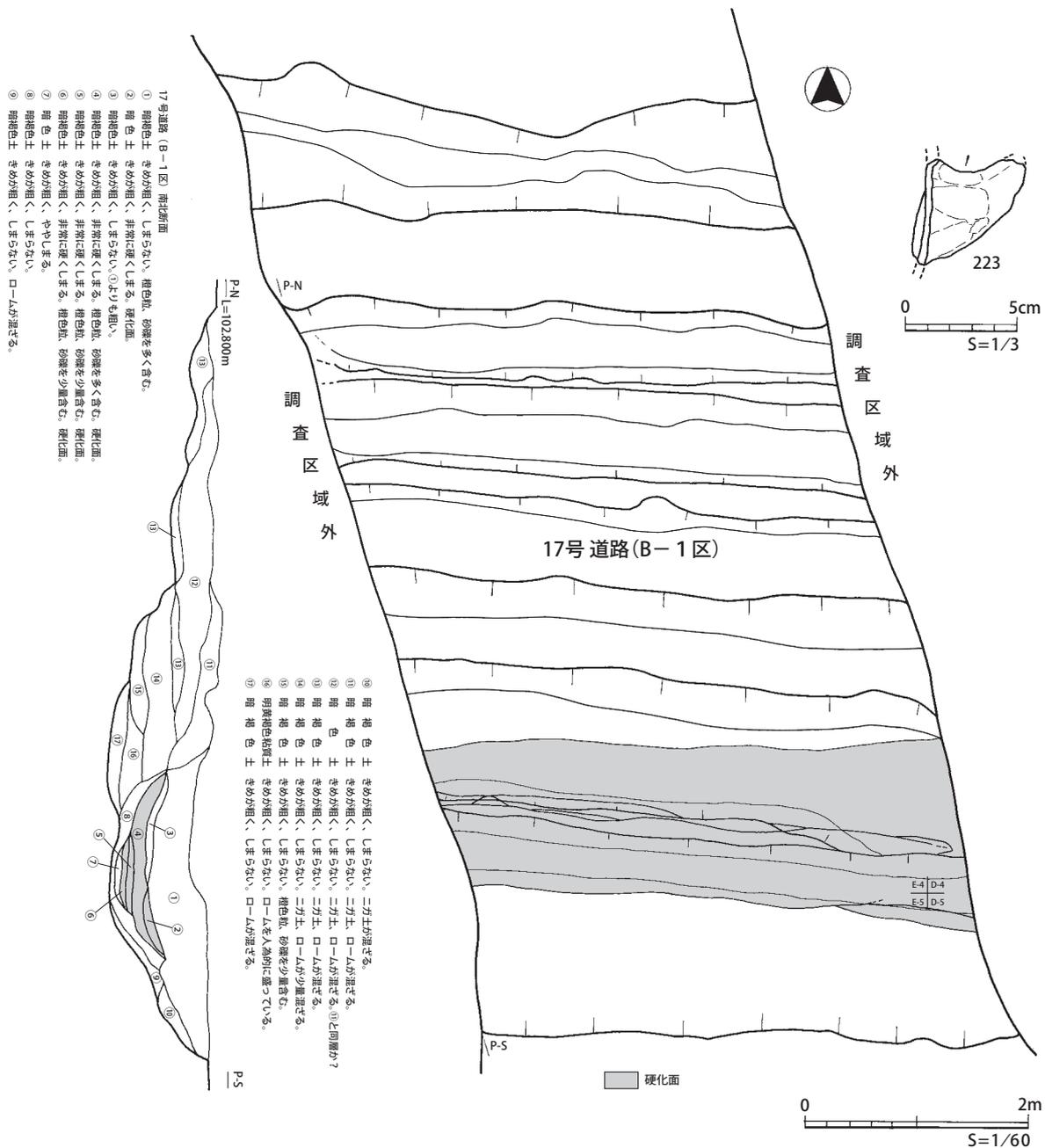
#### 9号住居址【第73図】

南北6.3mを測る。北側壁の中央にカマドを持つと考えられる。中央付近に厚さ5cm程度の硬化面が検出された。壁周溝は幅0.6～1.2m、深さ0.1～0.15cm程度である。主柱穴は四隅にみつめられる。カマドは白色粘土の広が



第74図 16号道路実測図

第75図 16号道路南部分硬化面検出状況、16号道路出土遺物実測図



第76図 17号道路(B-1区)実測図、17号道路(B-1区)出土遺物実測図

りがのこるが、袖の残存はみとめられない。

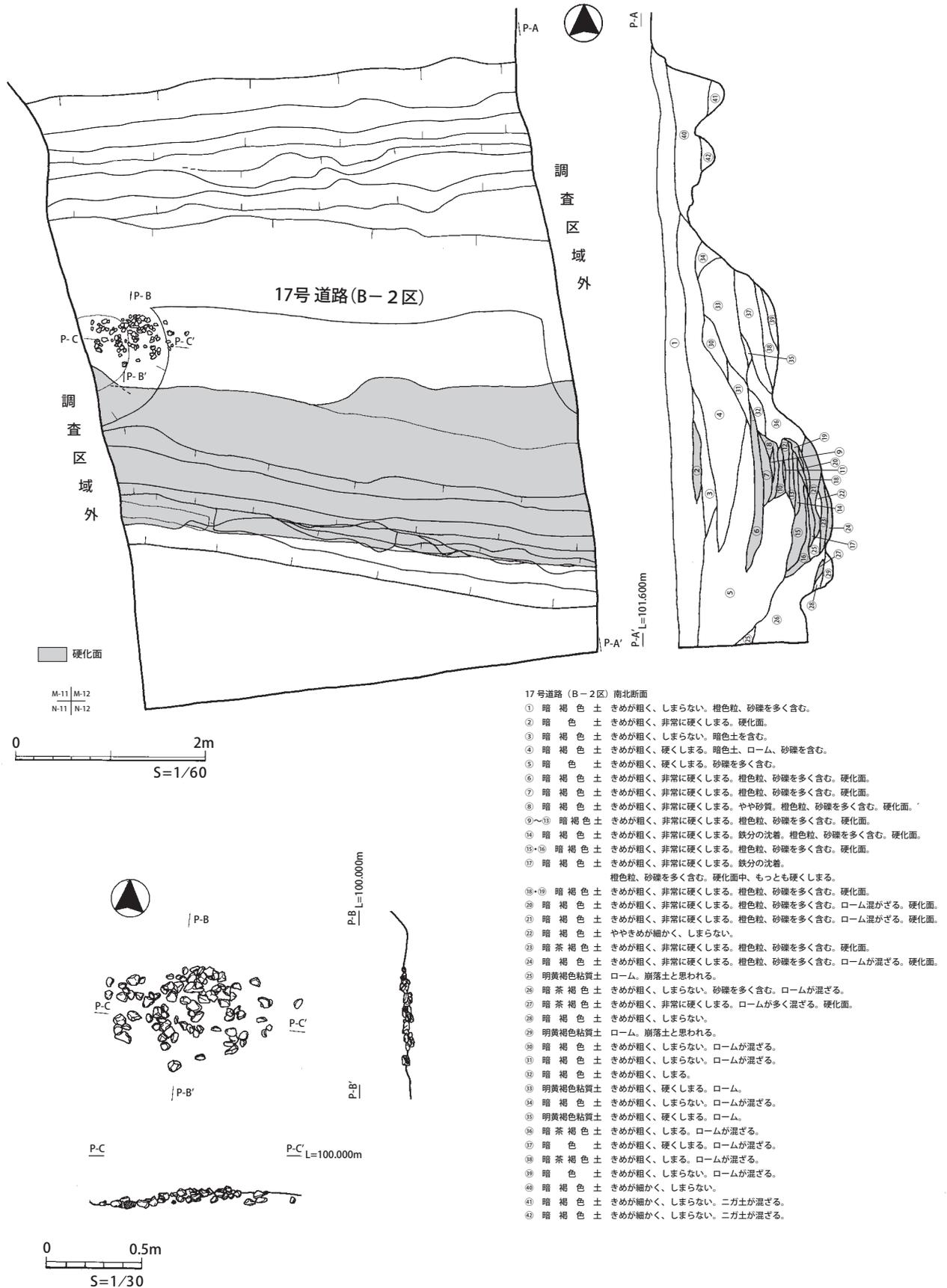
【道路】

16号道路【第74・75図】

北北西⇄南南東方向に延びる。残長75m、検出面幅3.2m、底部幅1.2m、深さ0.9mを測る。調査区に沿って残存しているため、プランを完全に検出できる部分は少ないが、非常に長く延びる道路遺構である。側溝、波板状凹凸面などは検出されず、最大幅1.2mの複数の帯状硬化面が確認された。また中央部の底部で、一部焼土集中が確認された。

17号道路【第76・77図】

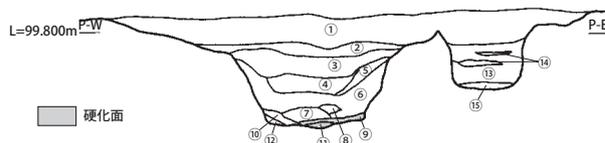
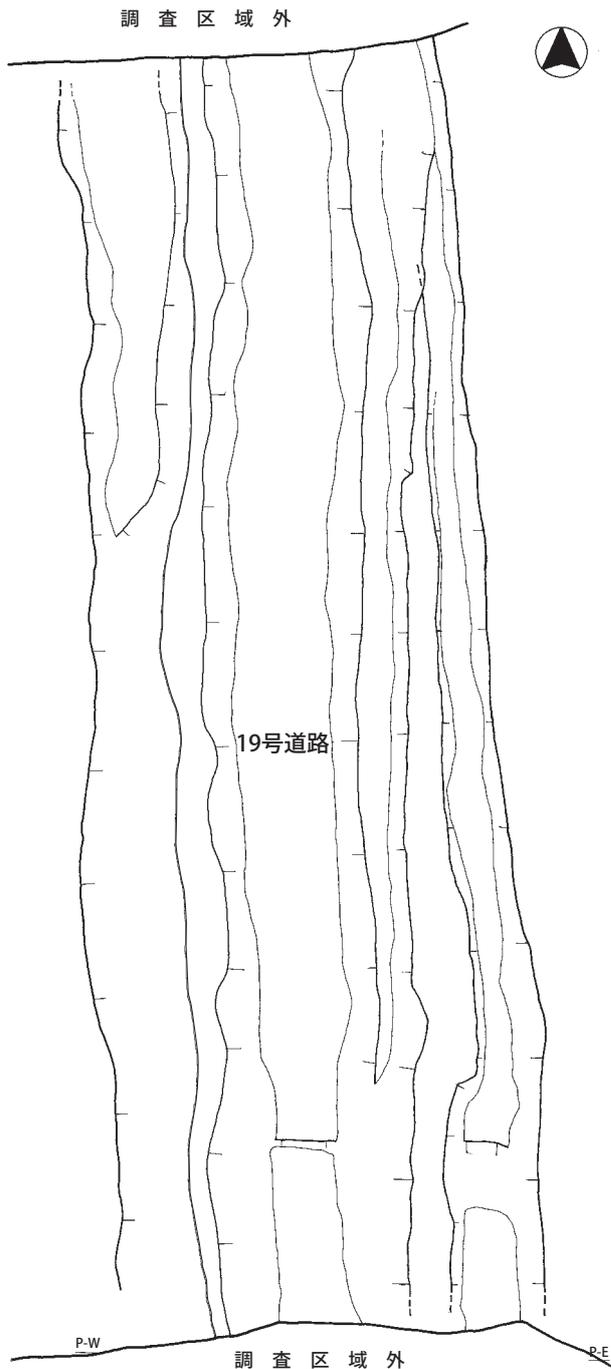
B-1区とB-2区にまたがる規模の大きい道路である。当初は調査区が異なるため別遺構と考えていたが、方角や規模から同一の溝状に掘りこまれた道路遺構と考えられる。東西方向に延びる。B-1区では検出面幅7.2m、底部幅0.8m、深さ0.9mを測る。北側は段を持った緩やかな傾斜であり、南側で2.6mほどが深掘りされ、複数の



- 17号道路 (B-2区) 南北断面
- ① 暗褐色土 きめが粗く、しまらない。橙色粒、砂礫を多く含む。
  - ② 暗褐色土 きめが粗く、非常に硬くしまる。硬化面。
  - ③ 暗褐色土 きめが粗く、しまらない。暗色土を含む。
  - ④ 暗褐色土 きめが粗く、硬くしまる。暗色土、ローム、砂礫を含む。
  - ⑤ 暗褐色土 きめが粗く、硬くしまる。砂礫を多く含む。
  - ⑥ 暗褐色土 きめが粗く、非常に硬くしまる。橙色粒、砂礫を多く含む。硬化面。
  - ⑦ 暗褐色土 きめが粗く、非常に硬くしまる。橙色粒、砂礫を多く含む。硬化面。
  - ⑧ 暗褐色土 きめが粗く、非常に硬くしまる。やや砂質。橙色粒、砂礫を多く含む。硬化面。
  - ⑨~⑬ 暗褐色土 きめが粗く、非常に硬くしまる。橙色粒、砂礫を多く含む。硬化面。
  - ⑭ 暗褐色土 きめが粗く、非常に硬くしまる。鉄分の沈着。橙色粒、砂礫を多く含む。硬化面。
  - ⑮~⑯ 暗褐色土 きめが粗く、非常に硬くしまる。橙色粒、砂礫を多く含む。硬化面。
  - ⑰ 暗褐色土 きめが粗く、非常に硬くしまる。鉄分の沈着。橙色粒、砂礫を多く含む。硬化面中、もっとも硬くしまる。
  - ⑱~⑲ 暗褐色土 きめが粗く、非常に硬くしまる。橙色粒、砂礫を多く含む。硬化面。
  - ⑳ 暗褐色土 きめが粗く、非常に硬くしまる。橙色粒、砂礫を多く含む。ローム混がざる。硬化面。
  - ㉑ 暗褐色土 きめが粗く、非常に硬くしまる。橙色粒、砂礫を多く含む。ローム混がざる。硬化面。
  - ㉒ 暗褐色土 ややきめが細かく、しまらない。
  - ㉓ 暗茶褐色土 きめが粗く、非常に硬くしまる。橙色粒、砂礫を多く含む。硬化面。
  - ㉔ 暗褐色土 きめが粗く、非常に硬くしまる。橙色粒、砂礫を多く含む。ロームが混ざる。硬化面。
  - ㉕ 明黄褐色粘質土 ローム。崩落土と思われる。
  - ㉖ 暗茶褐色土 きめが粗く、しまらない。砂礫を多く含む。ロームが混ざる。
  - ㉗ 暗茶褐色土 きめが粗く、非常に硬くしまる。ロームが多く混ざる。硬化面。
  - ㉘ 暗褐色土 きめが粗く、しまらない。
  - ㉙ 明黄褐色粘質土 ローム。崩落土と思われる。
  - ㉚ 暗褐色土 きめが粗く、しまらない。ロームが混ざる。
  - ㉛ 暗褐色土 きめが粗く、しまらない。ロームが混ざる。
  - ㉜ 暗褐色土 きめが粗く、しまる。
  - ㉝ 明黄褐色粘質土 きめが粗く、硬くしまる。ローム。
  - ㉞ 暗褐色土 きめが粗く、しまらない。ロームが混ざる。
  - ㉟ 明黄褐色粘質土 きめが粗く、硬くしまる。ローム。
  - ㊱ 暗茶褐色土 きめが粗く、しまる。ロームが混ざる。
  - ㊲ 暗褐色土 きめが粗く、硬くしまる。ロームが混ざる。
  - ㊳ 暗茶褐色土 きめが粗く、しまる。ロームが混ざる。
  - ㊴ 暗褐色土 きめが粗く、しまらない。ロームが混ざる。
  - ㊵ 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。
  - ㊶ 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。二カ土が混ざる。
  - ㊷ 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。二カ土が混ざる。

第77図 17号道路(B-2区)、遺構内集石実測図

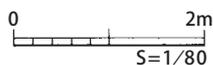




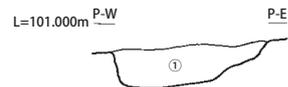
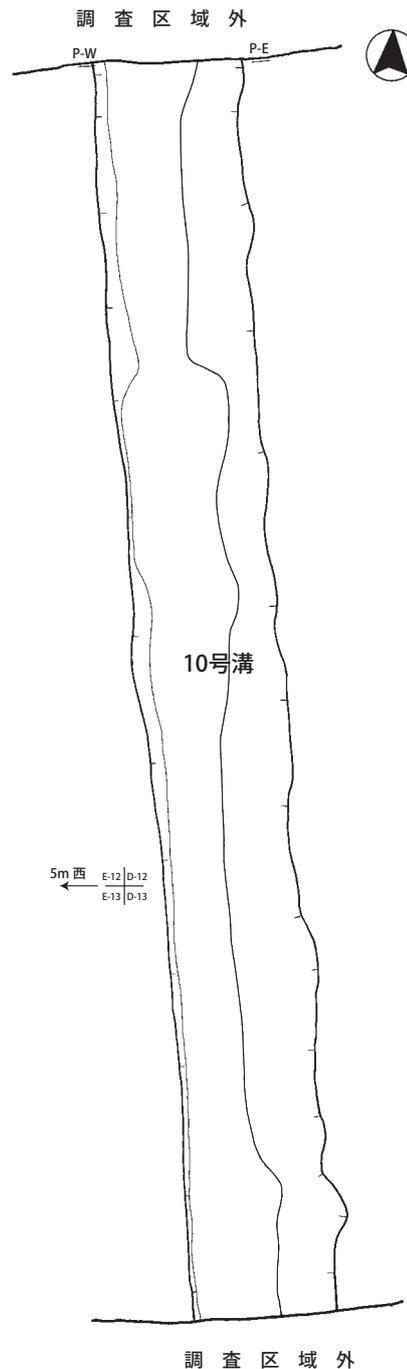
19号道路東西断面

- ① 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。
- ② 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。上面硬化。
- ③ 暗色土 きめが細かく、しまらない。
- ④ 暗褐色土 きめが細かく、ややしまる。
- ⑤ 黒色土 きめが細かく、しまらない。
- ⑥ 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。
- ⑦ 暗褐色土 きめがやや粗く、硬くしまる。
- ⑧ 暗褐色土 きめがやや粗く、しまらない。
- ⑨ 暗褐色土 きめがやや粗く、非常に硬くしまる。硬化面。
- ⑩ 黒色土 きめがやや粗く、しまらない。

- ⑪ 暗褐色土 きめが細かく、非常に硬く。光沢がある。硬化面。
- ⑫ 暗褐色土 きめが粗く、しまらない。
- ⑬ 暗褐色土 きめが粗く、しまらない。砂礫を多く含む。
- ⑭ 暗褐色土 きめが細かく、ややしまる。粘質。暗褐色土、黒色土が2cm単位ほど層となっているが分層は不可能。
- ⑮ 暗色土 きめが粗い砂質土。



第79図 19号道路実測図

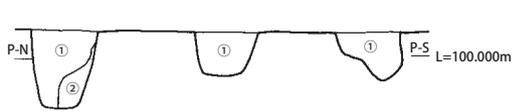
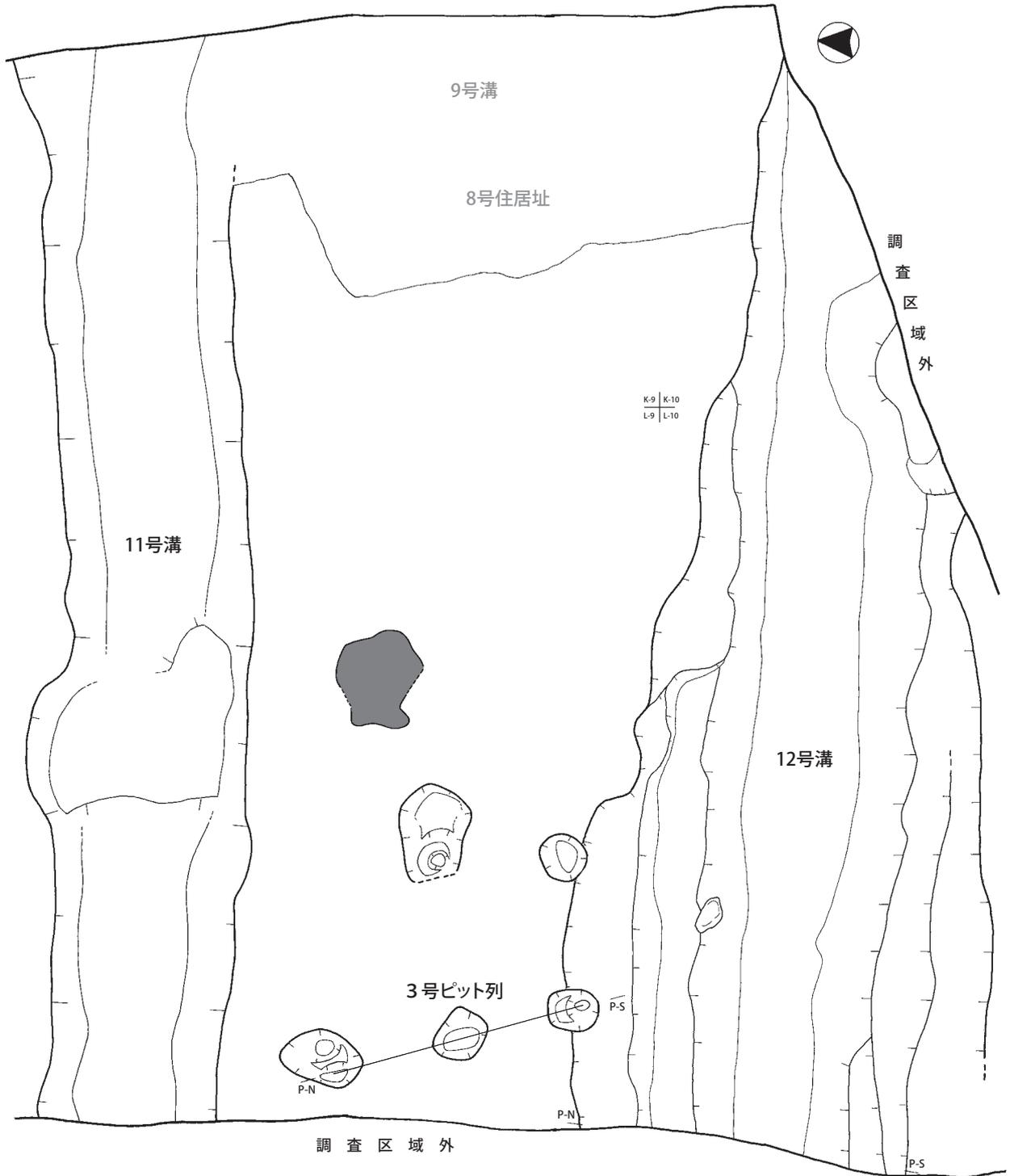


10号溝東西断面

- ① 暗褐色土 きめが粗く、しまる。やや粘質。黒色土が混ざる。

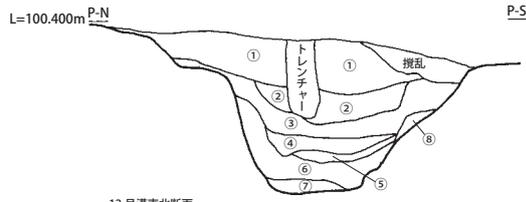


第80図 10号溝実測図



- 3号ピット列断面
- ① 黒色土 ややきめが細かく、しまらない。
  - ② 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。

■ 焼土



- 12号溝南北断面
- ① 暗色土 きめが粗く、しまらない。橙色粒、砂礫を含む。
  - ② 暗色土 きめが粗く、しまらない。橙色粒、砂礫を含む。①よりやや暗い。
  - ③ 暗色土 きめが粗く、しまらない。やや粘質。橙色粒、砂礫を含む。
  - ④ 暗色土 きめが粗く、しまらない。やや粘質。橙色粒、砂礫を含む。③よりやや暗い。
  - ⑤ 暗色土 きめが粗く、ややしまる。橙色粒を少量含む。
  - ⑥ 暗色土 きめが粗く、ややしまる。橙色粒を少量含む。
  - ⑦ 暗褐色土 きめが粗く、硬くしまる。粘質。
  - ⑧ 黒色土 きめが粗く、硬くしまる。

第81図 11・12号溝、3号ピット列実測図

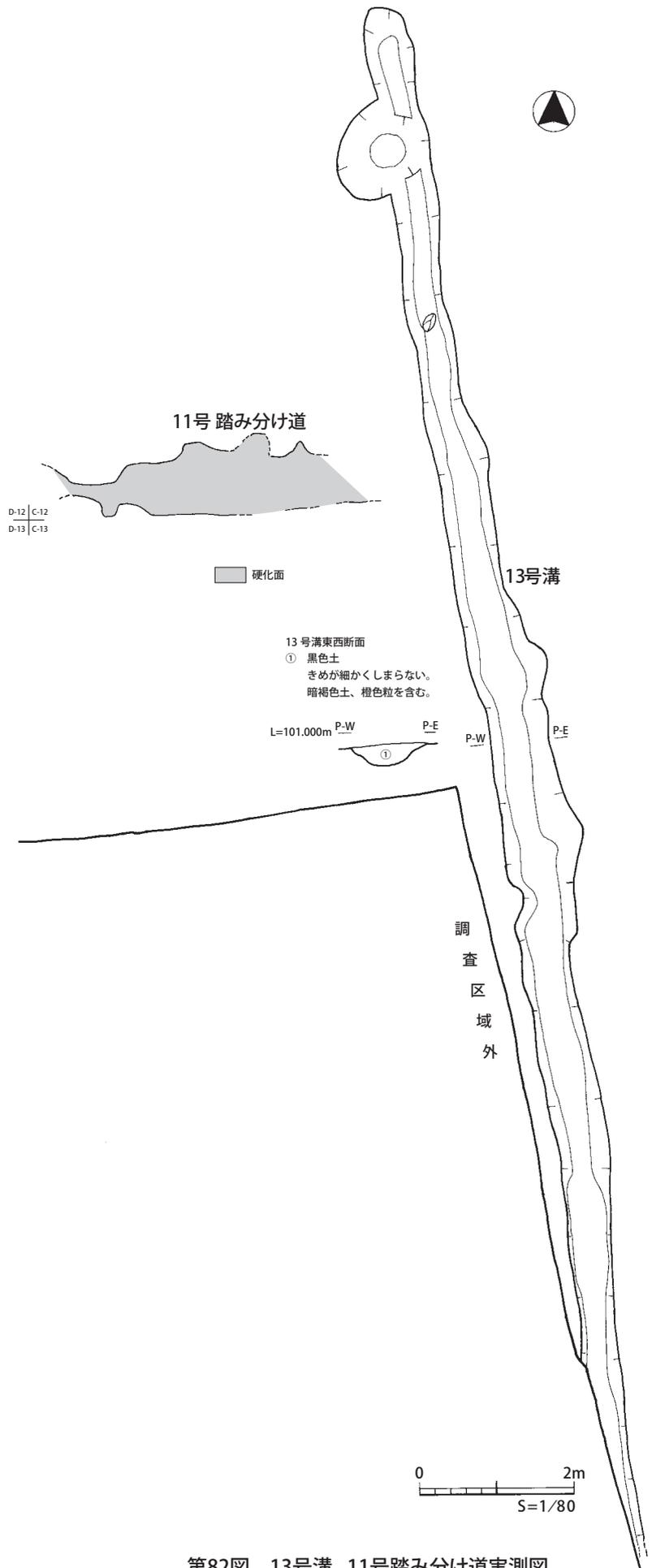
硬化面がみつめられた。溝が自然に埋まったとは考えにくく、人為的に埋めた後に再度、底部を掘り下げて、時間をおいての再利用があったのではないと思われる。B-2区では検出面幅は南側が調査区域外のため不明だが6.5m以上はあったと思われる。底部幅1.2m、深さ1.7mを測る。中央で带状硬化面が複数検出され、頻繁な利用があったことが推測される。南側で側溝がみつめられ、その上面も硬化している。北側の立ち上がりはテラス状を呈し、集石がみつめられた。

**18号道路【第78図】**

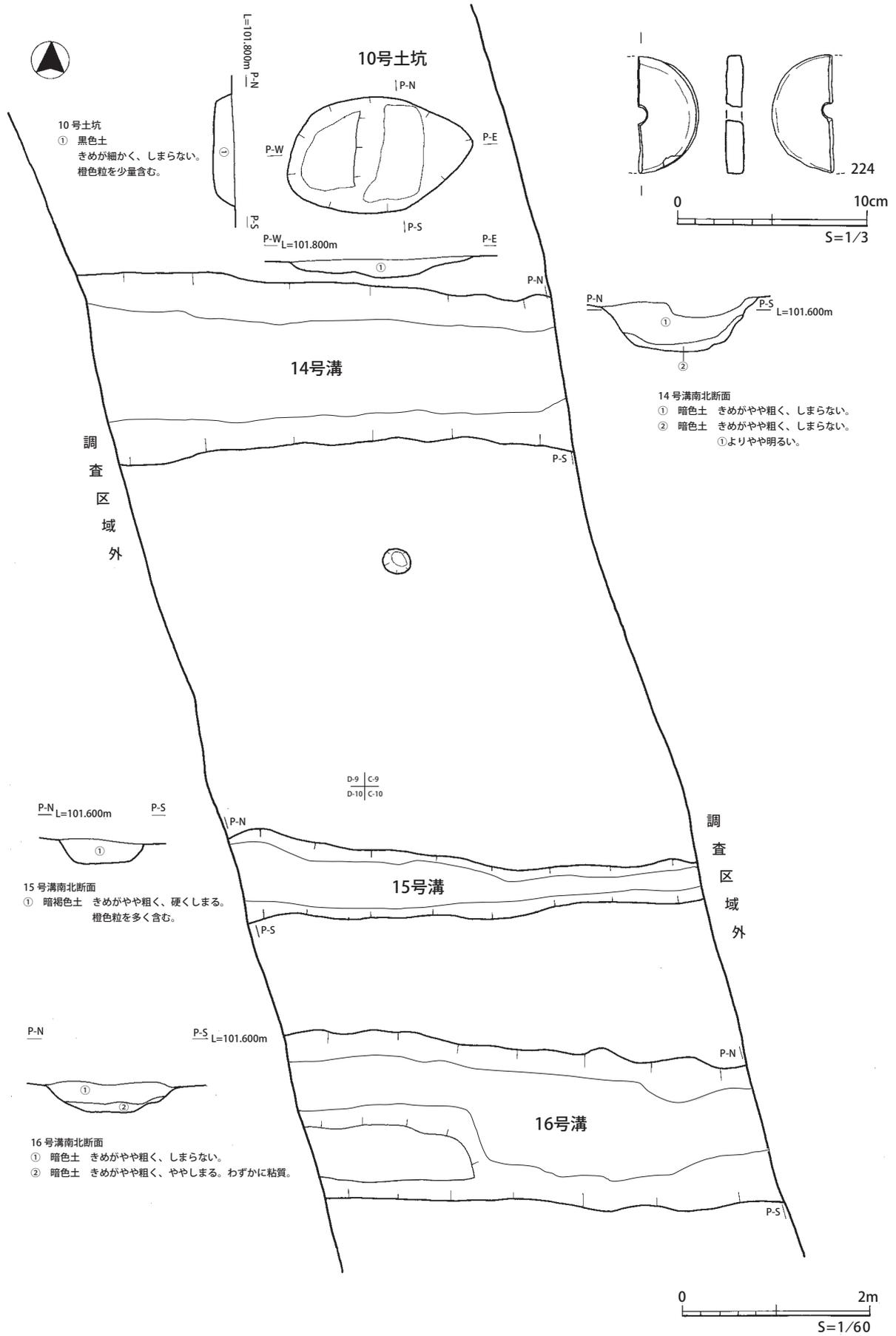
東西方向に延びる。検出面幅7.2～8.2m、底部幅2.6m、深さ1.7mを測る。本調査区でもっとも幅の広い道路である。底部も非常に幅が広く、一部側溝らしき痕跡がみつめられるが、はっきりとしない。側溝であれば芯々間で2.3mを測る。北側では一段段差があり、急激に掘りこまれるが、南側ではなだらかな段状に掘りこまれる。主に北側で複数の带状硬化面が検出され、頻繁な使用があったことがうかがえる。それに対して南側では広いテラス状に拡張する箇所があり、またニガ土やロームが混ざった埋土が層状にみつめられるなど、崩落や人為的な埋設があった可能性をうかがわせる。東西方向に延びるが、東のB-1区では確認されなかった。

**19号道路【第79図】**

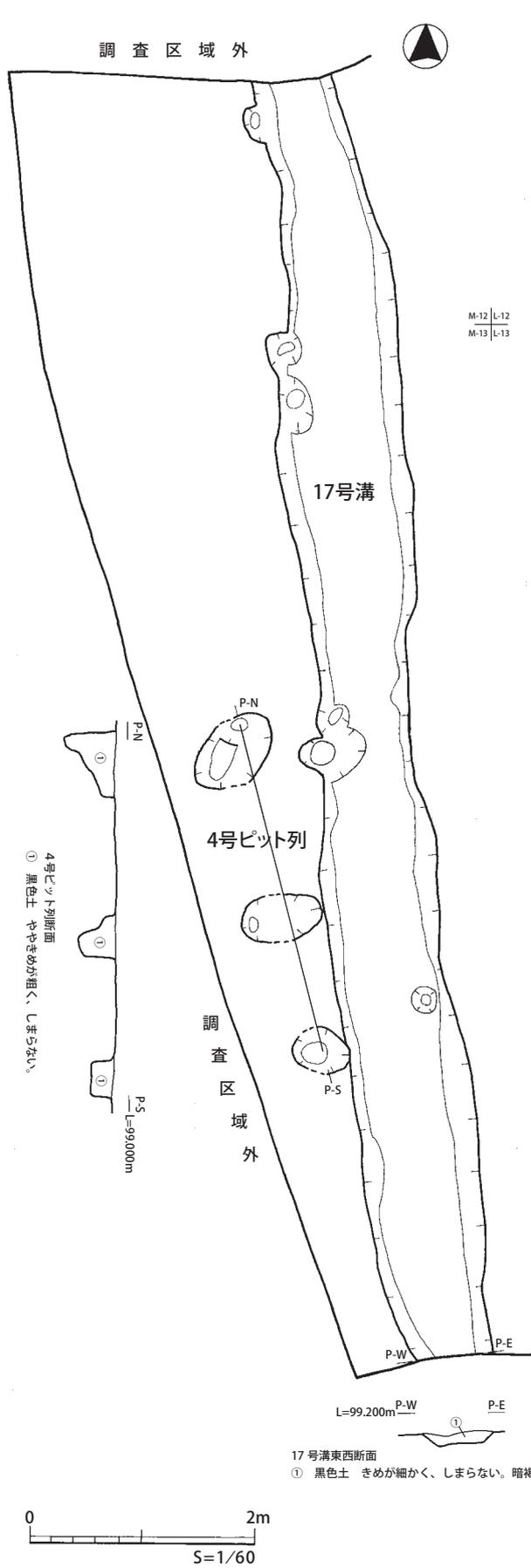
南北方向に延びる。残長10.2m、検出面幅2.9～3.5m、底部幅0.1m、深さ0.9mを測る。断面形状が逆台形に掘りこまれ、掘り



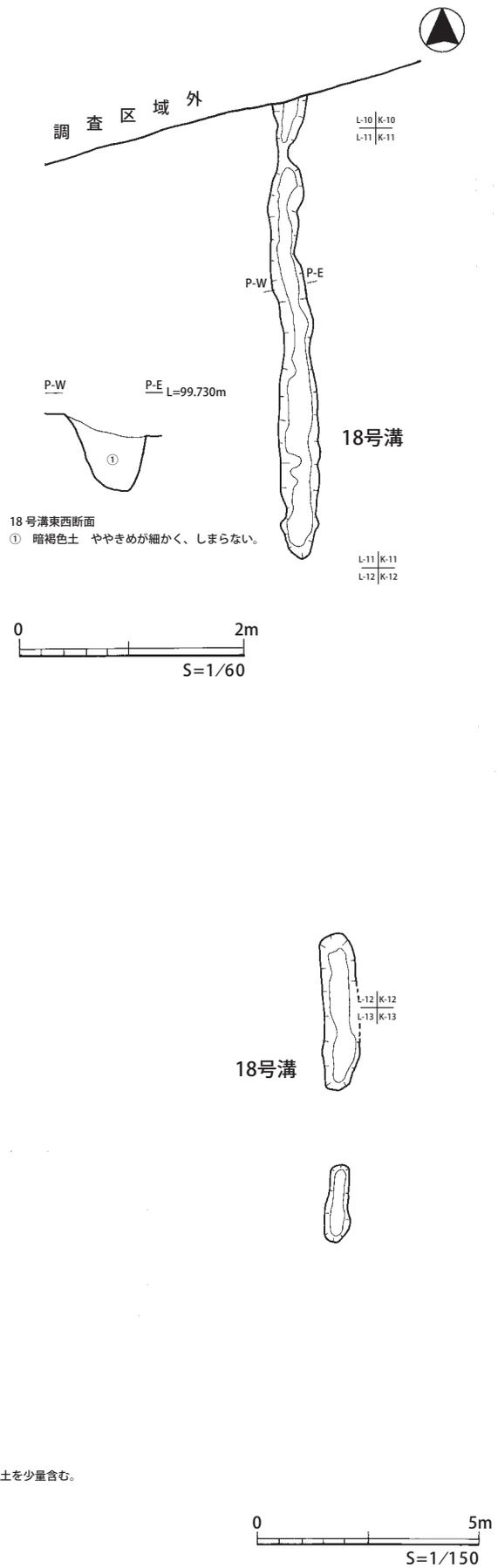
第82図 13号溝、11号踏み分け道実測図



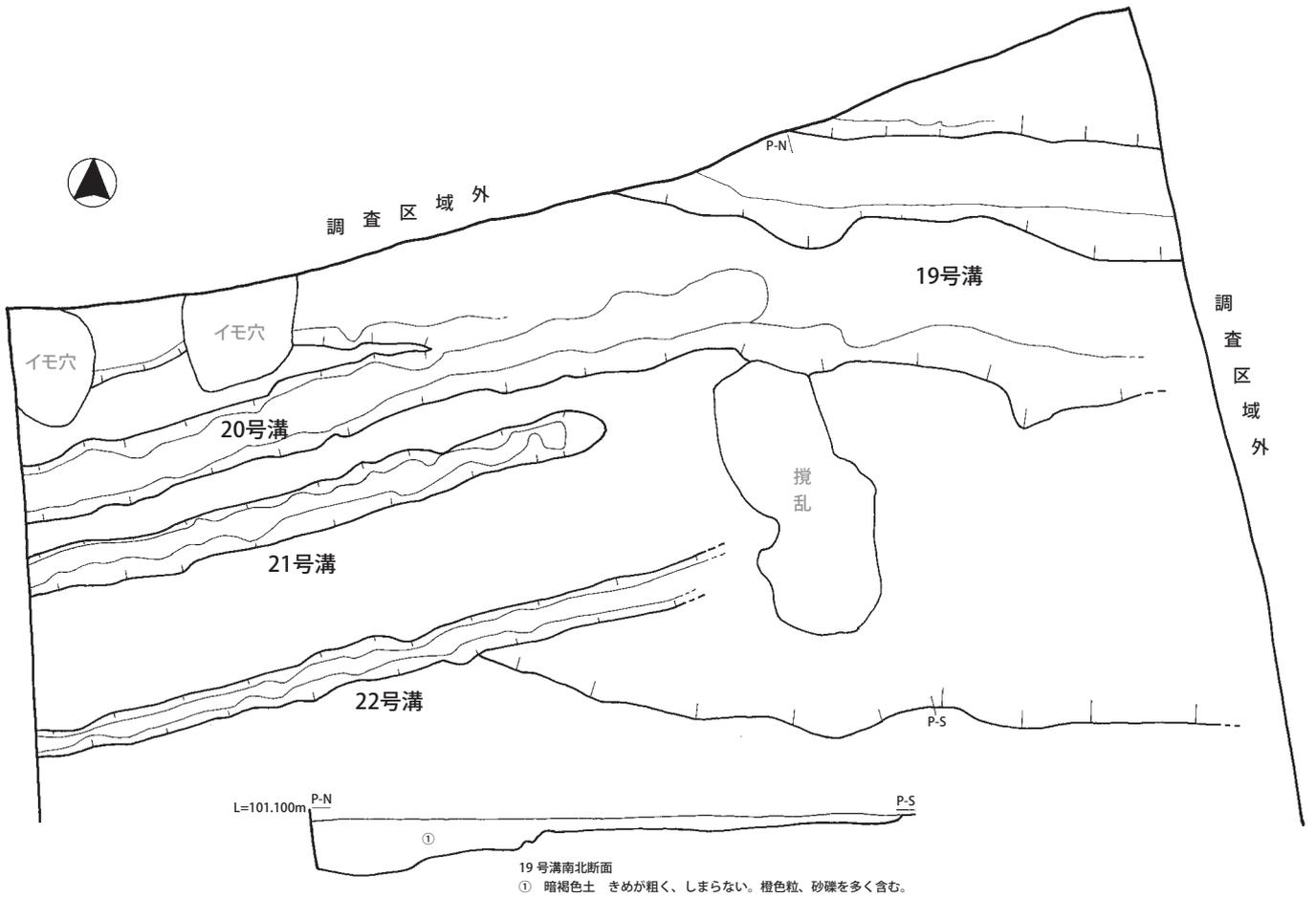
第83図 14～16号溝、10号土坑実測図、10号土坑出土遺物実測図



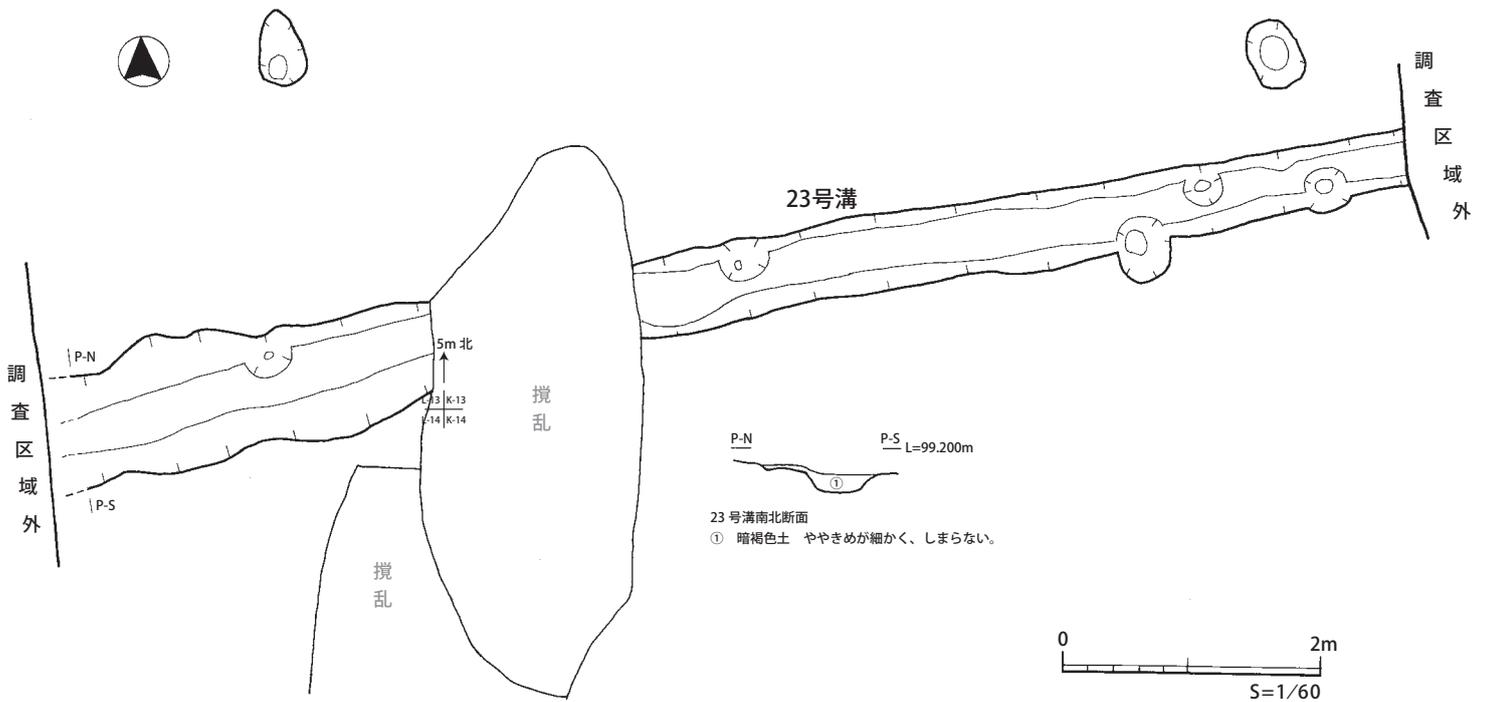
第84図 17号溝、4号ピット列実測図



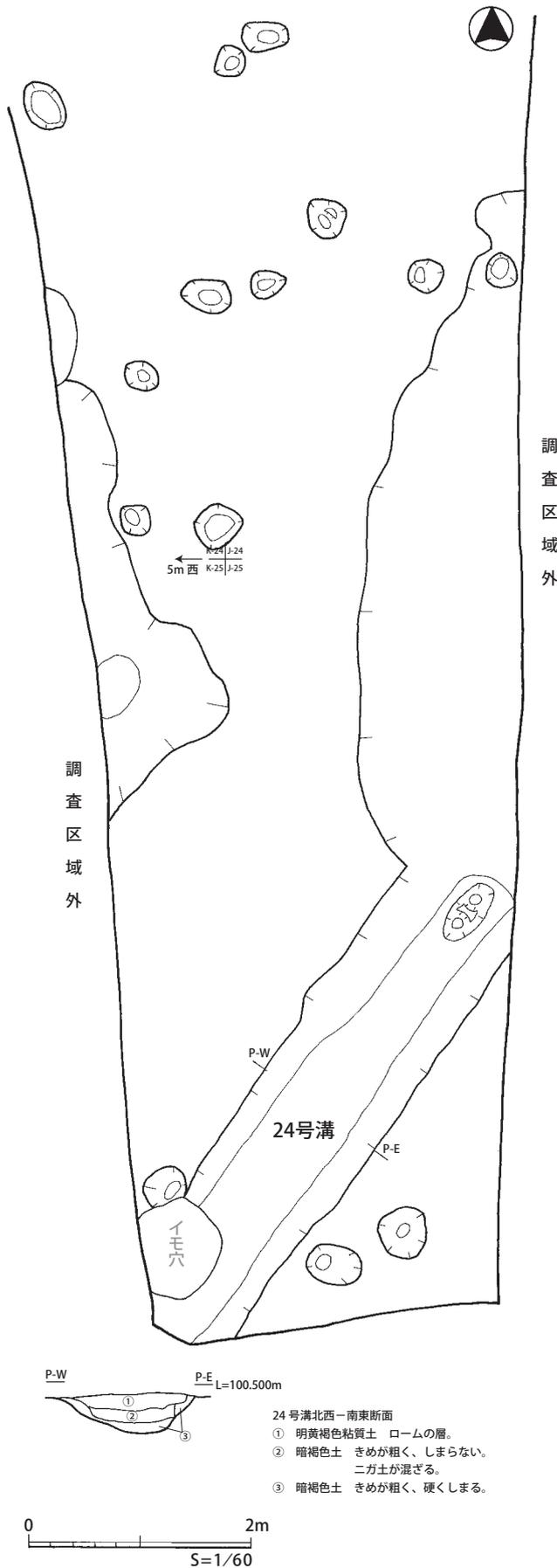
第85図 18号溝実測図



第86図 19～22号溝実測図



第87図 23号溝実測図



第88図 24号溝実測図

下げ時には明瞭にはわからなかったが、断面で硬化面が確認されたことから、溝の底部を道路と使用していたと考えられる。東側に、付属すると思われる幅0.5m程度の小規模の溝が併行する。

【溝】

9号溝【第72図】

南北方向に延びる。8号住居址を切っている。詳細は不明。

10号溝【第80図】

南北方向に延びる。残長10.0m、幅1.2m、底部幅0.5～0.8m、深さ0.3mを測る。

11号溝【第81図】

東西方向に延びる。残長10.5m、検出面幅1.7m、底部幅1.1mを測る。

12号溝【第81図】

東西方向に延びる。検出面幅2.5～4.2m、底部幅0.6～1.1m、深さ1.2mを測る。段状に掘りこまれており道路の可能性はあるが、硬化面は検出されなかったため、溝と考える。

13号溝【第82図】

北北西⇔南南東方向に延びる。残長21.6m、検出面幅0.6～1.2m、深さ0.3mを測る。直進的で非常に長い溝であるが、遺構の性格は不明。

14号溝【第83図】

東西方向に延びる。幅1.6～2.0m、底部幅0.85～1.3m、深さ0.6mを測る。

15号溝【第83図】

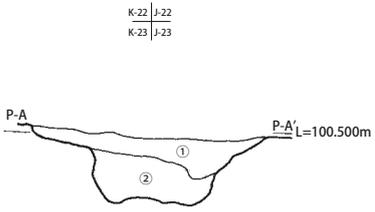
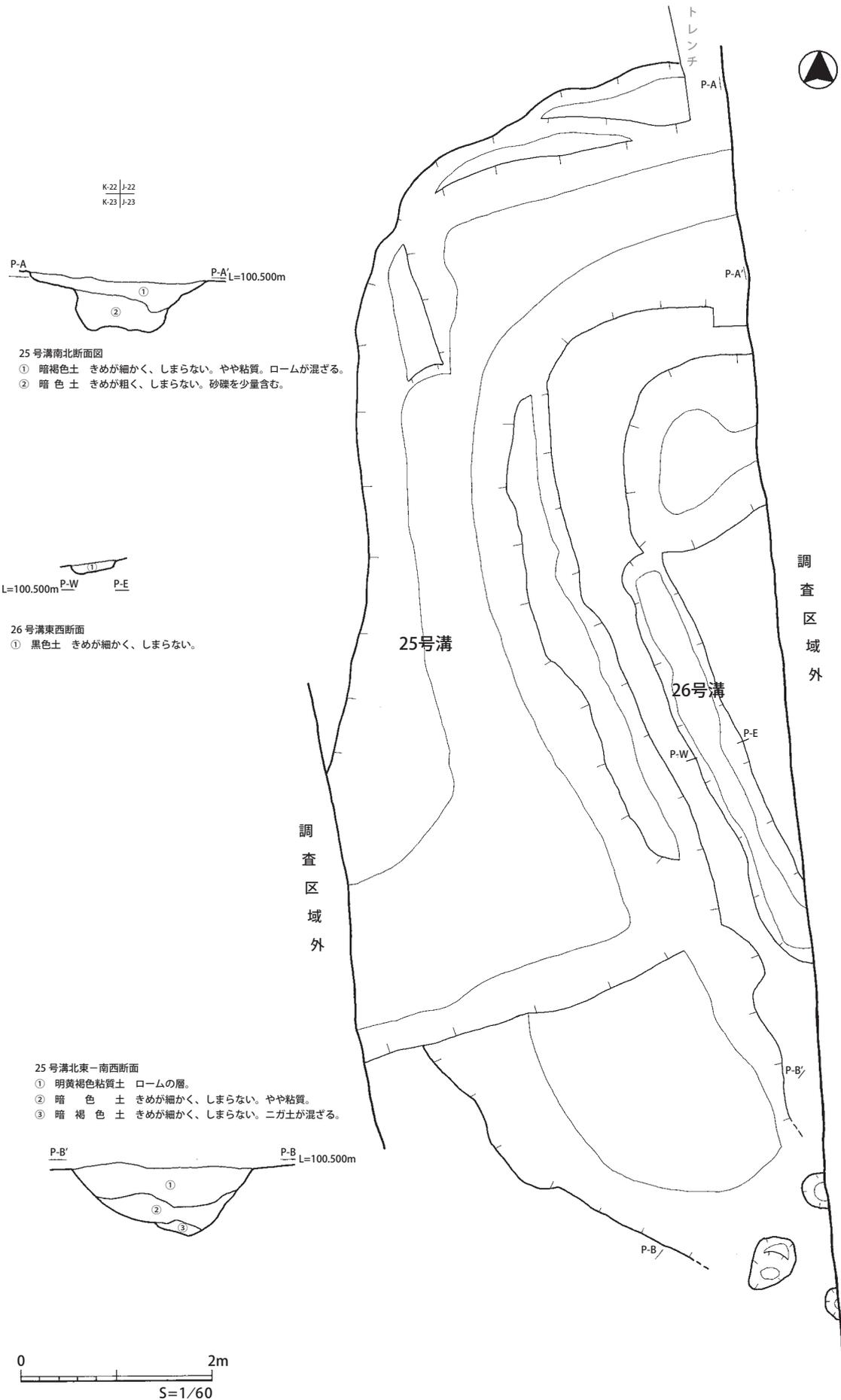
東西方向に延びる。幅0.5～1.0m、底部幅0.2～0.65m、深さ0.25mを測る。

16号溝【第83図】

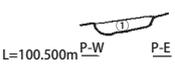
東西方向に延びる。幅1.5～1.9m、底部幅0.7～1.1m、深さ0.3mを測る。

17号溝【第84図】

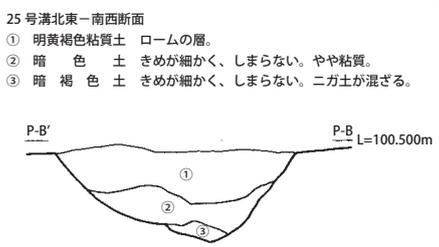
北北東⇔南南西方向に延びる。検出



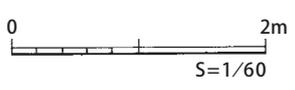
25号溝南北断面図  
 ① 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。やや粘質。ロームが混ざる。  
 ② 暗色土 きめが粗く、しまらない。砂礫を少量含む。



26号溝東西断面  
 ① 黒色土 きめが細かく、しまらない。



25号溝北東-南西断面  
 ① 明黄褐色粘質土 ロームの層。  
 ② 暗色土 きめが細かく、しまらない。やや粘質。  
 ③ 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。ニガ土が混ざる。



第89図 25・26号溝実測図

面幅0.8～1.1m、底部幅0.4～0.8m、深さ0.1mを測る。西側にピット列がみとめられるが、遺構に伴うものかどうかは不明。

#### 18号溝【第85図】

残長26m。南北方向に延びるが、途切れ途切れでいびつな溝状遺構を呈する。検出面幅0.45～0.9m、底部幅0.3～0.5m、深さ0.7mを測る。

#### 19号溝【第86図】

東西方向に延びる非常に大型の溝と思われる。北側は調査区域外であるが、幅は6m以上あると思われる。削平を受けていると思われ、深さはもっとも深い箇所でも0.5m程度しかなかった。硬化面は確認されなかった。遺構内西側では幅0.3mほどの東北東⇨西南西方向の溝が検出されているが、19号溝の一部掘りこみと一体化して判別できない。方角から17号道路の南側の立ち上がりの可能性があるが、その場合17号道路は約15m幅の道路となり、さらに上面が削平を受けていたとしても、17号道路が検出された筆とレベル差が1.5m以上あることから、別遺構ととらえられる。ただし17号道路に隣接しており、方角も同じであることから、関連する遺構ではないかとも推測される。

#### 20～22号溝【第86図】

19号溝を幅0.3mほどの東北東⇨西南西方向の溝状遺構が3条切っており、一部19号溝の掘りこみと一体化して判別できない状態である。

#### 23号溝【第87図】

西南西⇨東北東方向に延びる。検出面幅0.6m、底部幅0.3m、深さ0.2mを測る。

#### 24号溝【第88図】

北東⇨南西方向に延びる。検出面幅1.1～1.25m、底部幅0.5～0.8m、深さ0.4mを測る。北東側で拡張するが、これが別の遺構かどうかは不明である。

#### 25号溝【第89図】

南北径12mを測る円形、もしくは隅丸方形の周溝状遺構と思われる。検出面幅1.65～1.95m、底部幅0.7～0.85m、深さ0.5mを測るが、南側では一段段があり、南西方向に溝状遺構が延びる可能性がある。遺構の性格は不明。

#### 26号溝【第89図】

25号溝で囲まれた部分で検出面幅0.5m、底部幅0.15～0.4m、深さ0.1mを測る。方形にめぐる可能性がある。遺構の性格は不明。

#### 27号溝【第91図】

南北径3.6mの円形にめぐる周溝遺構。検出面幅0.55～0.7m、深さ0.15mを測る。遺構の性格は不明。

#### 【踏み分け道】

##### 11号踏み分け道【第82図】

北西⇨南東方向に延びる。残長4.0m、幅0.5～1.1mのいびつな帯状硬化面である。

##### 12号踏み分け道【第90図】

北西⇨南東方向に延びる。残長9.8m、幅0.5～1.1mのいびつな帯状硬化面である。

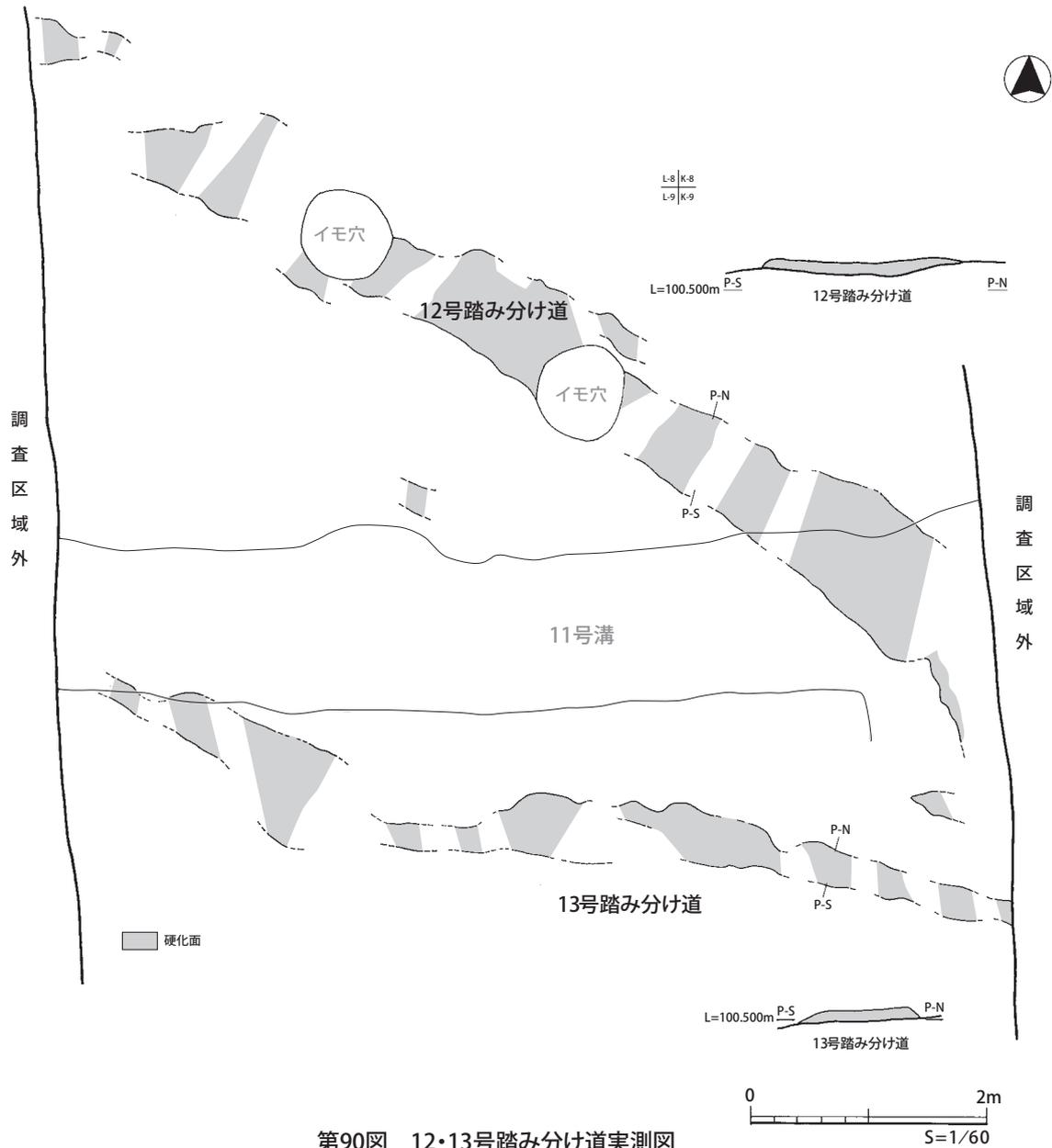
##### 13号踏み分け道【第90図】

西北西⇨東南東に延びる。残長8.2m、幅0.2～0.9mの、蛇行するいびつな帯状硬化面である。12号踏み分け道と連結している可能性がある。

#### 【土坑】

##### 10号土坑【第83図】

長軸2.0m×短軸1.3mの楕円形の土坑。深さ0.2mを測る。



第90図 12・13号踏み分け道実測図

**11号土坑【第92図】**

南北幅3.3m、深さ1.1mを測る。埋土はほぼ同一であり、短期間に埋まったものと考えられる。16号道路を切っている。

**12号土坑【第93図】**

長軸2.2m×短軸0.9mの長楕円形を呈する。深さ0.5mを測る。

**【掘立柱建物】**

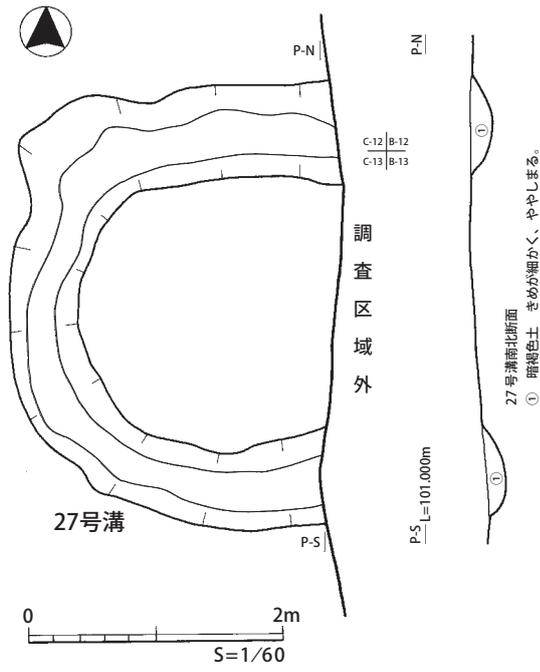
**5号掘立柱建物【第71図】**

南北3間×東西1間。柱穴間は1.5m。7号住居址に隣接している。

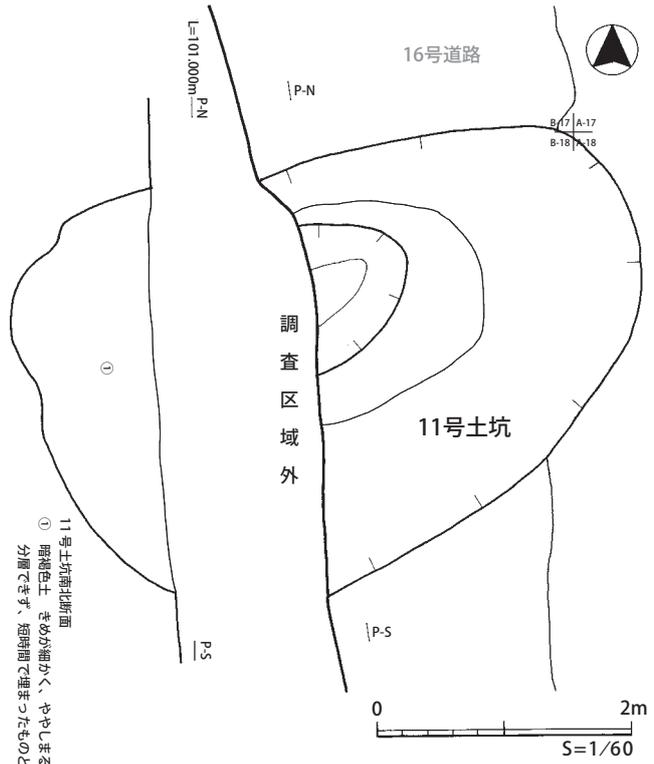
**【ピット列】**

**3号ピット列【第81図】**

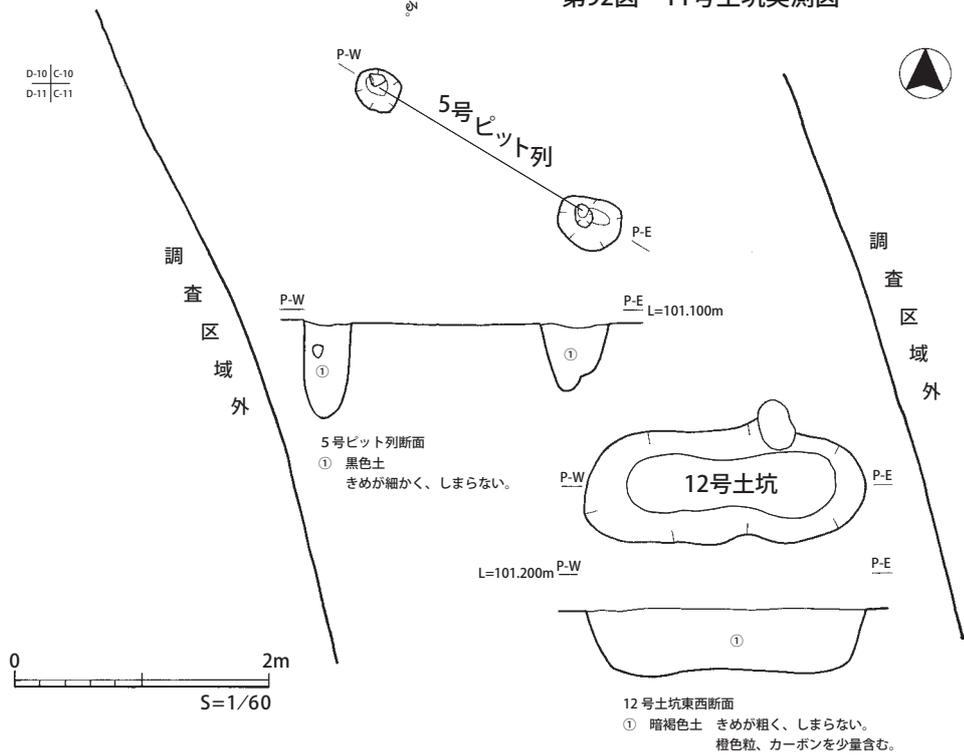
柱穴間1.2m。柵列の可能性もある。



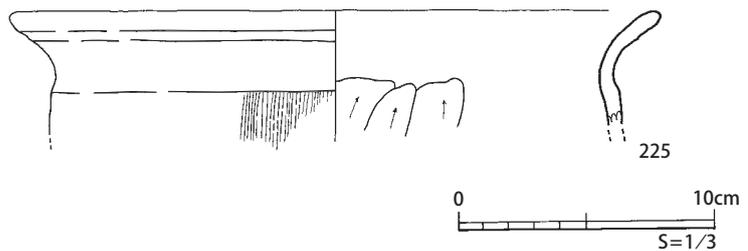
第91図 27号溝実測図

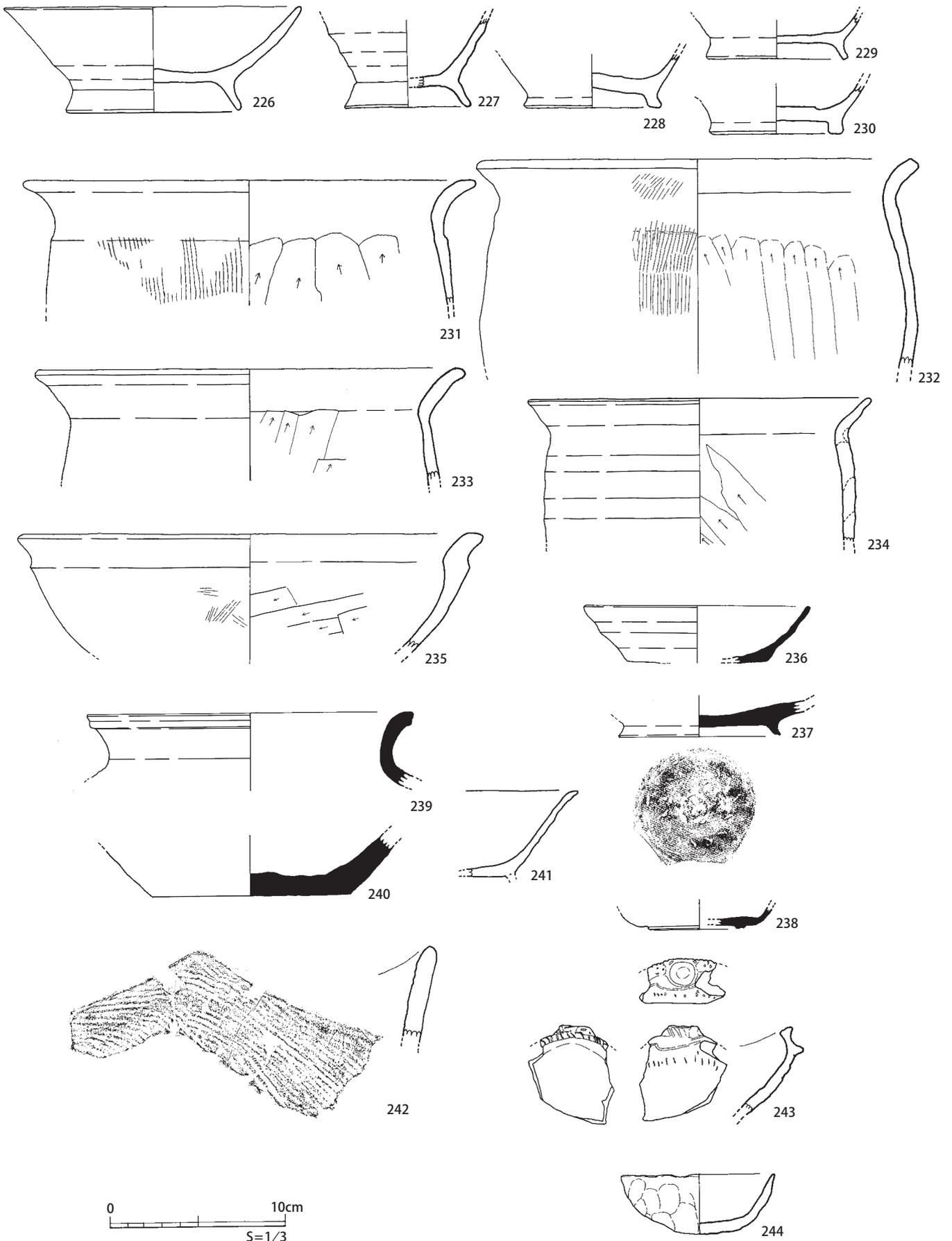


第92図 11号土坑実測図

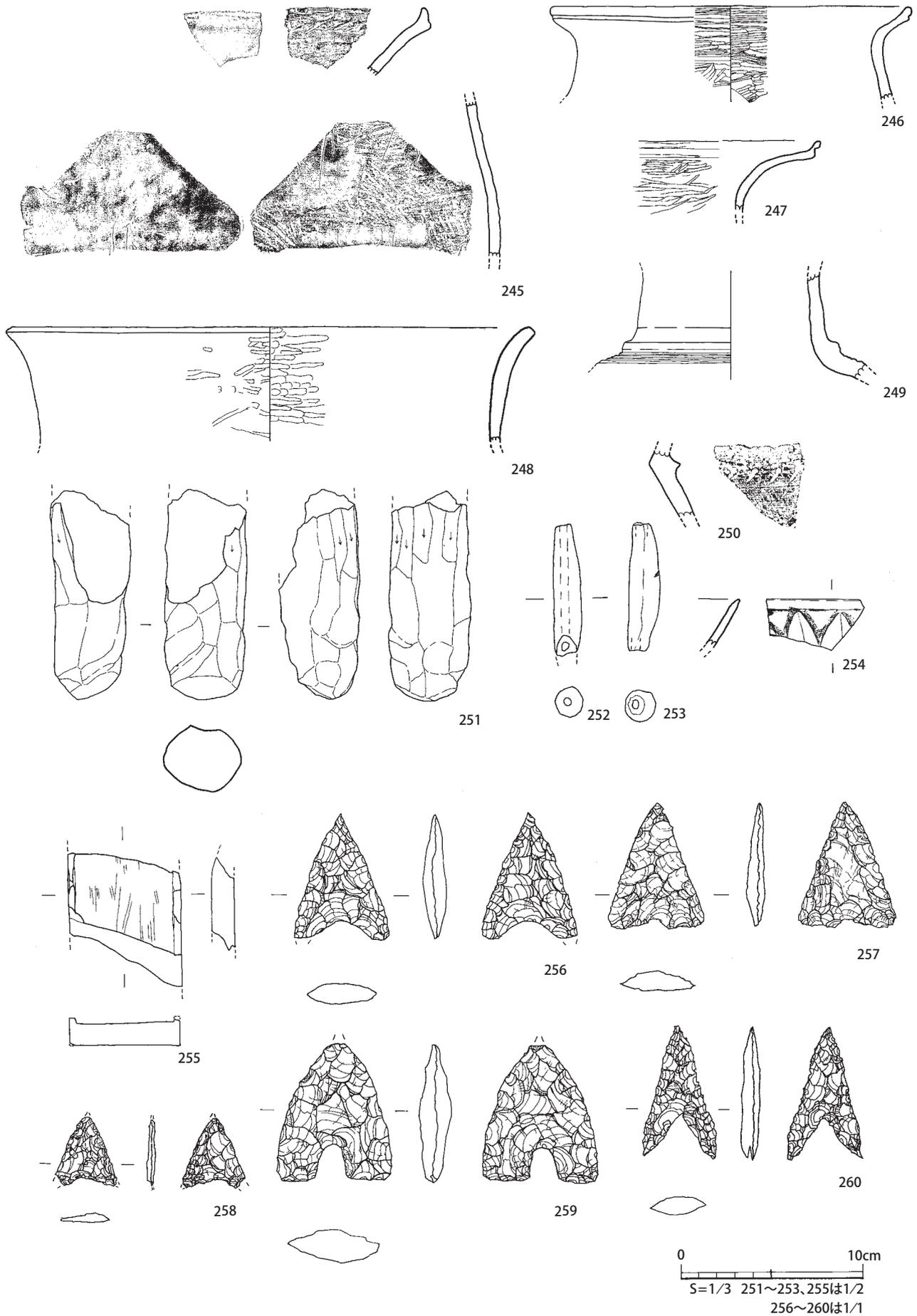


第93図 12号土坑、5号ピット列実測図、12号土坑出土遺物実測図

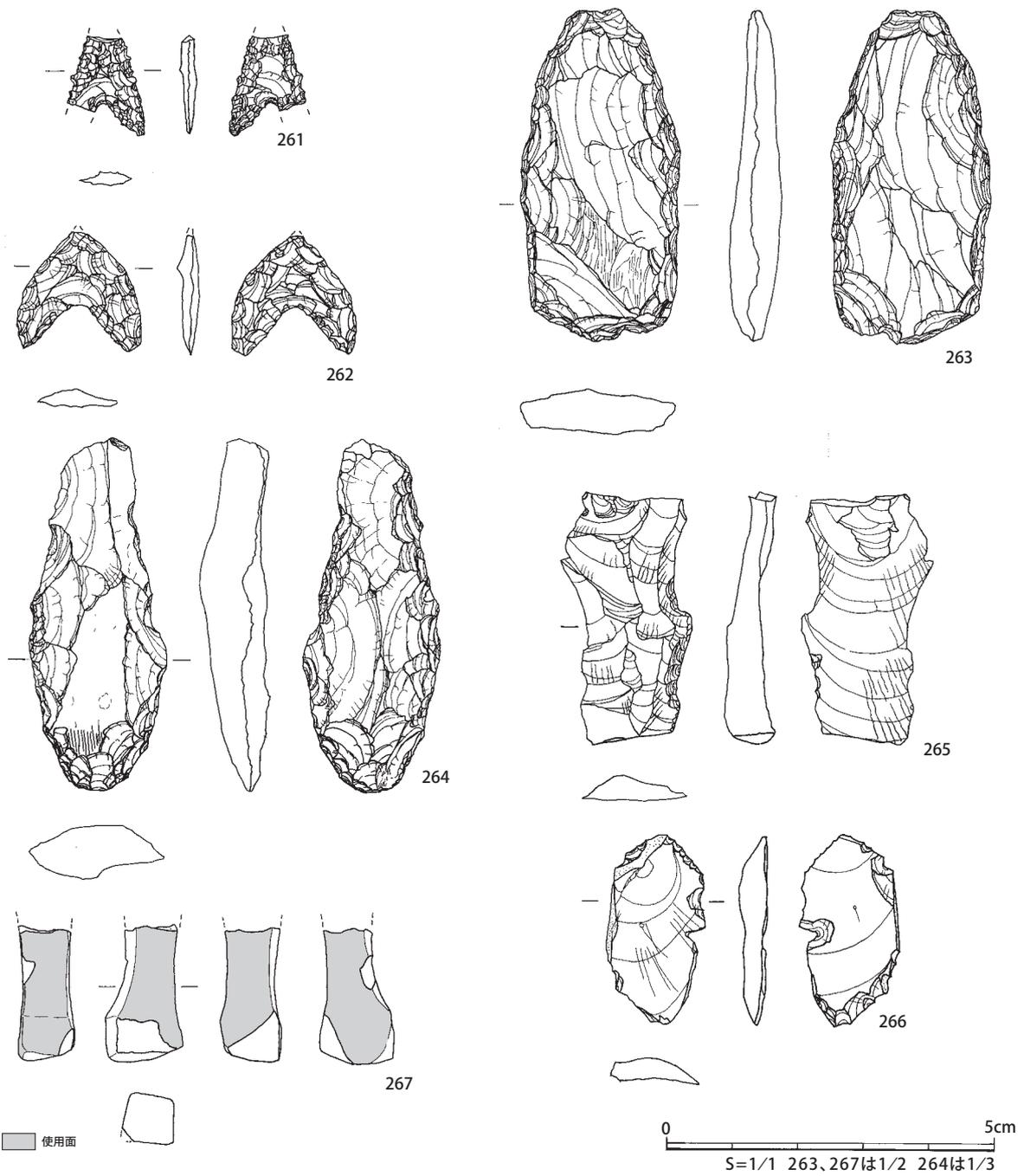




第94図 B-1区出土遺物実測図



第95図 B-1区出土遺物実測図



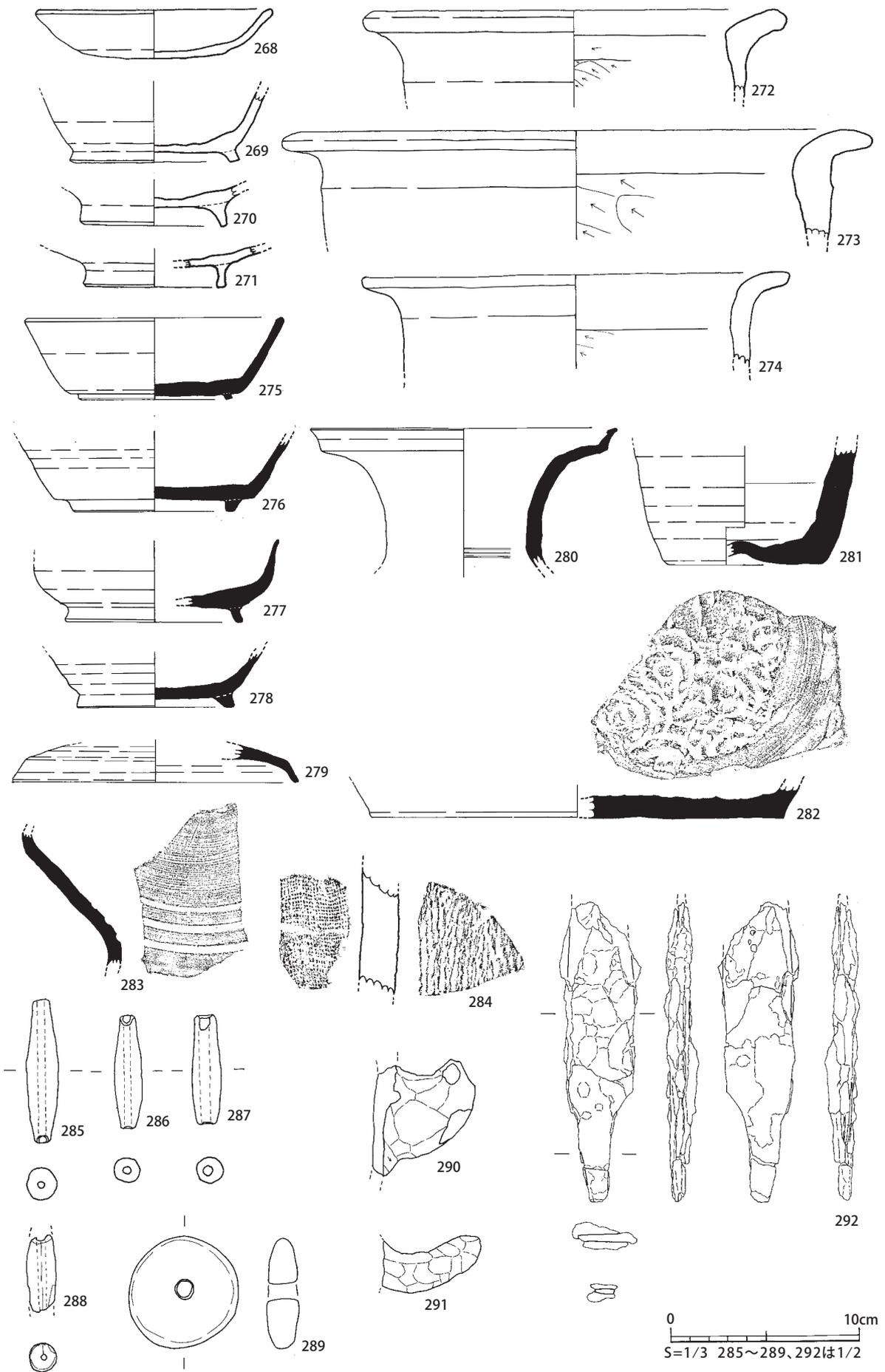
第96図 B-1区出土遺物実測図

4号ピット列【第84図】

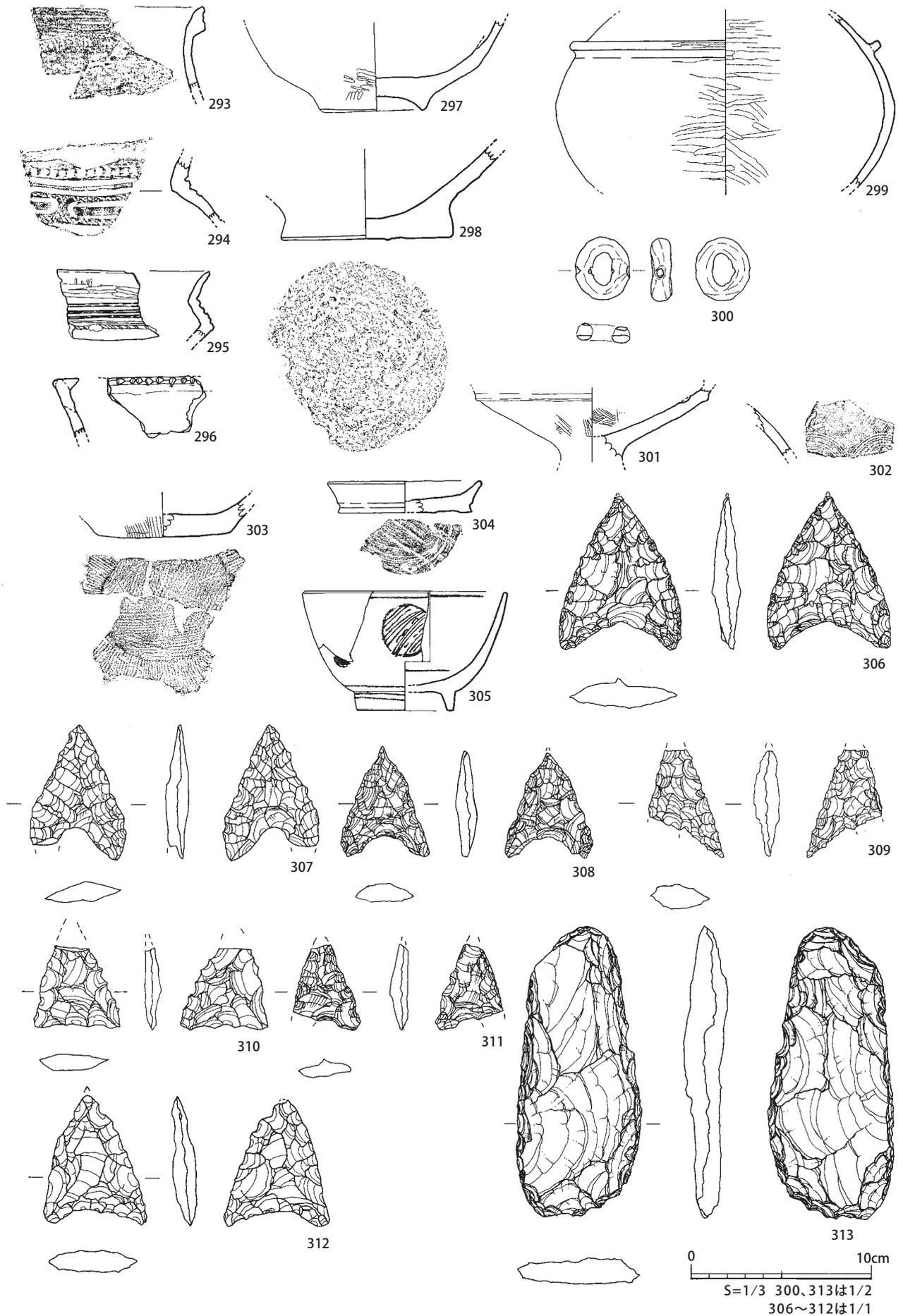
柱穴間は不均一である。17号溝に伴うものかは不明。

5号ピット列【第93図】

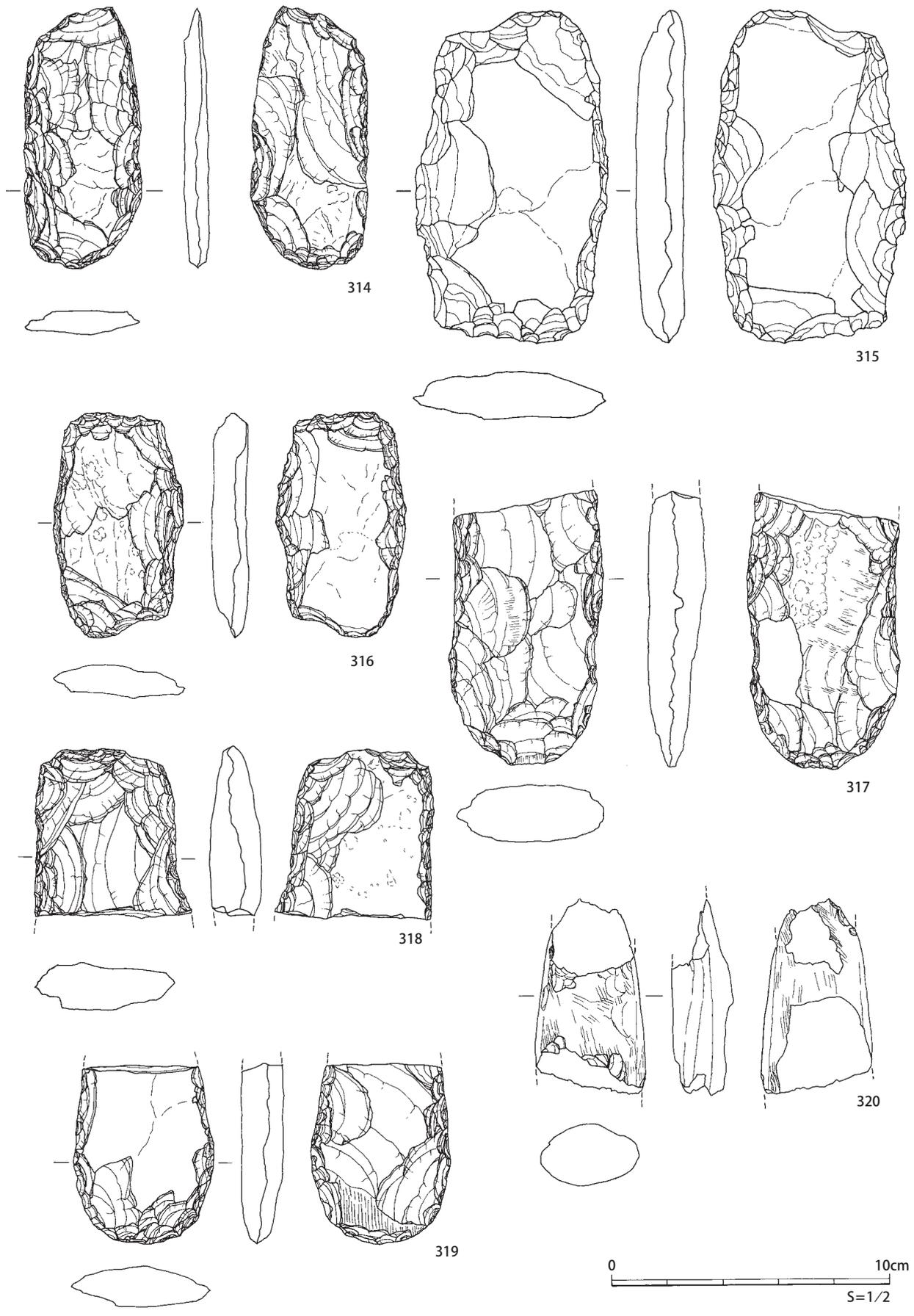
柱穴間2.0m。柵列の可能性もある。



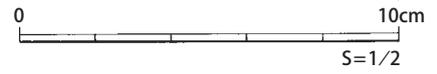
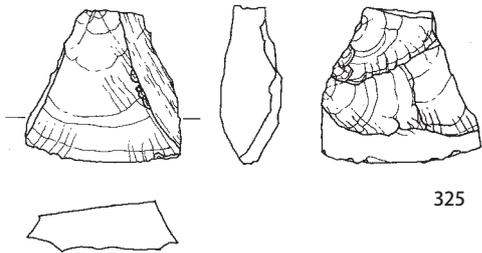
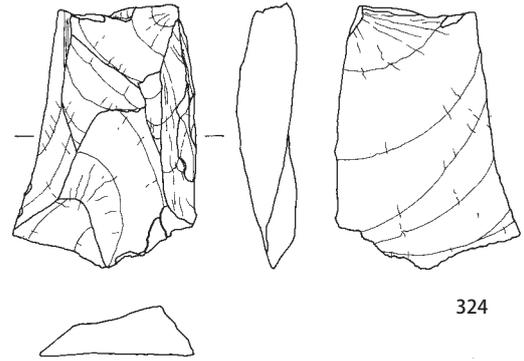
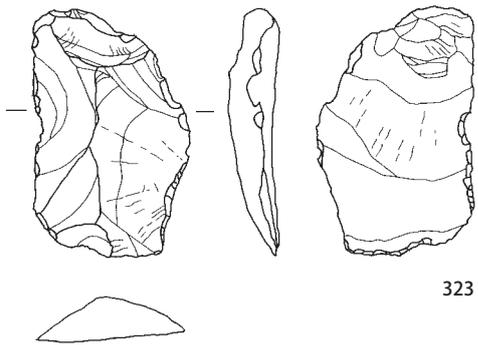
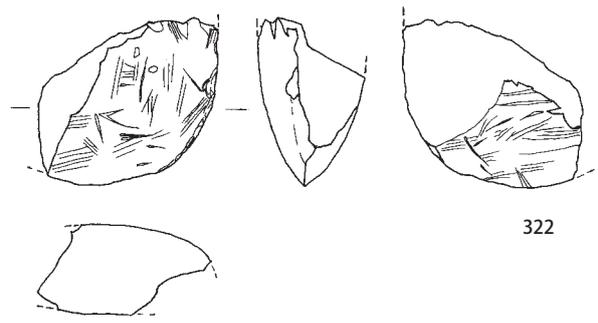
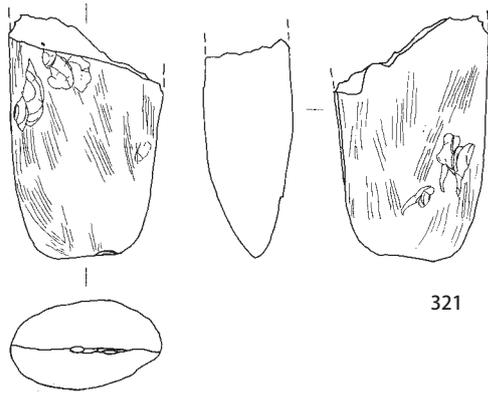
第97图 B-2区出土遗物实测图



第98図 B-2区出土遺物実測図



第99图 B-2区出土遗物实测图



第100図 B-2区出土遺物実測図



## B-3区

### 調査の成果

#### 【住居址】

##### 10号住居址【第102図】

11号住居址よりも古い。明確な壁周溝、柱穴などは検出されなかったが、硬化面がわずかに断面でみとめられることから、住居址であると想定する。

##### 11号住居址【第102図】

南北8.0mを測る。南側で一部不自然なプランがあり、住居址か土坑が切り合っているのではないかとも思われるが、不明である。中央で硬化面が検出されたが、明確な壁周溝、柱穴は検出されなかった。

#### 【道路】

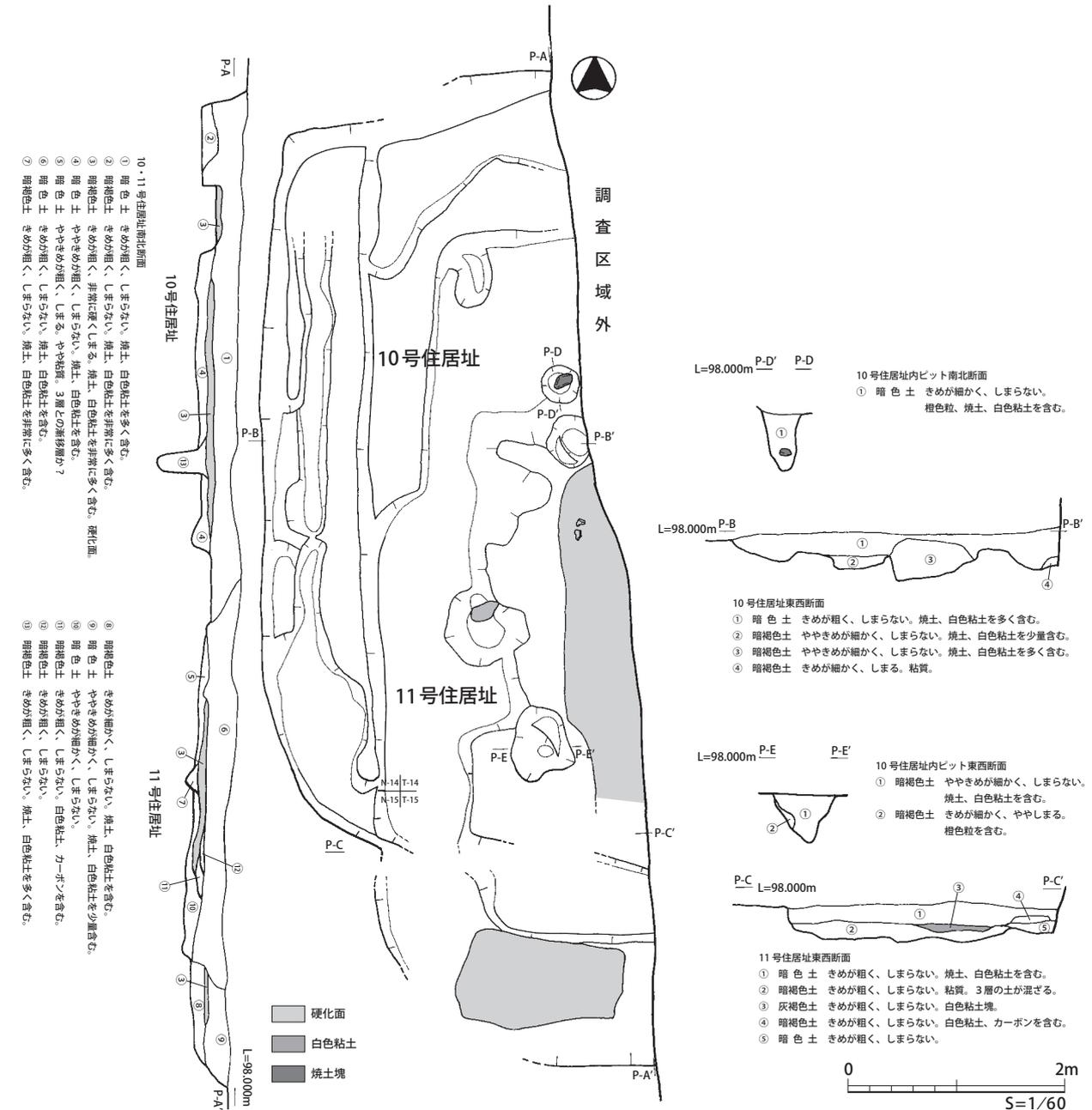
##### 20号道路【第104図】

ほぼ東西方向に延びる。残長32m、検出面幅1.6～4.0m、深さ0.9mを測る。複数の溝状遺構が併行して切り合って形成されているが、带状硬化面が存在することから、道路であると想定する。

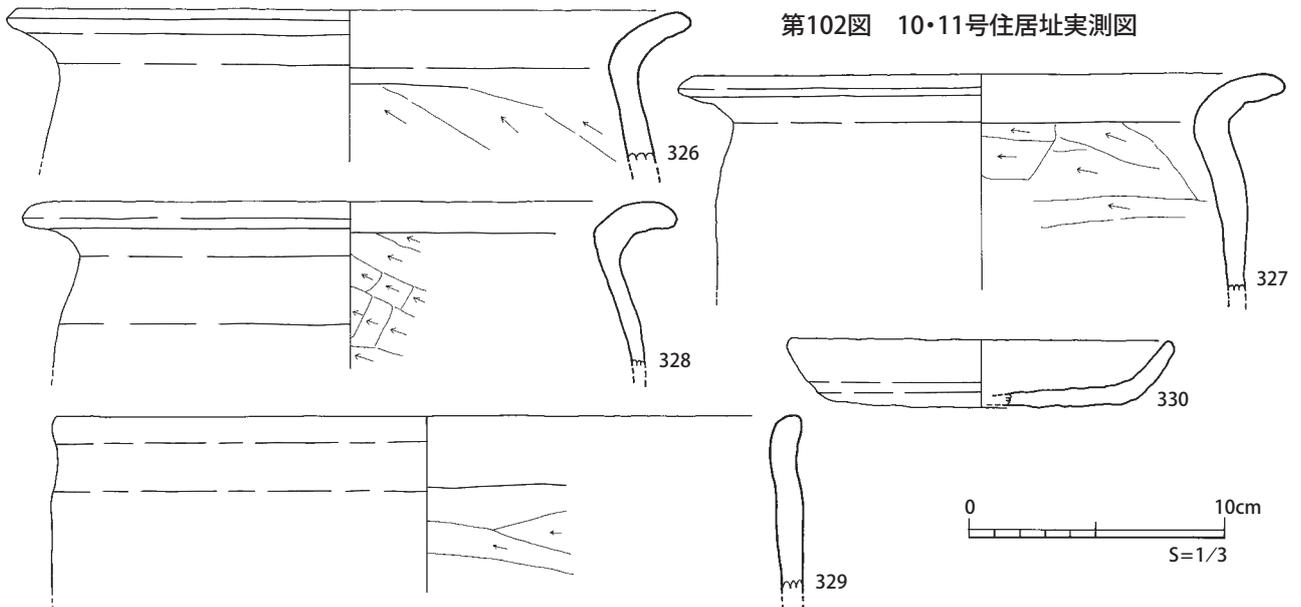
##### 21号道路【第105図】

西北西⇄東南東に延びる。残長13m、検出面幅2.0m、深さ0.4mを測る。部分的に带状硬化面が検出される。東端で土坑状の拡張となるが、これが別遺構かどうかは判断できない。遺構内出土の炭化物から390±30年BPの数値が得られており、15～16世紀まで利用されていた可能性がある。

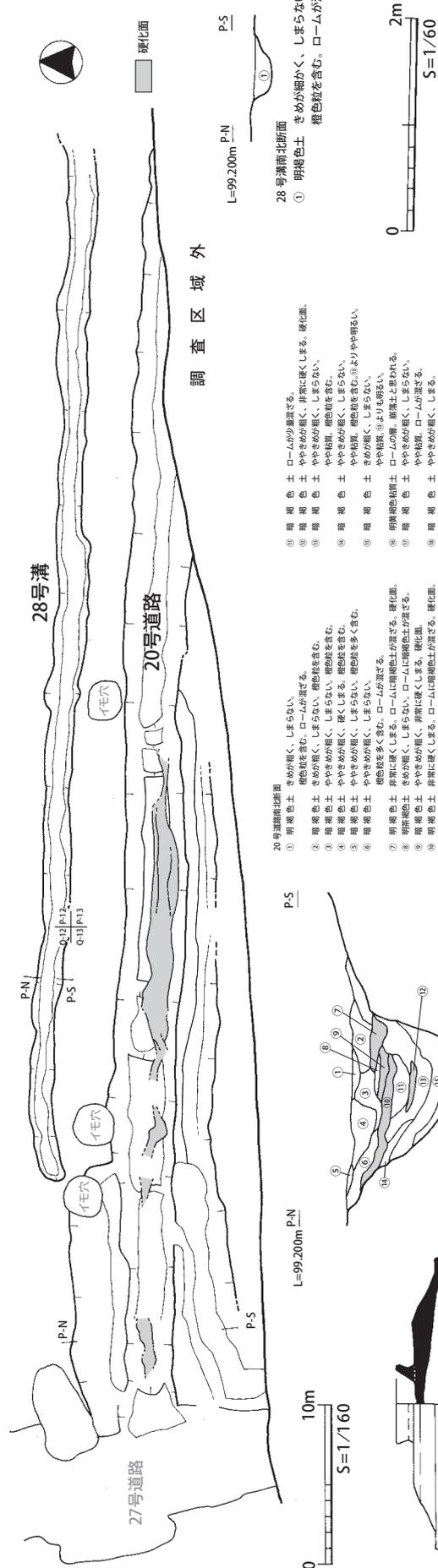
第101図 B-3区遺構配置図



第102図 10・11号住居址実測図

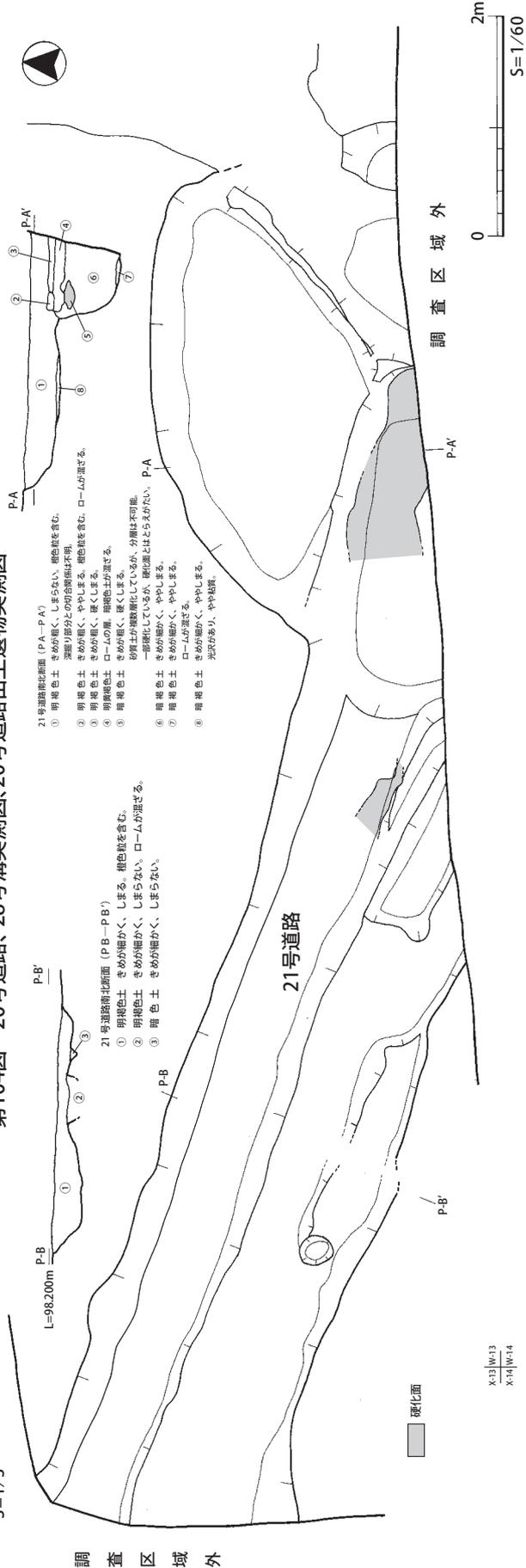


第103図 10・11号住居址出土遺物実測図



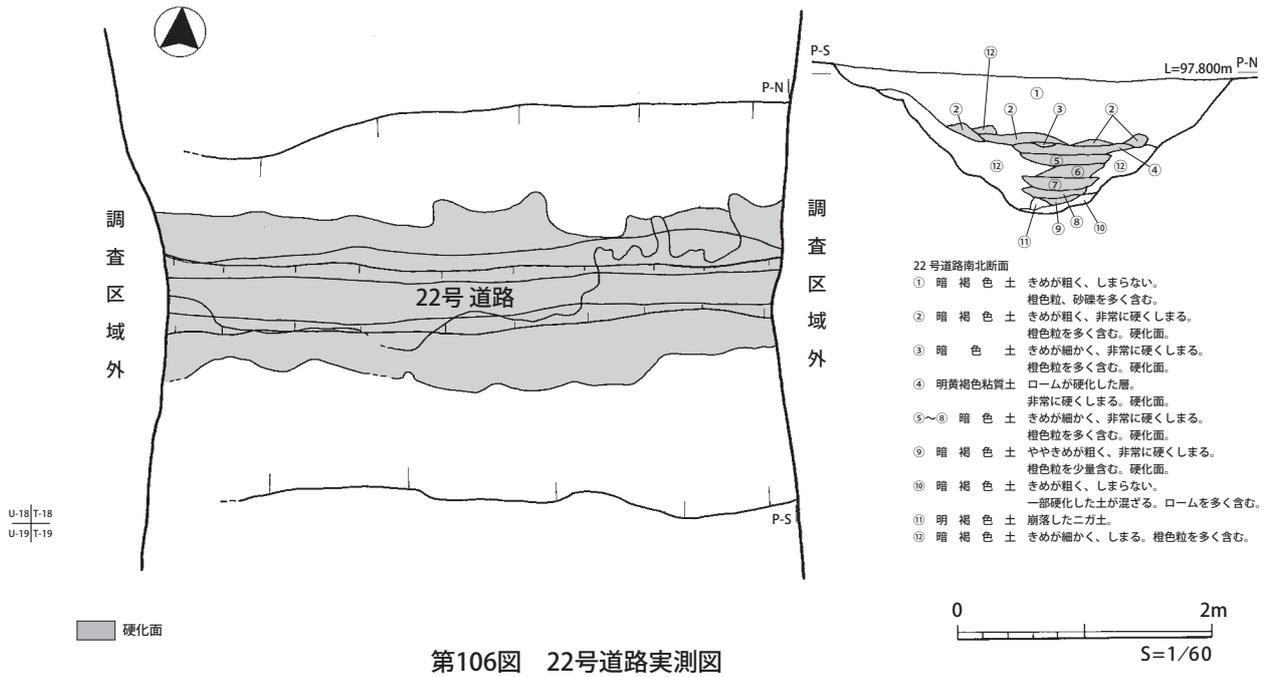
- 20号溝断面北断面
- ① 暗褐色土 きめが粗く、しまらない。
- ② 暗褐色土 きめが粗く、しまらない。暗褐色を含む。
- ③ 暗褐色土 ややきめが粗く、しまらない。暗褐色を含む。
- ④ 暗褐色土 ややきめが粗く、粗くしまる。暗褐色を含む。
- ⑤ 暗褐色土 ややきめが粗く、しまらない。暗褐色を多く含む。
- ⑥ 暗褐色土 ややきめが粗く、しまらない。暗褐色を多く含む。
- ⑦ 暗褐色土 非常に粗くしまる。ロームに暗褐色土が混ざる。硬化面。
- ⑧ 暗褐色土 きめが粗く、しまらない。ロームに暗褐色土が混ざる。
- ⑨ 暗褐色土 ややきめが粗く、非常に粗くしまる。硬化面。
- ⑩ 暗褐色土 非常に粗くしまる。ロームに暗褐色土が混ざる。硬化面。
- 21号溝断面北断面 (P-A-P-A')
- ① 暗褐色土 きめが粗く、しまらない。暗褐色を含む。
- ② 暗褐色土 きめが粗く、しまらない。暗褐色を含む。
- ③ 暗褐色土 きめが粗く、粗くしまる。暗褐色を含む。
- ④ 暗褐色土 きめが粗く、粗くしまる。暗褐色を含む。
- ⑤ 暗褐色土 きめが粗く、粗くしまる。暗褐色を含む。
- ⑥ 暗褐色土 きめが粗く、粗くしまる。暗褐色を含む。
- ⑦ 暗褐色土 きめが粗く、粗くしまる。暗褐色を含む。
- ⑧ 暗褐色土 きめが粗く、粗くしまる。暗褐色を含む。
- ⑨ 暗褐色土 きめが粗く、粗くしまる。暗褐色を含む。
- ⑩ 暗褐色土 きめが粗く、粗くしまる。暗褐色を含む。

第104図 20号道路、28号溝実測図、20号道路出土遺物実測図

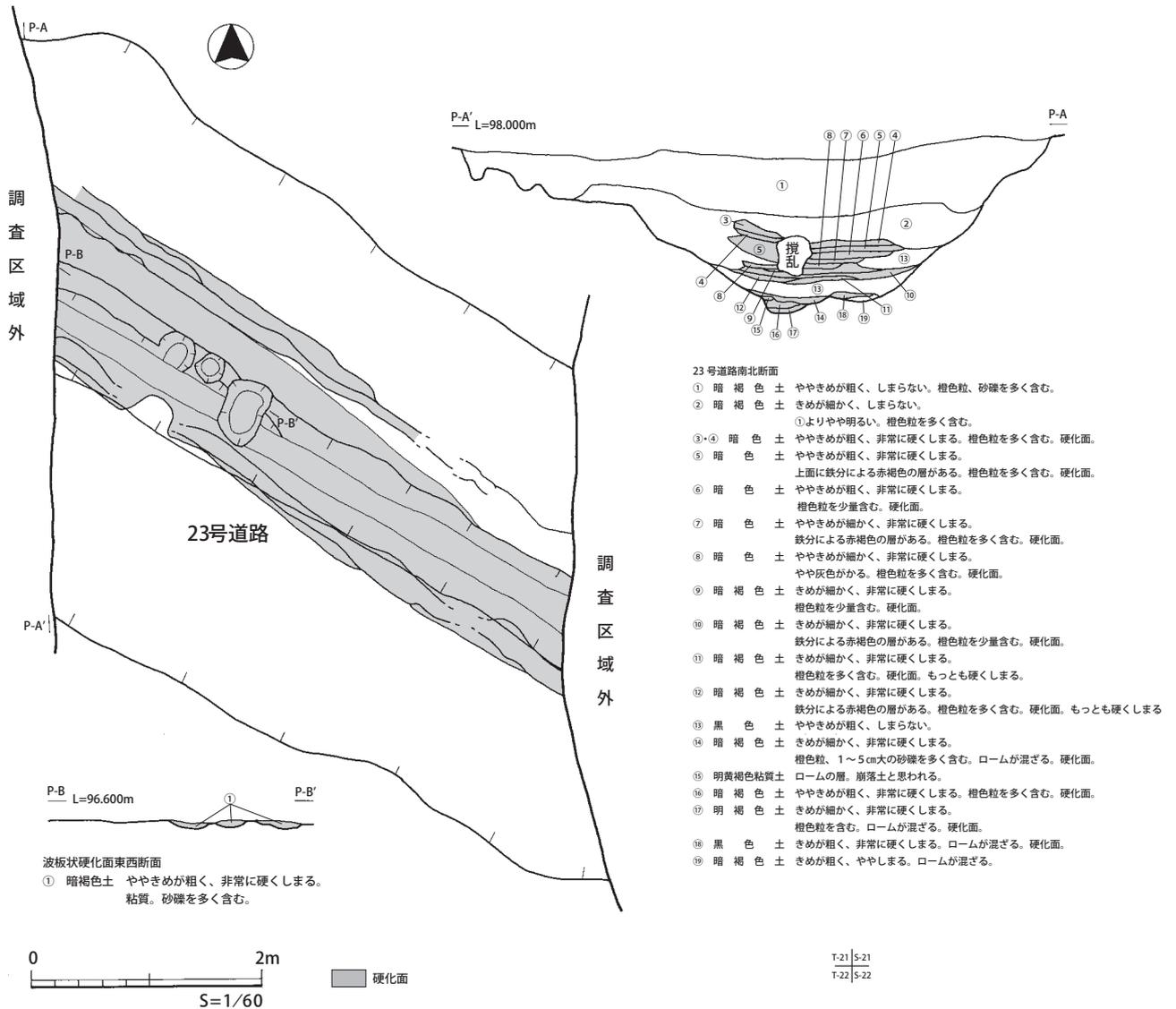


- 21号道路断面北断面 (P-B-P-B')
- ① 暗褐色土 きめが粗かく、しまらない。暗褐色を含む。
- ② 暗褐色土 きめが粗かく、しまらない。暗褐色を含む。
- ③ 暗褐色土 きめが粗かく、しまらない。暗褐色を含む。
- ④ 暗褐色土 きめが粗かく、しまらない。暗褐色を含む。
- ⑤ 暗褐色土 きめが粗かく、しまらない。暗褐色を含む。
- ⑥ 暗褐色土 きめが粗かく、しまらない。暗褐色を含む。
- ⑦ 暗褐色土 きめが粗かく、しまらない。暗褐色を含む。
- ⑧ 暗褐色土 きめが粗かく、しまらない。暗褐色を含む。
- ⑨ 暗褐色土 きめが粗かく、しまらない。暗褐色を含む。
- ⑩ 暗褐色土 きめが粗かく、しまらない。暗褐色を含む。

第105図 21号道路実測図



第106図 22号道路実測図



第107図 23号道路実測図

**22号道路【第106図】**

東西方向に延びる。検出面幅3.0m、底部幅0.3m、深さ1.1mを測る。側溝、波板状凹凸面などは検出されず、中央部分だけに複数の帯状硬化面が層状に重なって検出された。遺構内出土の炭化物から140±30年BPの数値が得られており、近世まで利用されていた可能性が示される。

**23号道路【第107図】**

北西⇨南東方向に延びる。検出面幅4.0m、底部幅0.25m、深さ1.1mを測る。側溝、波板状凹凸面などは検出されず、中央部分だけに複数の帯状硬化面が層状に重なって検出された。130±30年BPの数値が得られている。21～23号道路は近世、近代まで使用されていた可能性がある。

**24号道路【第108図】**

北北東⇨南南西方向に延びる。検出面幅2.5m、底部幅0.9m、深さ0.85mを測る。側溝、波板状凹凸面などは検出されず、中央部分だけに帯状硬化面が検出された。

**25号道路【第109・110図】**

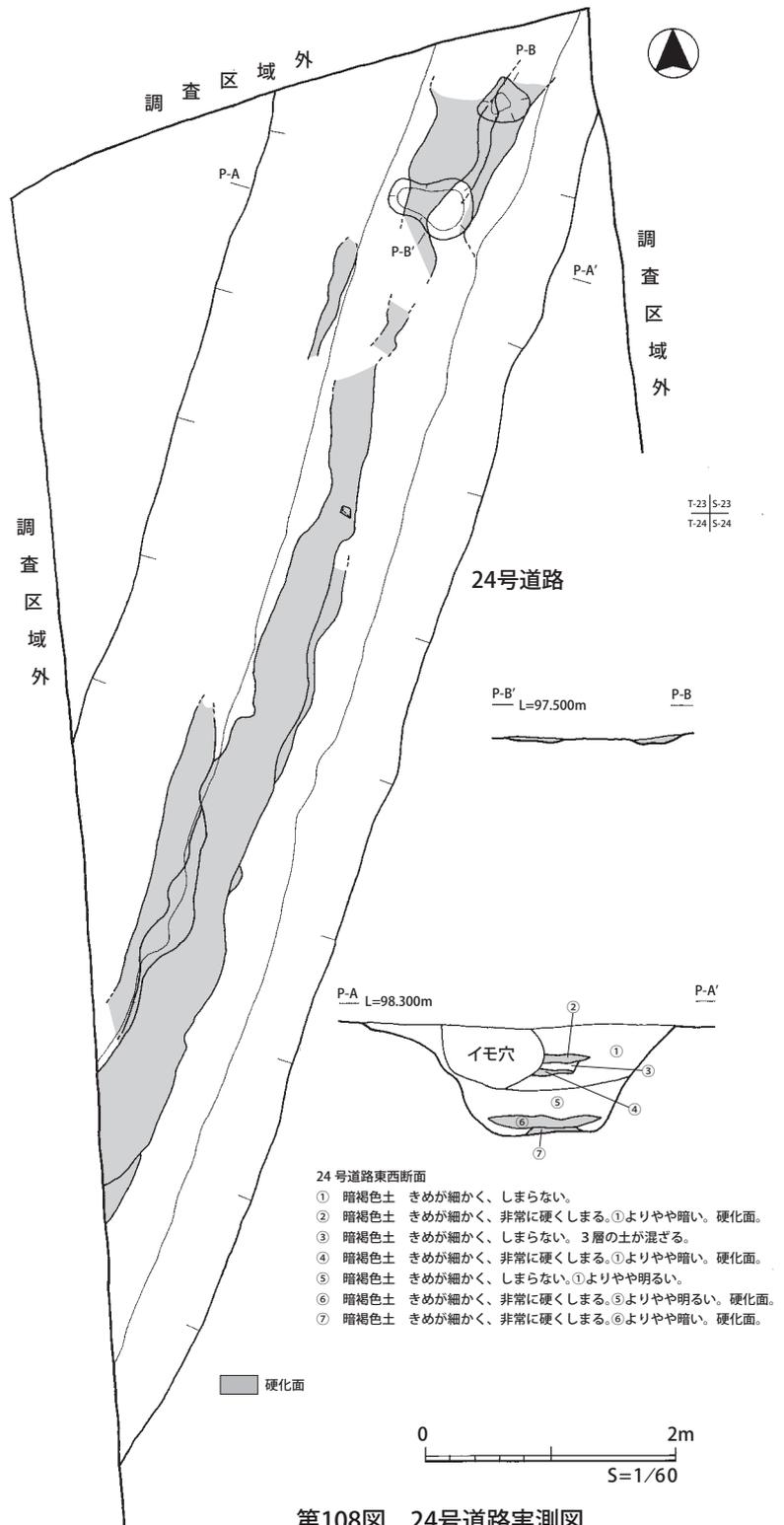
東西方向に延びる。検出面幅1.1～1.5m、底部幅0.9m、深さ0.1mを測る。底部は土坑状でいびつであるが、一部帯状硬化がみつめられる。25、26号道路、29～31号溝は併行して検出されており、これらの溝状遺構は西端部で南北方向の溝状遺構、もしくは土坑と切り合っており、関連があるものと思われる。また調査区東側の20号道路と同一の遺構である可能性もあるが、27号道路、30号溝で分断されているため判断できない。

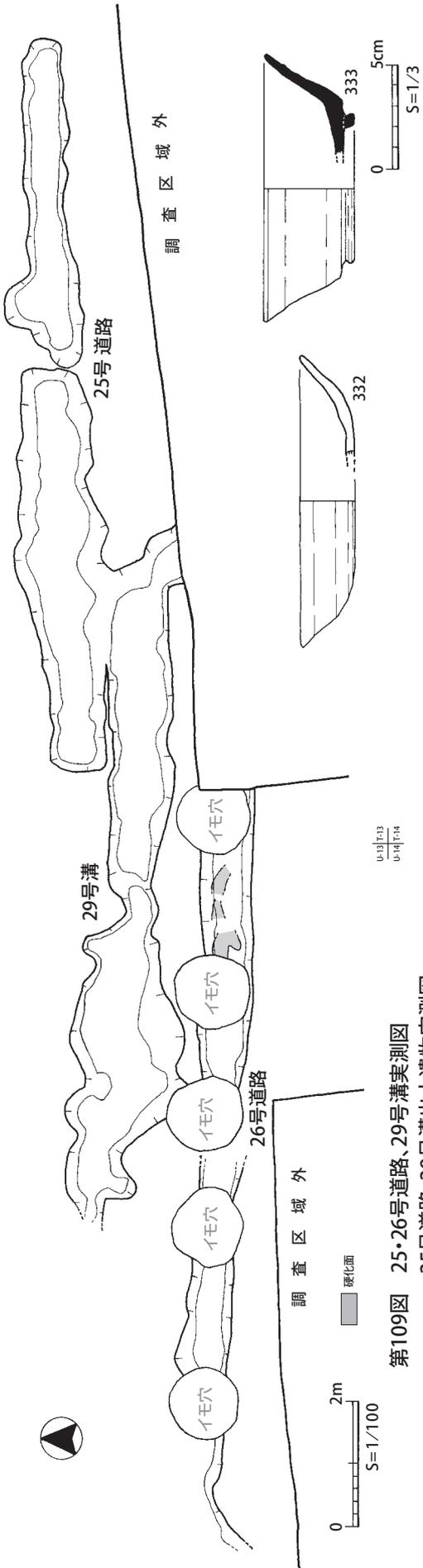
**26号道路【第109・110図】**

東西方向に延びる。検出面幅は0.8m、底部幅0.5m、深さ0.1mを測る。

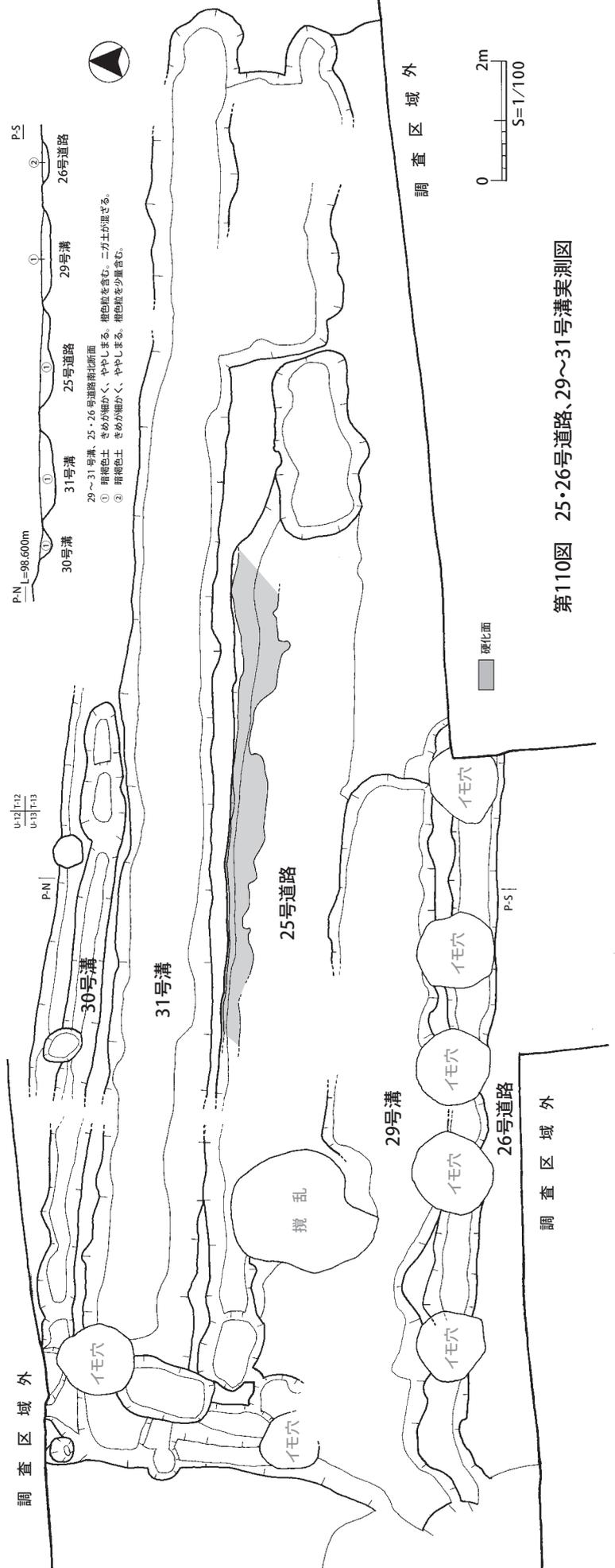
**27号道路【第111図】**

北北西⇨南南東方向に延びる。検出面幅1.8～3.1m、底部幅0.4～0.9m、深さ0.9mを測る。土坑状に拡張されており、全体のプランはわかりにくい。帯状硬化面が存在することから、道路状遺構であることが推測できる。埋土中に礫の集中がみつめられる。20号道路よりも新しいが、直交するものと考えられ、硬化面が入り乱れていることから丁字路を形成している可能性もある。





第109図 25・26号道路、29号溝実測図  
25号道路、29号溝出土遺物実測図



第110図 25・26号道路、29～31号溝実測図

## 【溝】

### 28号溝【第104図】

東西方向に延び、26mが残存する。検出面幅0.8m、底部幅0.4m、深さ1.2mを測る。20号道路に併行して検出されたことから、関連した遺構である可能性がある。

### 29号溝【第109・110図】

東西方向に延びる。25号道路と切り合っており、検出面幅3.2m、底部幅2.4m、深さ0.1mを測る。底部は土坑状でいびつである。

### 30号溝【第110図】

東西方向に延びる。残長6.5m、検出面幅1.2m、底部幅1.1m、深さ0.1mを測る。

### 31号溝【第110図】

東西方向に延びる。残長24.5m、検出面幅2.6～3.6m、底部幅1.1m、深さ0.1mを測る。東端で一部土坑状に拡張する。

### 32号溝【第111図】

北北西⇨南南東方向に延び、検出面幅0.7～1.5m、深さ0.3mを測る浅い溝状遺構であり、硬化面はみとめられないが、27号道路と併行して検出されたことから、関連する遺構の可能性がある。

### 33号溝【第112図】

北北西⇨南南東方向に延びる。検出面幅は0.4m、底部幅0.2m、深さ0.15mを測る。

### 34号溝【第112図】

西北西⇨東南東方向に延びる。検出面幅は0.4m、底部幅0.2m、深さ0.15mを測る。

## 【土坑】

### 13号土坑【第111図】

長軸2.2m×短軸1.2mのいびつな平面形状の土坑。32号溝と切り合っている。

### 14号土坑【第113図】

検出面での径3.6mの円形の土坑。深さ1.6mを測る。すり鉢状に掘りこまれているが、遺構の性格は不明。埋土は上半分はほぼ同一であり、短期間に埋められた可能性がある。

### 15号土坑【第113図】

深さ0.9mを測る。すり鉢状に掘りこまれているが、遺構の性格は不明。

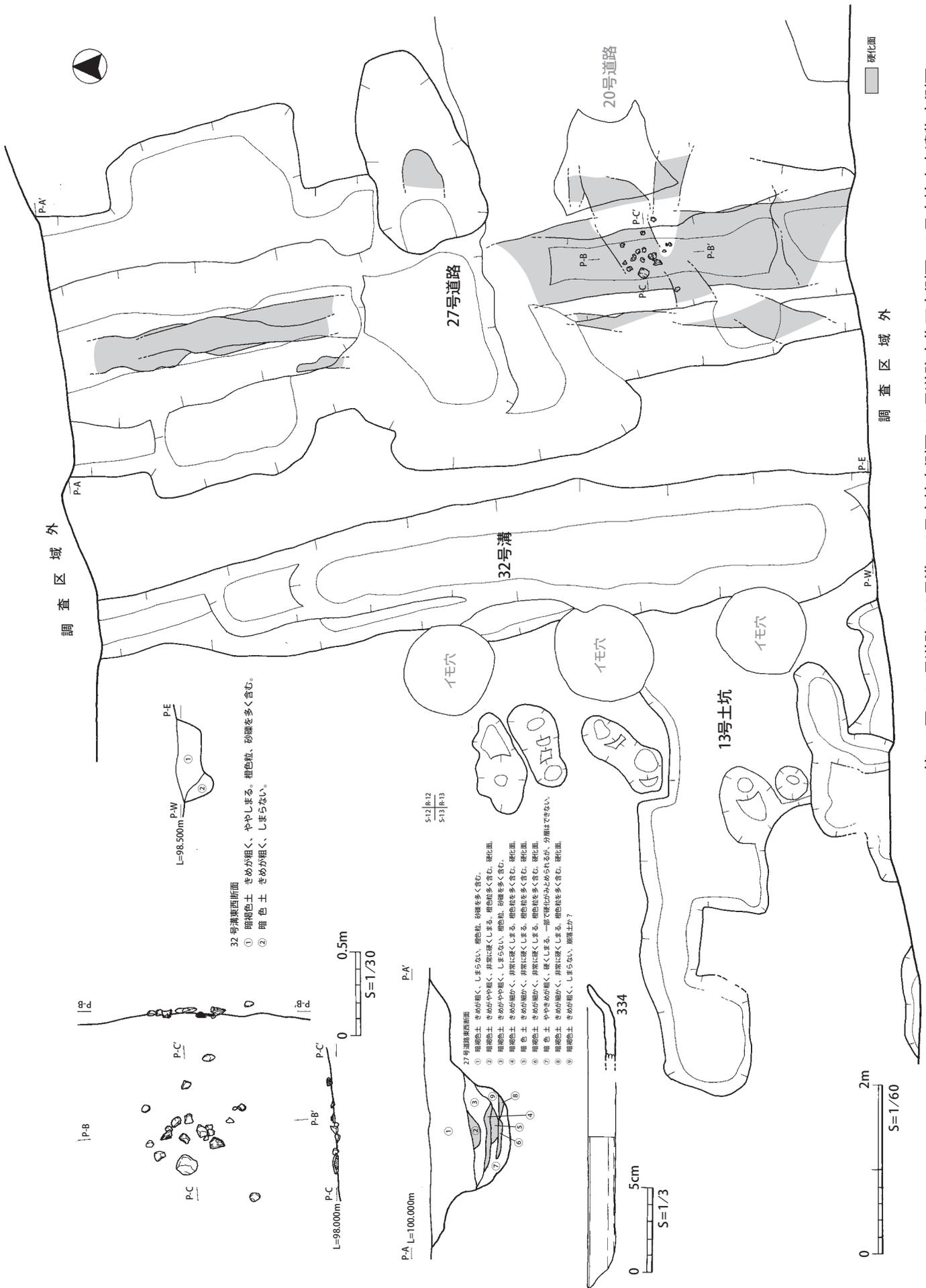
### 16号土坑【第114図】

長軸1.3m×短軸1.0m、深さ0.2mを測る浅い土坑。遺構の性格は不明。

## 【焼土集中】

### 2号焼土集中【第114図】

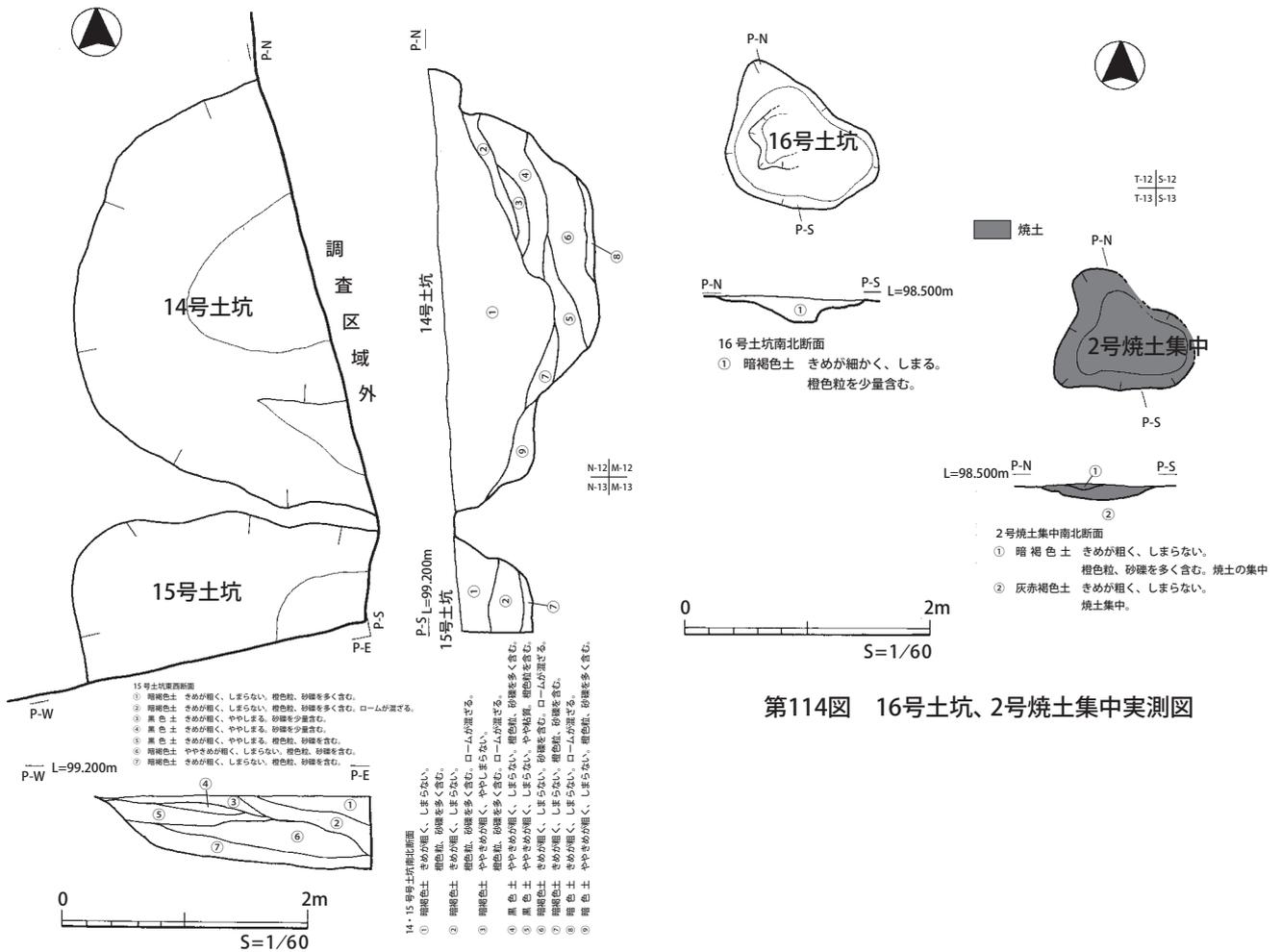
長軸1.3m、深さ0.2mを測るいびつで浅い土坑に、焼土の集中がみとめられる。



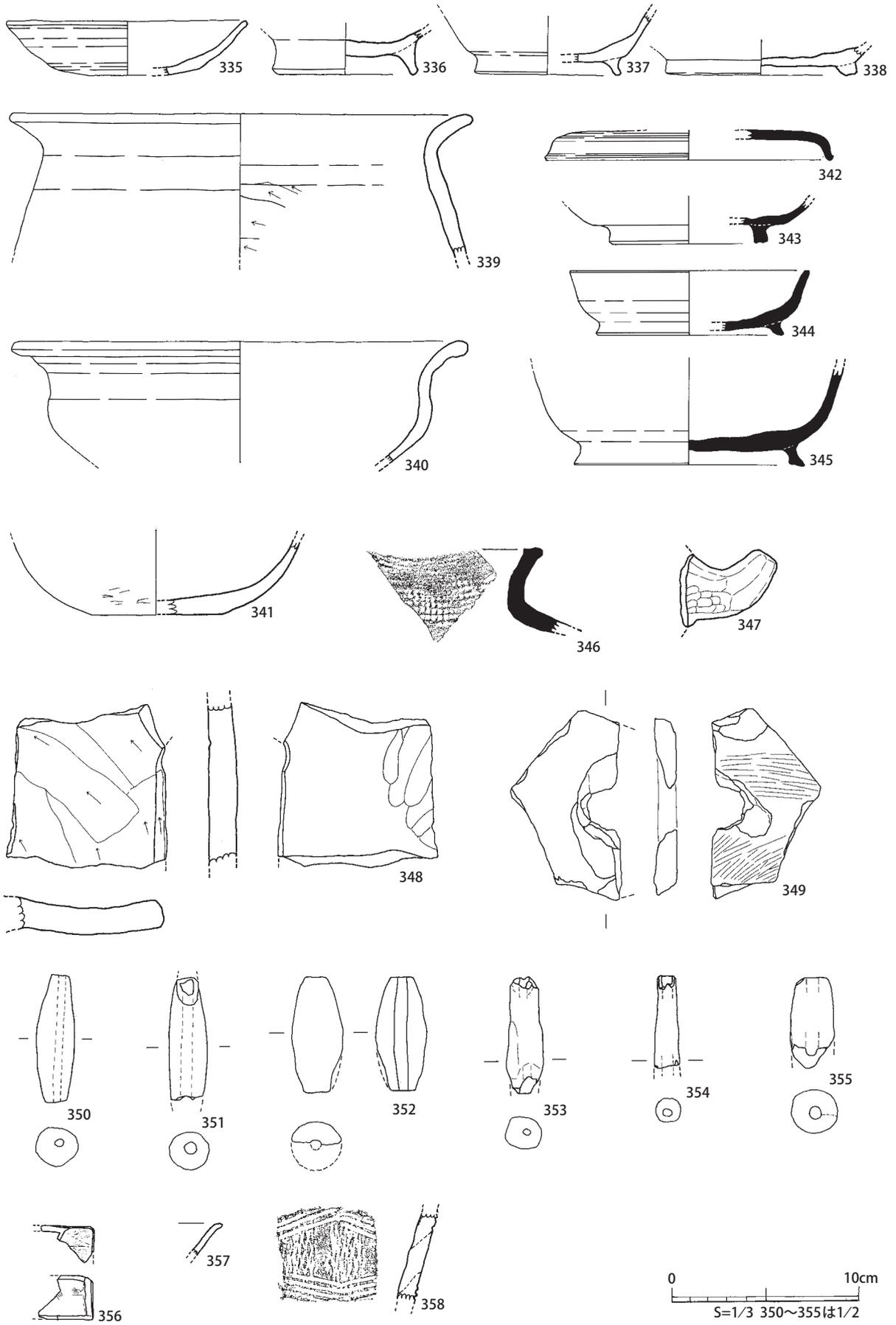
第111図 27号道路、32号溝、13号土坑実測図、27号道路内集石実測図、13号土坑出土遺物実測図



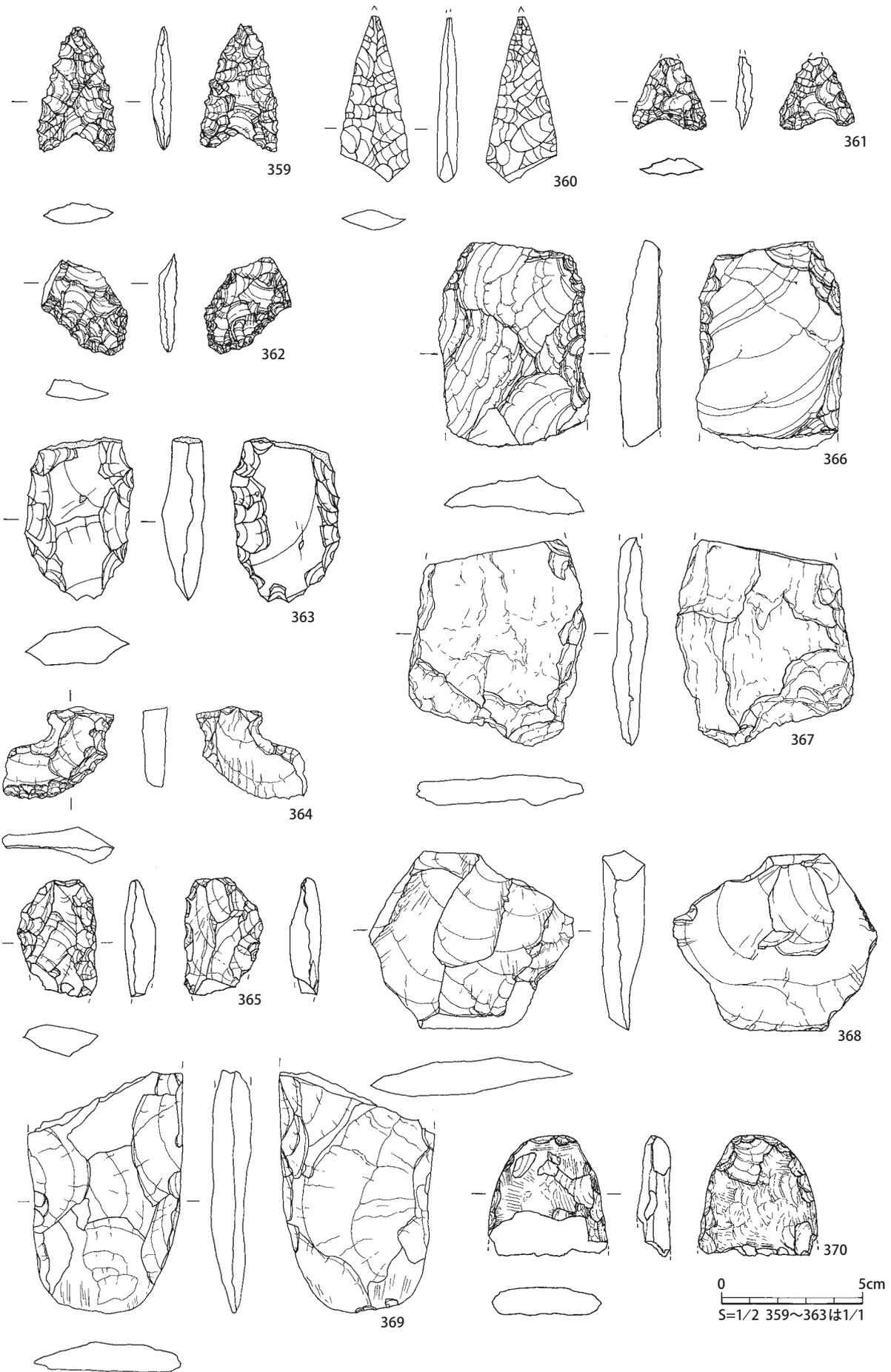
第112図 33・34号溝実測図



第113図 14・15号土坑実測図



第115図 B-3区出土遺物実測図



第116图 B-3区出土遗物实测图

## B-4・5区

### 調査の成果

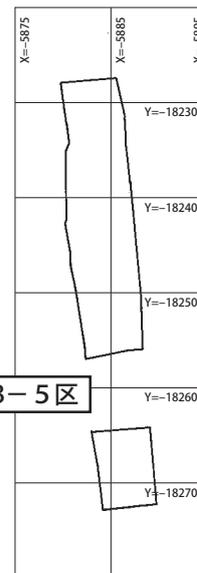
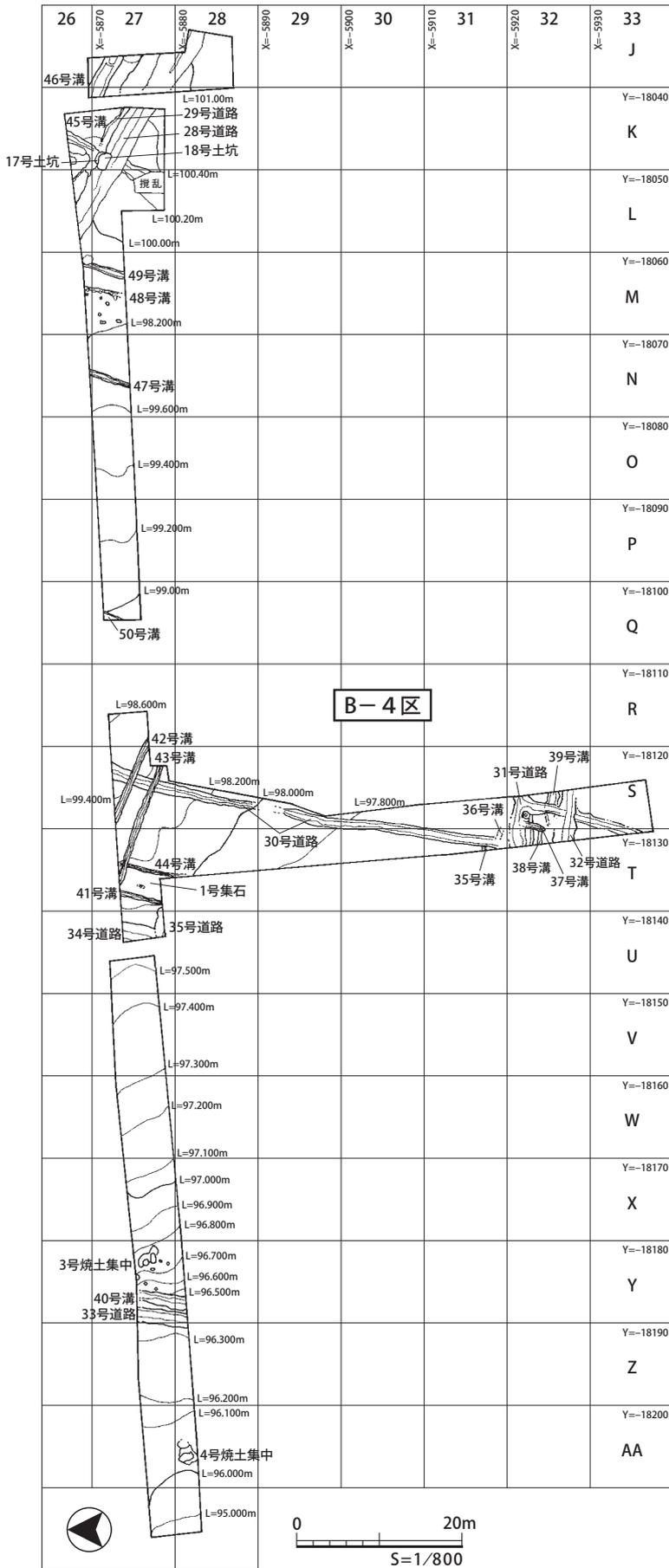
#### 【道路】

#### 28号道路【第118～121図】

北西⇔南東方向に延びる。残長29m、検出面幅2.5～3.0m、底部幅0.5m、深さ1.3mを測る。溝状の道路で、複数の硬化面があることから、頻繁な利用があったと推測される。側溝は確認されないが、波板状凹凸面がみとめられる。最上面の硬化面中から近世の遺物が出土している。道路としては波板状凹凸面など古代道路の特徴を持つが、一帯は戦争中飛行場の敷地内であったことから、その後も使われつづけたのではないかとも思われる。

#### 29号道路【第121図】

28号道路の北側に併行して延びる。28号道路より古いと考えられ、東側で带状硬化面が検出されたことにより、別遺構と認識することができる。規格は不明。

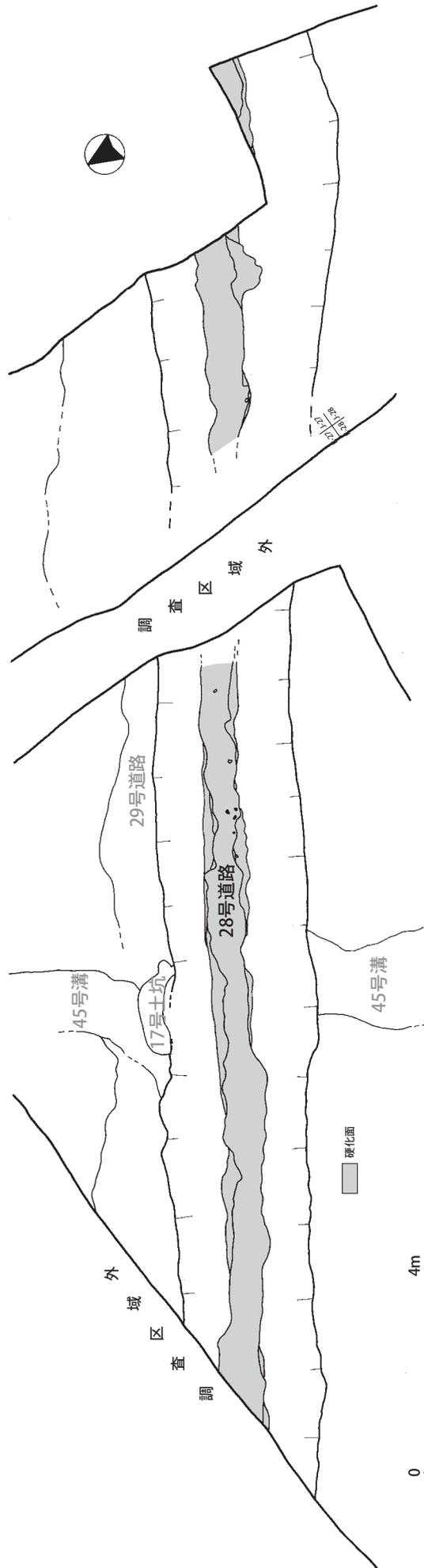


※B-5区に道路は存在せず

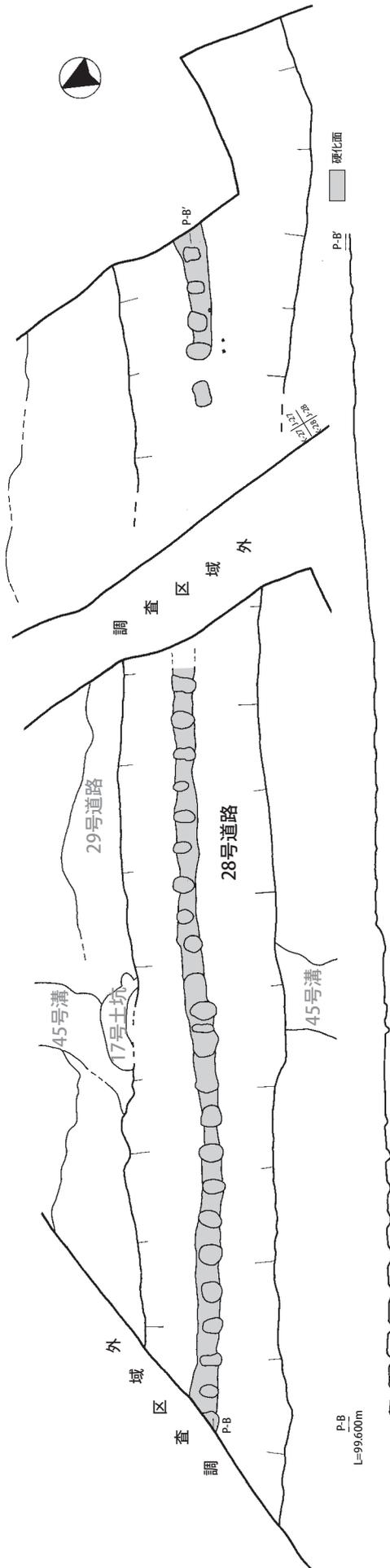
第117図 B-4・5区遺構配置図



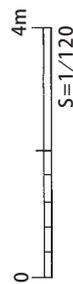
第118図 28号道路硬化面1枚目検出状況



第119図 28号道路硬化面2~4枚目検出状況



第120図 28号道路波板状凹凸面検出状況



28号道路南北断面

- ① 暗褐色土 きめが粗く、しまらない。褐色粒、砂礫を含む。
- ② 褐色土 きめが粗く、しまらない。褐色粒、砂礫を含む。
- ③ 灰褐色土 きめが粗く、しまらない。褐色粒を含む。
- ④ 灰褐色土 きめが粗く、非常に硬くしまる。硬化面。
- ⑤ 灰褐色土 きめが細かく、非常に硬くしまる。硬化面。



- ⑥ 暗灰褐色土 きめが細かく、非常に硬くしまる。部分の沈着がみとめられる。褐色粒を含む。硬化面。
- ⑦ 灰褐色土 きめが細かく、非常に硬くしまる。褐色粒を含む。硬化面。
- ⑧ 暗褐色土 きめが粗く、非常に硬くしまる。褐色粒、褐色粒を含む。硬化面。
- ⑨ 暗灰褐色土 きめが粗く、しまらない。砂礫を含む。褐色粒をブロック状に含む。
- ⑩ 暗褐色土 きめが細かく、非常に硬くしまる。褐色粒をブロック状に含む。硬化面。
- ⑪ 黒褐色土 きめが細かく、しまらない。褐色粒、砂礫を含む。

29号道路

28号道路

45号溝

17号土坑

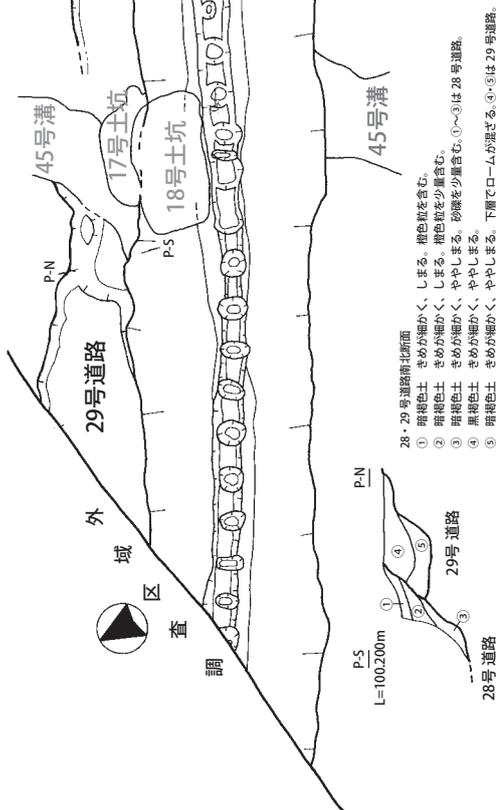
18号土坑

45号溝

29号道路

28号道路

第121図 28号道路完掘状況 29号道路硬化面検出状況



28・29号道路南北断面

- ① 暗褐色土 きめが細かく、しまる。褐色粒を含む。
- ② 暗褐色土 きめが細かく、しまる。褐色粒を少量含む。
- ③ 暗褐色土 きめが粗く、ややしまる。砂礫を少量含む。①~③は28号道路。
- ④ 黒褐色土 きめが細かく、ややしまる。
- ⑤ 暗褐色土 きめが細かく、ややしまる。下層で口-Aが混ざる。④・⑤は29号道路。

28号道路

29号道路

28号道路

29号道路



### 30号道路【第122図】

北北東⇨南南西方向に伸び、48mが残存する非常に長く伸びる溝状遺構。検出面幅0.7～1.6m、底部幅0.6m、深さ0.65mを測る。底部で硬化面がみとめられるため、道路として使われたと考えられる。

### 31号道路【第123図】

北北東⇨南南西方向に伸びる。残長14.8m、検出面幅1.2m、底部幅0.5～0.8m、深さ1.0mを測る。幅0.4mの硬化面が検出された。32号道路よりも古い。東西方向にも伸びることから、丁字路ではないかと思われる。

### 32号道路【第123図】

東西方向に伸びる。残長6.0m、検出面幅1.2～2.0m、底部幅0.6m、深さ0.9mを測る。西側では削平を受けている。

### 33号道路【第124図】

北北東⇨南南西方向に伸びる。残長5.8m、検出面幅1.75m、底部幅0.75～0.9m、深さ0.7mを測る。側溝、波板状凹凸面などは検出されないが、複数の硬化面がみとめられるため、道路として使われたと考えられる。

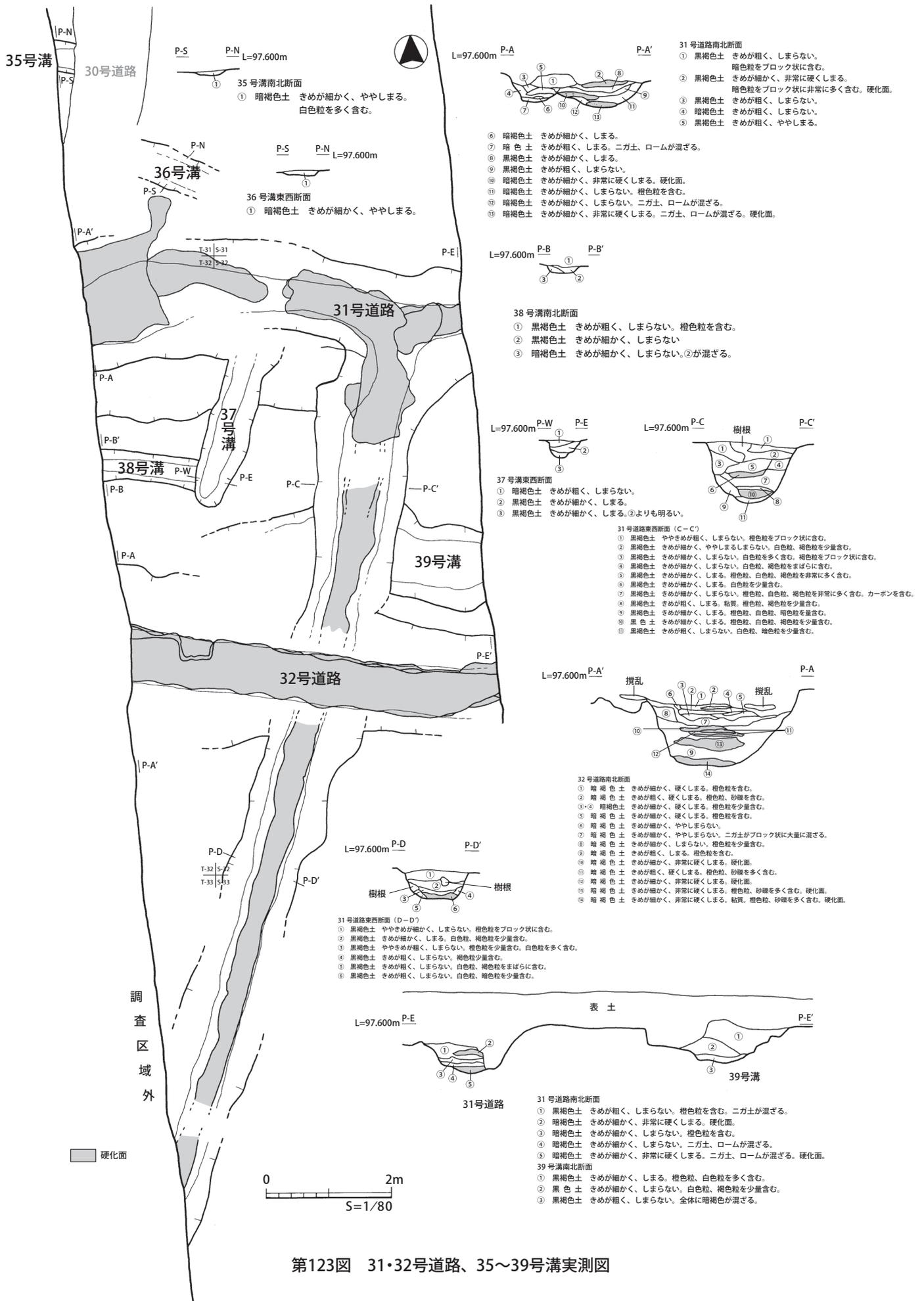
### 34号道路【第125図】

北北東⇨南南西方向に伸びる。残長4.0m、底部幅1.0m、深さ0.9mを測る。西側が調査区域外であり、詳細は不明。複数の硬化面がみとめられるため、道路として使われたと考えられる。35号道路に切られている。

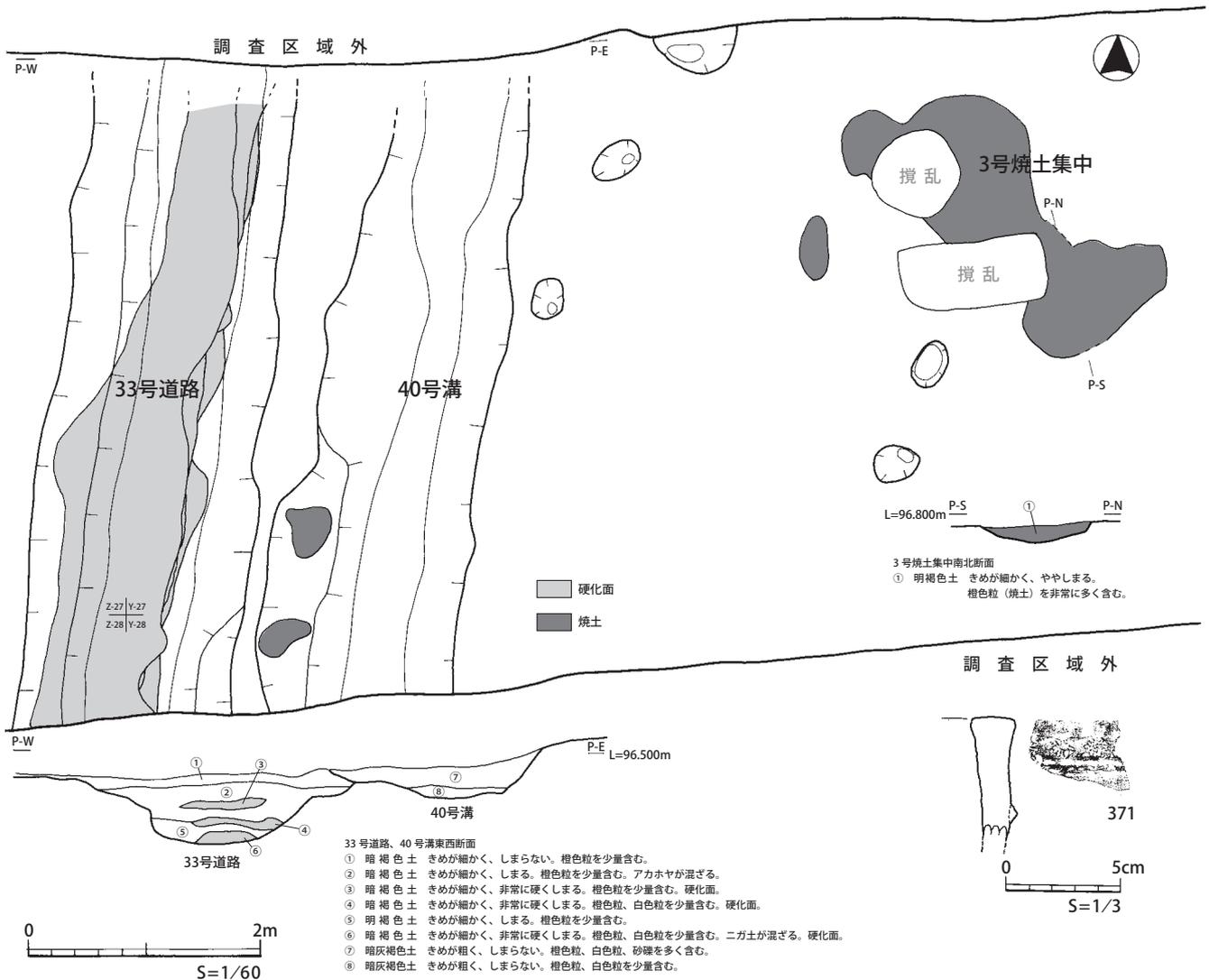
### 35号道路【第125図】

東西方向に伸びる。深さ1.1mを測る。遺構のほとんどが調査区域外であり、詳細は不明。

第122図 30号道路実測図



第123図 31・32号道路、35～39号溝実測図



第124図 33号道路、40号溝、3号焼土集中実測図、33号道路出土遺物実測図

【溝】

35号溝【第123図】

検出面幅0.45mを測る。30号道路により削平を受けており、ほとんど残存しない。

36号溝【第123図】

検出面幅0.6m、底部幅0.35m、30号道路により削平を受けており、ほとんど残存しない。

37号溝【第123図】

残長14.8m、検出面幅0.6m、底部幅0.4m、深さ0.3mを測る。31号道路により削平を受けている。

38号溝【第123図】

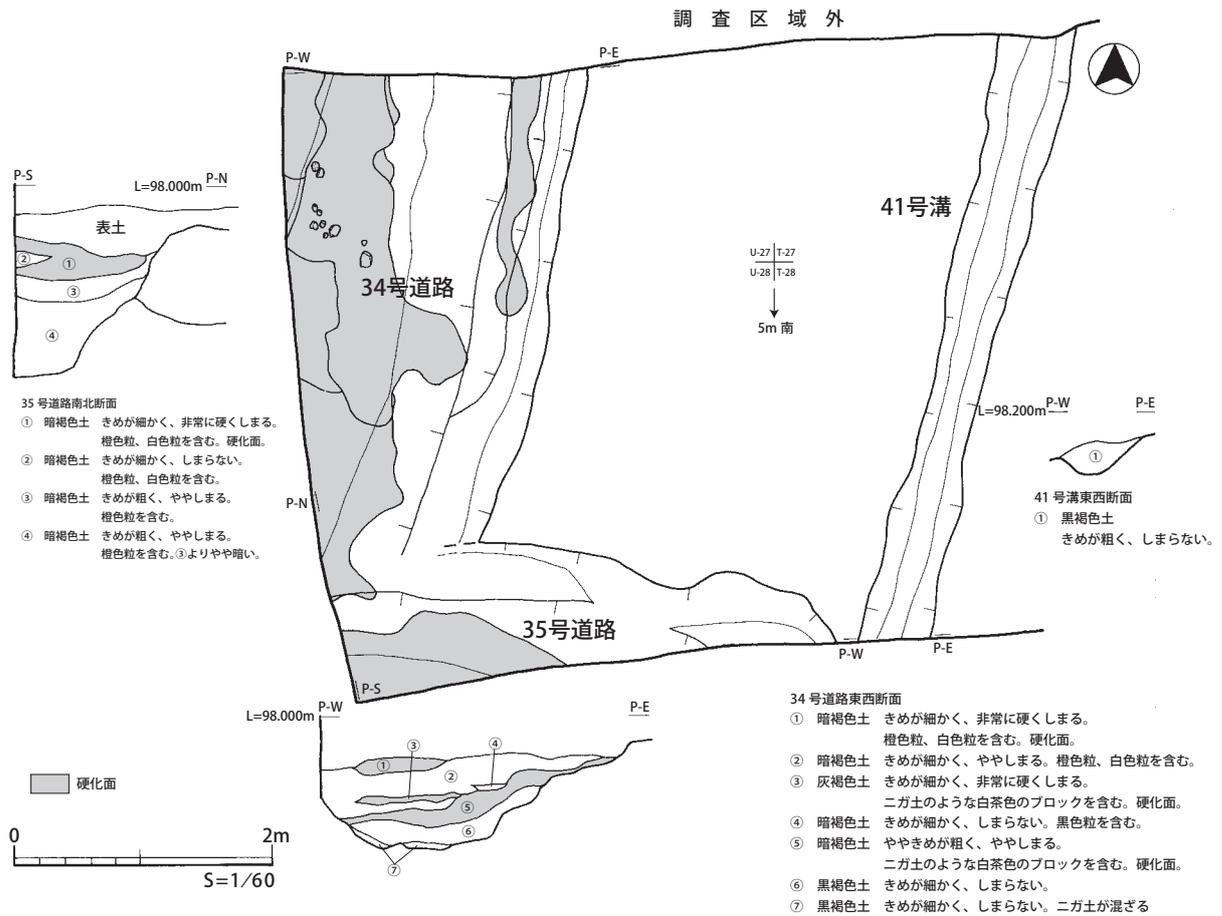
検出面幅0.4m、底部幅0.2m、深さ0.3mを測る。37号溝に切られている。

39号溝【第123図】

検出面幅1.6m、底部幅0.8m、深さ0.6mを測る。31号道路により削平を受けておりほとんど残存しない。

40号溝【第124図】

33号道路に併行する。残長5.8m、検出面幅1.25～1.7m、底部幅0.5m、深さ0.4mを測る。硬化面はみとめられないが、33号道路と関連すると思われる。



第125図 34・35号道路、41号溝実測図

41号溝【第125図】

北北東⇄南南西方向に延びる。残長5.0m、検出面幅0.35～0.45m、底部幅0.1m、深さ0.3mを測る。

42号溝【第126図】

西北西⇄東南東方向に延びる。残長7.7m、検出面幅0.5m、底部幅0.3m、深さ0.2mを測る。

43号溝【第126図】

西北西⇄東南東方向に延びる。残長11.0m、検出面幅0.5m、底部幅0.2m、深さ0.3mを測る。42号溝と併行しており、30号道路よりも新しい。

44号溝【第126図】

30号道路と併行して北北東⇄南南西方向に延びる。残長7.6m、検出面幅0.4m、底部幅0.2m、深さ0.6mを測る。43号溝に切られている。

45号溝【第127図】

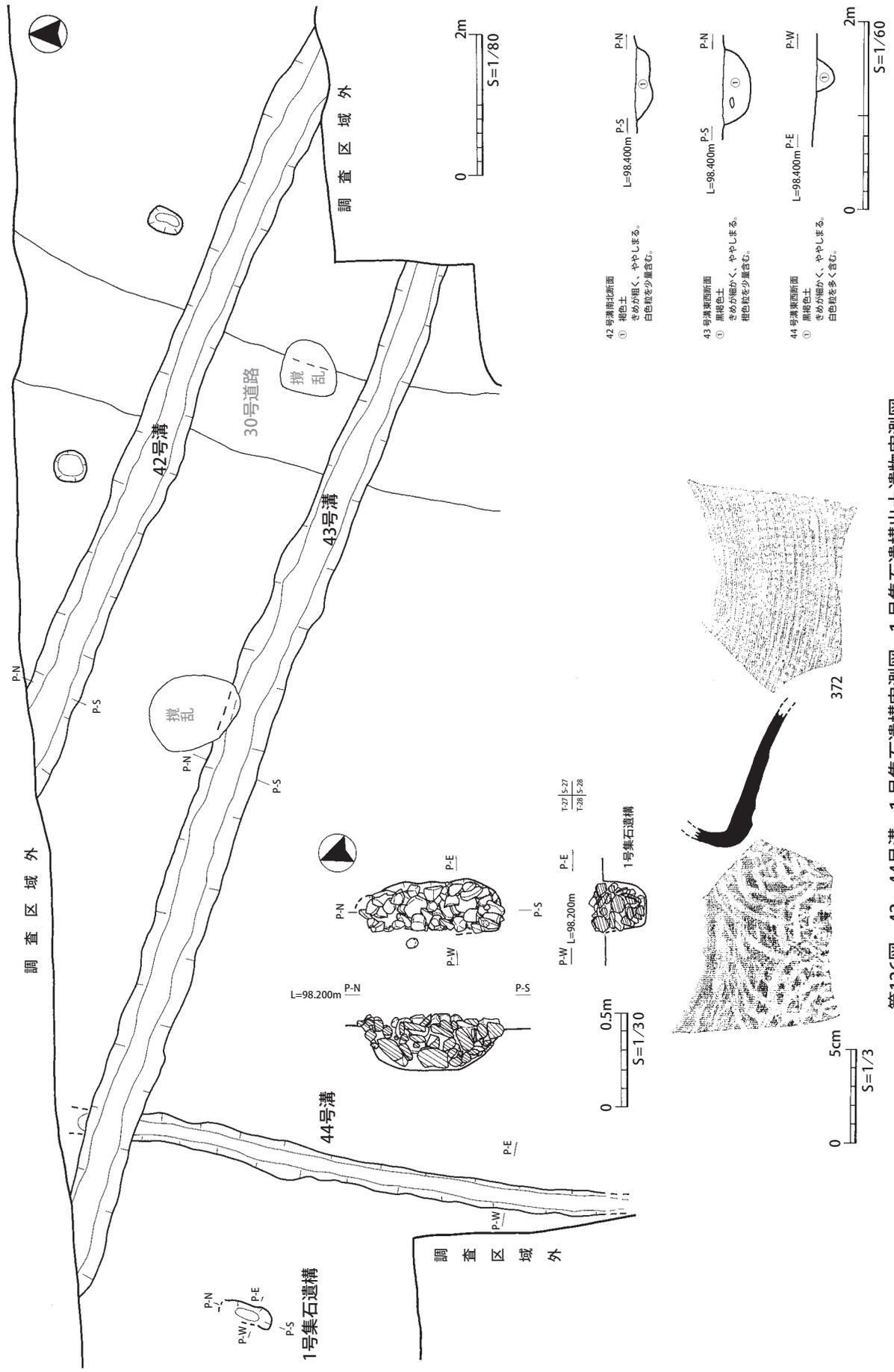
北東⇄南西方向に延びる。残長8.0m、検出面幅0.9～1.5m、底部幅0.2～0.8mを測る。28号道路、17、18号土坑に切られている。

46号溝【第127図】

北西⇄南東方向に延びる。残長4.2m、検出面幅2.0m、底部幅1.2m、深さ0.55mを測る。底面に一部、礫の集中がみとめられた。28、29号道路に併行する。

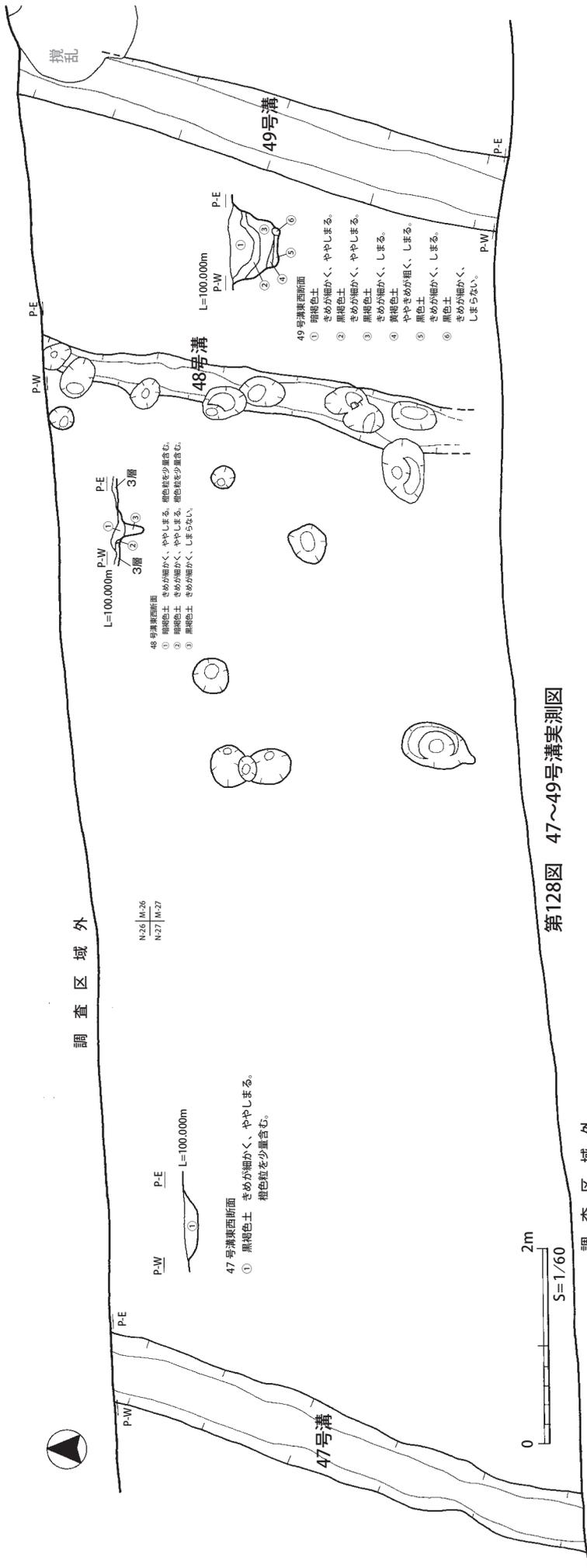
47号溝【第128図】

北北東⇄南南西方向に延びる。残長6.1m、検出面幅0.7m、底部幅0.3～0.4m、深さ0.15mを測る。

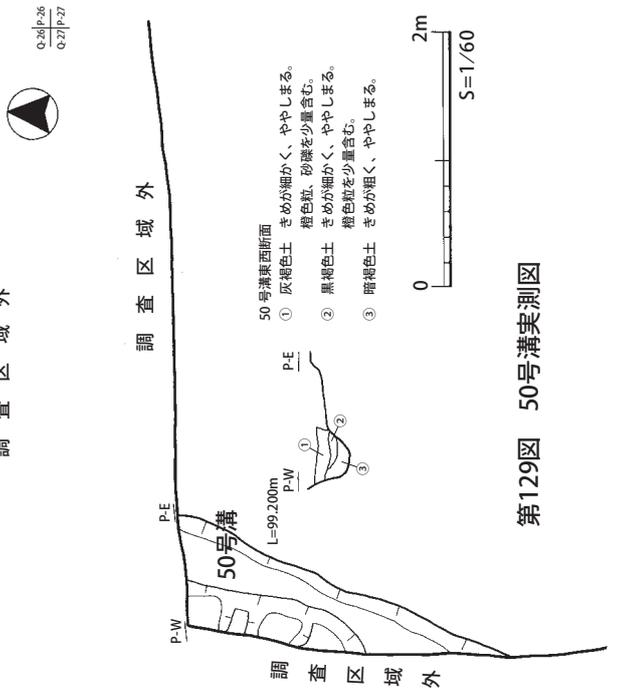


第126図 42～44号溝、1号集石遺構実測図、1号集石遺構出土遺物実測図

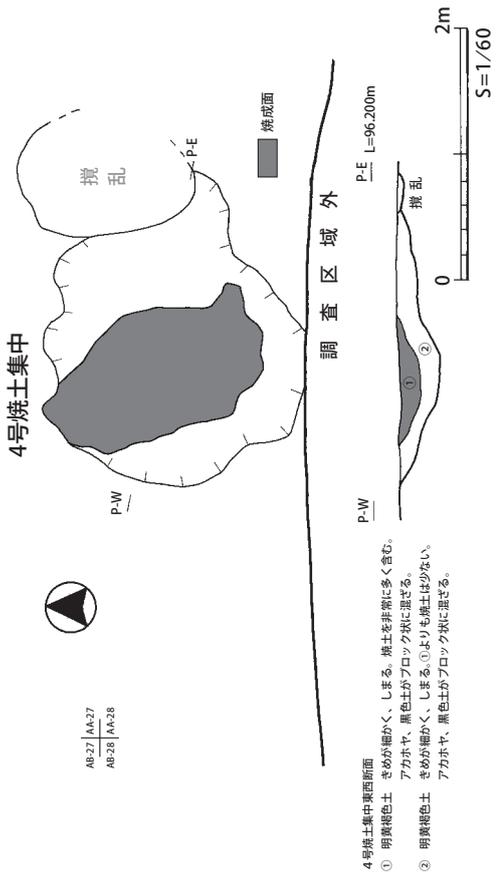




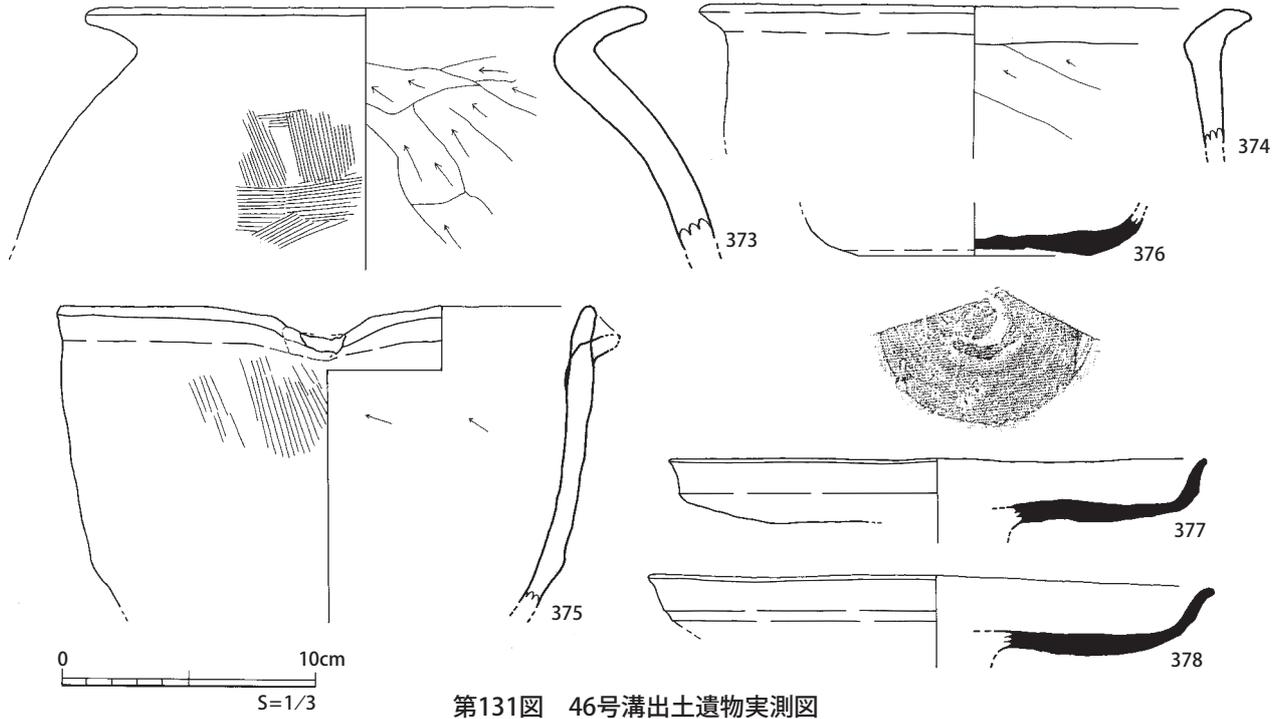
第128図 47~49号溝実測図



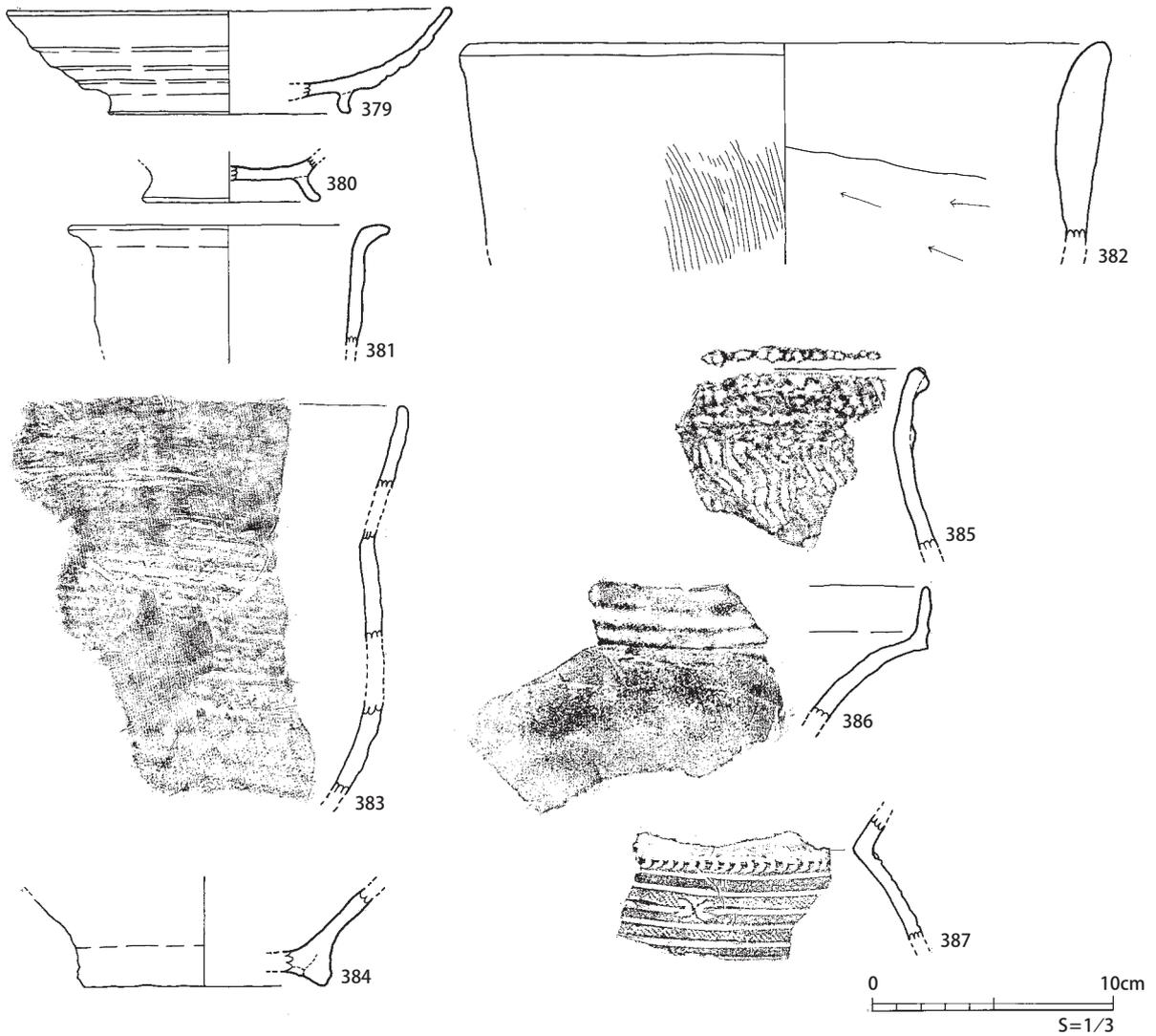
第129図 50号溝実測図



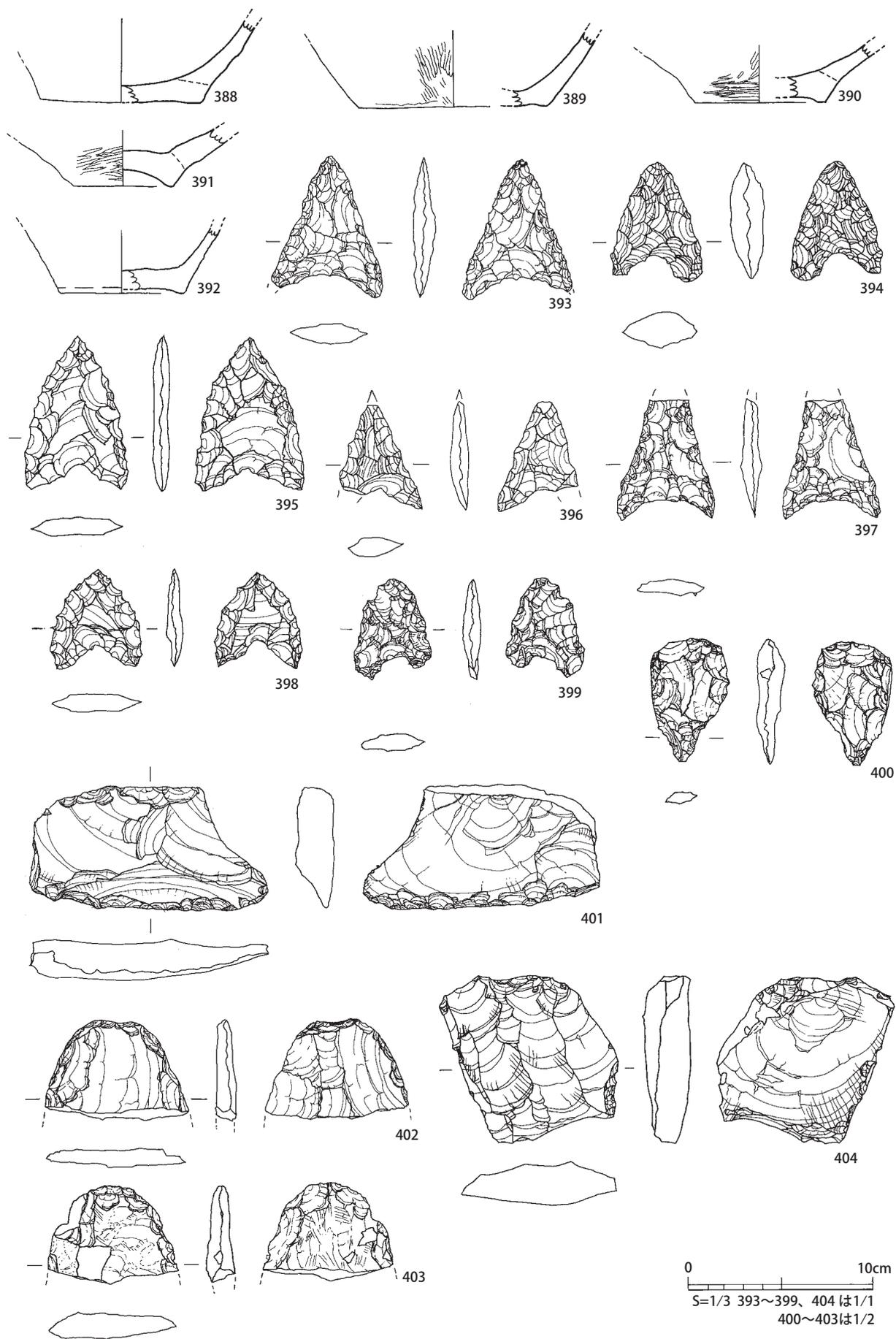
第130図 4号焼土集中実測図



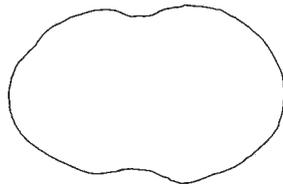
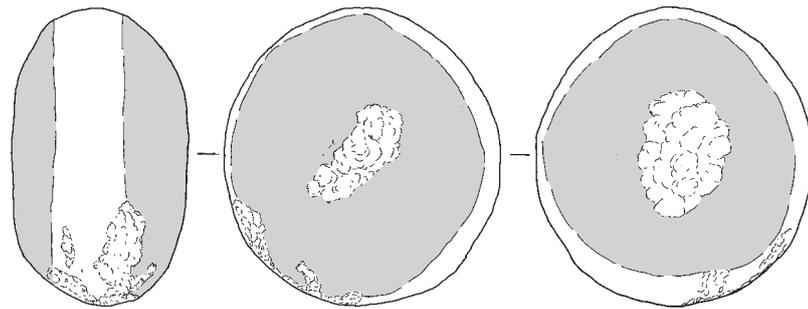
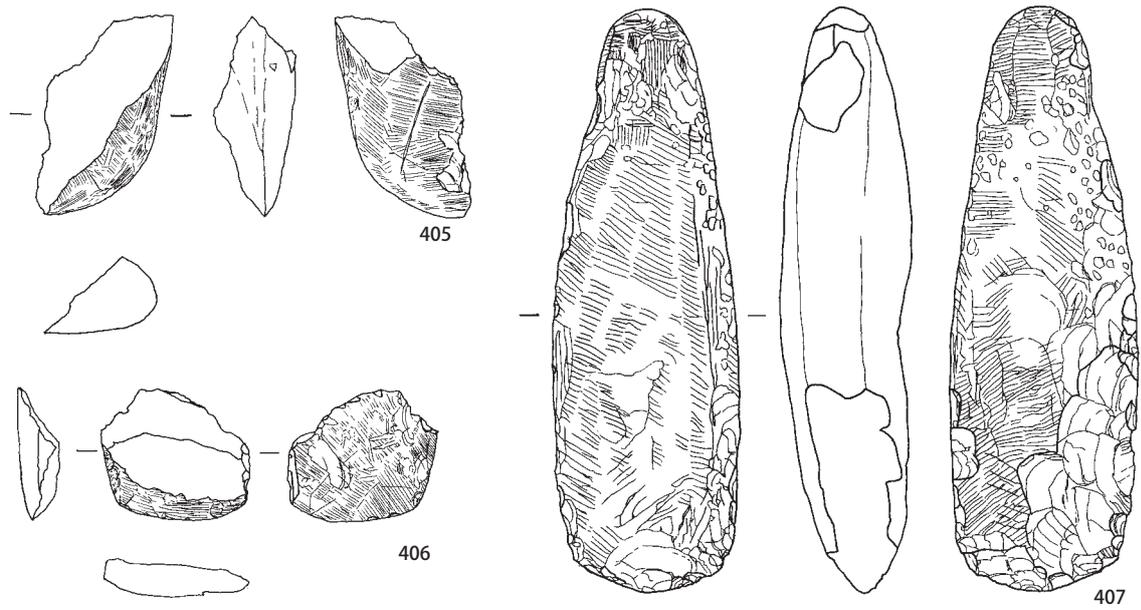
第131図 46号溝出土遺物実測図



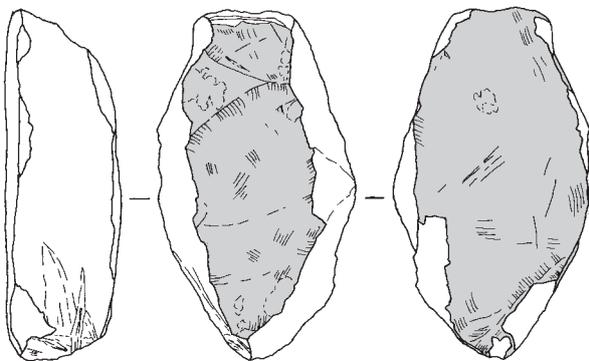
第132図 B-4・5区出土遺物実測図



第133图 B-4·5区出土遗物实测图

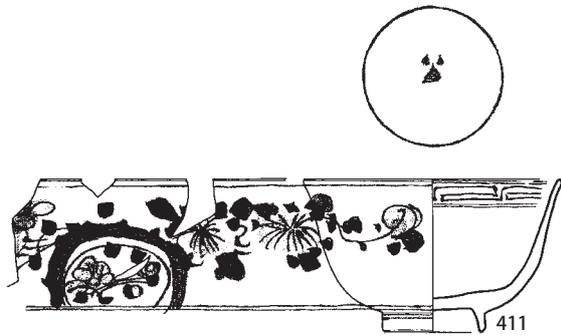


■ 使用面



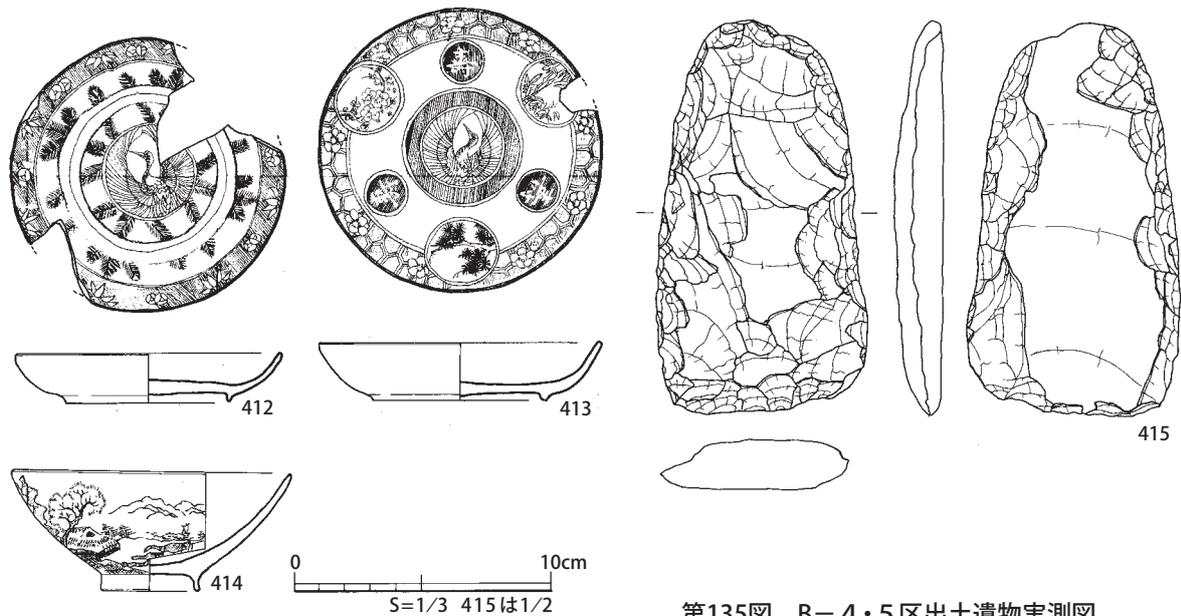
409

■ 使用面



0 10cm  
 S=1/3 405~409は1/2

第134図 B-4・5区出土遺物実測図



第135図 B-4・5区出土遺物実測図

**48号溝【第128図】**

北北東⇨南南西方向に延びる。残長4.2m、検出面幅0.3～0.5m、底部幅0.15～0.3m、深さ0.1mを測る。複数のピットに切られている。

**49号溝【第128図】**

北北東⇨南南西方向に延びる。残長5.2m、検出面幅1.1～1.3m、底部幅0.45m、深さ0.5mを測る。

**50号溝【第129図】**

北北東⇨南南西方向に延びるが、遺構のほとんどが調査区域外であり、詳細は不明。

**【土坑】**

**17号土坑【第127図】**

長軸1.6mを測る。28号道路と18号土坑に切られており、残存する深さは0.9mだが、本来はもっと深かったと思われる。遺構の性格は不明。

**18号土坑【第127図】**

長軸2.2m×短軸1.2mを測る。28号道路に切られており、残存する深さは0.8mだが、本来はもっと深かったと思われる。遺構の性格は不明。

**【集石遺構】**

**1号集石遺構【第126図】**

長軸0.75m×短軸0.3mの集石遺構。深さ0.3mを測る。土坑内に隙間なく礫が敷かれている。遺構の性格は不明。

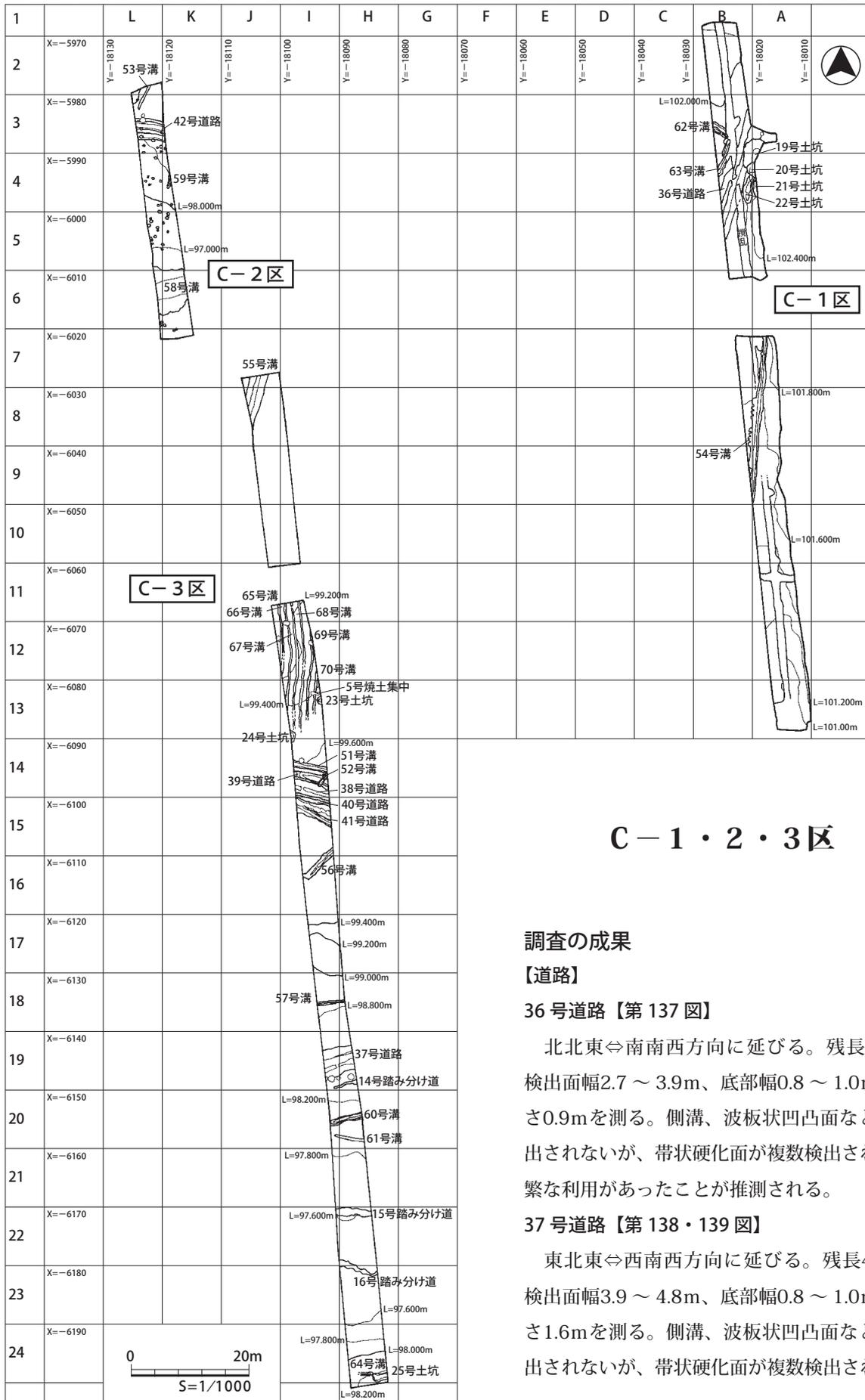
**【焼土集中】**

**3号焼土集中【第124図】**

長軸3.0m×短軸1.2m程度の範囲に、焼土の集中がみとめられる。深さ0.3mを測る。

**4号焼土集中【第130図】**

長軸1.25m×短軸1.0m程度のいびつな平面形状の土坑内に、焼土の集中がみとめられる。深さ0.15mを測る。



C-1・2・3区

調査の成果

【道路】

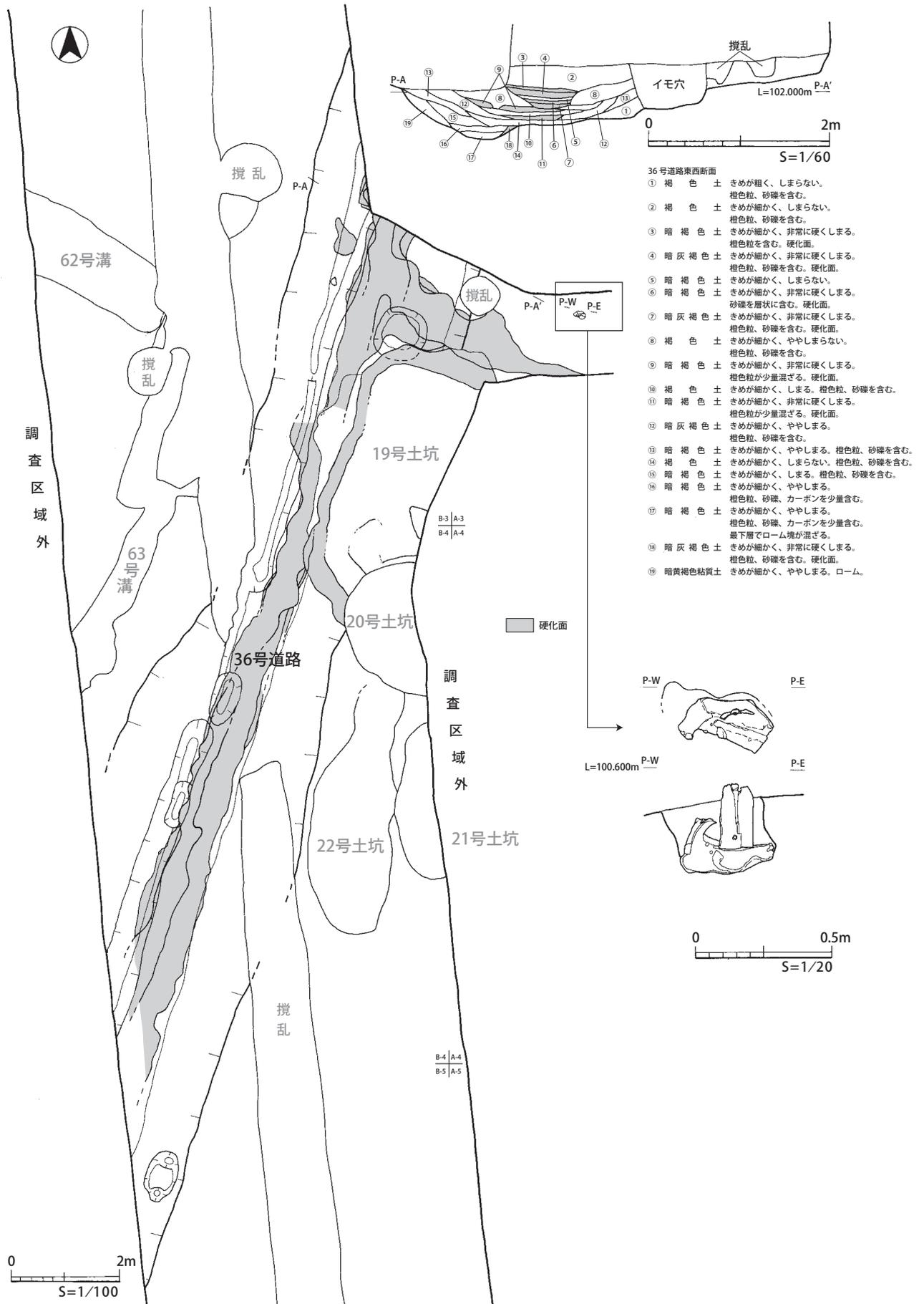
36号道路【第137図】

北北東⇨南南西方向に延びる。残長20m、検出面幅2.7～3.9m、底部幅0.8～1.0m、深さ0.9mを測る。側溝、波板状凹凸面などは検出されないが、帯状硬化面が複数検出され、頻繁な利用があったことが推測される。

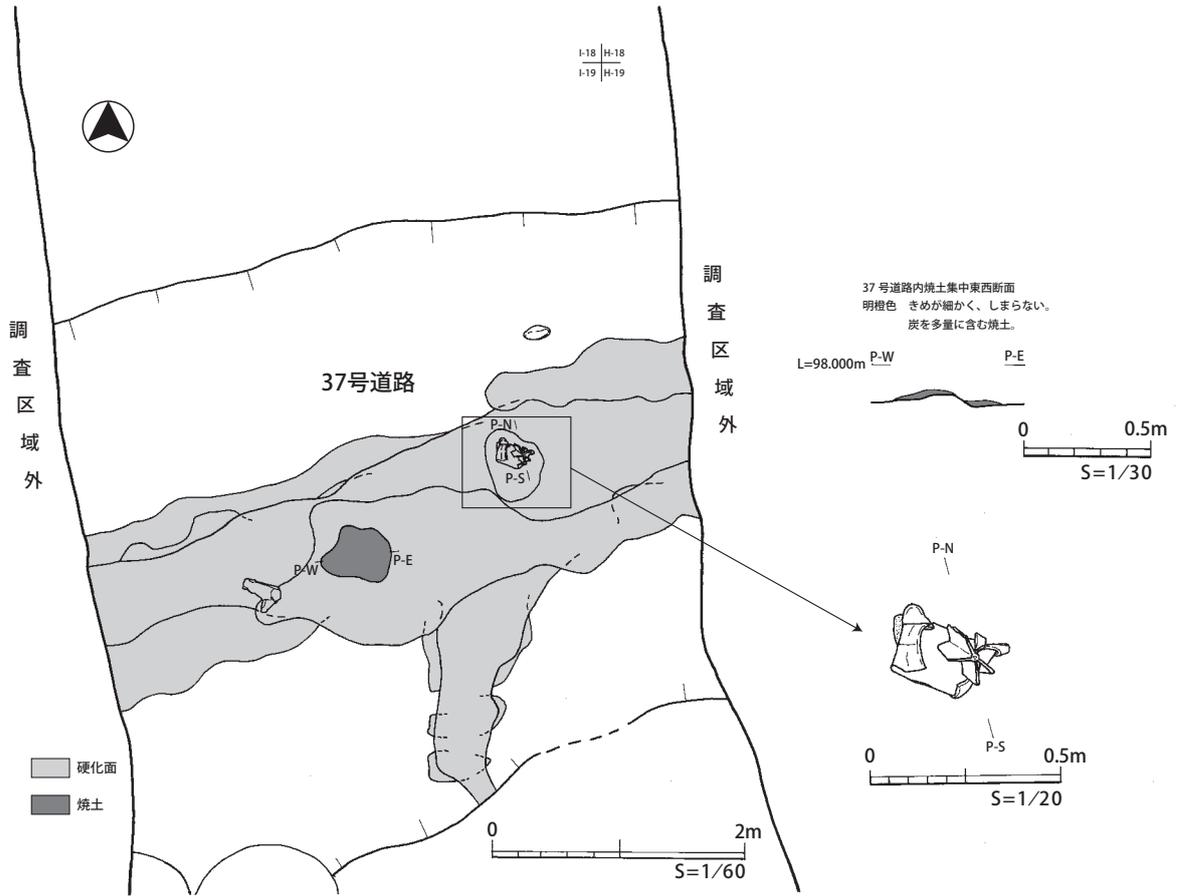
37号道路【第138・139図】

東北東⇨西南西方向に延びる。残長4.9m、検出面幅3.9～4.8m、底部幅0.8～1.0m、深さ1.6mを測る。側溝、波板状凹凸面などは検出されないが、帯状硬化面が複数検出され、大

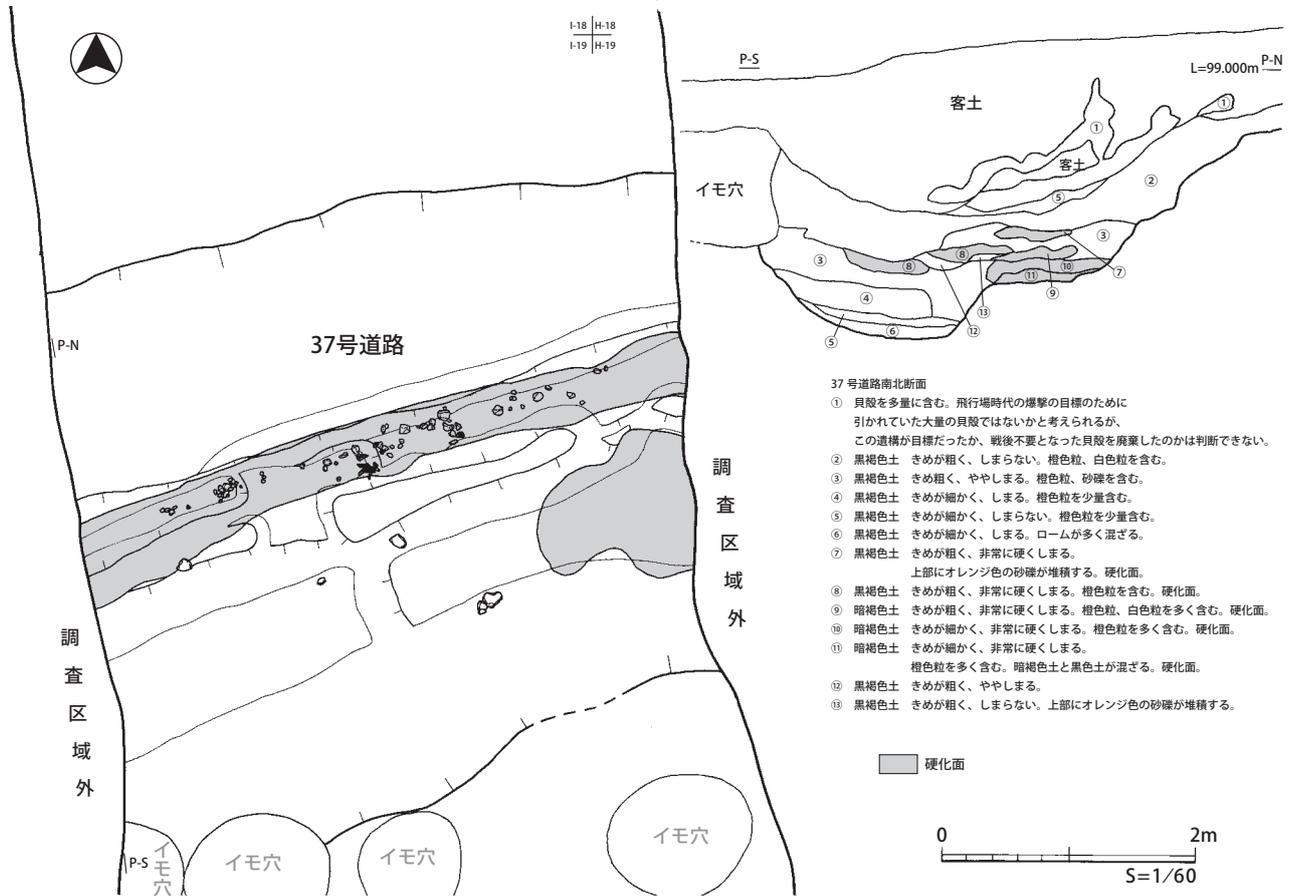
第136図 C-1・2・3区遺構配置図



第137図 36号道路実測図



第138図 37号道路硬化面検出状況



第139図 37号道路完掘状況



型の道路であったことが想定される。また客土中に牡蠣と思われる貝殻が非常に多く層状に確認された。この一帯は戦争中、陸軍の飛行場であり、貝殻を敷き演習弾の的としていたとのことであった。この遺構は古代の道路と想定されるので、その痕跡に敷き詰められたか、飛行場を廃棄した際にも廃棄したのかと想定される。演習の的付近であった証拠として、C-3区には演習弾などの戦争当時の遺物が多数出土し、37号道路にも九十四式代用十疋爆弾が落下したように頭部を下にして検出された。また、埋土中に焼土の集中がみとめられる。

**38号道路【第140図】**

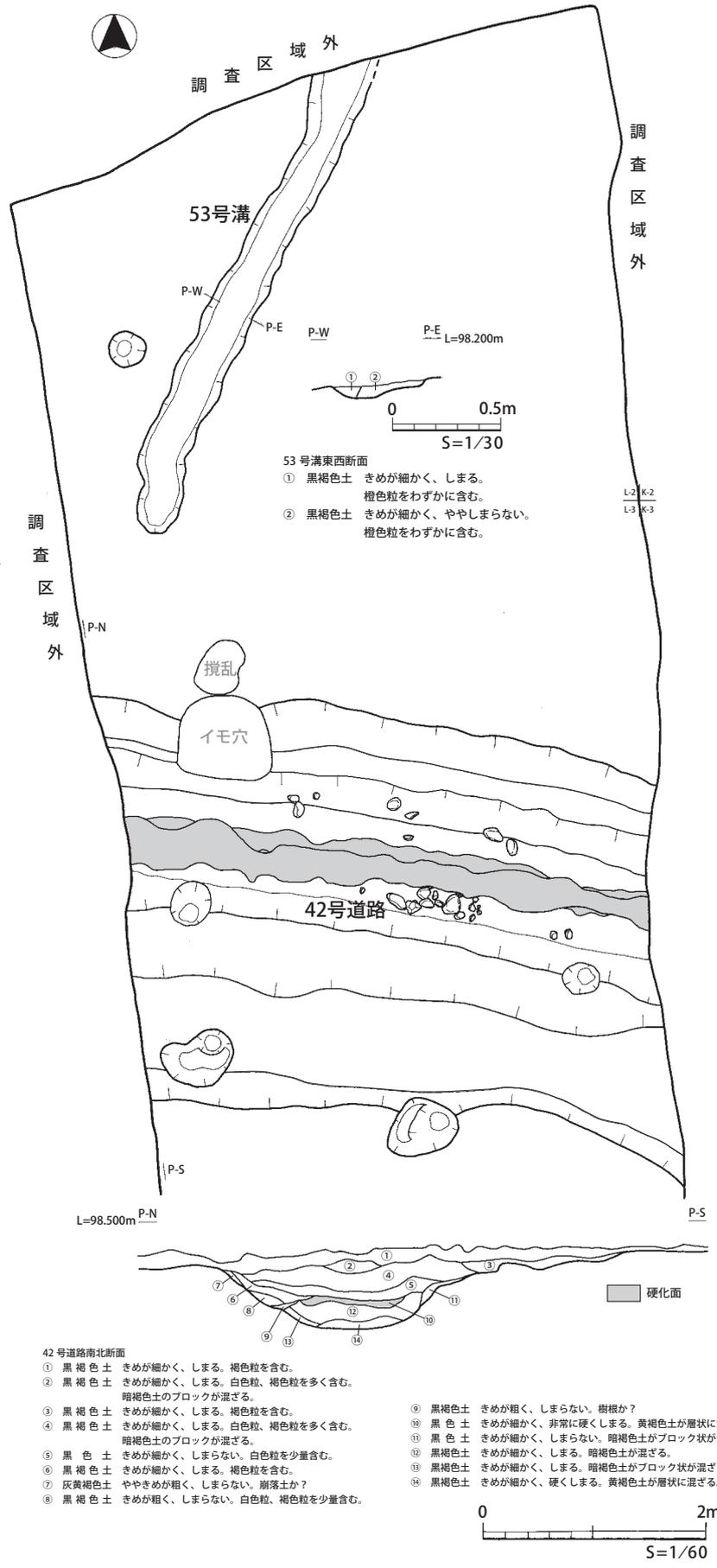
西北西⇨東南東方向に延びる。残長5.7m、検出面幅2.2～2.5m、底部幅0.8m、深さ0.65mを測る。東側では浅いが、西側で帯状の硬化面が検出され、道路であったことが想定される。

**39号道路【第140図】**

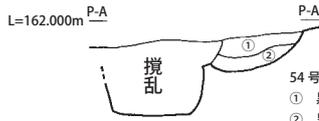
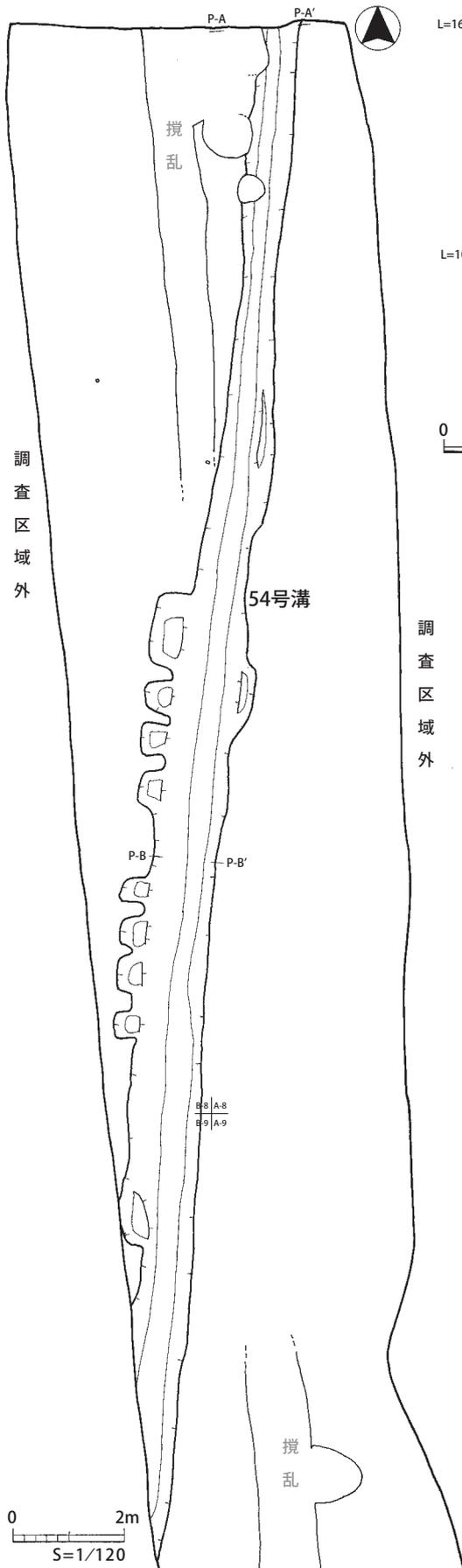
西北西⇨東南東方向に延びる。残長5.7m、検出面幅0.55～1.05m、底部幅0.4m、深さ0.4mを測る。38号道路に併行することから、関連する遺構と思われる。

**40号道路【第140図】**

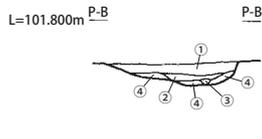
西北西⇨東南東方向に延びる。残長6.8m、検出面



第141図 42号道路、53号溝実測図



- 54号溝東西断面  
 ① 黒褐色土 きめが粗く、しまらない。礫を含む。  
 ② 黒褐色土 きめが粗く、しまる。砂礫を少量含む。



- 54号溝東西断面  
 ① 黒褐色土 きめが細かく、しまる。橙色粒、砂礫を含む。  
 ② 黒褐色土 きめが細かく、しまる。橙色粒、砂礫を含む。  
 ③ 黒褐色土 きめが細かく、しまらない。  
 ④ 黒褐色土 きめが細かく、しまる。



調査区域外

調査区域外

幅0.4～0.8mを測る。複数の硬化面が38号道路の上面で検出されたことから、新しいと考えられる。

**41号道路【第140図】**

西北西⇨東南東方向に延びる。残長6.6m、検出面幅0.6～1.1m、底部幅0.3m、深さ0.5mを測る。小規模の溝を道路として使ったと思われる。

**42号道路【第141図】**

西北西⇨東南東方向に延びる。残長4.8m、検出面幅3.8m、底部幅0.8m、深さ0.55mを測る。側溝、波板状凹凸面などは検出されないが、带状硬化面が検出され、大型の道路であったことが想定される。

**【溝】**

**51号溝【第140図】**

西北西⇨東南東方向に延びる。残長5.8m、検出面幅0.8m、底部幅0.5m、深さ0.2mを測る。

**52号溝【第140図】**

北東⇨南西方向に延びる。残長2.3m、検出面幅0.55m、底部幅0.3m、深さ0.25mを測る。38号道路を切っているが、上面で39号道路の硬化面がかぶっている。

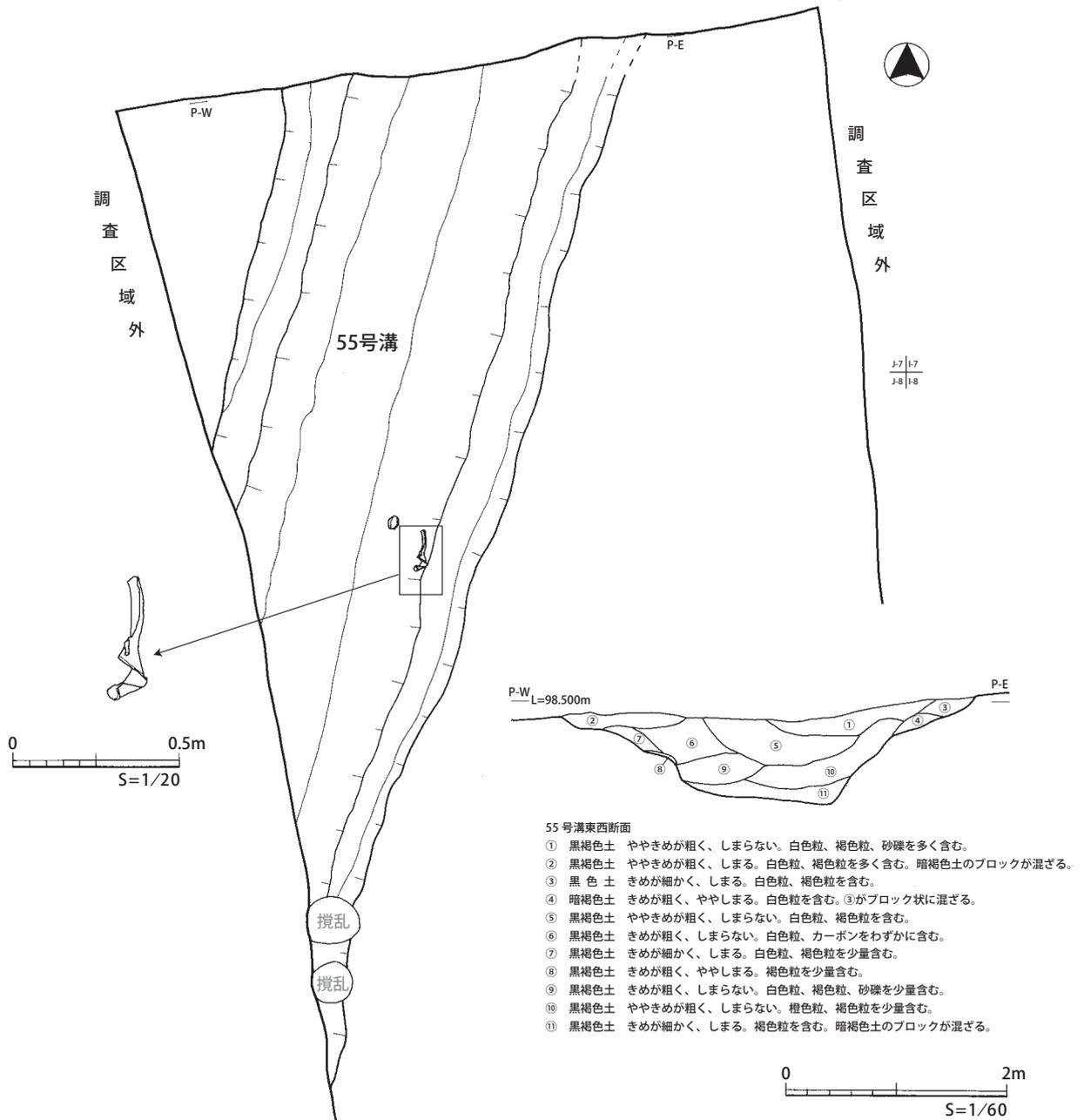
**53号溝【第141図】**

北東⇨南西方向に延びる。残長4.5m、検出面幅0.45m、底部幅0.3m、深さ0.1mを測る。

**54号溝【第142図】**

北北東⇨南南西方向に延びる。残長28m、検出面幅0.6～1.3m、底部幅0.4m、深さ0.3mを測る。非常に長く直進する溝状遺構であり、一部土坑状に拡張する。

第142図 54号溝実測図



第143図 55号溝実測図

55号溝【第143図】

北東⇨南西方向に延びる。残長6.5m、検出面2.8m、底部幅0.7m、深さ0.7mを測る。

56号溝【第144図】

北東⇨南西方向に延びる。残長6.4m、検出面幅1.0m、底部幅0.35～0.45m、深さ0.4mを測る。

57号溝【第145図】

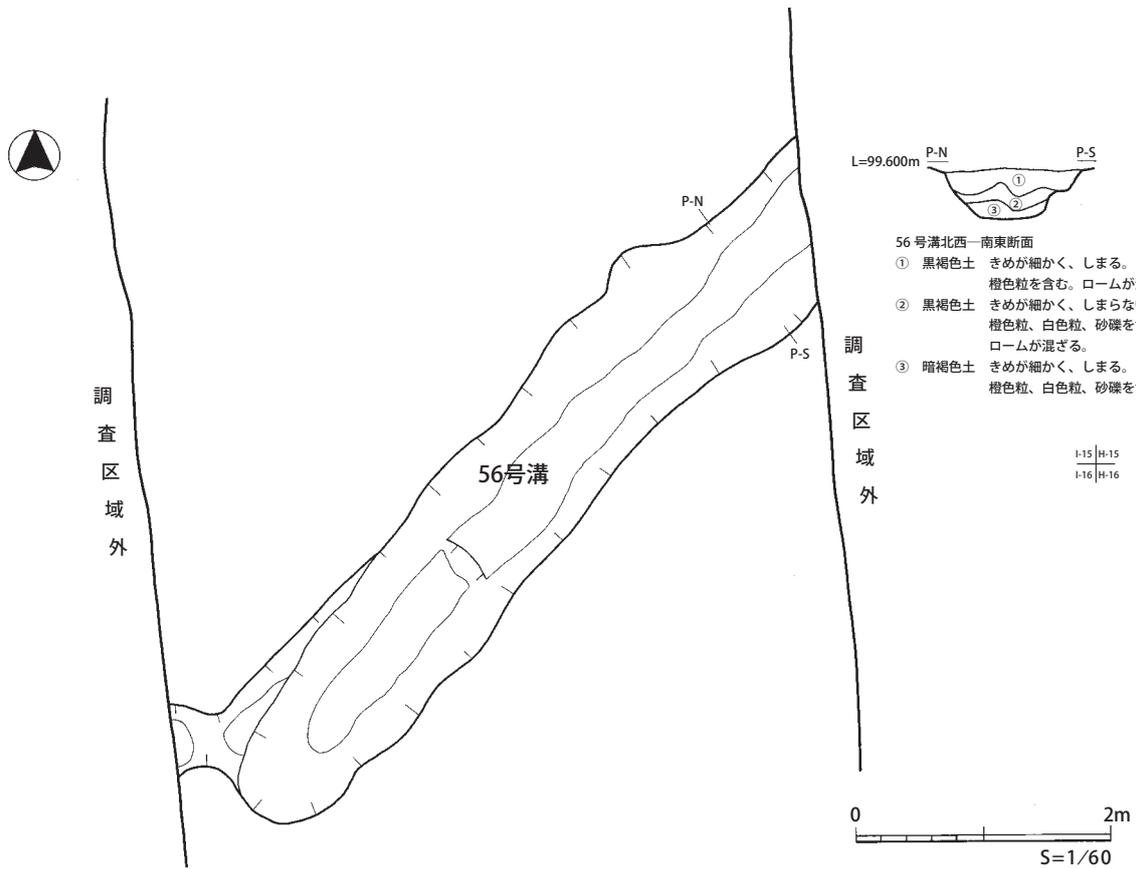
東北東⇨西南西方向に延びる。残長4.5m、検出面幅0.5～0.7m、底部幅0.3m、深さ0.3mを測る。

58号溝【第146図】

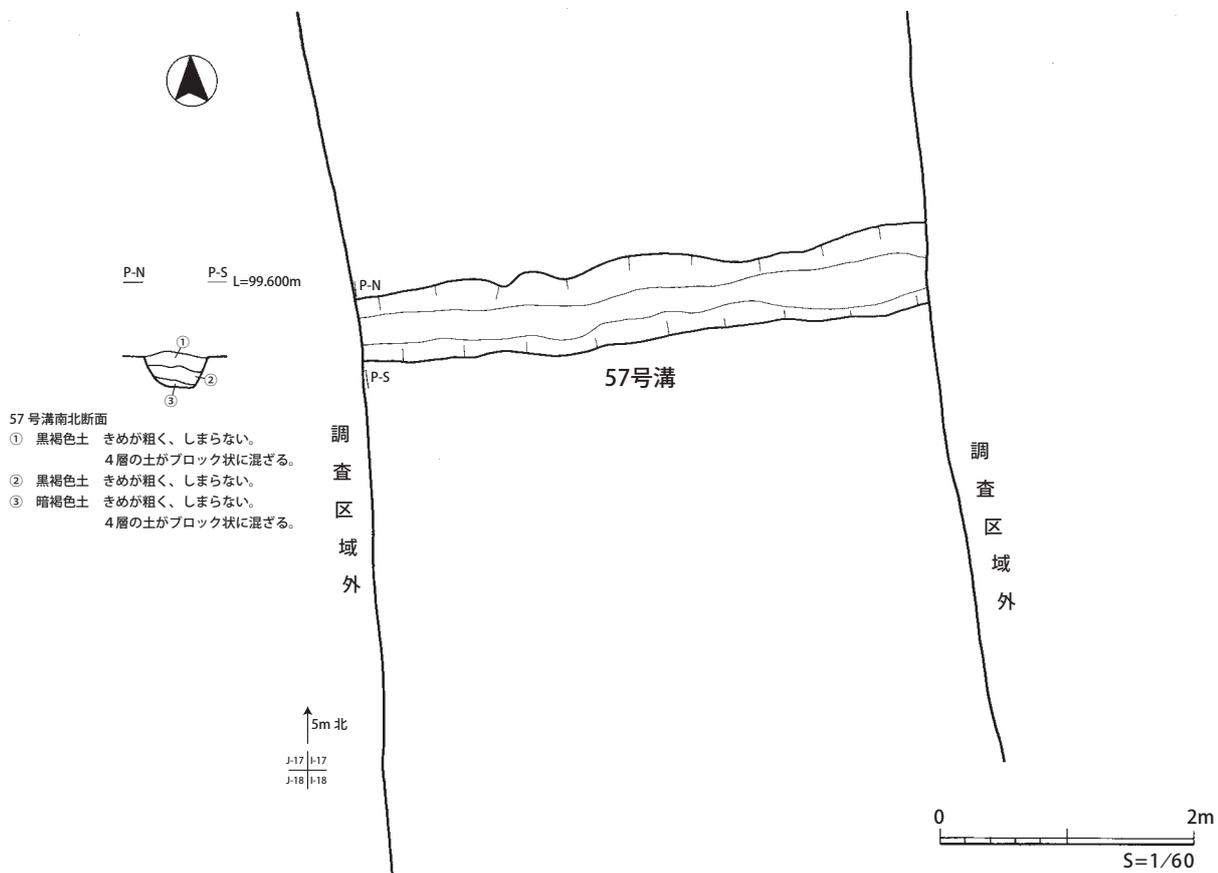
東北東⇨西南西方向に延びる。残長5.2m、検出面5.5～7.8m、底部幅3.2m、深さ0.7mを測る。非常に規模の大きな溝状遺構であるが、立ち上がりも明瞭ではなく、調査時には遺構として認識しがたかった。

59号溝【第147図】

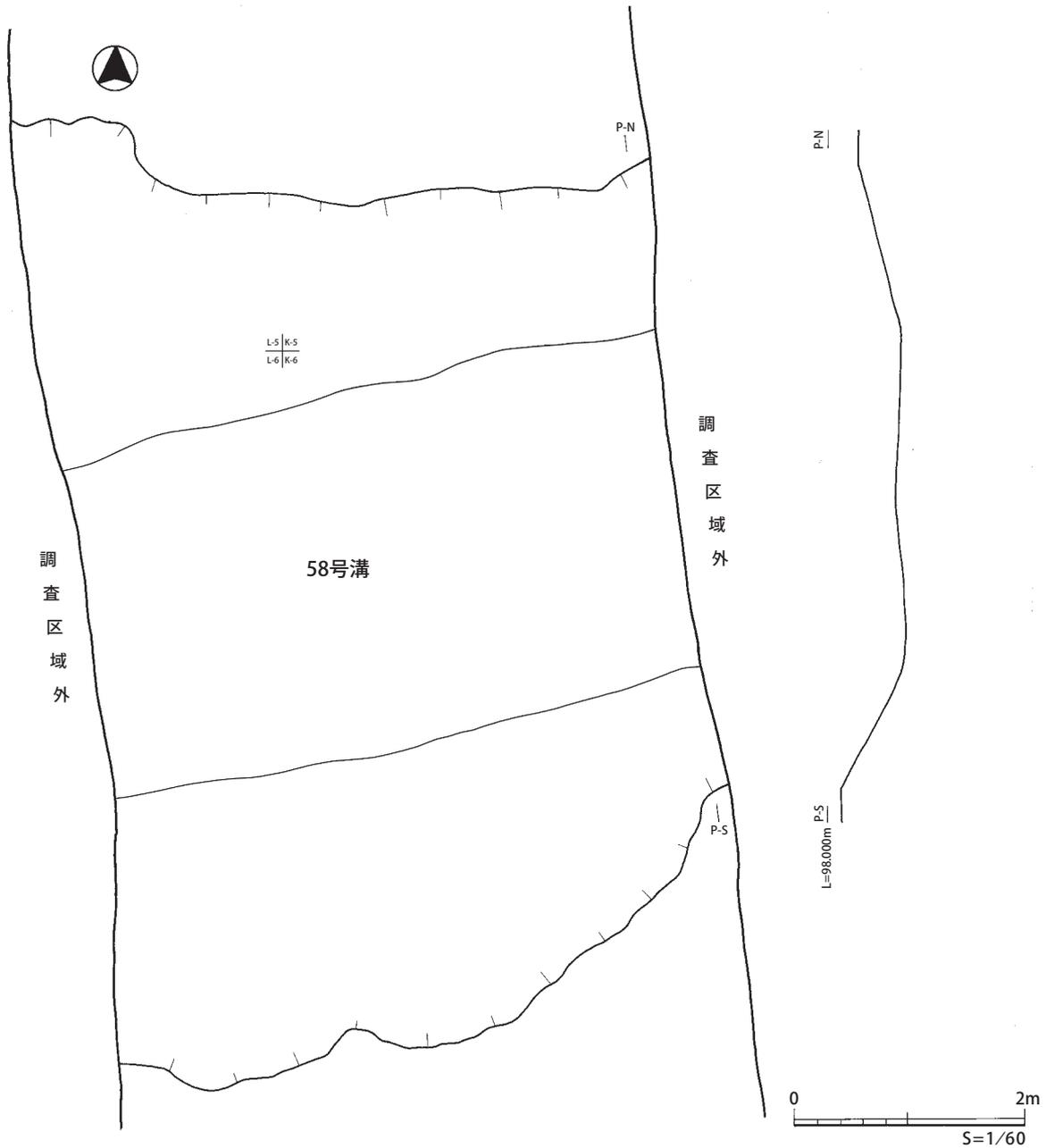
北北東⇨南南西方向に延びる。残長3.0m、検出面幅0.5m、底部幅0.3m、深さ0.1mを測る。



第144図 56号溝実測図



第145図 57号溝実測図



第146図 58号溝実測図

**60号溝【第148図】**

東北東⇔西南西方向に延びる。残長5.2m、検出面幅0.8m、底部幅0.2～0.4m、深さ0.2mを測る。

**61号溝【第148図】**

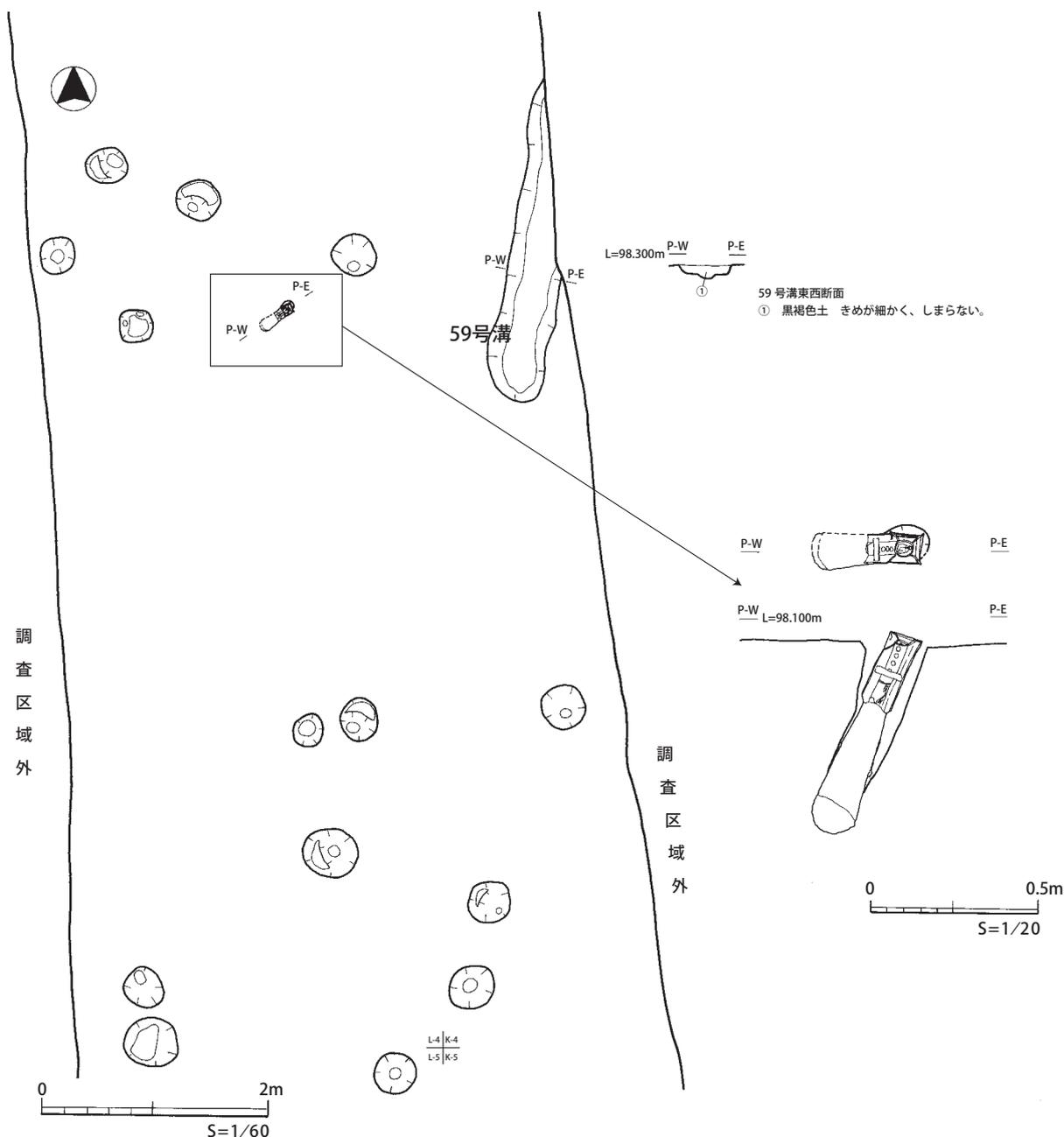
西北西⇔東南東方向に延びる。残長5.5m、検出面幅0.3m、底部幅0.1m、深さ0.15mを測る。

**62号溝【第149図】**

北西⇔南東方向に延びる。残長3.5m、検出面幅1.4m、底部幅0.6～0.8m、深さ0.1mを測る。南側は溝状に深掘りされており、深さ0.35mを測る。

**63号溝【第149図】**

北北東⇔南南西方向に延びる。残長7.2m、検出面幅0.6m、底部幅0.2～0.4m、深さ0.1～0.6mを測る。複数の規模の小さな短い溝が連結してひとつの遺構となっているようであるが、大部分は攪乱で失われており、詳細は不明。36号道路に関連する遺構である可能性がある。



第147図 59号溝実測図

**64号溝【第152図】**

西北西⇄東南東方向に延びる。残長1.9m、検出面幅0.35m、底部幅0.15m、深さ0.05mを測る。25号土坑に切られている。

**65～70号溝【第153図】**

C-3調査区(南側)の北端で検出された。6条の溝状遺構が蛇行しつつ等間隔で南北方向に延びる。最大で残長22m、検出面幅0.3m、底部幅0.2mを測り、深さは0.1～0.5mと一定ではない。遺構の性格は不明。

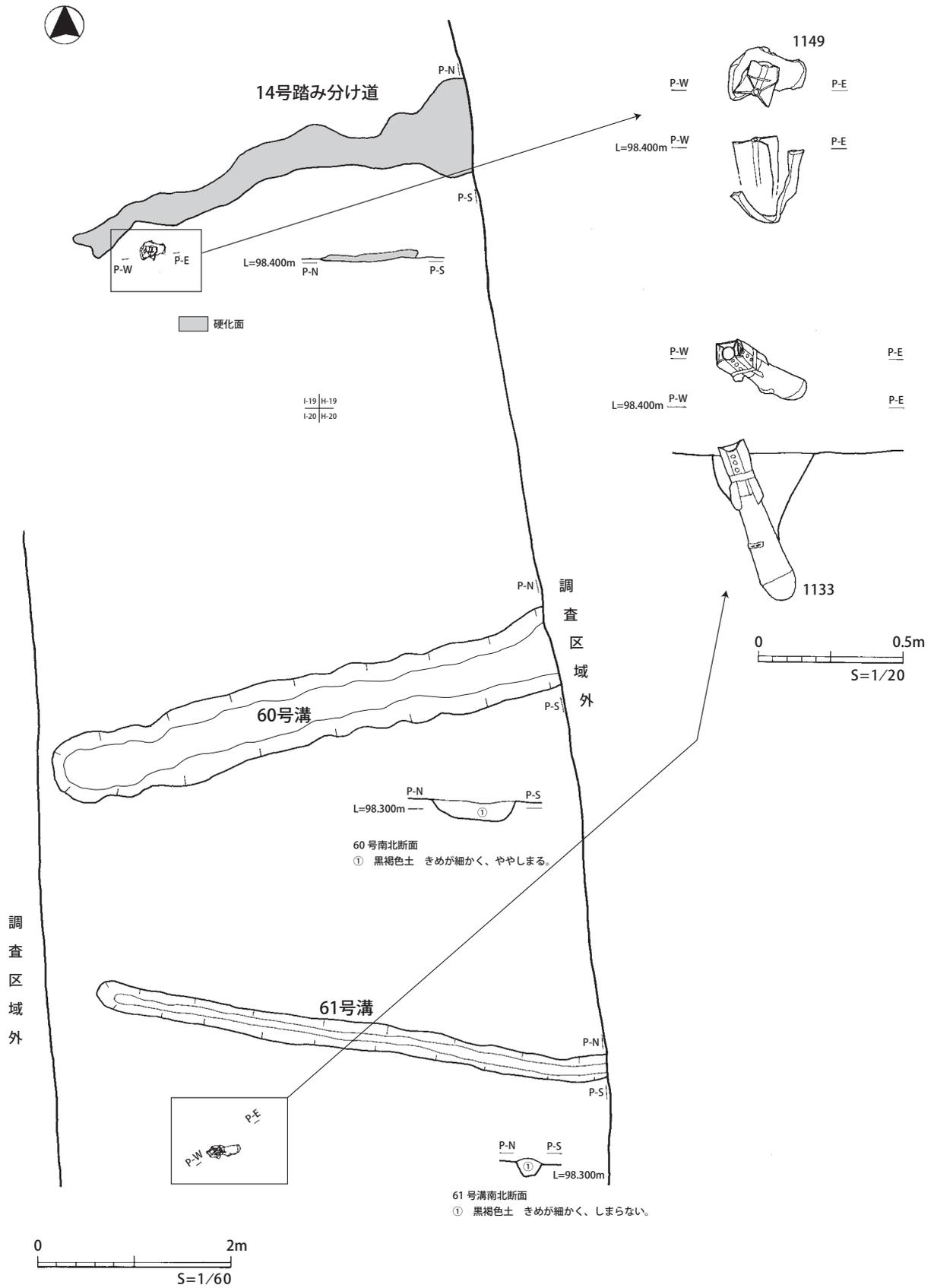
**【踏み分け道】**

**14号踏み分け道【第148図】**

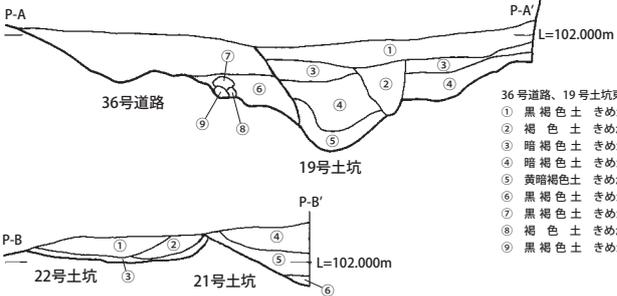
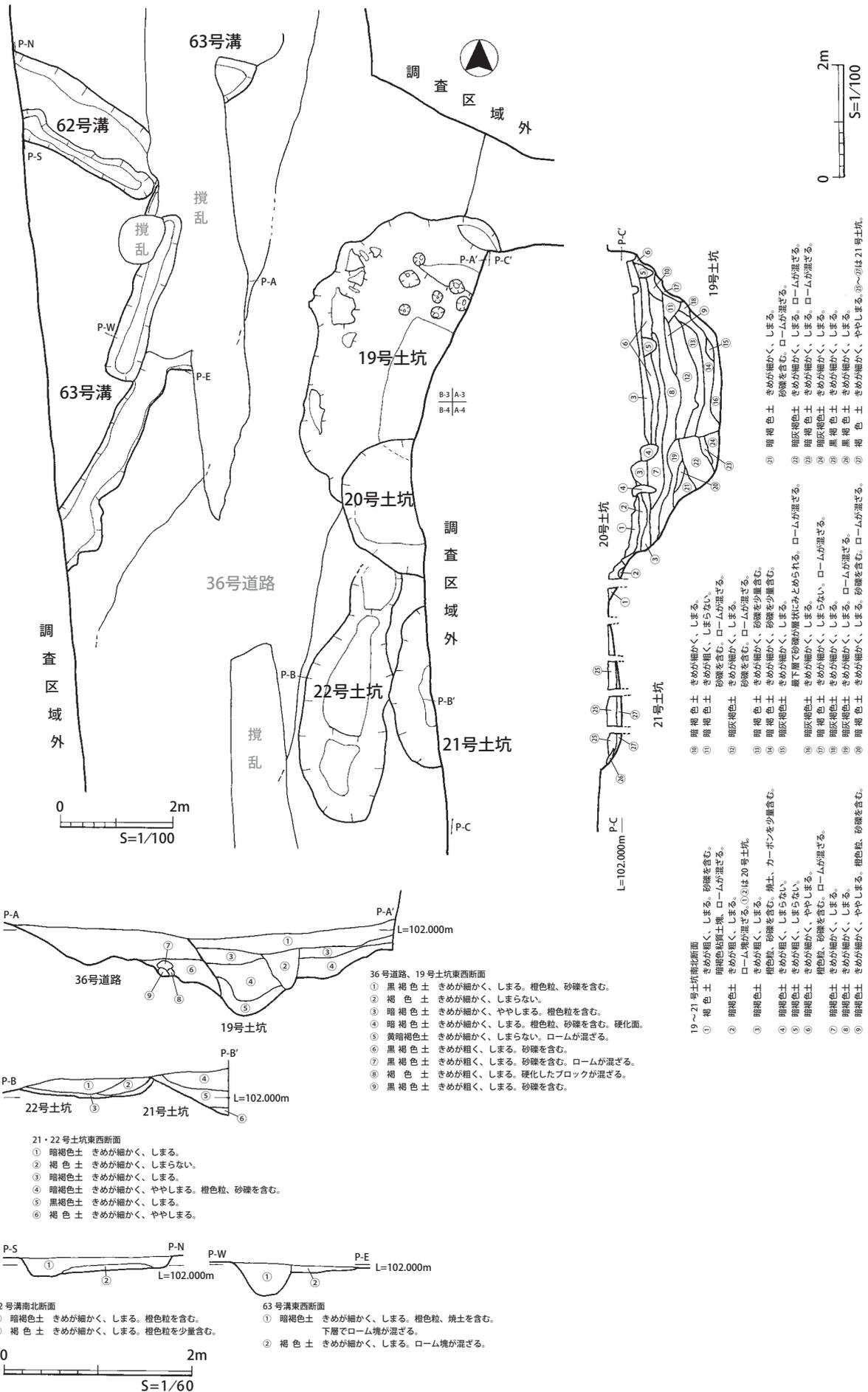
東北東⇄西南西方向に延びる。残長4.2m、検出面幅0.2～1.0mを測る。

**15号踏み分け道【第150図】**

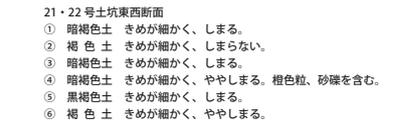
東西方向に延びる。残長5.6m、検出面幅1.3～1.7m、厚さ0.1mを測る。大型の踏み分け道。



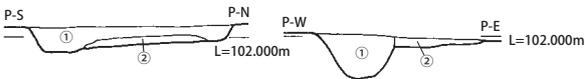
第148図 60・61号溝、14号踏み分け道実測図



- 36号道路、19号土坑東西断面
- ① 黒褐色土 きめが細かく、しまる。橙色粒、砂礫を含む。
  - ② 褐色土 きめが細かく、しまらない。
  - ③ 暗褐色土 きめが細かく、ややしまる。橙色粒を含む。
  - ④ 暗褐色土 きめが細かく、しまる。橙色粒、砂礫を含む。硬化面。
  - ⑤ 黄暗褐色土 きめが細かく、しまらない。ロームが混ざる。
  - ⑥ 黒褐色土 きめが粗く、しまる。砂礫を含む。
  - ⑦ 黒褐色土 きめが粗く、しまる。砂礫を含む。ロームが混ざる。
  - ⑧ 褐色土 きめが粗く、しまる。硬化したブロックが混ざる。
  - ⑨ 黒褐色土 きめが粗く、しまる。砂礫を含む。



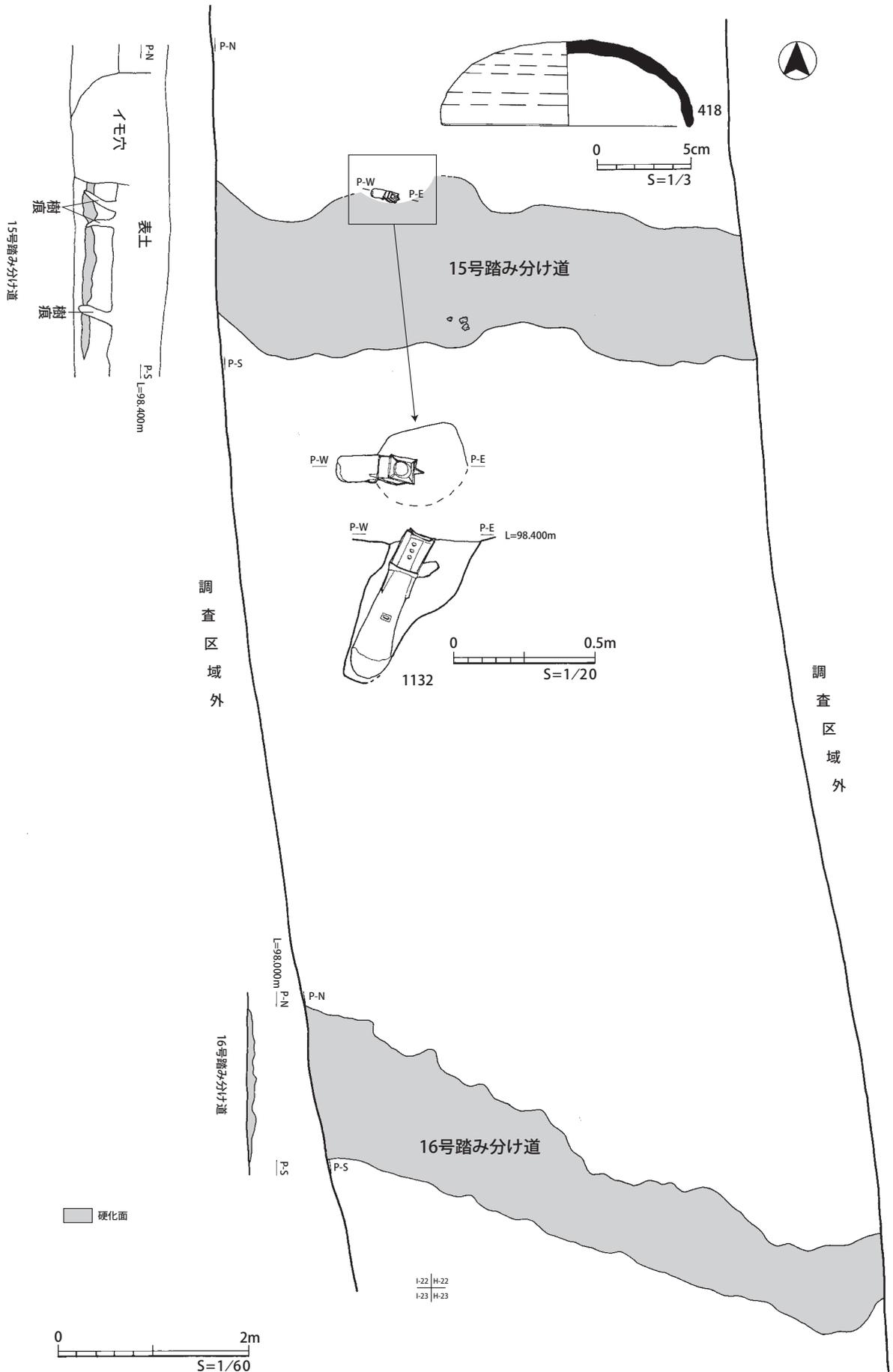
- 21・22号土坑東西断面
- ① 暗褐色土 きめが細かく、しまる。
  - ② 褐色土 きめが細かく、しまらない。
  - ③ 暗褐色土 きめが細かく、しまる。
  - ④ 暗褐色土 きめが細かく、ややしまる。橙色粒、砂礫を含む。
  - ⑤ 黒褐色土 きめが細かく、しまる。
  - ⑥ 褐色土 きめが細かく、ややしまる。



- 62号溝南北断面
- ① 暗褐色土 きめが細かく、しまる。橙色粒を含む。
  - ② 褐色土 きめが細かく、しまる。橙色粒を少量含む。
- 63号溝東西断面
- ① 暗褐色土 きめが細かく、しまる。橙色粒、焼土を含む。下層でローム塊が混ざる。
  - ② 褐色土 きめが細かく、しまる。ローム塊が混ざる。



第149図 62・63号溝、19～22号土坑実測図



第150図 15・16号踏み分け道実測図、15号踏み分け道出土遺物実測図

**16号踏み分け道【第150図】**

北西⇨南東方向に延びる。残長6.5m、検出面幅0.8～1.4m、厚さ0.1mを測る。

**【土坑】**

**19号土坑【第149図】**

長軸5.5mと想定される、きわめて大型の土坑。深さ1.4mを測る。36号道路を切っている。

**20号土坑【第149図】**

長軸2.4mの楕円形の平面形状を呈する、深さ0.3mの浅い土坑。19号土坑を切っている。

**21号土坑【第149図】**

長軸2.9m×短軸1.7mの楕円形の平面形状を呈すると想定される。深さ0.5mを測る。

**22号土坑【第149図】**

長軸4.6m×短軸1.1mの長楕円形の平面形状を呈する。深さ0.2mを測る。

**23号土坑【第151図】**

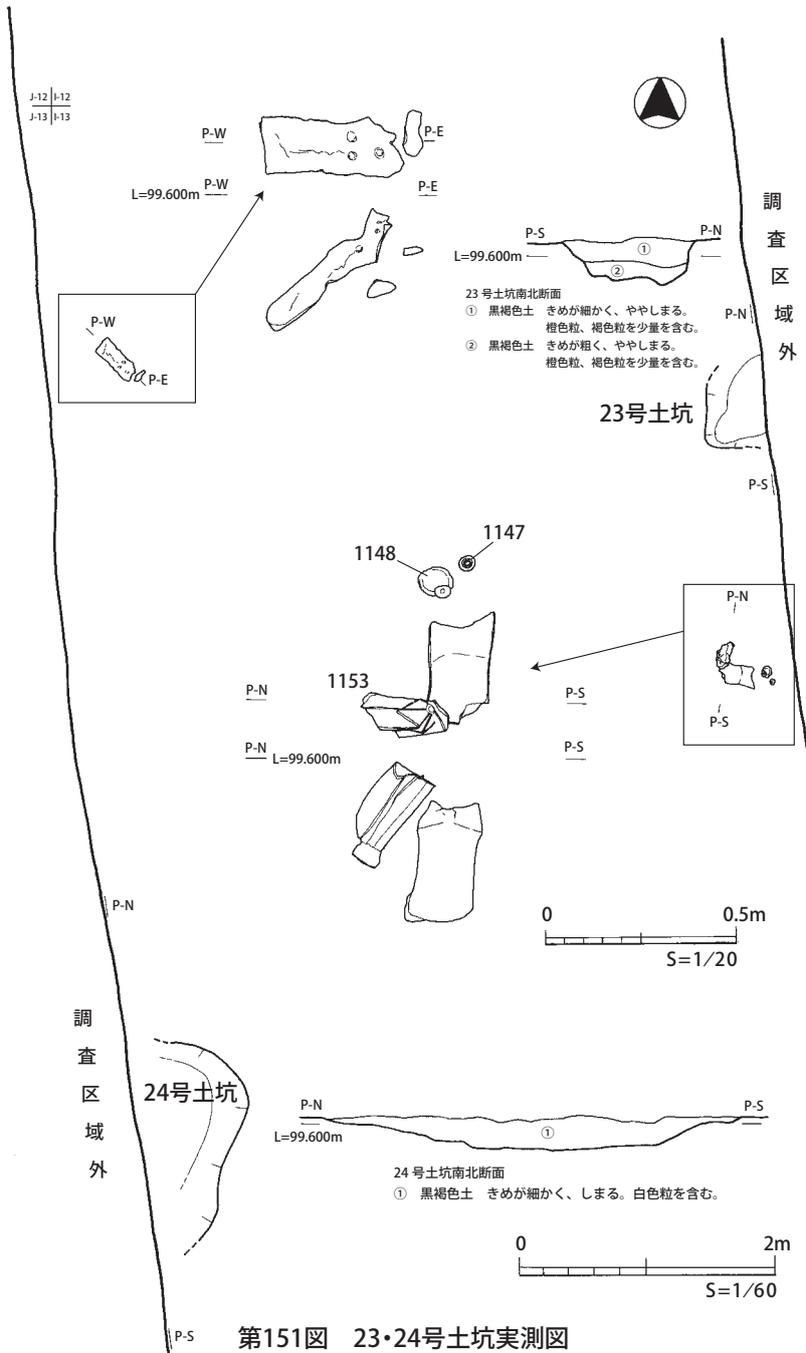
一部がわずかに残存するのみ。深さ0.3mを測る。

**24号土坑【第151図】**

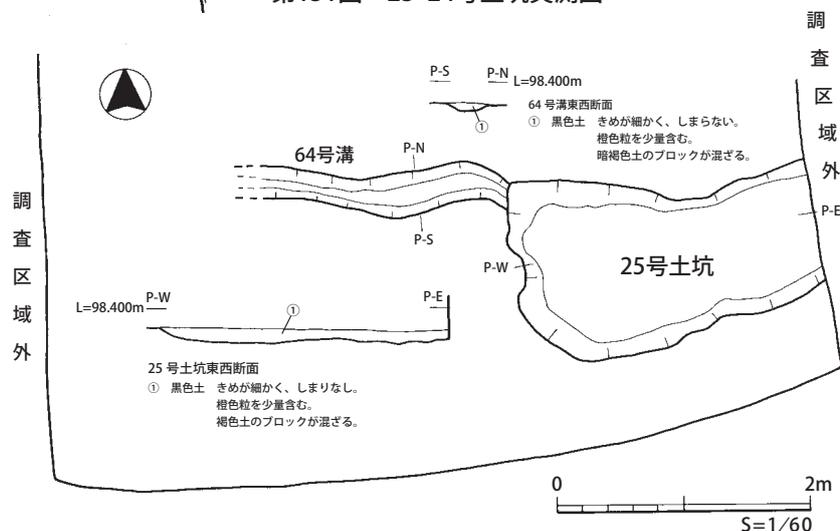
長軸3.3mの、非常に立ち上がりがわかりにくい土坑。一部がわずかに残存するのみ。

**25号土坑【第152図】**

短軸1.05～1.45mを測る。長軸は調査区域外のため不明。平面形状は隅丸のいびつな長方形を呈す。

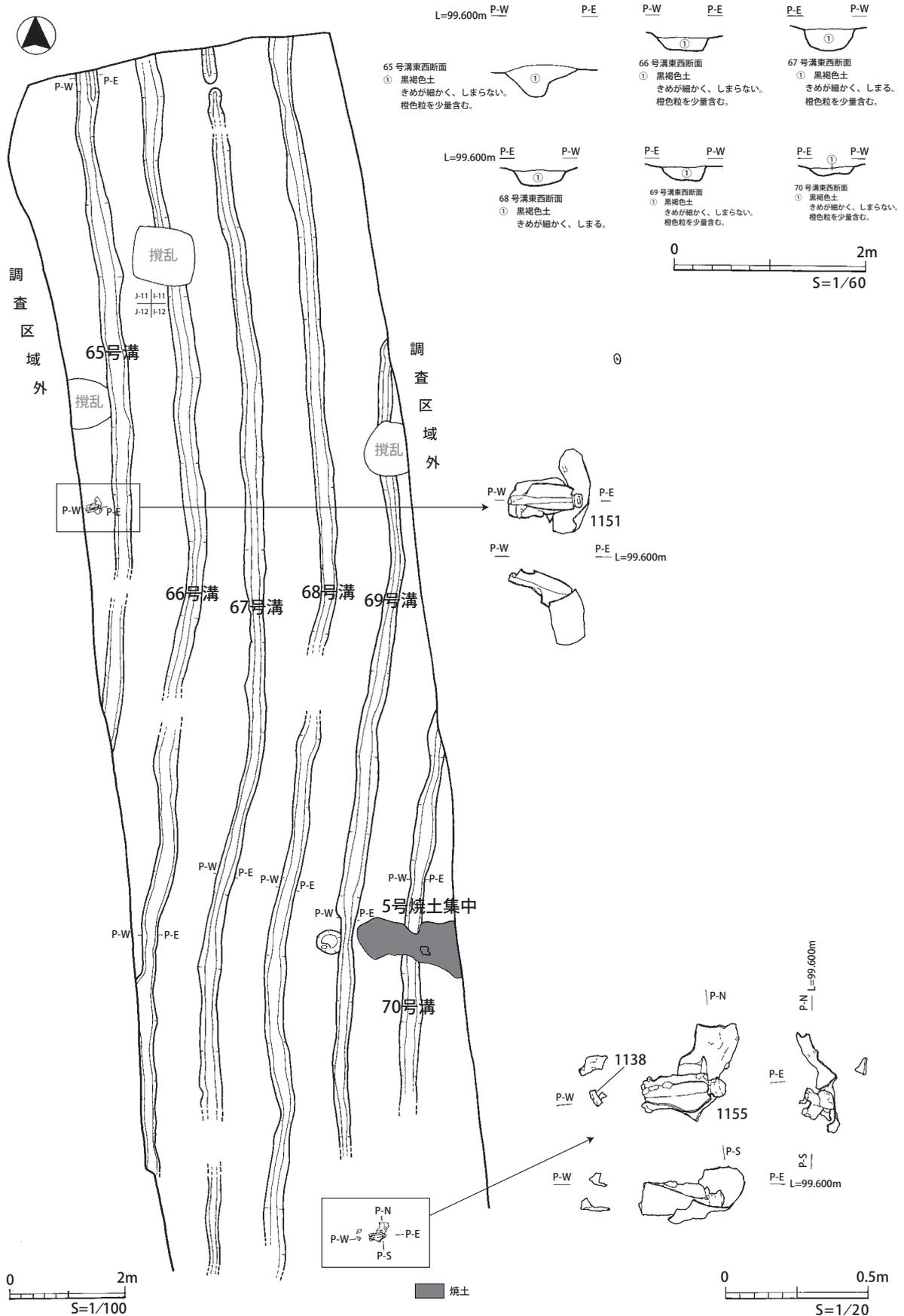


第151図 23・24号土坑実測図

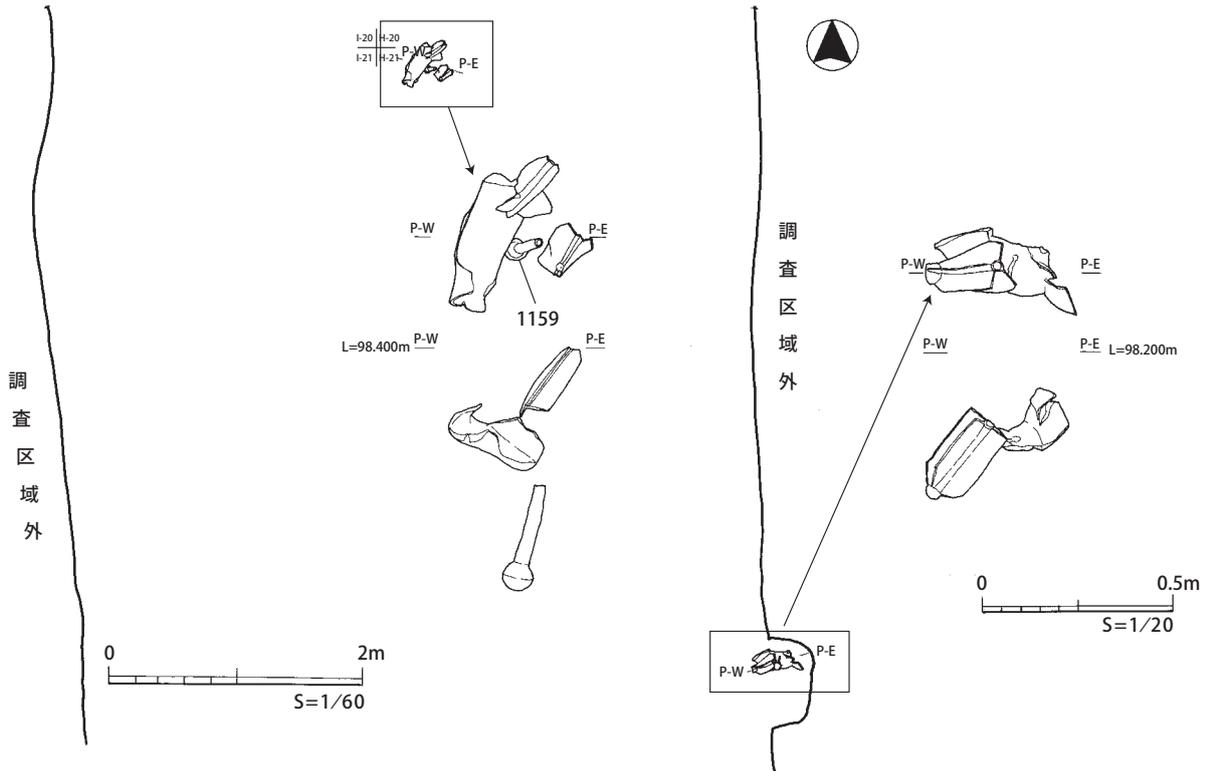


第152図 64号溝、25号土坑実測図

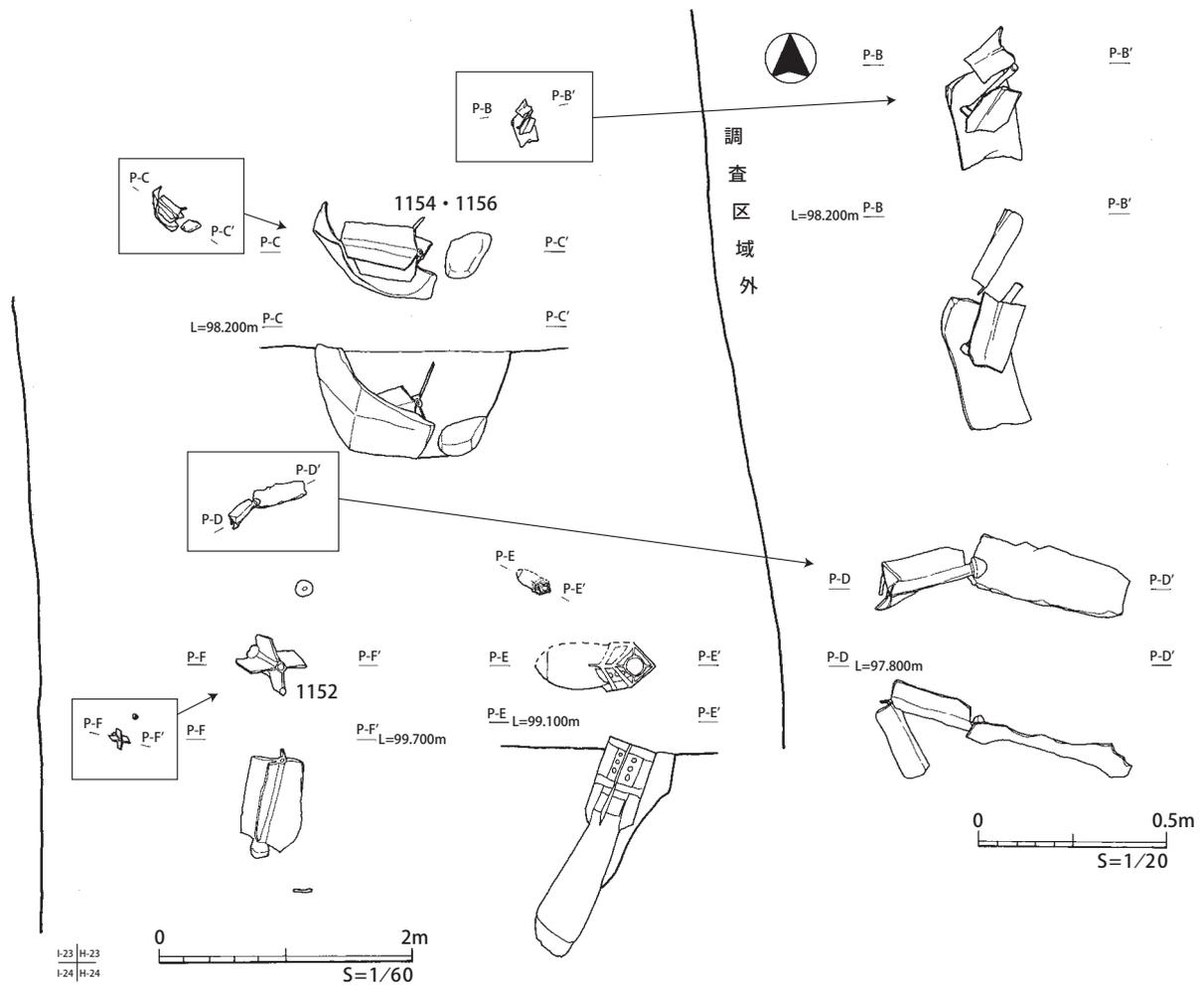
I-24 | H-24  
I-25 | H-25



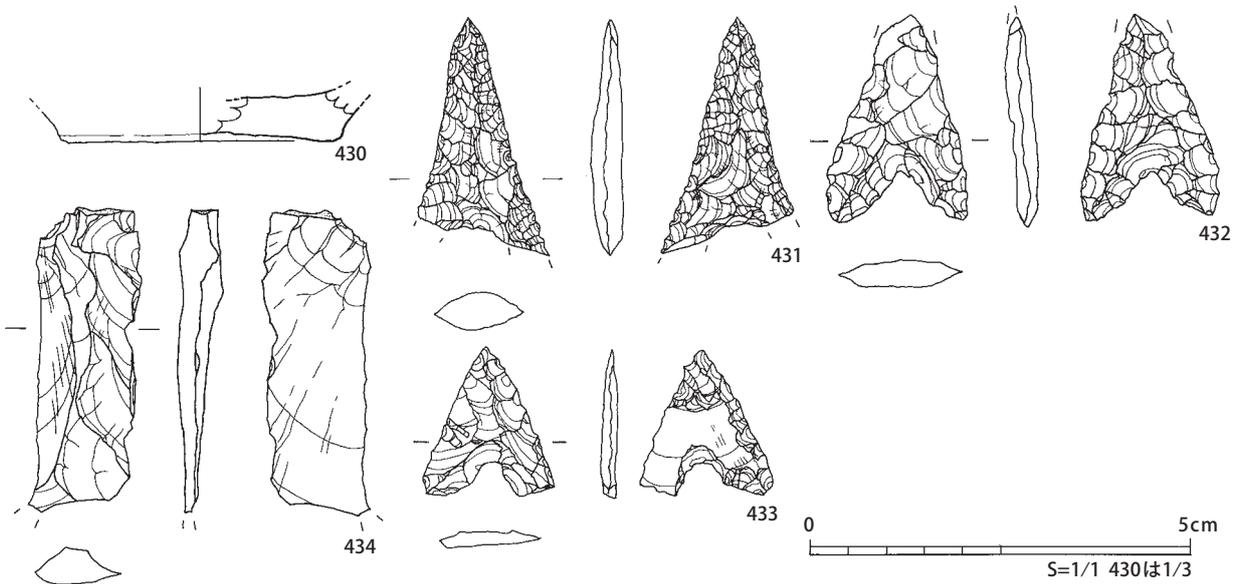
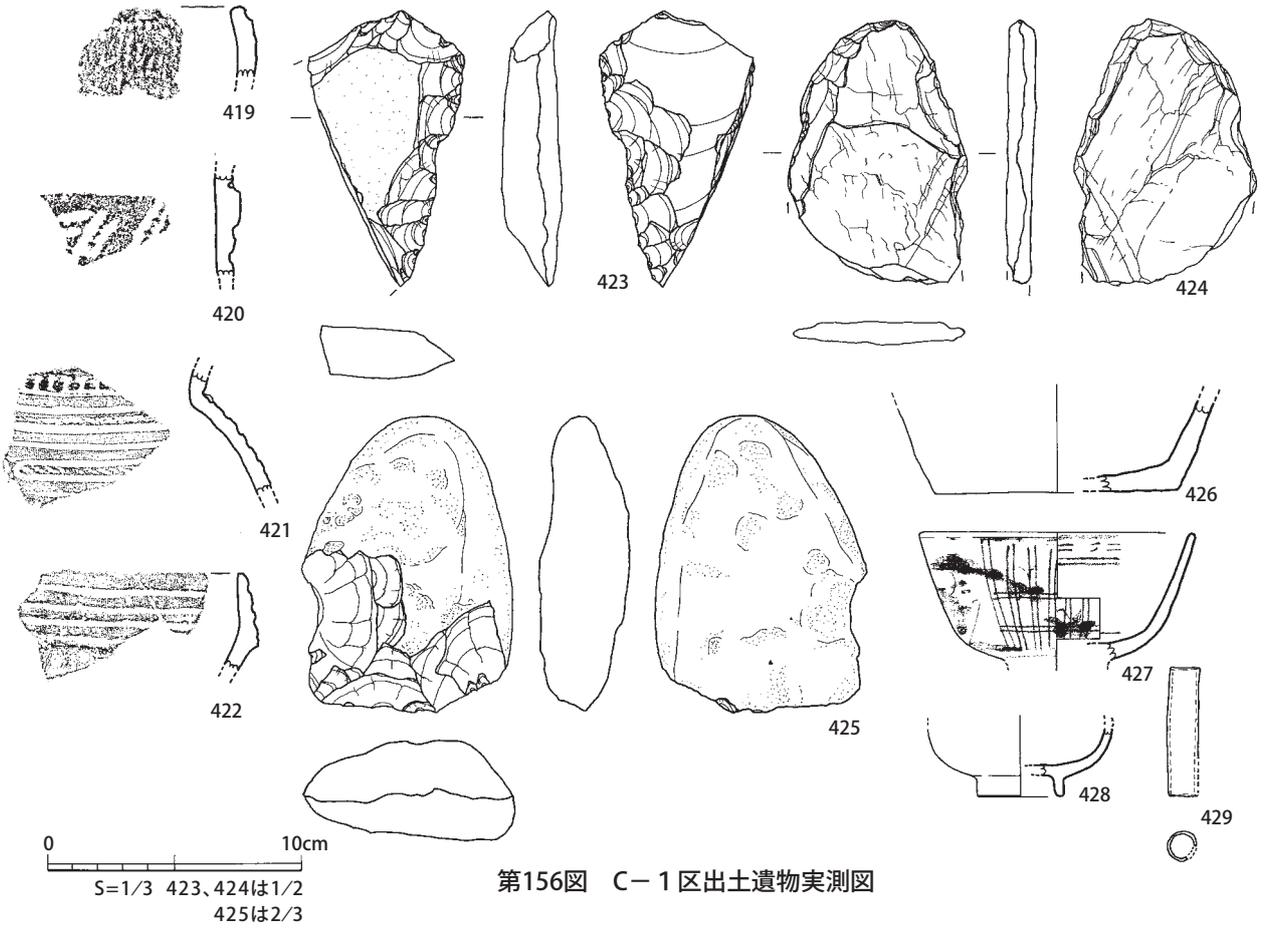
第153図 65～70号溝、5号焼土集中実測図

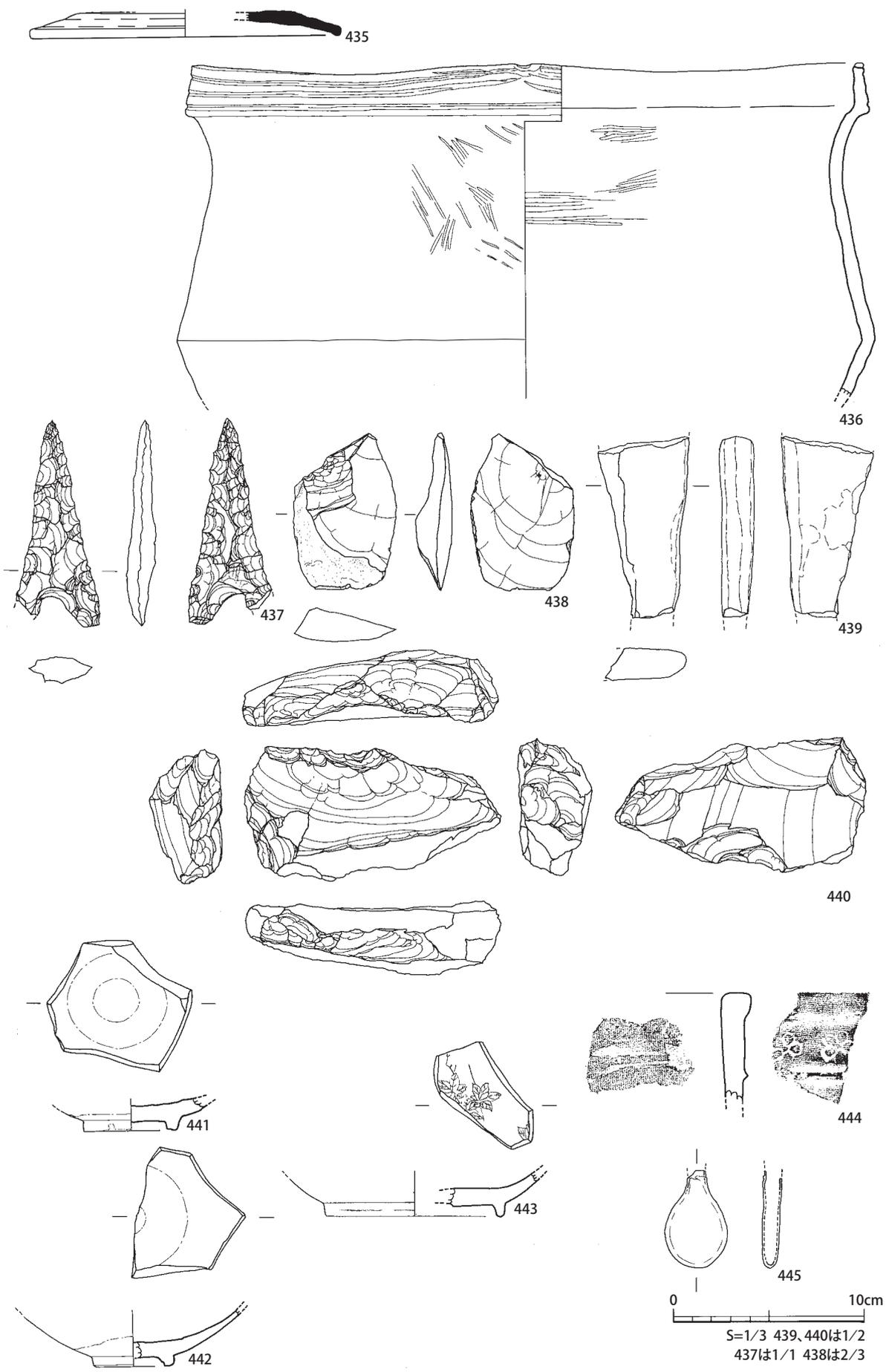


第154図 C-3区爆弾出土状況



第155図 C-3区爆弾出土状況





第158図 C-3区出土遺物実測図



### D-1・2区

#### 調査の成果

##### 【住居址】

##### 12号住居址【第160図】

南北4.5mを測る。西側半分が調査区域外であり、西側壁にカマドを持つと考えられる。硬化面の残存は悪く、壁周溝は北側でわずかにのこり、幅0.5m、深さ0.15m程度である。支柱穴はみとめられない。遺構内出土の炭化物年代測定で1330±30年BPの数値が得られており、7世紀代の住居址であった可能性を示す。

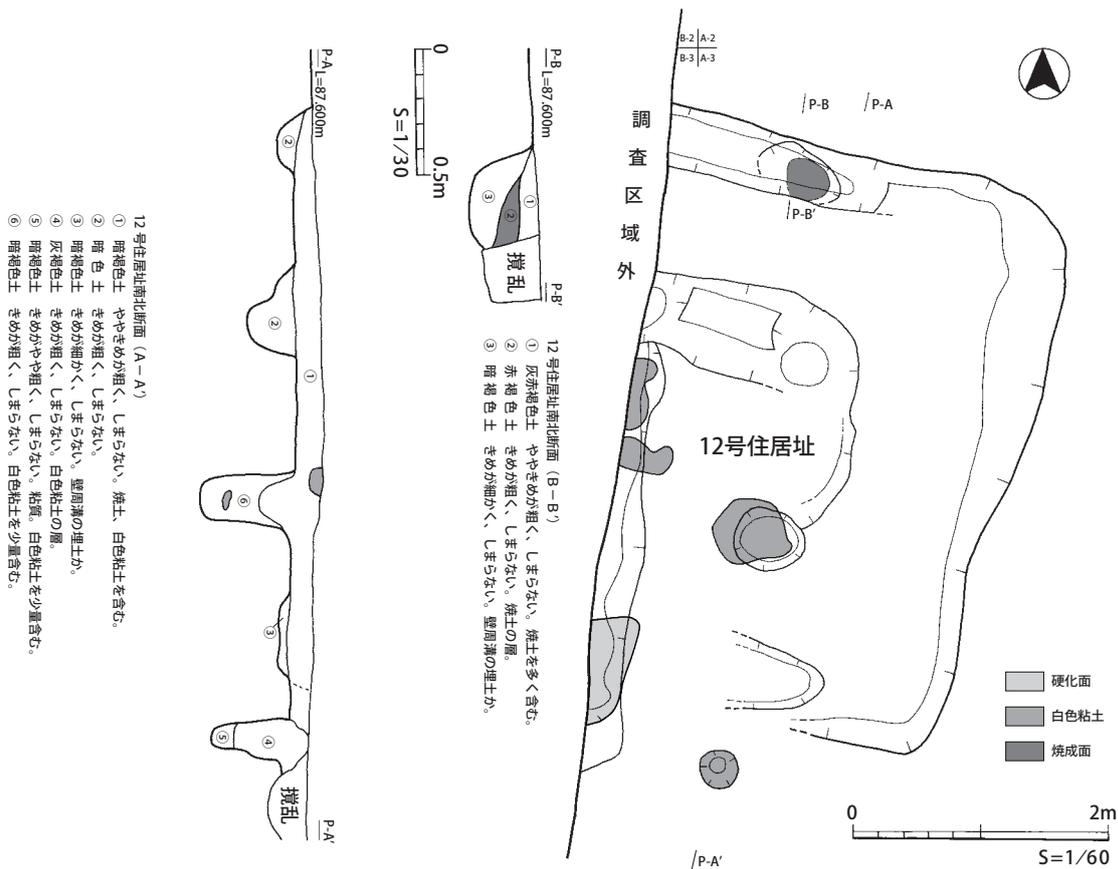
##### 13号住居址【第161・162図】

南北に5.0m、東西に5.4mを測る。遺構の北西側は調査区域外である。西側壁中央にカマドを持つ。中央付近で硬化が著しく、5cm程度の貼り床である。カマドを持つ辺の壁周溝幅は0.8mと、0.35～0.55m程度の他の3辺にくらべて幅広く、一度掘り下げてから再度埋めなおして設営したと考えられる。支柱穴は北西隅のみが不明である。カマドは袖が残存せず、白色粘土と焼土の範囲で推測される。

##### 14号住居址【第163・164図】

東西に5.0mを測ると推測される。南北が調査区域外で、西側で攪乱を受けているため、全体のプランは推測するしかない。西側壁中央にカマドを持つ。部分的に硬化面が残存し、壁周溝は0.5m程度、深さ0.15mと考えられる。カマドは一度掘り下げてから再度埋めなおして設営したと考えられる。支柱穴は確認されなかった。カマドは袖が残存せず、白色粘土と焼土の範囲で推測される。

第159図 D-1・2区遺構配置図



第160図 12号住居址実測図

15 号住居址【第 165・166・168 図】

南北に4.8mを測る。遺構の東半分は調査区域外であり、南東側で16号住居址に切られている。北側壁中央にカマドを持つ。カマド付近で硬化面がのこる。壁周溝は0.55～0.8m、深さ0.1mを測る。カマドは一度掘り下げてから再度埋めなおして設営したと考えられる。主柱穴は確認されなかった。カマドは奥壁と右袖が残存する。

16 号住居址【第 165・166 図】

南北に4.8mを測る。遺構の東半分は調査区域外であり、15号住居址を切っている。カマドの位置は不明。北側で硬化面がのこるが、主柱穴、壁周溝は検出されなかった。

17 号住居址【第 169 図】

南北に5.5mを測る。遺構の大半は18号住居址に切られているが、完全に失われておらず、壁周溝のプランも確認できる。カマドの位置は不明。わずかに硬化面がのこる。壁周溝は0.4～0.75m、深さ0.1mを測る。

18 号住居址【第 169 図】

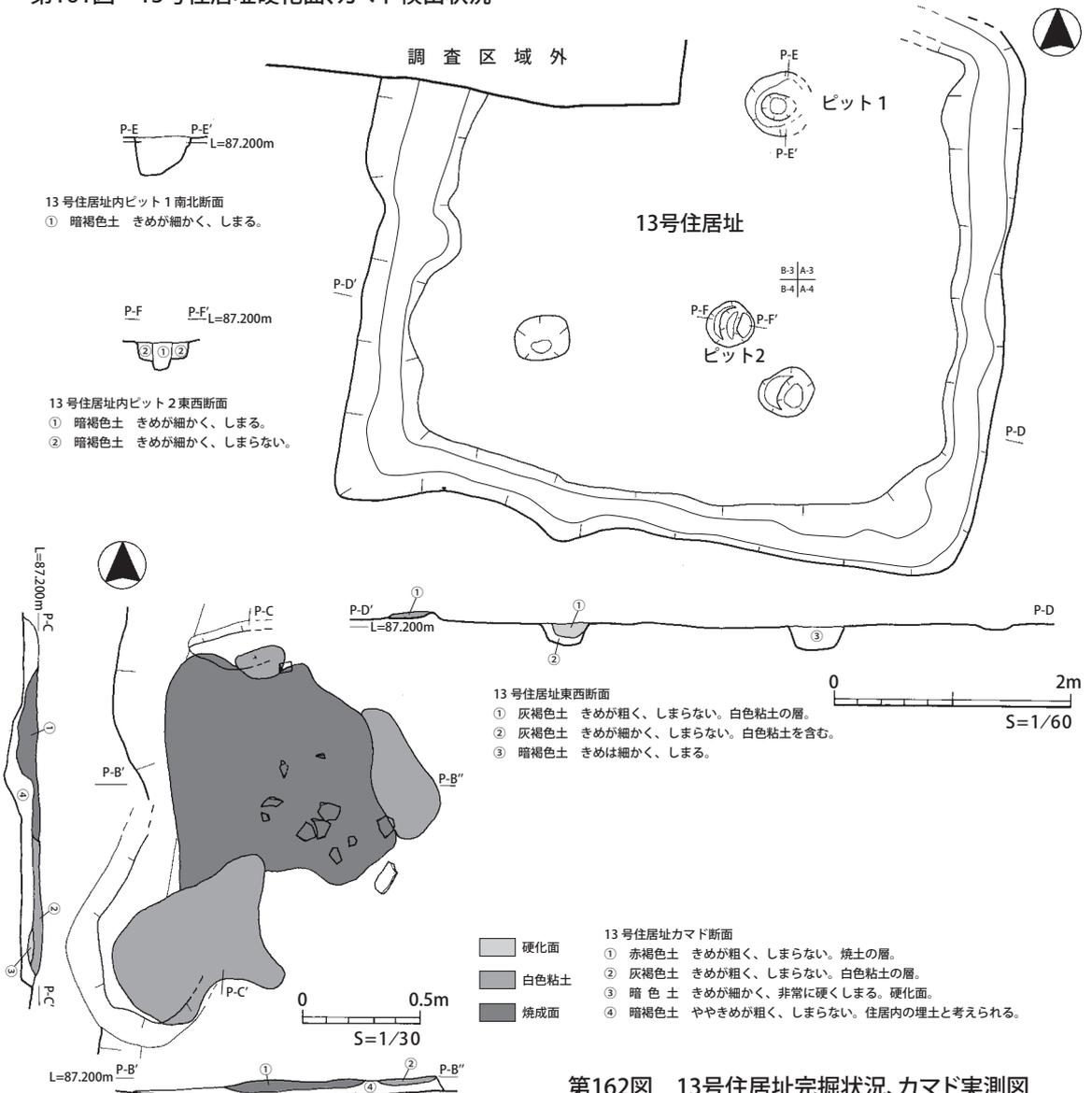
南北に6.1mとやや大型の住居址と考えられる。遺構の西半分は調査区域外であり、17号住居址を切っている。カマドの位置は不明。中央部に硬化面がのこる。主柱穴は東側の2基が検出された。壁周溝は0.6～0.75m、深さ0.2mを測る。

19 号住居址【第 170 図】

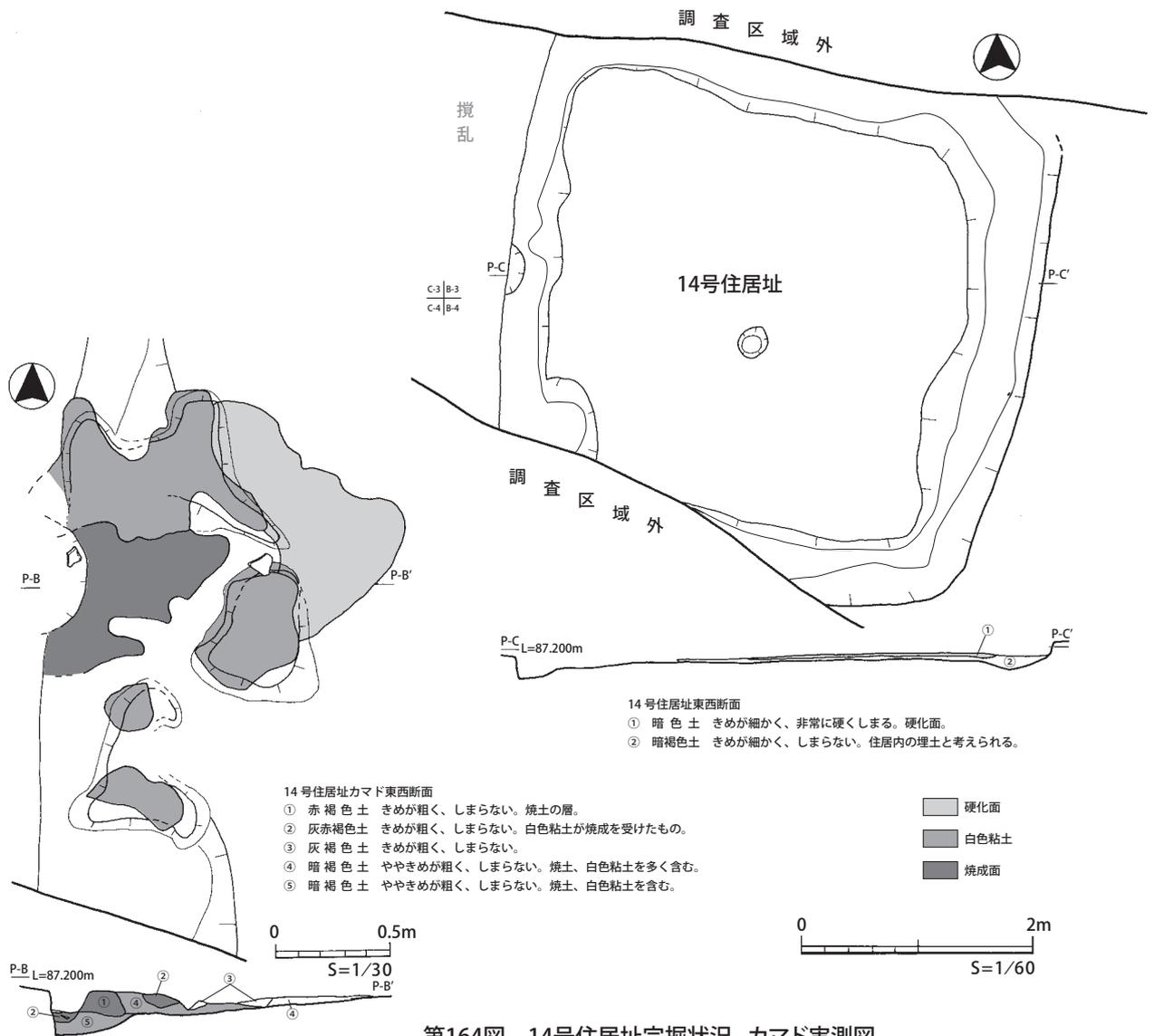
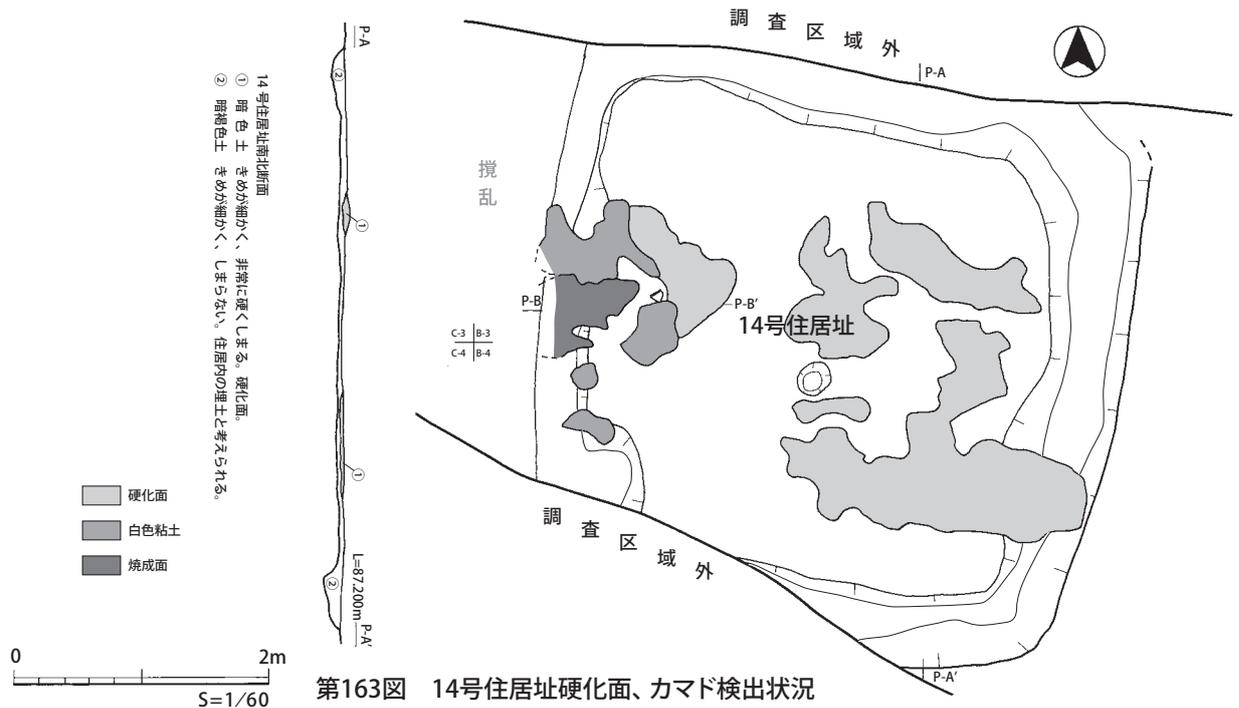
遺構のほとんどが調査区域外で北東隅しか検出できなかったため、詳細は不明。硬化面、カマドの痕跡なども見つからなかった。住居址ではない可能性もある。

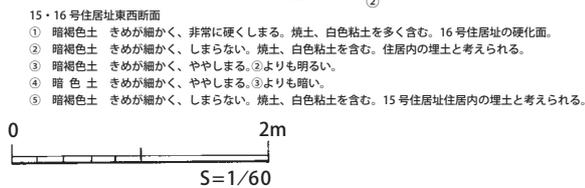
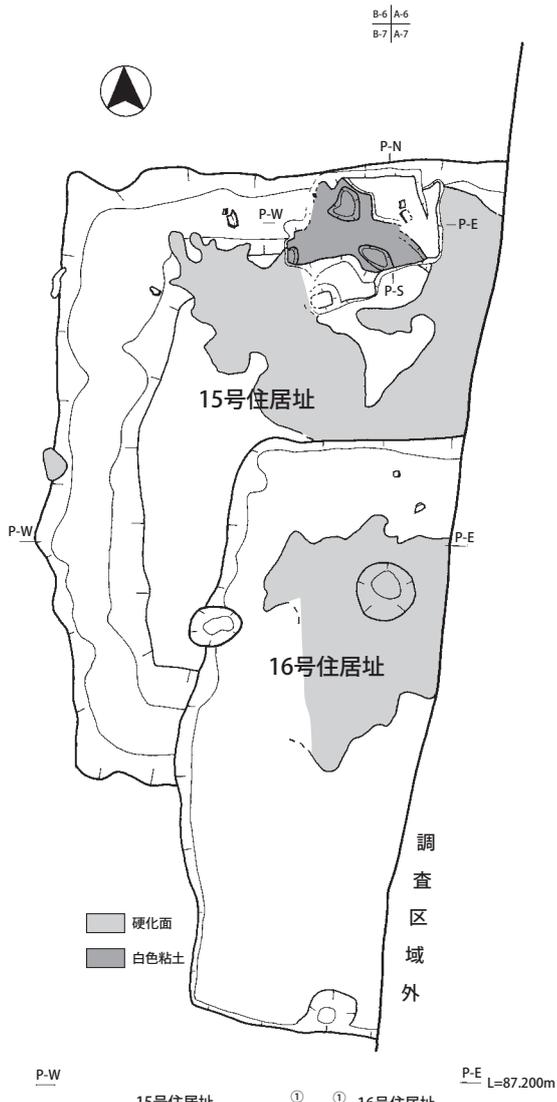


第161図 13号住居址硬化面、カマド検出状況

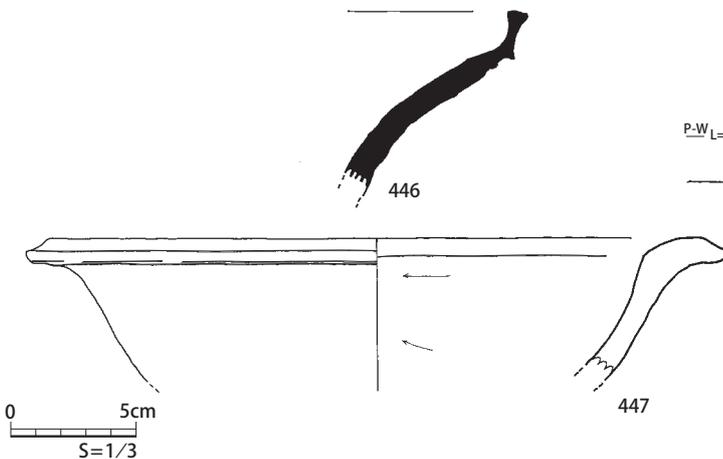


第162図 13号住居址完掘状況、カマド実測図

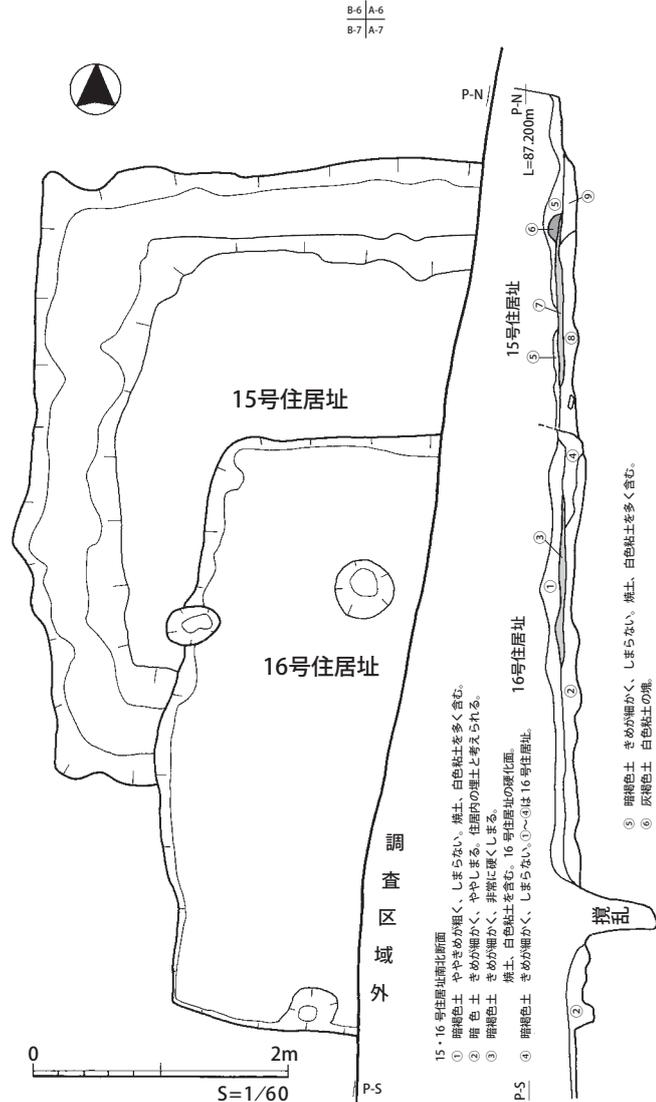




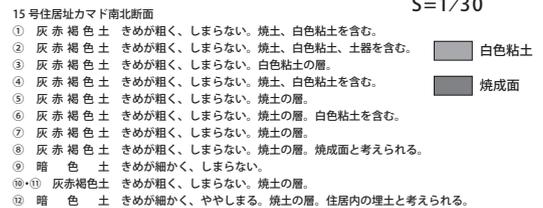
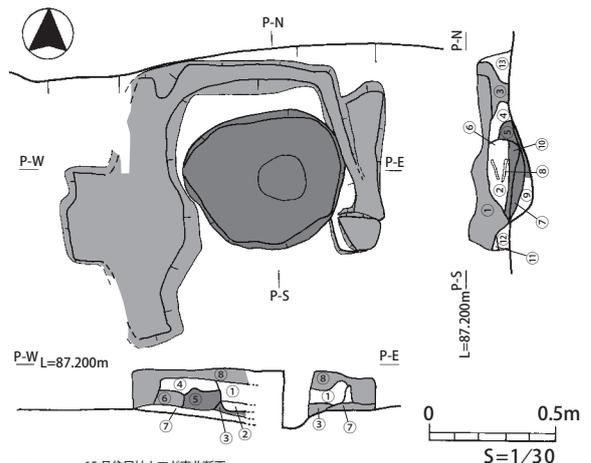
第165図 15・16号住居址硬化面、カマド検出状況



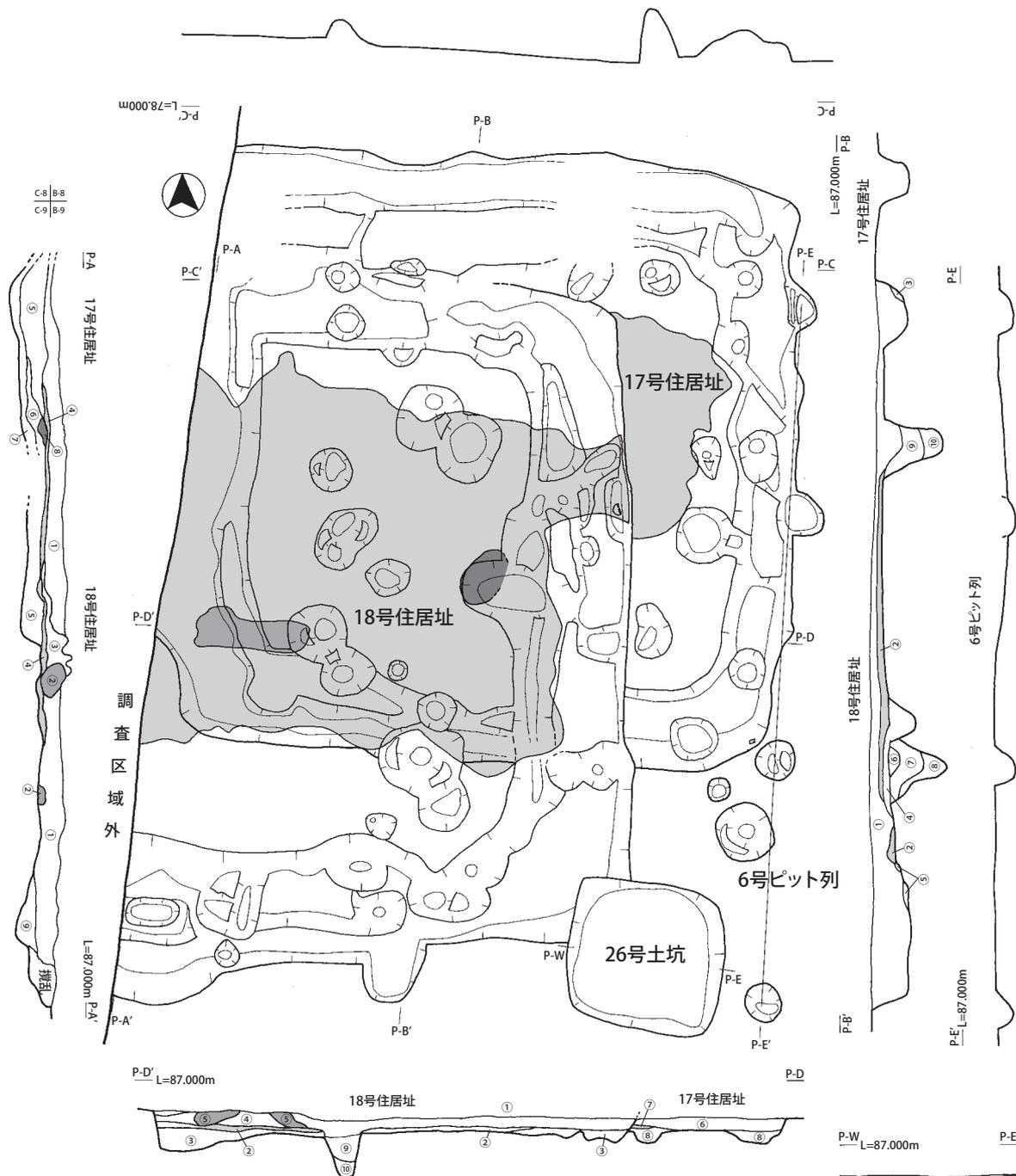
第167図 15号住居址出土遺物実測図



第166図 15・16号住居址居完掘状況



第168図 15号住居址カマド実測図



- 17・18号住居址南北断面 (A-A')
- ① 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。焼土、白色粘土を多く含む。
  - ② 暗灰褐色土 きめが粗く、しまらない。焼成を受けた白色粘土の層。住居内の埋土と考えられる。
  - ③ 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。焼土、白色粘土を含む。
  - ④ 暗褐色土 きめが細かく、非常に硬くしめる。硬化面。
  - ⑤ 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。
  - ⑥ 暗褐色土 焼土、白色粘土を多く含む。17号住居址の埋土と考えられる。
  - ⑦ 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。焼土、白色粘土を含む。
  - ⑧ 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。焼土を多く含む。
  - ⑨ 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。焼土、白色粘土を含む。18号住居址の壁周囲の埋土と考えられる。

- 17・18号住居址東西断面 (D-D')
- ① 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。焼土、白色粘土を多く含む。
  - ② 暗色土 きめが細かく、非常に硬くしめる。焼土、白色粘土を多く含む。硬化面。
  - ③ 暗色土 きめが細かく、しまらない。焼土、白色粘土多く含む。①～③、⑨、⑩は18号住居址。
  - ④ 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。焼土、白色粘土多く含む。
  - ⑤ 灰黄色土 きめが粗く、しまらない。焼土の層。
  - ⑥ 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。焼土、白色粘土を含む。
  - ⑦ 暗褐色土 きめが細かく、非常に硬くしめる。硬化面。
  - ⑧ 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。⑤～⑧は17号住居址。
  - ⑨ 黒褐色土 きめが細かく、しまらない。白色粒、褐色粒を含む。
  - ⑩ 黒色土 きめが細かく、しまらない。

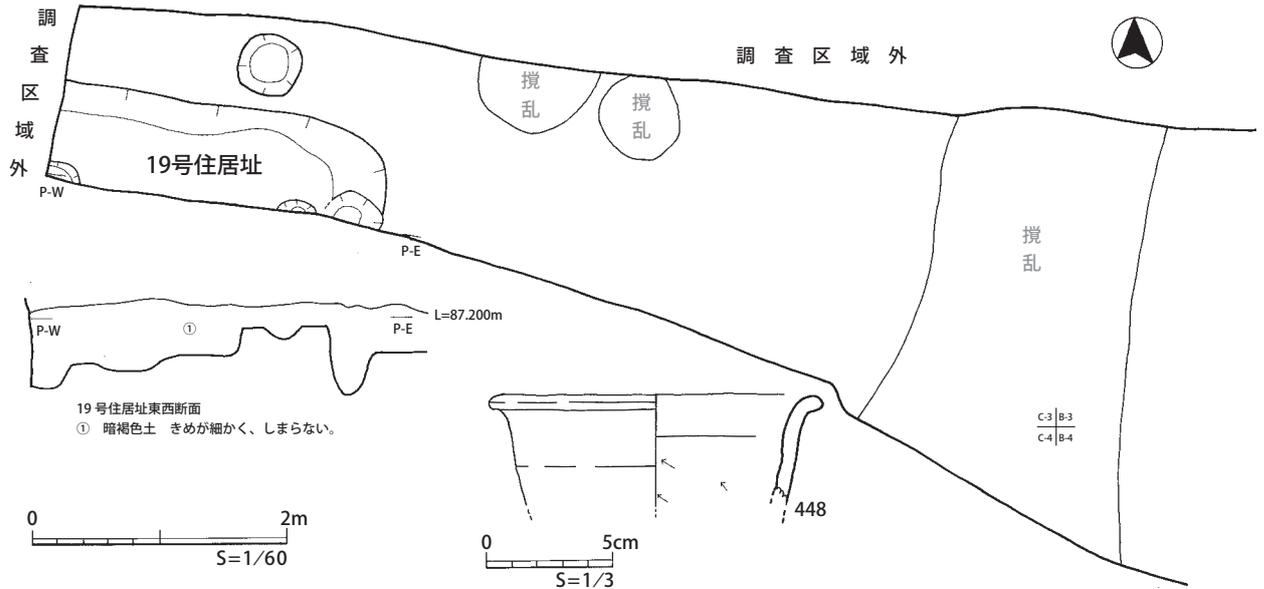
- 26号土坑東西断面
- ① 黒色土 きめが細かく、しまらない。焼土、カーボンを含む。
  - ② 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。焼土、カーボンを含む。

- 17・18号住居址南北断面 (B-B')
- ① 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。焼土、白色粘土を多く含む。
  - ② 暗色土 きめが細かく、非常に硬くしめる。焼土、白色粘土を多く含む。硬化面。
  - ③ 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。焼土、白色粘土を少量含む。
  - ④ 暗褐色土 きめが細かく、ややしめる。
  - ⑤ 暗褐色土 きめが細かく、ややしめる。
  - ⑥ 暗褐色土 きめが細かく、ややしめる。
  - ⑦ 暗褐色土 きめが細かく、ややしめる。白色粘土を多く含む。
  - ⑧ 暗褐色土 ややきめが粗く、しまらない。
  - ⑨ 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。

- 硬化面
- 白色粘土
- 焼成面

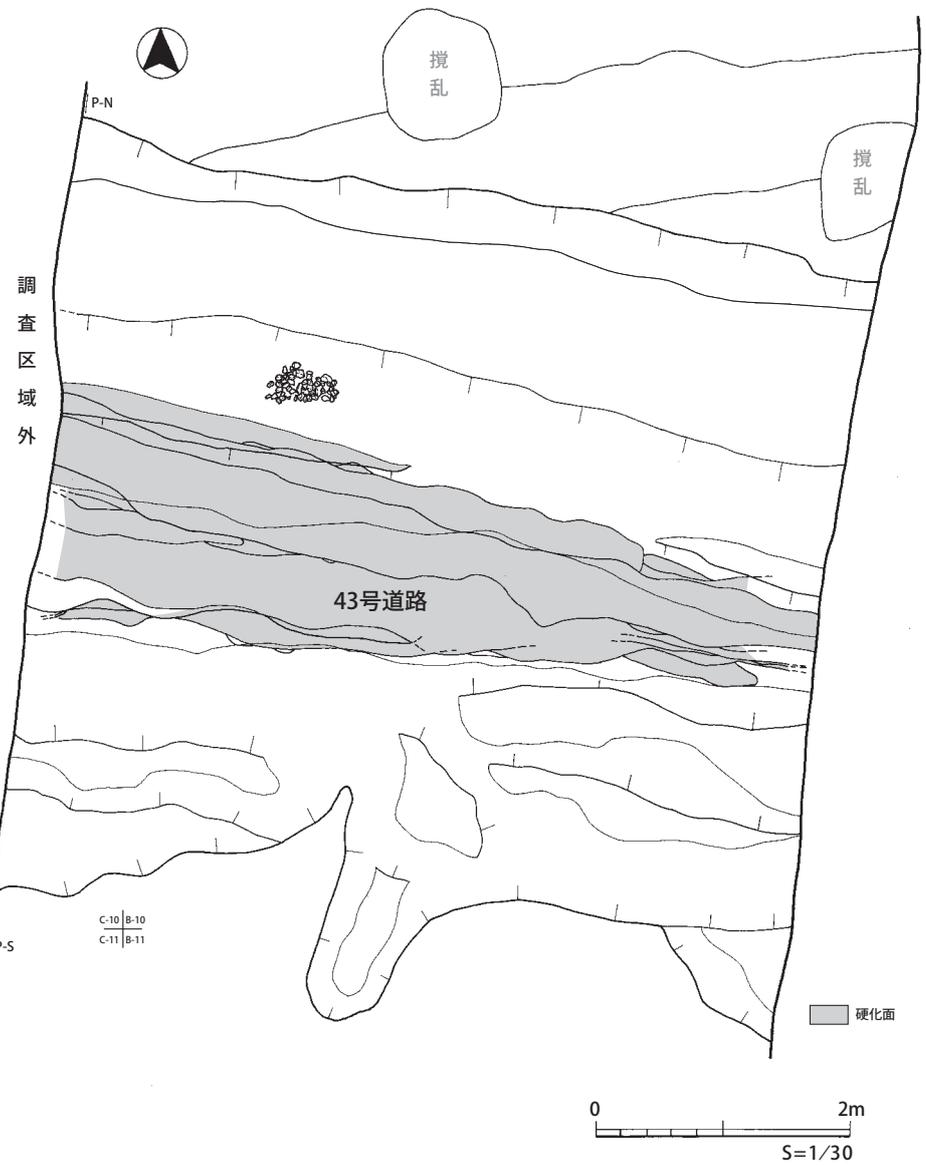


第169図 17・18号住居址、26号土坑、6号ピット列実測図

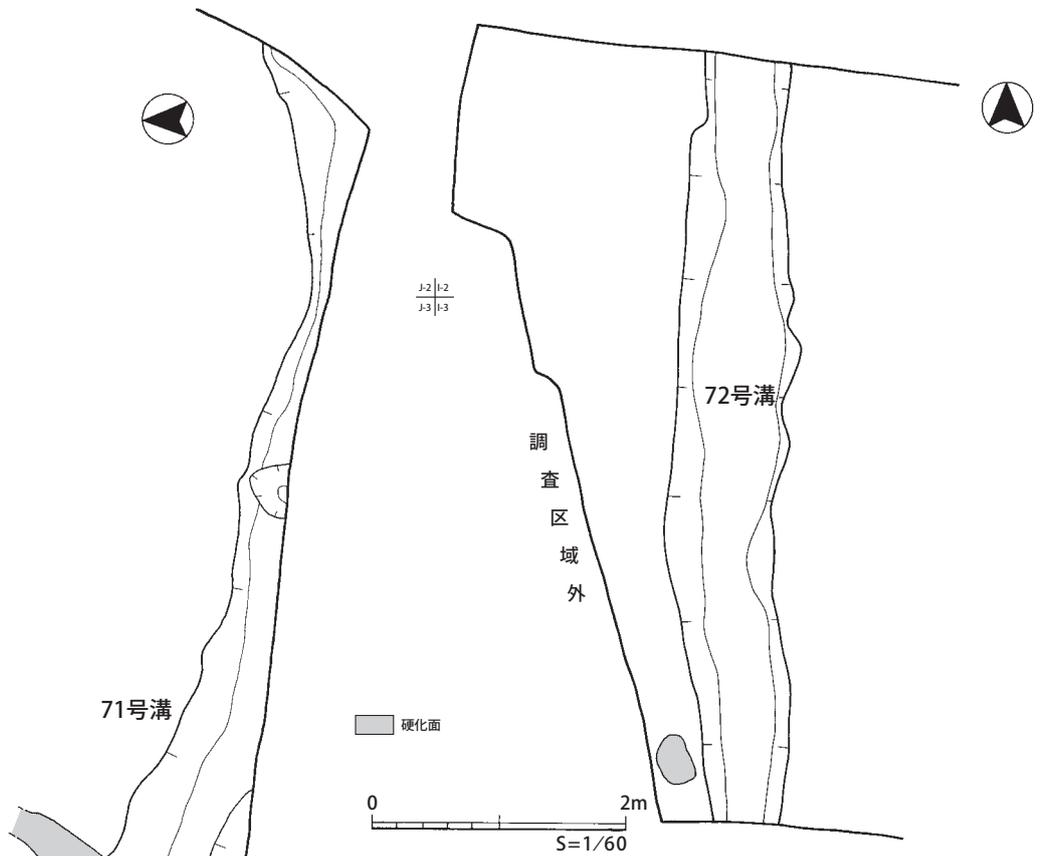


第170図 19号住居址実測図、19号住居址出土遺物実測図

- 43号道路南北断面
- ①~③ 暗褐色土 きめの細かい、しまる、暗褐色、砂礫を多く含む、硬化面。
  - ④~⑥ 暗褐色土 きめの細かい、非常に硬くしまる、暗褐色、砂礫を多く含む、硬化面。
  - ⑦~⑨ 暗褐色土 きめの細かい、非常に硬くしまる、暗褐色、砂礫を多く含む、硬化面。
  - ⑩~⑫ 暗褐色土 きめの細かい、非常に硬くしまる、暗褐色、砂礫を多く含む、硬化面。
  - ⑬~⑮ 暗褐色土 きめの細かい、非常に硬くしまる、暗褐色、砂礫を多く含む、硬化面。
  - ⑯~⑰ 暗褐色土 きめの細かい、非常に硬くしまる、暗褐色、砂礫を多く含む、硬化面。
  - ⑱~⑲ 暗褐色土 きめの細かい、非常に硬くしまる、暗褐色、砂礫を多く含む、硬化面。
  - ⑳~㉑ 暗褐色土 きめの細かい、非常に硬くしまる、暗褐色、砂礫を多く含む、硬化面。
  - ㉒~㉓ 暗褐色土 きめの細かい、非常に硬くしまる、暗褐色、砂礫を多く含む、硬化面。
  - ㉔~㉕ 暗褐色土 きめの細かい、非常に硬くしまる、暗褐色、砂礫を多く含む、硬化面。
  - ㉖~㉗ 暗褐色土 きめの細かい、非常に硬くしまる、暗褐色、砂礫を多く含む、硬化面。
  - ㉘~㉙ 暗褐色土 きめの細かい、非常に硬くしまる、暗褐色、砂礫を多く含む、硬化面。
  - ㉚~㉛ 暗褐色土 きめの細かい、非常に硬くしまる、暗褐色、砂礫を多く含む、硬化面。
  - ㉜~㉝ 暗褐色土 きめの細かい、非常に硬くしまる、暗褐色、砂礫を多く含む、硬化面。
  - ㉞~㉟ 暗褐色土 きめの細かい、非常に硬くしまる、暗褐色、砂礫を多く含む、硬化面。
  - ㊱~㊲ 暗褐色土 きめの細かい、非常に硬くしまる、暗褐色、砂礫を多く含む、硬化面。
  - ㊳~㊴ 暗褐色土 きめの細かい、非常に硬くしまる、暗褐色、砂礫を多く含む、硬化面。
  - ㊵~㊶ 暗褐色土 きめの細かい、非常に硬くしまる、暗褐色、砂礫を多く含む、硬化面。
  - ㊷~㊸ 暗褐色土 きめの細かい、非常に硬くしまる、暗褐色、砂礫を多く含む、硬化面。
  - ㊹~㊺ 暗褐色土 きめの細かい、非常に硬くしまる、暗褐色、砂礫を多く含む、硬化面。
  - ㊻~㊼ 暗褐色土 きめの細かい、非常に硬くしまる、暗褐色、砂礫を多く含む、硬化面。
  - ㊽~㊾ 暗褐色土 きめの細かい、非常に硬くしまる、暗褐色、砂礫を多く含む、硬化面。
  - ㊿~㉀ 暗褐色土 きめの細かい、非常に硬くしまる、暗褐色、砂礫を多く含む、硬化面。



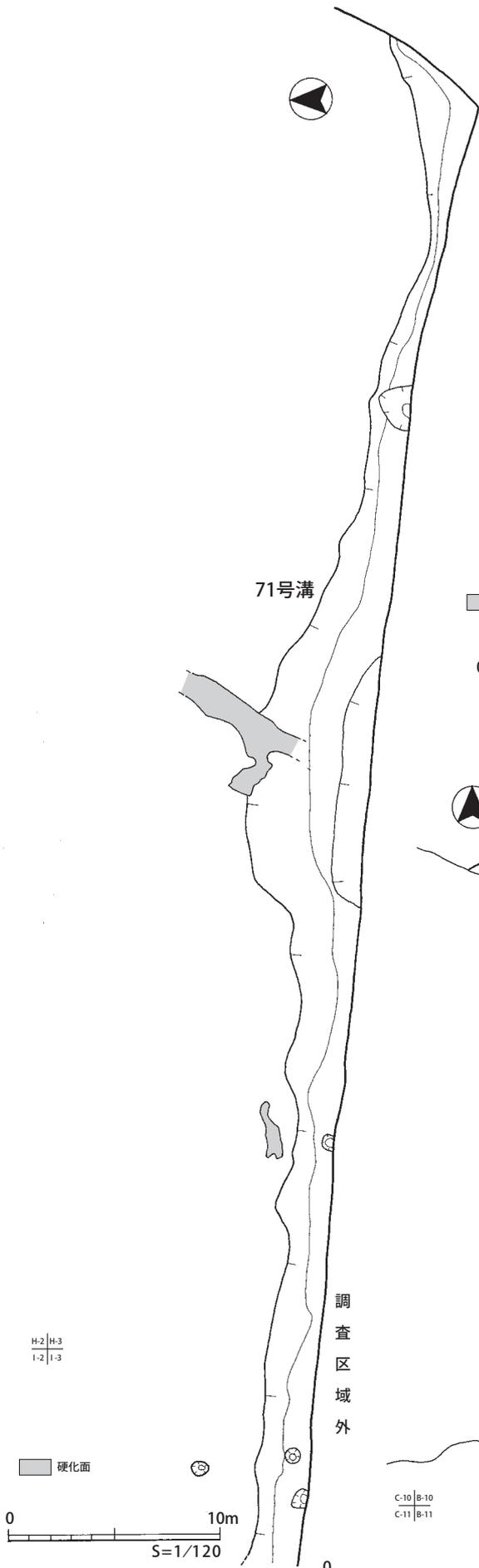
第171図 43号道路実測図



第173図 72号溝実測図



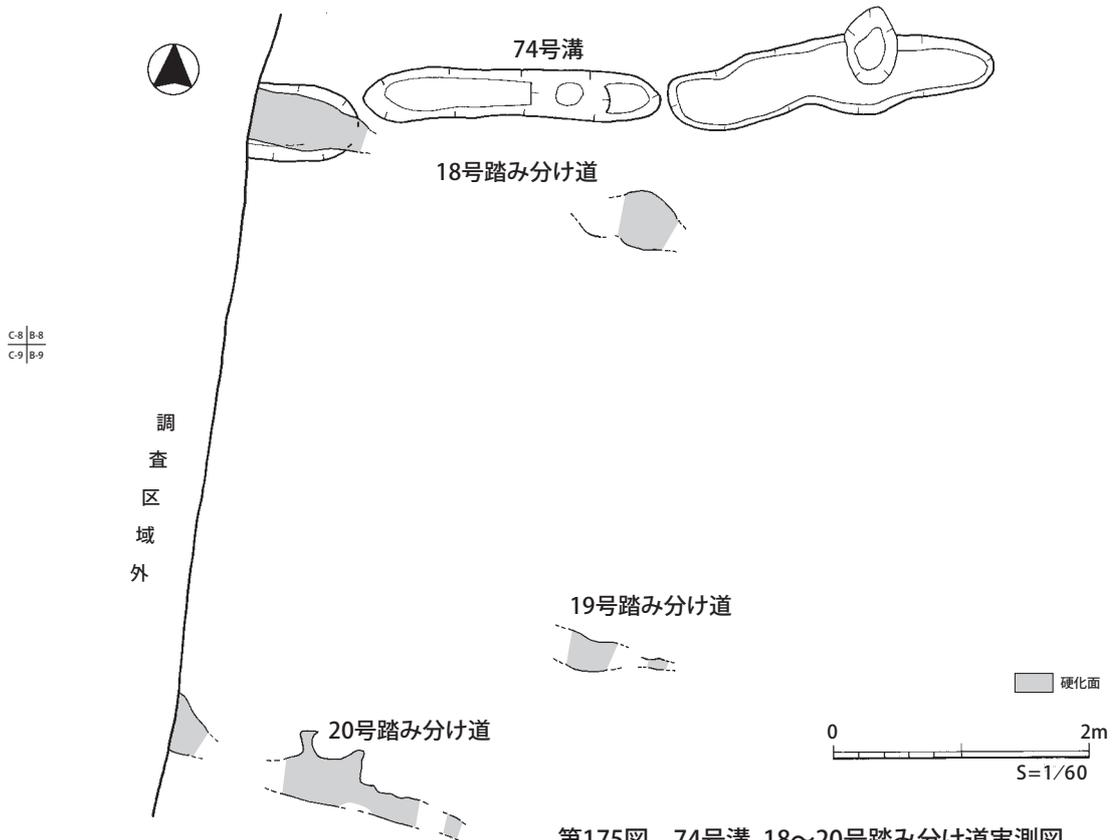
第174図 73号溝、17号踏み分け道実測図



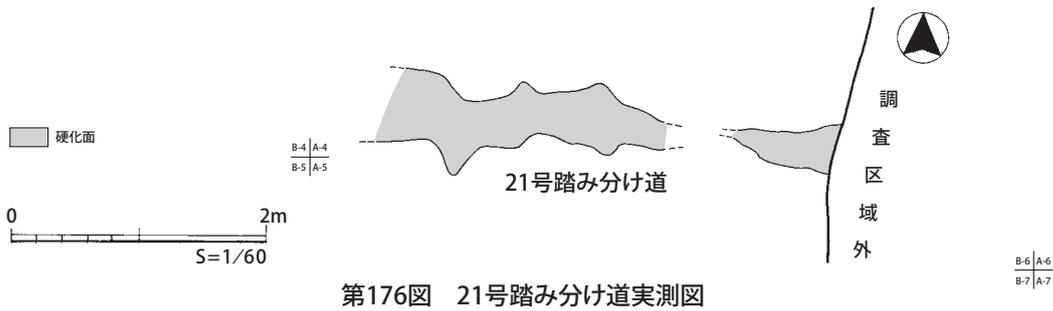
第172図 71号溝実測図

P-N P-S L=89.200m  
①

73号溝南北断面  
① 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。



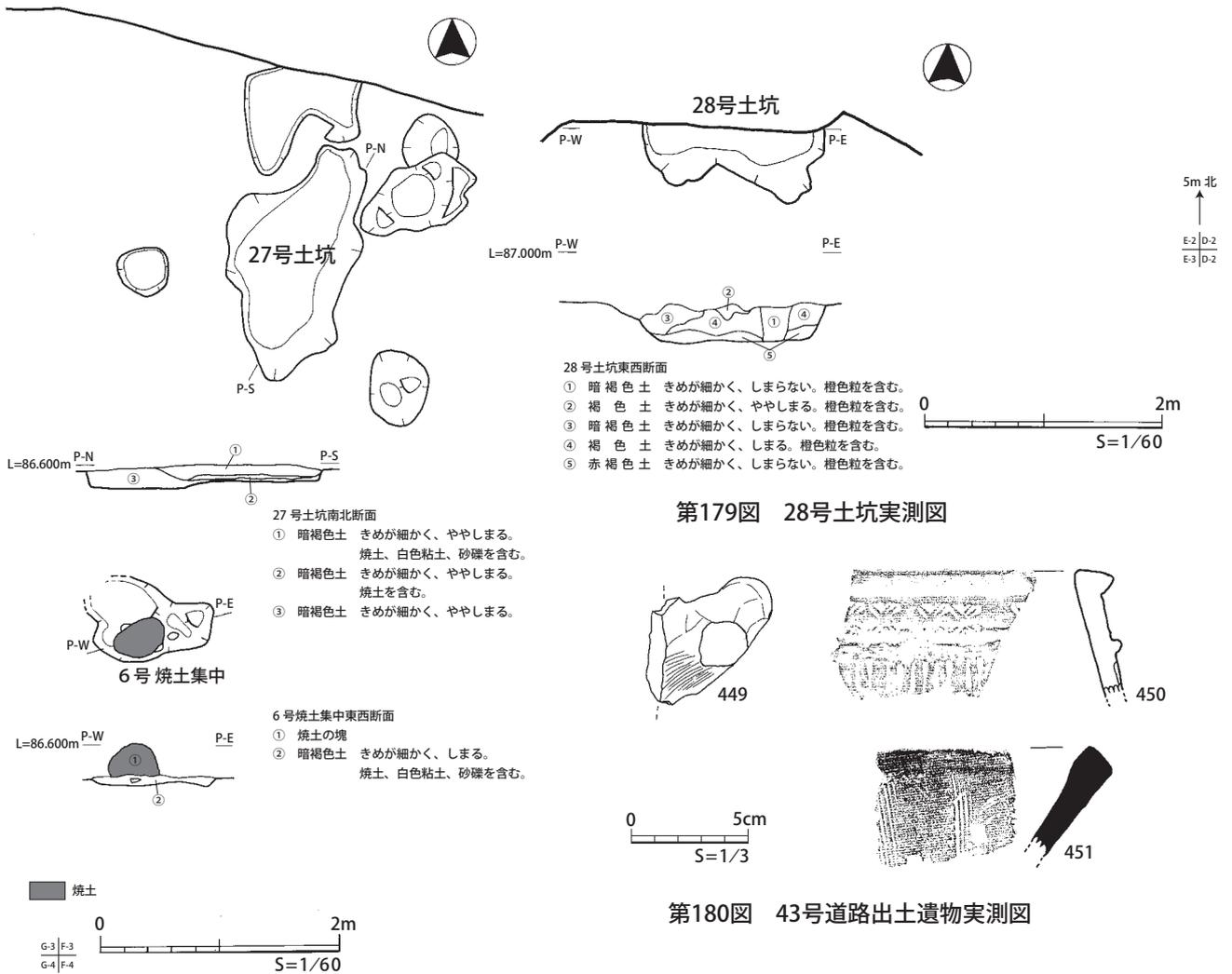
第175図 74号溝、18～20号踏み分け道実測図



第176図 21号踏み分け道実測図



第177図 22～24号踏み分け道実測図



第178図 27号土坑、6号焼土集中実測図

【道路】

43号道路【第171図】

西北西⇨東南東方向に延びる。残長6.2m、幅5.5m、底部幅0.6～1.1m、深さ1.7mを測る。側溝、波板状凹凸面などは検出されていないが、複数の硬化面が確認されたことから、大型の道路と考えられる。断面はすり鉢状で、中央で深掘りされて硬化面が集中する。北側立ち上がりのテラス状の平坦部で集石が検出された。

【溝】

71号溝【第172図】

西北西⇨東南東方向に延びる。残長72.5m、底部幅0.6mを測る。調査区に沿って検出されたため、幅は不明。一部土坑状に拡張するが、直進する非常に大型の溝と考えられる

72号溝【第173図】

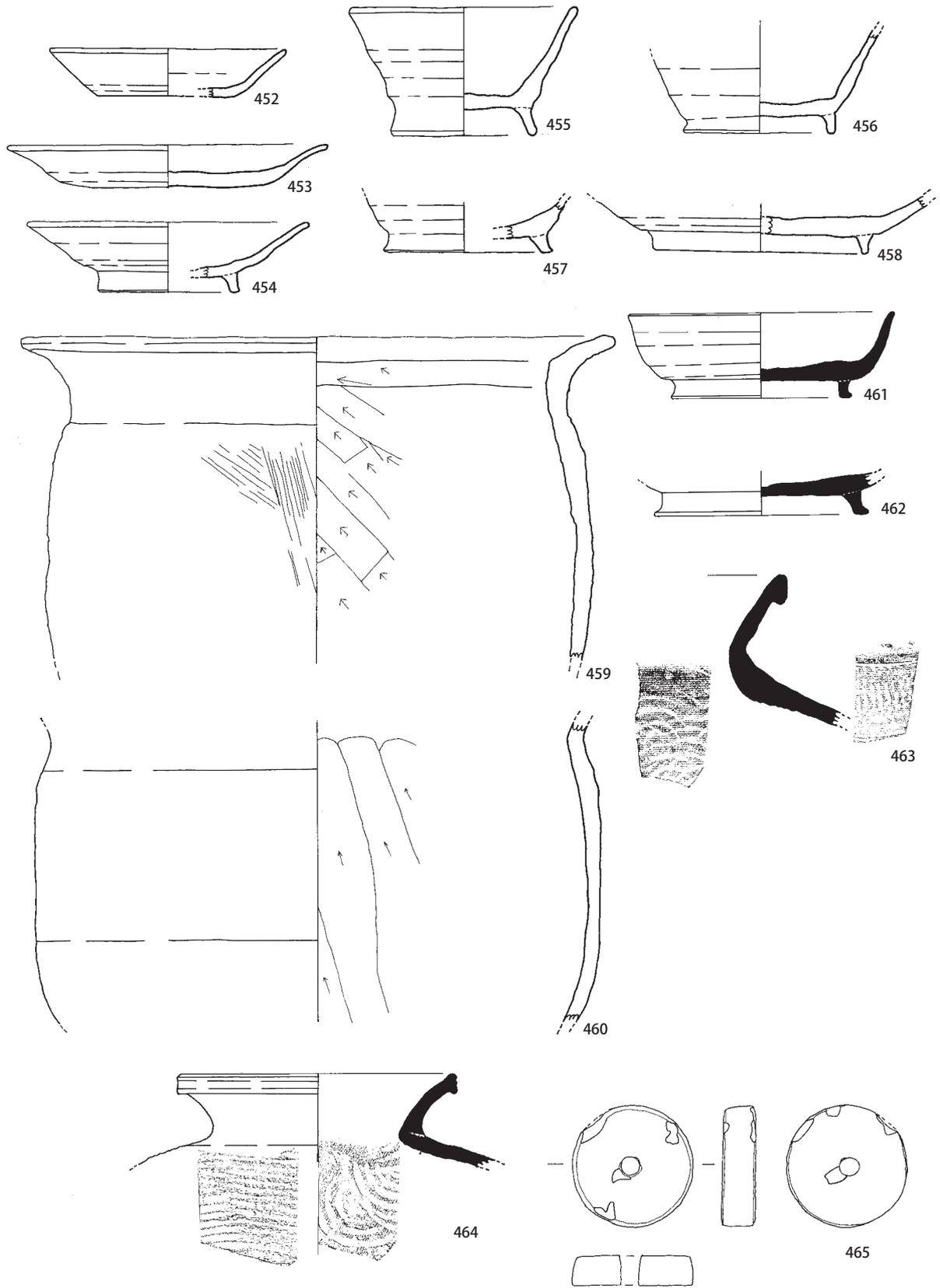
南北方向に延びる。残長6.2m、検出面幅0.9m、底部幅0.3～0.6mを測る。

73号溝【第174図】

東北東⇨西南西方向に延びる。検出面幅1.1m、底部幅0.6m、深さ1.0mを測る。43号道路に切られている。

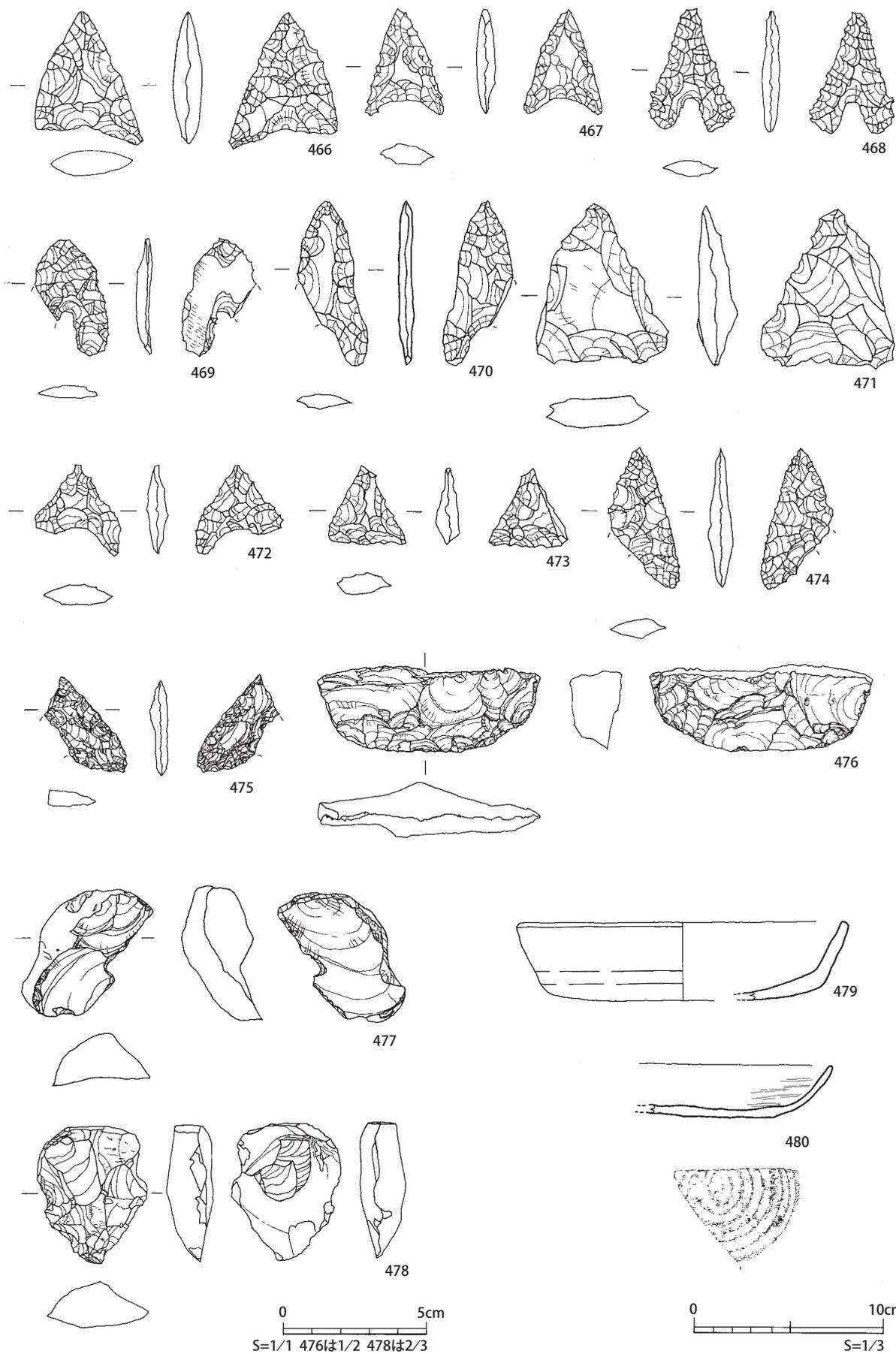
74号溝【第175図】

東西方向に延びる。残長2.5m、幅0.4m程度の細長い掘りこみが3基連っており、一見、土坑にも見える。一部、18号踏み分け道に切れ、同一の遺構の可能性はある。



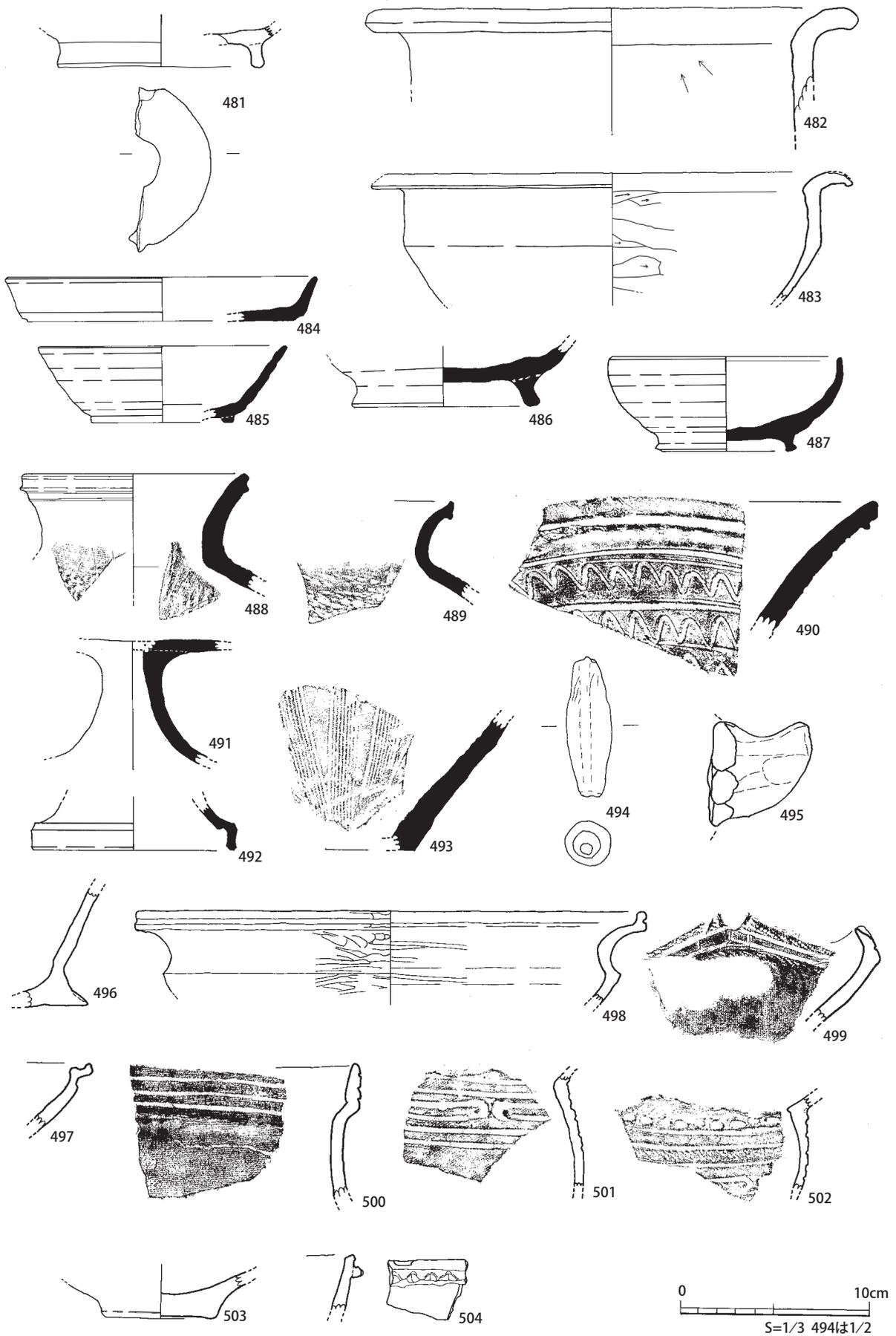
0 10cm  
S=1/3 465は1/2

第181図 D-1区出土遺物実測図

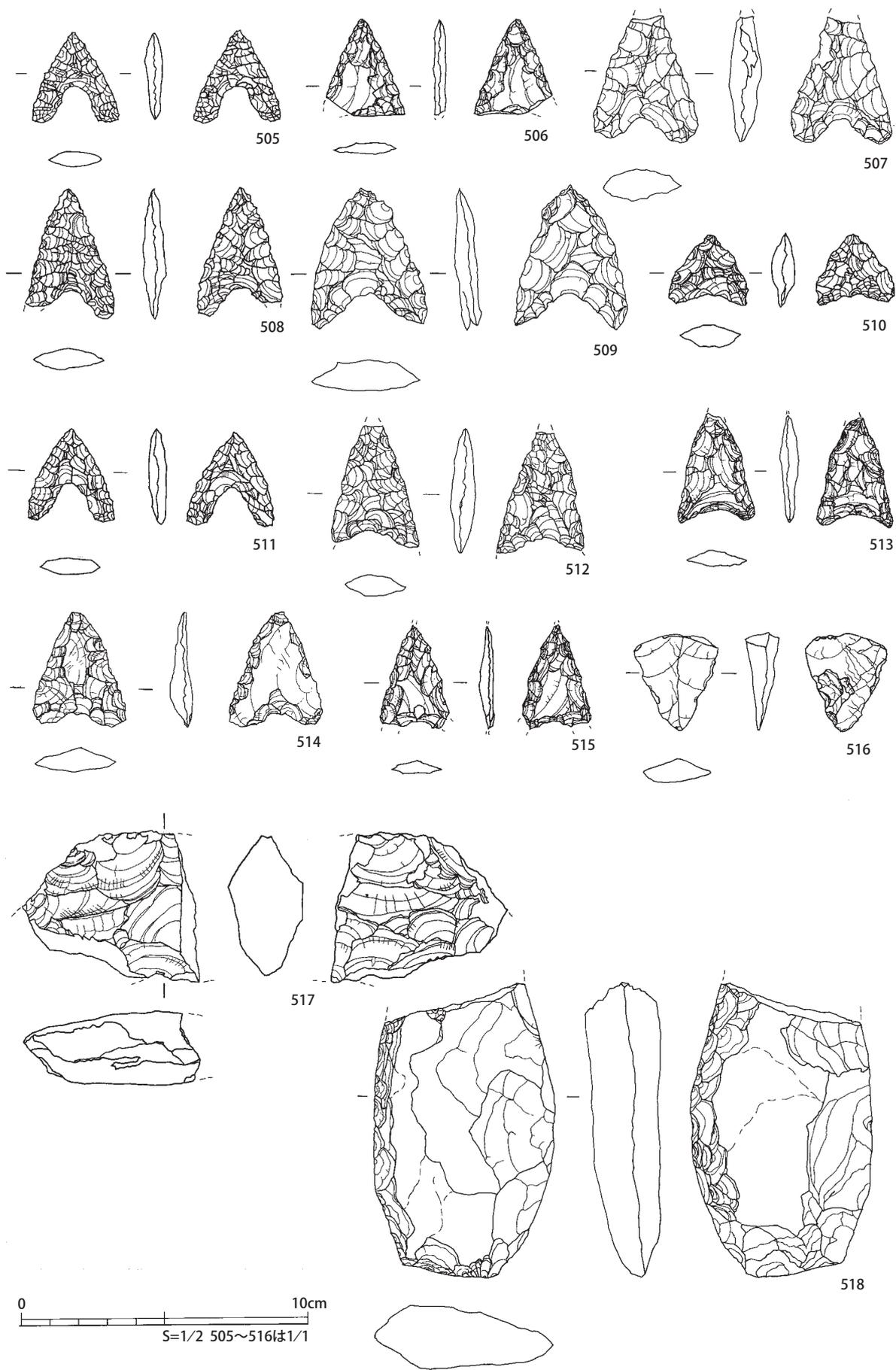


第182图 D-1区出土遗物实测图

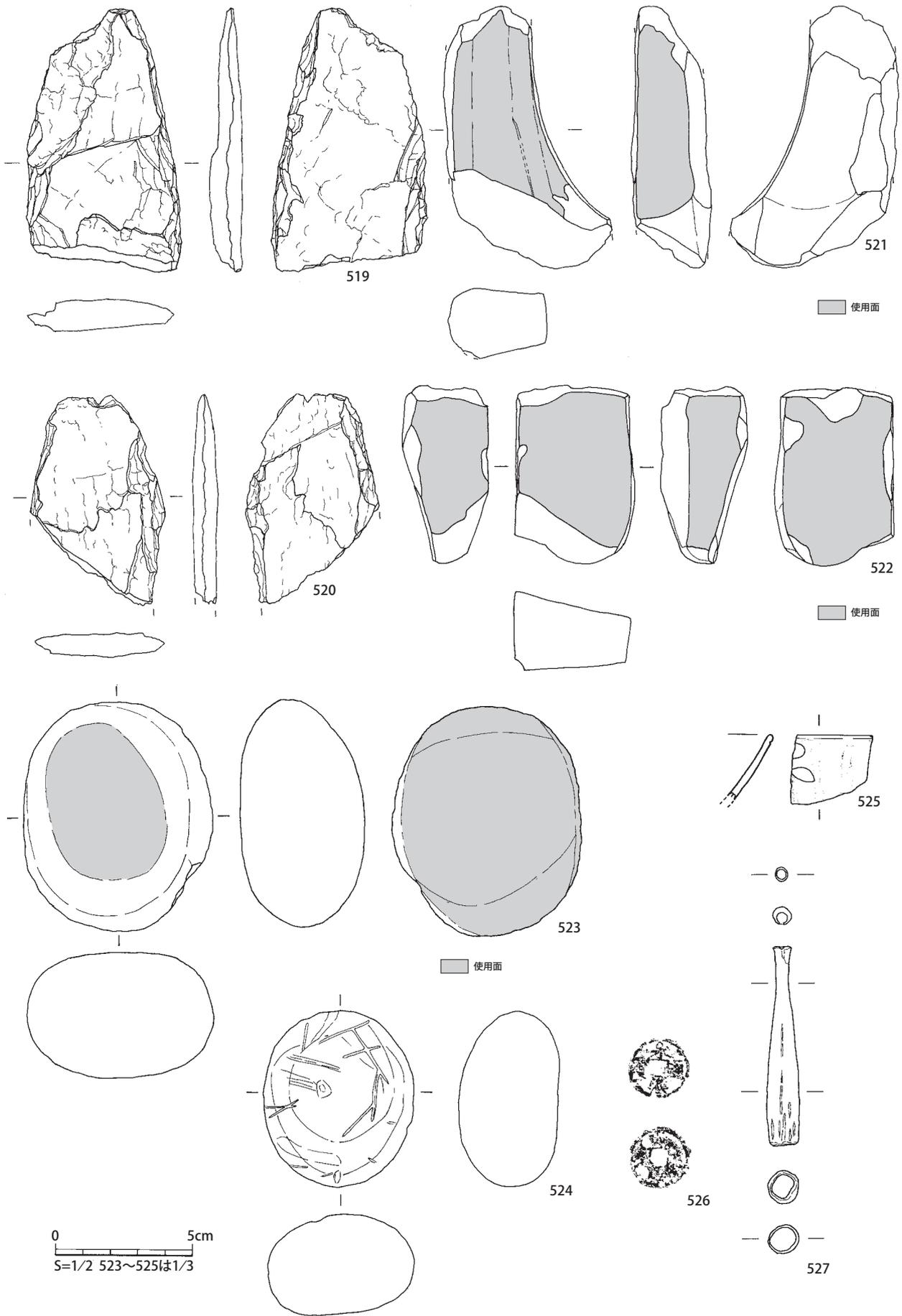
第183图 D-2区出土遗物实测图



第184図 D-2区出土遺物実測図



第185图 D-2区出土遺物実測図



第186図 D-2区出土遺物実測図

## 【踏み分け道】

### 17号踏み分け道【第174図】

北北西⇨南南東方向に延びる。残長2.7m、幅0.7mを測る。43号道路を切っていると想定される。踏み分け道と思われるが、詳細は不明。

### 18号踏み分け道【第175図】

西北西⇨東南東方向に延びる。残長は途切れ途切れに4.5m、幅0.5mを測る。一部74号溝と重なる。

### 19号踏み分け道【第175図】

西北西⇨東南東方向に延びる。残長1.0m、幅0.3mを測る。残存状態が悪く、周辺の踏み分け道の一部である可能性もある。

### 20号踏み分け道【第175図】

西北西⇨東南東方向に延びる。残長2.5m、幅0.4mを測る。18～20号踏み分け道は隣接して延びる方向も同一であり、関連があると思われる。

### 21号踏み分け道【第176図】

東西方向に延びる。残長3.7m、幅0.25～0.55mを測る。

### 22号踏み分け道【第177図】

東北東⇨西南西方向に延びる。残長3.6m、幅0.3～0.7mを測る。

### 23号踏み分け道【第177図】

東北東⇨西南西方向に延びる。残長3.7mを測る。残存状況が悪い。

### 24号踏み分け道【第177図】

東北東⇨西南西方向に延びる。残長3.7mを測る。残存状況が悪い。22～24号踏み分け道は併行して15号住居址へ向かっており、何らかの関連があるかもしれない。

## 【土坑】

### 26号土坑【第169図】

一辺1.5mの隅丸方形を呈する。深さ0.3m。18号住居址を切っているが、関連する遺構かどうかは不明。

### 27号土坑【第178図】

長軸2.1m×短軸1.2mのいびつな平面形状を呈する。深さ0.2m。

### 28号土坑【第179図】

いびつな平面形状を呈する。深さ0.25m。遺構の性格は不明。

## 【ピット列】

### 6号ピット列【第169図】

17号住居址を切っている。南北方向に延びる。柱間は2.3m、一番北側のみ1.8mを測る。住居址に伴う遺構かどうかは不明。

## 【焼土集中】

### 6号焼土集中【第178図】

長軸1.2m×短軸0.8mのいびつな平面形状を呈する。遺構の性格は不明。

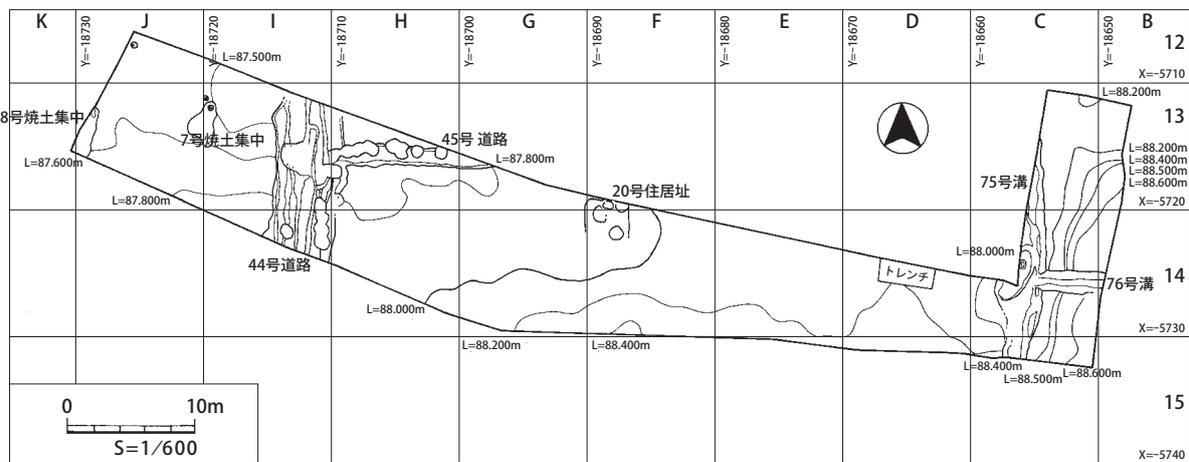
## D-3区

### 調査の成果

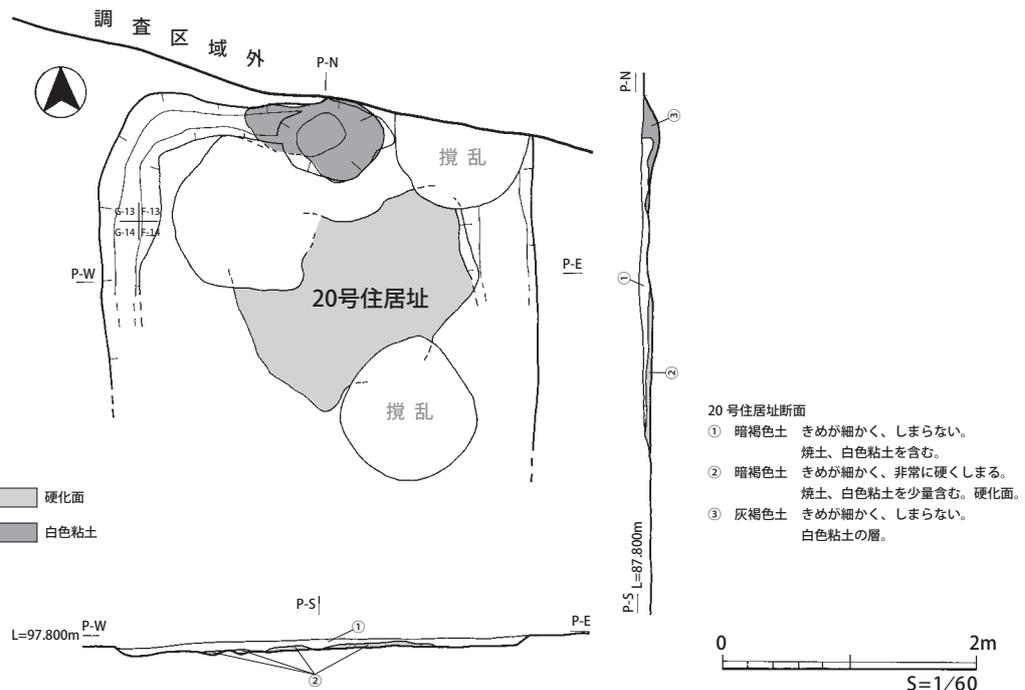
#### 【住居址】

#### 20号住居址【第188図】

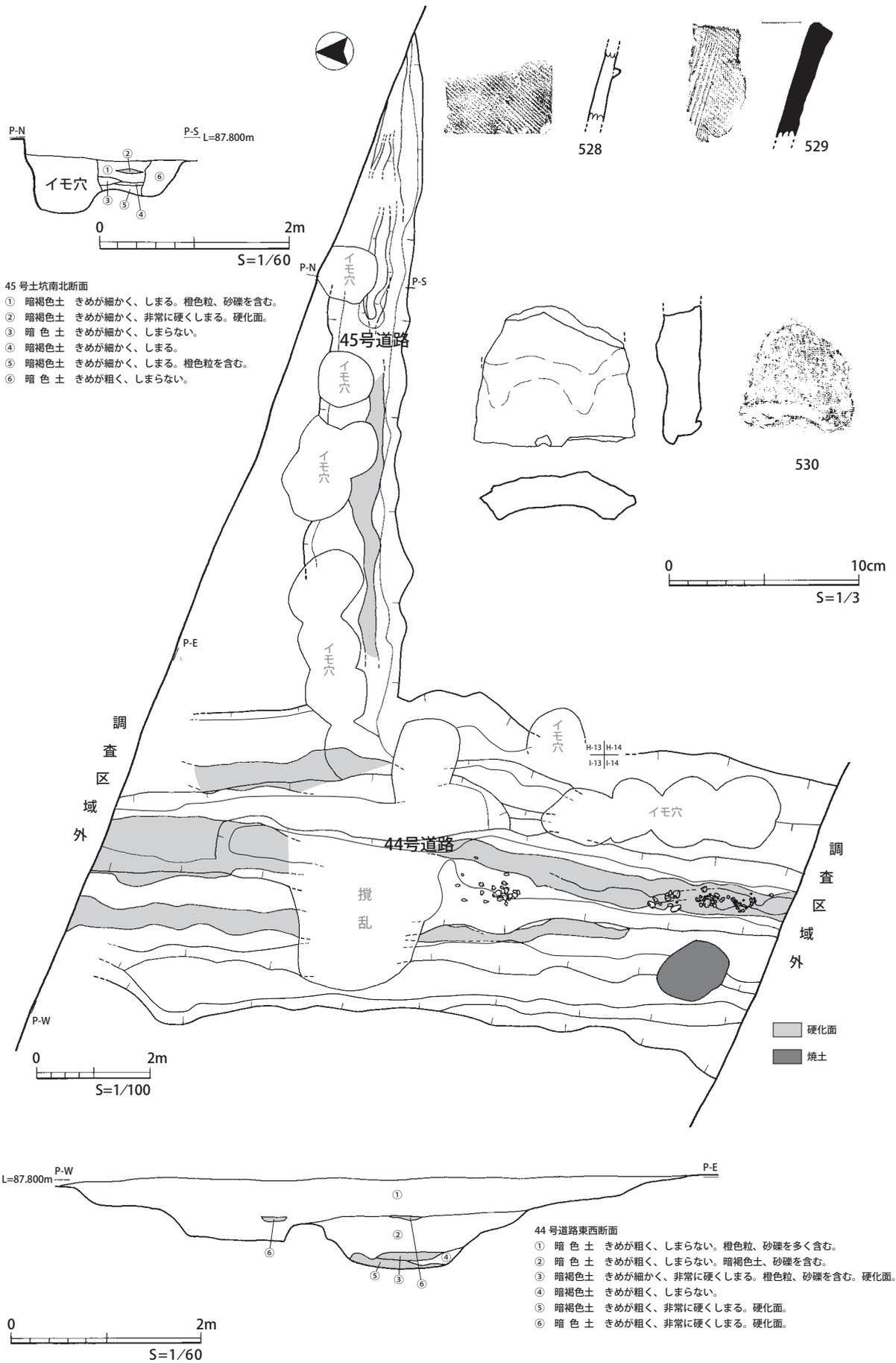
南半分は削平を受け、東西3.5mを測る。中央に硬化面が残存し、幅0.3～0.5mのごく浅い壁周溝が検出された。白色粘土の広がりからカマドは北側壁にあったと思われるが、残存せず、柱穴も確認されなかった。



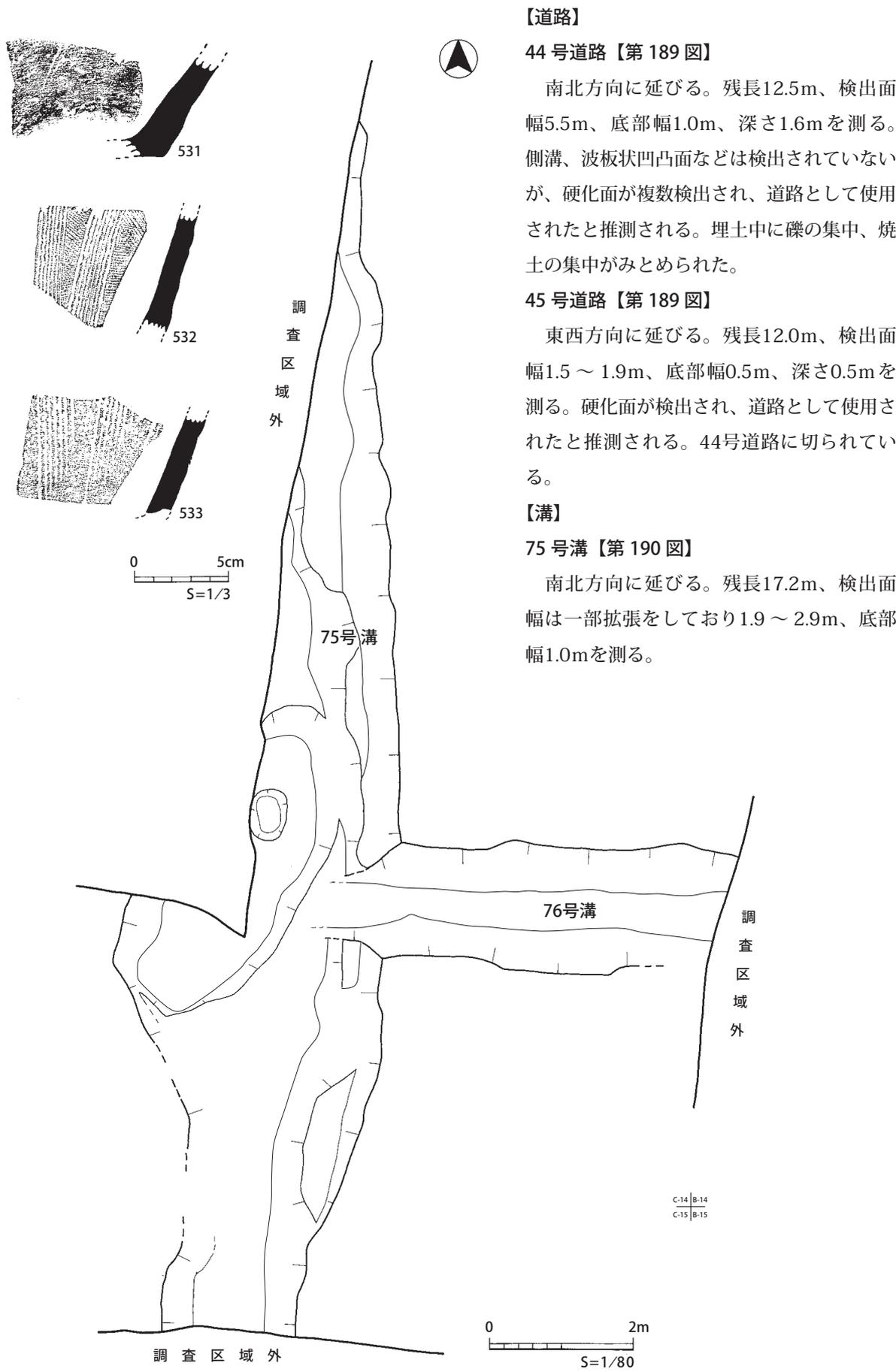
第187図 D-3区遺構配置図



第188図 20号住居址実測図



第189図 44・45号道路実測図、44号道路出土遺物実測図



**【道路】**

**44号道路【第189図】**

南北方向に延びる。残長12.5m、検出面幅5.5m、底部幅1.0m、深さ1.6mを測る。側溝、波板状凹凸面などは検出されていないが、硬化面が複数検出され、道路として使用されたと推測される。埋土中に礫の集中、焼土の集中がみとめられた。

**45号道路【第189図】**

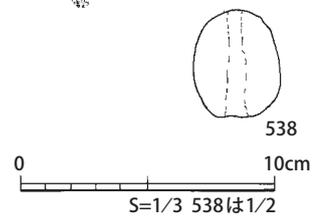
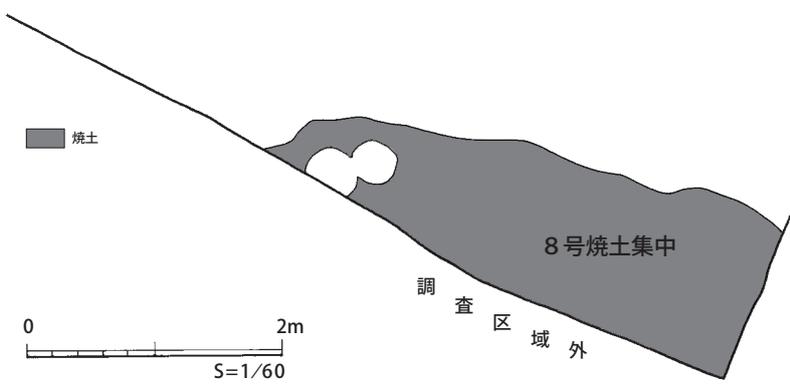
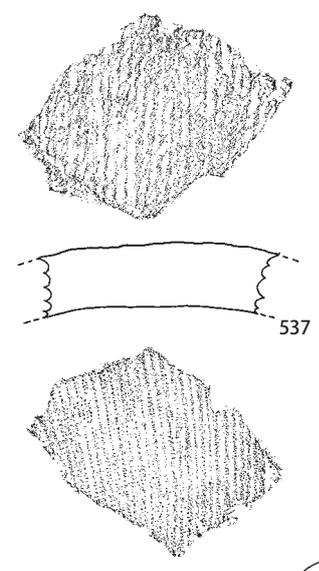
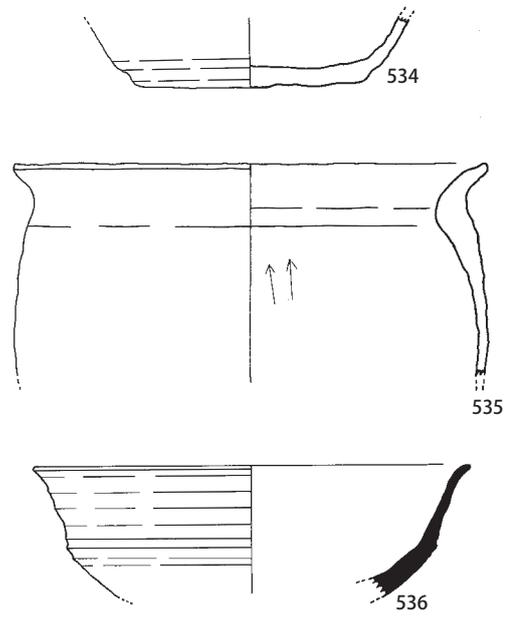
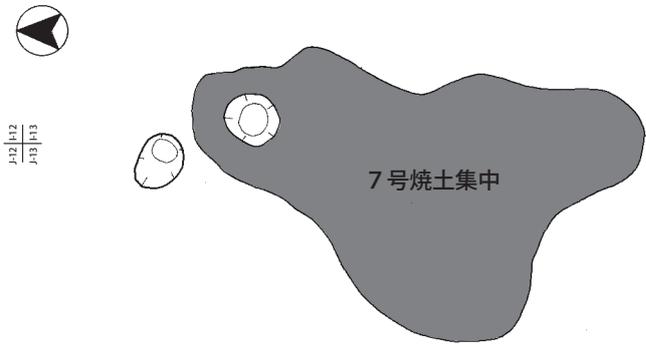
東西方向に延びる。残長12.0m、検出面幅1.5～1.9m、底部幅0.5m、深さ0.5mを測る。硬化面が検出され、道路として使用されたと推測される。44号道路に切られている。

**【溝】**

**75号溝【第190図】**

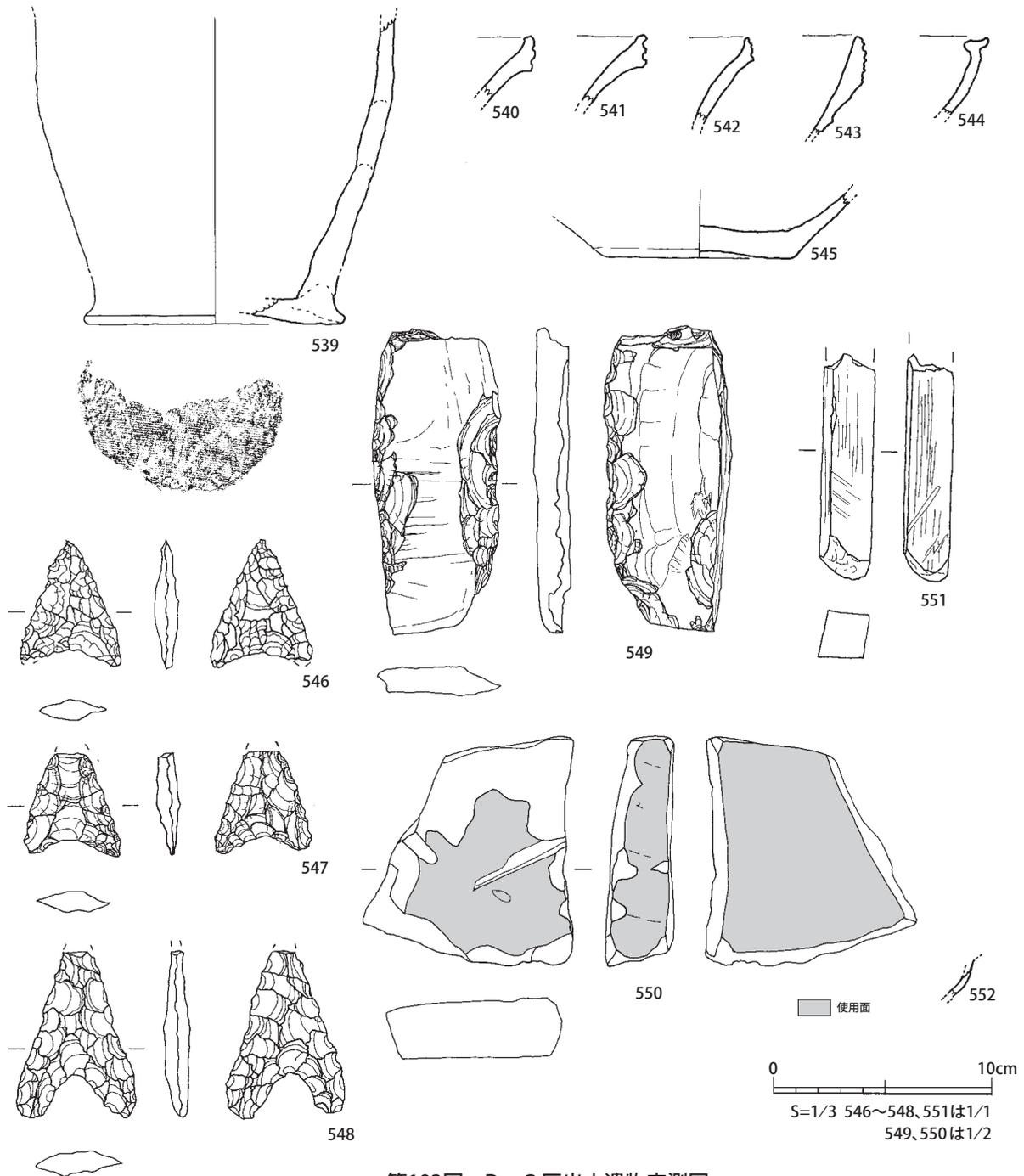
南北方向に延びる。残長17.2m、検出面幅は一部拡張をしており1.9～2.9m、底部幅1.0mを測る。

第190図 75・76号溝実測図、75・76号溝出土遺物実測図



第191図 7・8号焼土集中実測図

第192図 D-3区出土遺物実測図



第193図 D-3区出土遺物実測図

76号溝【第190図】

東西方向に延びる。残長4.8m、検出面幅1.8m、底部幅0.5mを測る。75号溝に切られている。

【焼土集中】

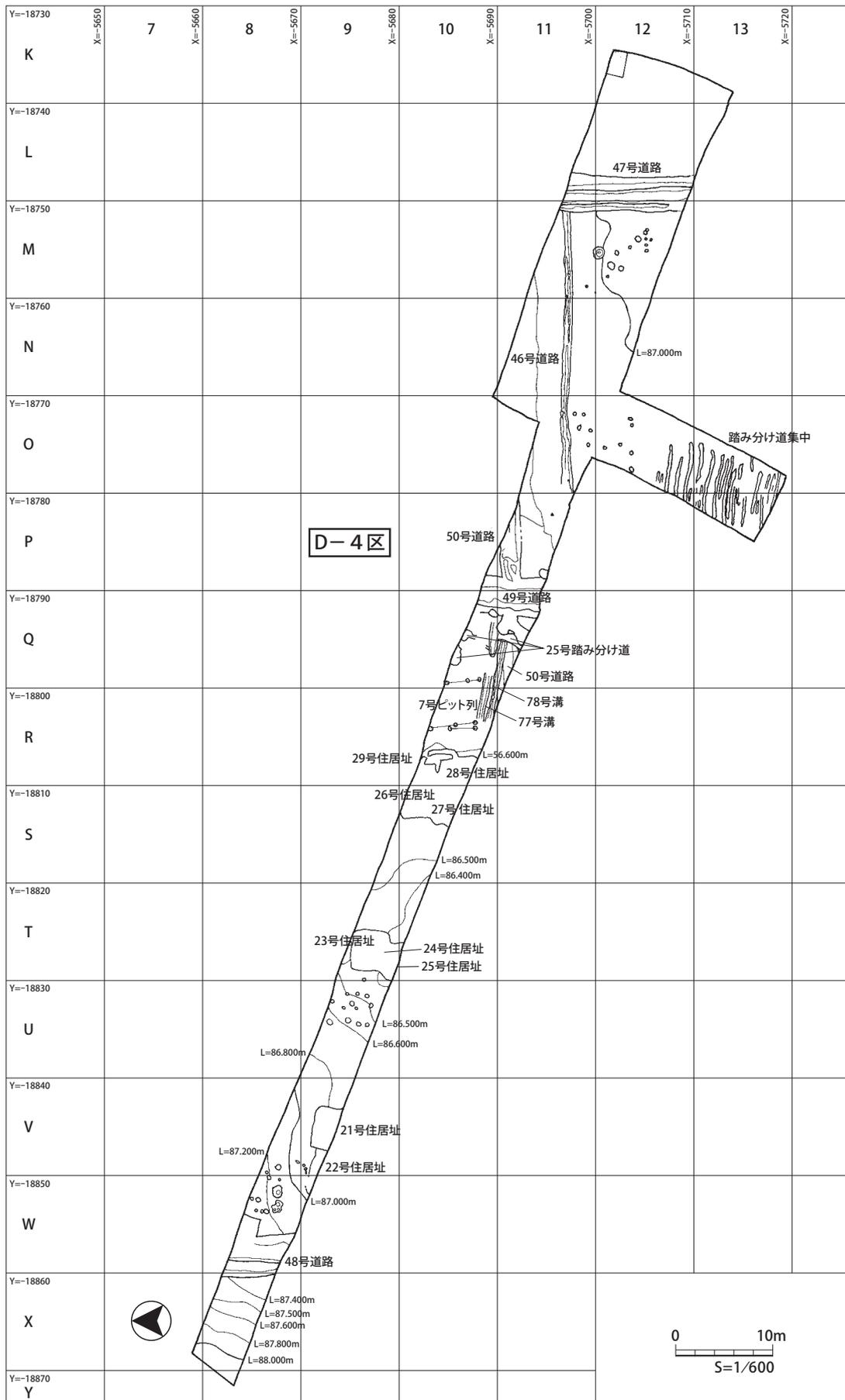
7号焼土集中【第191図】

長軸3.6m×短軸2.2mの範囲に、不定形に焼土の集中が広がる。

8号焼土集中【第191図】

調査区の南端に、南北4.1mの範囲に焼土の集中が広がる。炭化物を包含する。

# D-4区



第194図 D-4区遺構配置図

## 調査の成果

### 【住居址】

#### 21号住居址【第195・196図】

東西に4.4mを測る。遺構の南半分は調査区域外である。北側壁中央にカマドを持つ。中央付近で硬化が著しく、10cm程度の貼り床である。カマドを持つ辺の壁周溝は0.8mと、0.6m程度の東西の2辺にくらべて幅広く、一度掘り下げてから再度埋めなおして設営したと考えられる。支柱穴は北側の2基が残存する。カマドは袖が一部残存し、白色粘土と焼土の範囲で推測される。遺構内出土の炭化物年代測定で2470±30年BPと縄文時代であるが、カマド内出土の炭化物の年代は1260±30年BPと7～8世紀代の数値が出ており、整合しない。

#### 22号住居址【第196図】

遺構のほとんどが調査区域外のため、詳細は不明。21号住居址に切られている。

#### 23号住居址【第197・198図】

東西に4.1mを測る。中央付近で硬化がみとめられる。検出面でプランが確認できたが、掘削すると24号住居址との切り合い関係ははっきりとわからず、壁周溝のみが確認された。壁周溝は幅0.4mを測る。

#### 24号住居址【第197・198図】

南北に3.9m、東西に4.0mを測る。検出面では明瞭にプランを確認できず、掘削により検出された。23号住居址との前後関係も明瞭ではない。東側壁に白色粘土がみとめられるが、はっきりとカマドであると判断できなかった。壁周溝は幅0.4mを測る。

#### 25号住居址【第197・198図】

東西に3.7mを測る。検出面で硬化面と白色粘土の広がりが見とめられ、プランが確認できたが、掘削すると24号住居址との切り合い関係は明瞭ではなかった。北側の壁周溝は、24号住居址の壁周溝と切り合っている。壁周溝は幅0.6mを測る。23～25号住居址については、切り合いが明瞭でなかったため、前後関係が不明である。

#### 26号住居址【第199図】

東西に4.5mを測る。中央付近で硬化面が見とめられた。壁周溝は東側で0.6m、西側では0.9mを測る。北側壁付近で白色粘土が検出されたため、カマドは北側壁中央にあったと思われる。27号住居址に切られている。

#### 27号住居址【第199図】

切り合いにより、プランは不明であるが、西側壁中央にカマドがあったため、南北4.5m程度と推測される。中央部で硬化面が確認され、北側では幅0.7mほどの壁周溝がわずかにのこる。西側壁中央でカマドが確認されたが、右側の袖が残存するのみである。

#### 28号住居址【第199図】

切り合いにより、プランは不明である。中央付近で硬化面が確認され、東側では壁周溝がわずかにのこる。

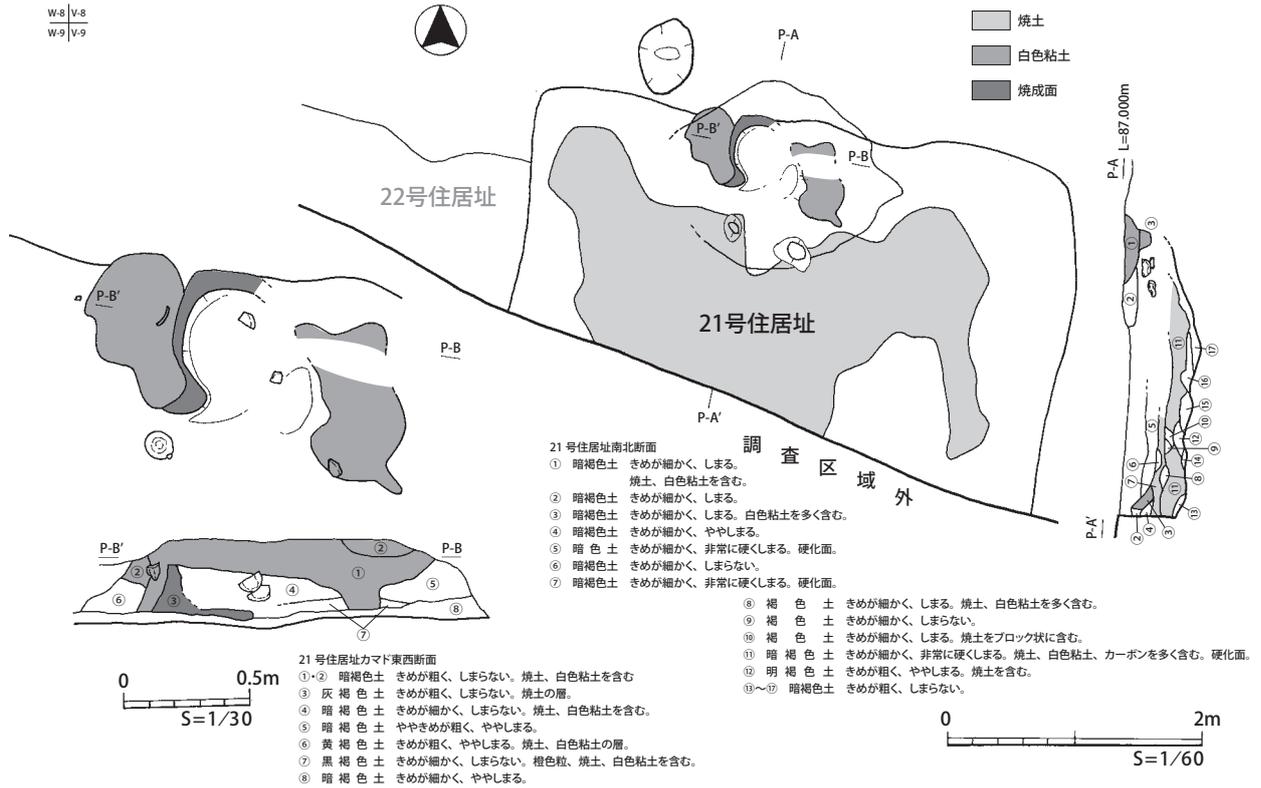
#### 29号住居址【第199図】

切り合いにより、プランは不明である。わずかに壁周溝のみが残存するだけと思われる。26～29号住居址については切り合いが明瞭でないが、27号住居址は26、28、29号住居址よりも新しいと考えられる。

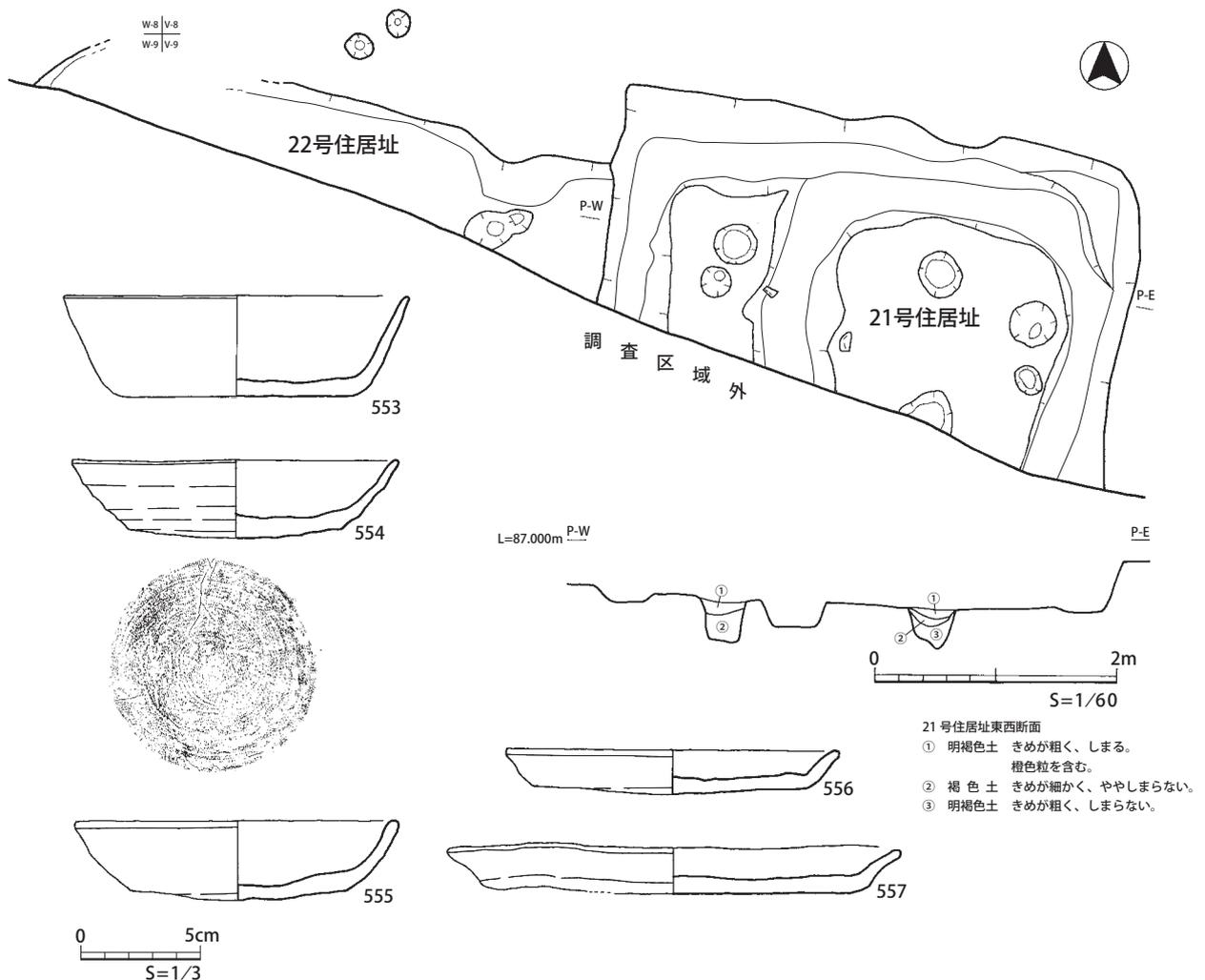
### 【道路】

#### 46号道路【第201・202図】

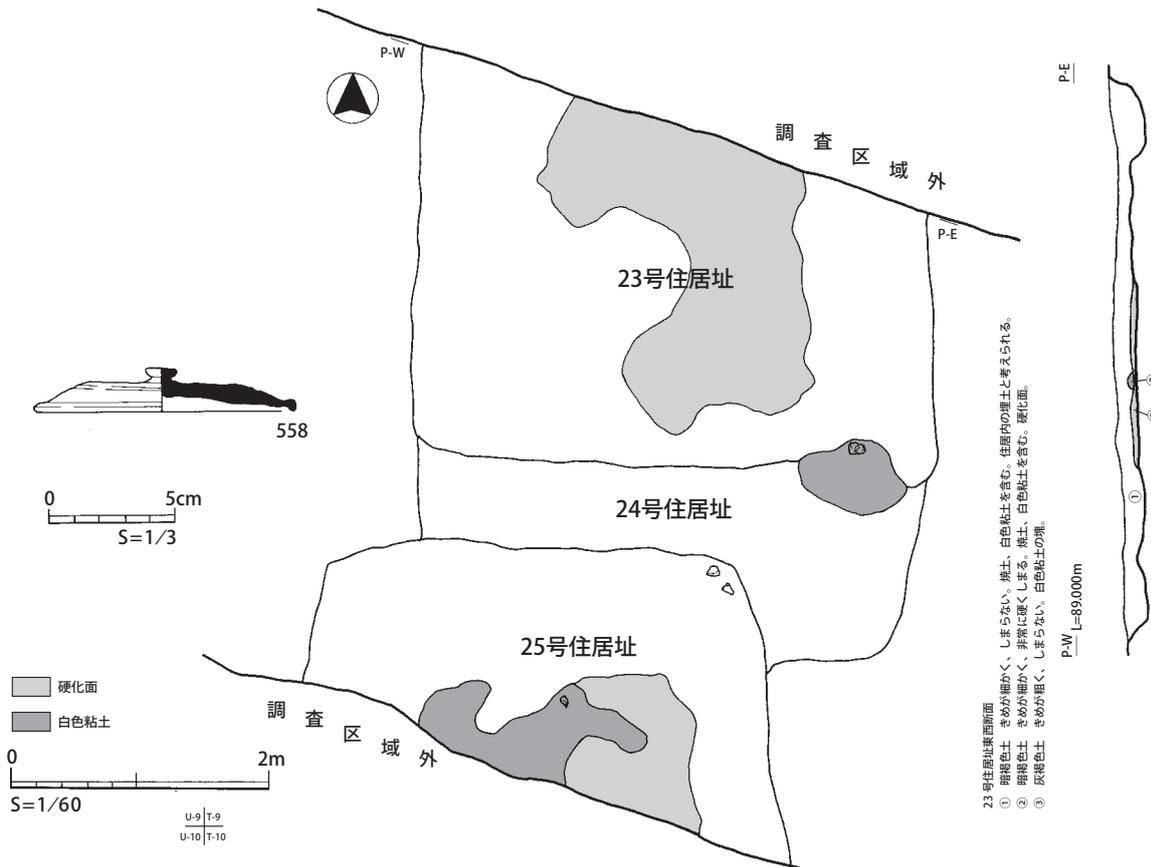
東西方向に延びる。残長34m、検出面で幅2～3mの幅広でいびつな硬化面が広範囲にわたって検出されたが、掘り下げにより幅3.5～4.0mの溝状を呈することがわかった。ただし上面は削平されたと考えられ、正確なプラ



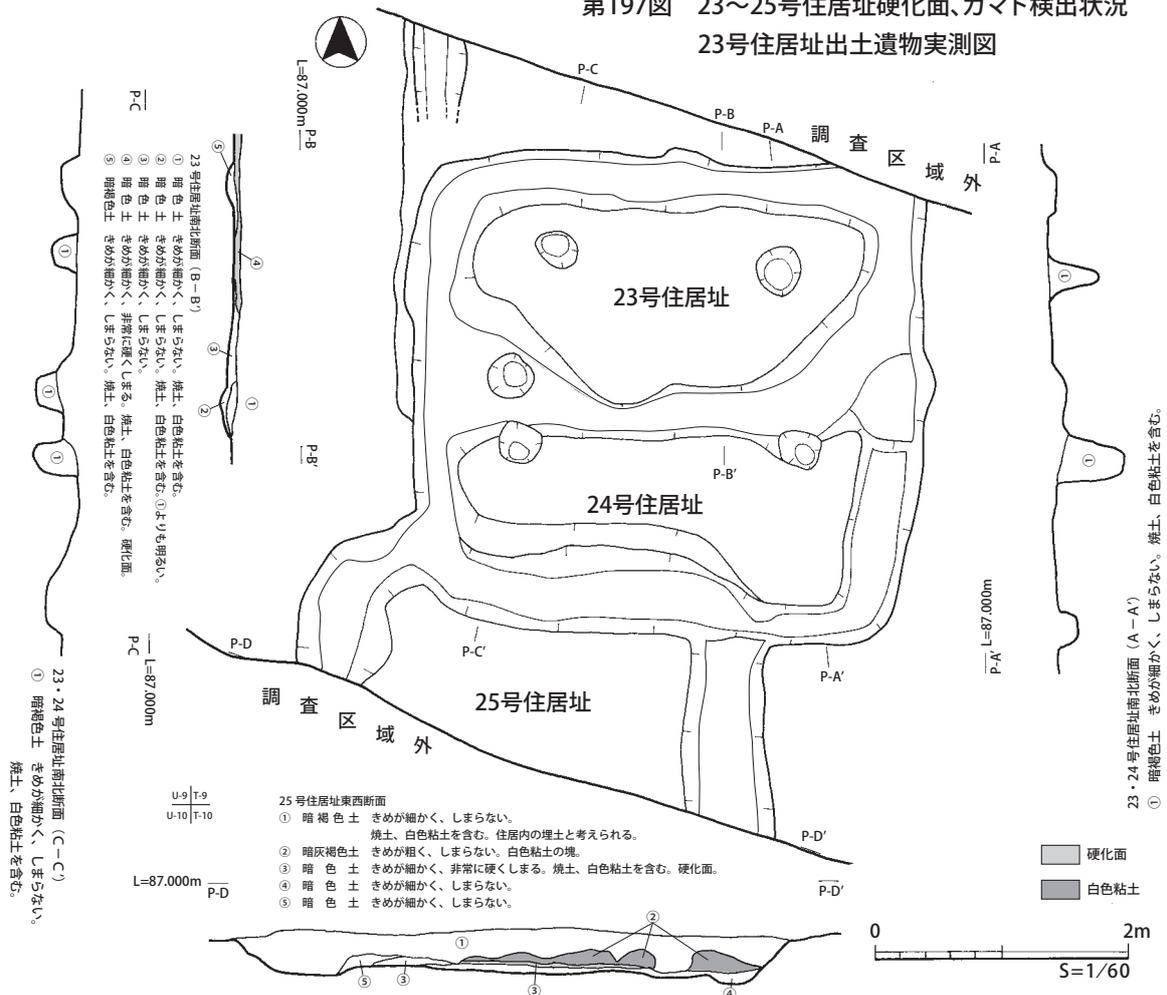
第195図 21号住居址硬化面、カマド検出状況



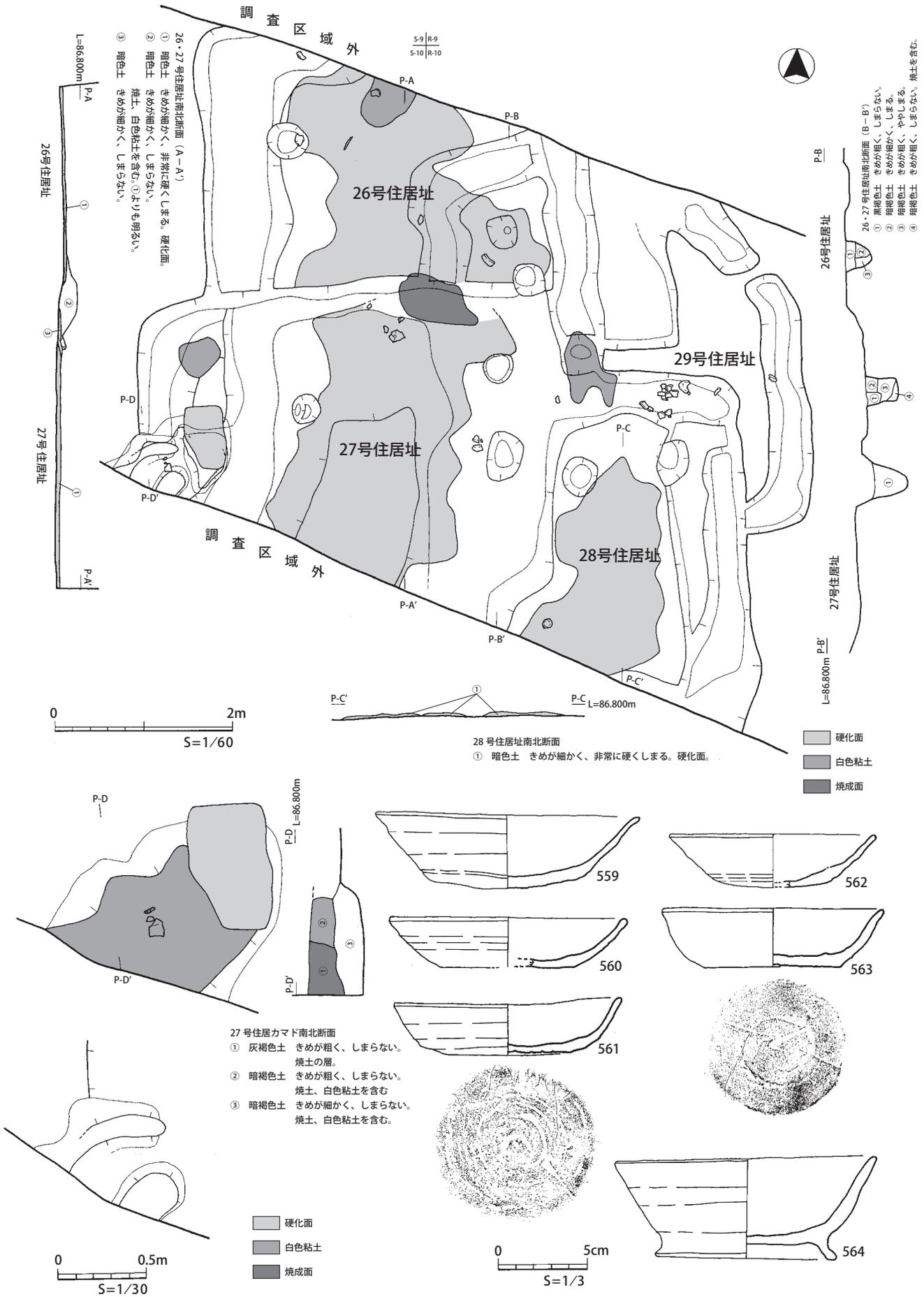
第196図 21・22号住居址実測図、21号住居址出土遺物実測図



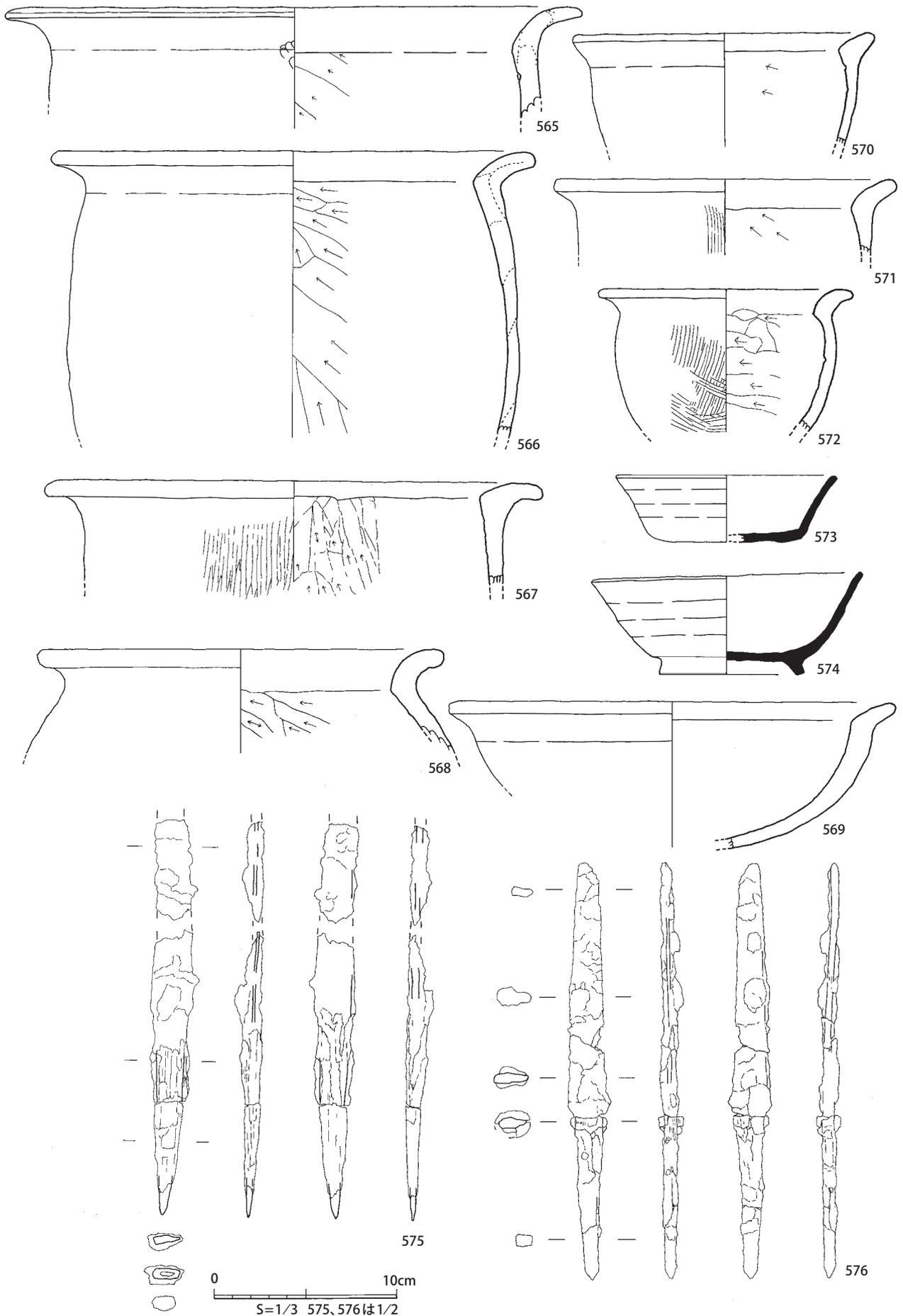
第197図 23～25号住居址硬化面、カマド検出状況  
23号住居址出土遺物実測図



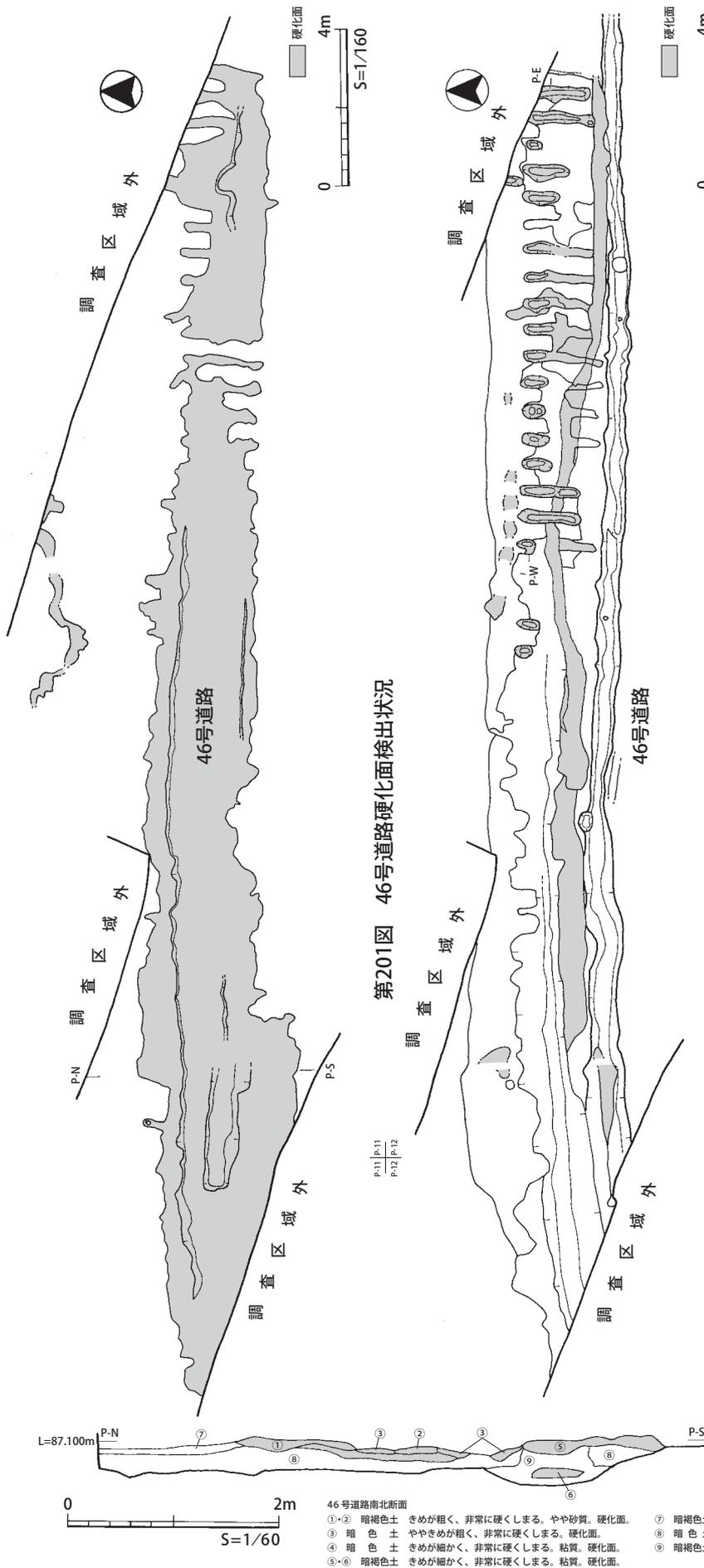
第198図 23～25号住居址完掘状況



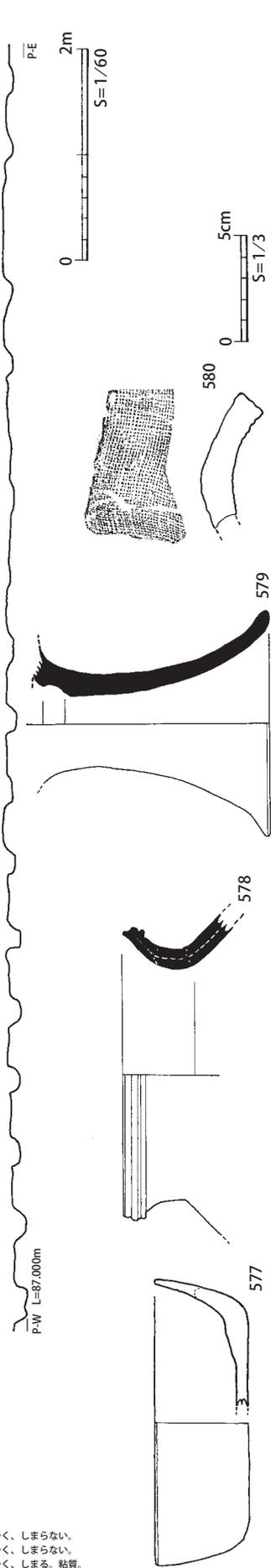
第199図 26～29号住居址、27号住居址カマド実測図、26～29号住居址出土遺物実測図



第200図 26～29号住居址出土遺物実測図



第201図 46号道路硬化面検出状況



第202図 46号道路硬化面、波板状凹凸面検出状況、46号道路出土遺物実測図

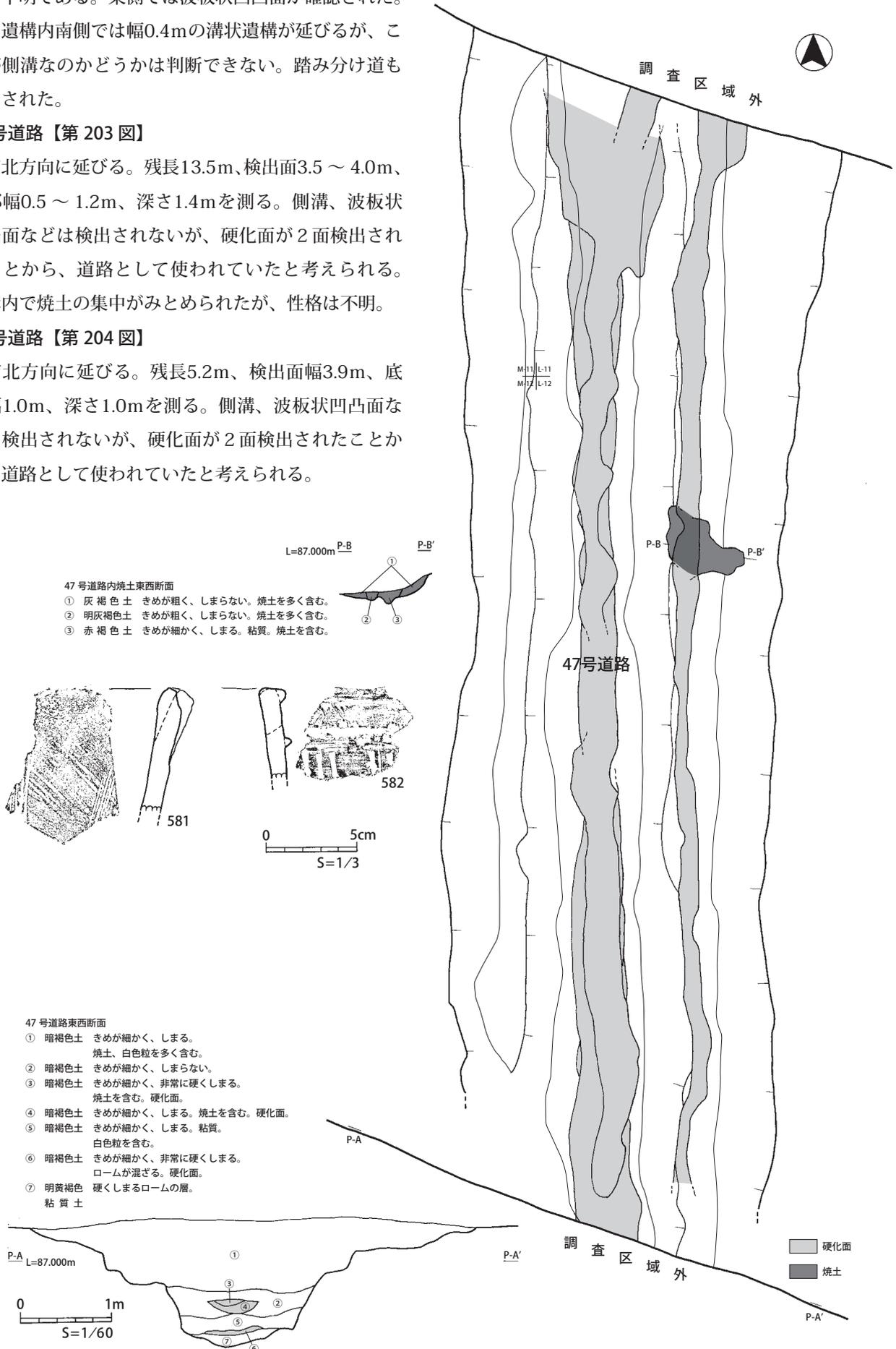
ンは不明である。東側では波板状凹凸面が確認された。また遺構内南側では幅0.4mの溝状遺構が延びるが、これが側溝なのかどうかは判断できない。踏み分け道も検出された。

**47号道路【第203図】**

南北方向に延びる。残長13.5m、検出面3.5～4.0m、底部幅0.5～1.2m、深さ1.4mを測る。側溝、波板状凹凸面などは検出されないが、硬化面が2面検出されたことから、道路として使われていたと考えられる。遺構内で焼土の集中がみとめられたが、性格は不明。

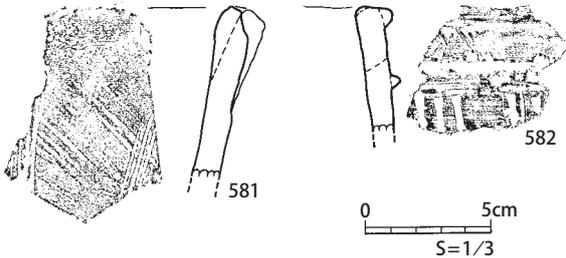
**48号道路【第204図】**

南北方向に延びる。残長5.2m、検出面幅3.9m、底部幅1.0m、深さ1.0mを測る。側溝、波板状凹凸面などは検出されないが、硬化面が2面検出されたことから、道路として使われていたと考えられる。



47号道路内焼土東西断面

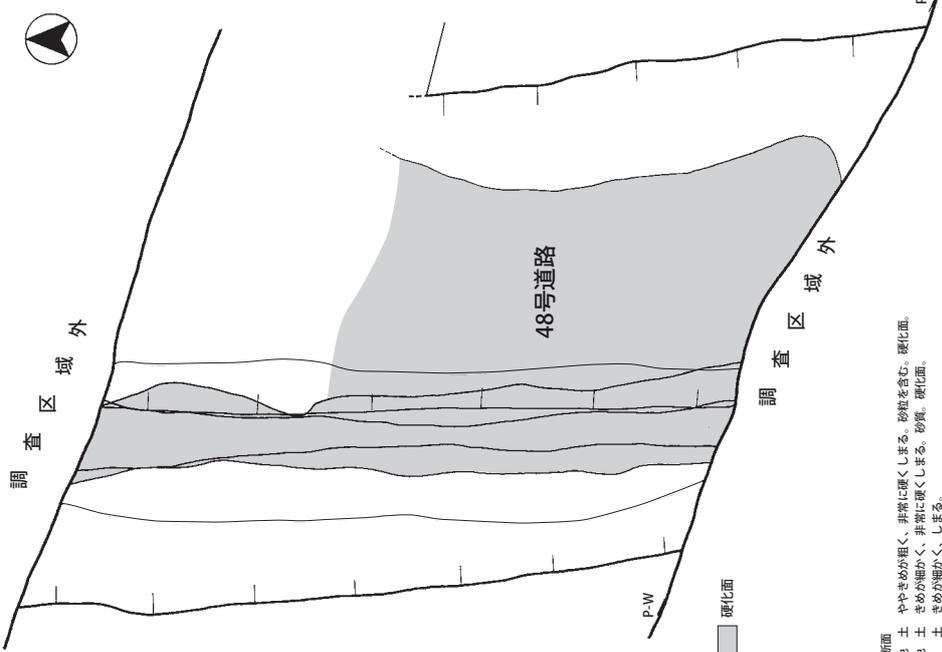
- ① 灰褐色土 きめが粗く、しまらない。焼土を多く含む。
- ② 明灰褐色土 きめが粗く、しまらない。焼土を多く含む。
- ③ 赤褐色土 きめが細かく、しまる。粘質。焼土を含む。



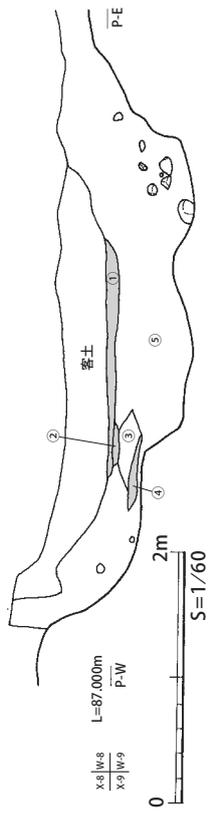
47号道路東西断面

- ① 暗褐色土 きめが細かく、しまる。焼土、白色粒を多く含む。
- ② 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。
- ③ 暗褐色土 きめが細かく、非常に硬くしまる。焼土を含む。硬化面。
- ④ 暗褐色土 きめが細かく、しまる。焼土を含む。硬化面。
- ⑤ 暗褐色土 きめが細かく、しまる。粘質。白色粒を含む。
- ⑥ 暗褐色土 きめが細かく、非常に硬くしまる。ロームが混ざる。硬化面。
- ⑦ 明黄褐色 硬くしまるロームの層。粘質土

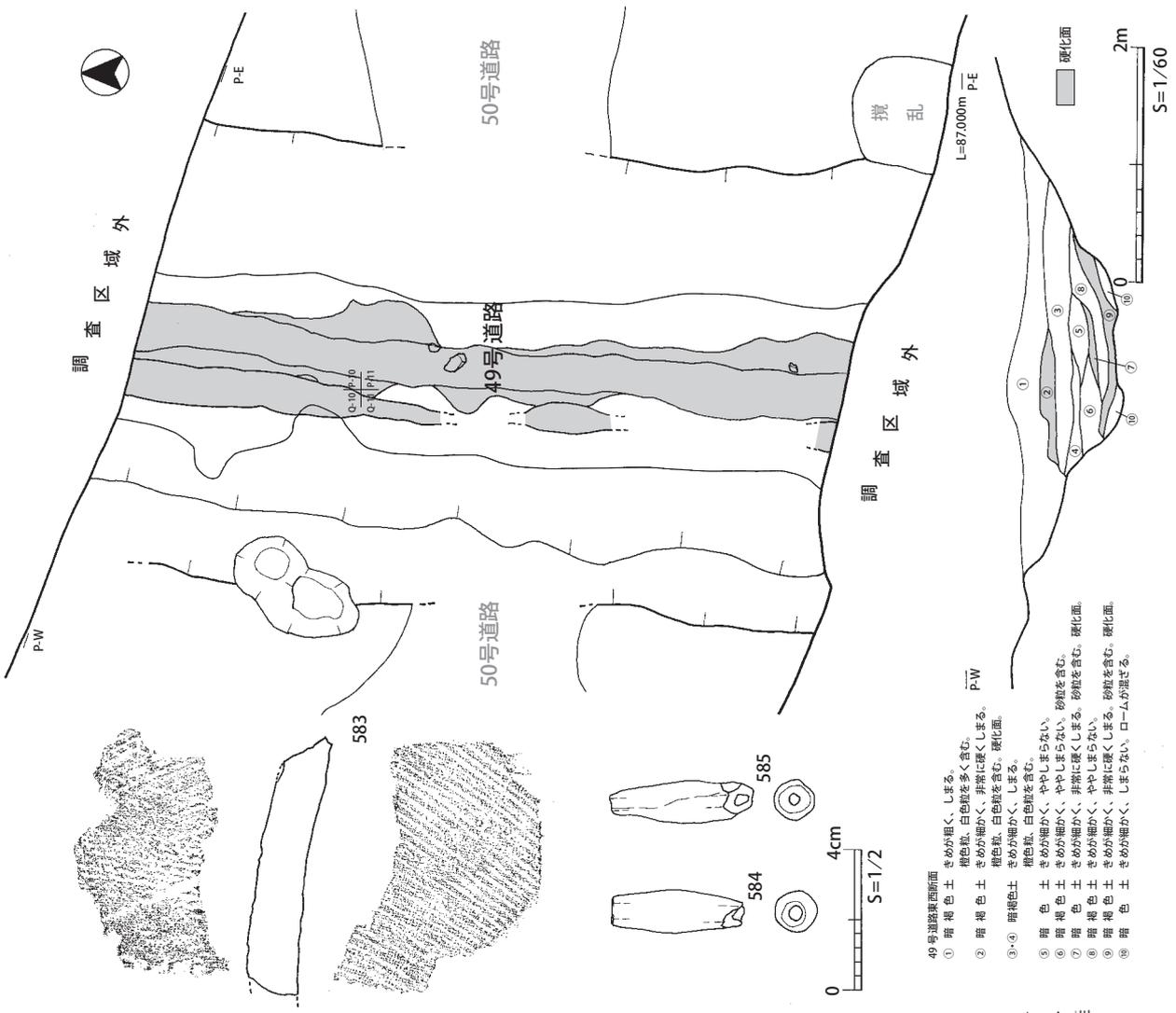
第203図 47号道路実測図、47号道路出土遺物実測図



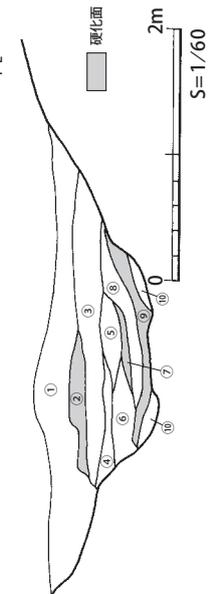
- 48号道路某断面  
 ① 暗褐色土 ややこめが粗く、非常に硬くしまる。砂粒を含む。硬化面。  
 ② 暗褐色土 こめが細かく、非常に硬くしまる。砂粒。硬化面。  
 ③ 暗褐色土 こめが粗かく、しまる。  
 ④ 明黄褐色粘質土 こめが粗く、非常に硬くしまる。硬化面。  
 ⑤ 暗褐色土 ややこめが粗く、しまる。人頭穴の円環を含む。



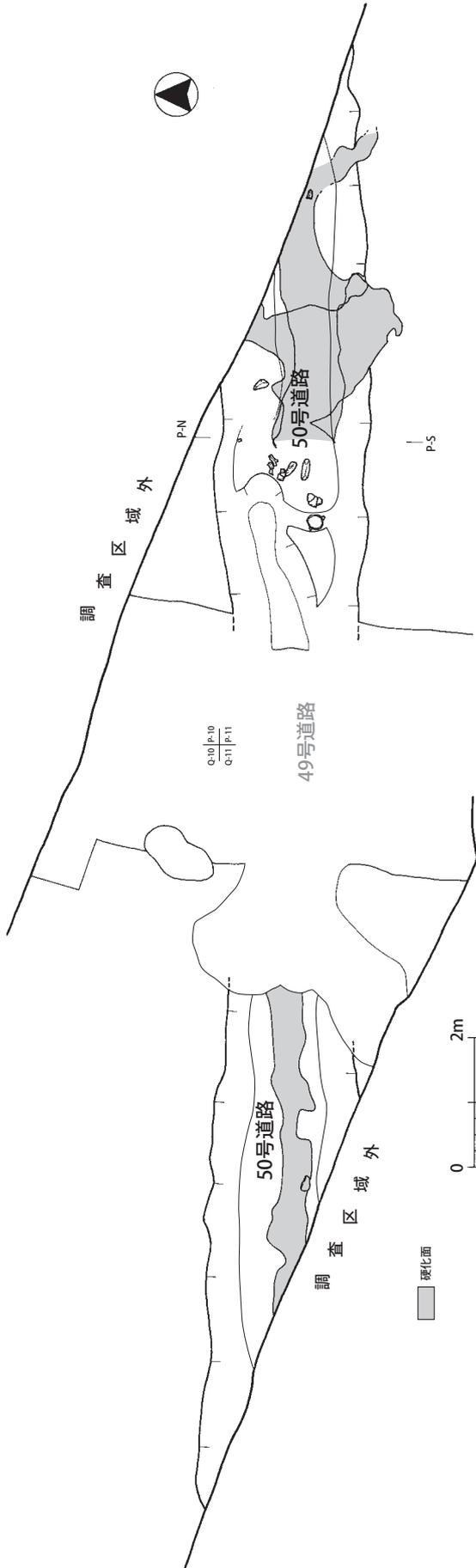
第204図 48号道路実測図



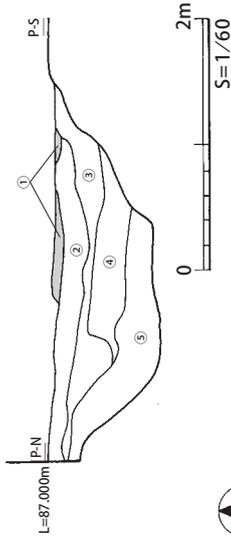
- 49号道路某断面  
 ① 暗褐色土 こめが粗く、しまる。  
 ② 暗褐色土 暗褐色、白色粒を多く含む。こめが細かく、非常に硬くしまる。砂粒を含む。硬化面。  
 ③・④ 暗褐色土 暗褐色、白色粒を含む。硬化面。  
 ⑤ 暗褐色土 こめが粗かく、しまる。  
 ⑥ 暗褐色土 こめが細かく、ややしまらない。砂粒を含む。  
 ⑦ 暗褐色土 こめが粗かく、非常に硬くしまる。砂粒を含む。硬化面。  
 ⑧ 暗褐色土 こめが細かく、ややしまらない。  
 ⑨ 暗褐色土 こめが粗かく、非常に硬くしまる。砂粒を含む。硬化面。  
 ⑩ 暗褐色土 こめが粗かく、しまらない。ロームが混ざる。



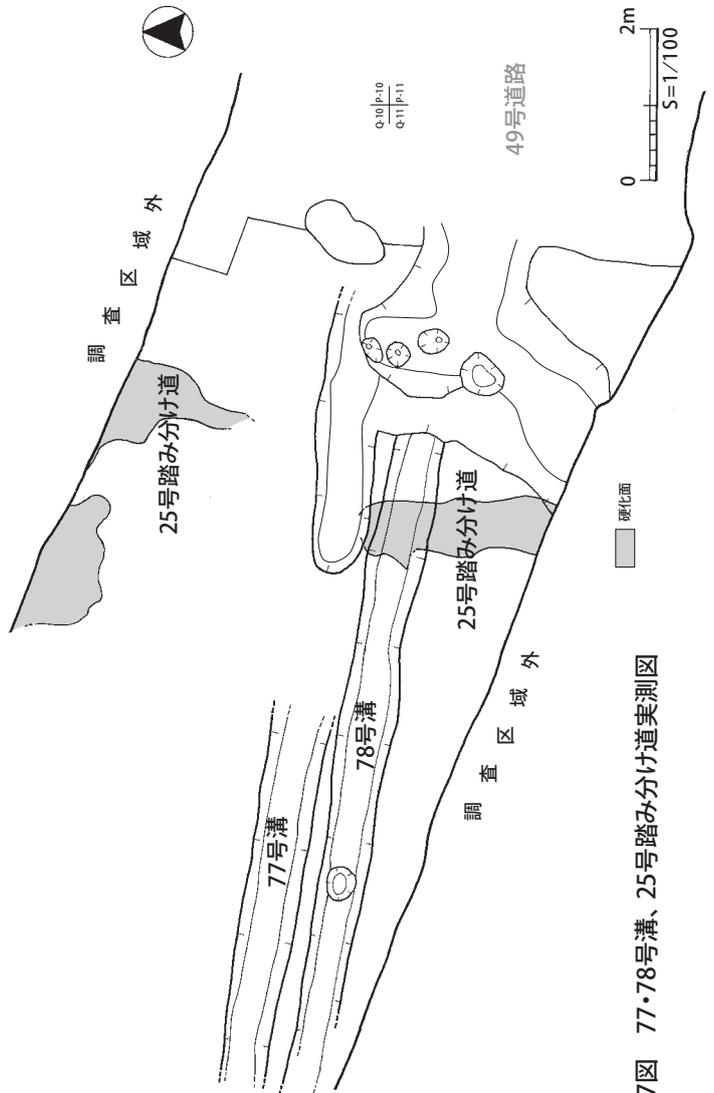
第205図 49号道路実測図、49号道路出土遺物実測図



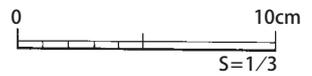
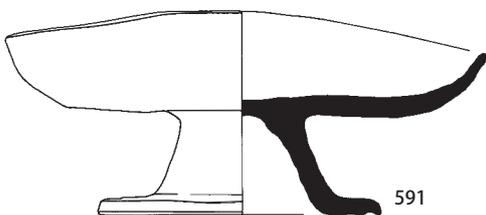
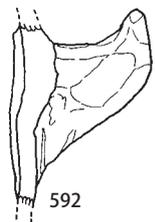
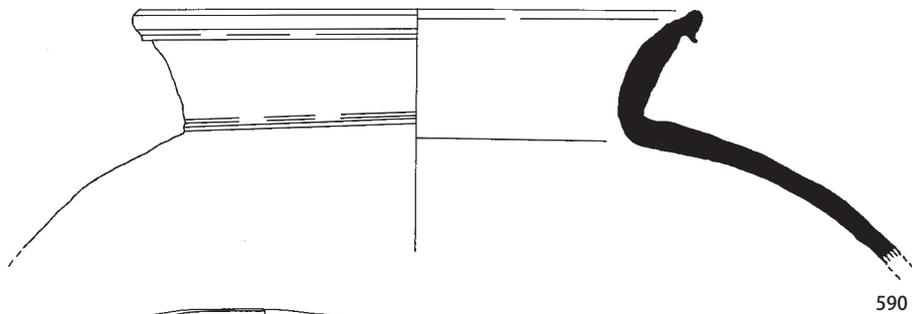
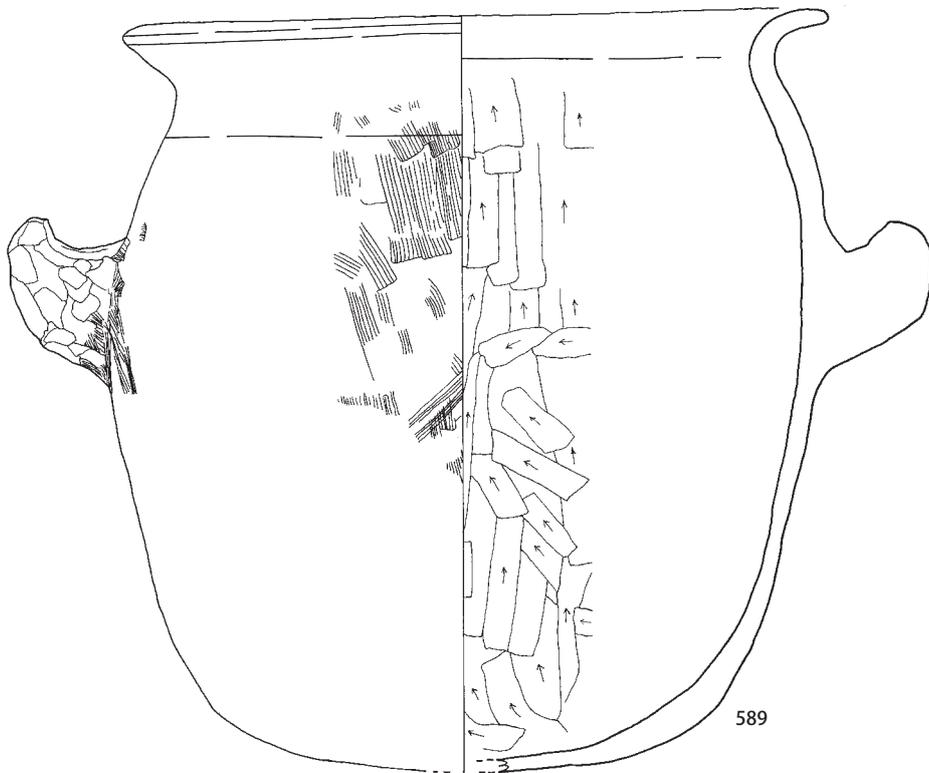
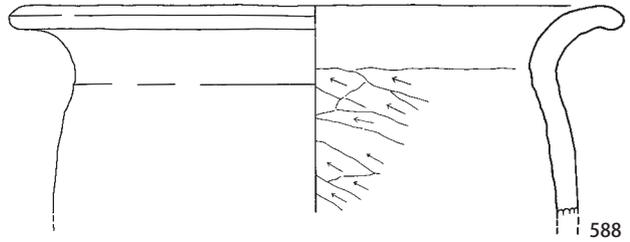
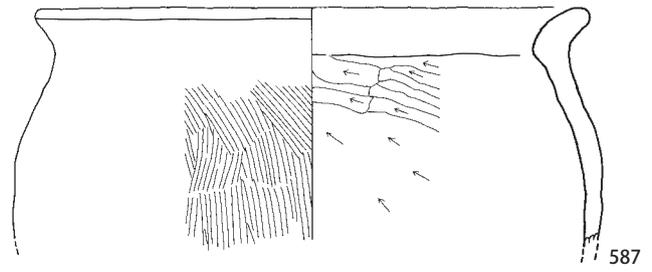
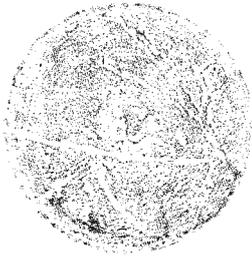
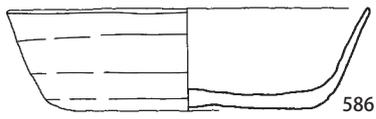
第206図 50号道路実測図



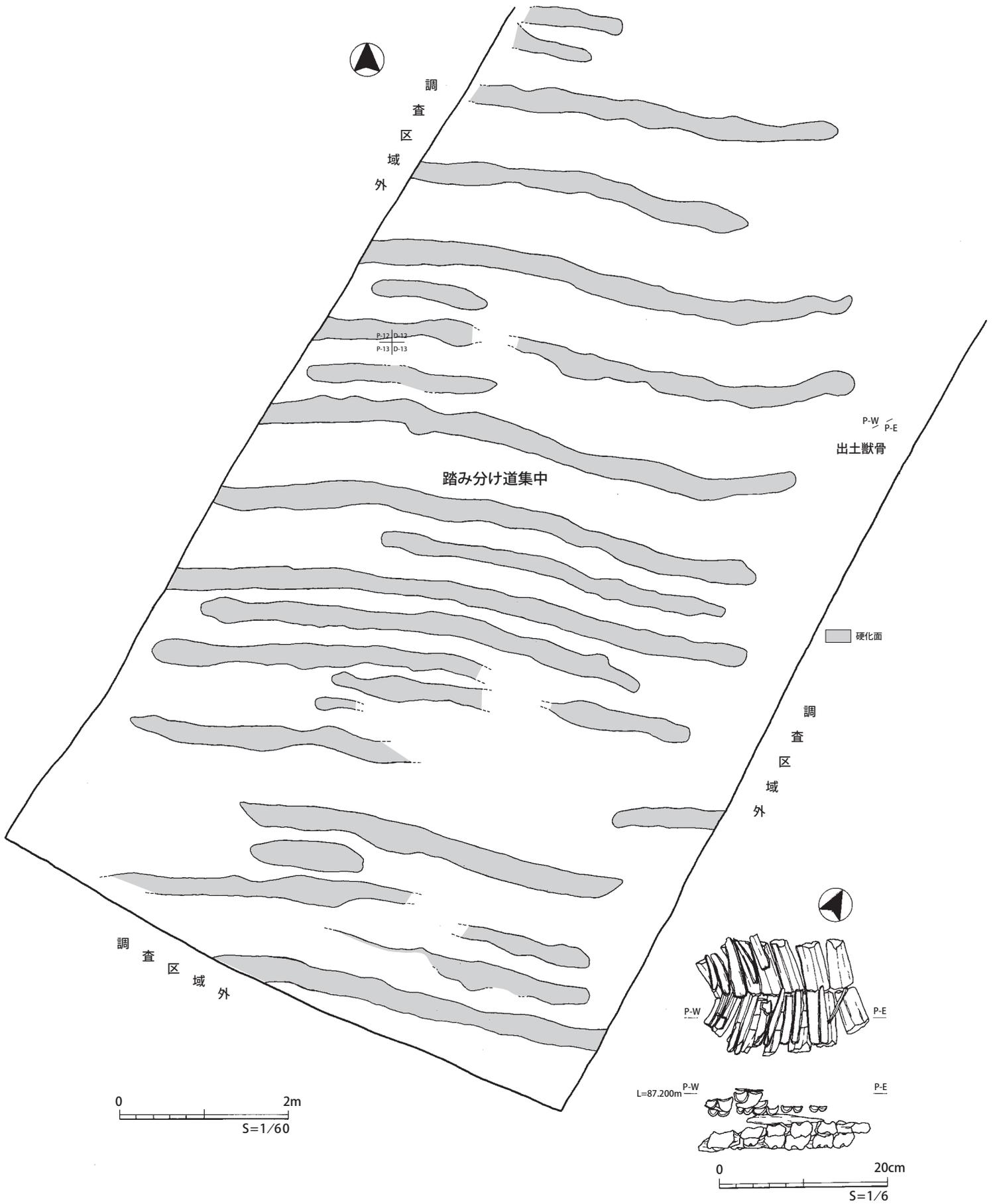
- 50号道路南北断面
- ① 暗褐色土 ややきめが粗く、非層に厚くしまる。硬化面。
  - ②・③ 暗褐色土 きめが細かく、しまる。煉土、白色粘土を含む。
  - ④ 暗褐色土 きめが細かく、しまる。粘質。
  - ⑤ 褐色土 きめが粗く、しまる。二カ土のプロックが混ざる。



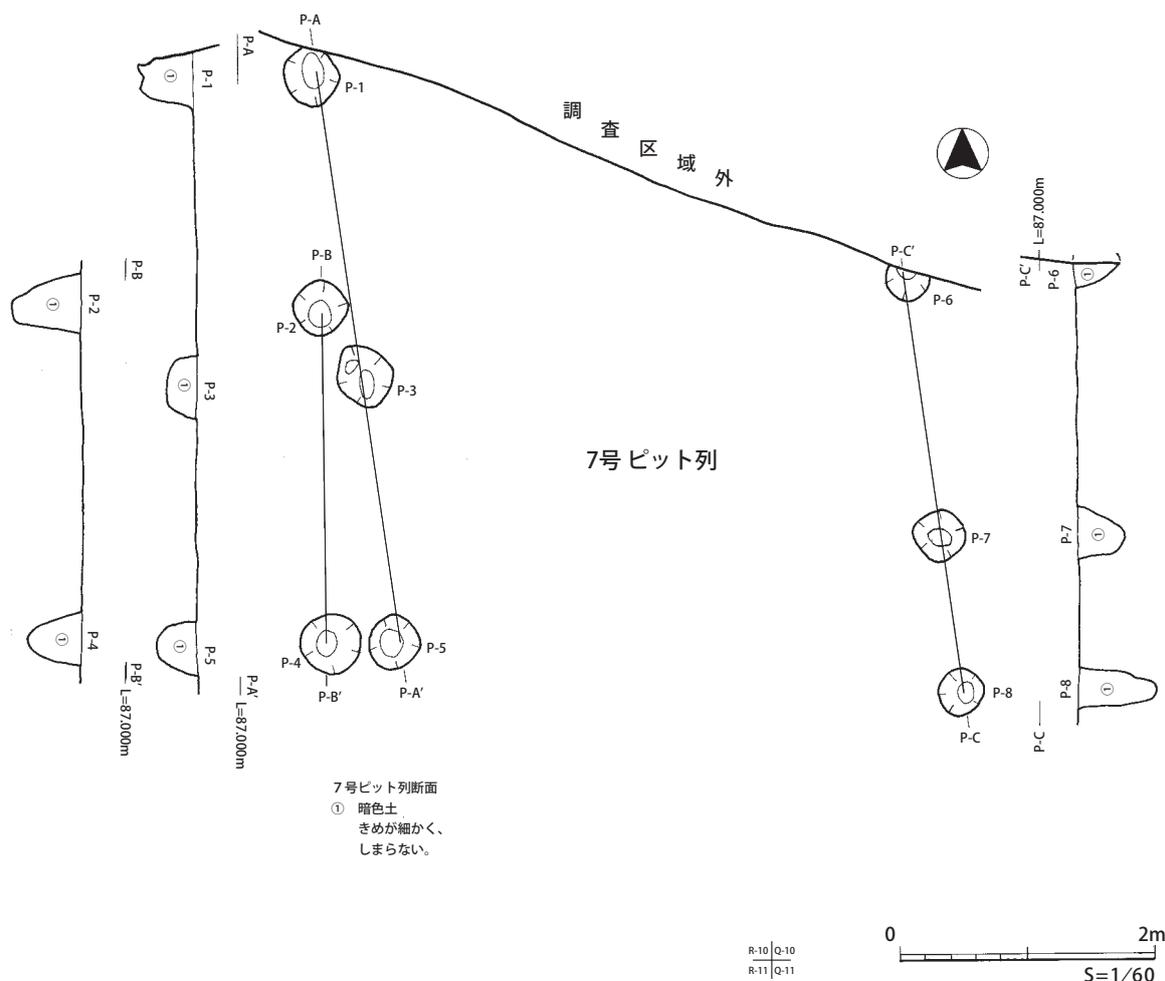
第207図 77・78号溝、25号踏み分け道実測図



第208图 50号道路出土遗物实测图



第209図 踏み分け道集中実測図 出土獣骨実測図



第210図 7号ピット列実測図

**49号道路【第205図】**

南北方向に延びる。残長6.0m、検出面幅3.8m、底部幅1.5m、深さ0.9mを測る。側溝、波板状凹凸面などは検出されないが、複数の硬化面が検出されたことから、道路として使われていたと考えられる。

**50号道路【第206図】**

東西方向に延びる。残長20.5m、検出面幅4.3m、底部幅1.2m、深さ0.8mを測る。側溝、波板状凹凸面などは検出されないが、帯状硬化面が検出されたことから、道路として使われていたと考えられる。49号道路に切られている。

**【溝】**

**77号溝【第207図】**

西北西⇨東南東方向に延びる。残長11.0m、検出面幅0.75m、底部幅0.4mを測る。

**78号溝【第207図】**

西北西⇨東南東方向に延びる。残長8.8m、検出面幅0.5m、底部幅0.3mを測る。

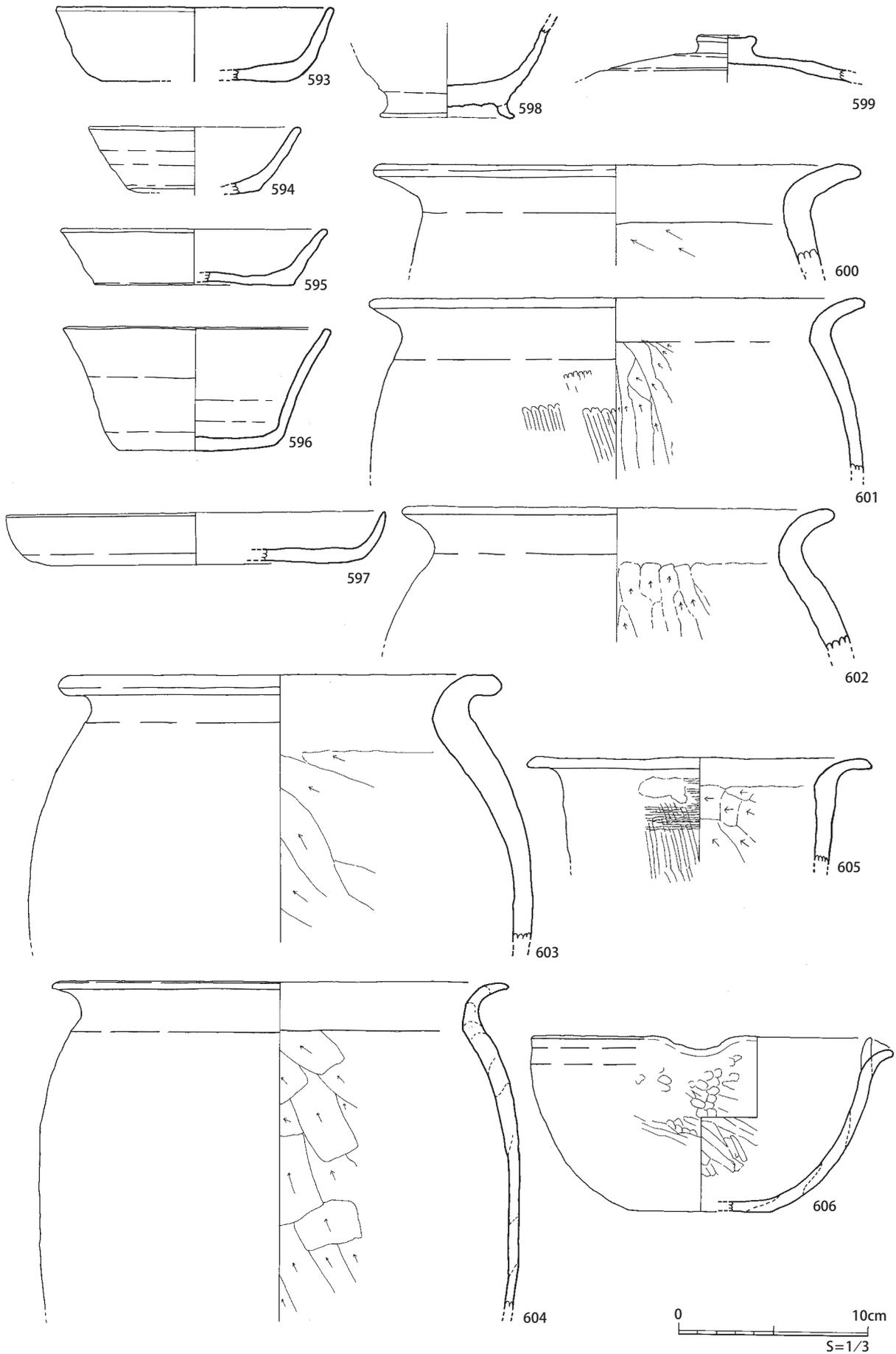
**【踏み分け道】**

**25号踏み分け道【第207図】**

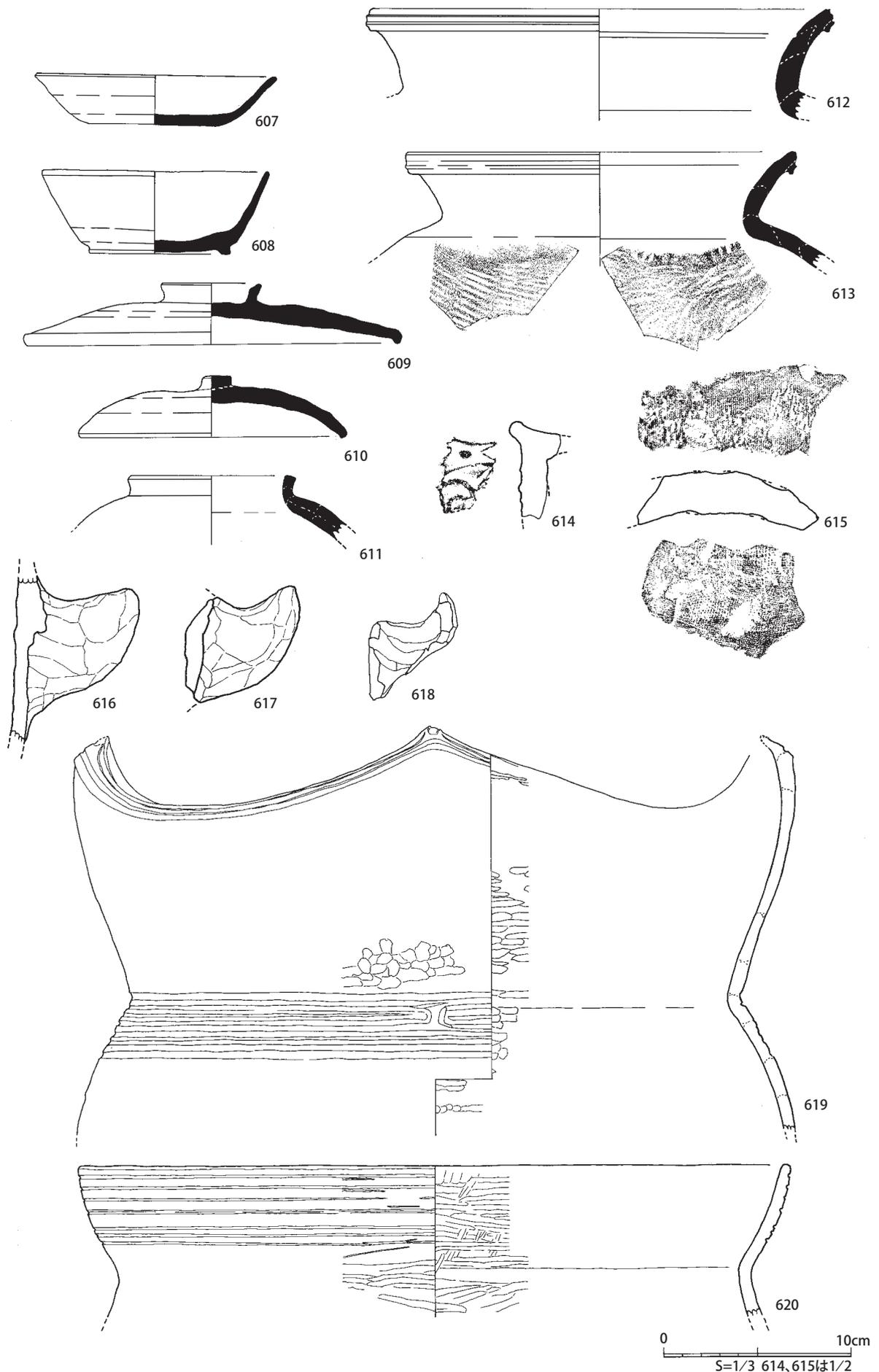
南北方向に、部分的に帯状硬化面が延びる。

**踏み分け道集中【第209図】**

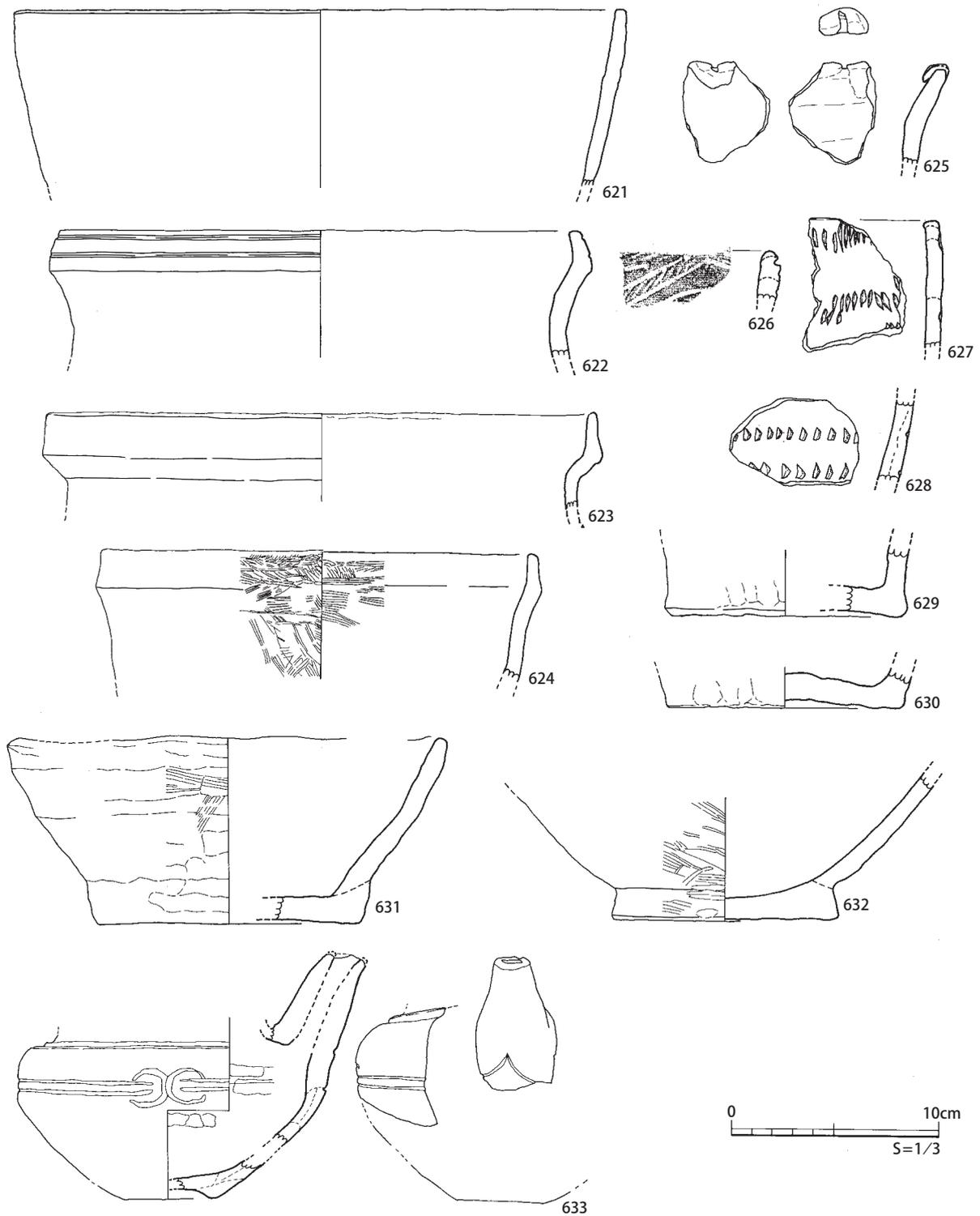
調査区南端に、幅0.3m程度の踏み分け道が集中して検出された。部分的に残存するものもあるが、約20条が確認された。方向は西北西⇨東南東からほぼ東西方向に蛇行しつつ延びる。



第211図 D-4区出土遺物実測図



第212図 D-4区出土遺物実測図



第213図 D-4区出土遺物実測図

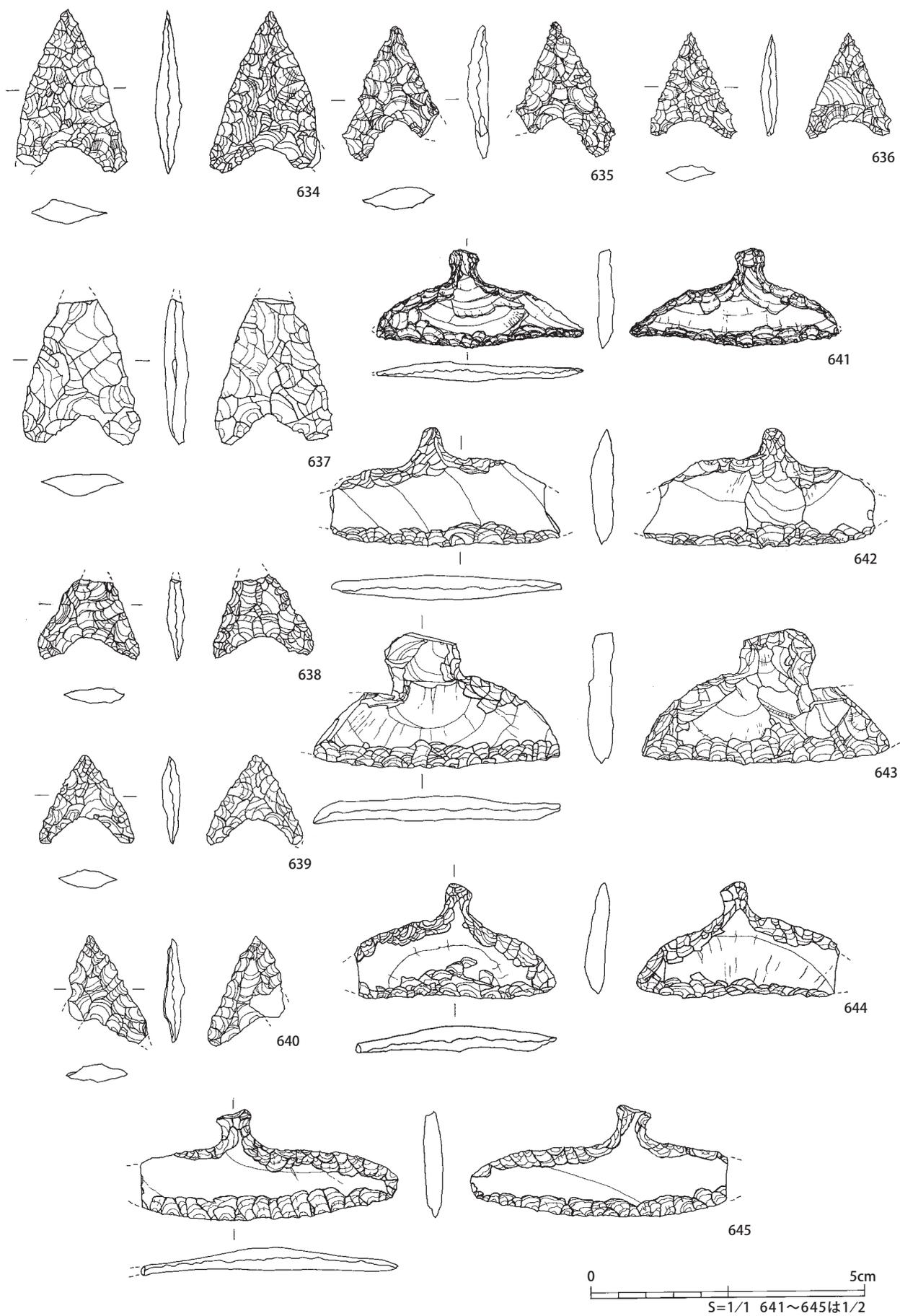
出土獣骨【第209図】

踏み分け道集中に隣接して、獣骨が検出された。馬の歯ではないかと思われる。

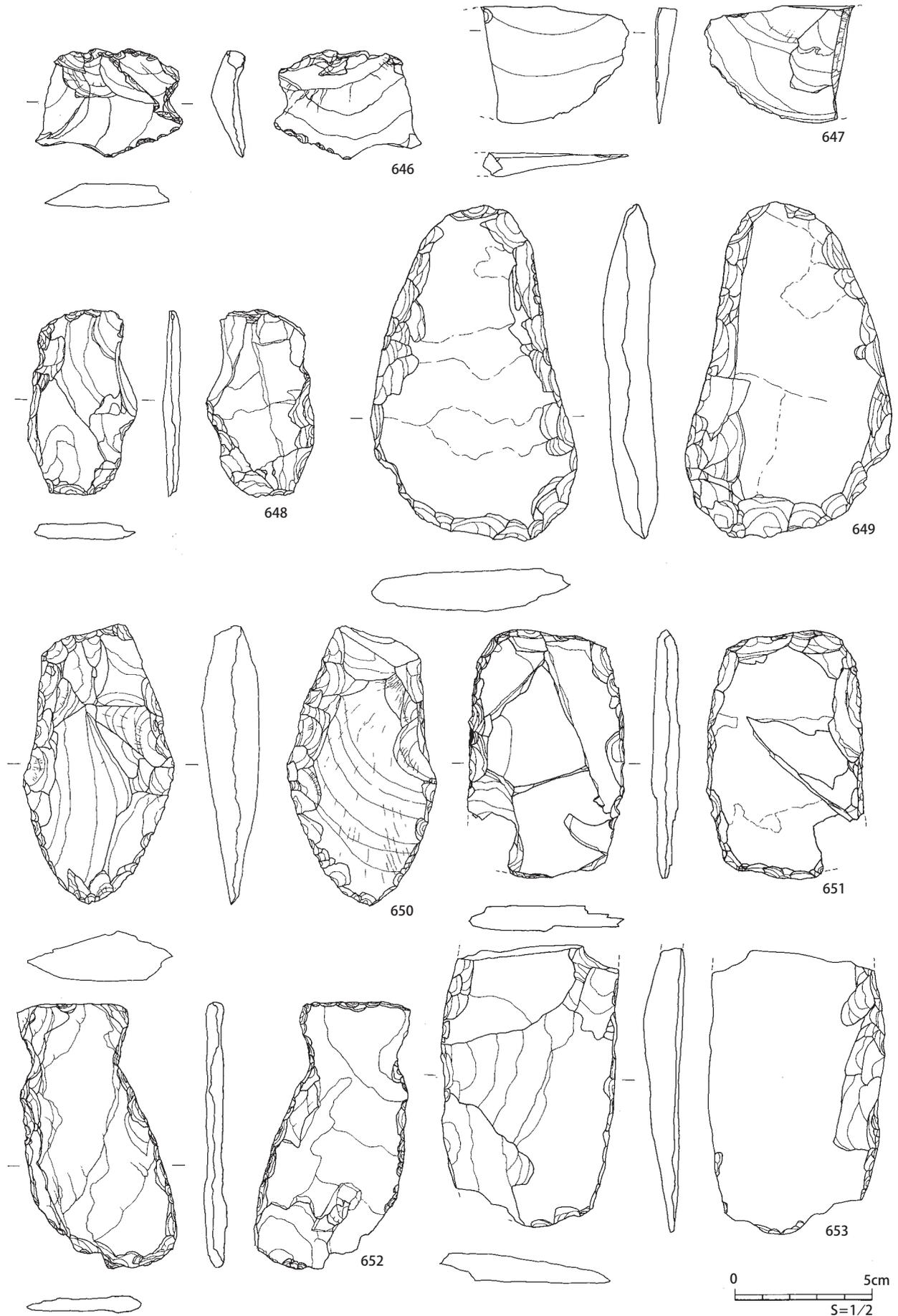
【ピット列】

7号ピット列【第210図】

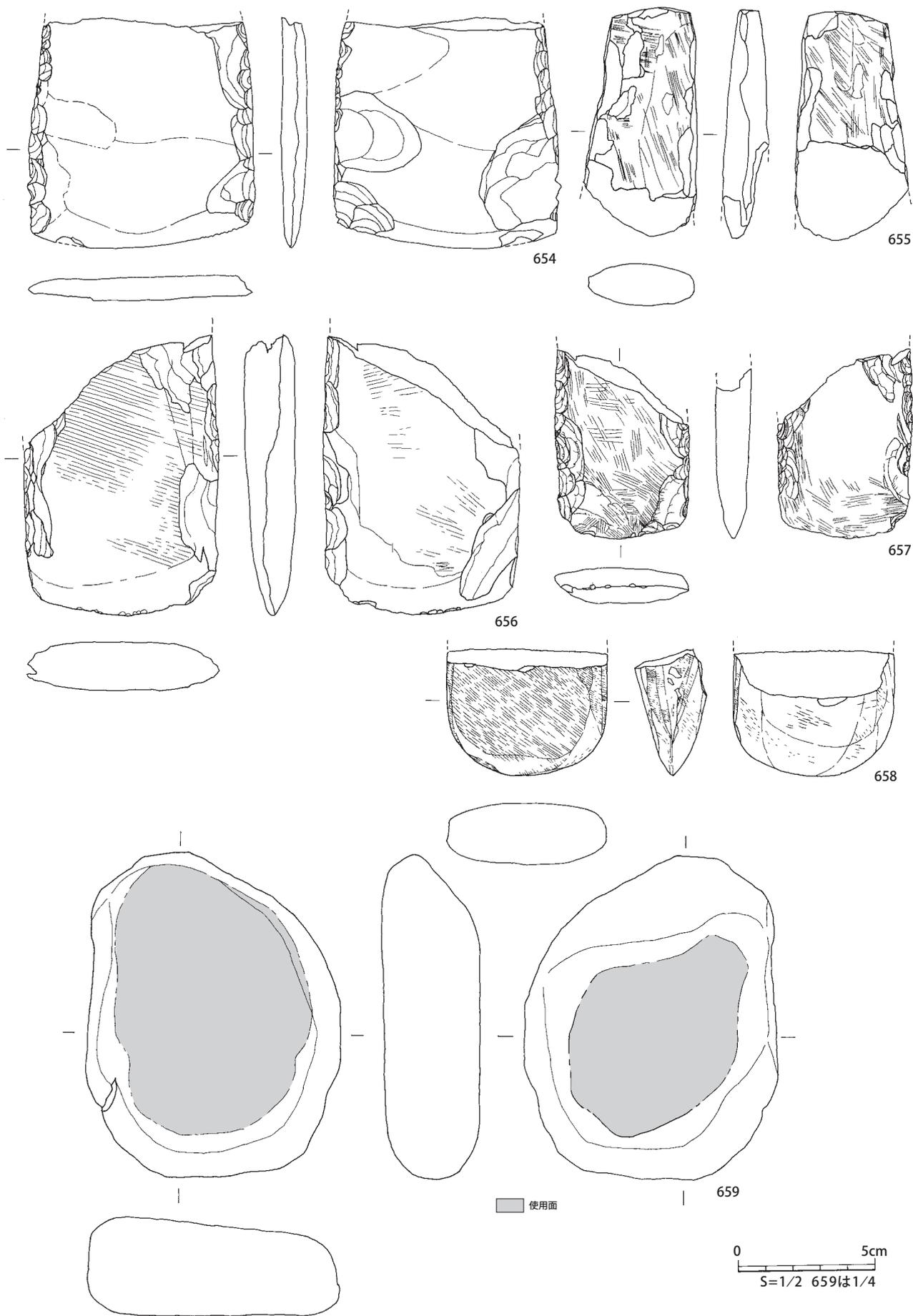
南北柱間は2.0m前後。掘立柱建物ではないかと思われるが、東西方向には明確に確認されず、柱間も不均一。



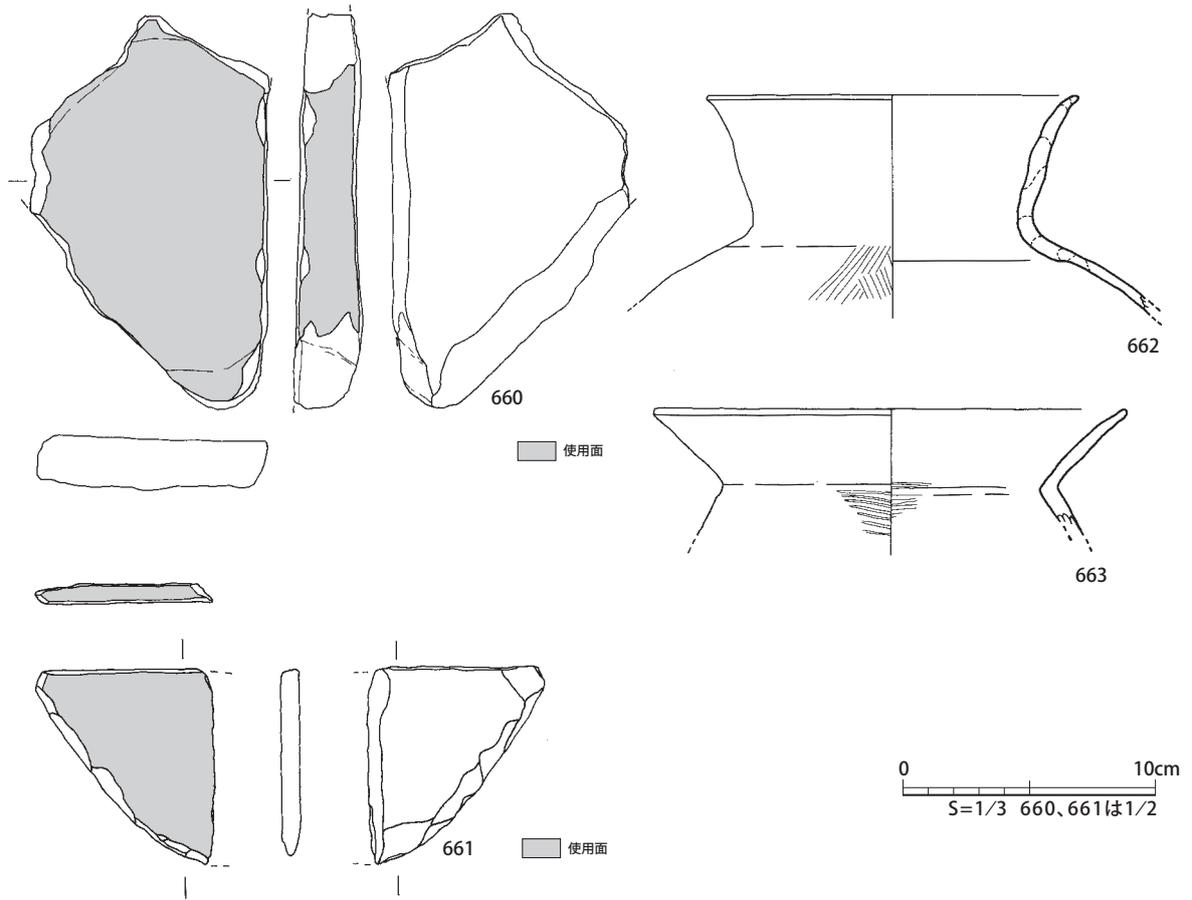
第214图 D-4区出土遺物実測図



第215図 D-4区出土遺物実測図

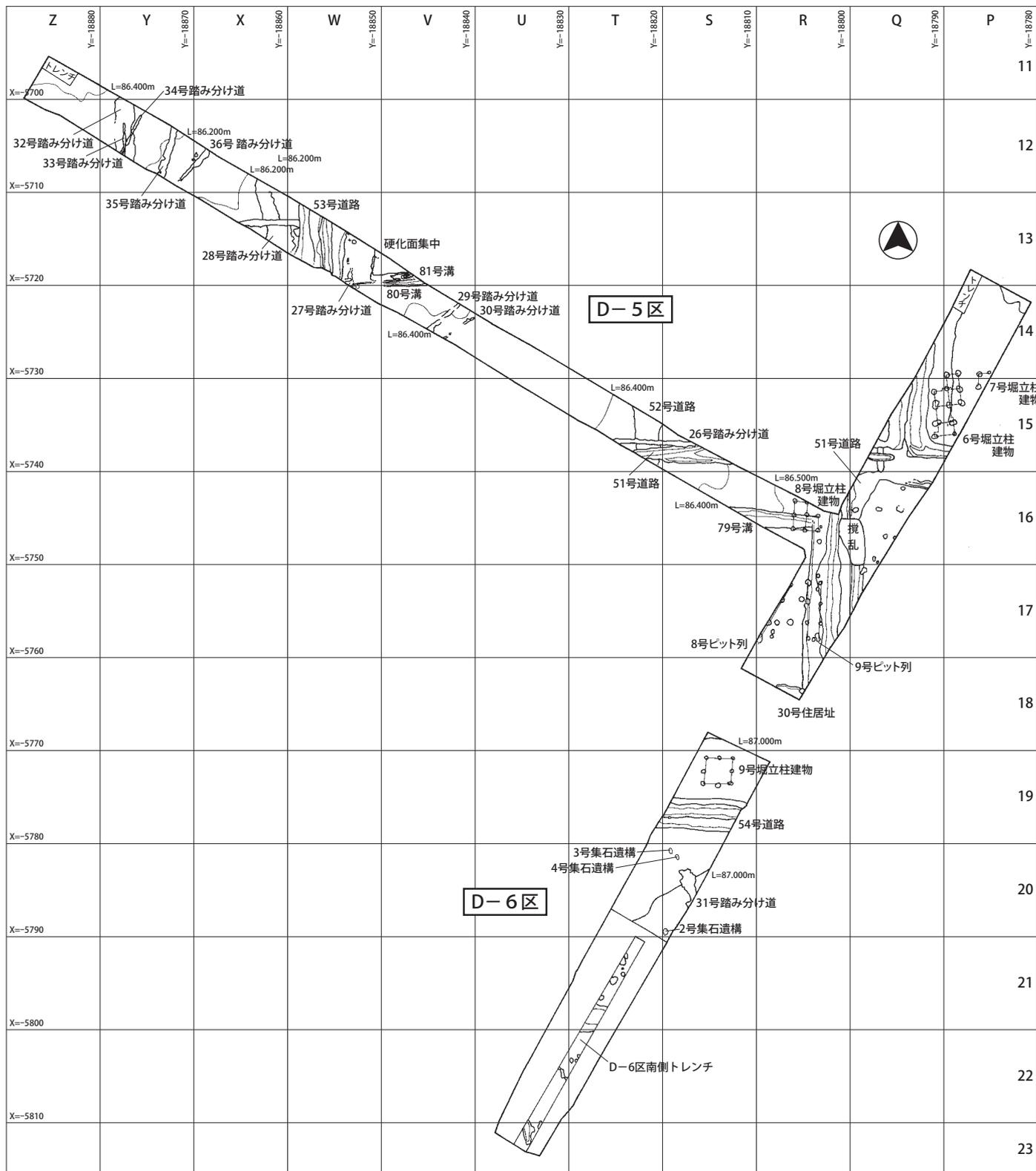


第216図 D-4区出土遺物実測図



第217図 D-4区出土遺物実測図

# D-5・6区



第218図 D-5・6区遺構配置図

## 調査の成果

### 【住居址】

#### 30号住居址【第219図】

住居址と想定されるが、遺構のほとんどが調査区域外のため、詳細は不明。わずかに硬化面が残存する。

### 【道路】

#### 51号道路【第220・221図】

検出面幅5.0～6.5mの規模の大きな溝状遺構が段違いに連結して、ほぼ東西南北方向に延びる。側溝、波板状凹凸面などは検出されないが、硬化面が複数確認されたことから、道路として使われたと考えられる。北側の道路内の硬化面がY字状に分岐することから、道路の分岐点かもしれない。いくつかの溝がひとつの遺構を形作っていると考えられる。底部幅は南北方向は南側で0.8m、北側では1.3mを測る。東側がテラス状を呈する。東西方向では2.4m、深さは1.2～1.6mを測る。また調査区の形状のため一部途切れているが、西側にその続きが延びると考えられ、東西方向に約34m延びると想定される。ただし西側では残存状況が悪く、検出面幅0.9～2.0mと西端では底部幅程度しか検出されなかった。深さ0.9mを測る。D-4区48号道路と同一ではないかと想定される。

#### 52号道路【第221図】

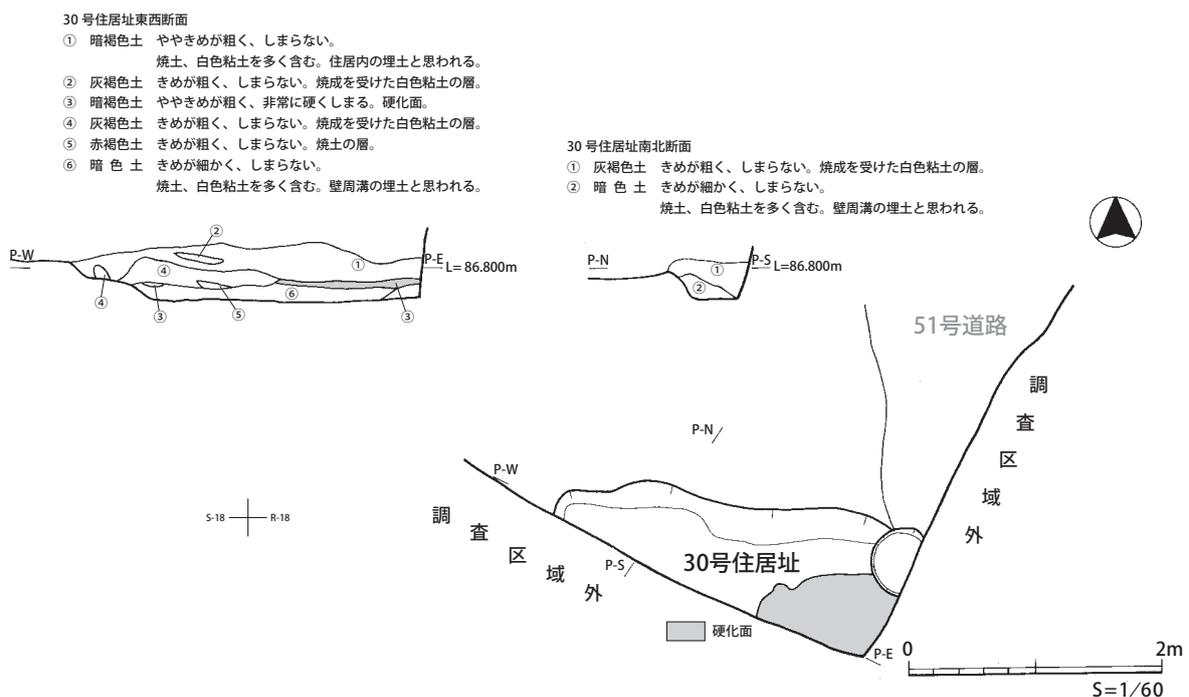
南北方向に延びる残長5.2m、幅2.5～3.0mの幅広の硬化面が検出された。硬化面のみの検出だが、わずかに掘りこまれていることと規模から道路であると想定する。51号道路に切られている。

#### 53号道路【第223図】

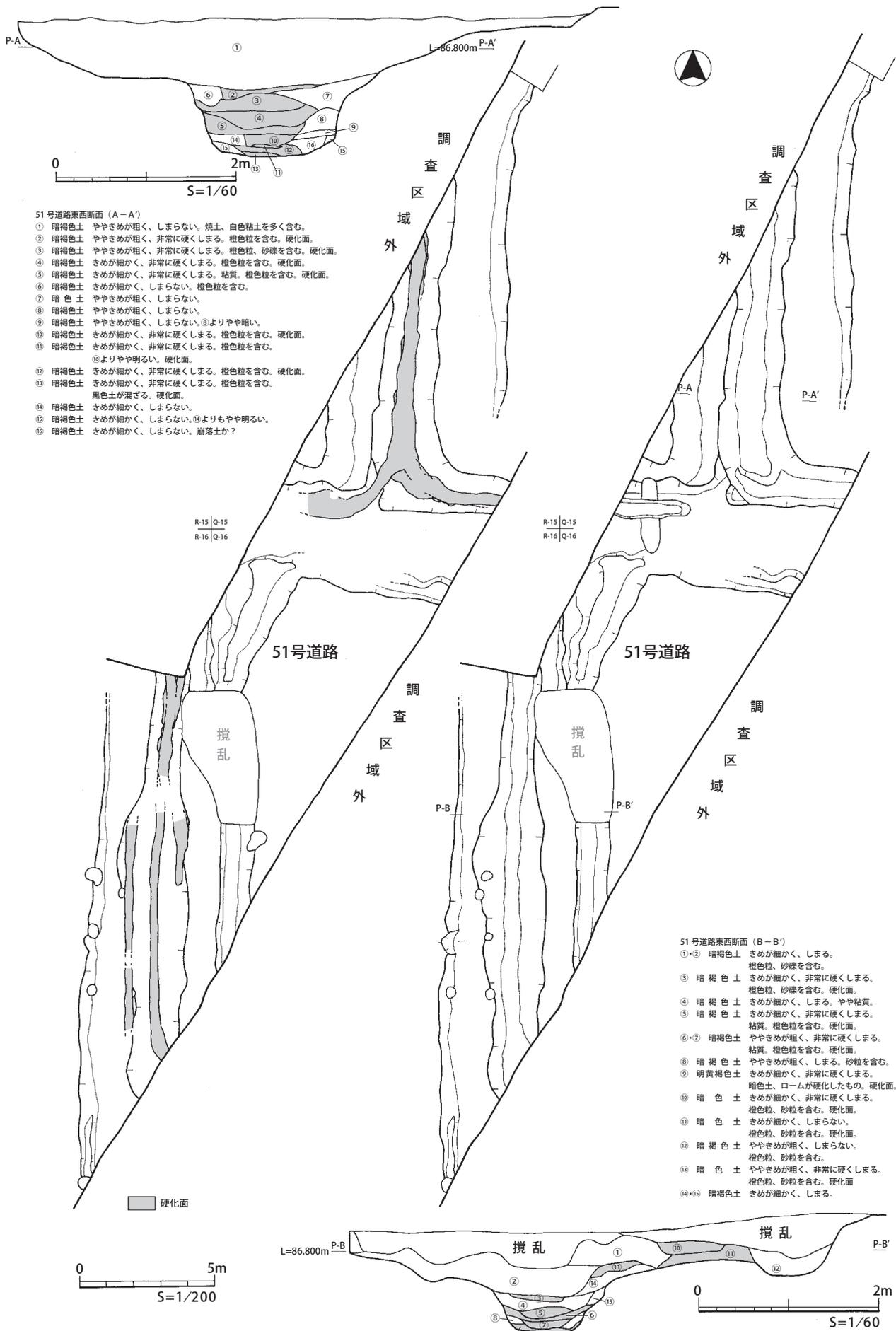
南北方向に延びる。残長5.2m、検出面幅5.2m、底部幅1.2m、深さ1.3mを測る。側溝、波板状凹凸面などは検出されず、複数の硬化面が検出された。D-4区の49号道路と同一ではないかと想定される。

#### 54号道路【第224図】

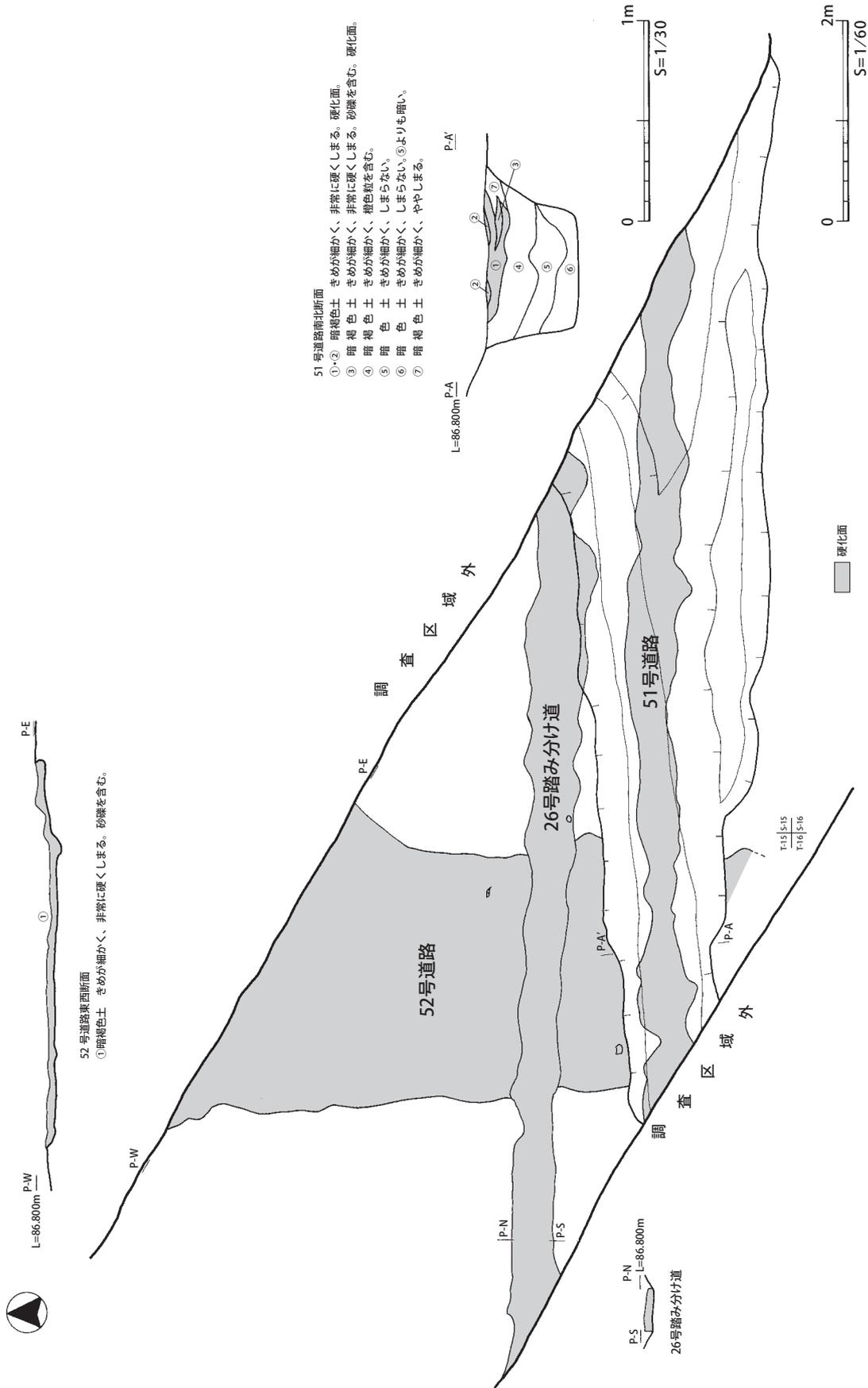
東西方向に延びる。残長7.8m、検出面幅3.0～3.4m、底部幅0.6～0.9m、深さ0.85mを測る。側溝、波板状凹凸面などは検出されず、複数の硬化面が検出された。すり鉢状に掘りこまれ、中央部がさらに深掘りされ、硬化面が集中する。



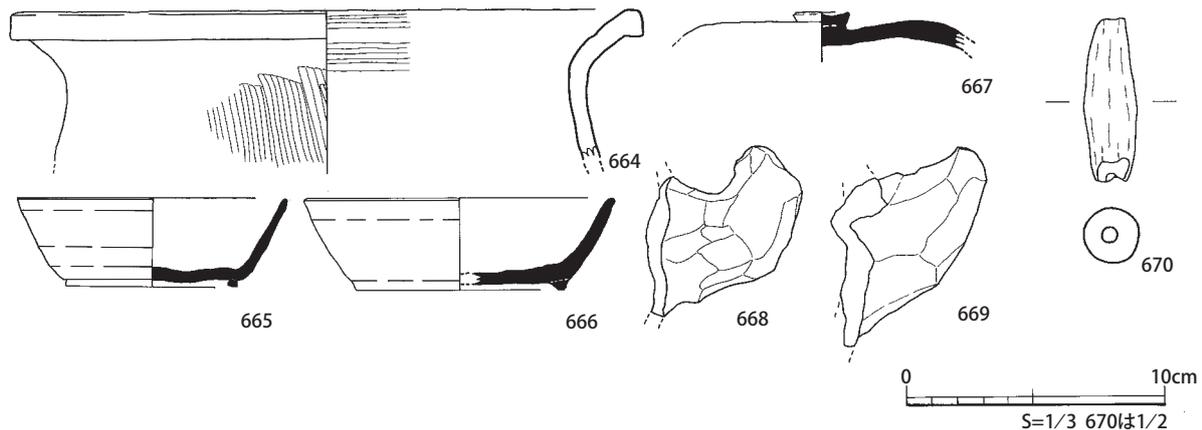
第219図 30号住居址実測図



第220図 51号道路硬化面検出状況、完掘状況



第221図 51・52号道路、26号踏み分け道実測図



第222図 51号道路出土遺物実測図

【溝】

79号溝【第225図】

東西方向に延びる。残長9.2m、検出面幅1.1～1.8m。ふたつの溝状遺構が連結してひとつの遺構を形作っている。

80号溝【第226図】

東西方向に延びる。残長7.3m、検出面幅0.5～0.75m、底部幅0.2m、深さ0.2mを測る。

81号溝【第226図】

東西方向に断続的に延びる。検出面幅0.3m、底部幅0.25～0.4m、深さ0.25mを測る。80、81号溝の北側に硬化面が方形状に広がるが、はっきりと住居址や道路などの遺構とはみとめられない。

【踏み分け道】

26号踏み分け道【第221図】

東西方向に延びる。残長8.5m、幅0.4mを測る。51号道路より上面で検出された。

27号踏み分け道【第223図】

南北方向に延びる。残長5.8m、幅0.15～0.8mを測る。断続的に延び、53号道路に関連する可能性がある。

28号踏み分け道【第227図】

北北西⇄南南東方向に延びる。残長8.2m、幅1.4～2.6mの幅広の硬化面が検出された。規模から道路である可能性が高いが、掘りこみもないことから踏み分け道ととらえておく。

29号踏み分け道【第228図】

北東⇄南西方向に延びる。残長4.2m、幅0.2m程度の帯状の硬化が部分的に残存する。

30号踏み分け道【第228図】

北東⇄南西方向に延びる。残長4.2m、幅0.3～0.8mを測る。残存状況は悪い。

31号踏み分け道【第229図】

北北西⇄南南東方向に延びる、いびつな形状の硬化面。

32号踏み分け道【第230図】

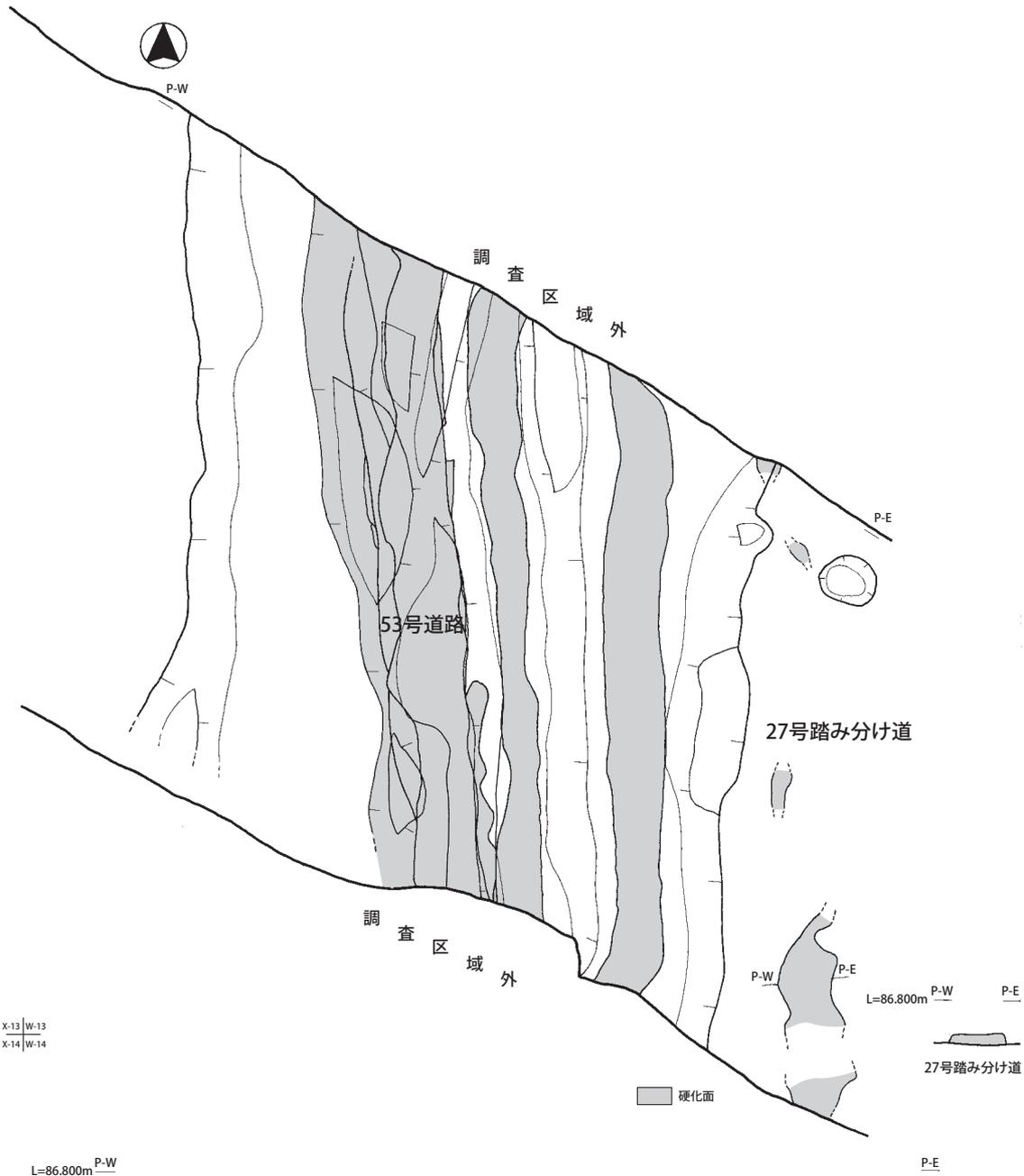
南北方向に延びる。残長5.5m、幅2.2mの幅広の硬化面が検出された。規模から道路である可能性が高いが、掘りこみもないことから踏み分け道ととらえておく。

33号踏み分け道【第230図】

南北方向に延びる。残長3.6m、幅0.1～0.3mを測る。32号踏み分け道の上面で検出されたが、別遺構ととらえる。

34号踏み分け道【第230図】

北東⇄南西方向に延びる。残長4.5m、幅0.3mを測る。



X-13 | W-13  
X-14 | W-14

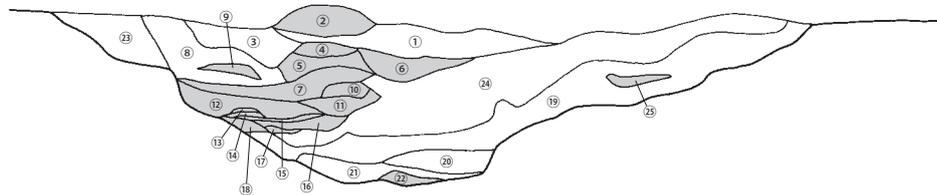
L=86.800m P-W

L=86.800m P-W P-E

27号踏み分け道

硬化面

P-E

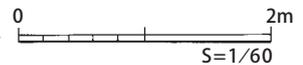


53号道路東西断面

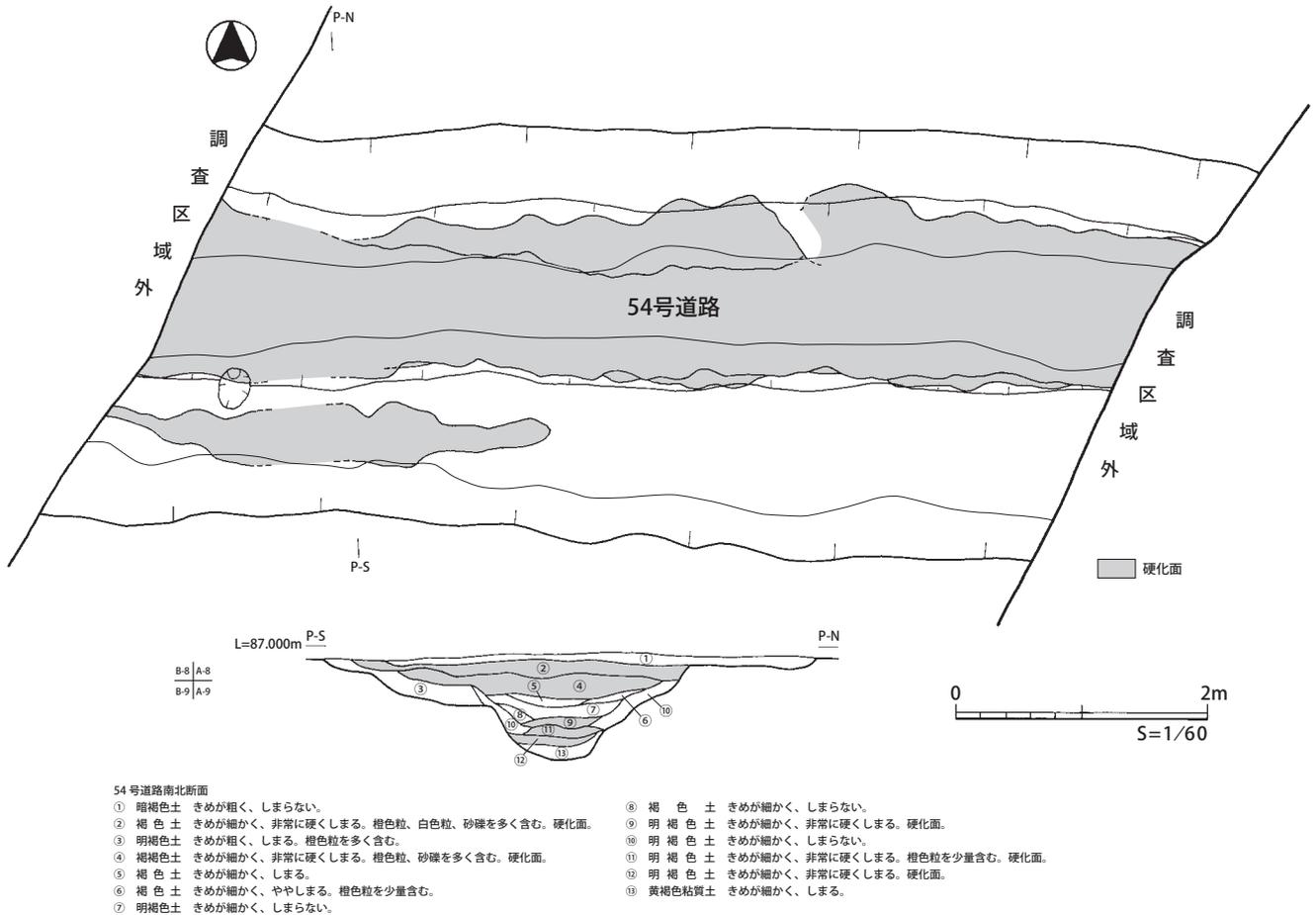
- ① 暗褐色土 きめが細かく、しまる。焼土、砂礫を含む。
- ② 暗褐色土 きめが細かく、非常に硬くしまる。硬化面。
- ③ 暗褐色土 ややきめが粗く、しまる。
- ④・⑤ 暗褐色土 きめが細かく、非常に硬くしまる。硬化面。
- ⑥ 暗褐色土 きめが細かく、非常に硬くしまる。硬化面。
- ⑦ 暗褐色土 きめが細かく、非常に硬くしまる。硬化面。
- ⑧ 暗褐色土 きめが細かく、硬くしまる。
- ⑨ 暗褐色土 きめが粗く、非常に硬くしまる。砂質。硬化面。
- ⑩・⑪ 暗褐色土 きめが細かく、非常に硬くしまる。硬化面。
- ⑫ 暗褐色土 きめが細かく、非常に硬くしまる。鉄分の沈着による層がある。硬化面。

- ⑬ 暗褐色土 きめが粗く、非常に硬くしまる。砂質。硬化面。
- ⑭ 暗褐色土 きめが細かく、非常に硬くしまる。硬化面。
- ⑮ 暗褐色土 きめが細かく、非常に硬くしまる。鉄分の沈着による層がある。硬化面。
- ⑯ 暗褐色土 きめが細かく、非常に硬くしまる。硬化面。
- ⑰ 暗褐色土 きめが細かく、非常に硬くしまる。硬化面。
- ⑱ 暗褐色土 きめが粗く、非常に硬くしまる。硬化面。
- ⑲ 暗褐色土 きめが粗く、ややしまる。粘質。砂礫を含む。

- ⑳ 暗褐色土 きめが細かく、しまる。粘質。砂礫を含む。
- ㉑ 暗褐色土 きめが粗く、非常に硬くしまる。砂礫を含む。硬化面。
- ㉒ 暗褐色土 きめが粗く、しまる。焼土、砂礫を含む。
- ㉓ 暗褐色土 きめが粗く、しまる。焼土、砂礫を含む。
- ㉔ 暗褐色土 きめが粗く、非常に硬くしまる。硬化面。
- ㉕ 暗褐色土 きめが粗く、非常に硬くしまる。硬化面。



第223図 53号道路、27号踏み分け道実測図



第224図 54号道路実測図

35号踏み分け道【第230図】

北北東⇨南南西方向に延びる。残長5.2m、幅0.6～0.8mを測る。

36号踏み分け道【第230図】

北東⇨南西方向に延びる。残長4.5m、幅0.3～0.8mを測る。

【掘立柱建物】

6号掘立柱建物【第231図】

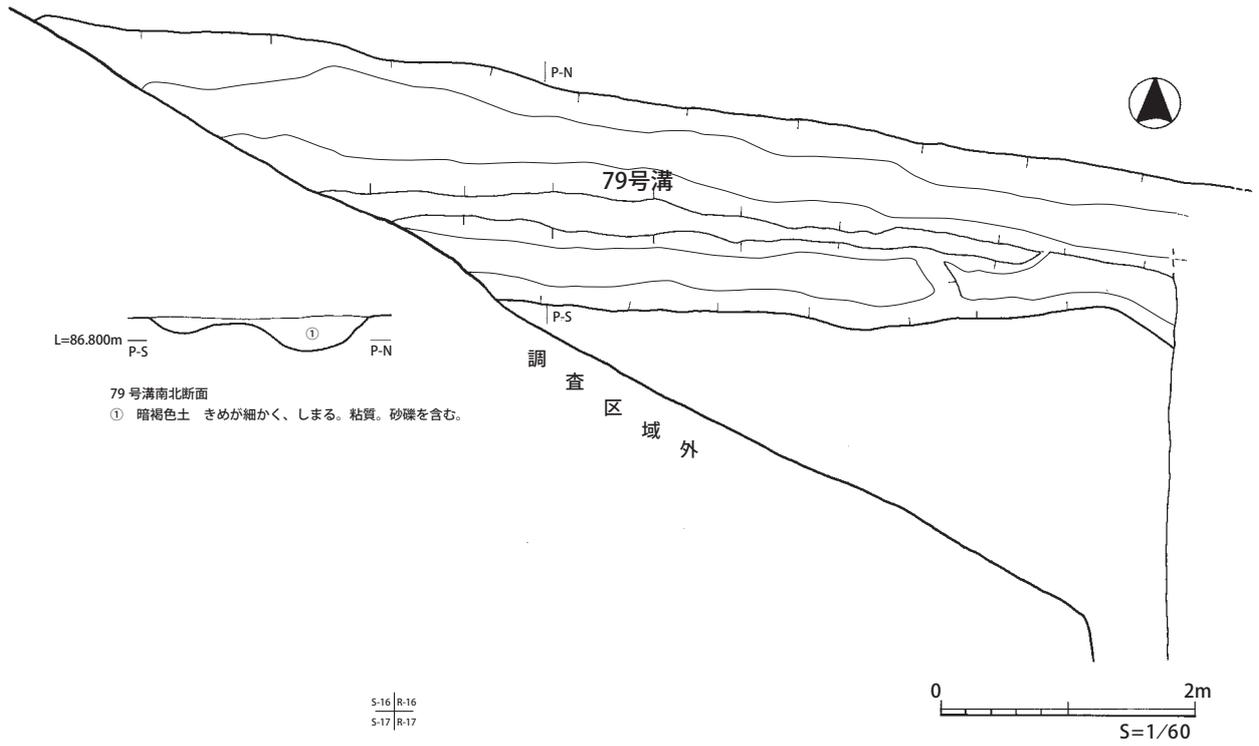
北北西⇨南南東を主軸とし、南北に4間、東西に2間と想定される。柱穴間、南北は1.6m前後、東西は1.4m前後である。柱穴間が狭く、方形にめぐらないため掘立柱建物であるかどうかは断言できない。7号掘立柱建物とは柱間、方向が微妙に異なるため、同一のものとは考えられない。51号道路に近接していることから、何らかの関連がある遺構と思われる。

7号掘立柱建物【第231図】

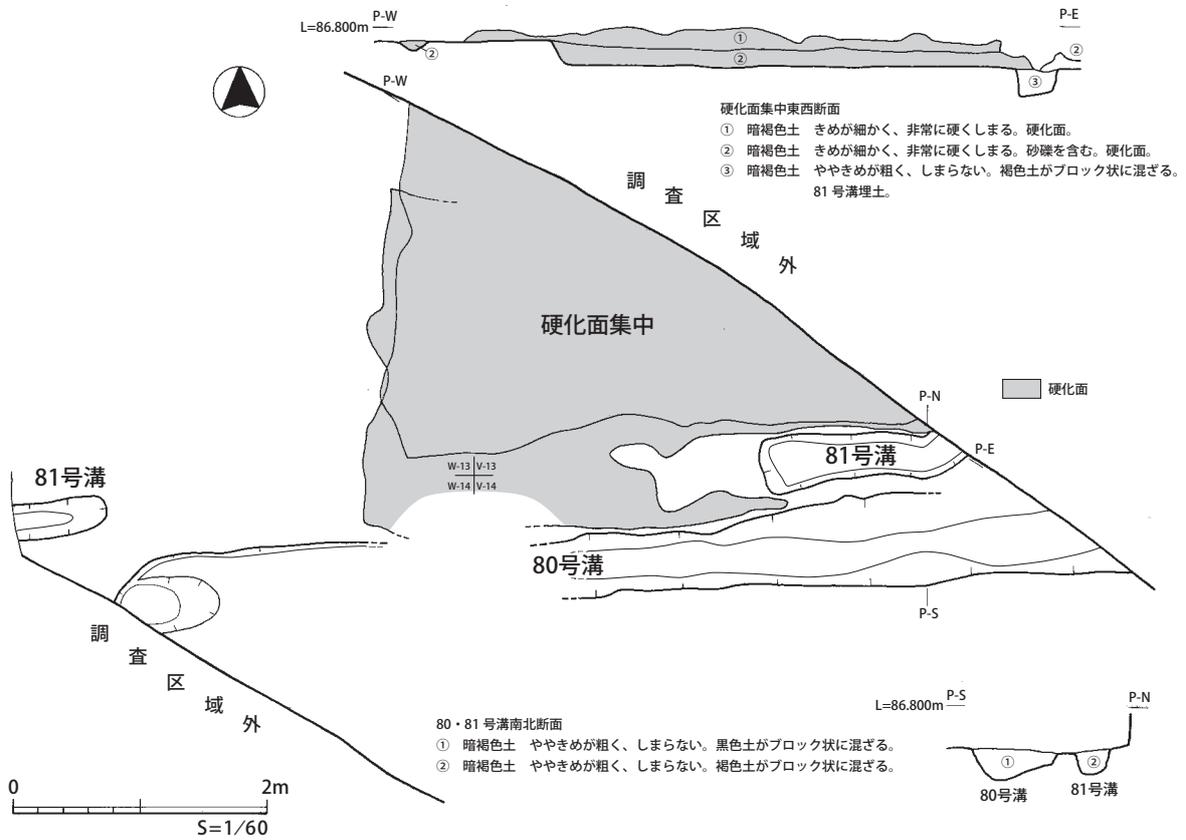
柱穴間は1.2～1.4m前後である。柱穴間が狭いが、規格的に並ぶことから、何らかの建物、もしくは柵列等の構造物があったと思われる。6号掘立柱建物に近接していることから、何らかの関連がある遺構と思われるが、わずかに向きが異なる。

8号掘立柱建物【第232図】

2間×2間と想定される。柱間は1.5mを測る。



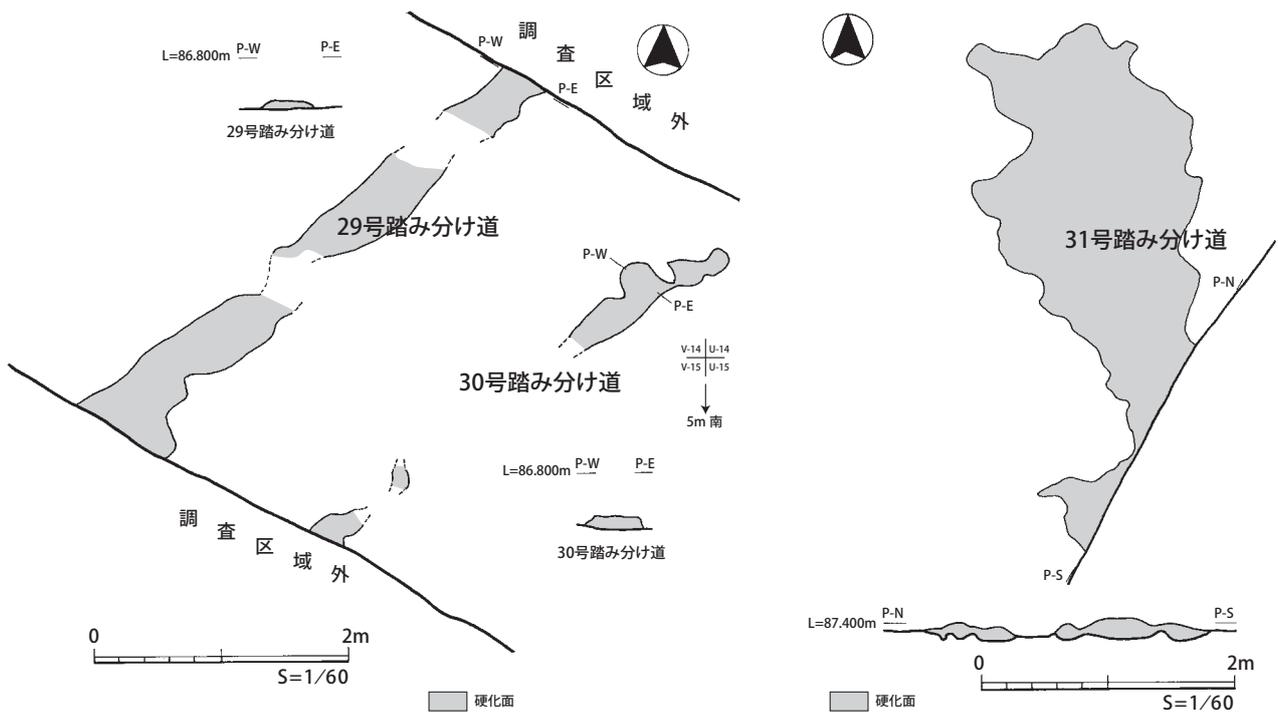
第225図 79号溝実測図



第226図 80・81号溝、硬化面集中実測図

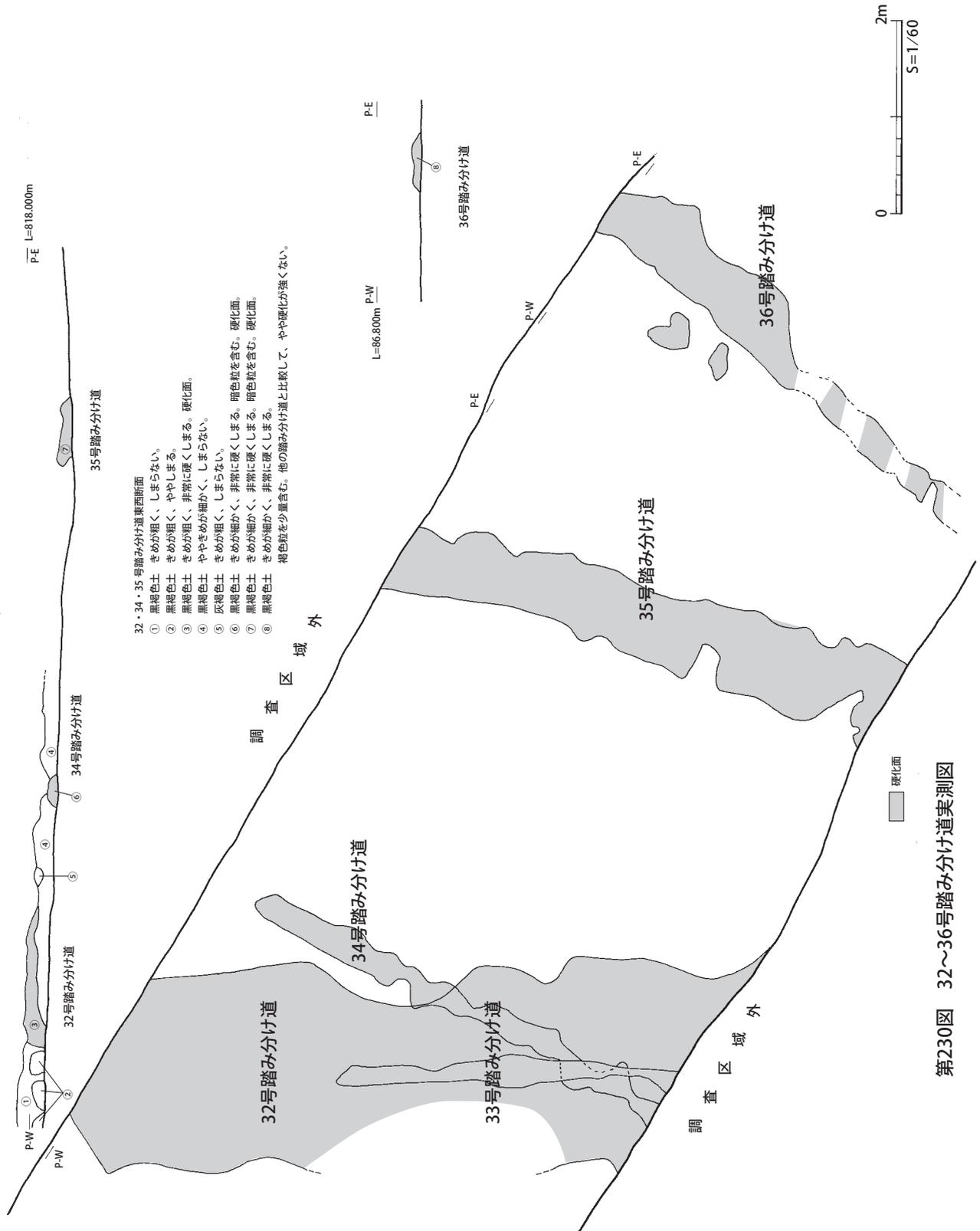


第227図 28号踏み分け道実測図



第228図 29・30号踏み分け道実測図

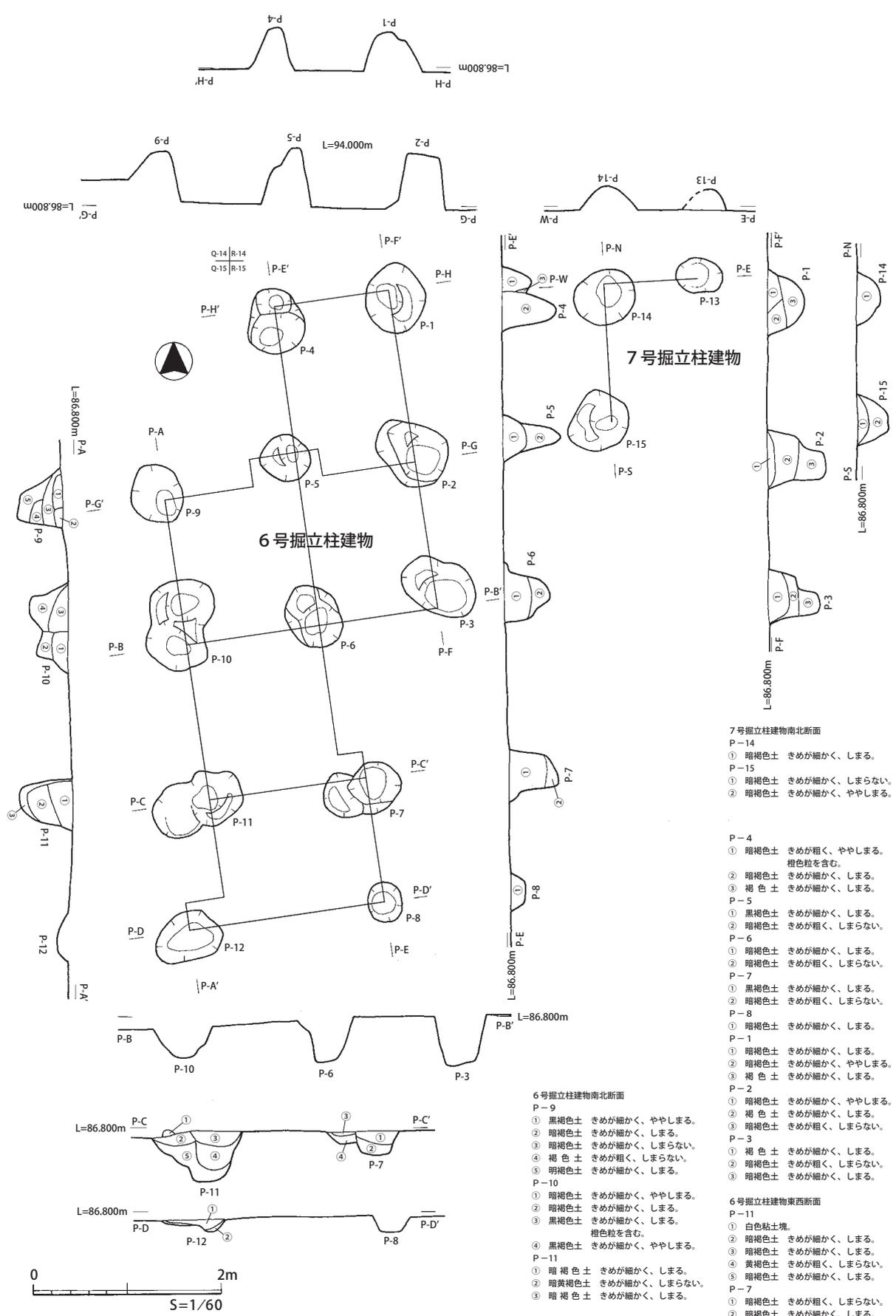
第229図 31号踏み分け道実測図



第230図 32～36号踏み分け道実測図

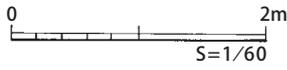
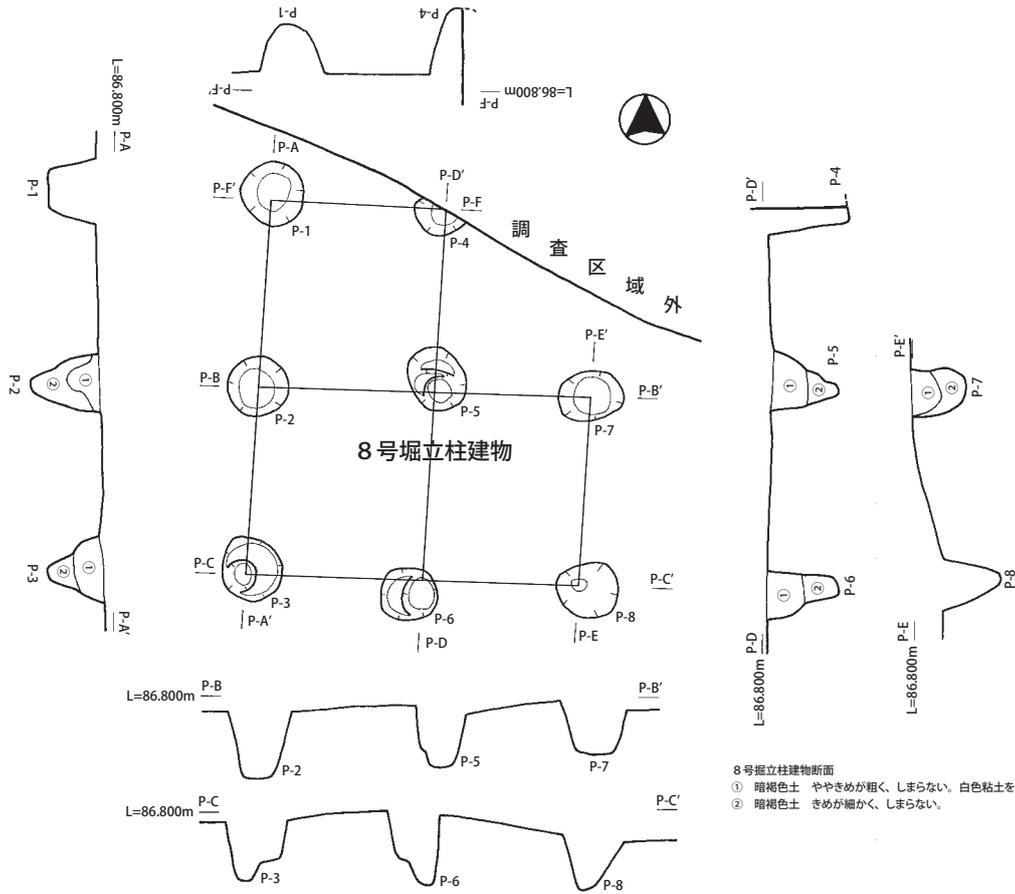
Z-11|Y11  
Z-12|Y12





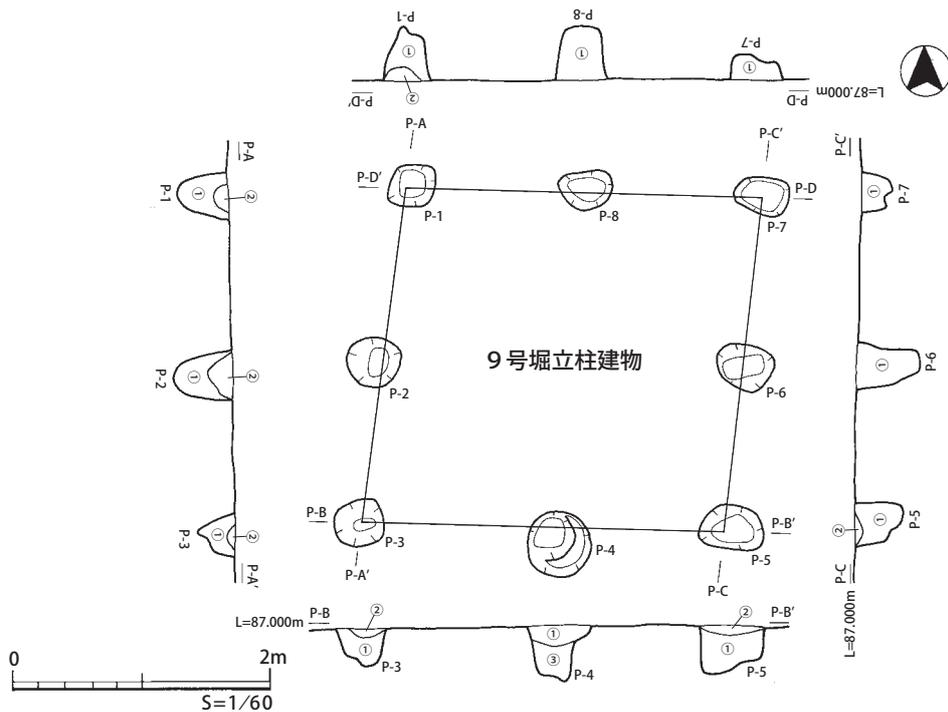
- 7号掘立柱建物南北断面
- P-14
    - ① 暗褐色土 きめが細かく、しまる。
  - P-15
    - ① 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。
    - ② 暗褐色土 きめが細かく、ややしまる。
  - P-4
    - ① 暗褐色土 きめが粗く、ややしまる。橙色粒を含む。
    - ② 暗褐色土 きめが細かく、しまる。
    - ③ 褐色土 きめが細かく、しまる。
  - P-5
    - ① 黒褐色土 きめが細かく、しまる。
    - ② 暗褐色土 きめが粗く、しまらない。
  - P-6
    - ① 暗褐色土 きめが細かく、しまる。
    - ② 暗褐色土 きめが粗く、しまらない。
  - P-7
    - ① 黒褐色土 きめが細かく、しまる。
    - ② 暗褐色土 きめが粗く、しまらない。
  - P-8
    - ① 暗褐色土 きめが細かく、しまる。
  - P-1
    - ① 暗褐色土 きめが細かく、しまる。
    - ② 暗褐色土 きめが細かく、ややしまる。
    - ③ 褐色土 きめが細かく、しまる。
  - P-2
    - ① 暗褐色土 きめが細かく、ややしまる。
    - ② 褐色土 きめが細かく、しまる。
    - ③ 暗褐色土 きめが粗く、しまらない。
  - P-3
    - ① 褐色土 きめが細かく、しまる。
    - ② 暗褐色土 きめが粗く、しまらない。
    - ③ 暗褐色土 きめが細かく、しまる。
  - 6号掘立柱建物東西断面
  - P-11
    - ① 白色粘土塊。
    - ② 暗褐色土 きめが細かく、しまる。
    - ③ 暗褐色土 きめが細かく、しまる。
    - ④ 黄褐色土 きめが粗く、しまらない。
    - ⑤ 暗褐色土 きめが細かく、しまる。
  - P-7
    - ① 暗褐色土 きめが粗く、しまらない。
    - ② 暗褐色土 きめが細かく、しまる。
    - ③ 黒褐色土 きめが粗く、しまらない。
    - ④ 暗褐色土 きめが粗く、しまらない。
  - P-12
    - ① 暗褐色土 きめが細かく、ややしまる。
    - ② 暗褐色土 きめが細かく、しまる。

第231図 6・7号掘立柱建物実測図



第232図 8号掘立柱建物実測図

R-16 | Q-16  
R-17 | Q-17



第233図 9号掘立柱建物実測図

S-18 | R-18  
S-19 | R-19

8号ピット断面

P-1

- ① 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。
- ② 暗褐色土 きめが細かく、ややしまる。
- ③ 暗褐色土 きめが細かく、ややしまる。

P-2

- ① 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。橙色粒、白色粒を含む。
- ② 暗褐色土 きめが細かく、ややしまる。橙色粒、白色粒を含む。

P-3

- ① 明褐色土 ややきめが粗く、しまらない。
- ② 黒褐色土 きめが細かく、しまらない。
- ③ 黒褐色土 きめが細かく、しまらない。

P-4

- ① 黒褐色土 きめが粗く、ややしまる。
- ② 黒褐色土 きめが粗く、ややしまる。

調査  
外  
域

8号ピット列

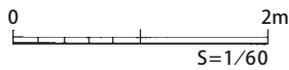
9号ピット列断面 (A-A')

- ① 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。
- ② 黒褐色土 きめが細かく、しまる。粘質。①より明るい。

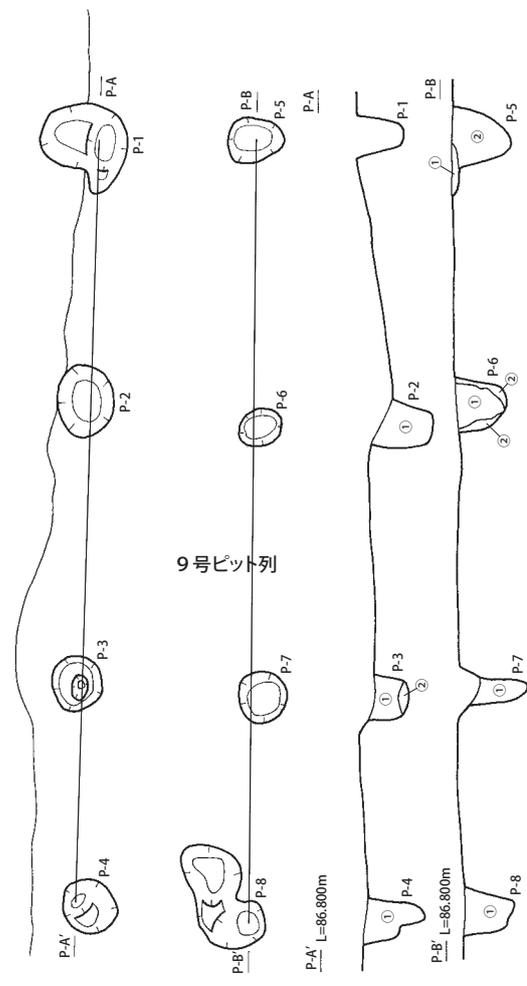
9号ピット列 (B-B')

- ① 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。
- ② 褐色土 きめが細かく、しまらない。①より明るい。

S-17 R:17  
S-18 R:18



P-N  
L=86.800m

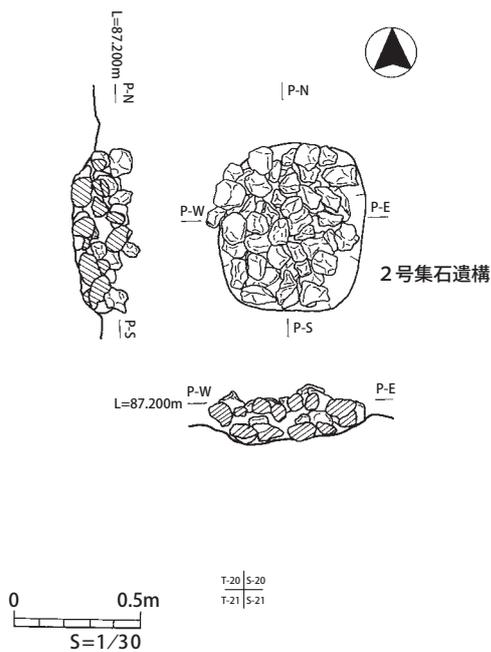


9号ピット列

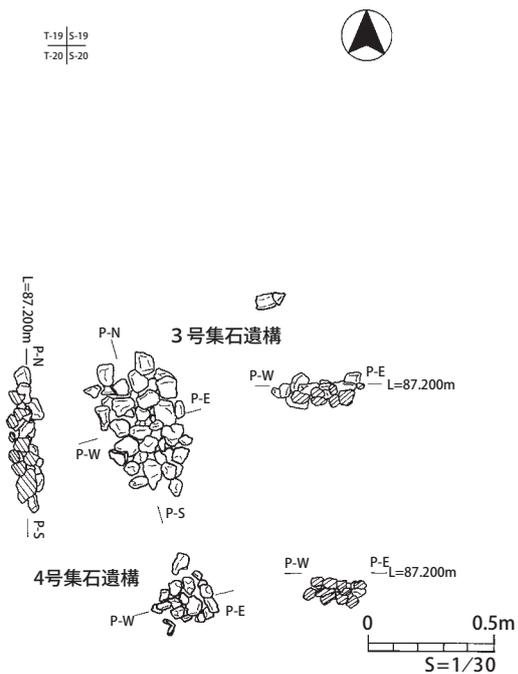
P-A' L=86.800m

P-B' L=86.800m

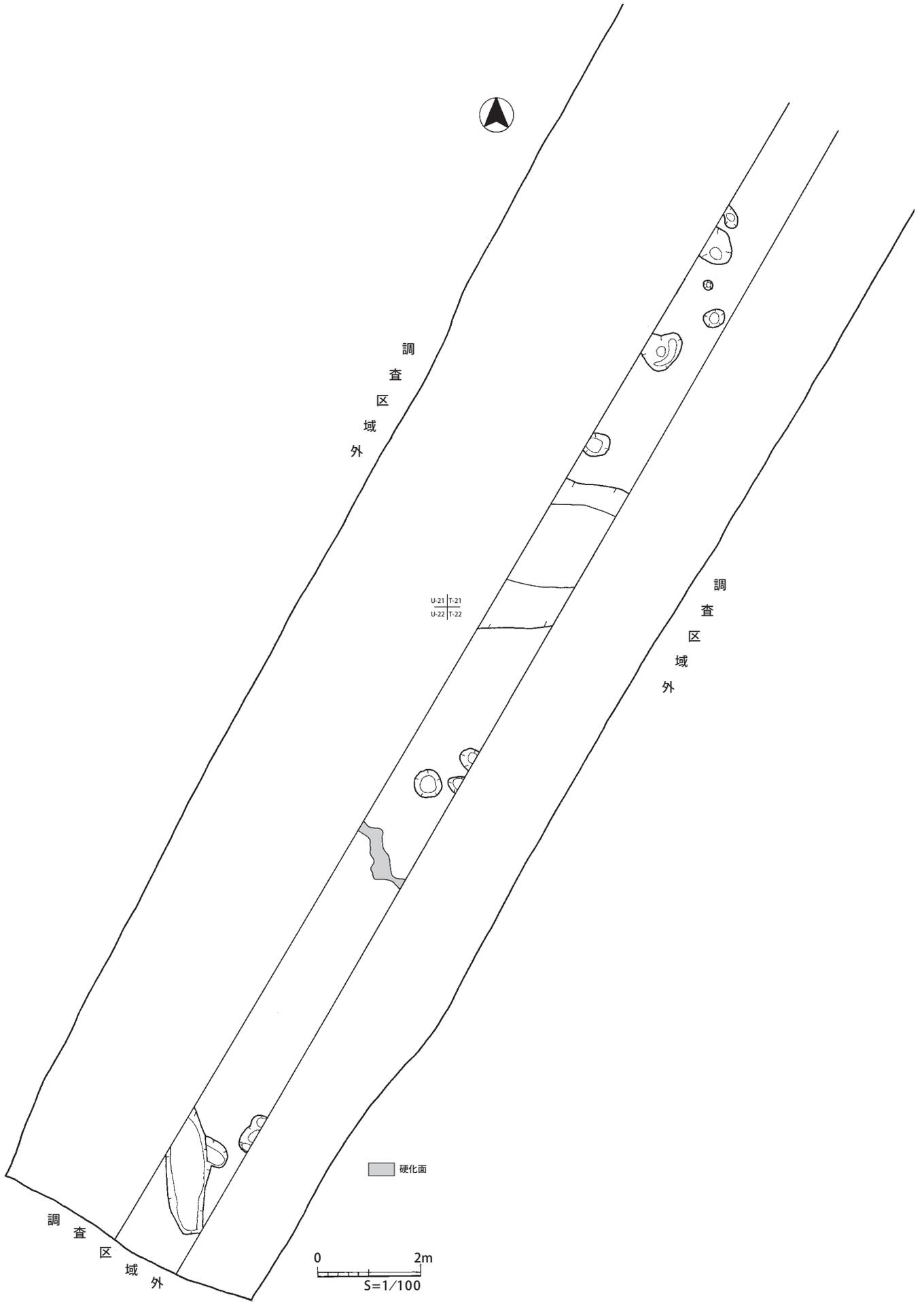
第234図 8・9号ピット列実測図



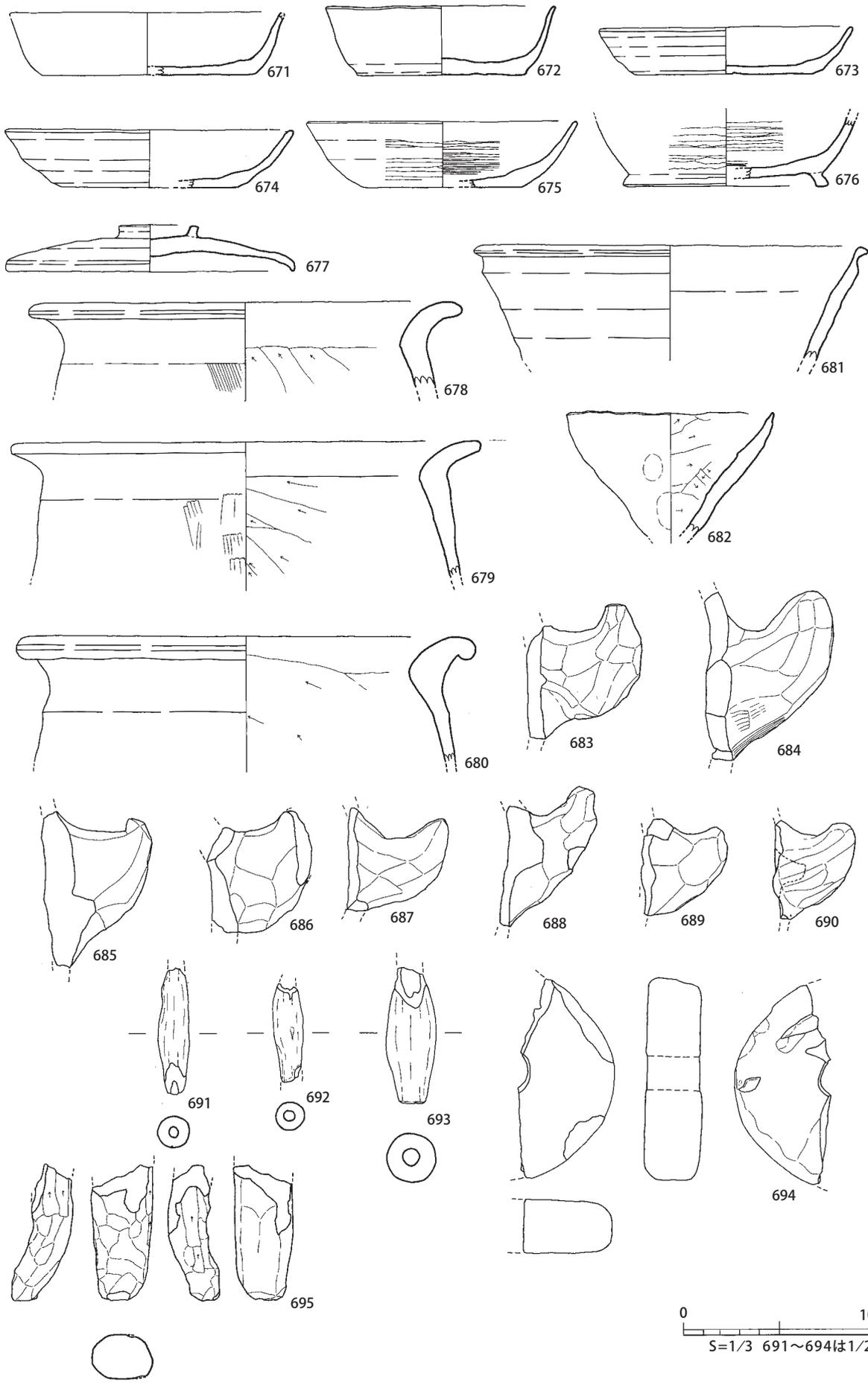
第235図 2号集石遺構実測図



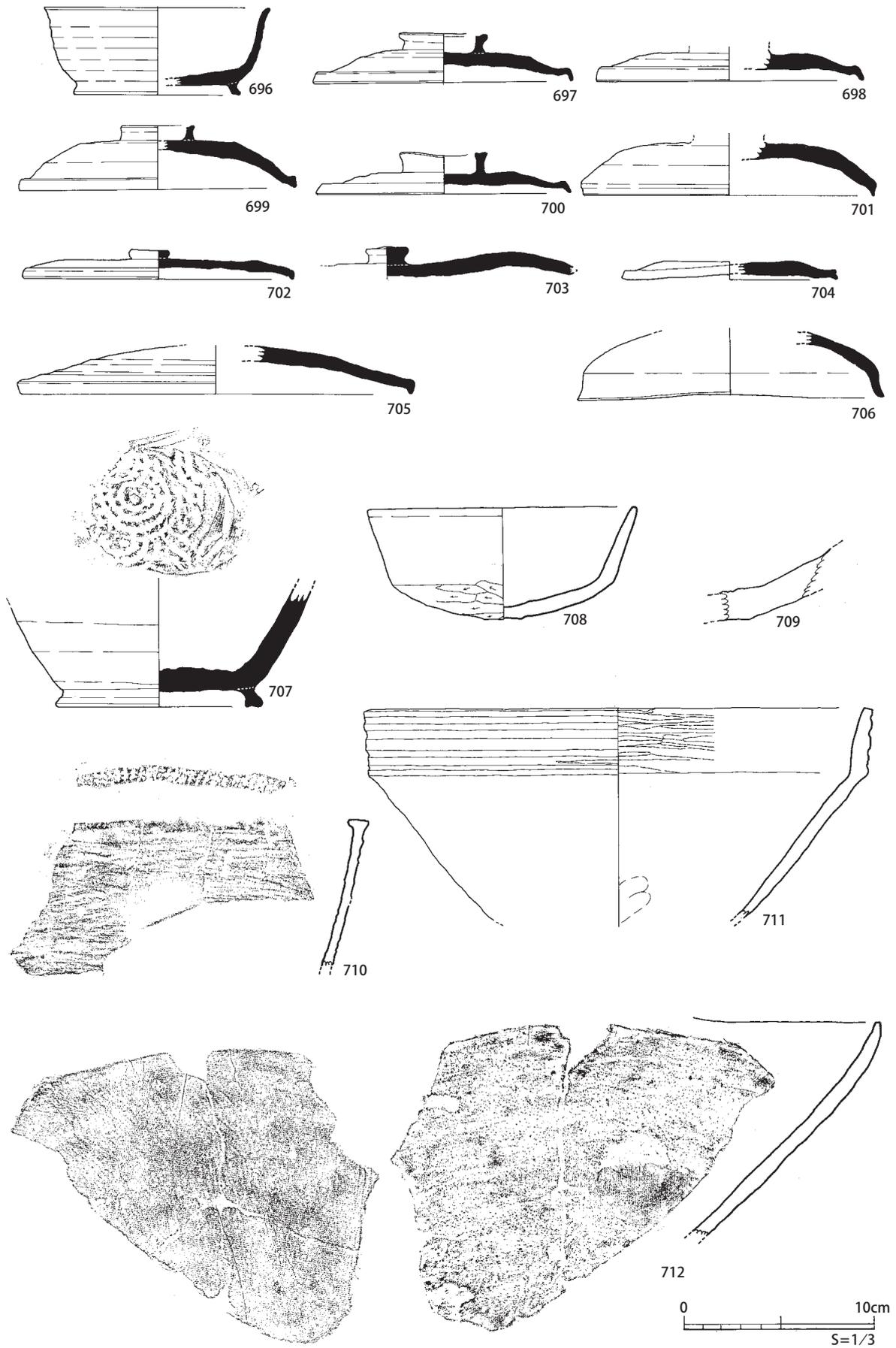
第236図 3・4号集石遺構実測図



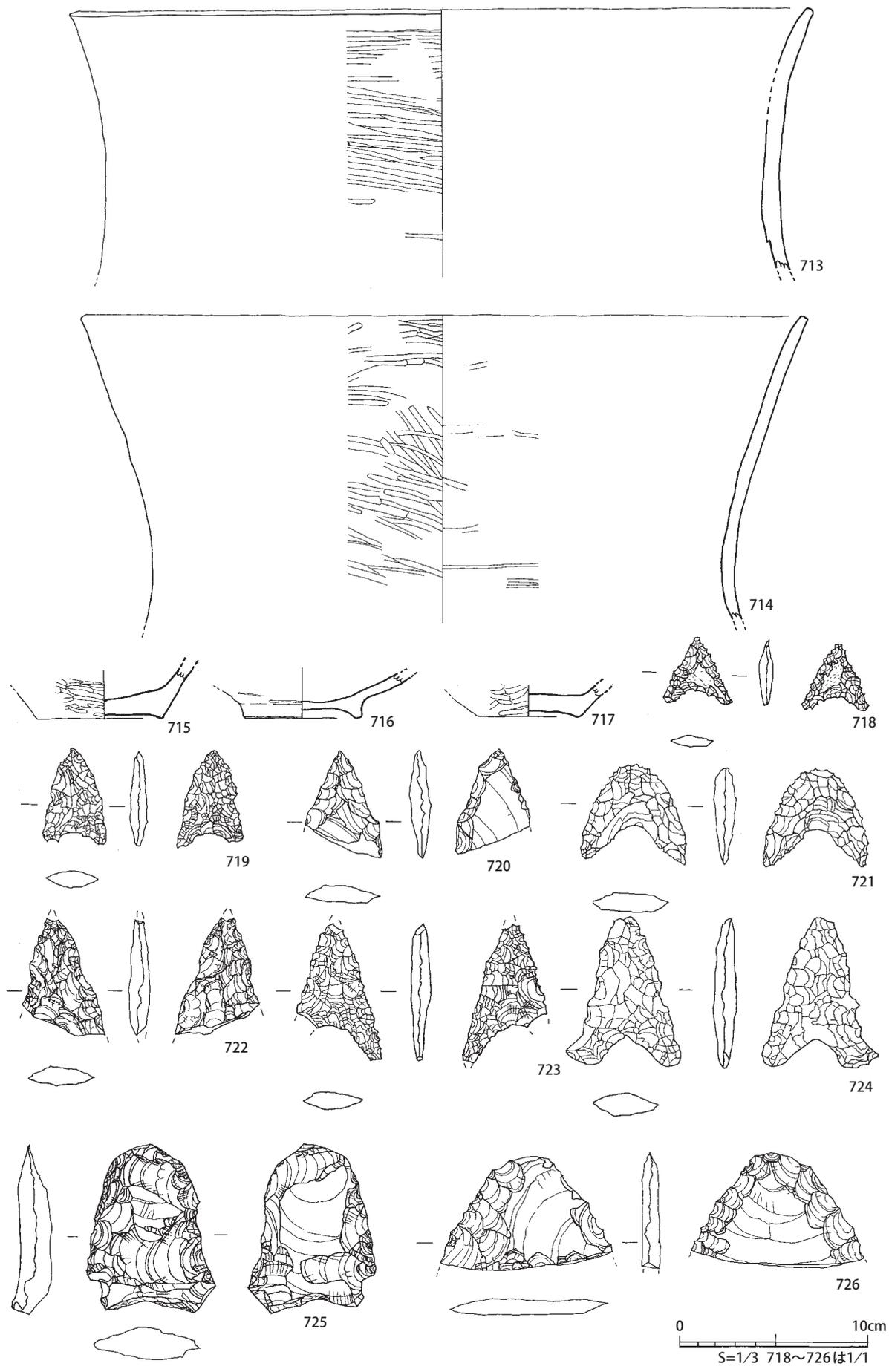
第237図 D-6区南側トレンチ遺構検出状況



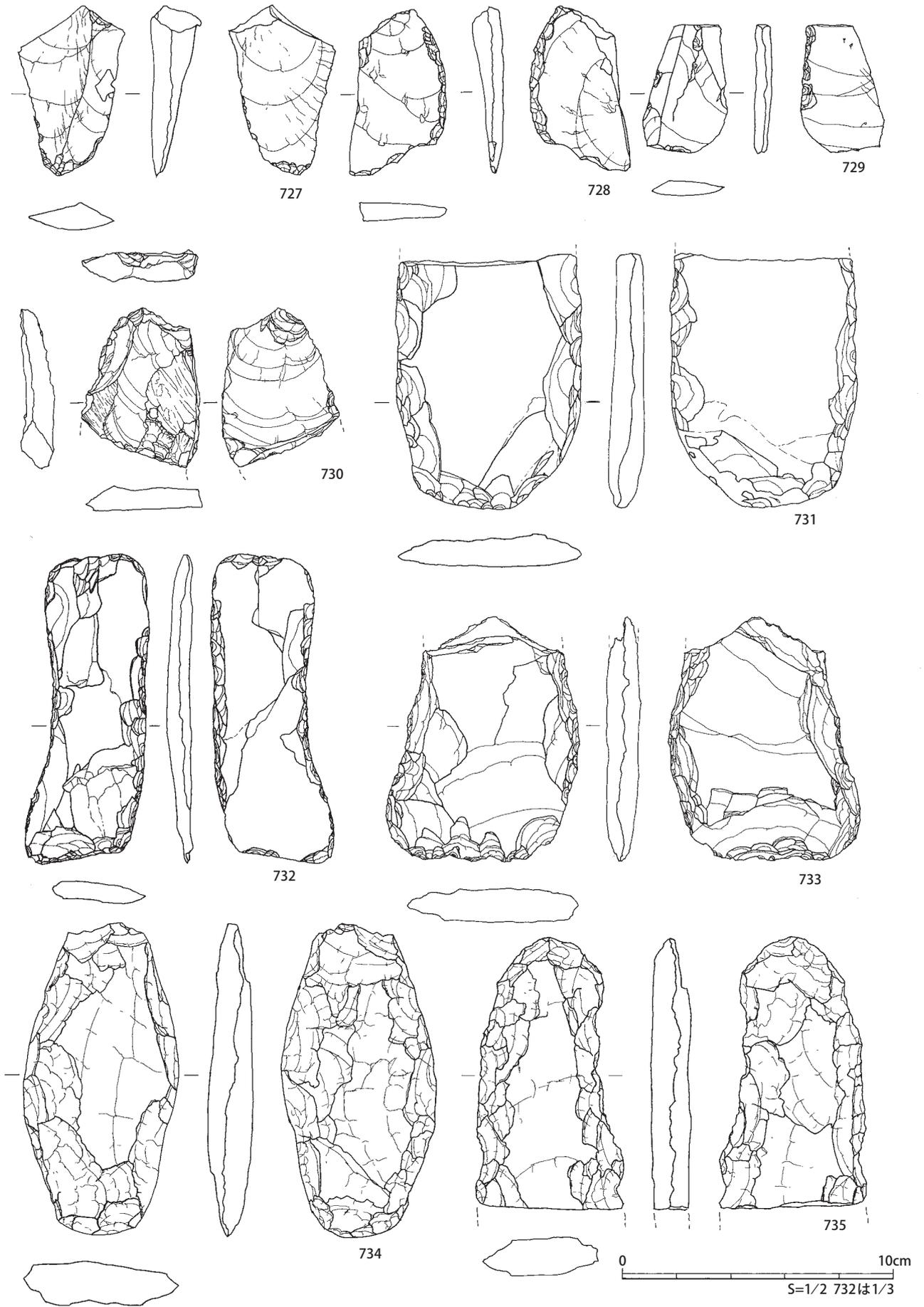
第238图 D-5区出土遺物実測図



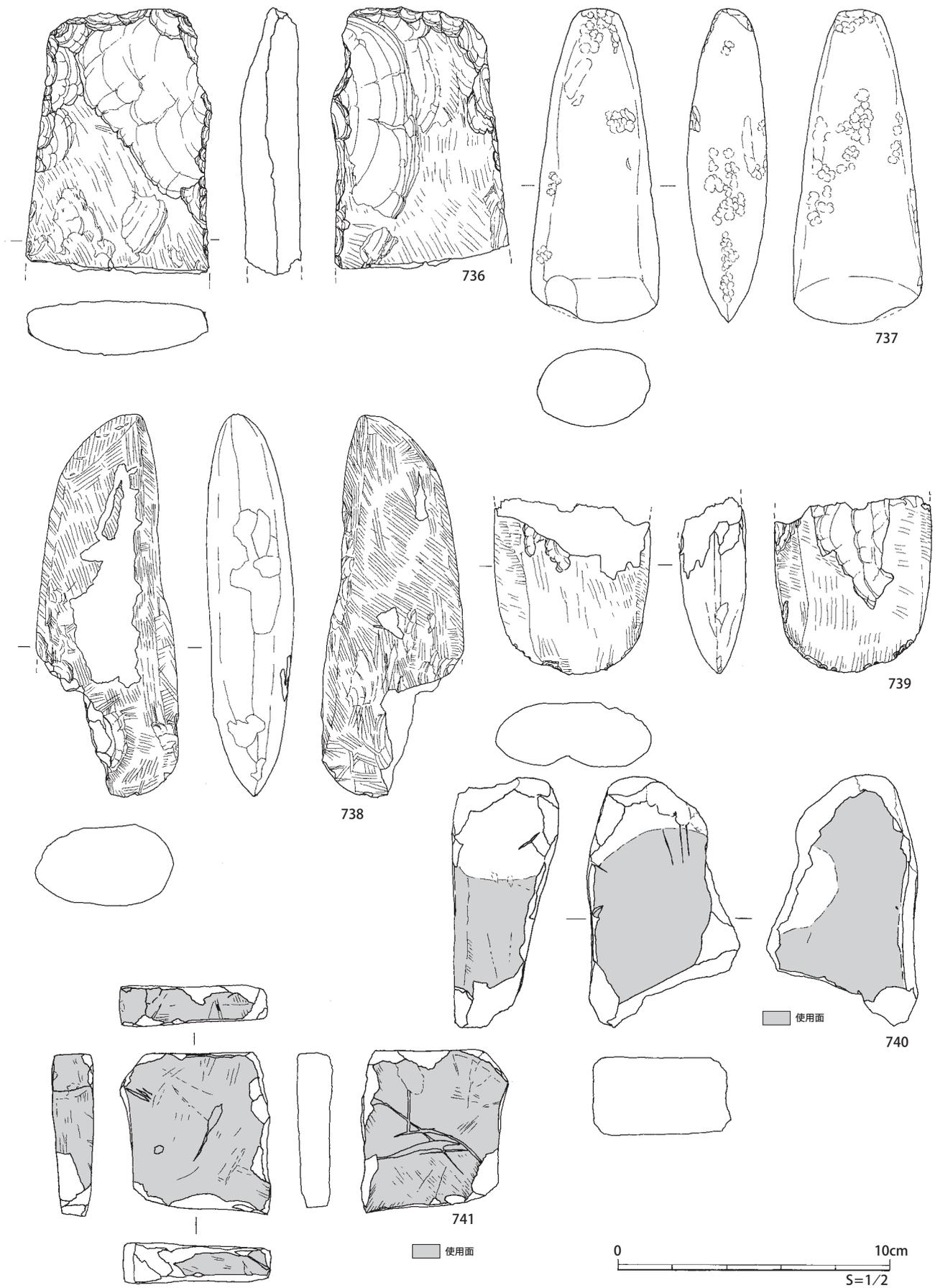
第239図 D-5区出土遺物実測図



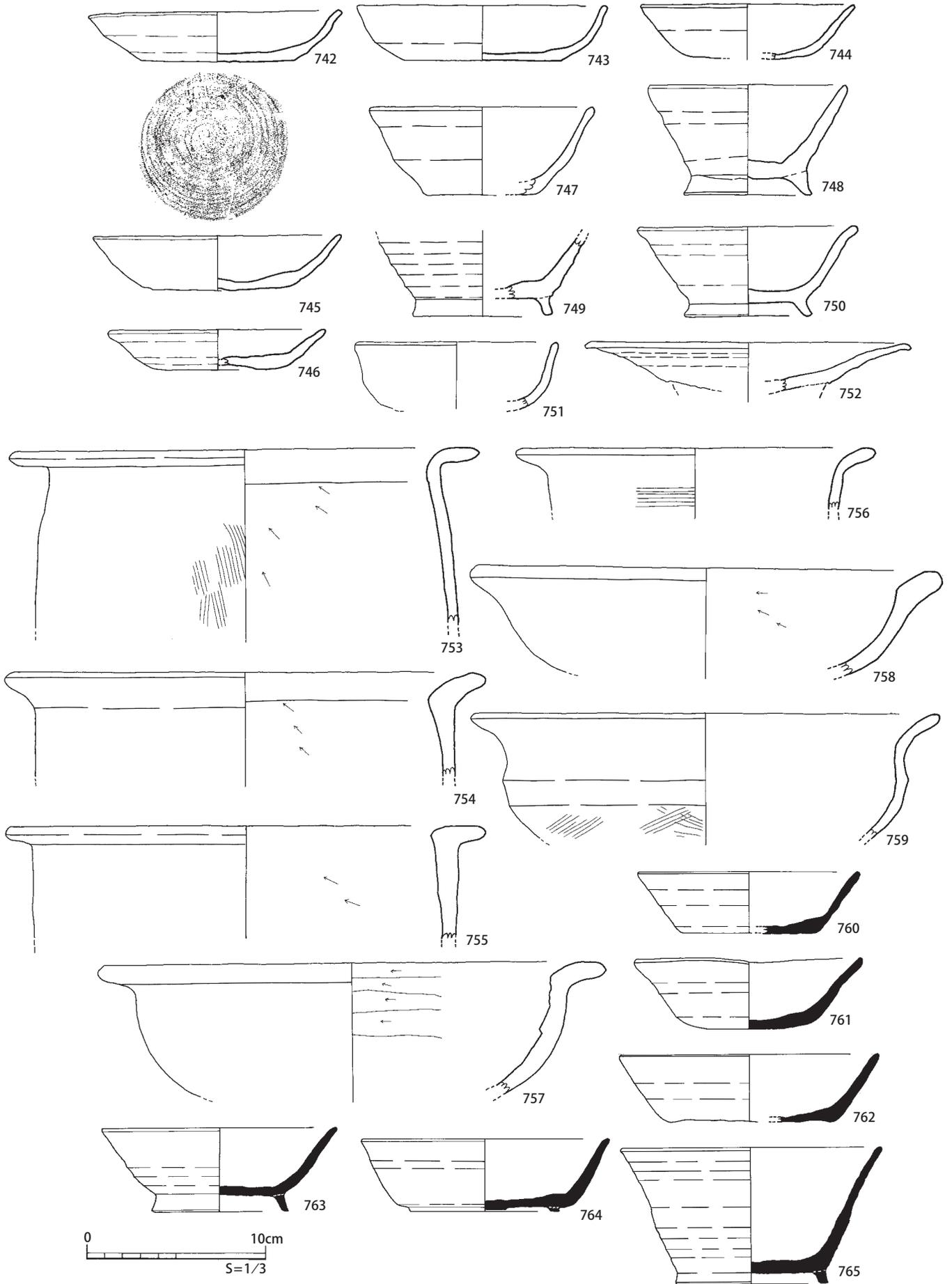
第240图 D-5区出土遺物実測図



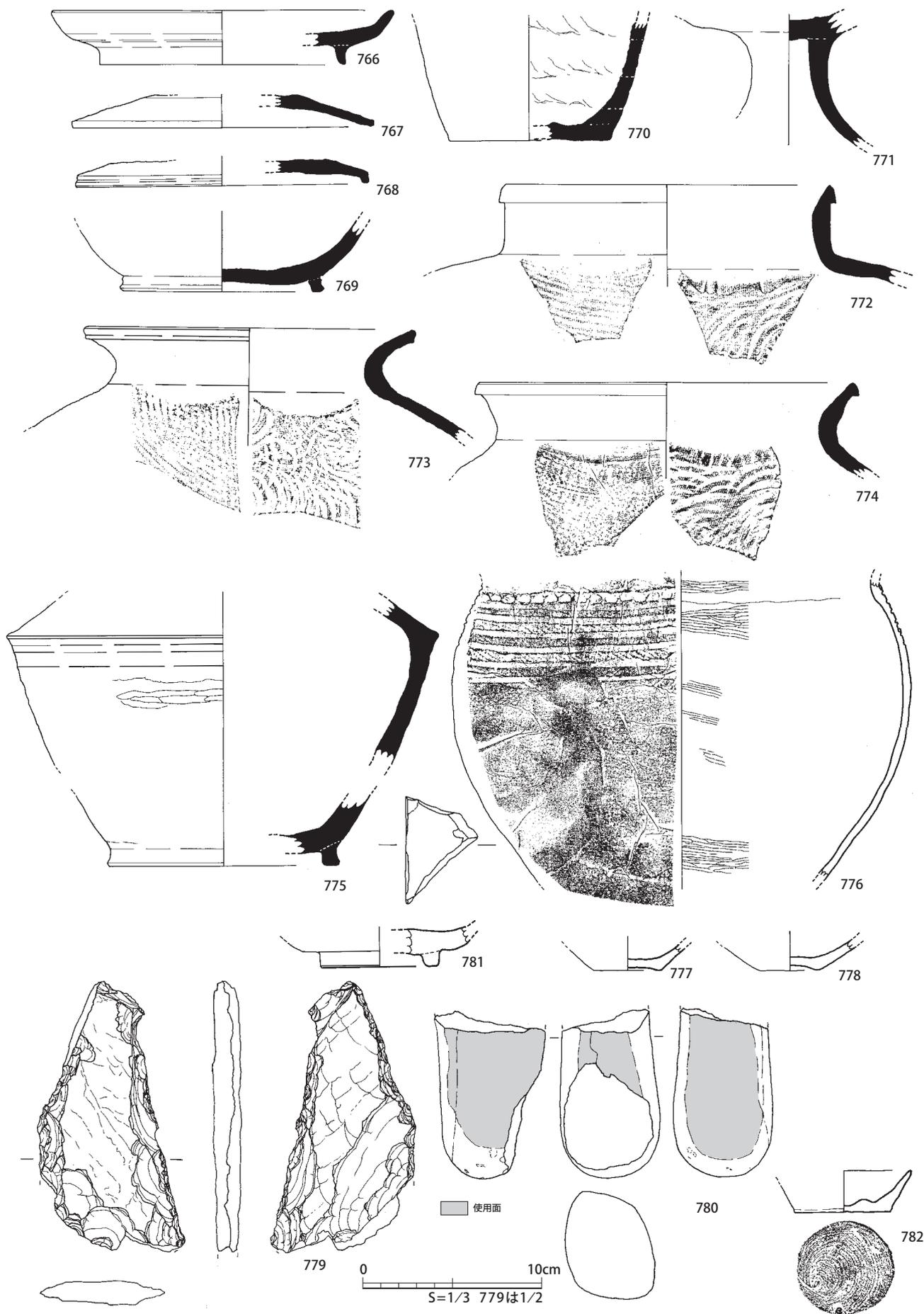
第241図 D-5区出土遺物実測図



第242图 D-5区出土遺物実測図



第243図 D-6区出土遺物実測図



第244图 D-6区出土遺物実測図

**9号掘立柱建物【第233図】**

2間×2間の掘立柱建物だと考えられるが、総柱でなくややいびつである。柱間は1.4mを測る。

**【ピット列】**

**8号ピット列【第234図】**

北東⇔南西方向のピット列。柱穴間は1.8～2.8mと不均一であるが、51号道路に近接していることから、何らかの関連がある遺構と思われる。

**9号ピット列【第234図】**

51号道路の西側立ち上がり付近で南北方向に並ぶピット列である。柱穴間は1.8～2.2m前後とやや不均一であり、互いが1.4mほどの間隔である。

**【集石遺構】**

**2号集石遺構【第235図】**

長軸0.65m×短軸0.55m、深さ0.1mの浅い土坑に礫が集中して検出された。礫はいずれも10cm程度のものがあり、焼成などはみとめられなかった。

**3号集石遺構【第236図】**

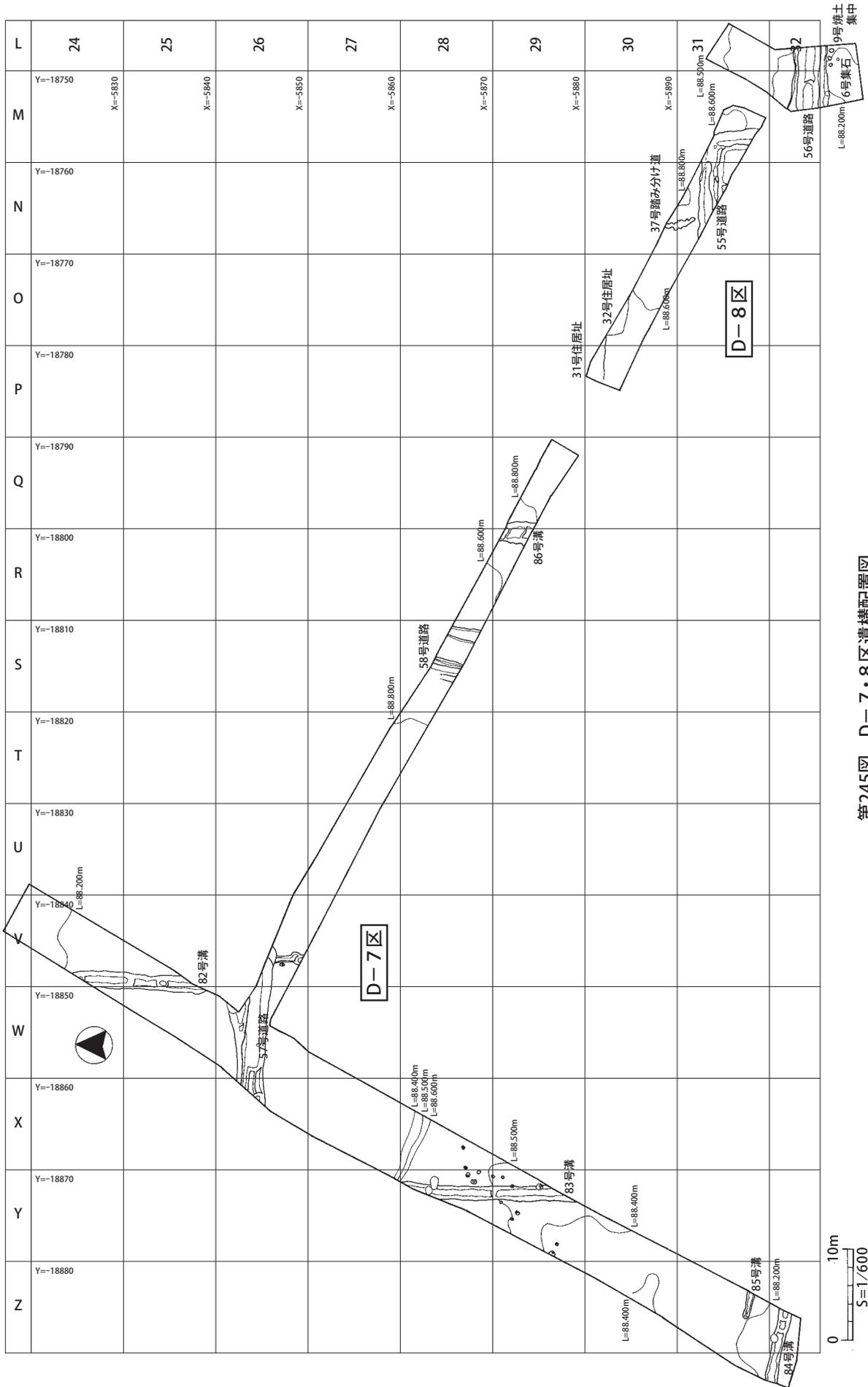
長軸0.65m×短軸0.35mの範囲に礫が集中して検出された。掘り込みはみとめられない。2号集石遺構と異なり、礫は10cm弱のものである。焼成などはみとめられなかった。

**4号集石遺構【第236図】**

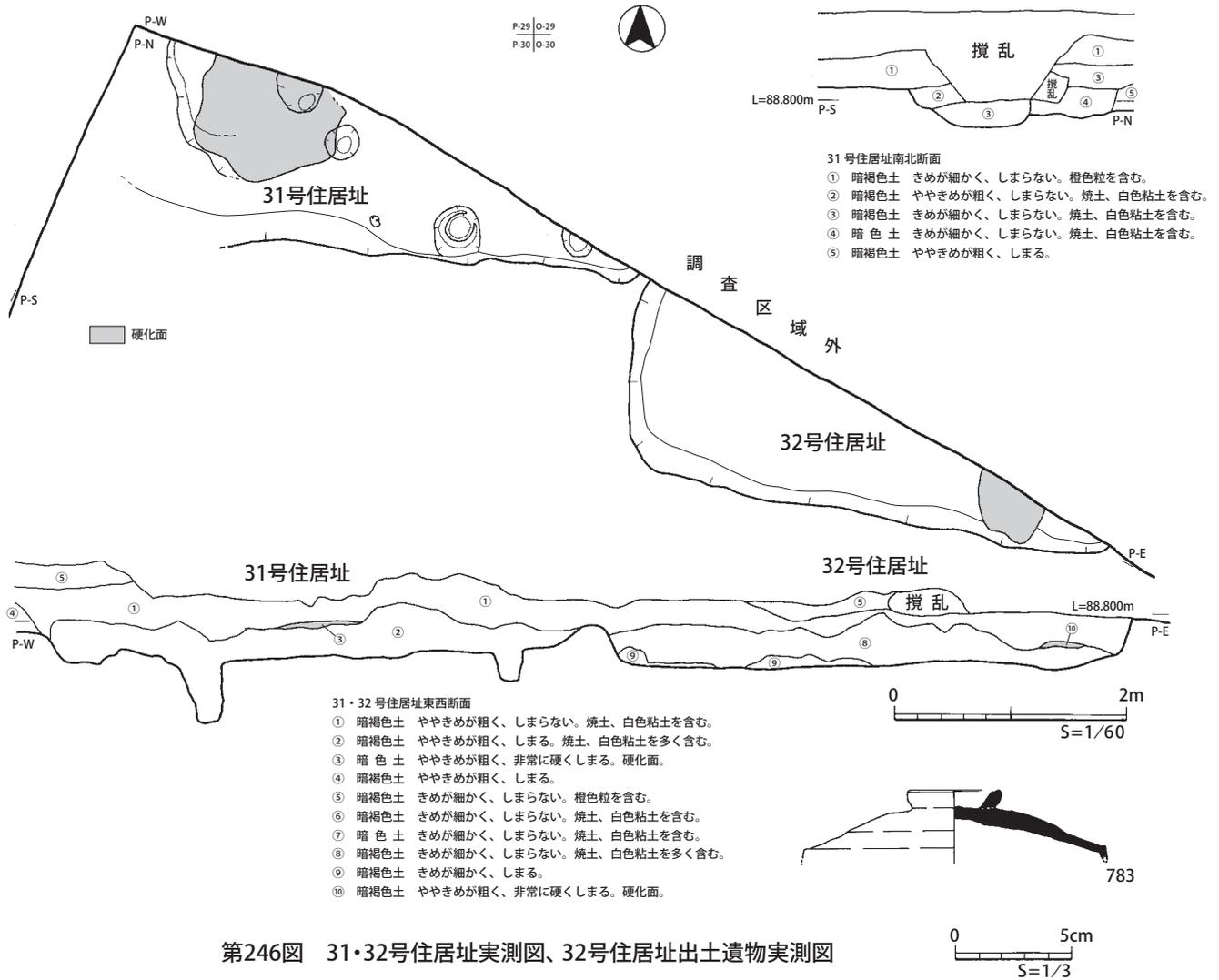
3号集石遺構に隣接して、礫が集中して検出された。掘り込みはみとめられない。

**D-6区南側トレンチ【第237図】**

トレンチのみの調査を実施している。東西方向の溝状遺構もしくは土坑が1基、北北西⇔南南東方向のいびつな踏み分け道、その他土坑、ピットが検出された。



第245図 D-7・8区遺構配置図



第246図 31・32号住居址実測図、32号住居址出土遺物実測図

## D-7・8区

### 調査の成果

#### 【住居址】

##### 31号住居址【第246図】

遺構のほとんどが調査区域外のため、詳細は不明。わずかに硬化面が残存する。

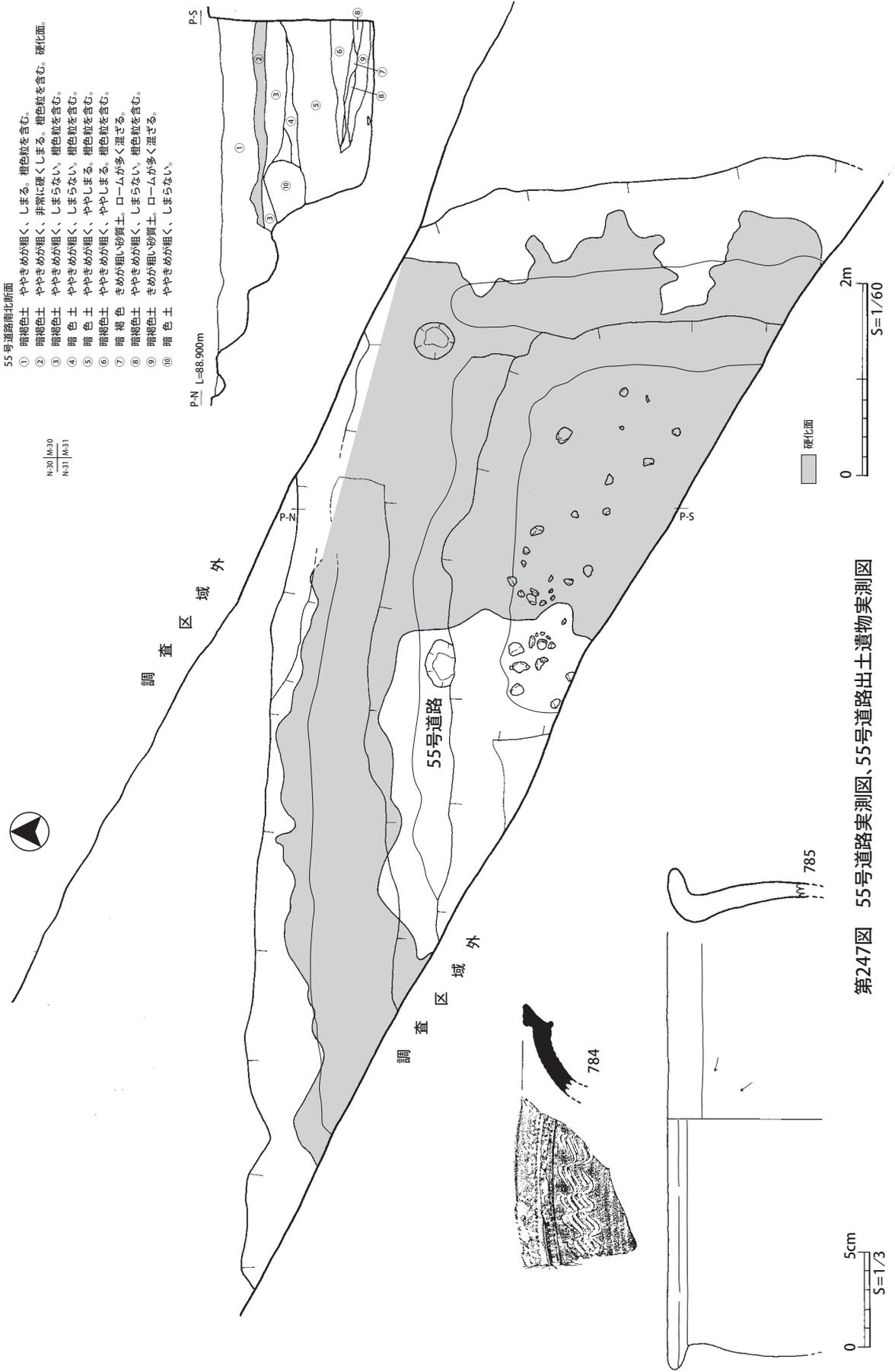
##### 32号住居址【第246図】

遺構のほとんどが調査区域外のため、詳細は不明。東西5.0m程度と推測される。わずかに硬化面が残存する。

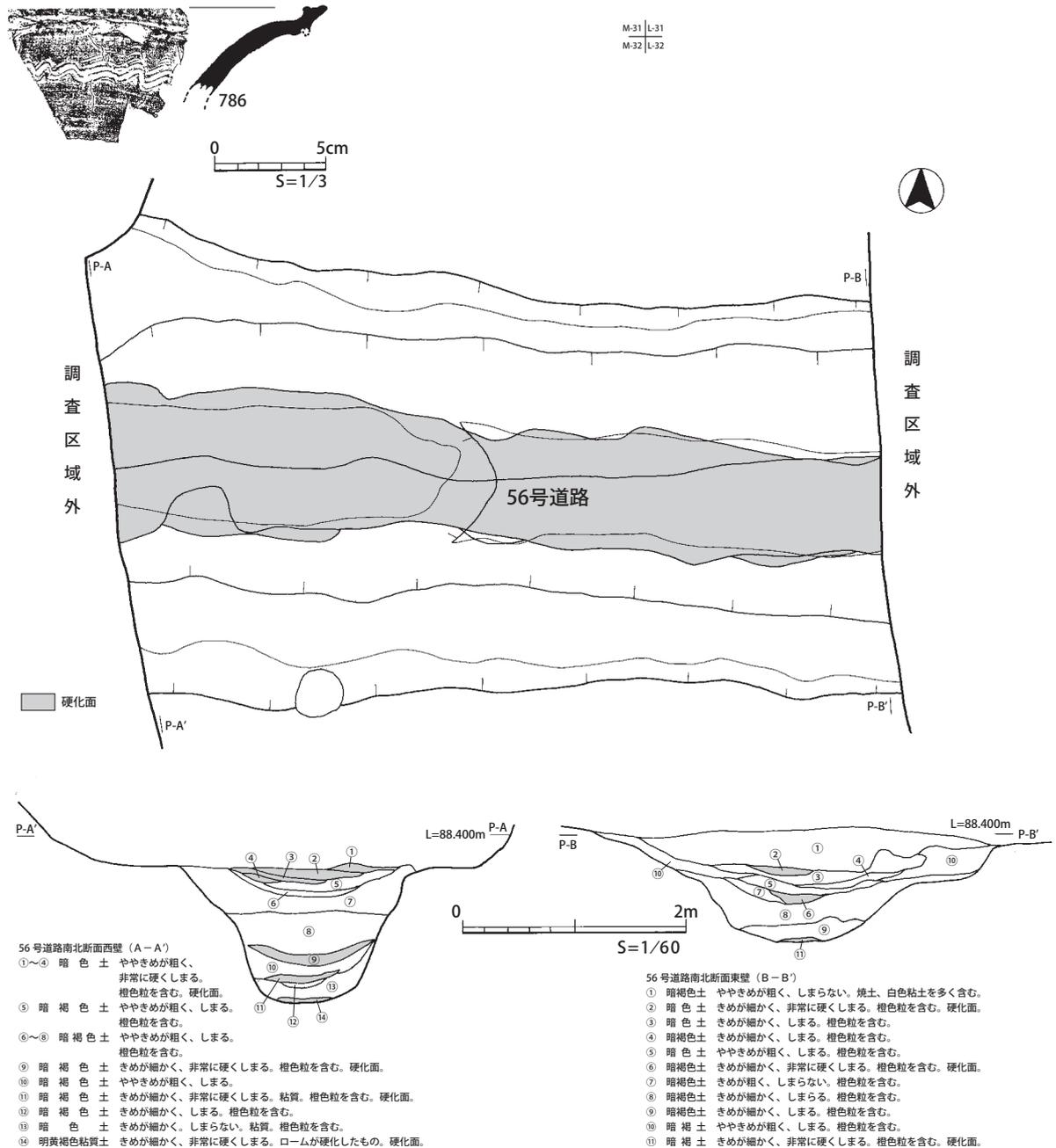
#### 【道路】

##### 55号道路【第247図】

非常に大型の道路状遺構。中央部で台形状に急激に掘り下げられる。当初は方形にめぐる溝状遺構と思われたが、全面に硬化面が検出されたことから、道路と推測する。幅は不明だが、深掘り箇所では1.6mを測る。道路ならば、屈曲部が交錯する箇所ではないかと思われる。側溝、波板状凹凸面などは検出されなかった。



第247図 55号道路実測図、55号道路出土遺物実測図



第248図 56号道路実測図、56号道路出土遺物実測図

56号道路【第248図】

東西方向に延びる。残長7.0m、検出面幅3.4～4.2m、底部幅1.0mを測る。深さは1.0mだが、西側半分では深掘りがされており、1.6mを測る。側溝、波板状凹凸面などは検出されなかったが、複数の硬化面が検出されたことから、大型の道路と考えられる。断面はすり鉢状で、中央で深掘りされて硬化面が集中する。

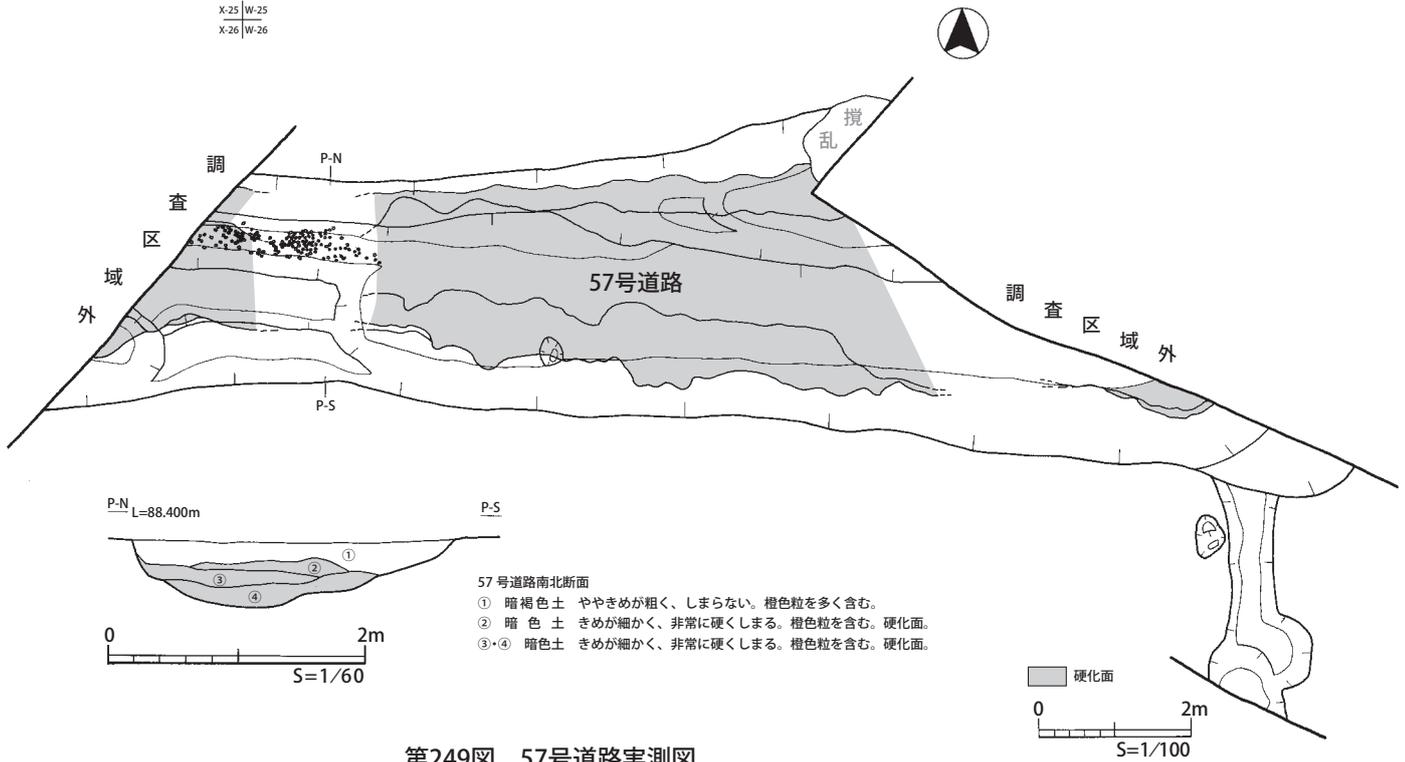
57号道路【第249図】

東西方向に延びる。残長16.0m、検出面6.4m、底部幅1.1m、深さ0.9mを測る。側溝、波板状凹凸面などは検出されなかったが、複数の硬化面が検出された。断面はゆるやかで、部分的にテラス上の平坦部を呈する。底部で小礫の集中がみとめられた。硬化面が検出されたことから、道路だと考えられる。

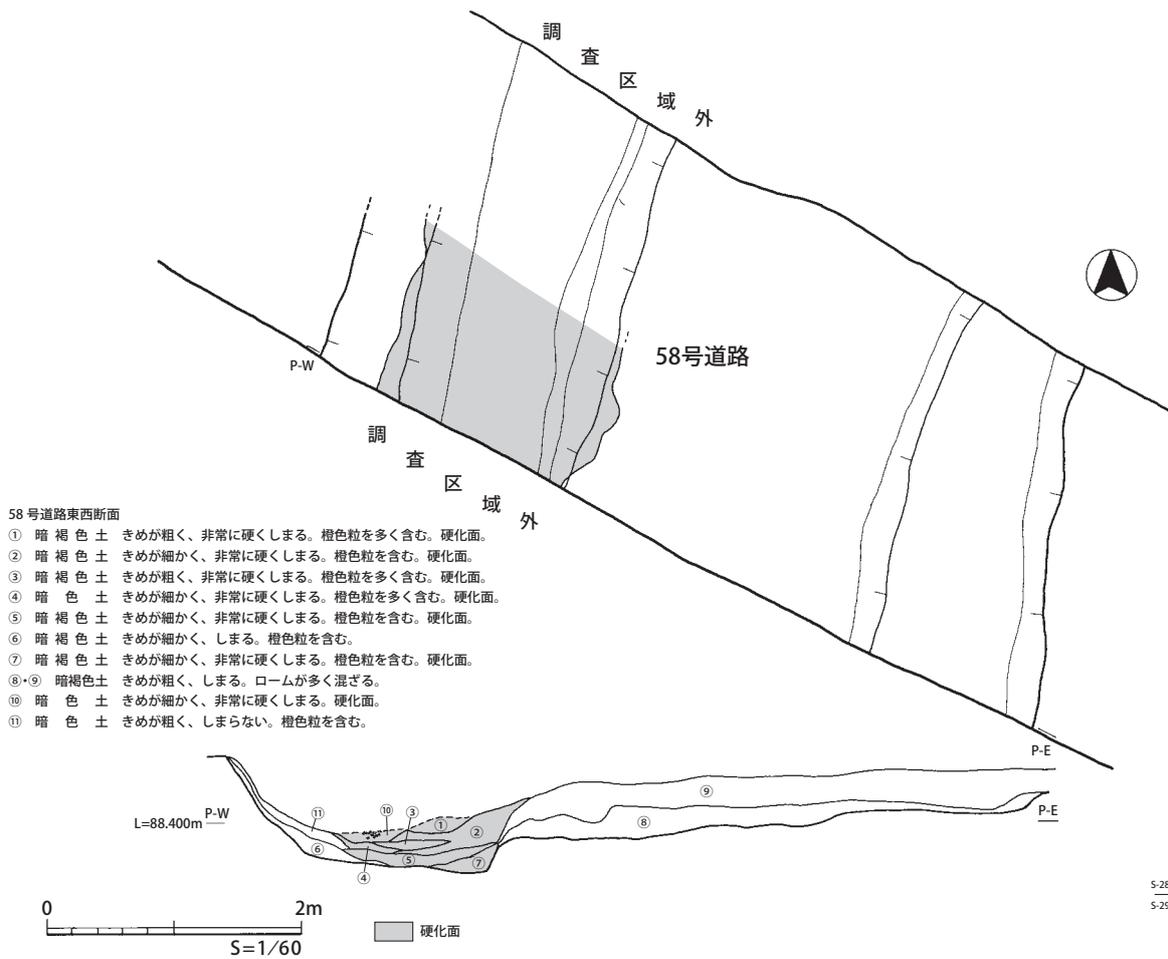
58号道路【第250図】

北北東⇄南南西方向に延びる。残長3.0m、検出面幅2.6～4.0m、底部幅1.1mを測る。東側の立ち上がりははっ

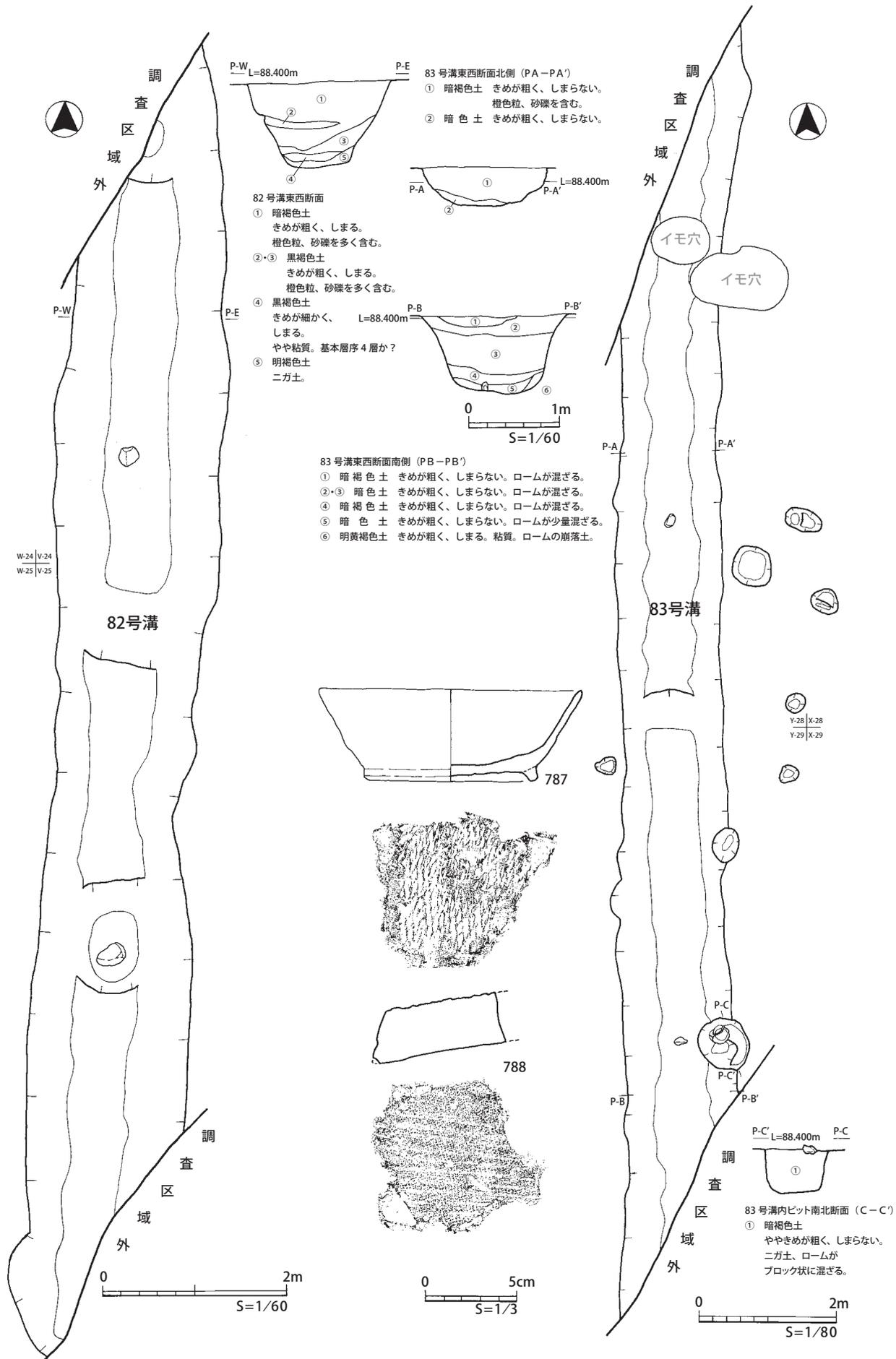
X-25 | W-25  
X-26 | W-26



第249図 57号道路実測図

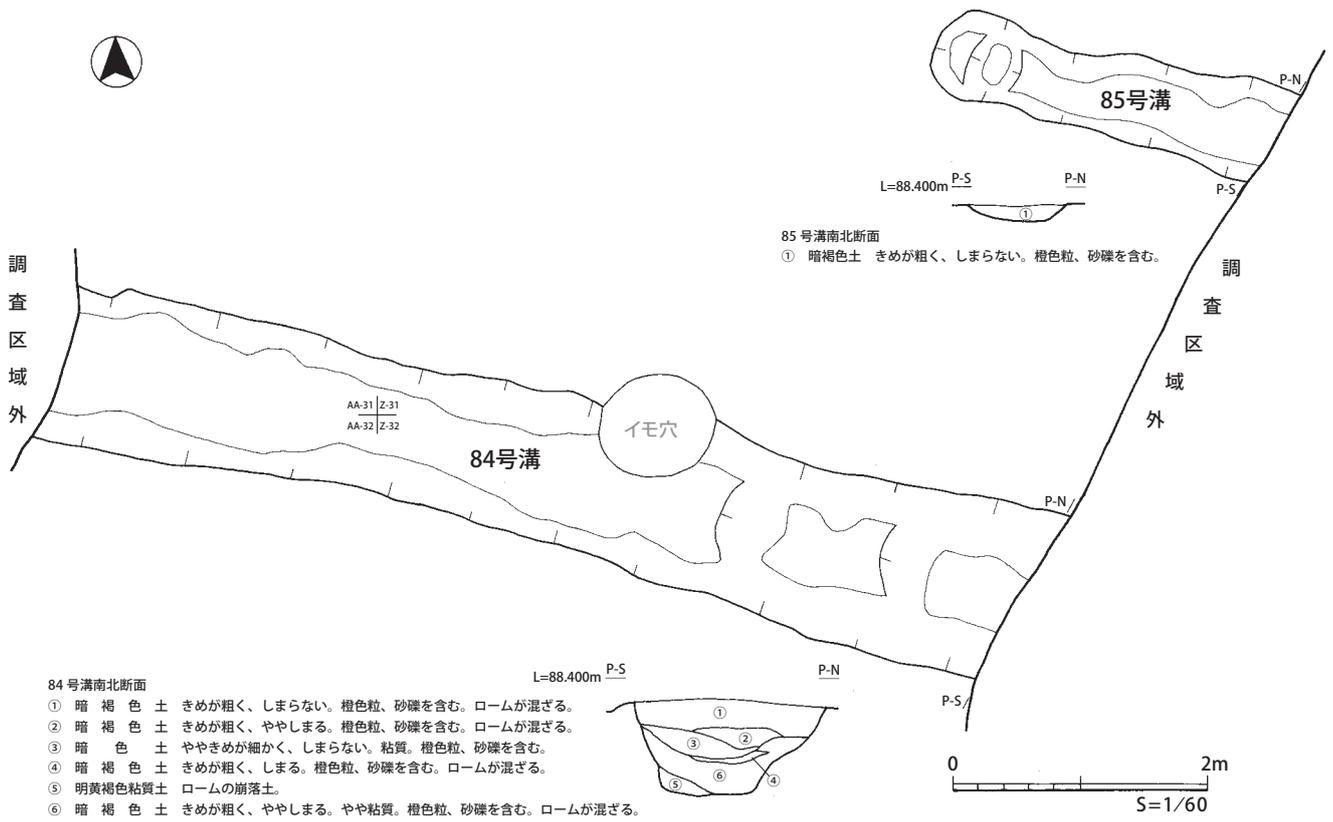


第250図 58号道路実測図

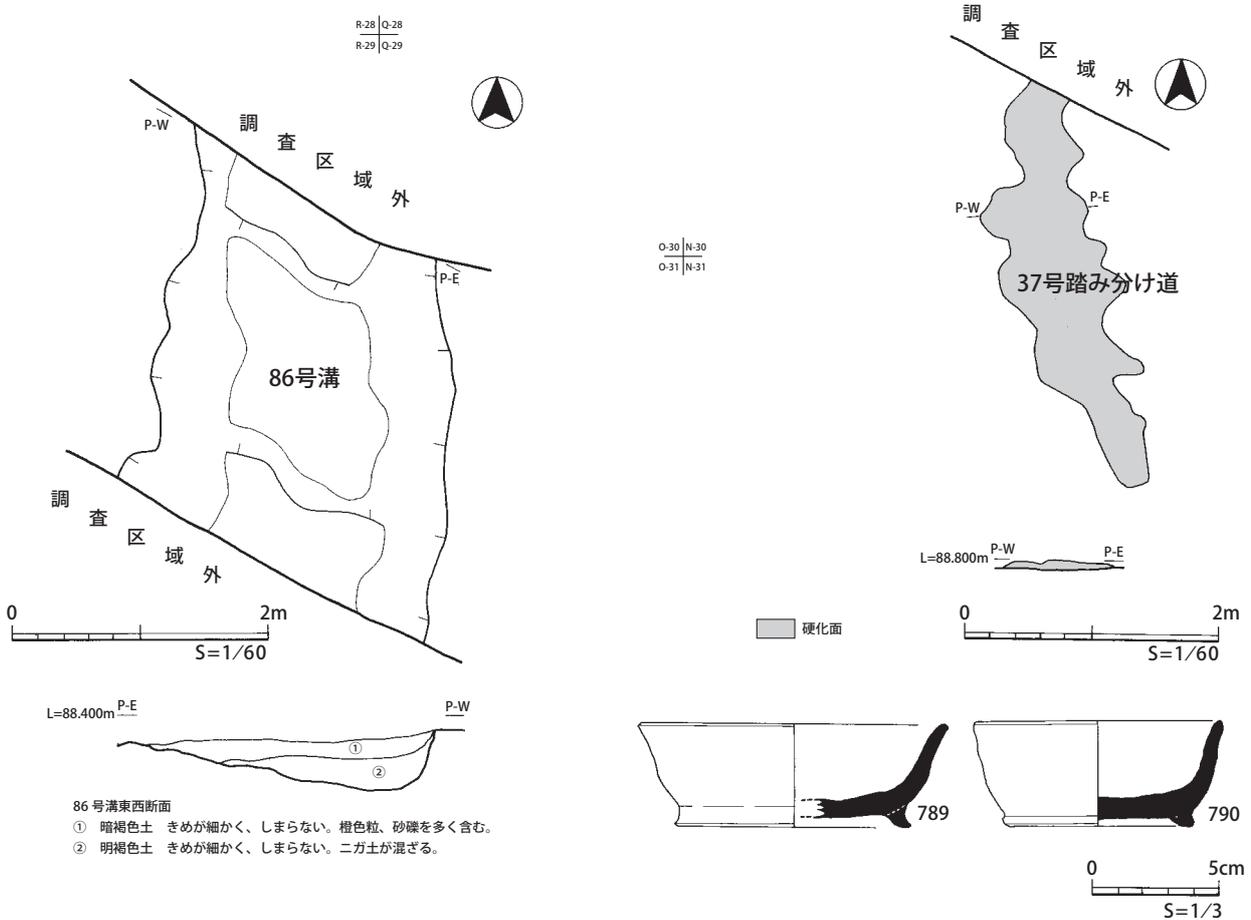


第251図 82号溝実測図

第252図 83号溝実測図、83号溝出土遺物実測図

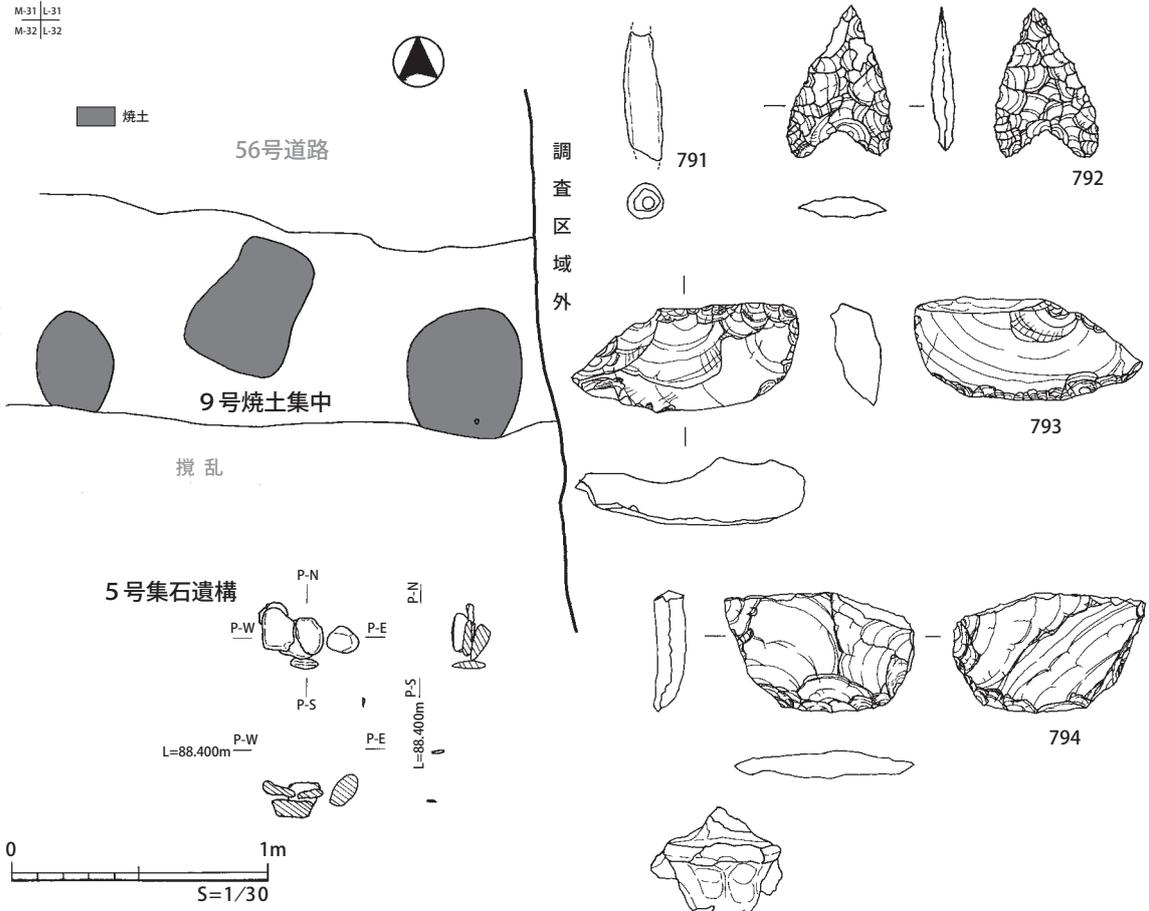


第253図 84・85号溝実測図

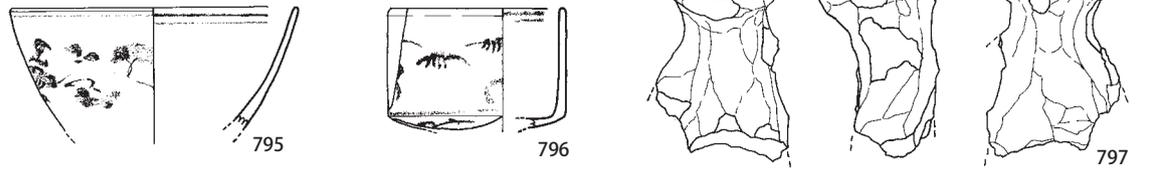


第254図 86号溝実測図

第255図 37号踏み分け道実測図、37号踏み分け道出土遺物実測図

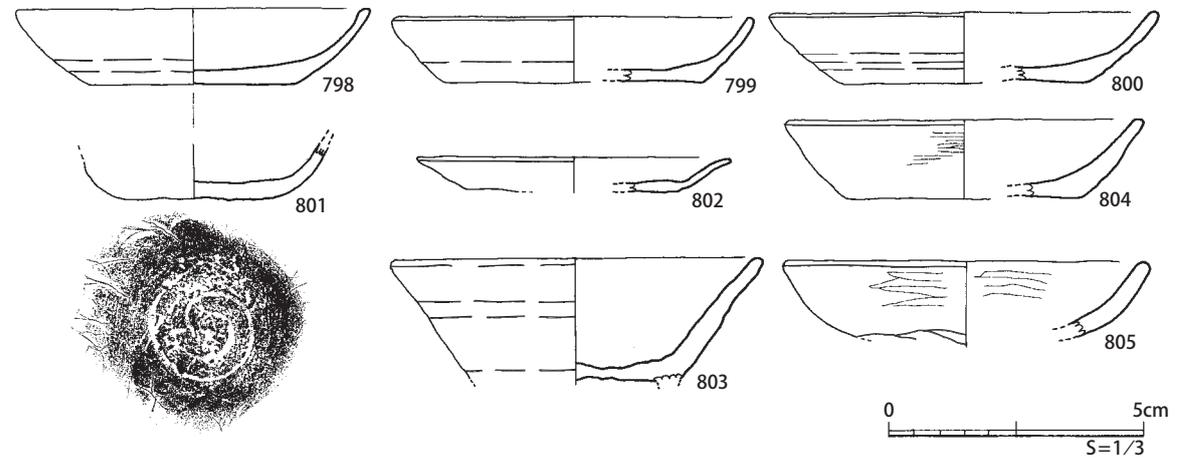


第256図 9号焼土集中、5号集石遺構実測図

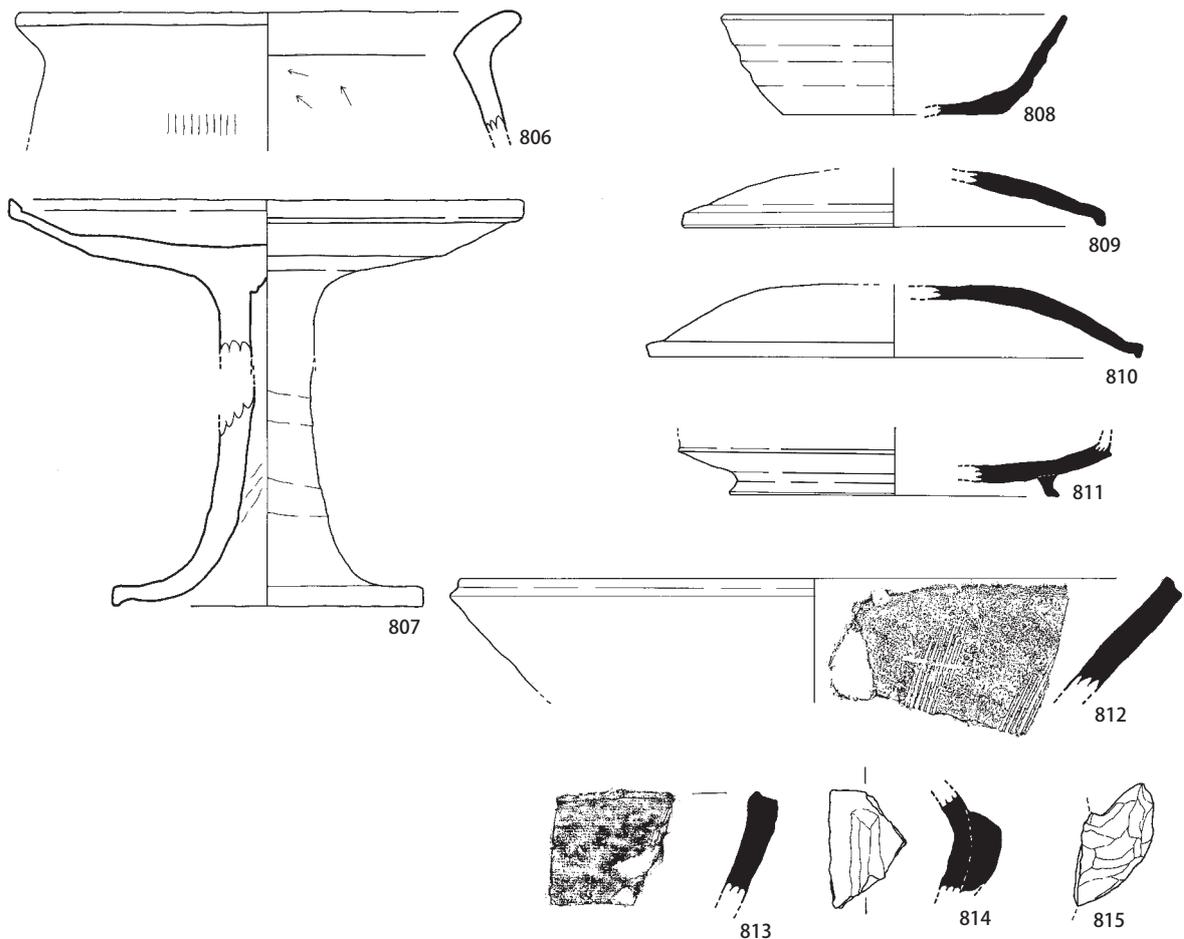


第257図 D-7区出土遺物実測図

S=1/3 791、794、797は1/2  
792、793は1/1



第258図 D-8区出土遺物実測図



きりしておらず、4.0mのテラス状の平坦部を呈し、西側で深掘りされて硬化面が集中し、深さは1.0m程度と推測される。一部、硬化面中に小礫の集中がみとめられた。側溝、波板状凹凸面などは検出されなかった。

【溝】

82号溝【第251図】

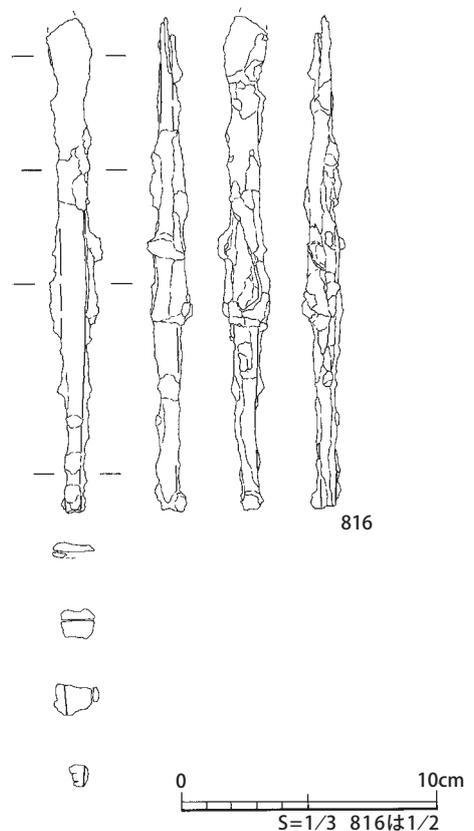
南北方向に延びる。残長17.0m、検出面幅1.1～1.2m、底部幅0.6m、深さ0.9mを測る。部分的にテラス状の平坦部を呈する。断面形状は逆台形を呈する。

83号溝【第252図】

南北方向に延びる。残長13.5m、検出面幅2.2m、底部幅1.1m、深さ1.2mを測る。部分的にテラス状の平坦部を呈する。

84号溝【第253図】

西北西⇄東南東方向に延びる。残長7.8m、検出面幅1.15～1.4m、底部幅0.5～0.8m、深さ0.75mを測る。断面形状は逆台形を呈する。



第259図 D-8区出土遺物実測図

**85号溝【第253図】**

西北西⇨東南東方向に延びる。残長2.7m、検出面幅0.6～0.8m、底部幅0.4m、深さ0.15mを測る。

**86号溝【第254図】**

ほぼ南北方向に延びる。残長2.7m、検出面幅2.3m、底部はいびつで、深さ0.3mを測る。ごく浅い溝状遺構で、断面は東側の掘り込みがゆるやかである。

**【踏み分け道】**

**37号踏み分け道【第255図】**

北北西⇨南南東方向に延びる。残長3.3m、幅0.35～0.9mを測る。

**【焼土集中】**

**9号焼土集中【第256図】**

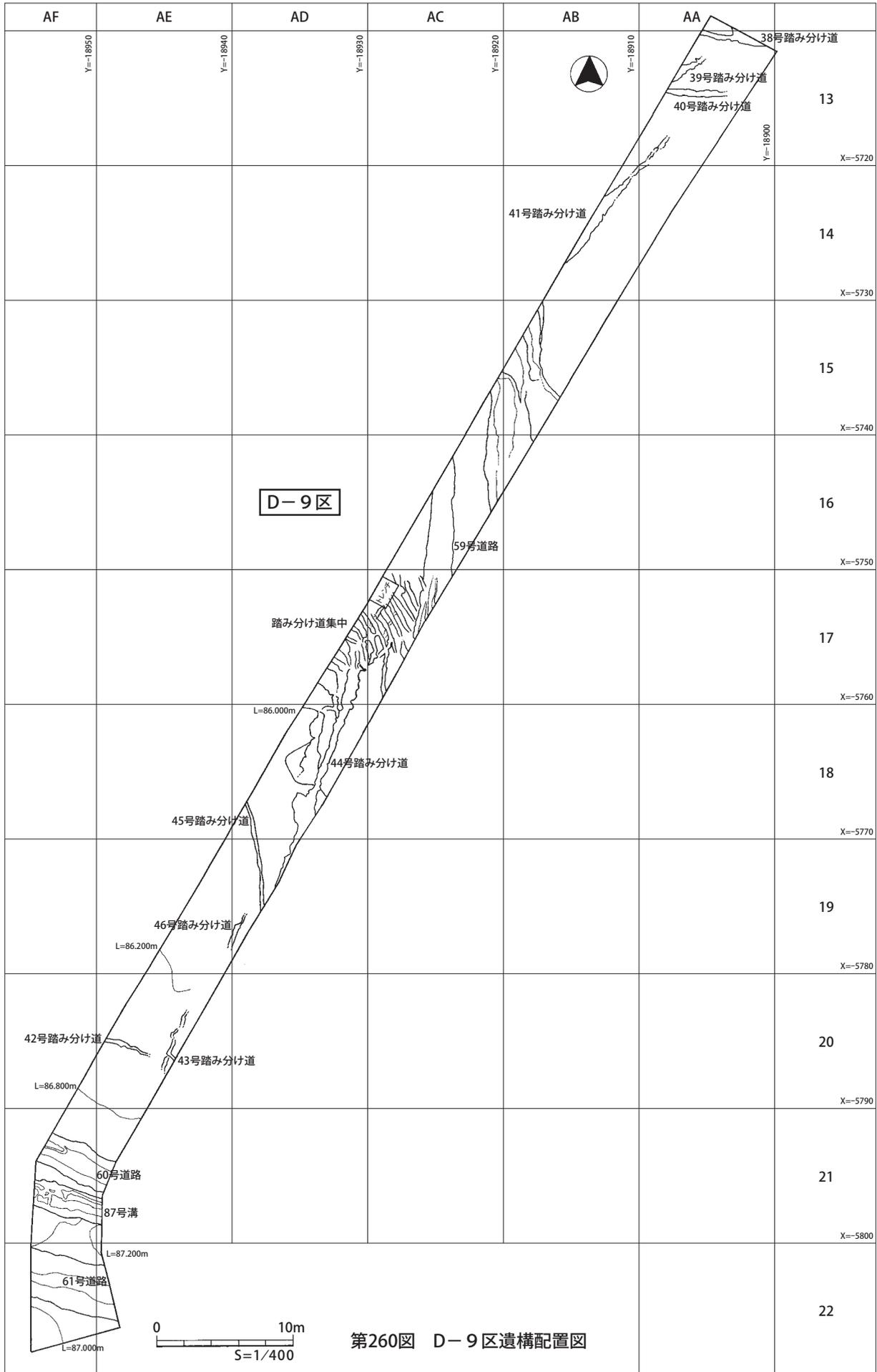
56号道路に隣接して、焼土の集中が3ヶ所みとめられた。それぞれ直径0.3～0.6mほどの範囲に広がる。遺構内出土の炭化物年代測定で1030±30年BPの数値が得られており、10～11世紀代である可能性を示す。56号道路に関連するのであれば、道路が使われていた時代に比定できる可能性がある。

**【集石遺構】**

**5号集石遺構【第256図】**

5個の20～30cm程度の扁平な円礫が集中して検出された。掘りこみはみとめられなかったが、側石を立て、その他は平坦になるように配置されているようである。礫に焼成はみとめられないが、周辺には炭化物、焼土、鉄器が少量検出された。遺構の性格は不明。

# D-9区



第260図 D-9区遺構配置図

## 調査の成果

### 【道路】

#### 59号道路【第261・262図】

南北方向に延びる。残長24.2m、検出面幅9.0m、底部幅1.1～1.5m、深さ1.4mを測る。側溝はなく、複数の硬化面、波板状凹凸面が検出された非常に大型の道路と考えられる。ただし硬化面は底部でなく、西側テラスで顕著にみとめられた。また、遺構内に集石が多く検出された。

#### 60号道路【第263図】

北西⇔南東方向に延びる。残長4.6m、検出面幅2.5～2.8m、底部幅0.3m、深さ0.9mを測る。側溝、波板状凹凸面などは検出されなかったが、帯状硬化面が検出されたことから、道路と考えられる。

#### 61号道路【第263図】

西北西⇔東南東方向に延びる。残長4.6m、検出面幅2.5～2.8m、底部幅0.7～1.1m、深さ0.7mを測る。側溝、波板状凹凸面などは検出されなかったが、帯状硬化面が検出されたことから、道路と考えられる。

### 【溝】

#### 87号溝【第263図】

西北西⇔東南東方向に延びる。残長5.2m、検出面幅3.5～4.0m、底部はいびつで幅0.65m、深さ0.3mを測る。60、61号道路に隣接していることから、関連する遺構とも考えられる。

### 【踏み分け道】

#### 38号踏み分け道【第264図】

東西方向に延びる。残長2.5m、幅0.3mを測る。

#### 39号踏み分け道【第264図】

北東⇔南西方向に延びる。残長2.5m、幅0.45mを測る。

#### 40号踏み分け道【第264図】

東西方向に延びる。残長3.7m、幅0.5mを測る。

#### 41号踏み分け道【第264図】

北東⇔南西方向に延びる。残長10.8m、幅0.2～0.5mを測る。

#### 42号踏み分け道【第265図】

西北西⇔東南東方に延びる。残長1.8m、幅0.2～0.3mを測る。

#### 43号踏み分け道【第265図】

北北東⇔南南西方向に延びる。残長4.38m、幅0.3mを測る。いびつで、直行しない。

#### 44号踏み分け道【第266図】

北北東⇔南南西方向に延びる。残長22.0m、幅0.5～3.0mを測る。いびつな硬化面が帯状に延び、踏み分け道と思われる。非常に長く残存する。

#### 45号踏み分け道【第266図】

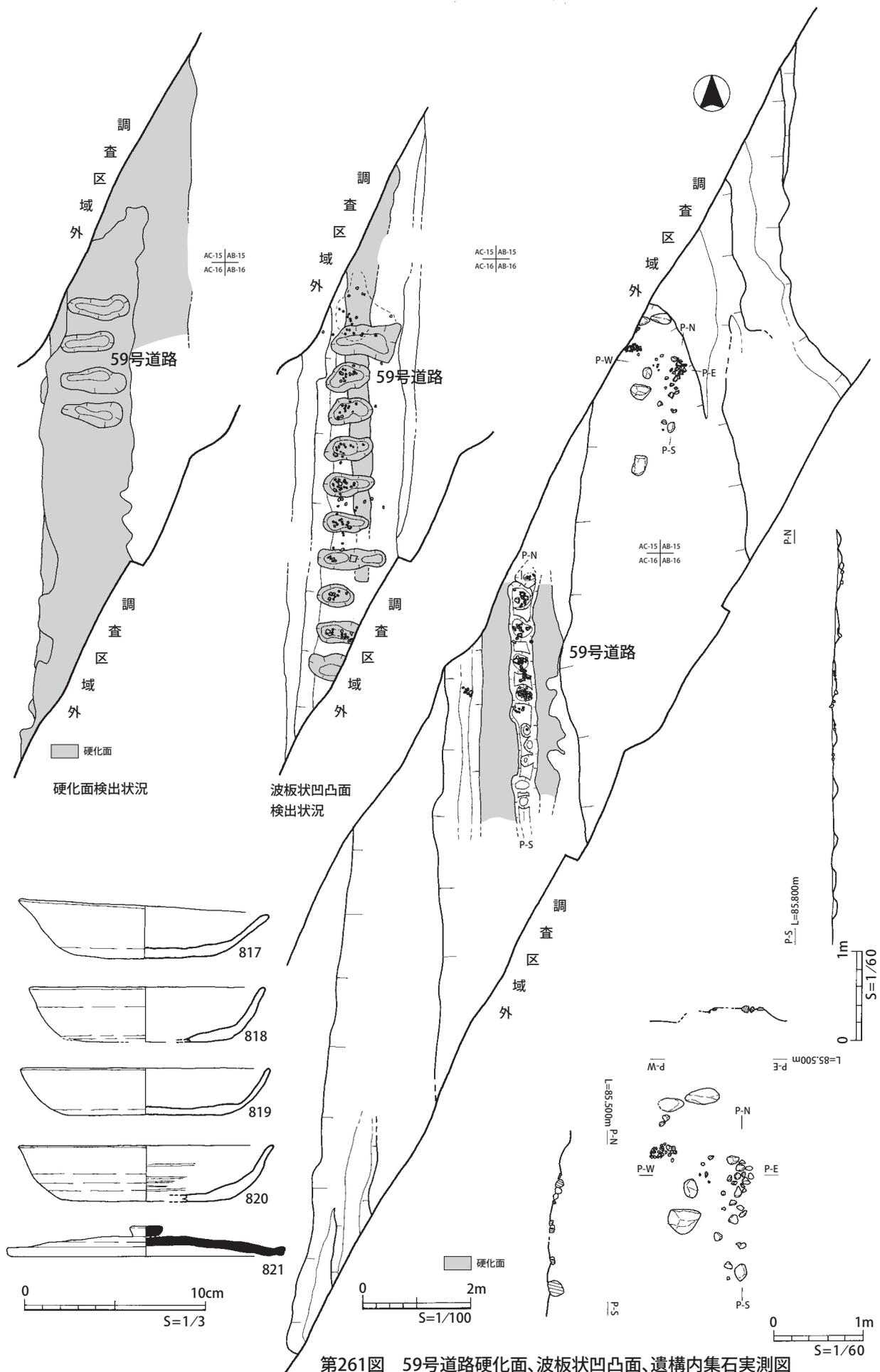
北北西⇔南南東方向に延びる。残長7.3m、幅0.25mを測る。

#### 46号踏み分け道【第266図】

北西⇔南東方向に延びる。残長2.8m、幅0.2～0.45mを測る。

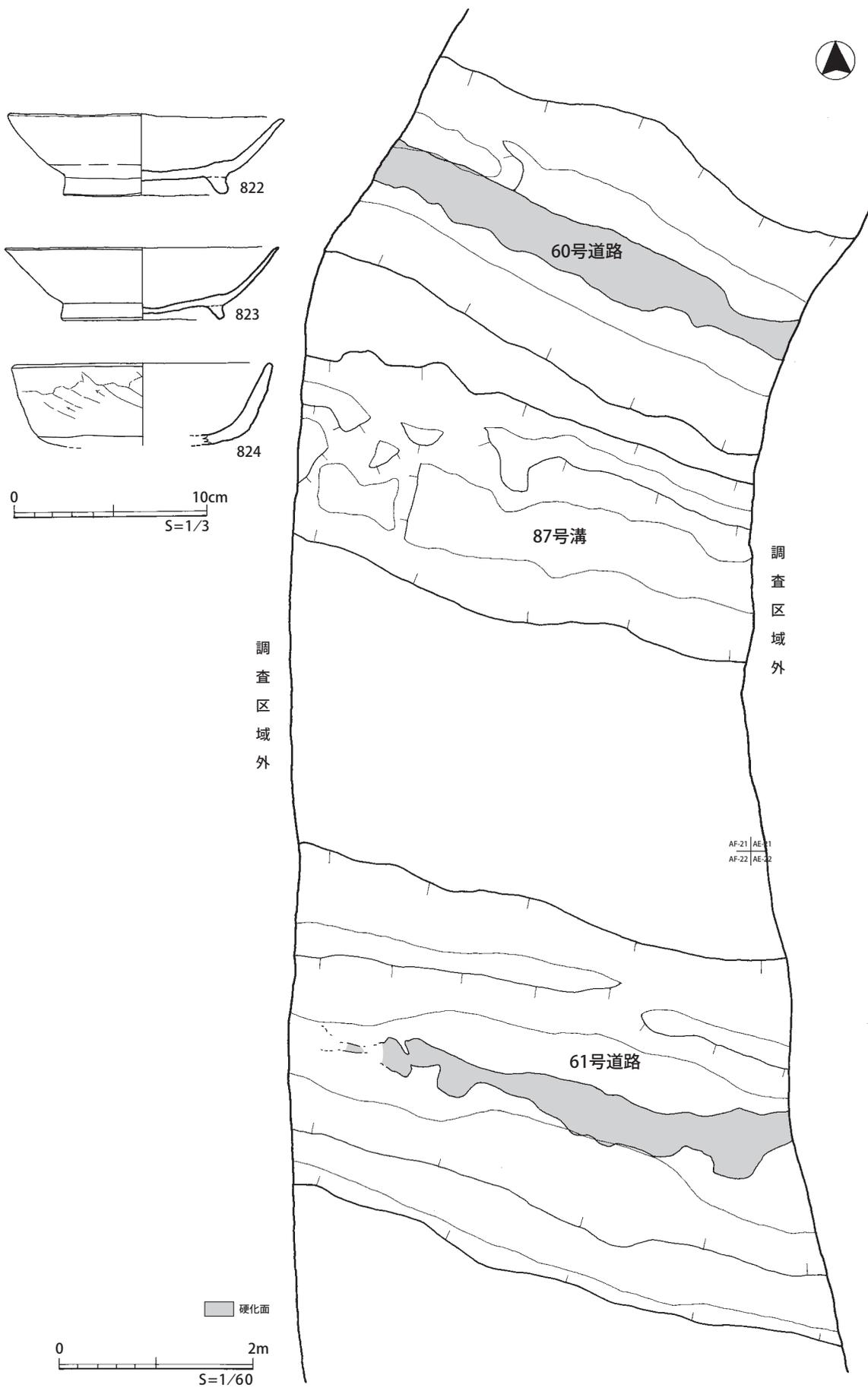
#### 踏み分け道集中【第266図】

非常に多くの踏み分け道が集中する。多くが北西⇔南東方向に延びる。1条の長さは2.5～3.5mと短く、幅0.3mほどのものが多い。44号踏み分け道よりも新しい。

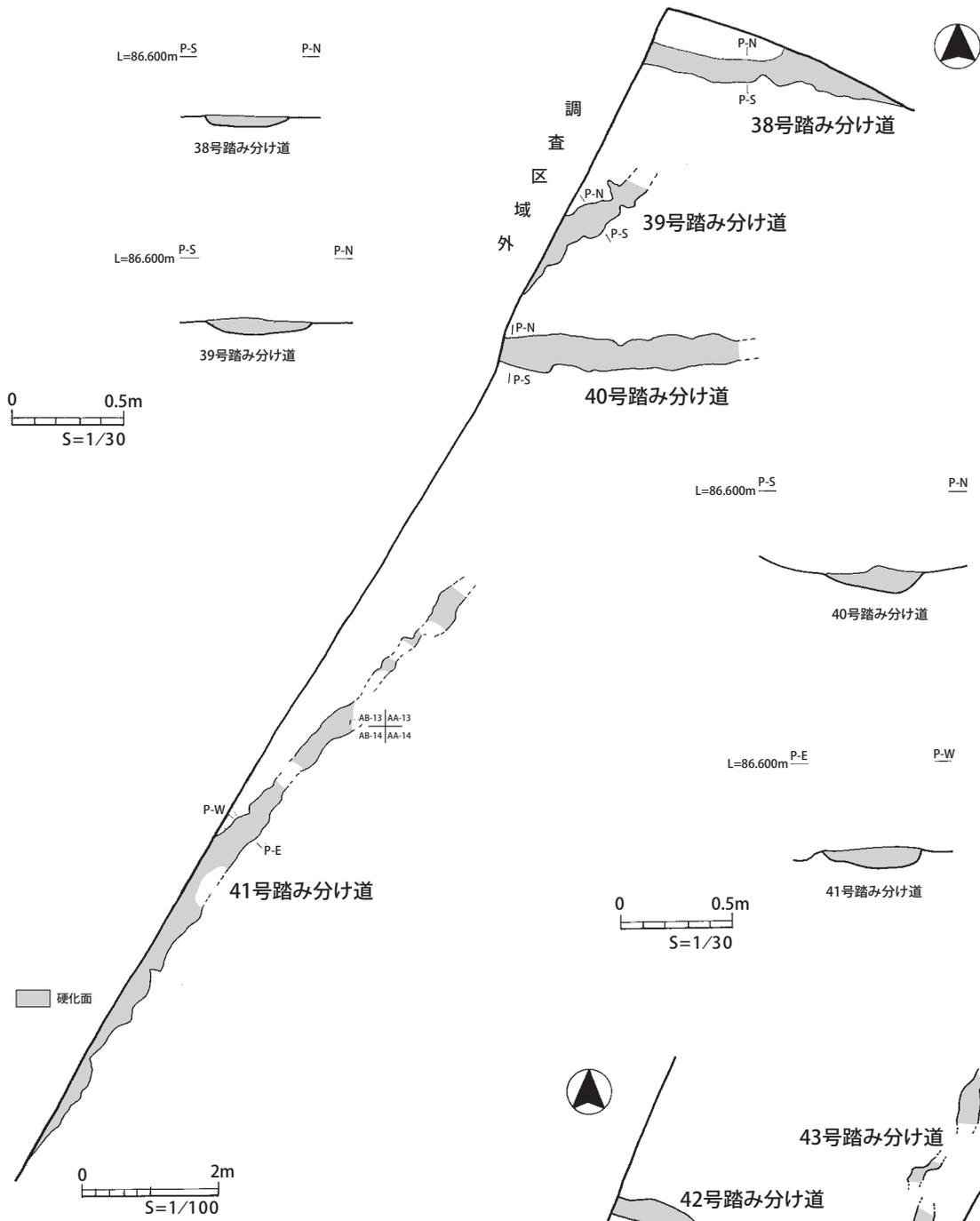


第261図 59号道路硬化面、波板状凹凸面、遺構内集石実測図  
59号道路出土遺物実測図

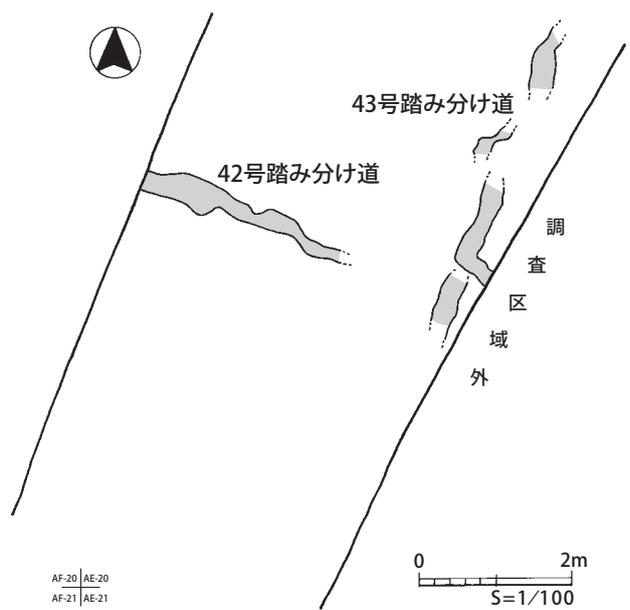




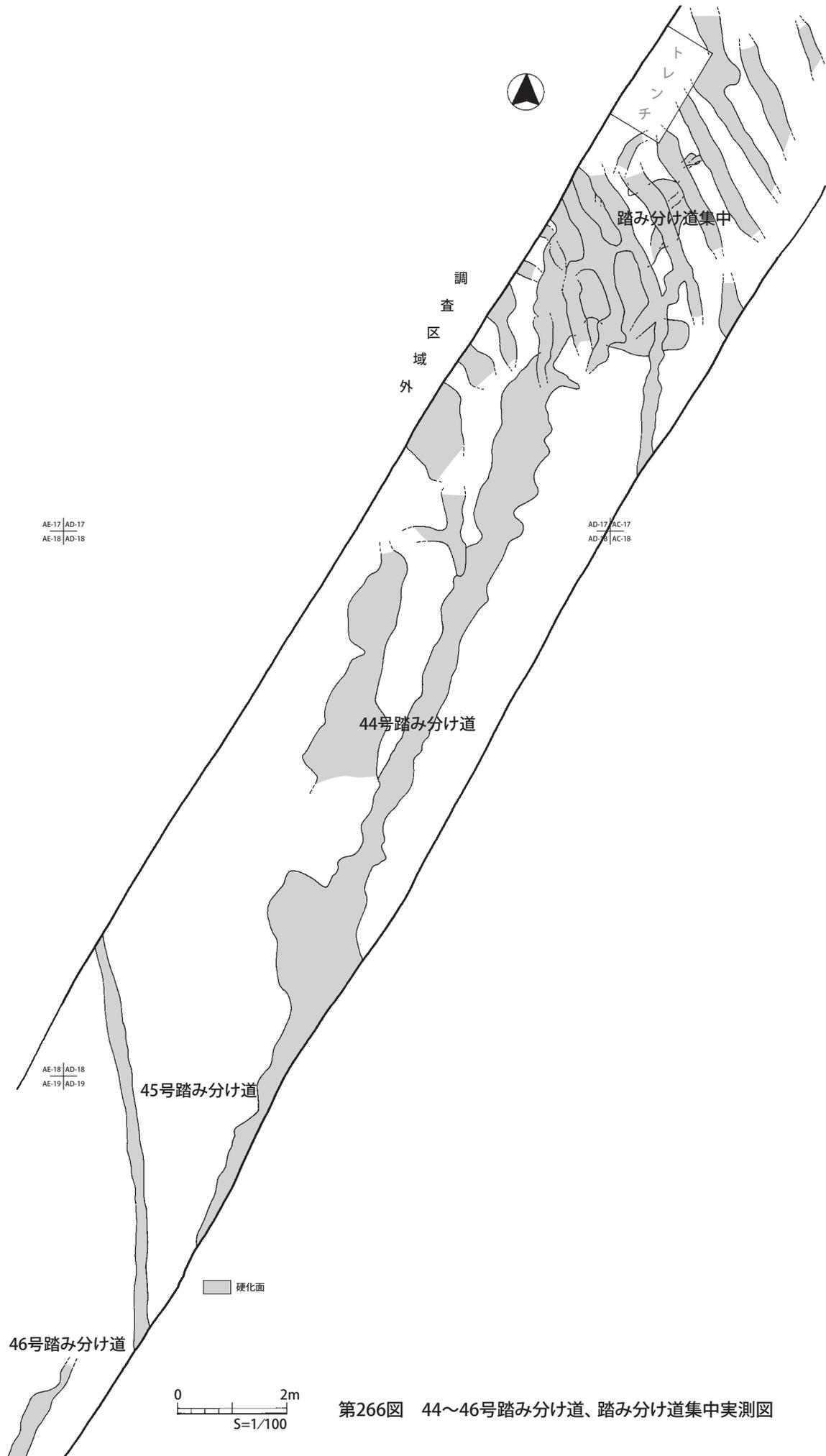
第263図 60・61号道路、87号溝実測図、60号道路出土遺物実測図



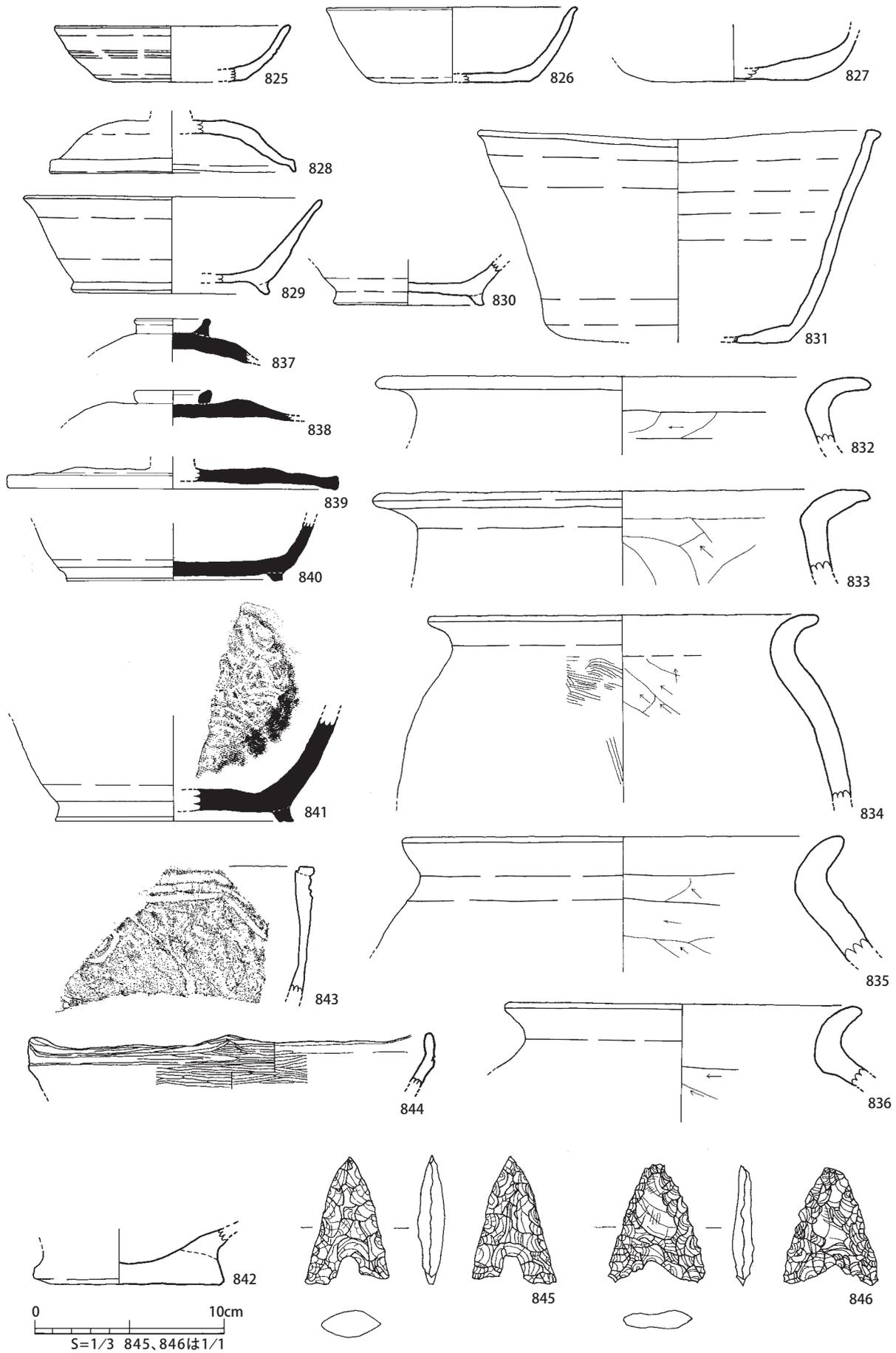
第264図 38~41号踏み分け道実測図



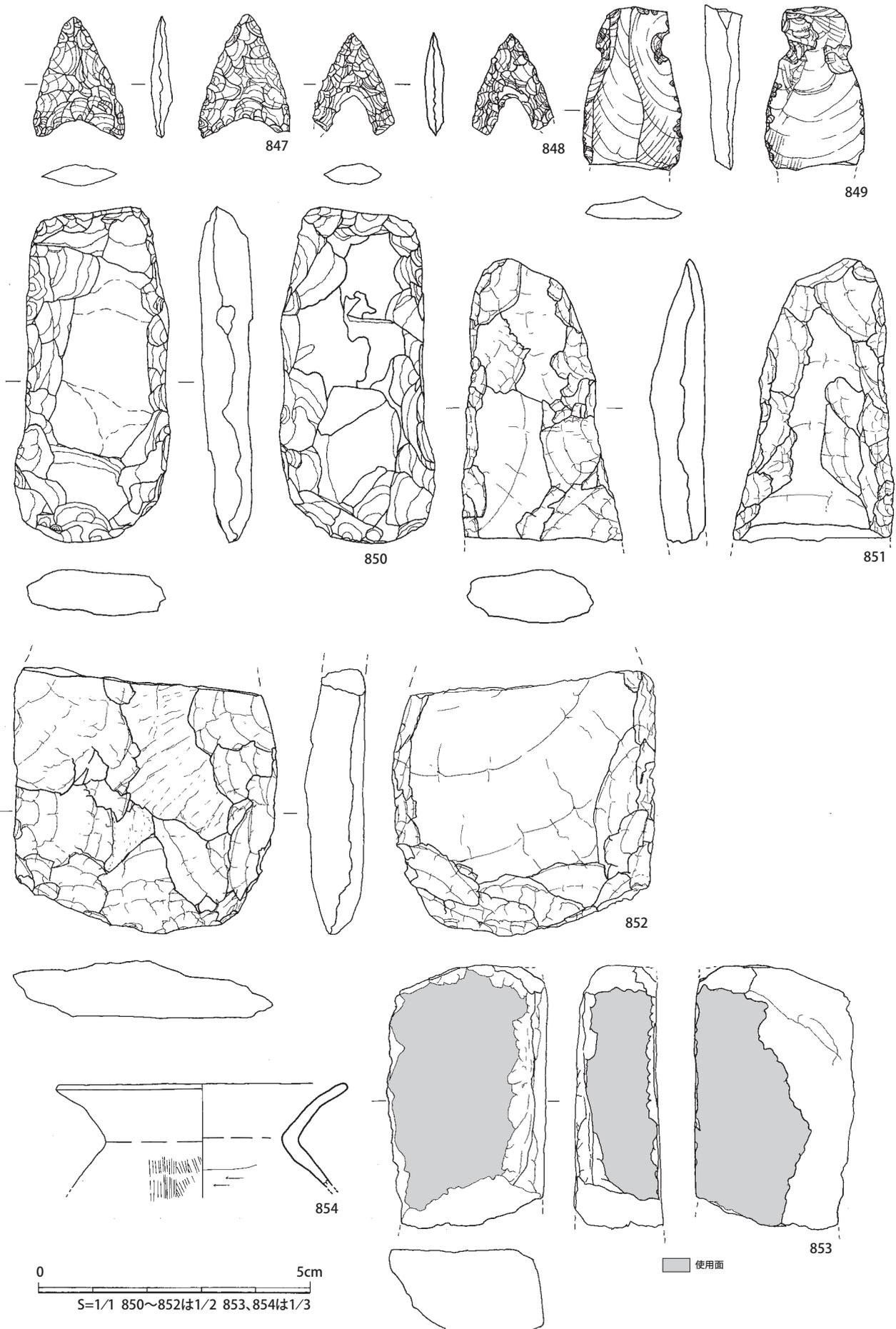
第265図 42・43号踏み分け道実測図



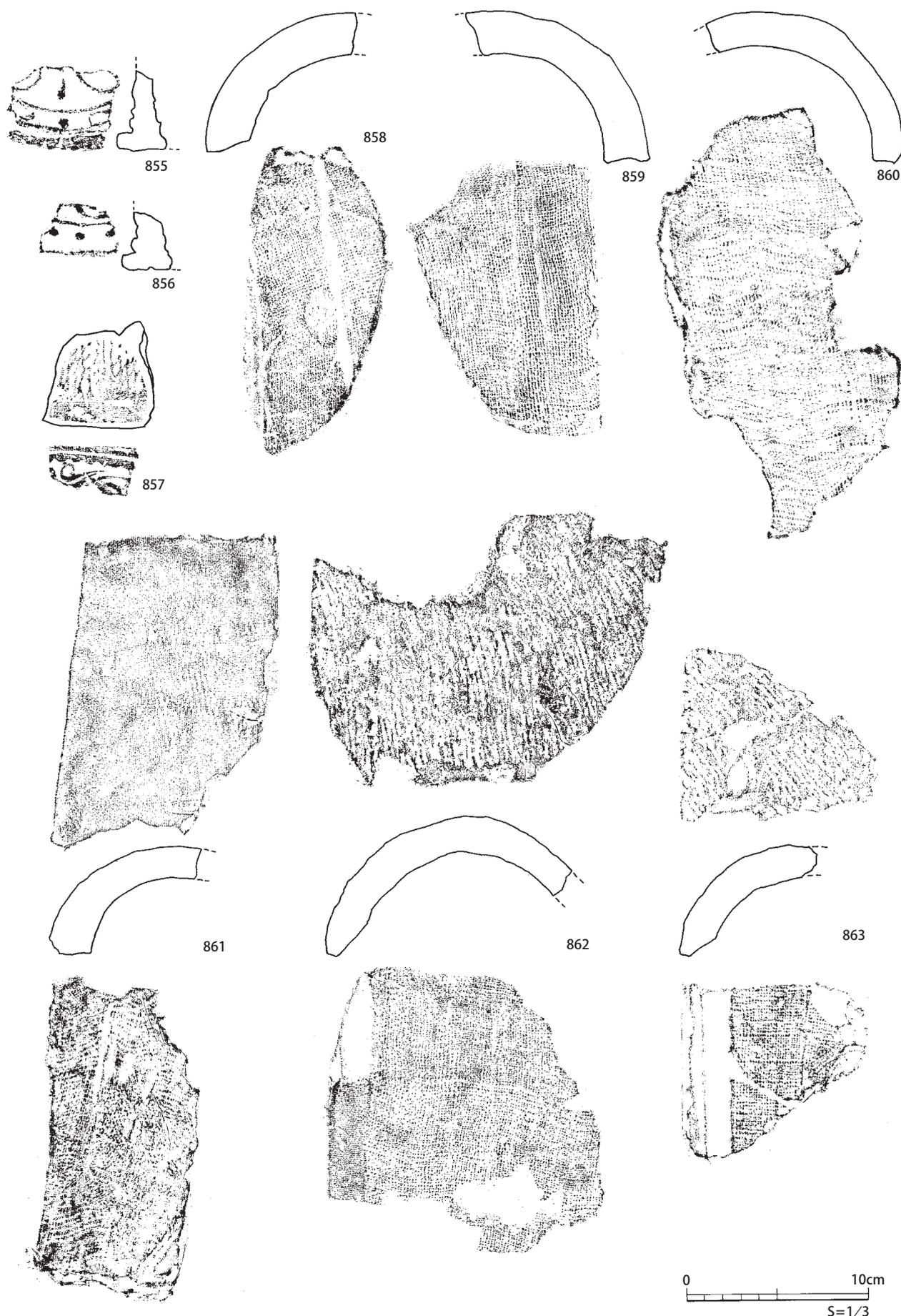
第266図 44～46号踏み分け道、踏み分け道集中実測図



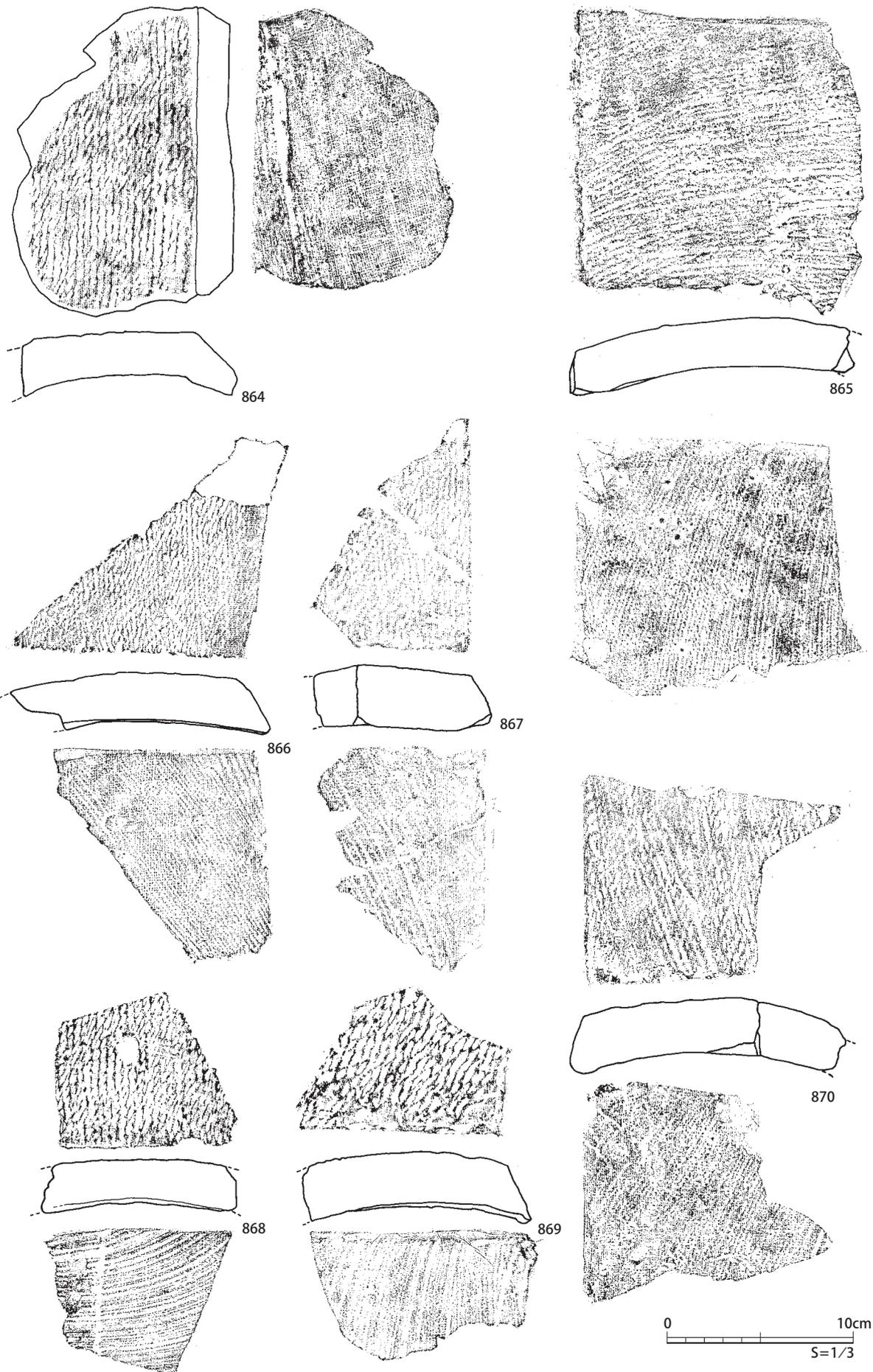
第267図 D-9区出土遺物実測図



第268图 D-9区出土遺物実測図

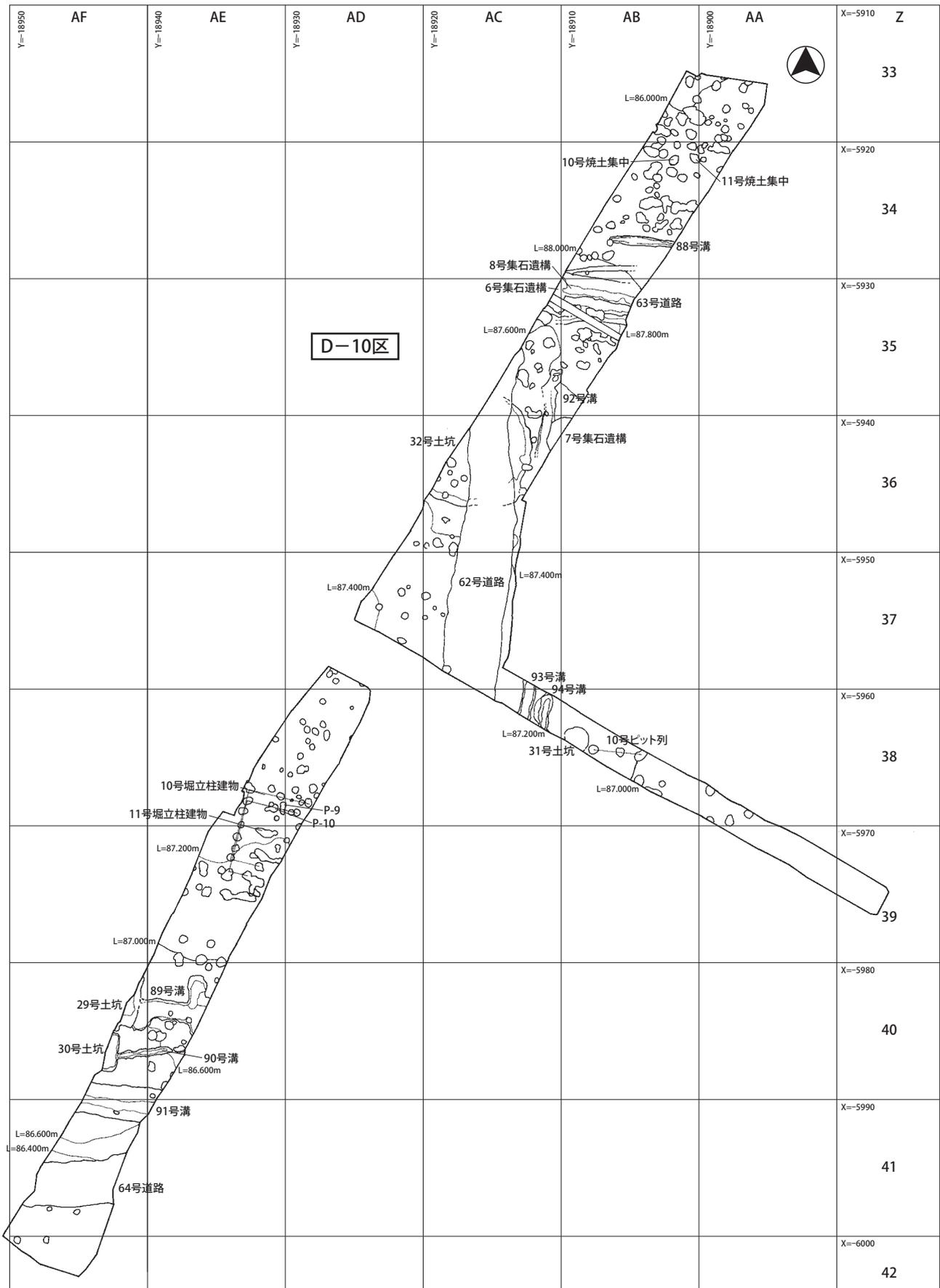


第269図 D-9区出土遺物実測図



第270图 D-9区出土遺物実測図

# D-10区



第271図 D-10区遺構配置図

## 調査の成果

### 【道路】

#### 62号道路【第272・273図】

南北方向に延びる。残長25m、検出面幅3.0～4.0m、底部幅1.0～1.2m、深さ1.4mを測る。側溝、波板状凹凸面などは検出されなかったが、複数の硬化面が確認された。底部は部分的に溝状の深掘りがされている。

#### 63号道路【第274図】

東西方向に延びる。残長5.6m、検出面幅3.0～3.2m、底部幅0.6m、深さ0.7mを測る。側溝、波板状凹凸面などは検出されなかったが、複数の硬化面が検出された。遺構内には、一部に礫が敷き詰められた6号集石遺構が検出された。

#### 64号道路状遺構【第275図】

東西方向に延びる。残長6.0m、検出面幅3.0～4.0m、底部幅1.0m、深さ0.3mを測る。側溝、波板状凹凸面などは検出されなかったが、底部で硬化面が検出され、硬化面中に小礫が集中して検出された。

### 【溝】

#### 88号溝【第274図】

東西方向に延びる。残長4.6m、出面幅0.3～0.7m、底部幅0.15～0.4m、深さ0.1mを測る。

#### 89号溝【第276図】

東西方向に延びる。いびつな形状で、土坑と切り合い、溝状遺構かどうか不明である。溝状の箇所での検出面幅1.3m、底部幅1.1m、深さ0.15mを測る。

#### 90号溝【第276図】

東西方向に延びる。残長5.0m、検出面幅0.4～0.6m、底部幅1.1m、深さ0.1mを測る。

#### 91号溝【第276図】

東西方向に延びる。残長6.0m、検出面幅2.2～2.8m、底部幅0.65～1.0m、深さ0.3mを測る。

#### 92号溝【第277図】

南北方向に延びる。残長2.5m、検出面幅0.9m、底部幅0.6m、深さ0.2mを測る。

#### 93号溝【第278図】

南北方向に延びる。残長2.5m、検出面幅0.8m、底部幅0.4m、深さ0.2mを測る。

#### 94号溝【第278図】

南北方向に延びる。残長2.4m、検出面幅0.7m、底部幅0.4m、深さ0.4mを測る。

### 【土坑】

#### 29号土坑【第276図】

長軸3.7mのいびつな平面形状。89号溝を切っている。

#### 30号土坑【第276図】

長軸2.9mの方形と推測される土坑。深さ0.15m。90号溝と切り合う。遺構の性格は不明。

#### 31号土坑【第278図】

直径1.8mの円形の土坑。深さ1.2mを測る。垂直に掘りこまれ、一部でオーバーハング状を呈する。

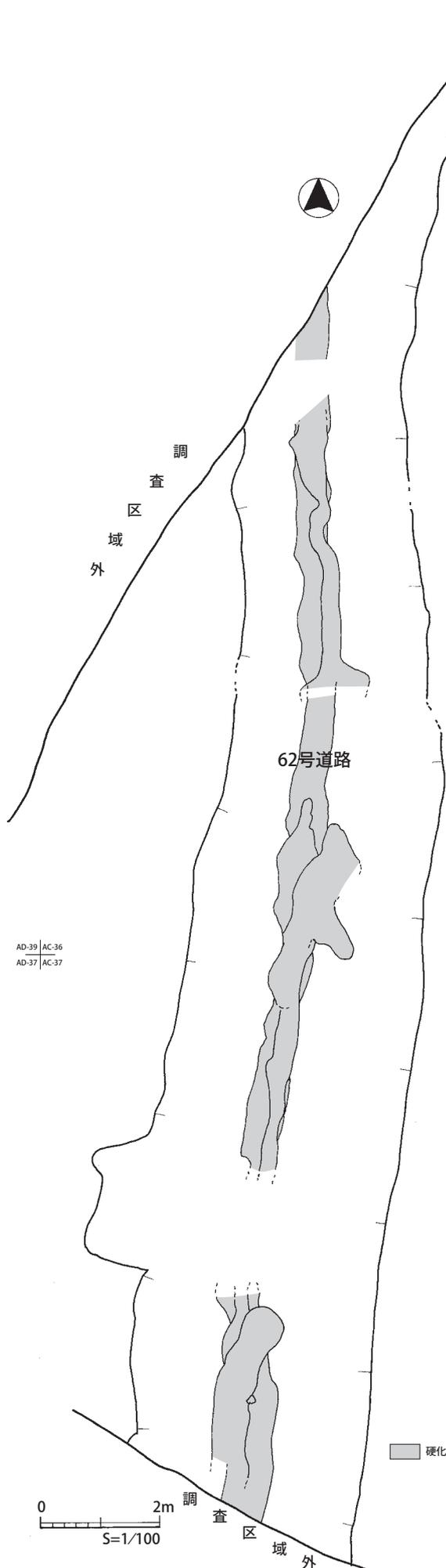
#### 32号土坑【第280図】

直径8.8m、深さ0.9mを測る。非常に大型の円形の土坑である。62号道路に切られている。遺跡の性格は不明。

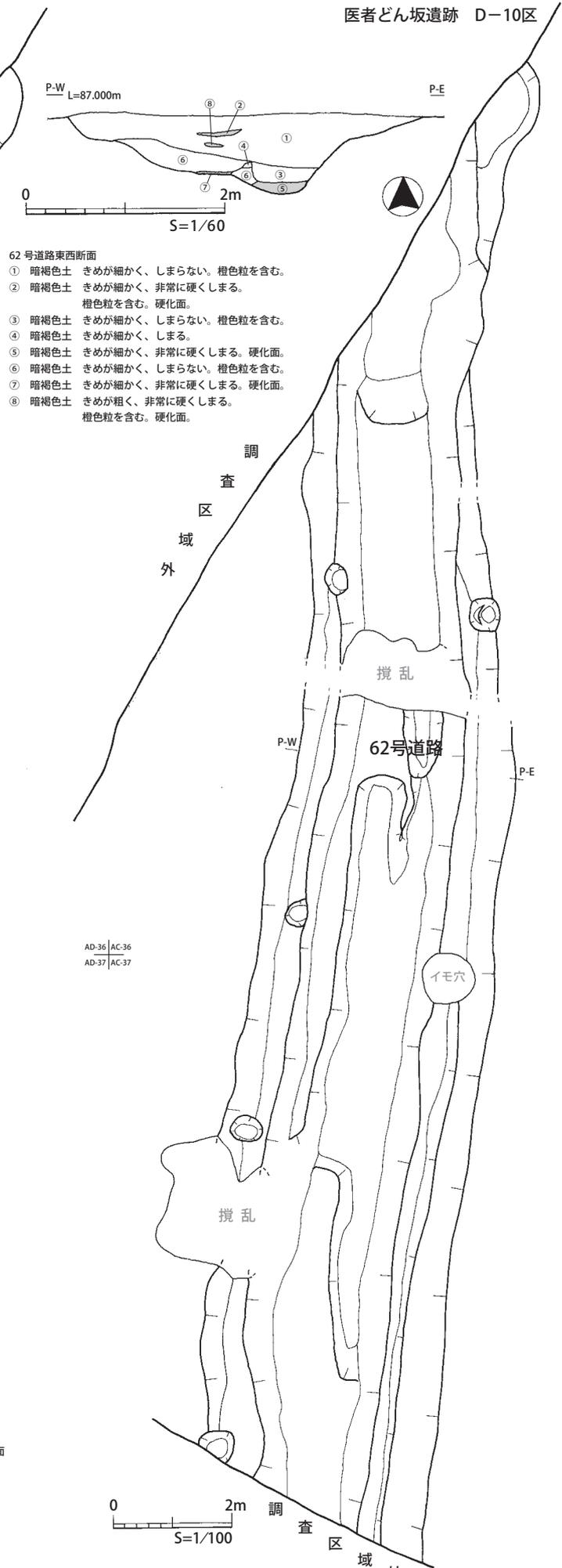
### 【掘立柱建物】

#### 10号掘立柱建物【第279図】

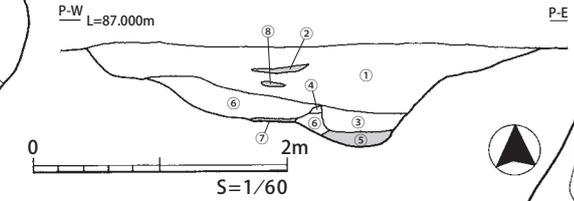
北北東⇄南南西を主軸とし、南北に3間、東西に最低でも2間。南北の柱間は1.7m、東西の柱間は2.0mを測る。



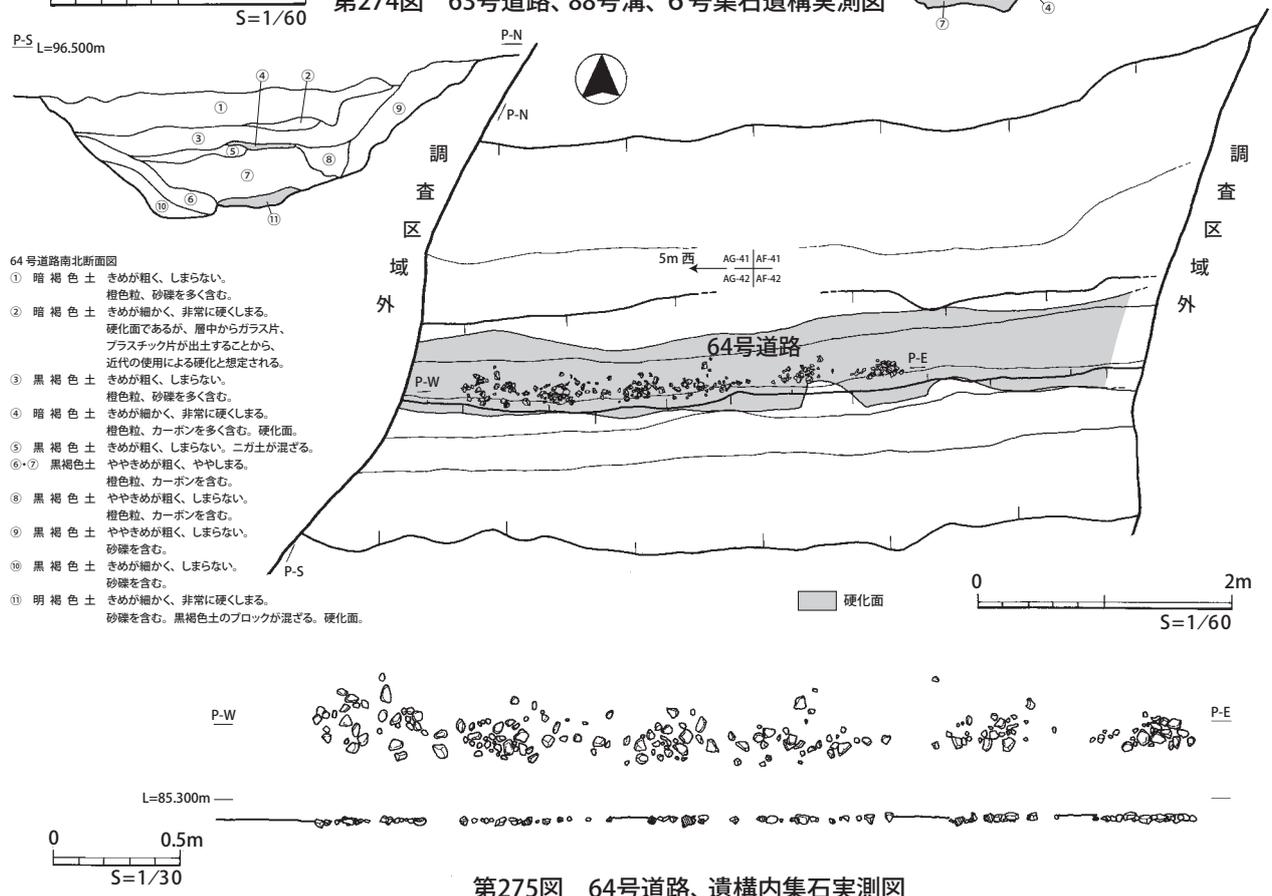
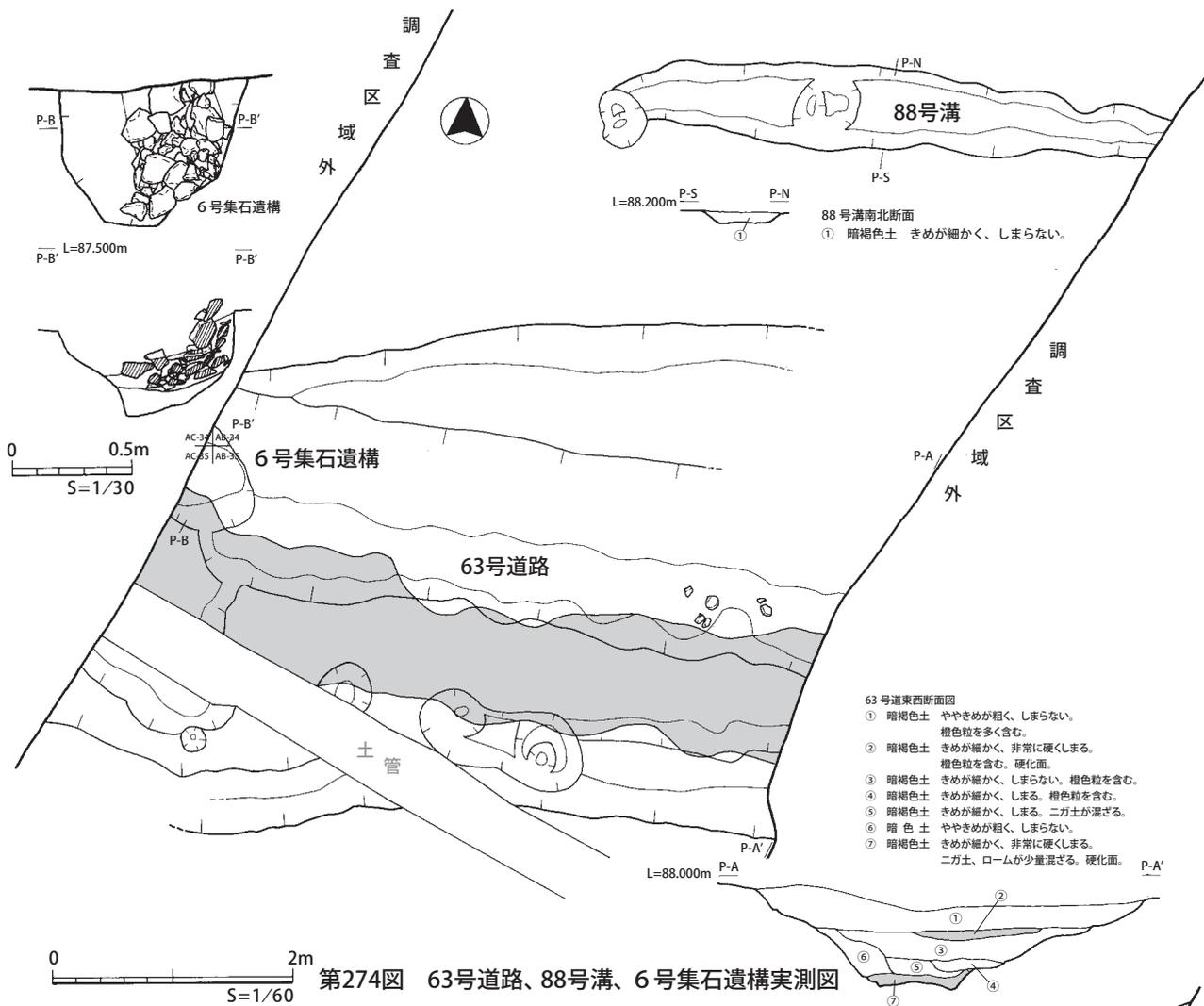
第272図 62号道路硬化面検出状況

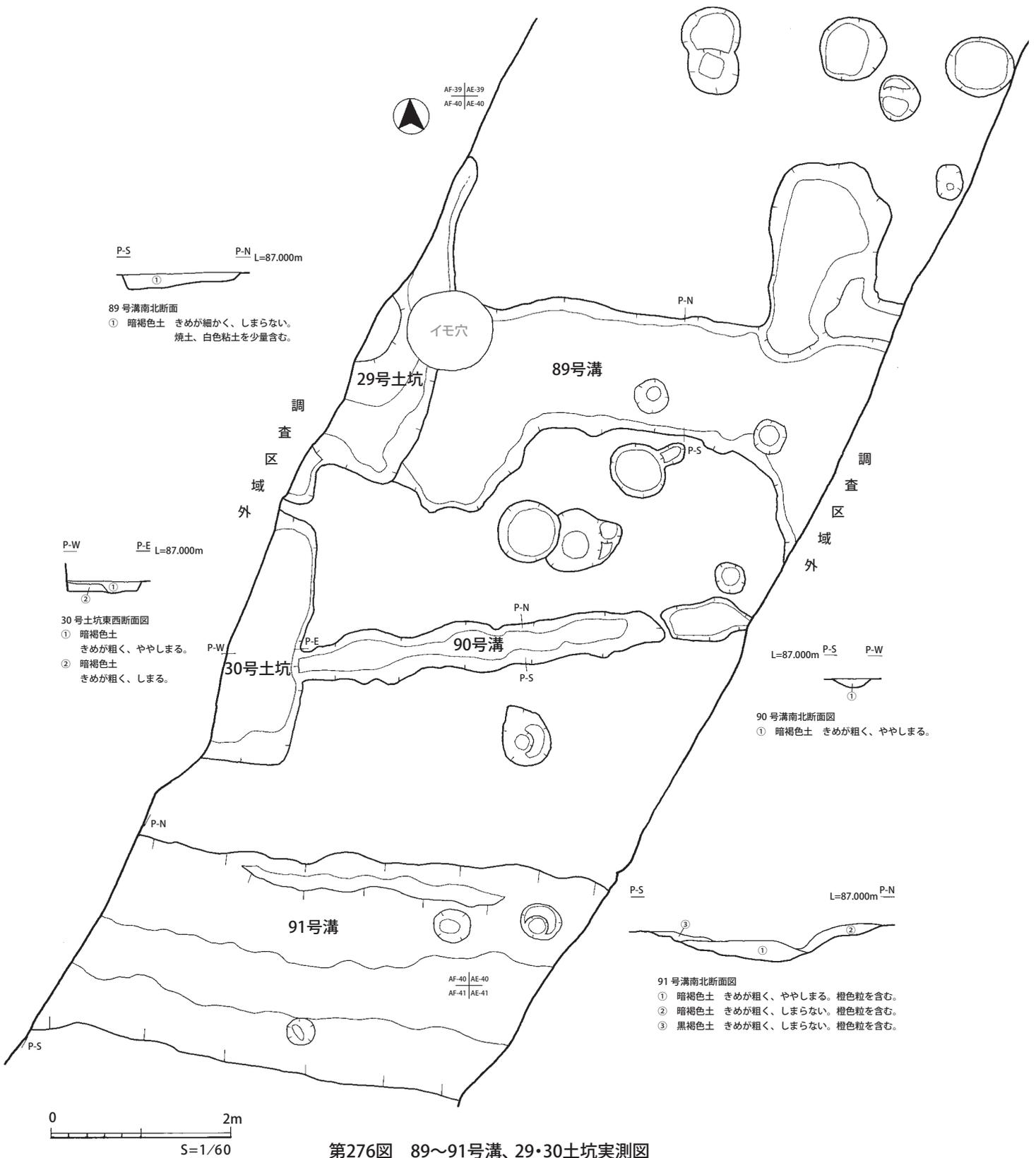


第273図 62号道路完掘状況



- 62号道路東西断面
- ① 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。橙色粒を含む。
  - ② 暗褐色土 きめが細かく、非常に硬くしまる。橙色粒を含む。硬化面。
  - ③ 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。橙色粒を含む。
  - ④ 暗褐色土 きめが細かく、しまる。
  - ⑤ 暗褐色土 きめが細かく、非常に硬くしまる。硬化面。
  - ⑥ 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。橙色粒を含む。
  - ⑦ 暗褐色土 きめが細かく、非常に硬くしまる。硬化面。
  - ⑧ 暗褐色土 きめが粗く、非常に硬くしまる。橙色粒を含む。硬化面。

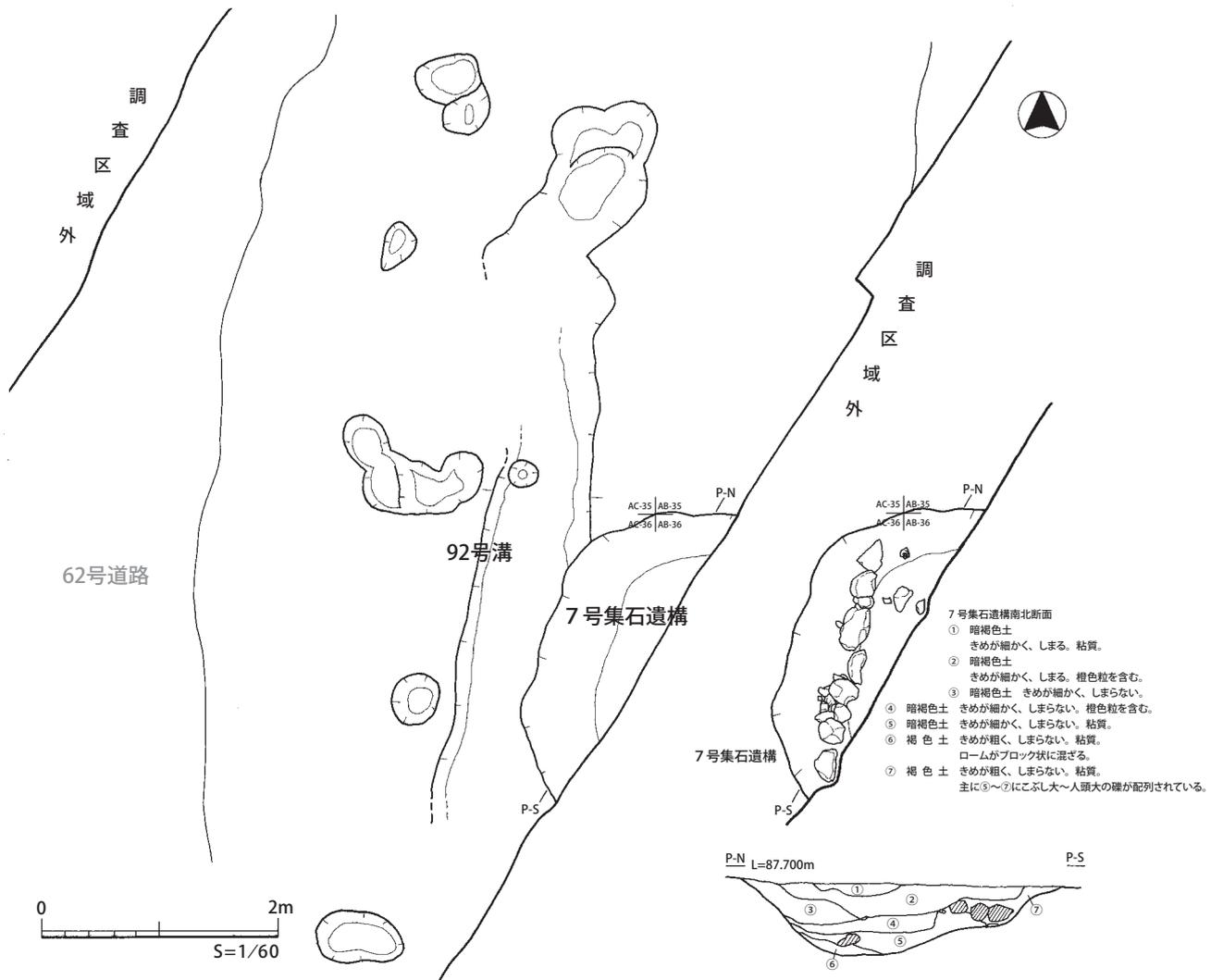




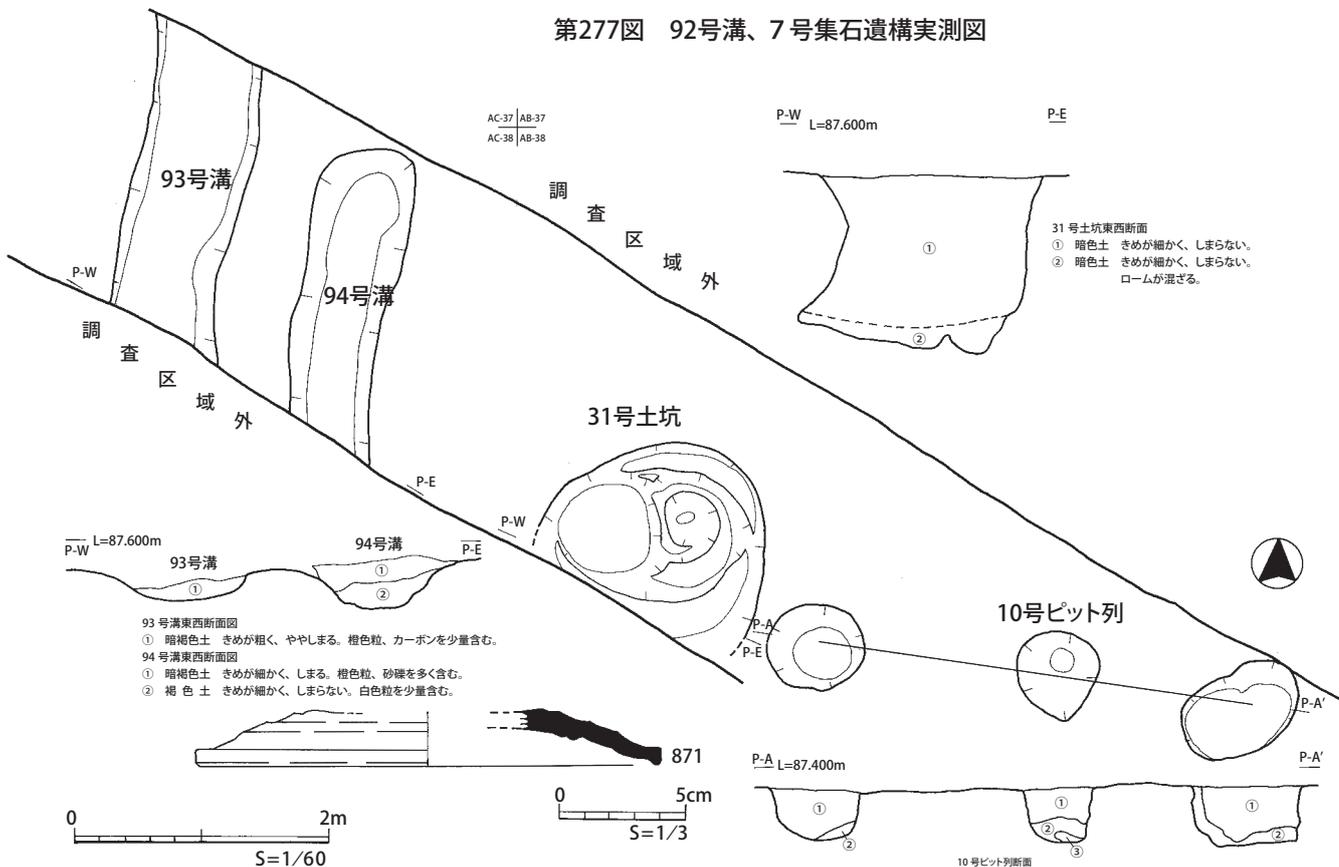
第276図 89～91号溝、29・30土坑実測図

11号掘立柱建物【第279図】

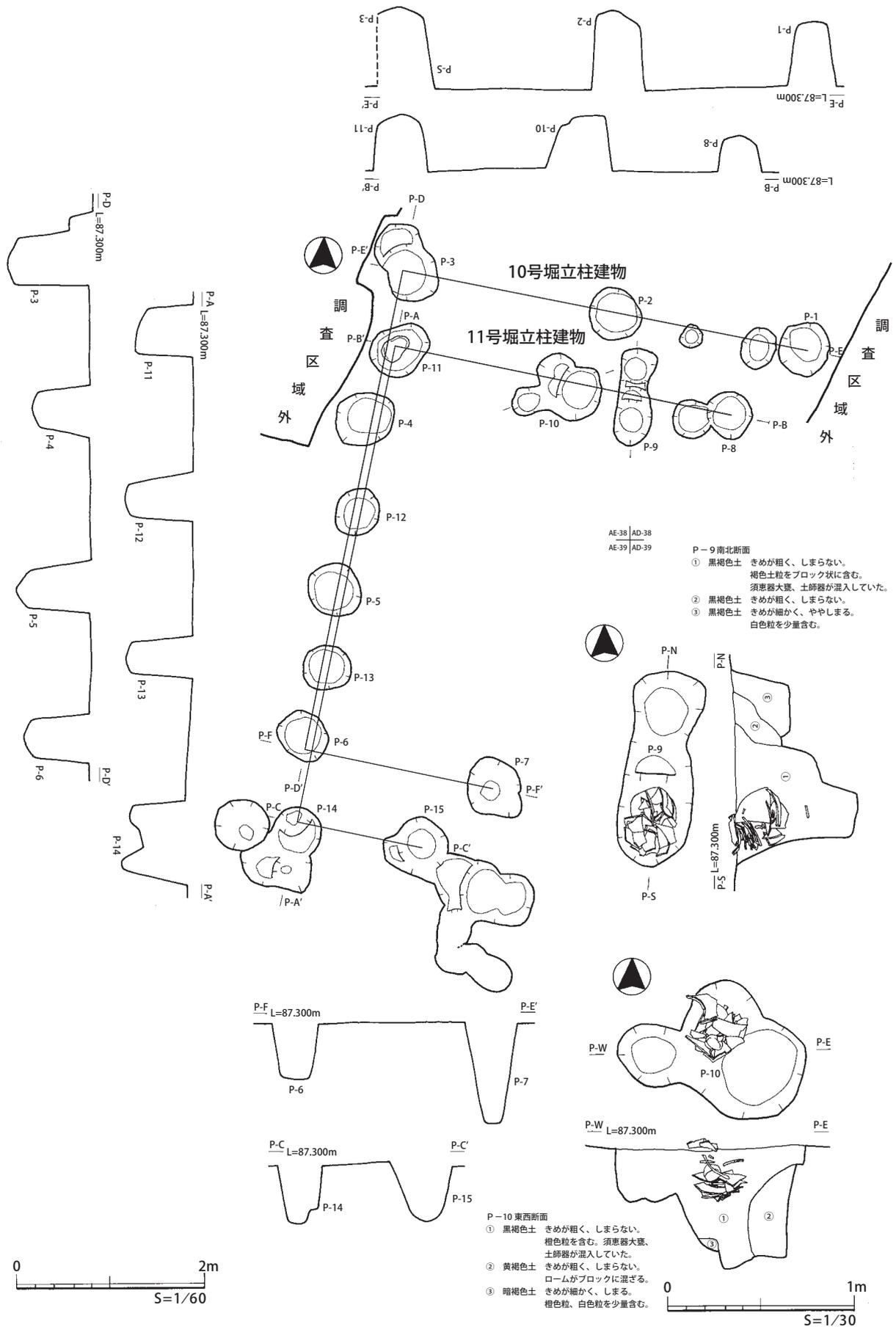
北北東⇨南南西を主軸とし、南北に3間、東西に最低でも2間。南北の柱間は1.7m、東西の柱間は2.0mを測る。10号掘立柱建物に隣接しており、方向も同じことから、建て替えがあったものと思われる。P-9、10には破砕された須恵器大甕が埋設されていた。



第277図 92号溝、7号集石遺構実測図



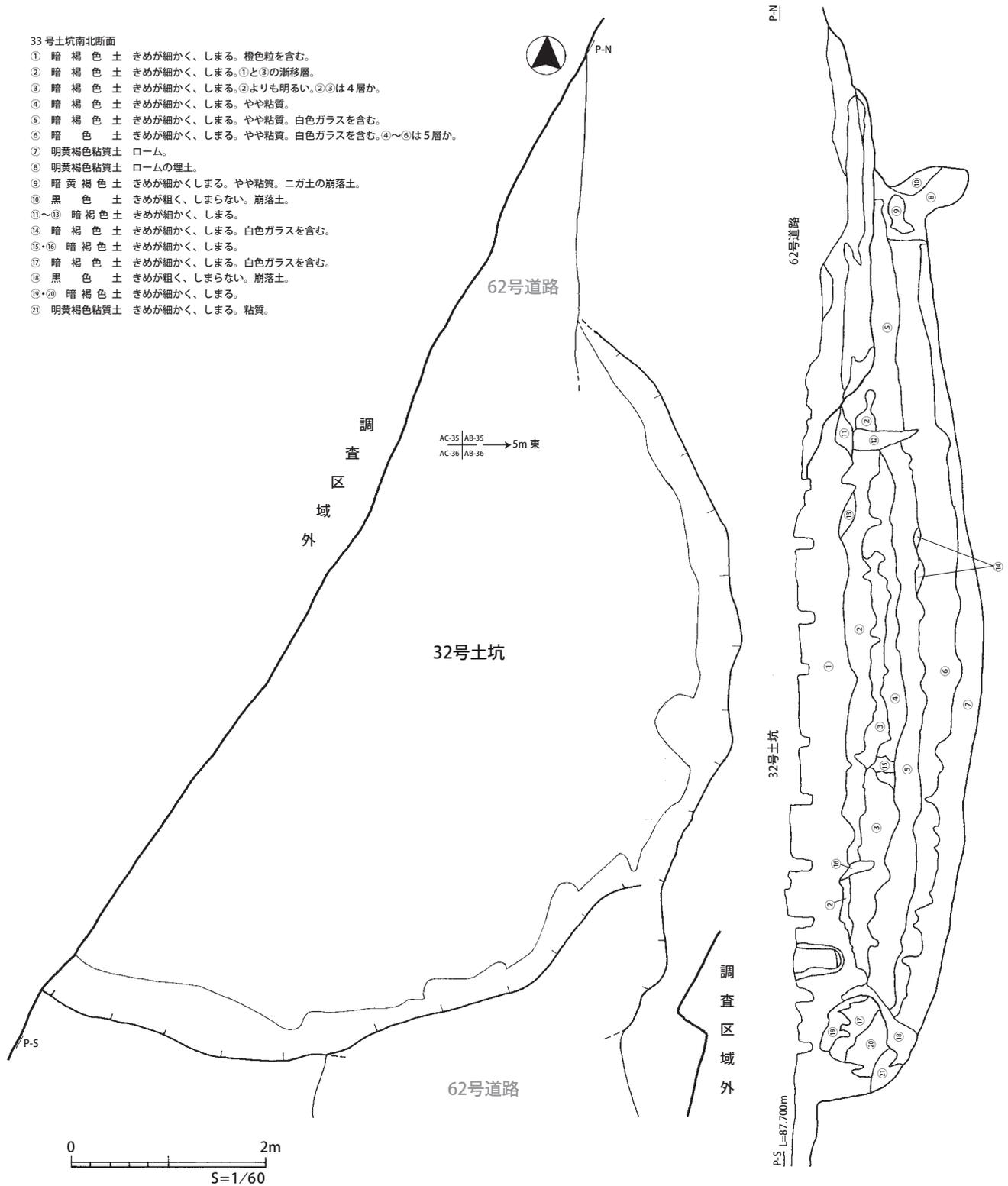
第278図 93・94号溝、31号土坑、10号ピット列実測図、31号土坑出土遺物実測図



第279図 10・11号堀立柱建物、11号堀立柱建物柱穴実測図

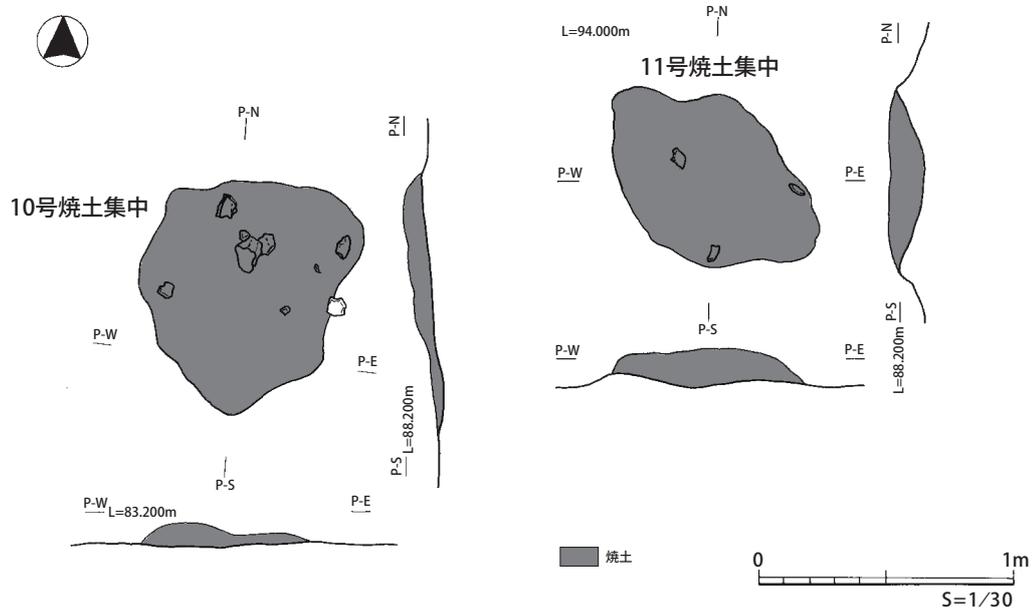
P-9 【第279図】

長軸1.15m×短軸0.75m、深さ0.65mを測る。埋土中に須恵器大甕が埋設されていた。またピット内出土の炭化物年代測定で1160±30年BPの数値が得られており、9～10世紀代であった可能性を示す。また調査区内の他の2基のピットから検出された炭化物も1190±30年BPと、きわめて近い数値を示している。

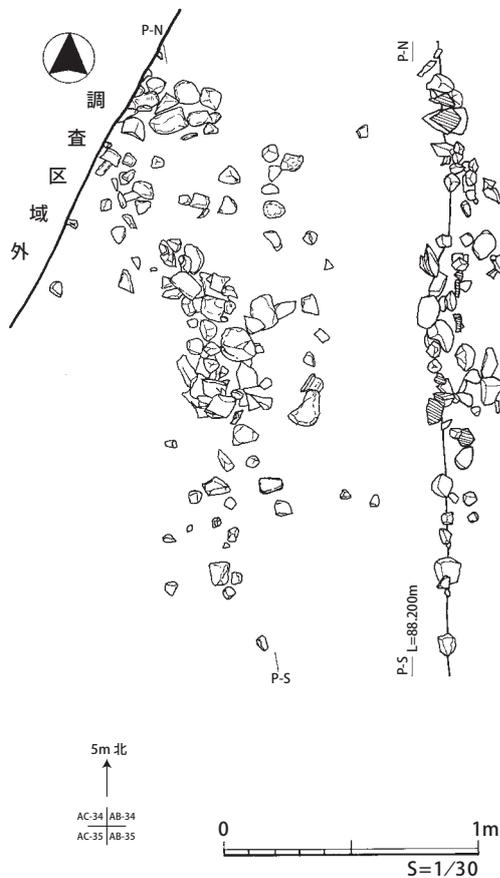


第280図 32号土坑実測図

AB-33 | AA-33  
AB-34 | AA-34



第281図 10・11号焼土集中実測図



第282図 8号集石遺構実測図

**P-10【第279図】**

長軸1.0m×短軸0.75m、深さ0.75mのいびつな土坑。埋土中に須恵器大甕が埋設されていた。

**【ピット列】**

**10号ピット列【第278図】**

柱間は1.5～2.0m、深さ0.4～0.5mを測る。ピット間が不均一であるため、可能性だけをあげておく。

**【焼土集中】**

**10号焼土集中【第281図】**

直径0.9mほどの範囲に焼土が広がる。

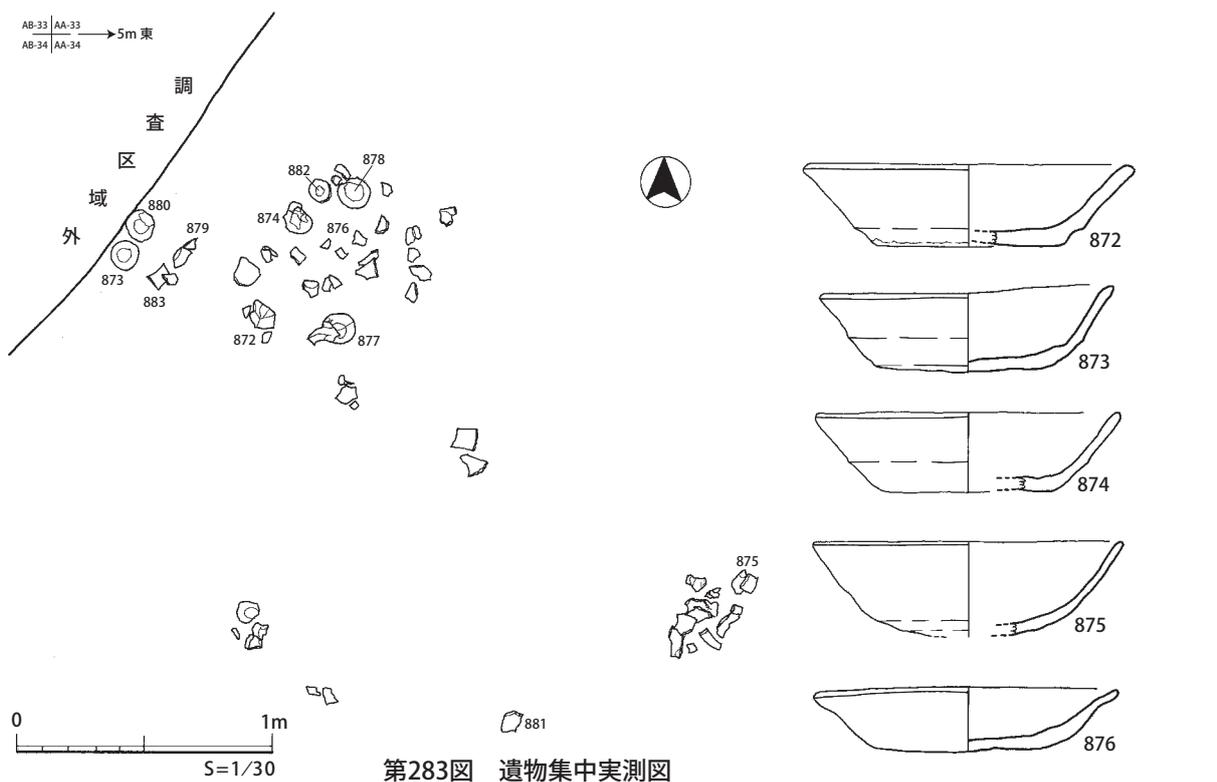
**11号焼土集中【第281図】**

長軸1.0m×短軸0.6mほどの範囲に不規則に焼土が広がる。

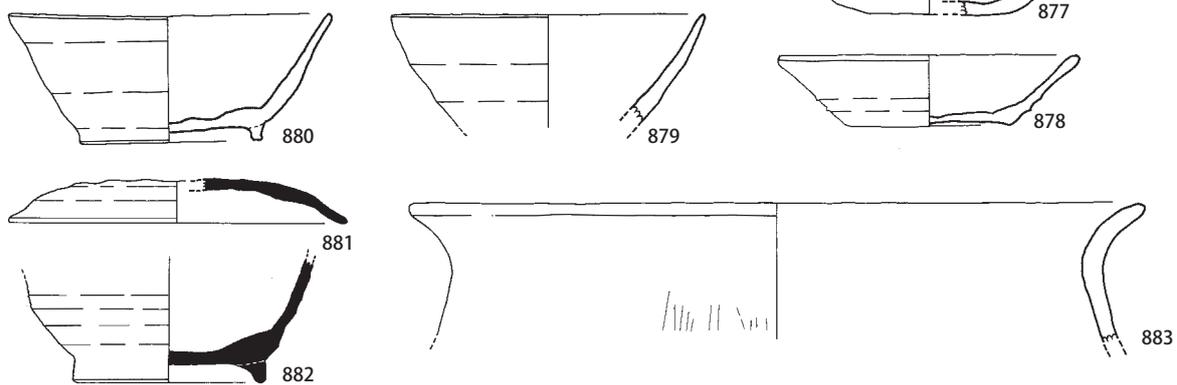
**【集石遺構】**

**6号集石遺構【第274図】**

南北0.8m、深さ0.6mの土坑内に最大で10cm程度の礫が敷き詰められていた。63号道路中から検出され、一部硬化面がかぶっていたことから、道路に伴う遺構であることが推測される。



第283図 遺物集中実測図



第284図 遺物集中出土遺物

**7号集石遺構【第277図】**

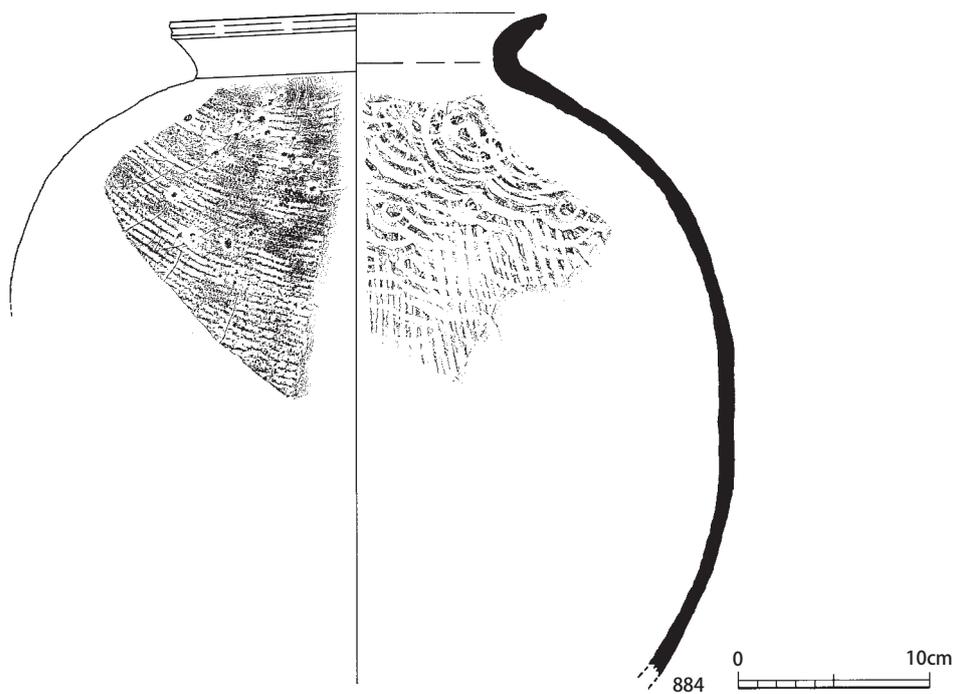
直径2.9mの円形の土坑と考えられ、深さ0.7mを測る。埋土中に20～40cmほどの礫が配されていた。92号溝を切っている。

**8号集石遺構【第282図】**

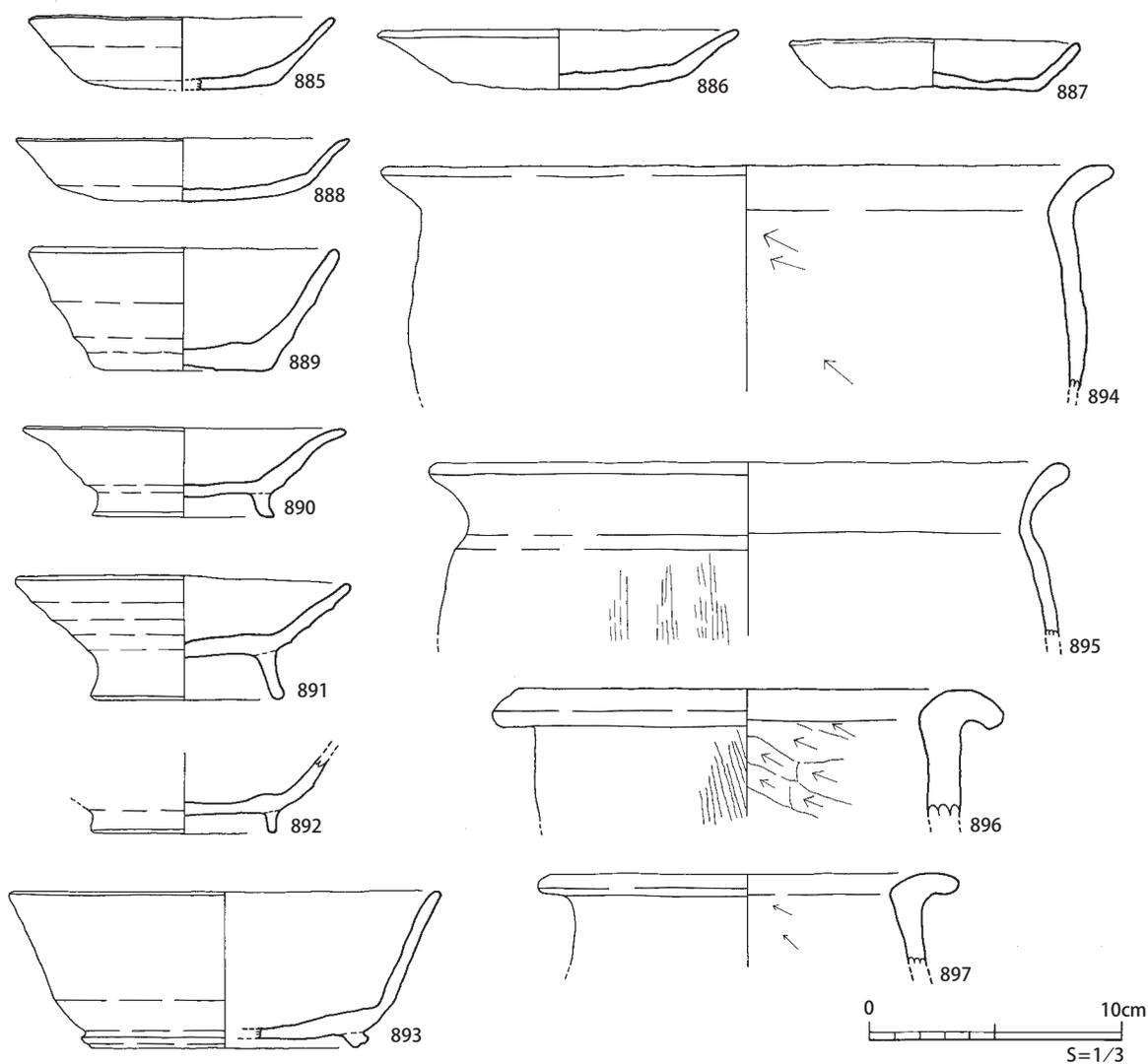
2.5m×1.5mほどの範囲に、5～15cmほどのサイズの礫が不規則に広がる。土坑などは検出されておらず、遺構の性格は不明。

**【遺物集中】【第283図】**

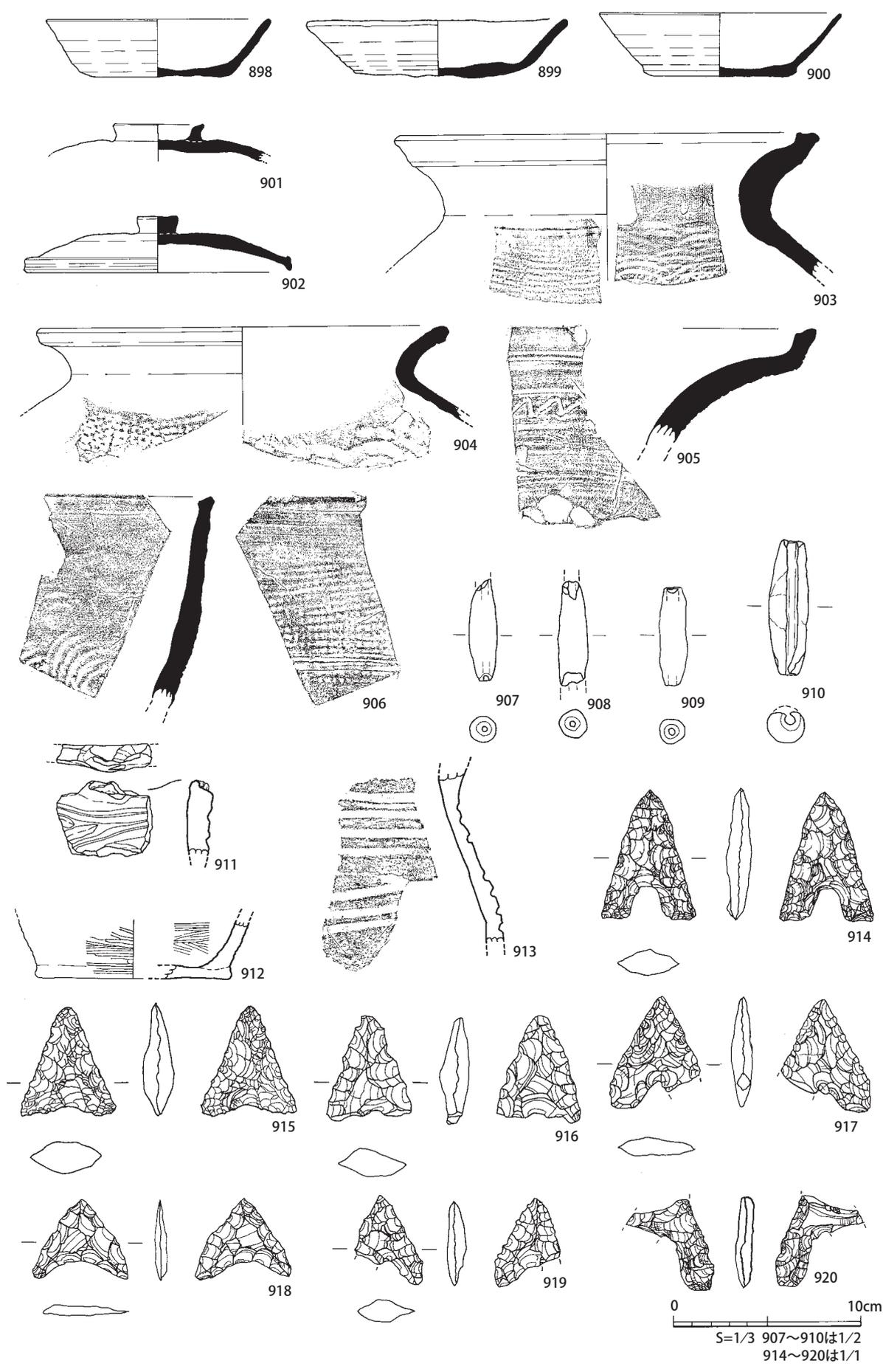
南北2.5m×東西2.5mほどの範囲に、土師器、須恵器の集中がみとめられる。遺構はみとめられない。



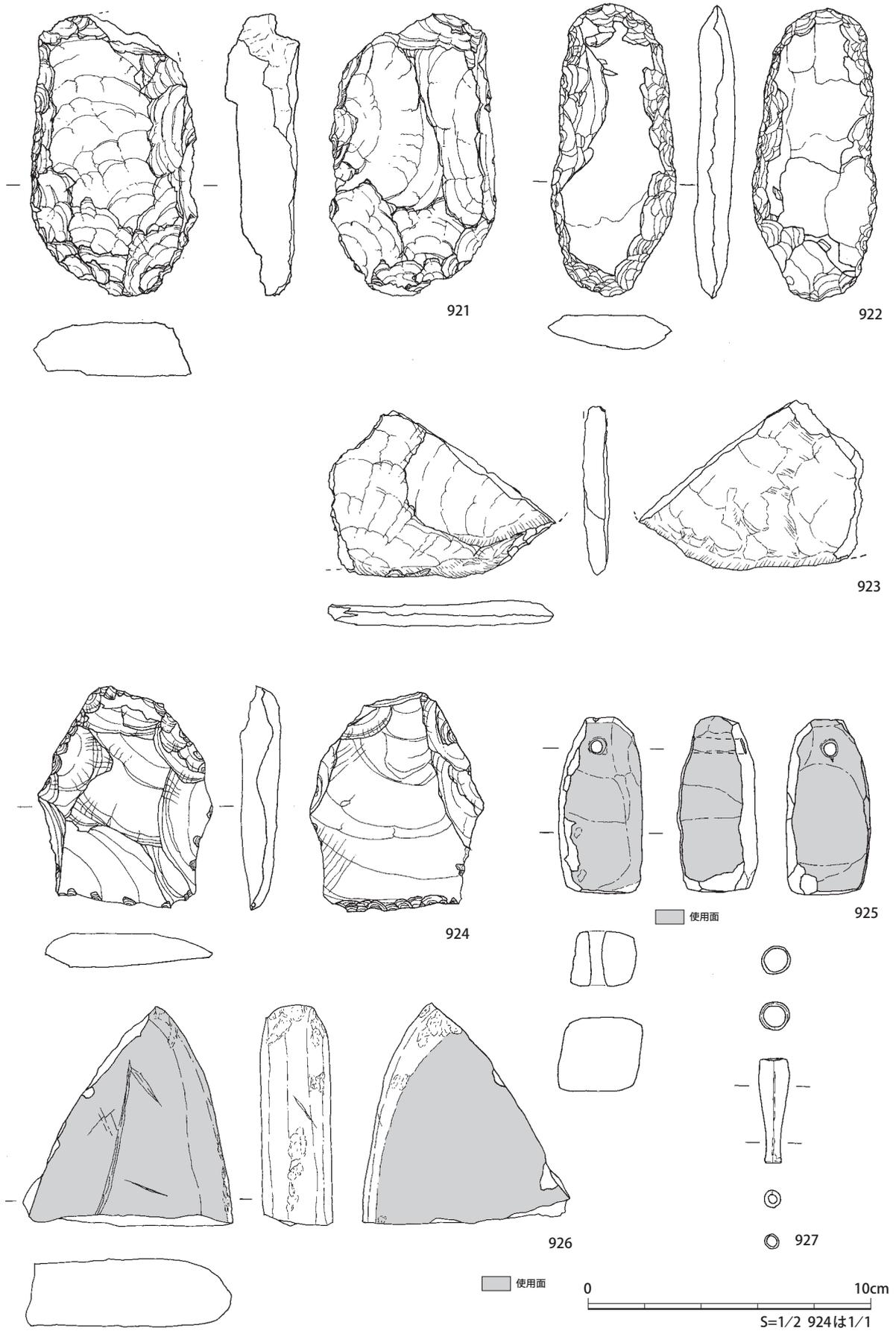
第285図 11号堀立柱建物P-9・10出土遺物実測図



第286図 D-10区出土遺物実測図

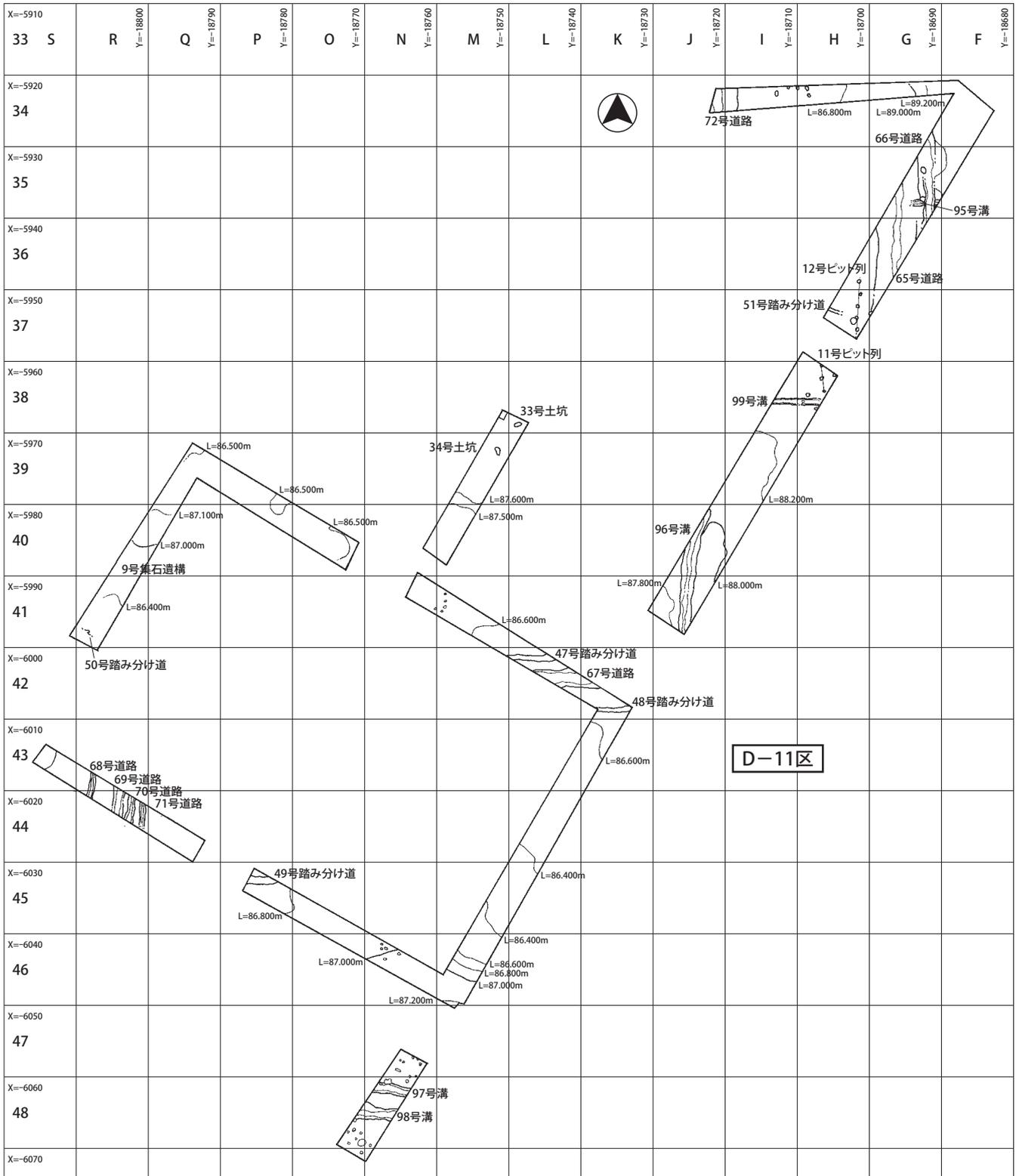


第287図 D-10区出土遺物実測図

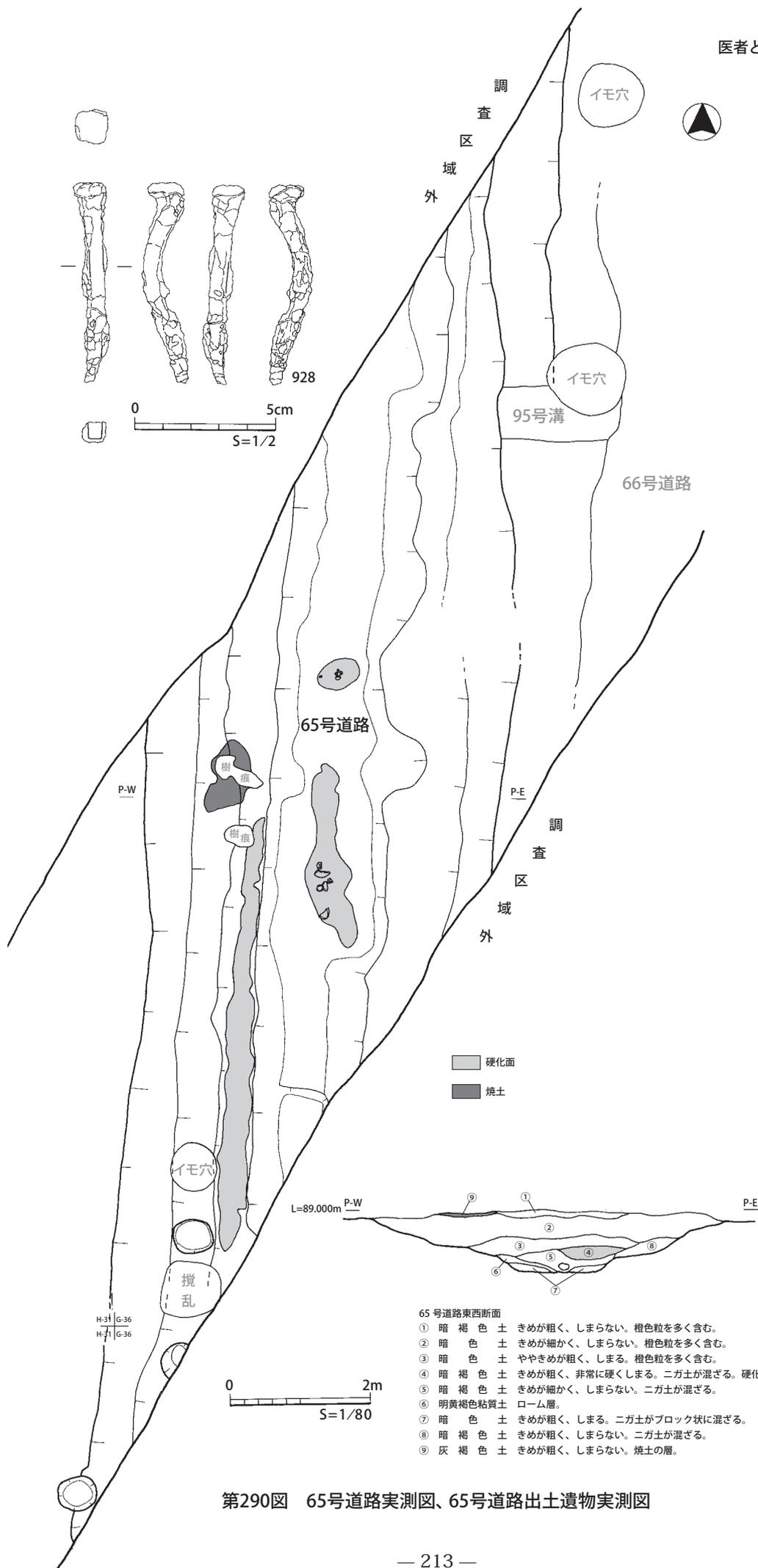


第288図 D-10区出土遺物実測図

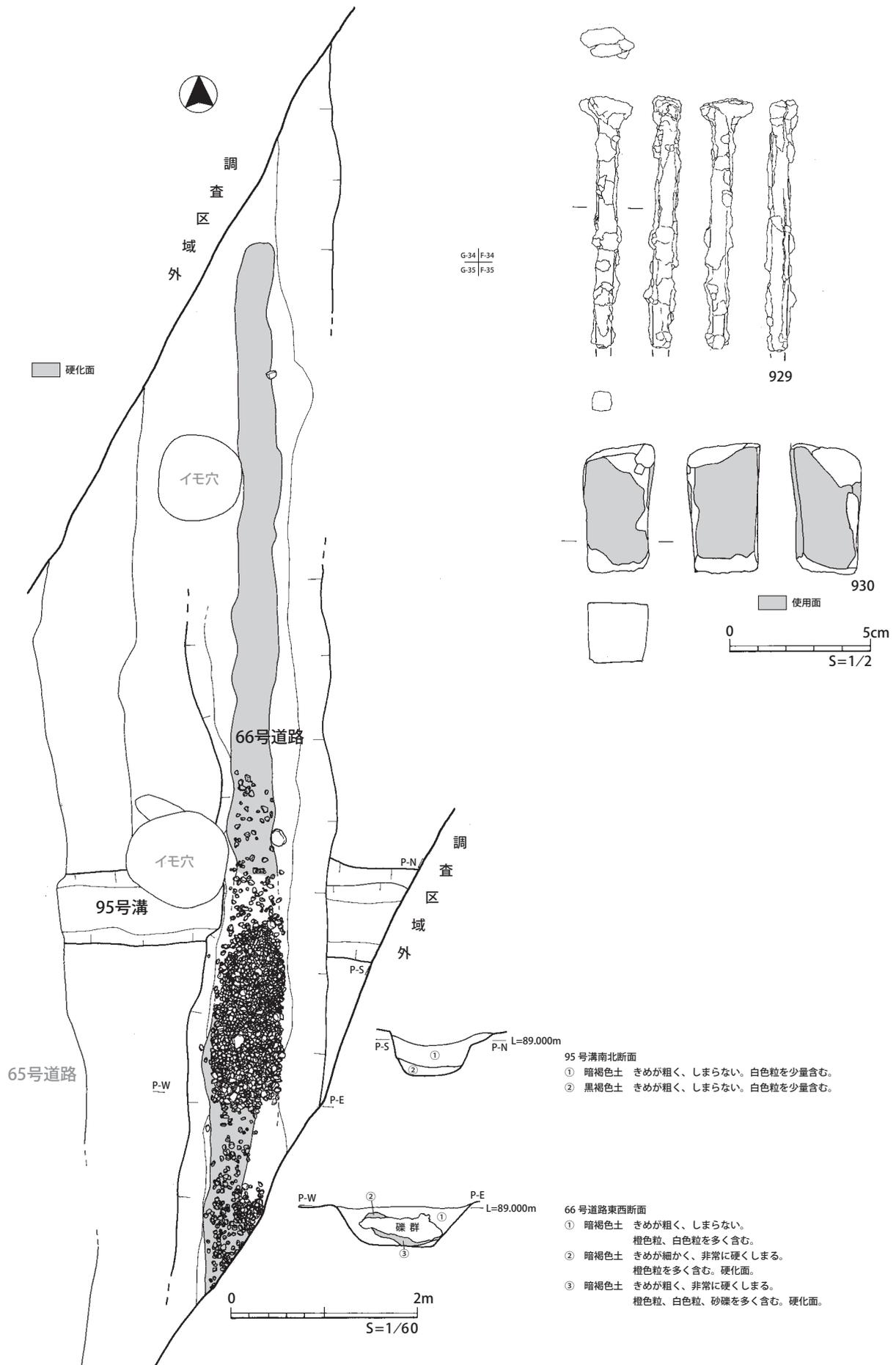
# D-11区



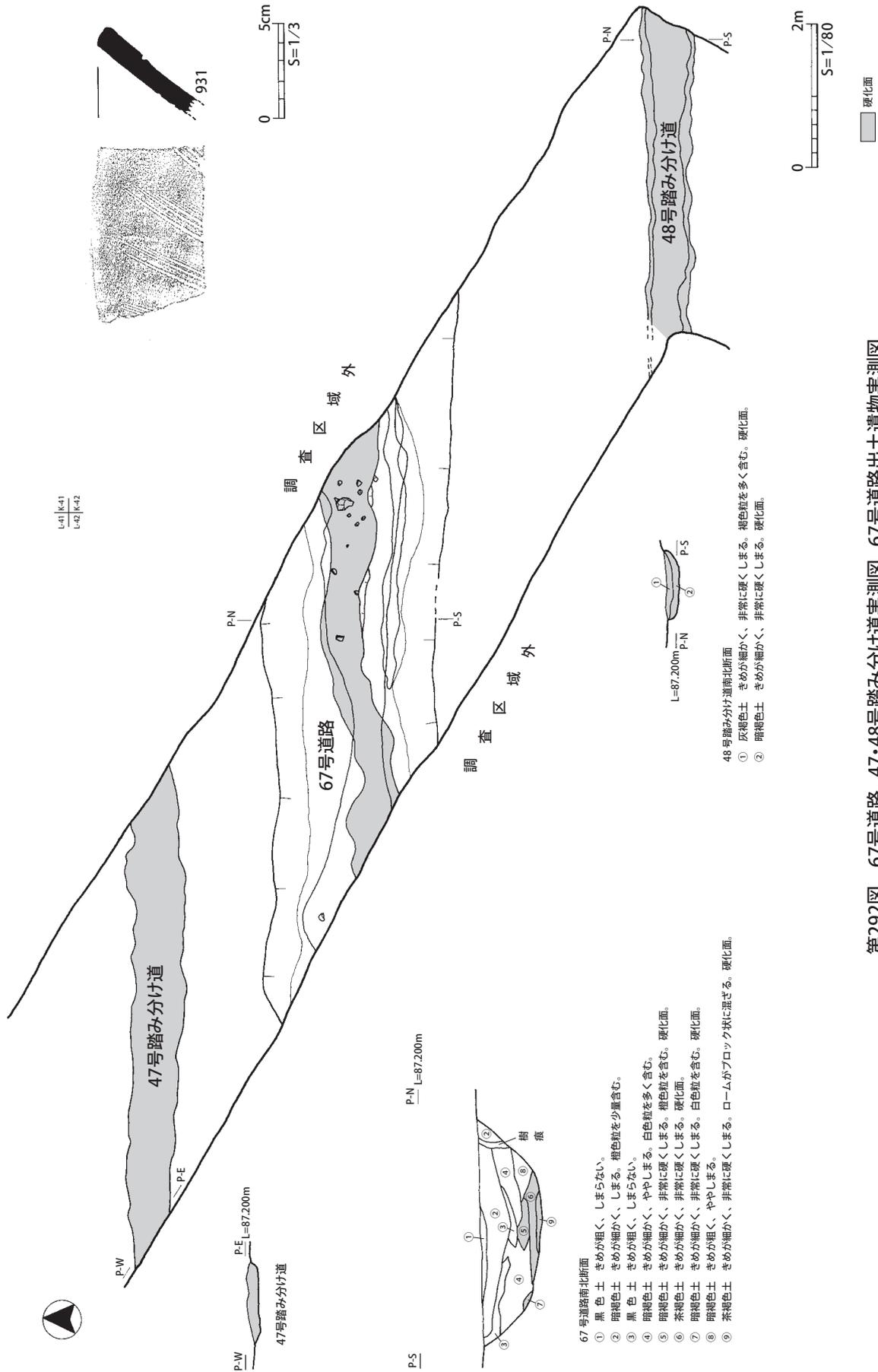
第289図 D-11区遺構配置図



第290図 65号道路実測図、65号道路出土遺物実測図



第291図 66号道路、95号溝実測図、66号道路出土遺物実測図



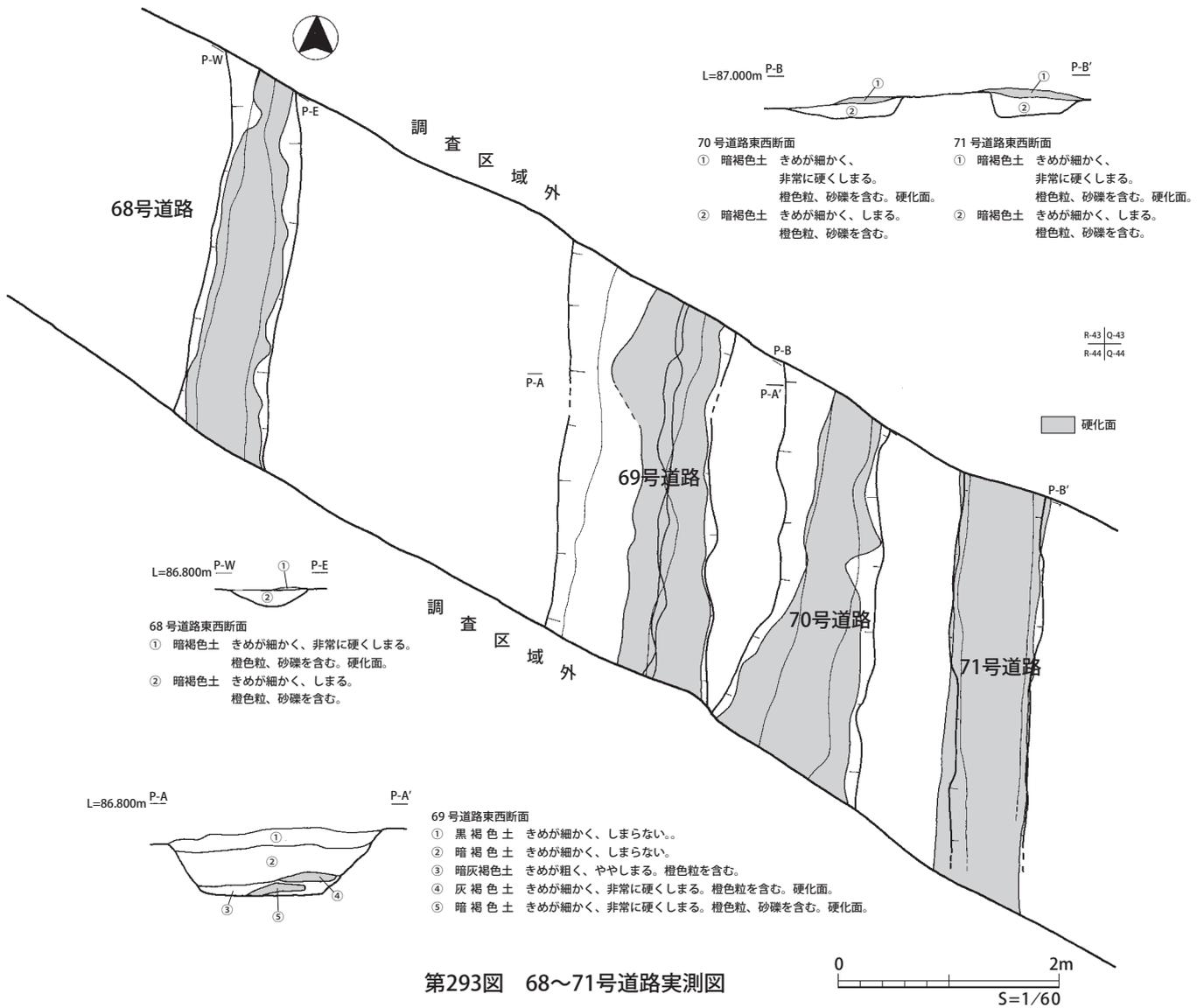
67号道路南北断面

- ① 黒色土 きめが粗く、しまらない。
- ② 暗褐色土 きめが細かく、しまる。褐色粒を少量含む。
- ③ 黒色土 きめが粗く、しまらない。
- ④ 暗褐色土 きめが細かく、ややしまる。白色粒を多く含む。
- ⑤ 暗褐色土 きめが細かく、非常に硬くしまる。褐色粒を含む。硬化面。
- ⑥ 茶褐色土 きめが細かく、非常に硬くしまる。硬化面。
- ⑦ 暗褐色土 きめが細かく、非常に硬くしまる。白色粒を含む。硬化面。
- ⑧ 暗褐色土 きめが粗く、ややしまる。
- ⑨ 茶褐色土 きめが細かく、非常に硬くしまる。ロームがブロック状に混ざる。硬化面。

48号踏み分け道南北断面

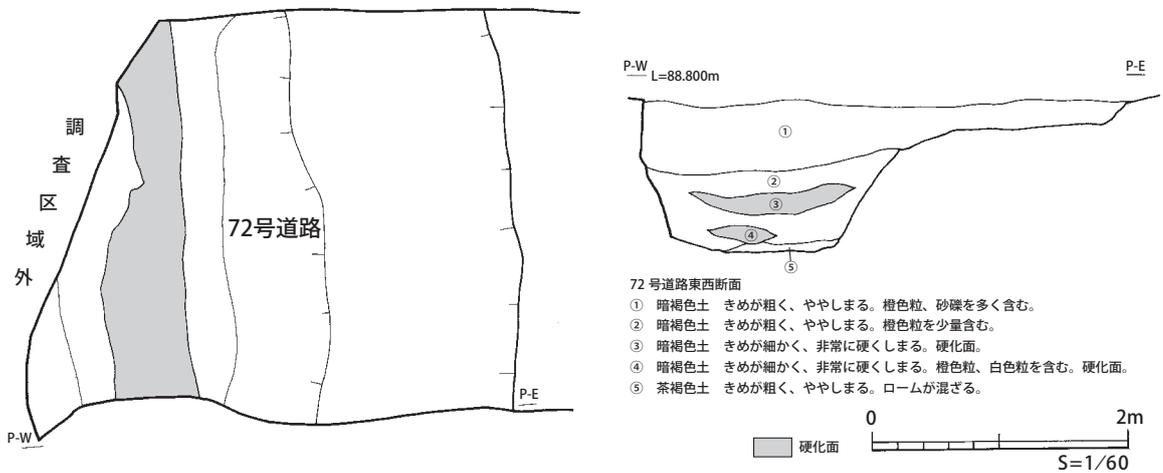
- ① 灰褐色土 きめが細かく、非常に硬くしまる。褐色粒を多く含む。硬化面。
- ② 暗褐色土 きめが細かく、非常に硬くしまる。硬化面。

第292図 67号道路、47・48号踏み分け道実測図、67号道路出土遺物実測図



第293図 68~71号道路実測図

J-33 | I-33  
J-34 | I-34



第294図 72号道路実測図

調査の成果

【道路】

65号道路【第290図】

南北方向に延びる。残長22m、検出面幅5.2m、底部幅0.7～1.1m、深さ0.5mを測る。側溝、波板状凹凸面などは検出されなかったが、複数の硬化面が確認された。

66号道路【第291図】

南北方向に延びる。残長14m、検出面幅1.2～1.5m、底部幅0.9m、深さ0.5mを測る。側溝、波板状凹凸面などは検出されなかったが、帯状硬化が検出され、その上に礫が集石していた。65号道路と隣接しており、方向も同一。

67号道路【第292図】

東西方向に延びる。残長7.8m、検出面幅1.7m、底部幅0.9～1.2m、深さ0.65mを測る。側溝、波板状凹凸面などは検出されなかったが、複数の硬化面が確認された。

68号道路【第293図】

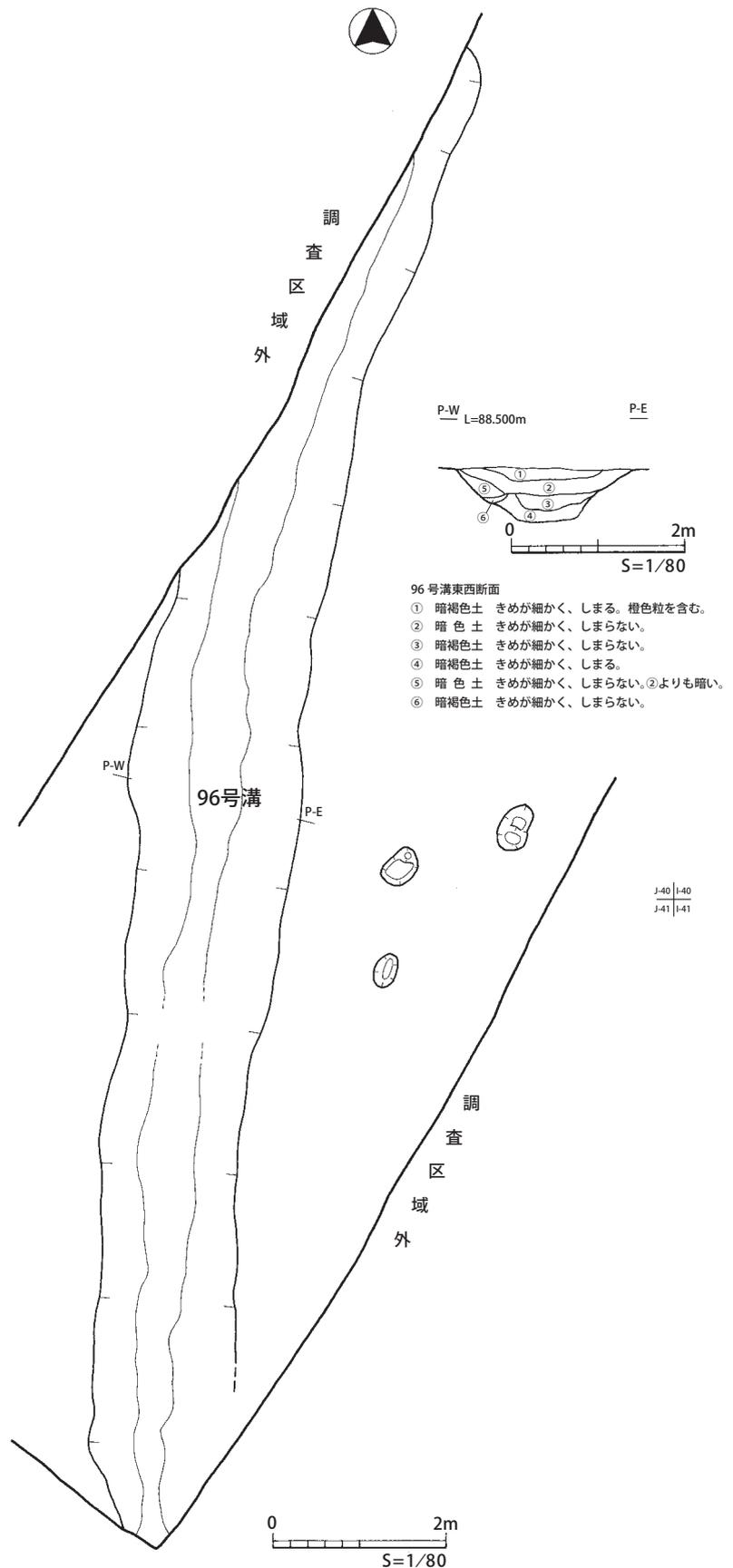
南北方向に延びる。残長4.0m、検出面幅0.6～0.9m、底部幅0.2～0.45m、深さ0.15mを測る。溝の上面を道路として使用している。

69号道路【第293図】

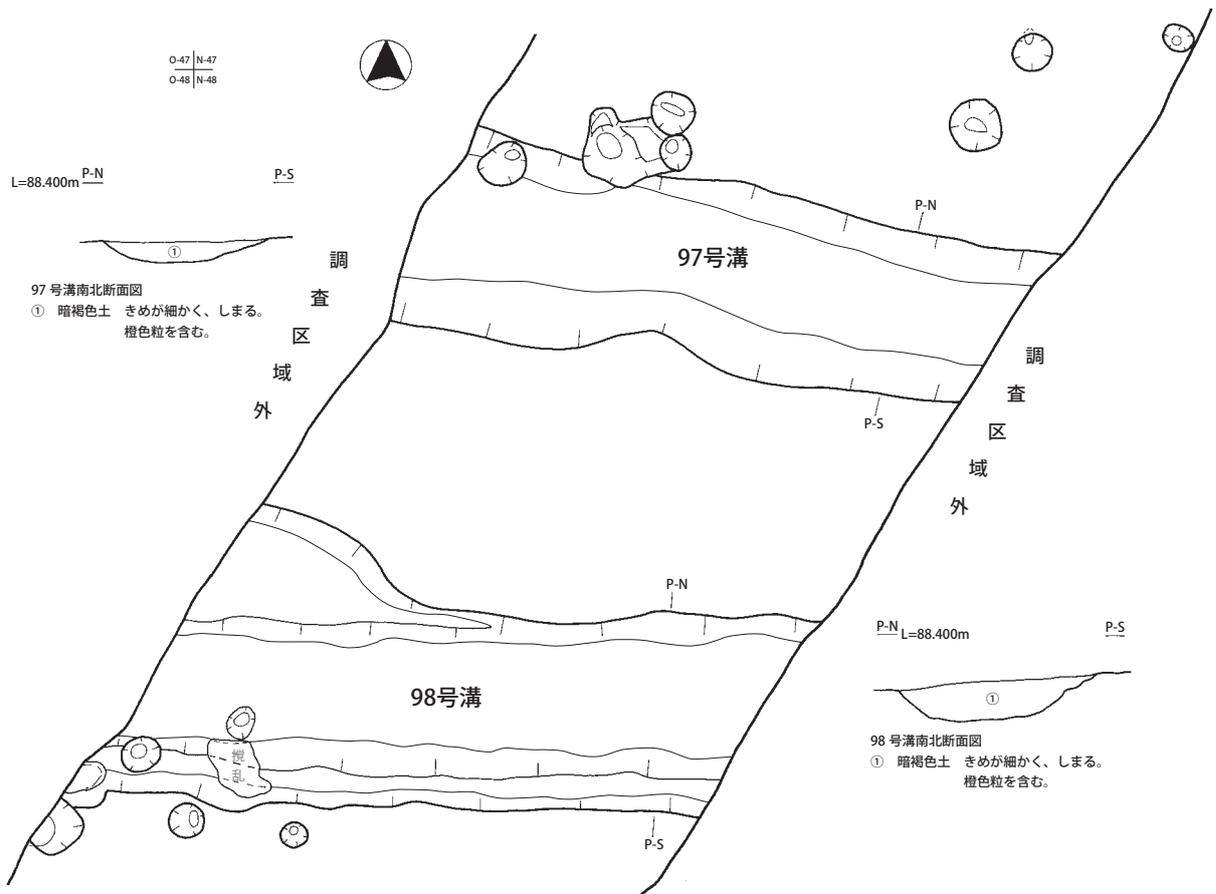
南北方向に延びる。残長4.0m、検出面幅1.3～1.5m、底部幅0.6～0.9m、深さ0.6mを測る。側溝、波板状凹凸面などは検出されなかったが、複数の硬化面が確認された。

70号道路【第293図】

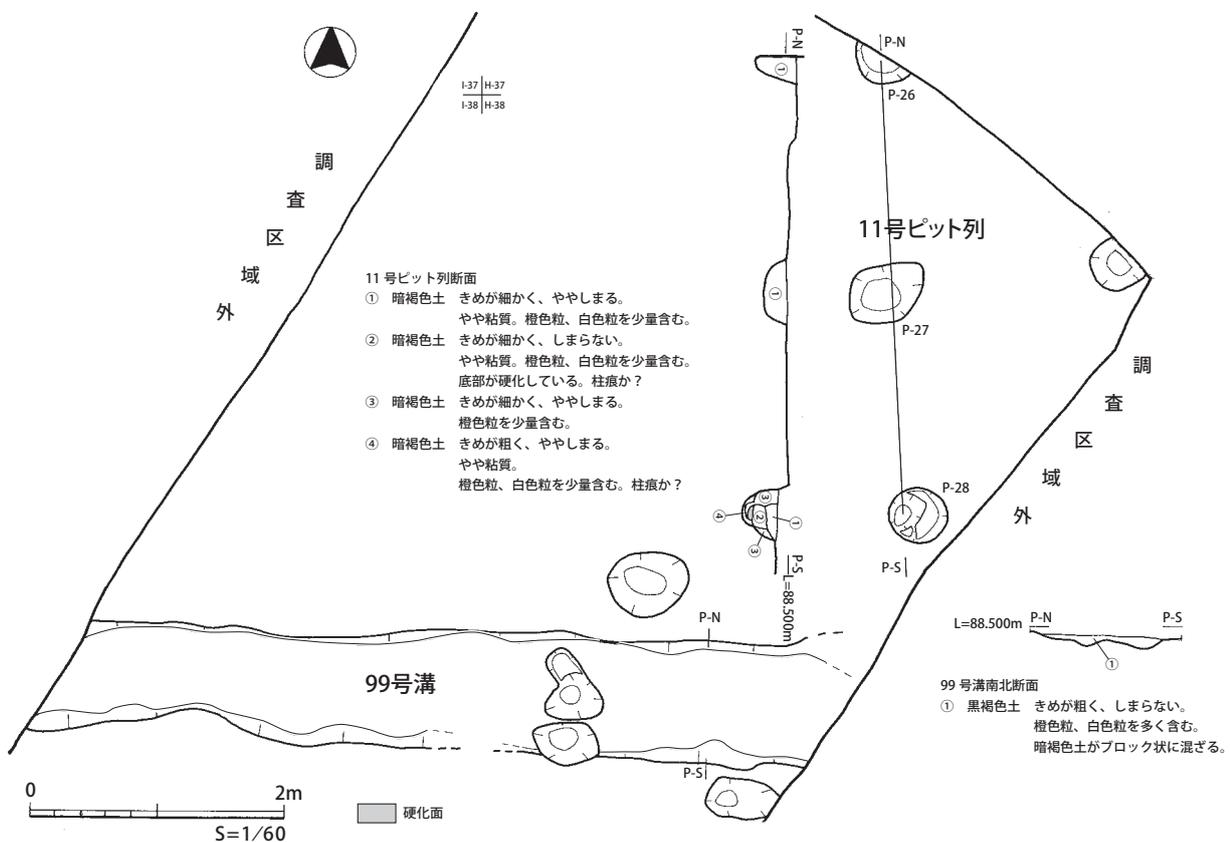
南北方向に延びる。残長4.0m、検出面幅0.9～1.5m、底部幅0.4～0.6m、深さ0.2mを測る。硬化面がみとめられる。プランはやや湾曲しており、69号道路に併行して検出された。溝の上面を道路として使用している。



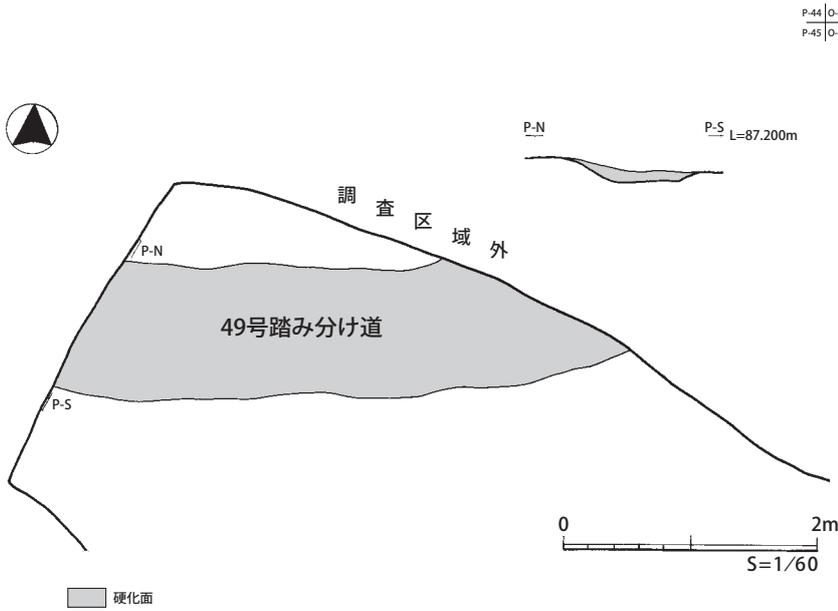
第295図 96号溝実測図



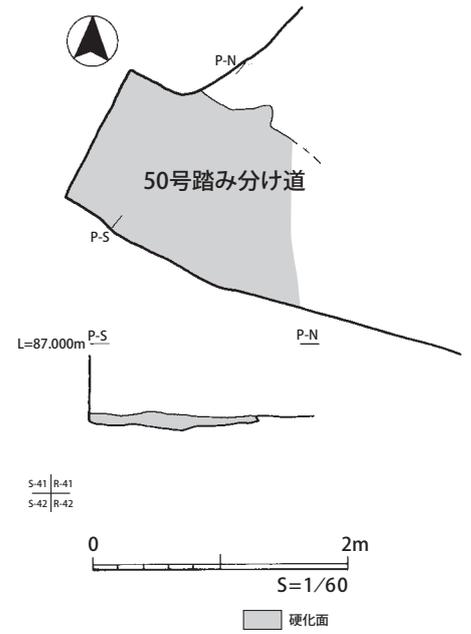
第296図 97・98号溝実測図



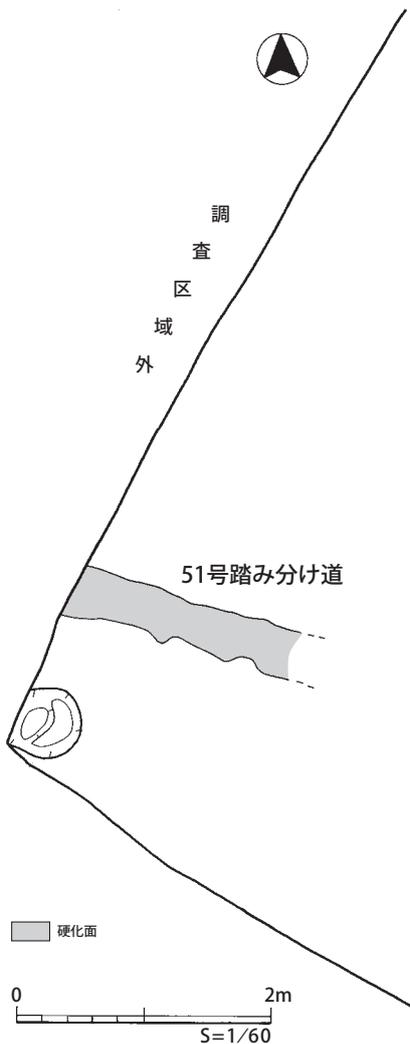
第297図 99号溝、11号ピット列実測図



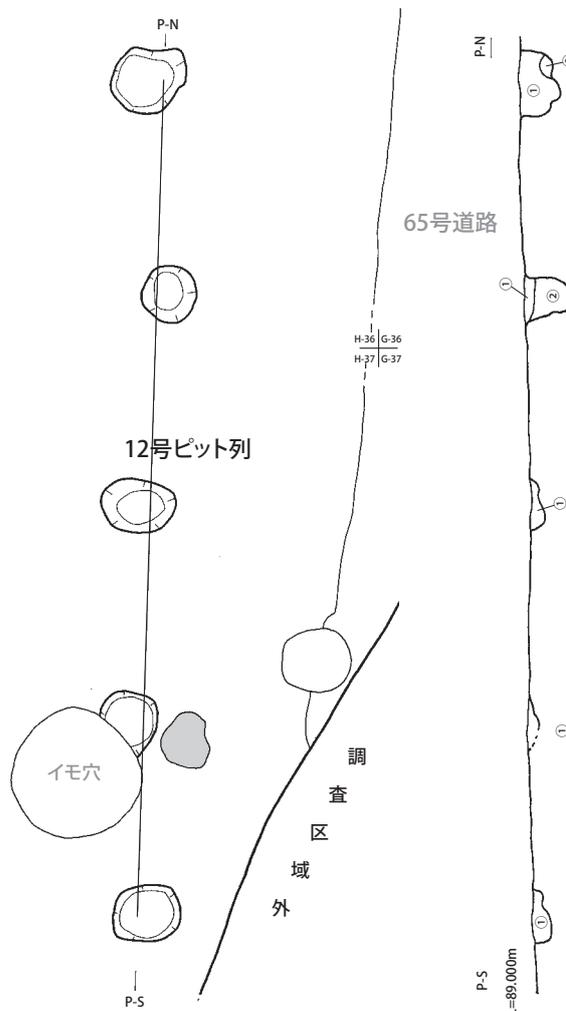
第298図 49号踏み分け道実測図



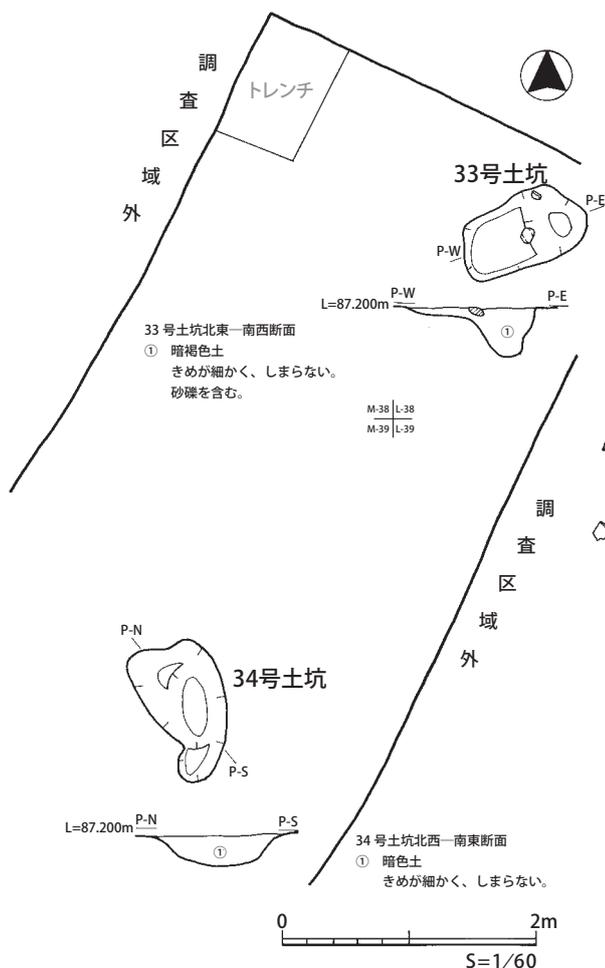
第299図 50号踏み分け道実測図



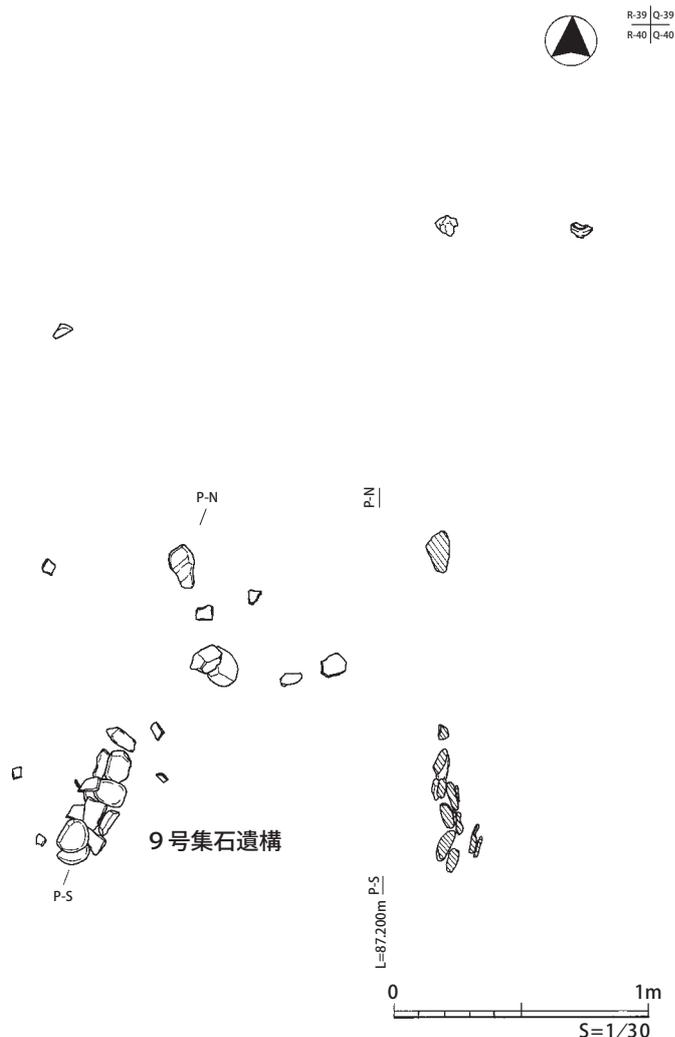
第300図 51号踏み分け道、12号ピット列実測図



12号ピット列断面  
 きめが細かく、ややしまる。褐色粒、白色粒を少量含む。  
 ① 暗褐色土 きめが細かく、ややしまる。褐色粒、白色粒を少量含む。  
 ② 暗茶褐色土 きめが粗かく、しまる。



第301図 33・34号土坑実測図



第302図 9号集石遺構実測図

**71号道路【第293図】**

南北方向に延びる。残長4.0m、検出面幅0.7m、底部幅0.45～0.65m、深さ0.25mを測る。溝の上面を道路として使用しているが、溝の幅よりも広い帯状硬化がみとめられる。

**72号道路【第294図】**

南北方向に延びる。残長3.1m、底部幅1.2m、深さ0.9m。遺構のほとんどが調査区域外であるため、詳細は不明。複数の硬化面がみとめられる。

**【溝】**

**95号溝【第291図】**

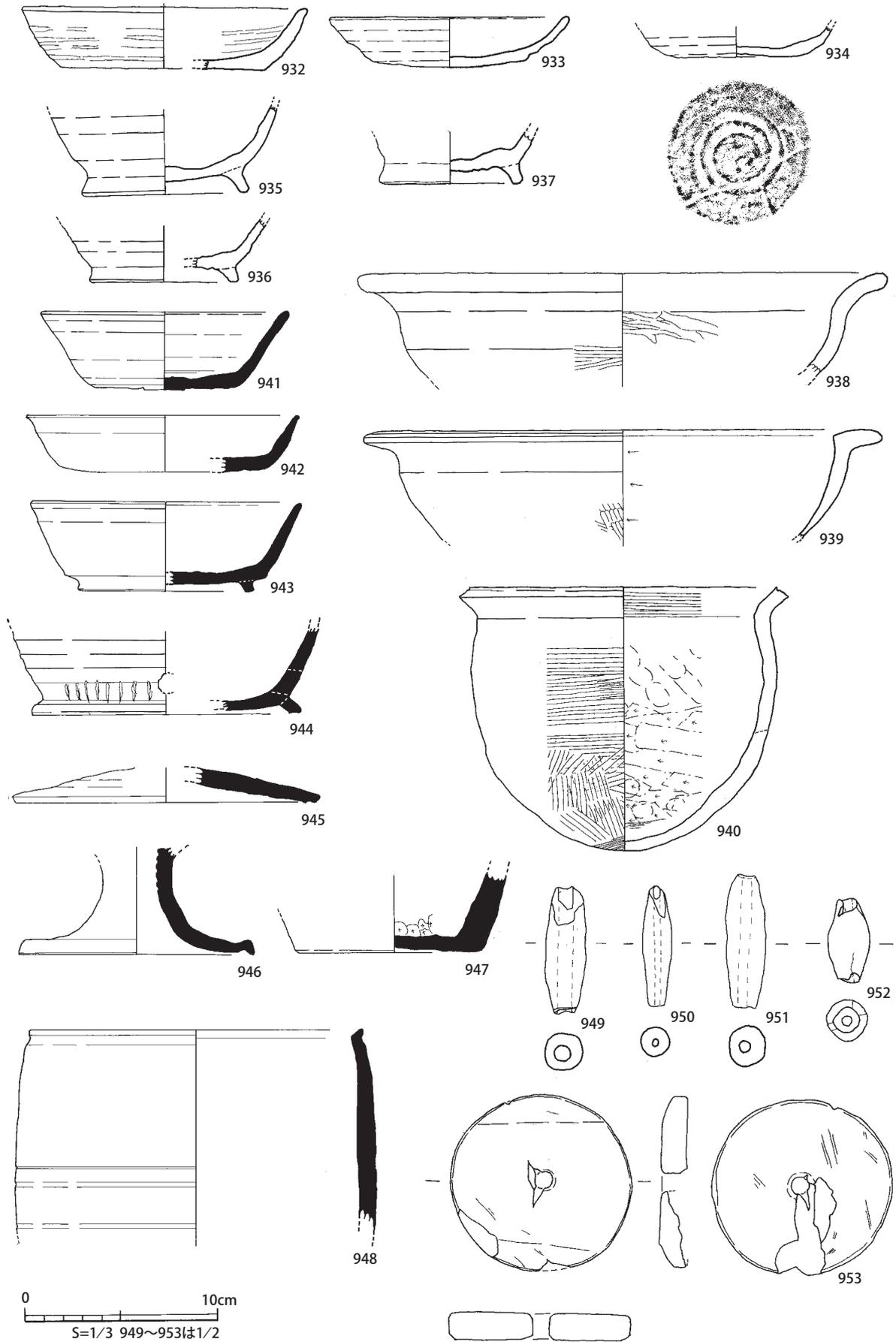
東西方向に延びる。残長3.8m、検出面幅0.8～1.0m、底部幅0.5m、深さ0.5mを測る。65、66号道路に切られている。

**96号溝【第295図】**

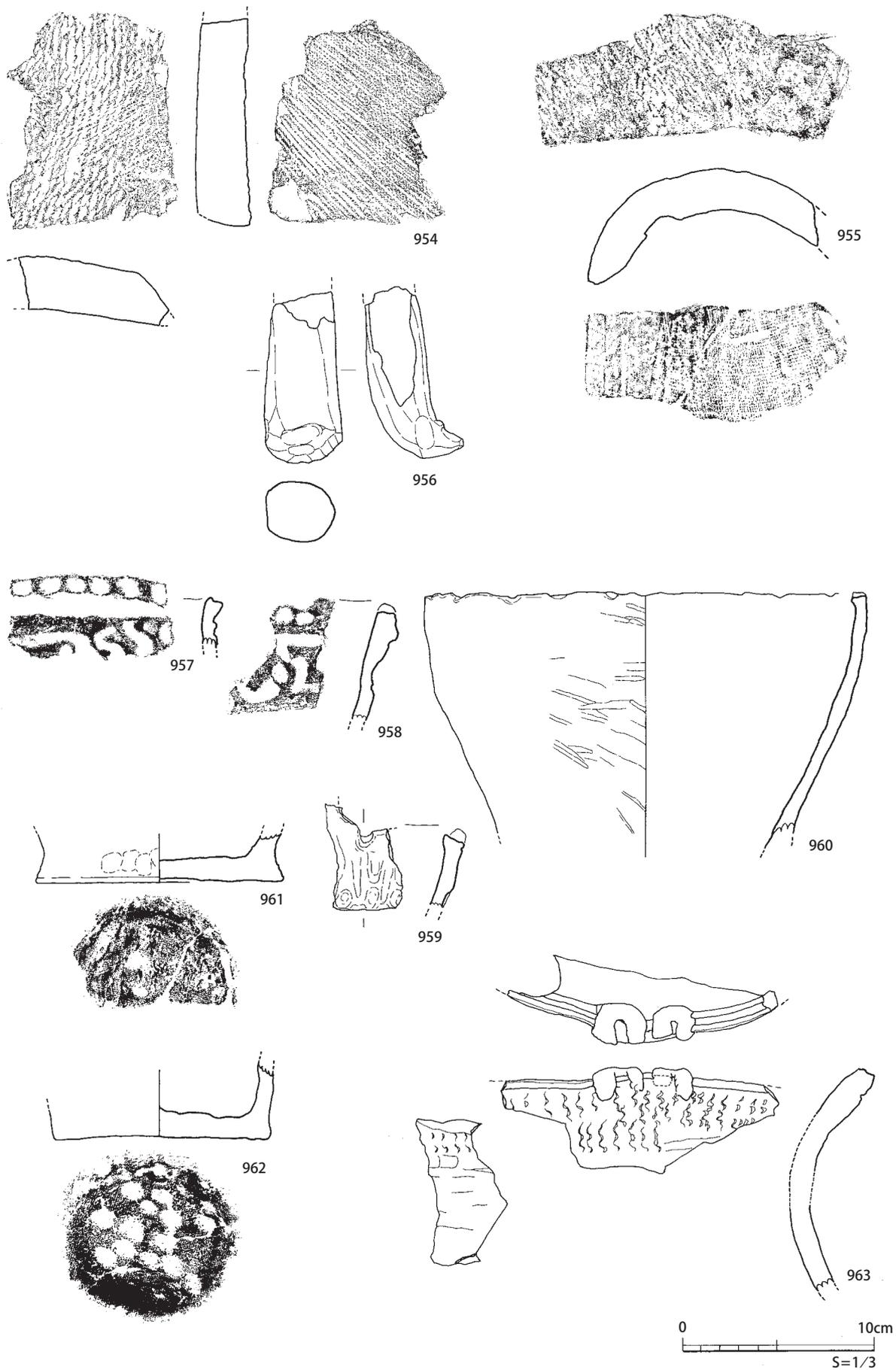
北北東⇄南南西方向に延びる。残長18m、検出面幅1.5～2.0m、底部幅0.6m、深さ0.6mを測る。調査区で隔絶しているが、72号道路と同一の遺構である可能性がある。ただし硬化面が認められなかったことから、ここでは溝としておく。

**97号溝【第296図】**

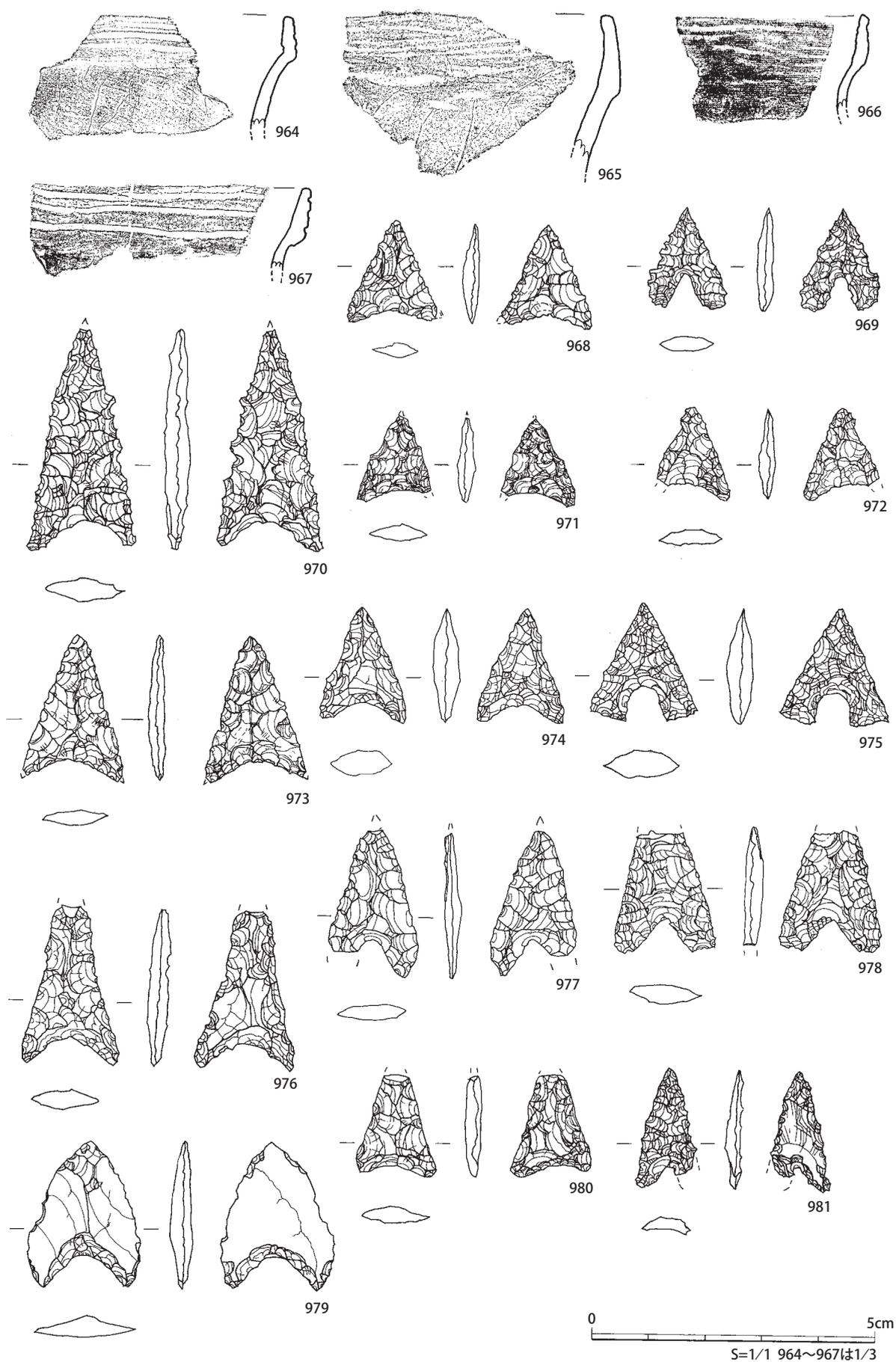
西北西⇄東南東方向に延びる。残長4.5m、検出面幅1.2～1.5m、底部幅0.6m、深さ0.15mを測る。



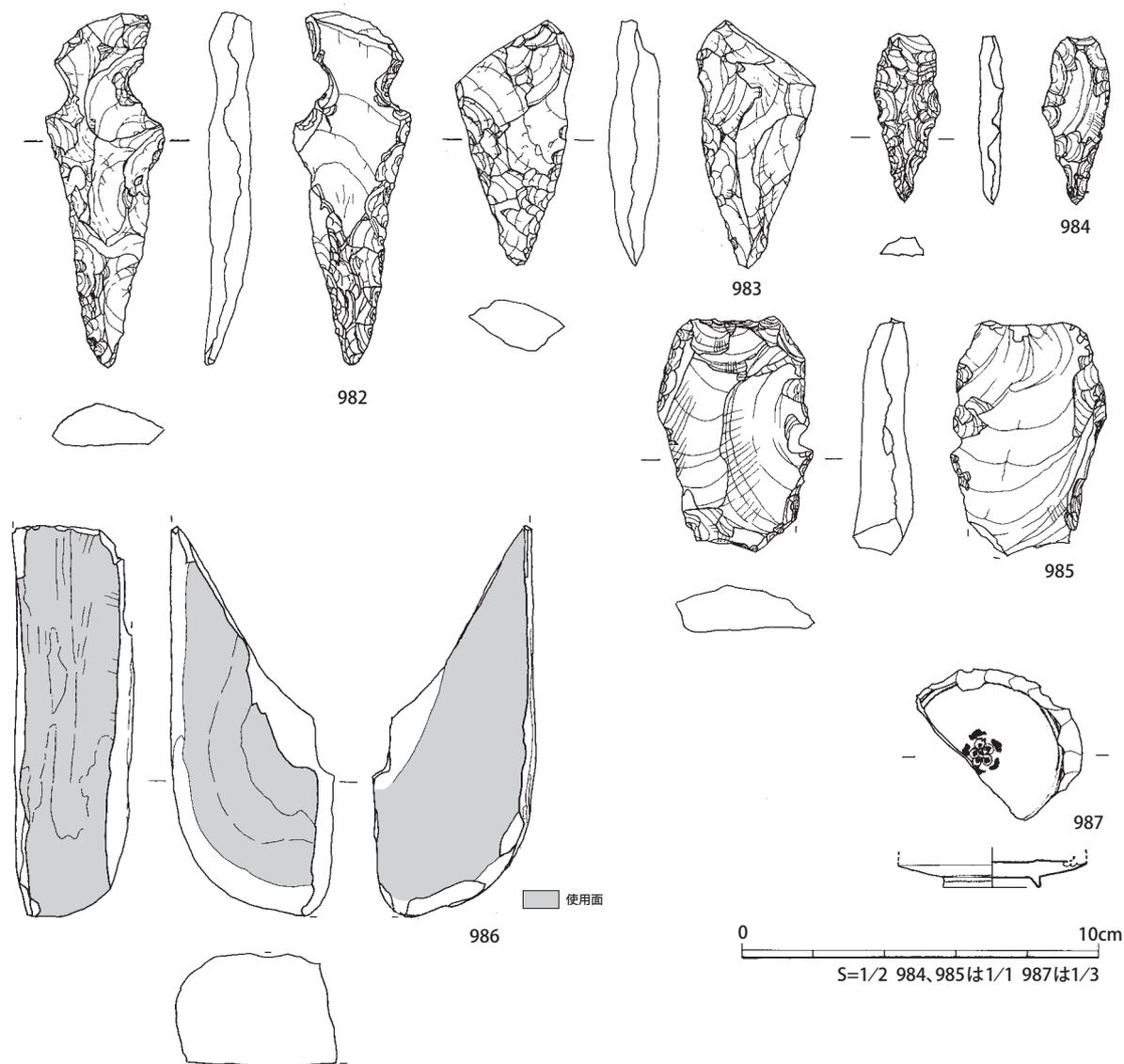
第303図 D-11区出土遺物実測図



第304图 D-11区出土遗物实测图



第305図 D-11区出土遺物実測図



第306図 D-11区出土遺物実測図

**98号溝【第296図】**

東西方向に延びる。残長4.5m、検出面幅1.6m、底部幅0.8m、深さ0.25mを測る。西端で一部拡張をしている。97号溝に併行する。

**99号溝【第297図】**

東西方向に延びる。残長6.0m、検出面幅0.65～1.0m、底部幅0.6～0.8m、深さ0.1mを測る。

**【踏み分け道】**

**47号踏み分け道【第292図】**

東西方向に延びる。残長7.0m、検出面幅0.5m、厚さ0.15mを測る。67号道路に併行して検出された。

**48号踏み分け道【第292図】**

東西方向に延びる。残長4.6m、検出面幅0.4～0.5m、厚さ0.15mを測る。硬化面が二面に分層できる。67号道路に併行して検出された。

**49号踏み分け道【第298図】**

東西方向に延びる。残長4.5m、検出面幅1.1m、厚さ0.15mを測る。

**50号踏み分け道【第299図】**

遺構のほとんどが調査区域外であるため、詳細は不明であるが、幅広の踏み分け道と推測した。

**51号踏み分け道【第300図】**

西北西⇨東南東方向に延びる。残長1.8m、検出面幅0.4mを測る

**【ピット列】**

**11号ピット列【第297図】**

北北西⇨南南東方向に、ピットが一行に並ぶ。ピット間は1.7mを測る。詳細は不明。

**12号ピット列【第300図】**

南北方向に、ピットが一行に並ぶ。ピット間は1.7mを測り、最南端だけが1.5mとやや狭い。65号道路に併行して検出されたが、関連があるかどうかは不明。

**【土坑】**

**33号土坑【第301図】**

平面形状は長軸1.0m×短軸0.6m、段を持ち、深さは0.4mを測る。

**34号土坑【第301図】**

長軸1.1m×短軸0.6mのいびつな平面形状を呈する。深さは0.25mを測る。

**【集石遺構】**

**9号集石【第302図】**

15cm程度の円礫が集中している。焼成などはみとめられない。

# D-12区

## 調査の成果

### 【住居址】

#### 33号住居址【第308図】

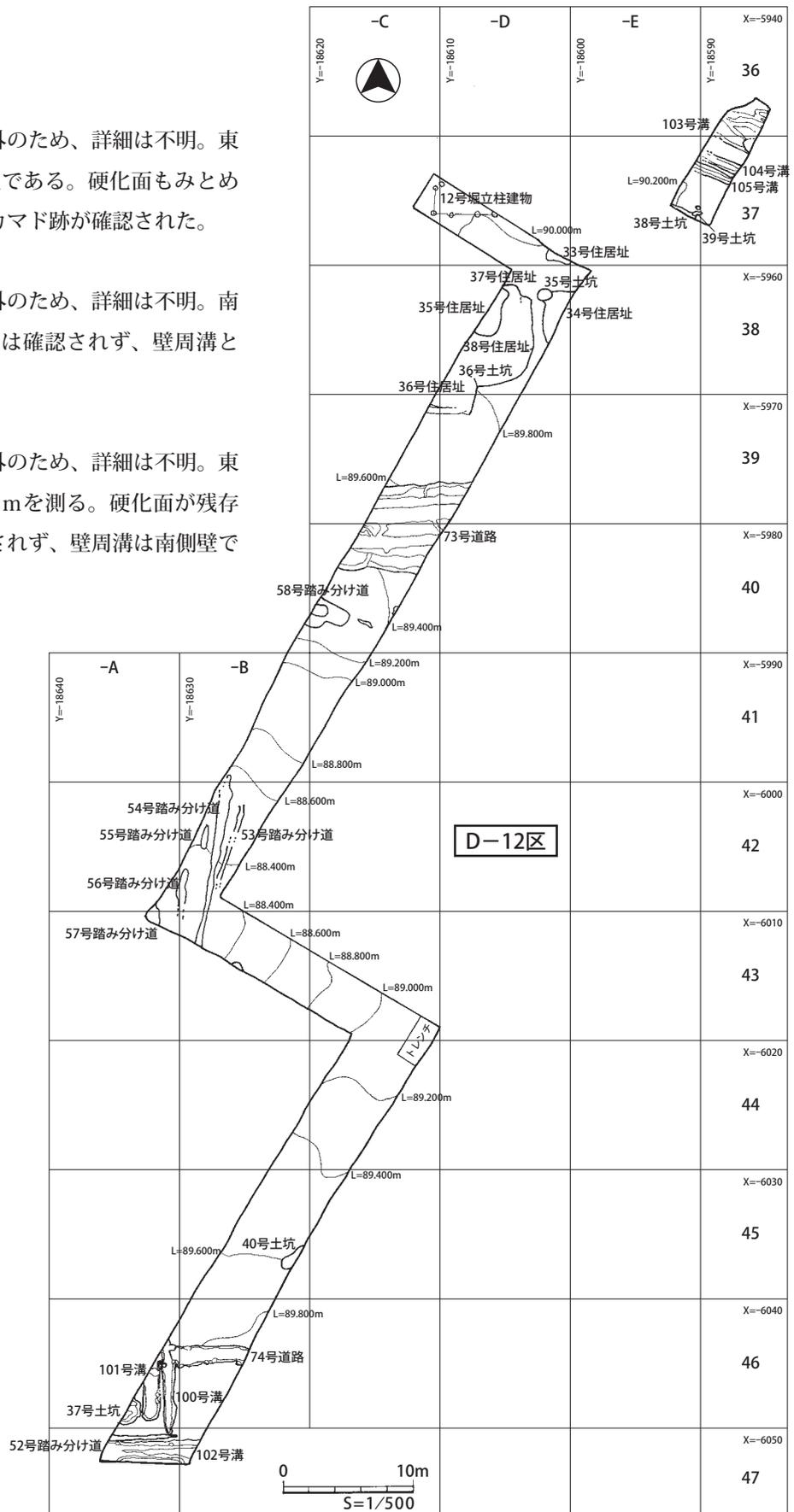
遺構のほとんどが調査区域外のため、詳細は不明。東西3.8mの規模の小さな住居址である。硬化面もみとめられず、かろうじて南側壁にカマド跡が確認された。

#### 34号住居址【第308図】

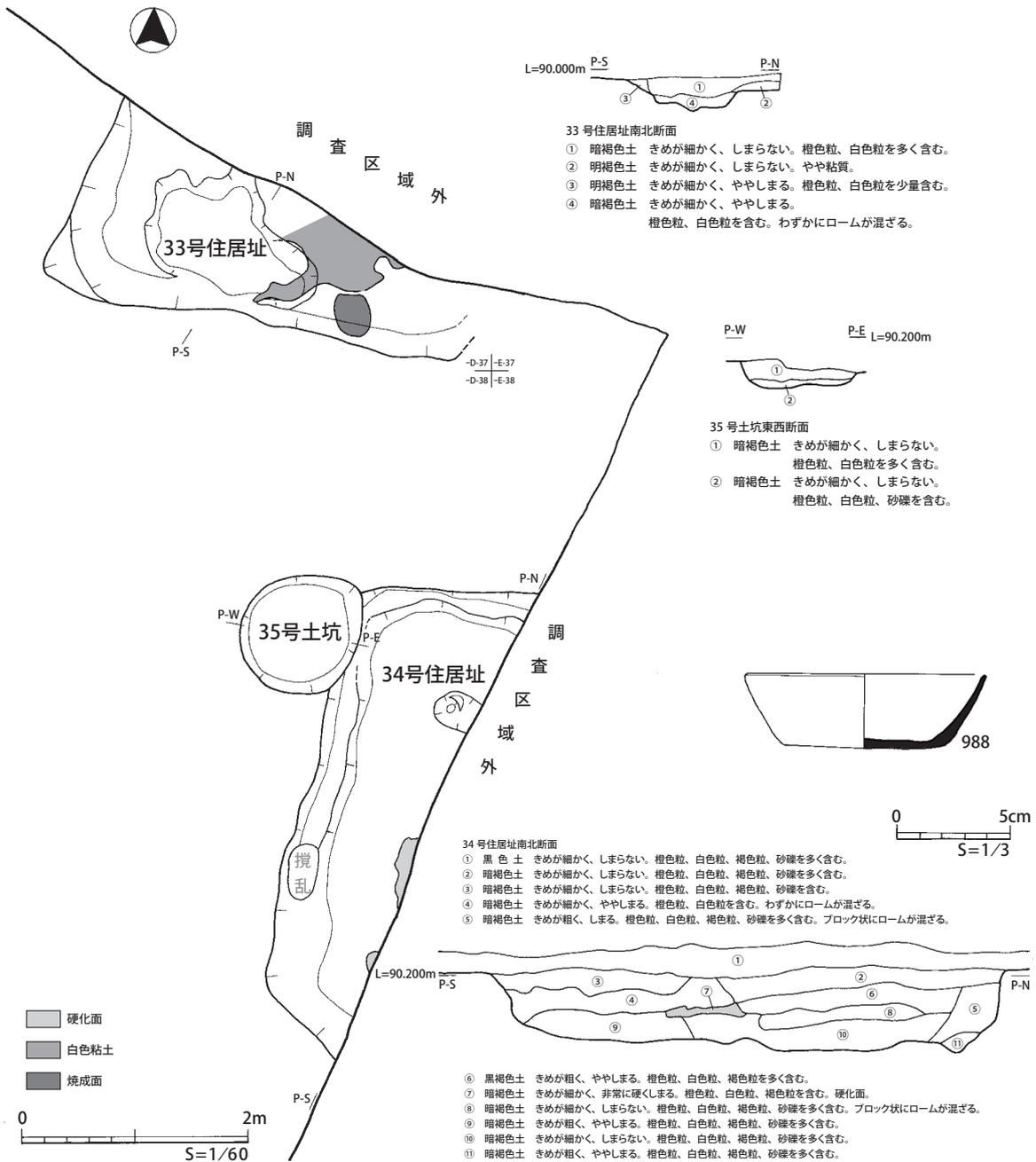
遺構のほとんどが調査区域外のため、詳細は不明。南北4.5mを測る。カマド、柱穴は確認されず、壁周溝と硬化面がわずかに残存する。

#### 35号住居址【第309・311図】

遺構のほとんどが調査区域外のため、詳細は不明。東壁付近が確認された。南北4.2mを測る。硬化面が残存するが、カマド、柱穴は確認されず、壁周溝は南側壁でわずかに確認された。



第307図 D-12区遺構配置図



第308図 33・34号住居址、35号土坑実測図、34号住居址出土遺物実測図

36号住居址【第309・311図】

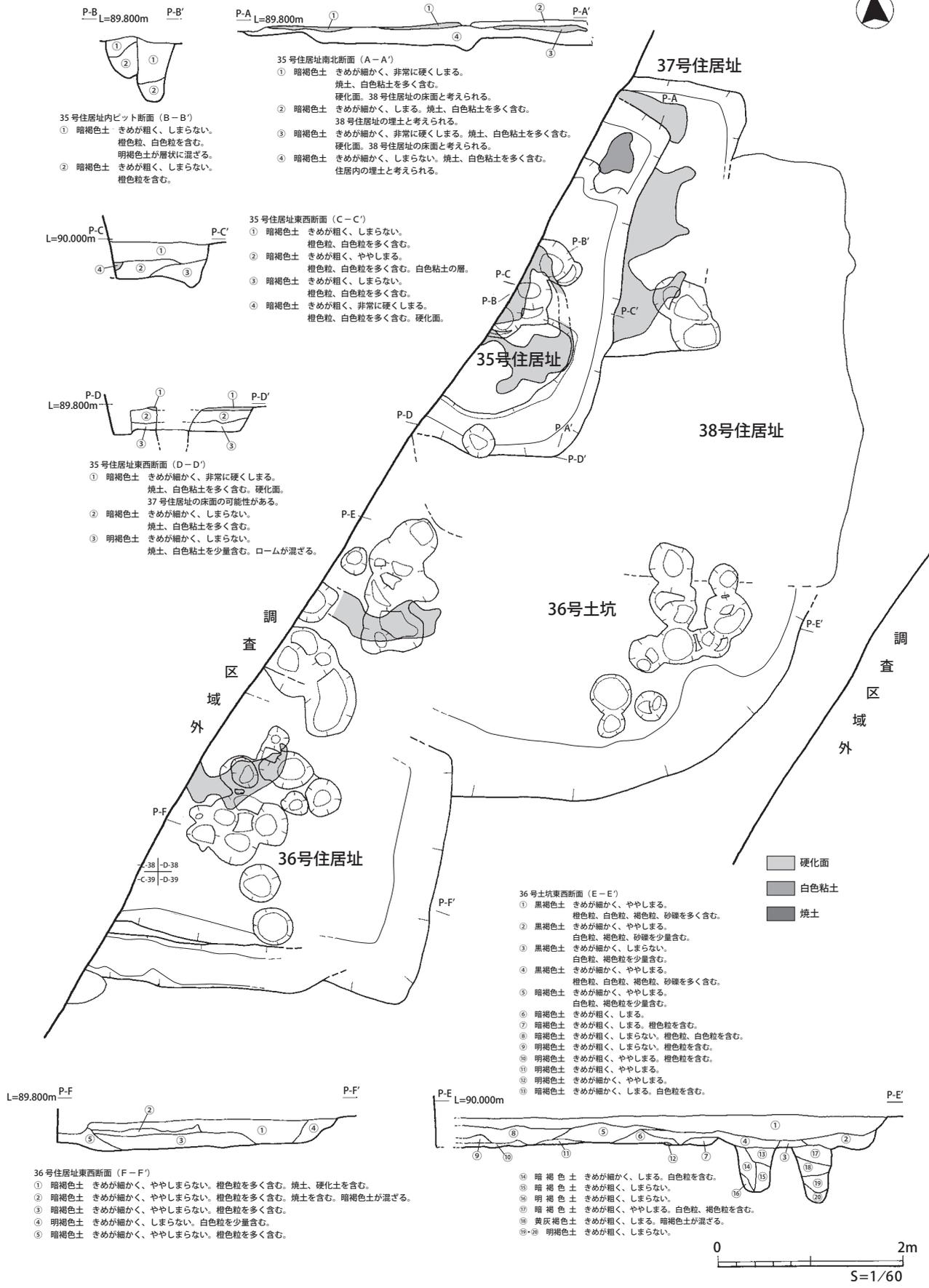
他の住居址と切り合っており、中央で硬化面が確認された。南北3.6mを測る。南側壁では壁周溝がめぐるが、別遺構の可能性はある。カマド、柱穴は確認されなかった。

37号住居址【第309・311図】

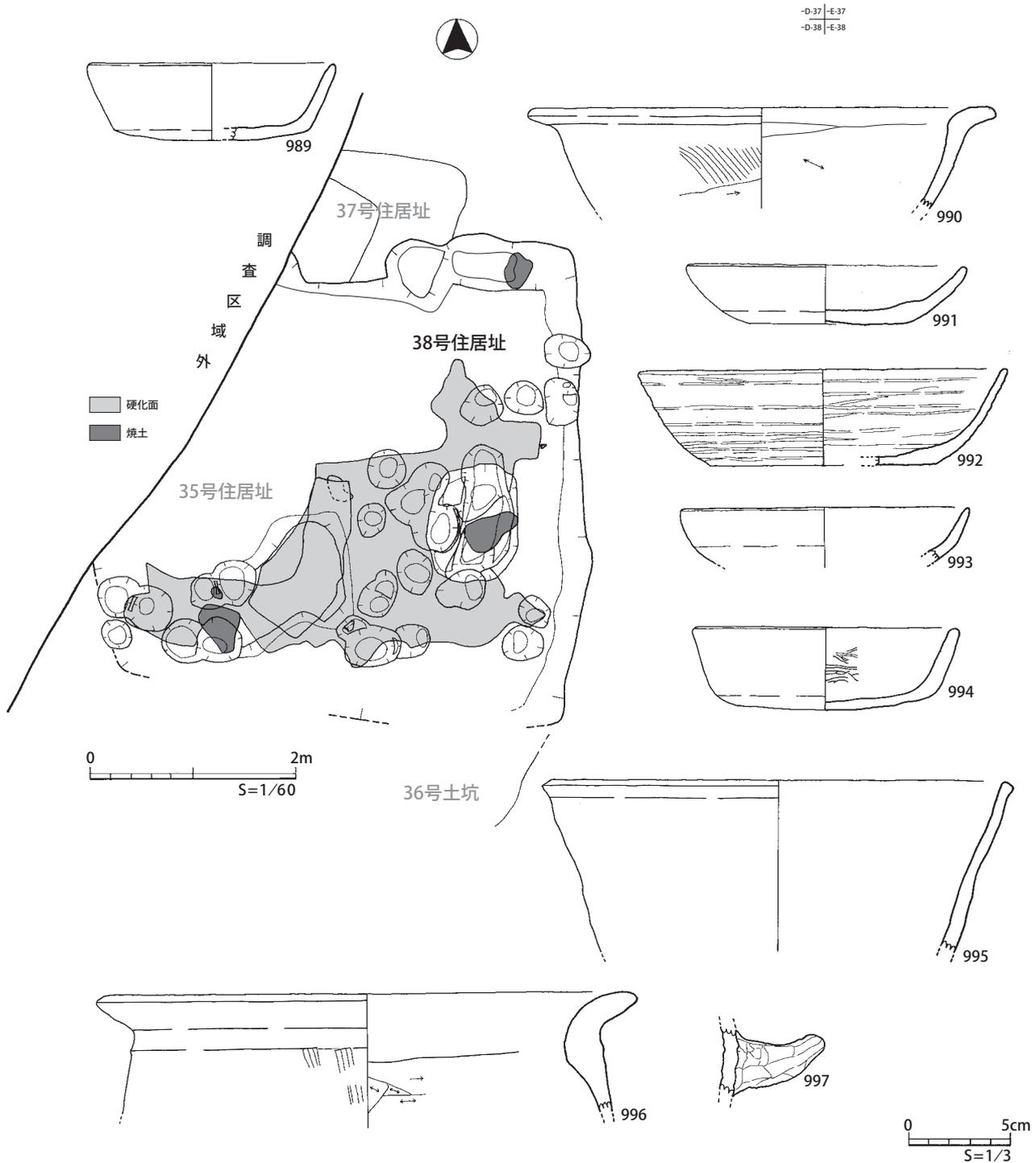
他の住居址と切り合っており、北東隅付近のみ検出された。硬化面が残存するが、カマド、柱穴、壁周溝は確認されなかった。35、38号住居址に切られており、最も古い住居址と考えられる。

38号住居址【第310・311図】

他の住居址と切り合っており、東壁付近が確認された。東西4.7mを測る。硬化面が残存するが、カマド、柱穴は確認されず、北側壁で壁周溝がわずかに確認された。35号住居址に切られていると推測される。



第309図 35～38号住居址、36号土坑実測図



第310図 38号住居址実測図、35・37・38号住居址、36号土坑出土遺物実測図

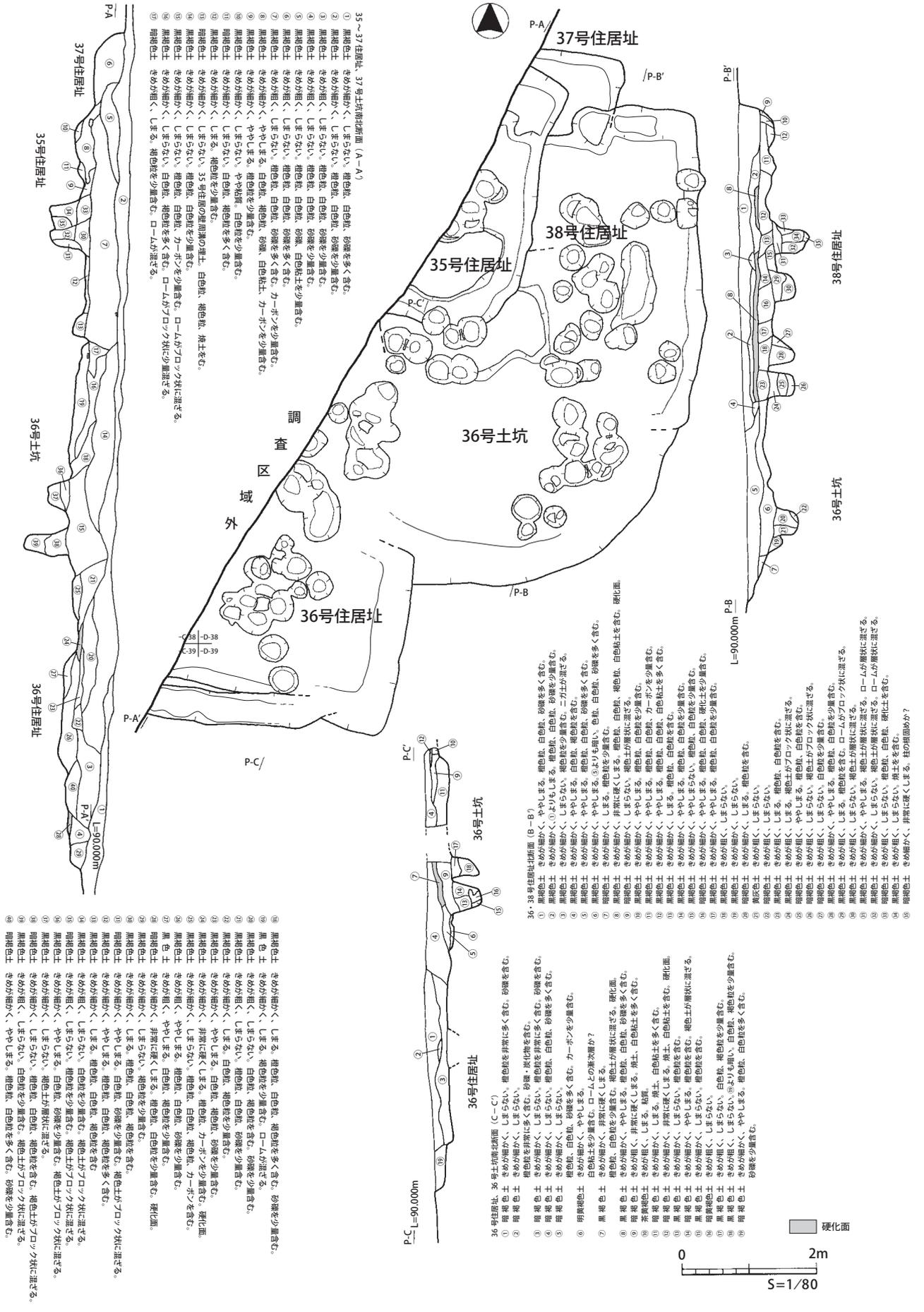
【道路】

73号道路【第312図】

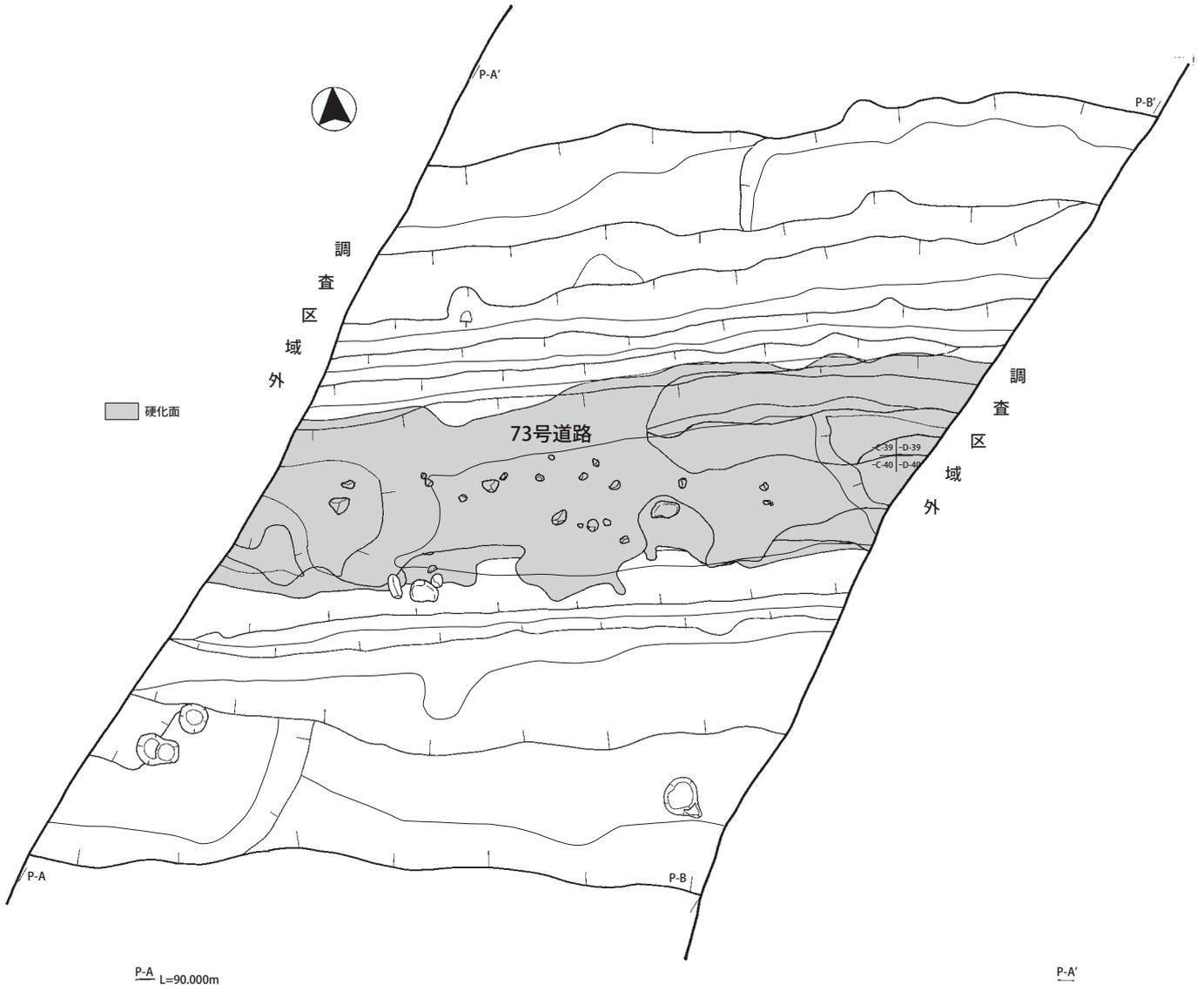
東西方向に延びる。残長6.0m、検出面幅7.0m、底部幅1.1m、深さ1.2mを測る。側溝、波板状凹凸面などは検出されなかったが、複数の硬化面が確認された。幅の広い溝の底部は、部分的に溝状の深掘りがされている。

74号道路【第313図】

東西方向に延びる。残長5.8m、検出面幅1.2～1.65m、底部幅0.9～1.35m、深さ0.2mを測る。帯状硬化面が検出された。100号溝に切られている。



第311図 35～38号住居址、36号土坑完掘状況



73号道路南北断面 (A-A')

- ① 黒褐色土 きめが粗く、しまる。橙色粒、白色粒、砂礫を含む。
- ② 黒褐色土 きめが粗く、ややしまる。橙色粒、白色粒、砂礫を少量含む。
- ③ 暗褐色土 きめが粗く、ややしまる。
- ④ 黒褐色土 きめが粗く、非常に硬くしまる。粘質。橙色粒を多く含む。硬化面。
- ⑤ 暗褐色土 きめが粗く、ややしまる。橙色粒を少量含む。ロームがブロック状に混ざる。
- ⑥ 黒褐色土 きめが粗く、ややしまらない。褐色土がブロック状に混ざる。
- ⑦ 黒褐色土 きめが細かく、しまる。褐色土がブロック状に混ざる。
- ⑧ 黒褐色土 きめが細かく、しまる。
- ⑨ 黒褐色土 きめが細かく、しまらない。橙色粒、白色粒、砂礫を多く含む。
- ⑩ 黒褐色土 きめが細かく、しまらない。褐色土がブロック状に混ざる。
- ⑪ 黒褐色土 きめが細かく、非常に硬くしまる。橙色粒、白色粒、砂礫を多く含む。硬化面。

- ⑫ 黒褐色土 きめが細かく、しまらない。褐色土がブロック状に混ざる。
- ⑬ 暗褐色土 きめが細かく、しまる。
- ⑭ 黒褐色土 きめが細かく、非常に硬くしまる。粘質。橙色粒、白色粒、砂礫を多く含む。硬化面。
- ⑮ 暗褐色土 きめが細かく、ややしまる。褐色土がブロック状に混ざる。
- ⑯ 暗褐色土 きめが細かく、しまる。
- ⑰ 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。褐色土がブロック状に混ざる。
- ⑱ 暗褐色土 きめが細かく、しまる。
- ⑲ 黒褐色土 きめが粗く、ややしまる。褐色土がブロック状に混ざる。
- ⑳ 暗褐色土 きめが粗く、しまらない。褐色土がブロック状に混ざる。

P-B L=90.000m



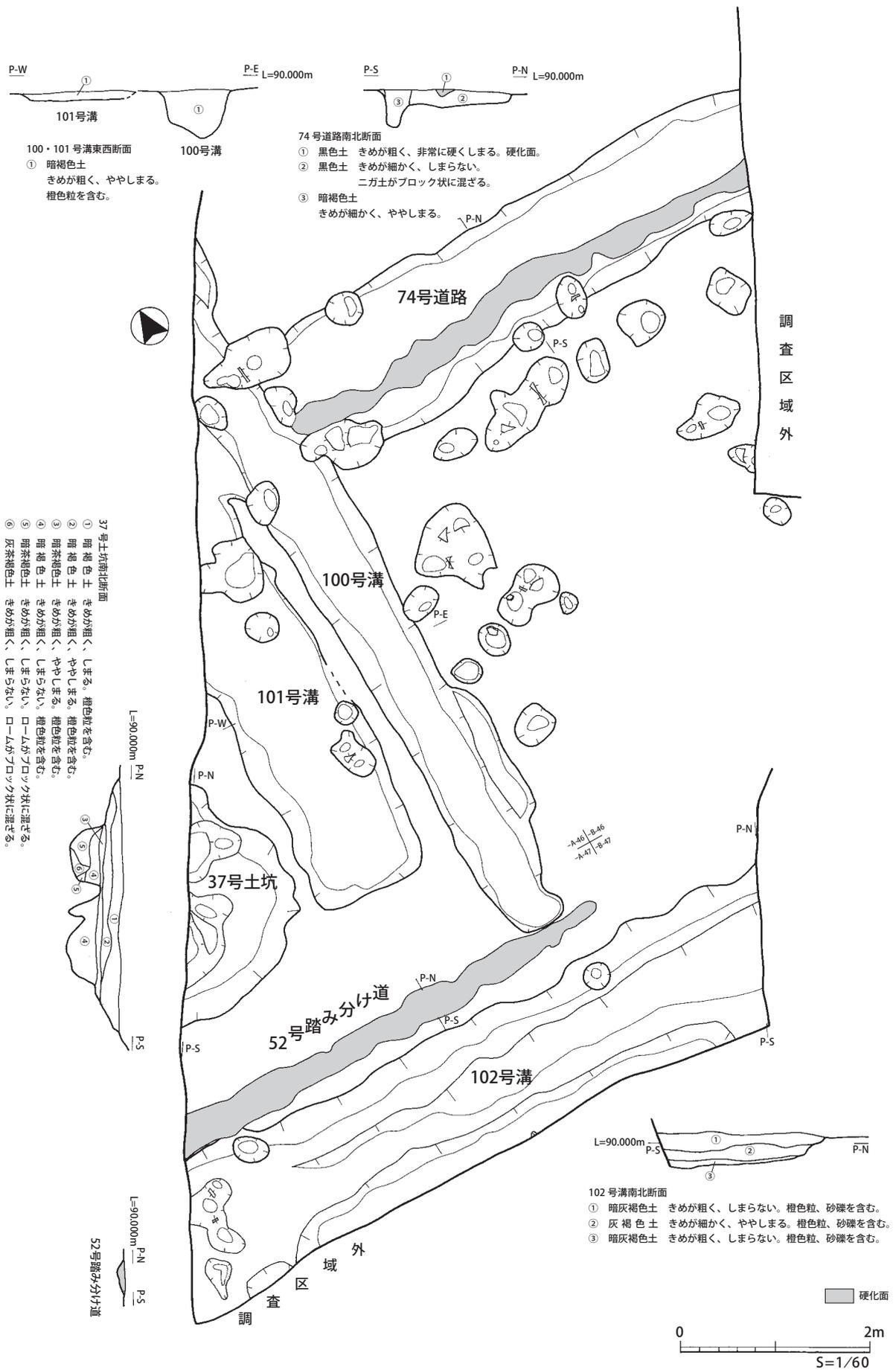
73号道路南北断面 (B-B')

- ① 黒褐色土 きめが粗く、しまらない。
- ② 黒褐色土 きめが粗く、ややしまる。褐色粒、白色粒、砂礫を少量含む。
- ③ 黒褐色土 きめが粗く、非常に硬くしまる。褐色粒、白色粒、砂礫を少量含む。硬化面。
- ④ 暗褐色土 きめが粗く、しまる。粘質。褐色土を多く含む。
- ⑤ 黒褐色土 きめが粗く、ややしまる。褐色土を少量含む。ロームがブロック状に混ざる。
- ⑥ 黒褐色土 きめが粗く、非常に硬くしまる。褐色粒、白色粒、砂礫を少量含む。硬化面。
- ⑦ 黒褐色土 きめが粗く、非常に硬くしまる。褐色粒、白色粒、砂礫を少量含む。硬化面。
- ⑧ 黒褐色土 きめが細かく、しまる。褐色土を少量含む。
- ⑨ 黒褐色土 きめが細かく、しまらない。
- ⑩ 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。褐色土を少量含む。
- ⑪ 暗褐色土 きめが粗く、非常に硬くしまる。褐色粒、白色粒、砂礫を多く含む。硬化面。
- ⑫ 暗褐色土 きめが細かく、しまる。褐色土がブロック状に混ざる。
- ⑬ 黒褐色土 きめが粗く、非常に硬くしまる。褐色土がブロック状に混ざる。

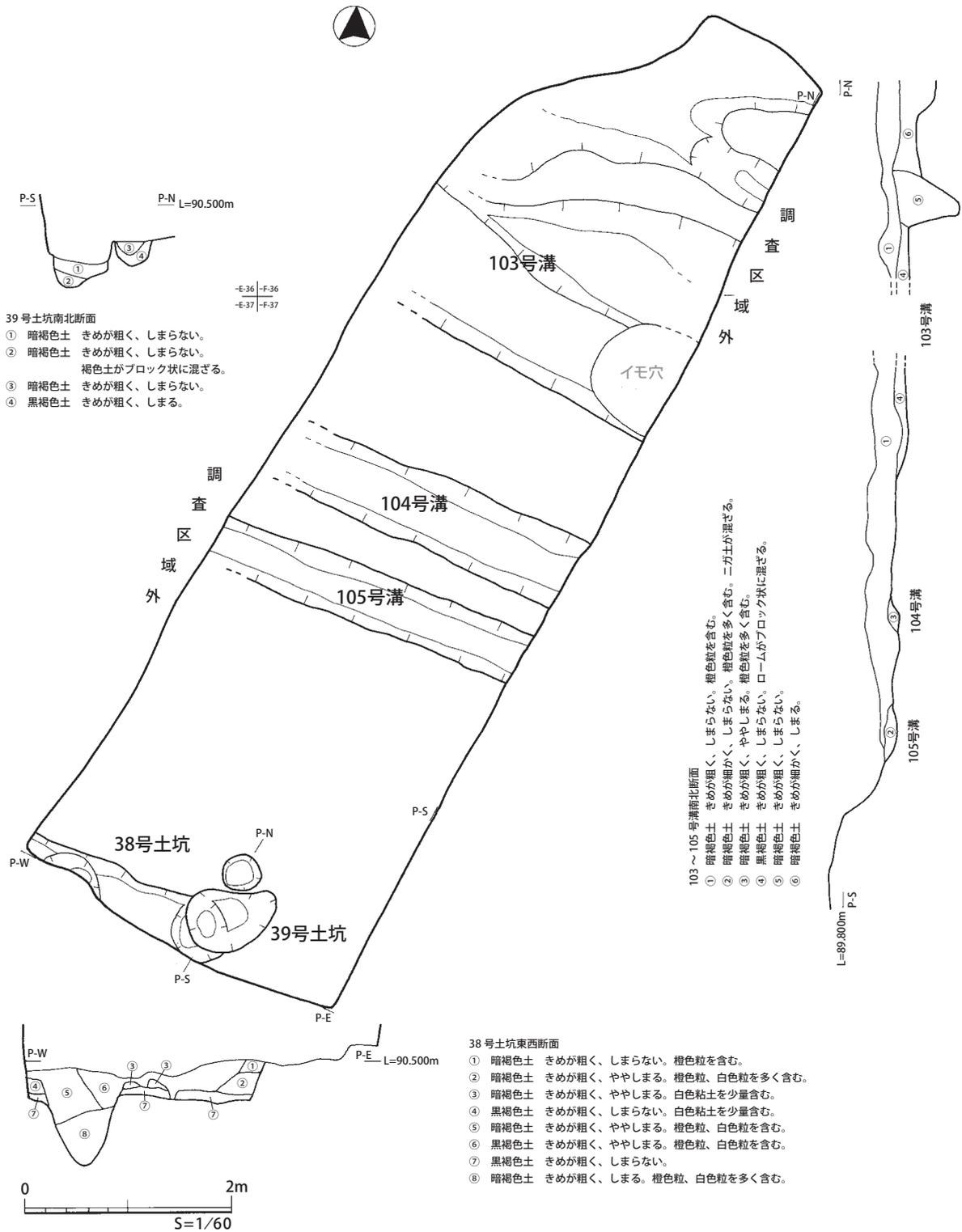
- ⑭ 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。
- ⑮ 暗褐色土 きめが細かく、非常に硬くしまる。褐色粒、白色粒を多く含む。硬化面。
- ⑯ 暗褐色土 きめが細かく、しまる。
- ⑰ 暗褐色土 きめが粗く、非常に硬くしまる。硬化面。
- ⑱ 黒褐色土 きめが粗く、非常に硬くしまる。褐色粒、白色粒、砂礫を多く含む。硬化面。
- ⑲ 黒褐色土 きめが粗く、しまらない。ロームがブロック状に混ざる。
- ⑳ 黒褐色土 きめが粗く、常に硬くしまる。ロームがブロック状に混ざる。硬化面。



第312図 73号道路実測図



第313図 74号道路、100～102号溝、52号踏み分け道、37号土坑実測図



第314図 103～105号溝、38・39号土坑実測図

【溝】

100号溝【第313図】

南北方向に延びる。残長7.9m、検出面幅0.75～0.9m、底部幅0.4m、深さ0.55mを測る。

101号溝【第313図】

南北方向に延びる。残長4.5m、検出面幅1.3m、底部幅1.0mを測る。

102号溝【第313図】

東西方向に延びる。残長6.9m、南端は調査区外のため、幅は不明。

**103号溝【第314図】**

北西⇔南東方向に延びる。残長3.0m、深さ0.35mを測る。いびつなため検出面幅、底部幅不明であり、溝状遺構かどうか不明。

**104号溝【第314図】**

北西⇔南東方向に延びる。残長3.2m、検出面幅0.7m、底部幅0.4m。

**105号溝【第314図】**

北西⇔南東方向に延びる。残長3.2m、検出面幅0.55m、底部幅0.2～0.3mを測る。104、105号溝は、併行して検出された。

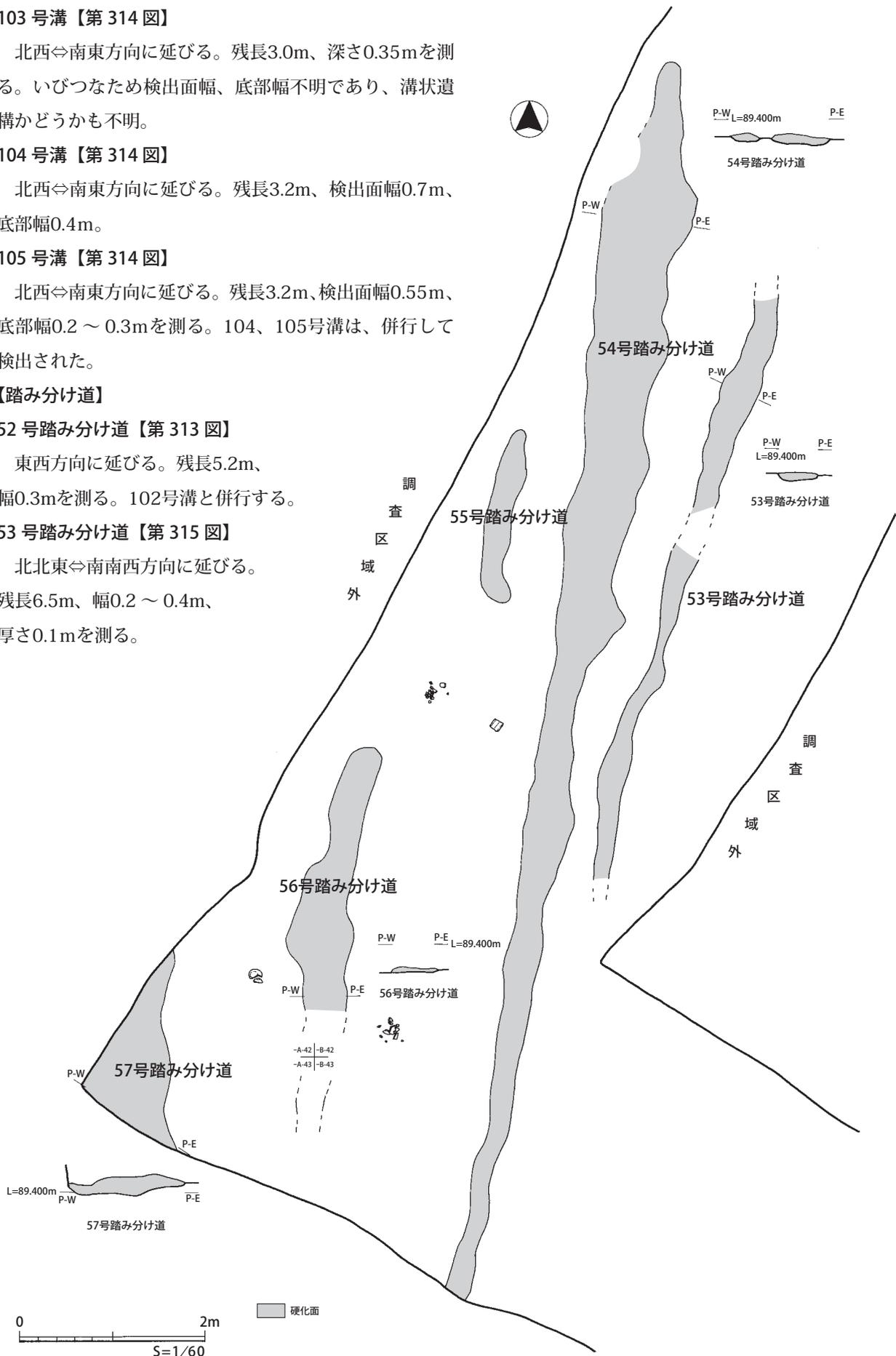
**【踏み分け道】**

**52号踏み分け道【第313図】**

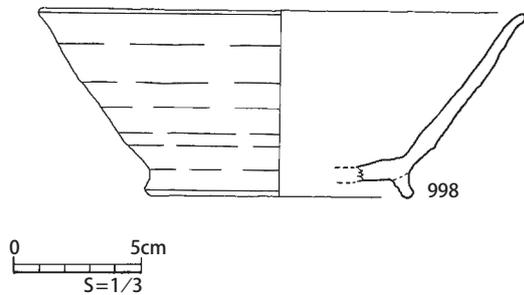
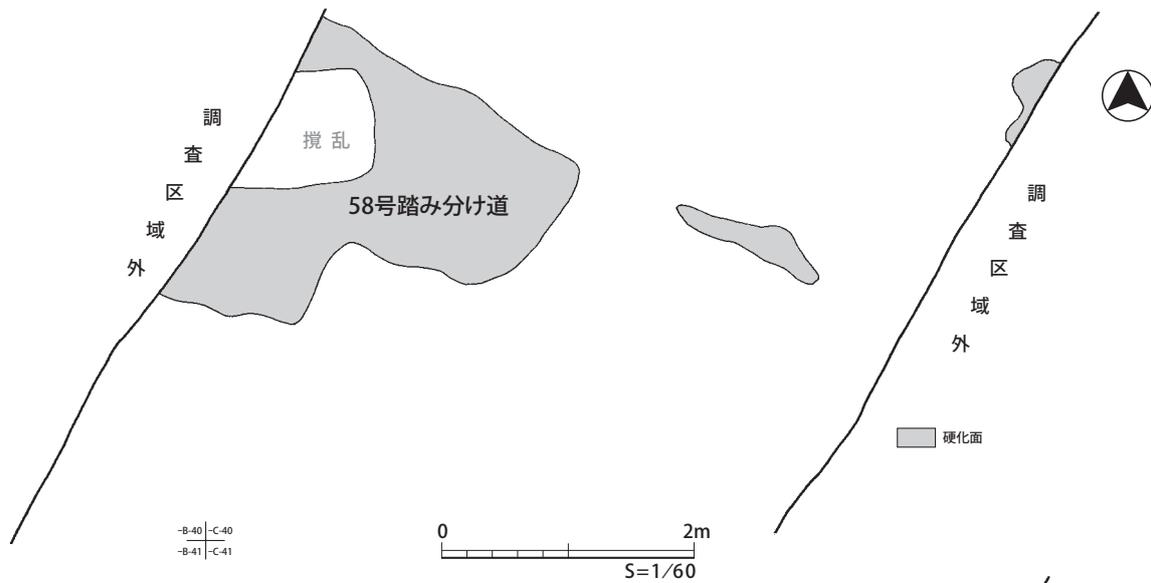
東西方向に延びる。残長5.2m、幅0.3mを測る。102号溝と併行する。

**53号踏み分け道【第315図】**

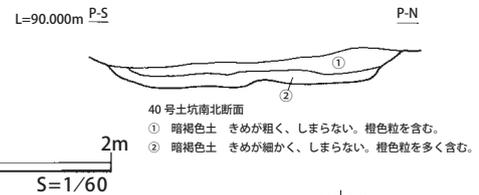
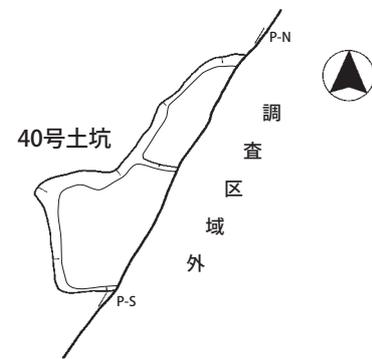
北北東⇔南南西方向に延びる。残長6.5m、幅0.2～0.4m、厚さ0.1mを測る。



第315図 53～57号踏み分け道実測図



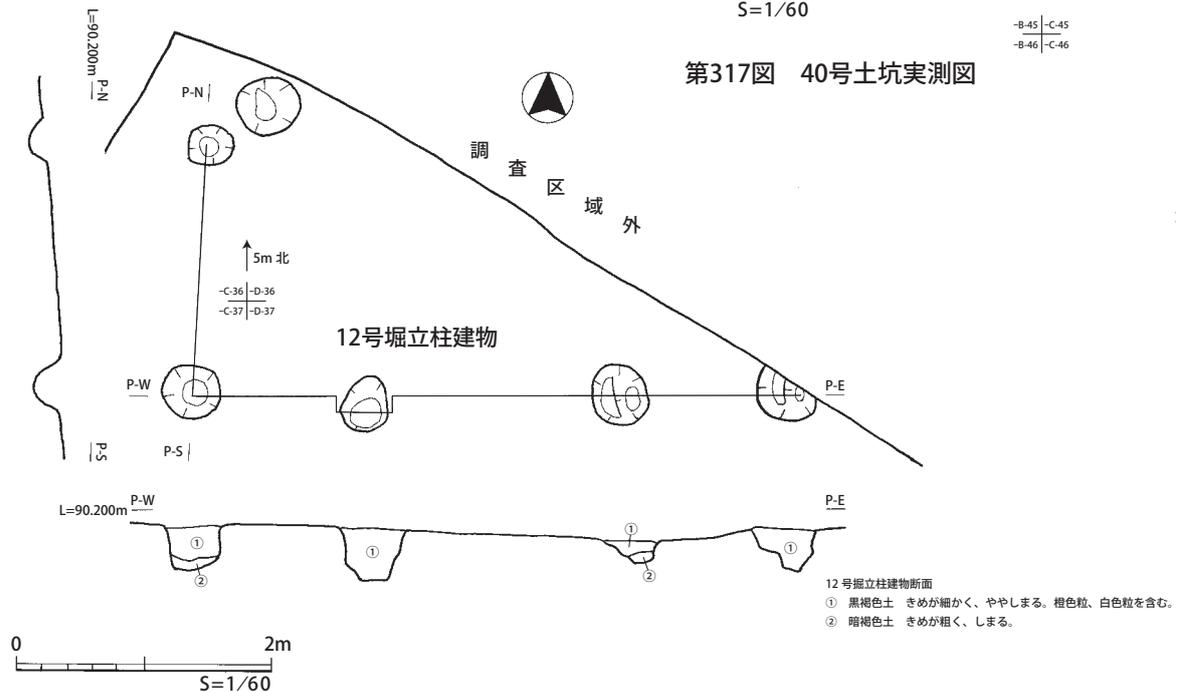
第316図 58号踏み分け道実測図  
58号踏み分け道出土遺物実測図



- 40号土坑南北断面  
① 暗褐色土 きめが粗く、しまらない。橙色粒を含む。  
② 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。橙色粒を多く含む。

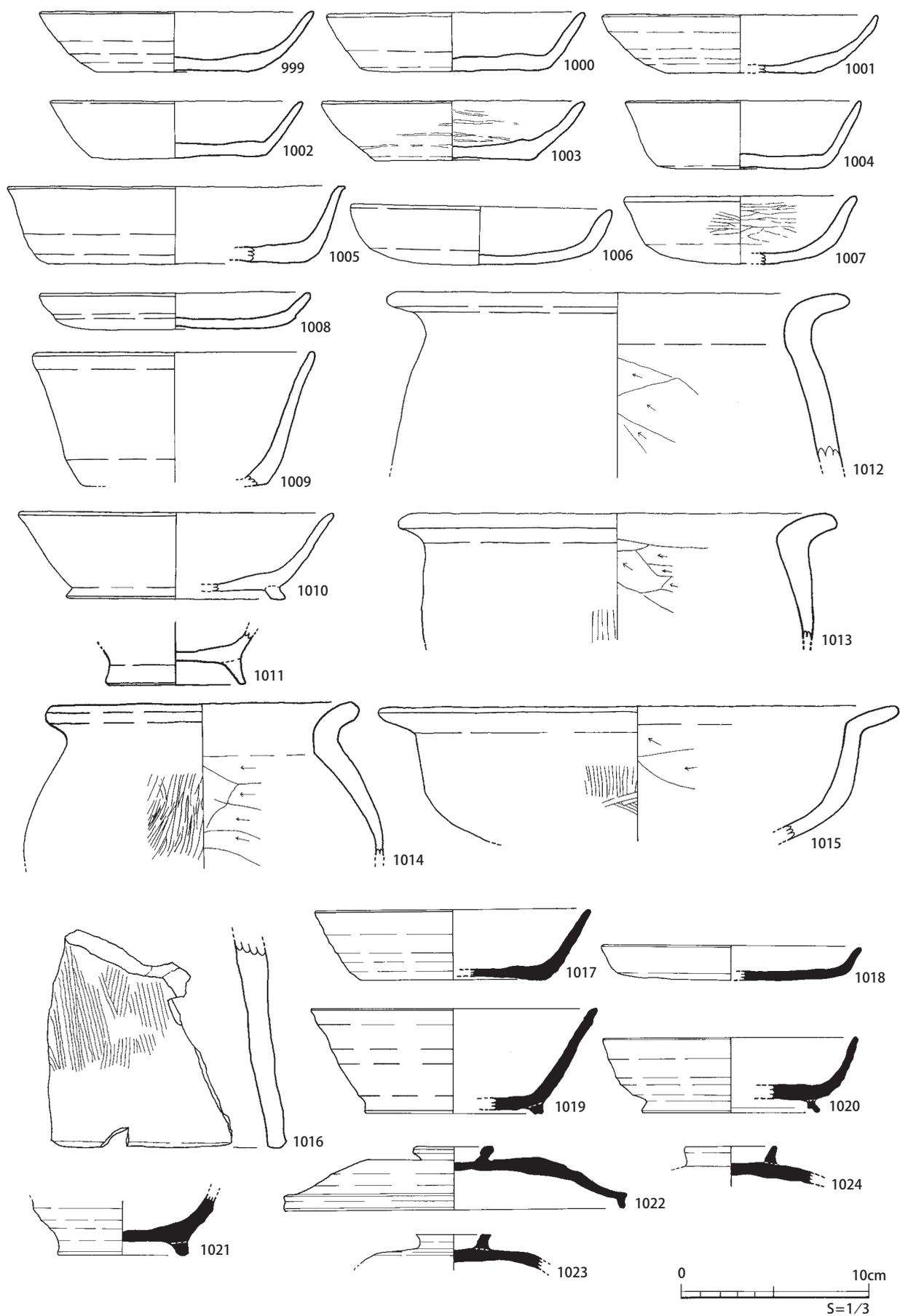
-B-45|-C-45  
-B-46|-C-46

第317図 40号土坑実測図

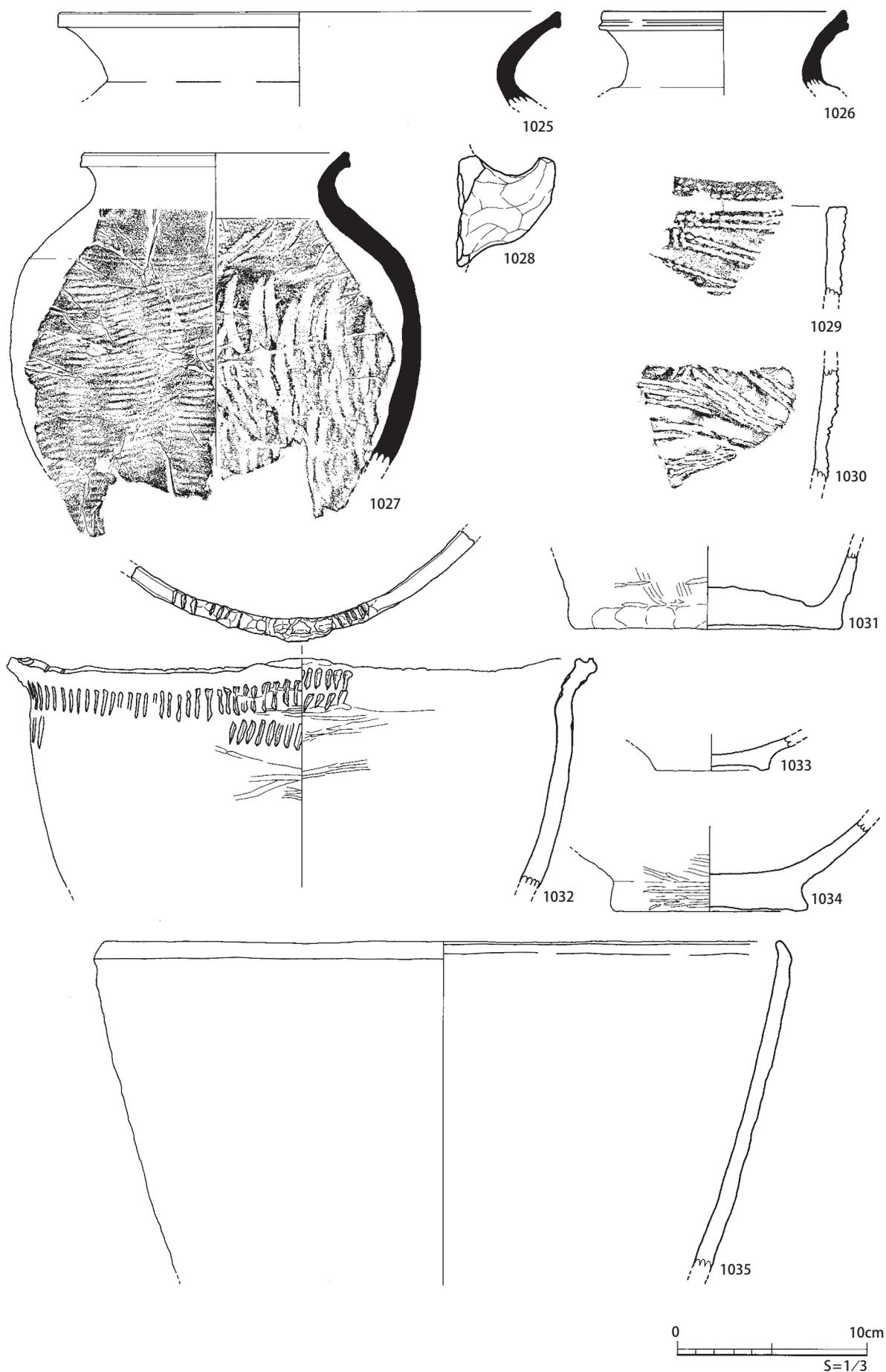


- 12号掘立柱建物断面  
① 黒褐色土 きめが細かく、ややしまる。橙色粒、白色粒を含む。  
② 暗褐色土 きめが粗く、しまる。

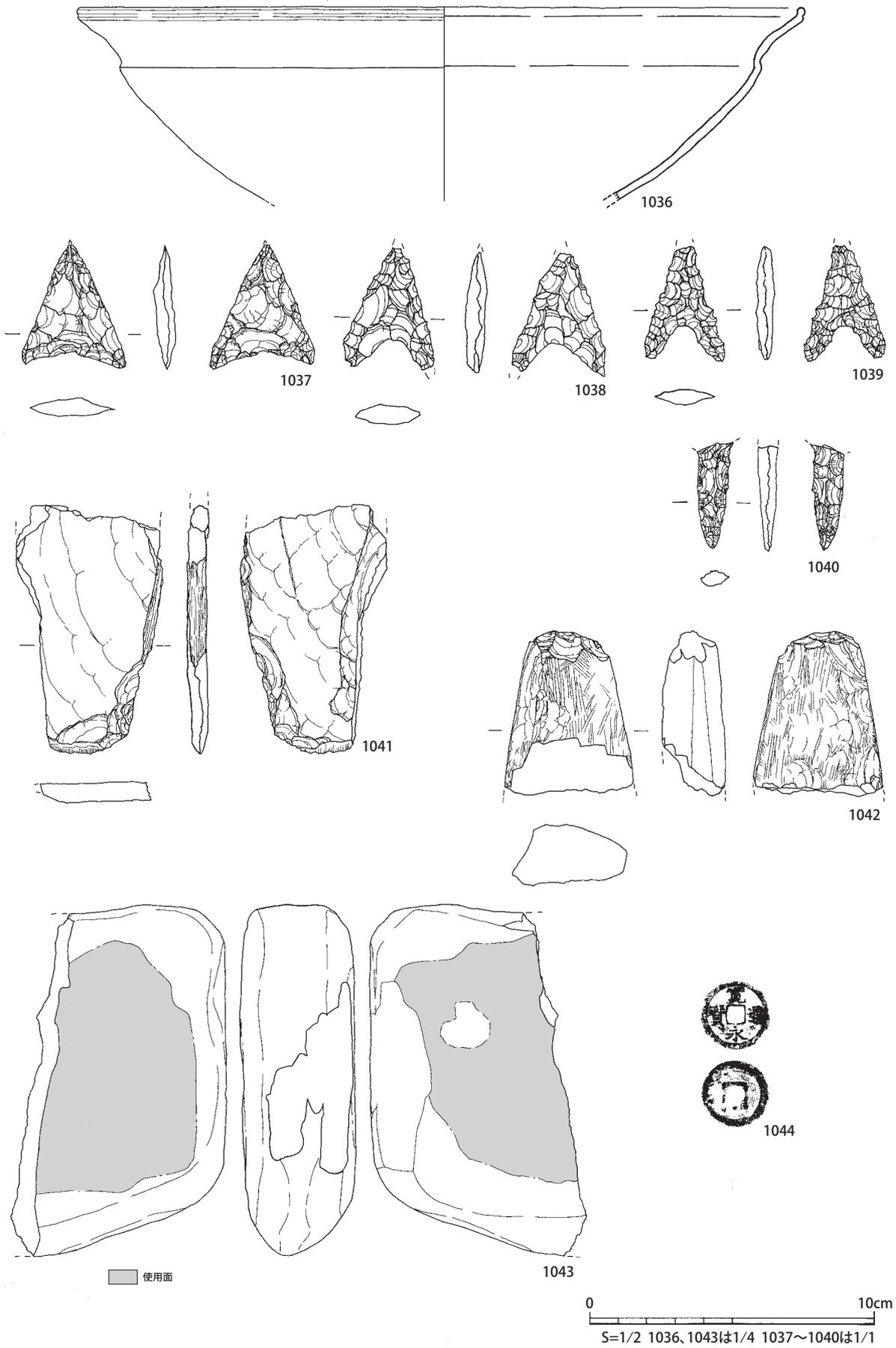
第318図 12号掘立柱建物実測図



第319图 D-12区出土遗物实测图



第320図 D-12区出土遺物実測図



第321図 D-12区出土遺物実測図

**54号踏み分け道【第315図】**

北北東⇨南南西方向に延びる。残長13.6m、幅0.2～1.0m、厚さ0.1mを測る。北側で幅が広がる。

**55号踏み分け道【第315図】**

北北東⇨南南西方向に伸びる。残長1.9m、幅0.3mを測る。残存状況が悪く、他の踏み分け道に伴うものかもしれない。

**56号踏み分け道【第315図】**

北北東⇨南南西方向に延びる。残長4.2m、幅0.4～0.7m、厚さ0.05mを測る。

**57号踏み分け道【第315図】**

ほぼ調査区域外のため、幅などは不明。深さ0.2mを測る。

**58号踏み分け道【第316図】**

硬化面の広がりであるが、いびつに広がり住居址か踏み分け道か判別はできない。

**【土坑】**

**35号土坑【第308図】**

直径1.05m、深さ0.25mを測る。34号住居址を切っているが、関連する遺構かどうかは不明。

**36号土坑【第309・311図】**

35～38号住居址と切り合っており、南東端でしか確認できなかった大型の円形の土坑。直径は最低でも5m以上あると思われ、深さ0.4mを測る。遺構の性格は不明。

**37号土坑【第313図】**

直径2.5m、深さ0.5mを測る、ややいびつな平面円形と推測される。

**38号土坑【第314図】**

ほとんどが調査区域外のため、プランは不明。

**39号土坑【第314図】**

長軸0.9m×短軸0.6mのいびつな楕円形。深さ0.25mを測る。38号土坑を切っている。遺構の性格は不明。

**40号土坑【第317図】**

いびつな平面形状を呈し、深さ0.2mを測る。

**【掘立柱建物】**

**12号掘立柱建物【第318図】**

南北1間×東西3間が残存する。柱間は1.4～2.0mを測る。

# D-13区

## 調査の成果

### 【溝】

#### 106号溝【第323図】

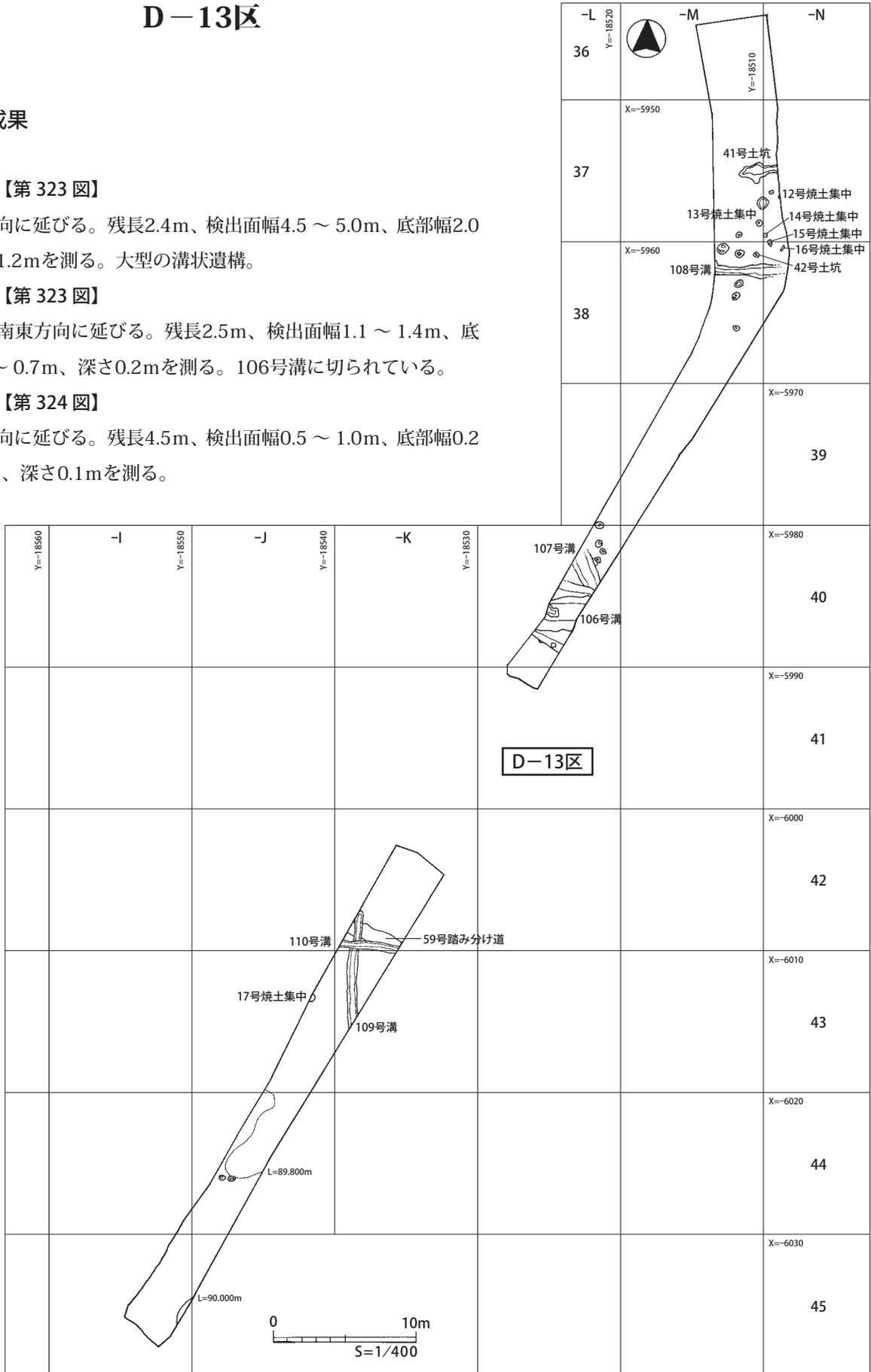
東西方向に延びる。残長2.4m、検出面幅4.5～5.0m、底部幅2.0m、深さ1.2mを測る。大型の溝状遺構。

#### 107号溝【第323図】

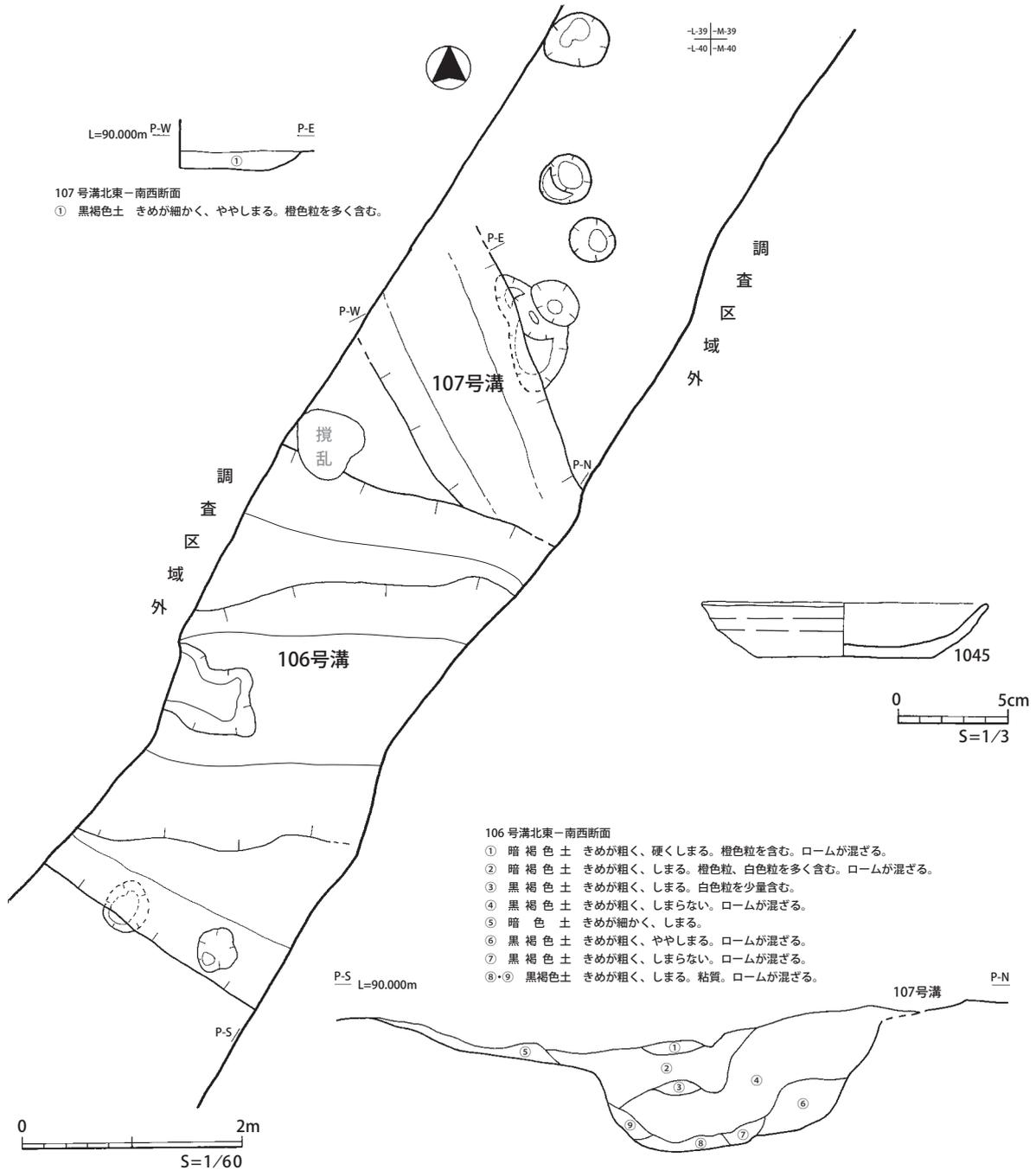
北西⇔南東方向に延びる。残長2.5m、検出面幅1.1～1.4m、底部幅0.5～0.7m、深さ0.2mを測る。106号溝に切られている。

#### 108号溝【第324図】

東西方向に延びる。残長4.5m、検出面幅0.5～1.0m、底部幅0.2～0.55m、深さ0.1mを測る。



第322図 D-13区遺構配置図



第323図 106・107号溝実測図、106号溝出土遺物実測図

109号溝【第325図】

南北方向に延びる。残長8.2m、検出面幅0.5～0.7m、底部幅0.4m、深さ0.25mを測る。

110号溝【第325図】

東西方向に延びる。残長4.0m、検出面幅0.6m、底部幅0.4m、深さ0.3mを測る。109号溝を切っている。

【踏み分け道】

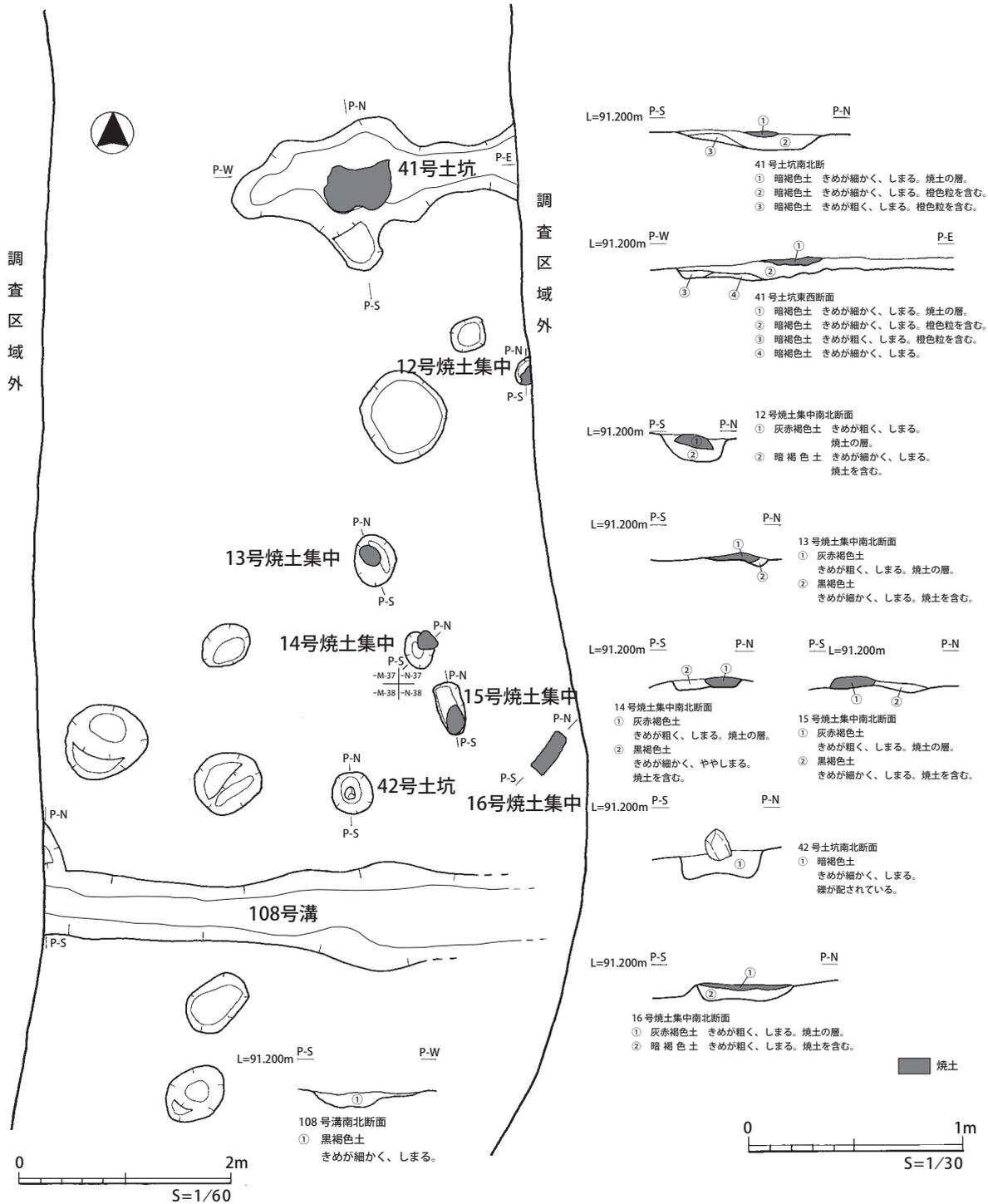
59号踏み分け道【第325図】

西北西⇄東南東方向に延びる。残長3.6m、検出面幅0.9mを測る。109、110号道路に切られている。

【土坑】

41号土坑【第324図】

いびつな平面形状の土坑。東西幅は不明だが、最も幅広い箇所での南北幅は1.5mを測る。遺構の性格は不明だが、調査区域外に溝状遺構として延びる可能性がある。



第324図 108号溝、41・42号土坑、12～16号焼土集中実測図

42号土坑【第324図】

直径0.4m、深さ0.1mを測る浅い土坑。礫が配されている。

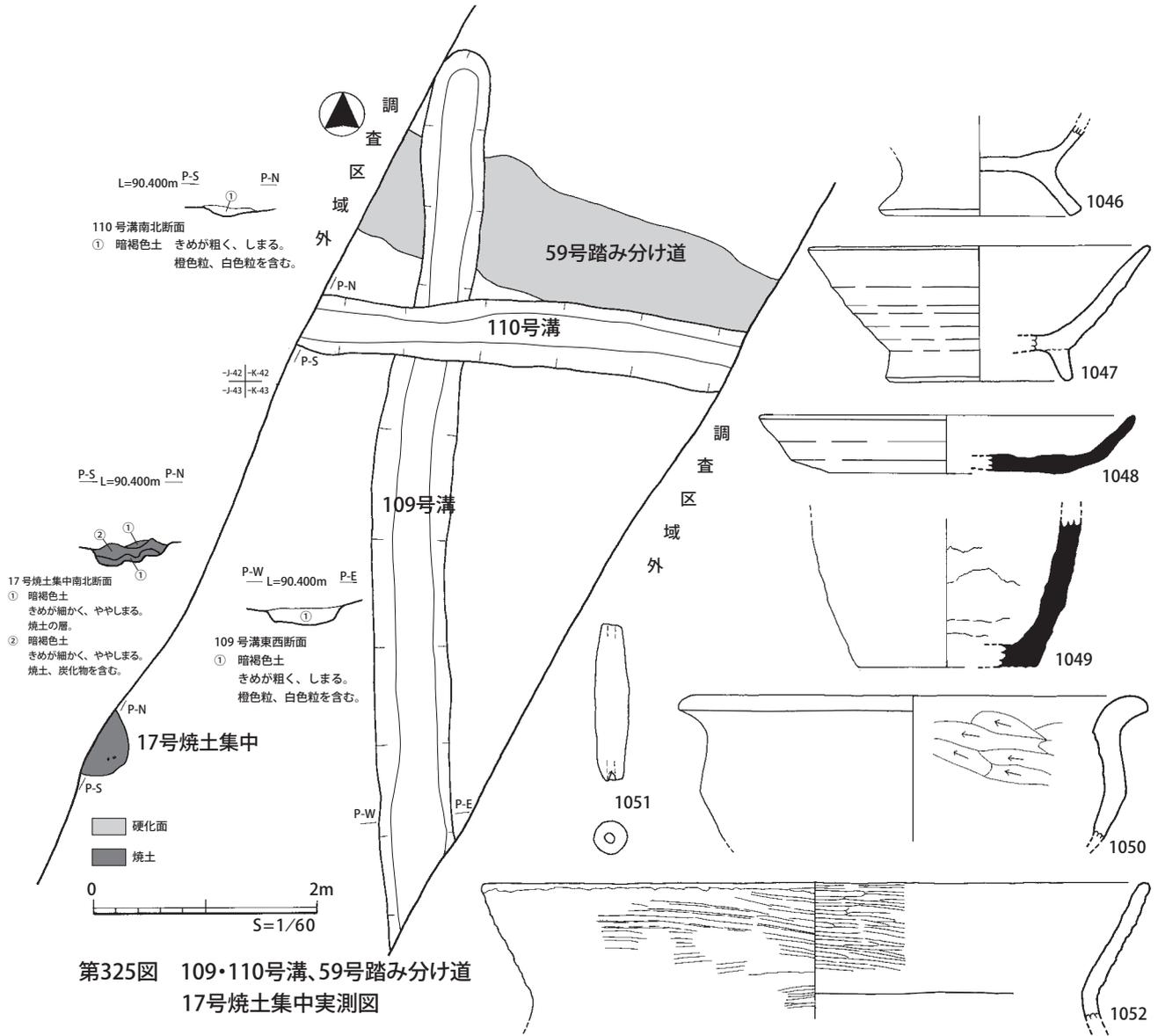
【焼土集中】

12～16号焼土集中【第324図】

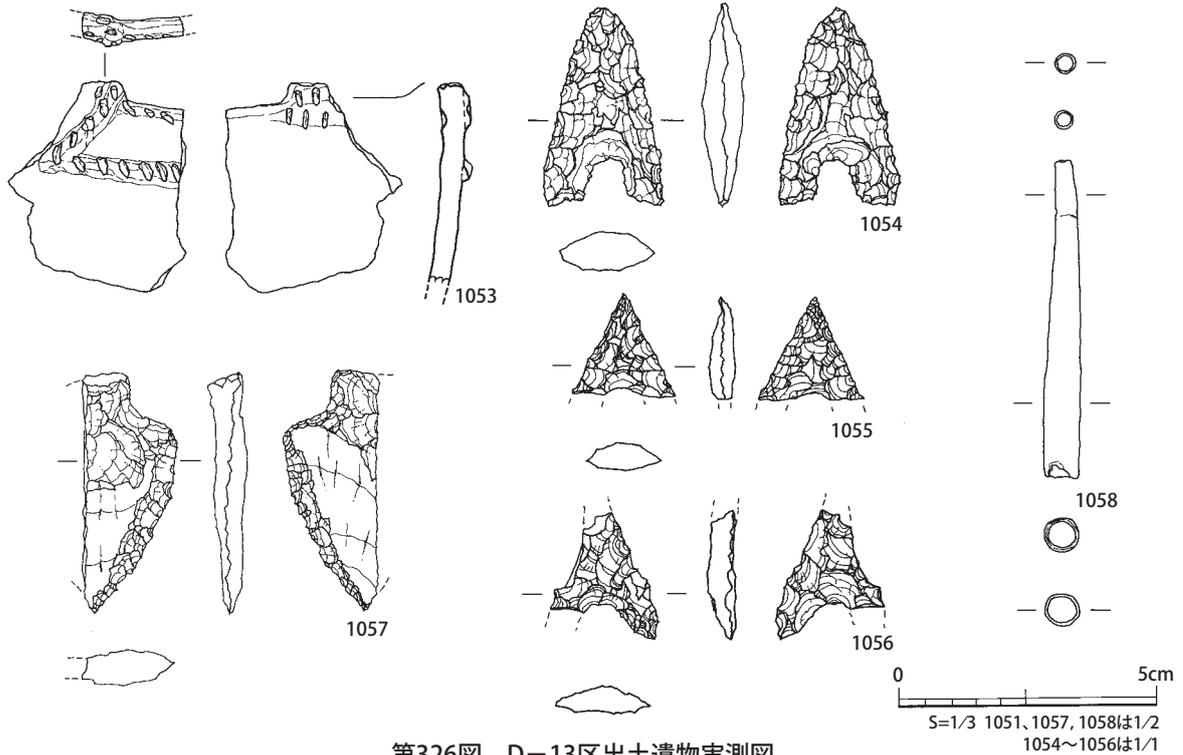
いずれも直径0.3～0.5m程度のごく浅い土坑で、焼土の集中が確認された。規則性がなく、掘立柱建物などの可能性は少ない。

17号焼土集中【第325図】

長軸0.65mの焼土の集中。一部炭化物を含む。

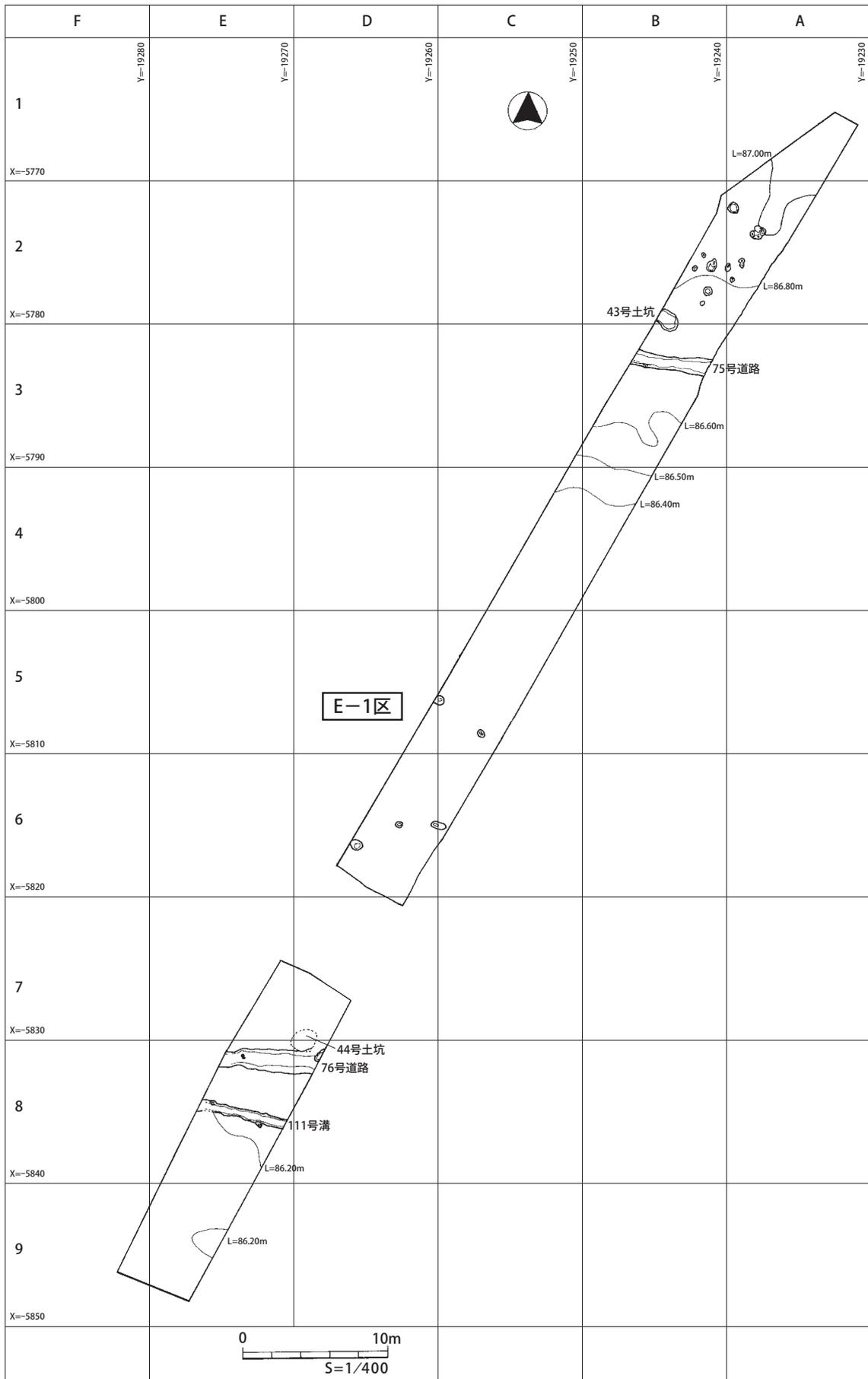


第325図 109・110号溝、59号踏み分け道  
17号焼土集中実測図

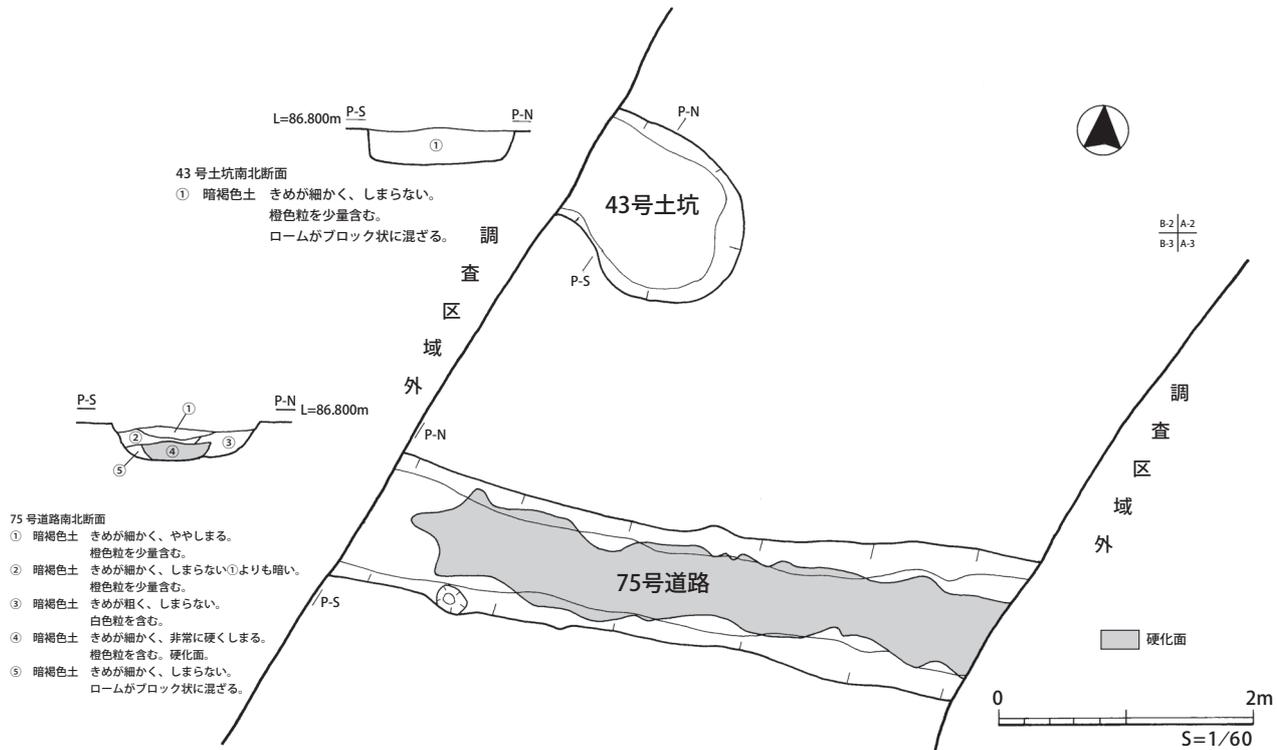


第326図 D-13区出土遺物実測図

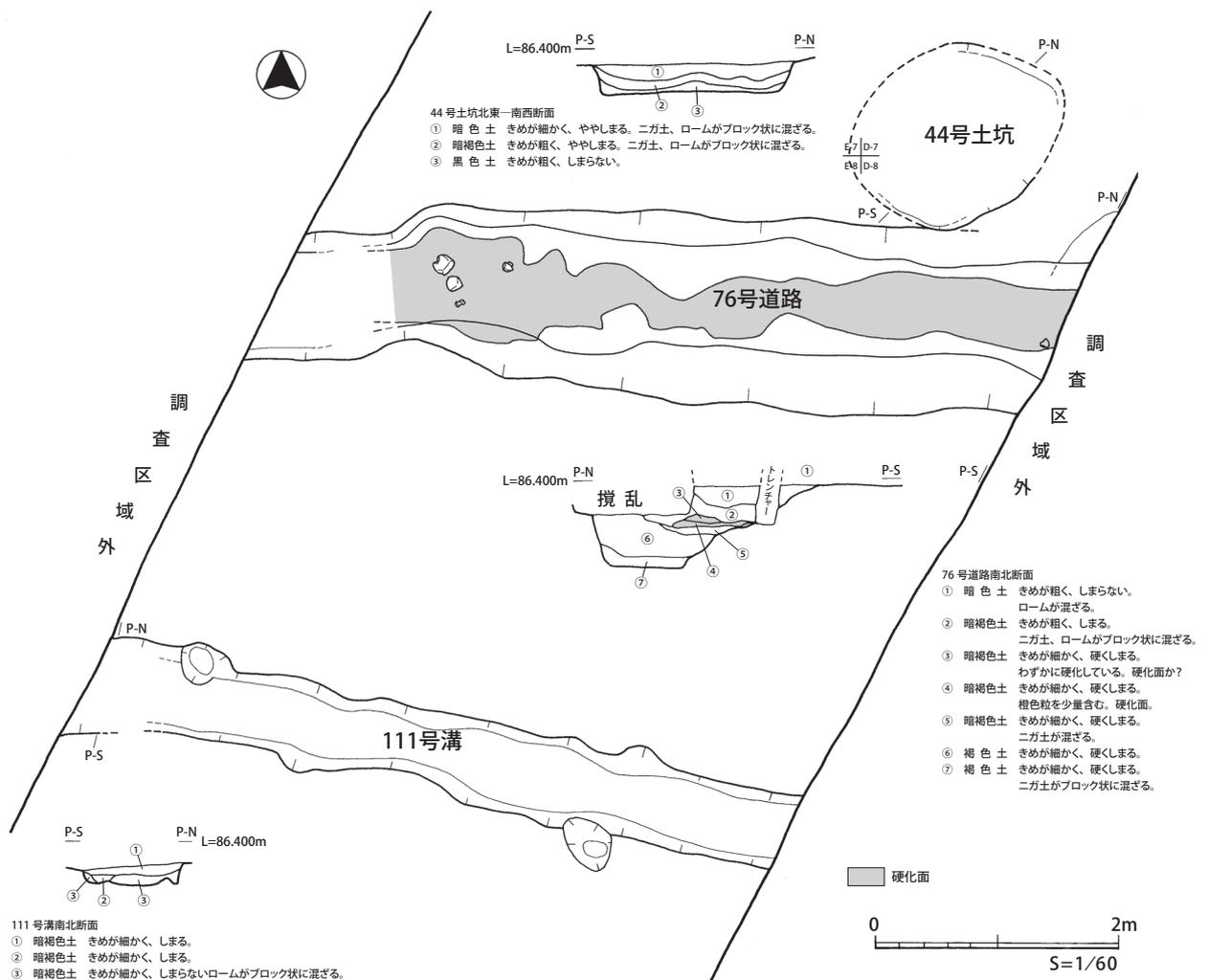
# E-1区



第327图 E-1区遺構配置図



第328図 75号道路、43号土坑実測図



第329図 76号道路、111号溝、44号土坑実測図

## 調査の成果

### 【道路】

#### 75号道路【第328図】

西北西⇨東南東方向に延びる。残長5.0m、検出面幅1.0～1.25m、底部幅0.6～0.8m、深さ0.3mを測る。硬化面が検出され、道路として使用されたと推測される。

#### 76号道路【第329図】

東西方向に延びる。残長6.6m、検出面幅1.0～1.6m、底部幅0.8～1.0m、深さ0.4mを測る。硬化面が検出され、道路として使用されたと推測される。

### 【溝】

#### 111号溝【第329図】

西北西⇨東南東方向に延びる。残長5.8m、検出面幅0.6m、底部幅0.3～0.45m、深さ0.2mを測る。

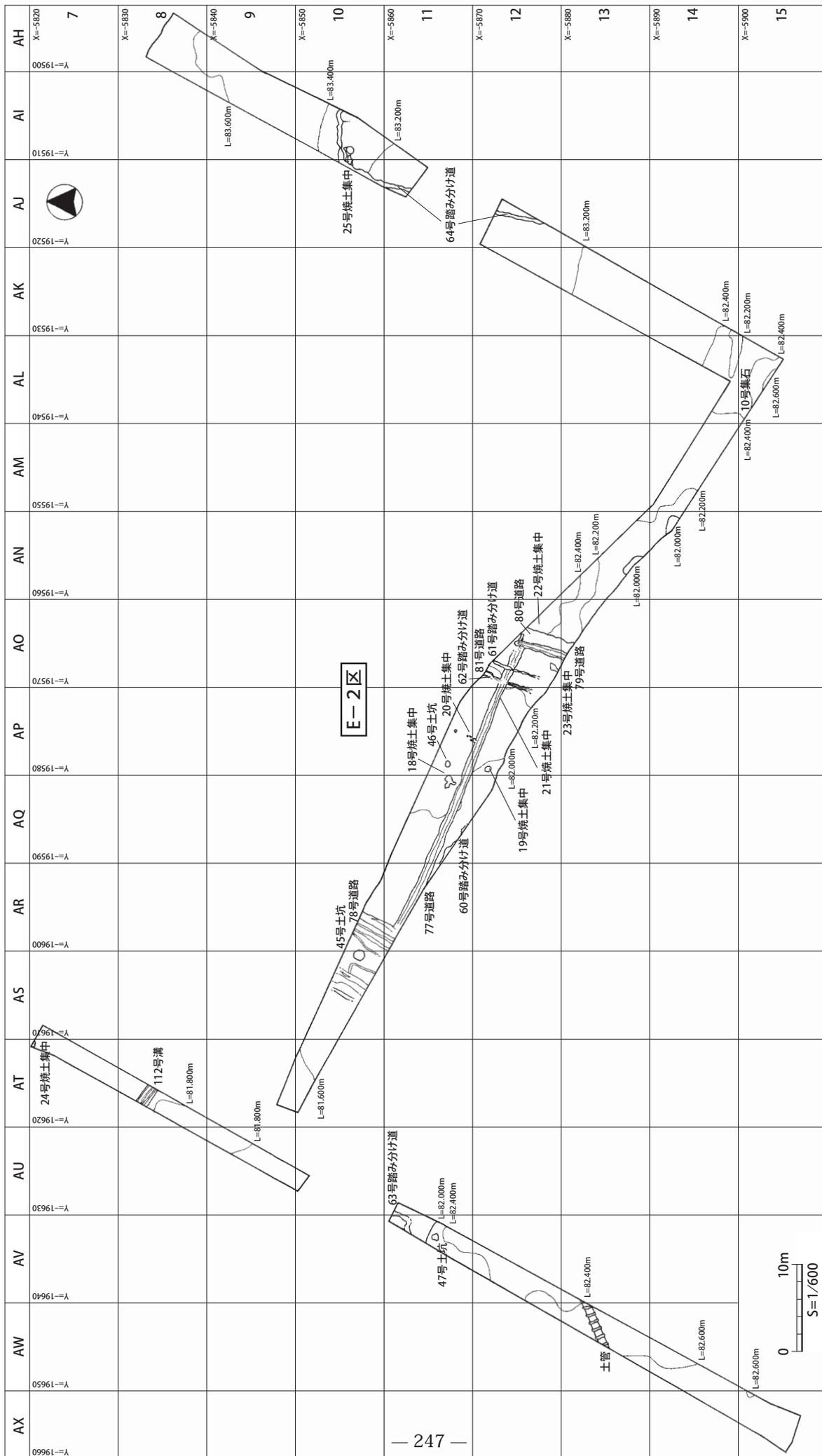
### 【土坑】

#### 43号土坑【第328図】

一部調査区域外であり、最大幅1.3m、深さ0.3mを測る。

#### 44号土坑【第329図】

直径1.6mのややいびつな楕円形を呈する。深さ0.25mを測る。76号道路に隣接している。



第330図 E-2区遺構配置図

## E-2区

### 調査の成果

#### 【道路】

##### 77号道路【第331・332図】

北西⇔南東方向に延びる。残長36.5m、検出面幅1.1m、底部幅0.6m、深さ0.8mを測る。側溝、波板状凹凸面などは検出されなかったが、複数の硬化面が検出され、非常に長く伸びる道路として使用されたと推測される。

##### 78号道路【第333図】

北東⇔南西方向に延びる。残長4.0m、検出面幅9.6m、中央部の底部幅3.3m、深さ0.8mを測る。側溝、波板状凹凸面などは検出されなかったが、全面に硬化面が検出され、非常に大型の道路状遺構と考えられるが、西側では別遺構ではないかとも思われる溝状遺構と一体化しており、複数の溝状遺構により構成されている可能性がある。また東側立ち上がりでは側溝が存在した可能性がある。底部中央からは45号土坑が検出された。

##### 79号道路【第334図】

北北東⇔南南西方向に延びる。残長6.0m、検出面幅0.55～1.1m、底部幅0.3～0.4m、深さ0.3mを測る。細かい溝状遺構を道路として使っていたと思われるが、80号道路と同一の遺構かどうかは不明。また隣接して焼土集中がみとめられる。

##### 80号道路【第334図】

79号道路に隣接する。検出面幅1.4m、深さ0.15mを測る。79、80号道路は、77号道路により攪乱されている。

##### 81号道路【第334図】

北北東⇔南南西方向に延びる。残長5.3m、検出面幅0.25～0.7m、底部幅0.2～0.5m、深さ0.2mを測る。細かい溝状遺構を道路として使っていたと思われるが、溝の範囲外にも硬化面が広がる。77号道路よりも新しい。

#### 【溝】

##### 112号溝【第336図】

北西⇔南東方向に延びる。残長2.1m、検出面幅1.25m、底部幅0.3m、深さ0.6mを測る。

#### 【踏み分け道】

##### 60号踏み分け道【第334図】

北北東⇔南南西方向に延びる。残長5.2m、検出面幅0.15～0.4mを測る。

##### 61号踏み分け道【第334図】

南北方向に延びる。残存状況が悪く、幅0.1～0.3mの硬化面が断片的に延びる、焼土の集中もみとめられる。

##### 62号踏み分け道【第335図】

北西⇔南東方向に延びる。残長7.5m。77号道路に隣接し、大部分が調査区域外であるため、詳細は不明。

##### 63号踏み分け道【第337図】

検出面幅0.3～0.6mを測る。直角に屈曲する。

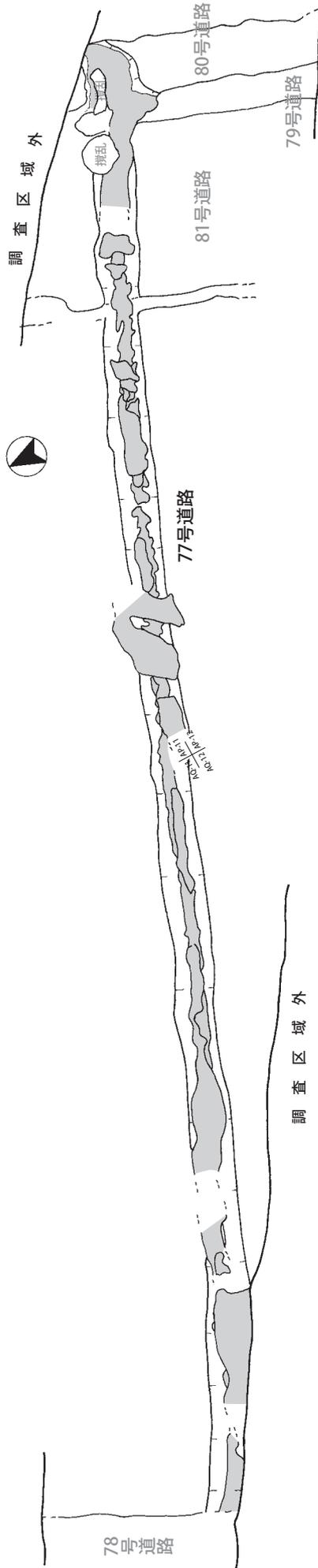
##### 64号踏み分け道【第339図】

北北東⇔南南西方向に24m伸びた硬化面が、直角に東方向へ方向転換する。東方向へは5.8m延びる。検出面幅は0.2～0.35mを測る。

#### 【土坑】

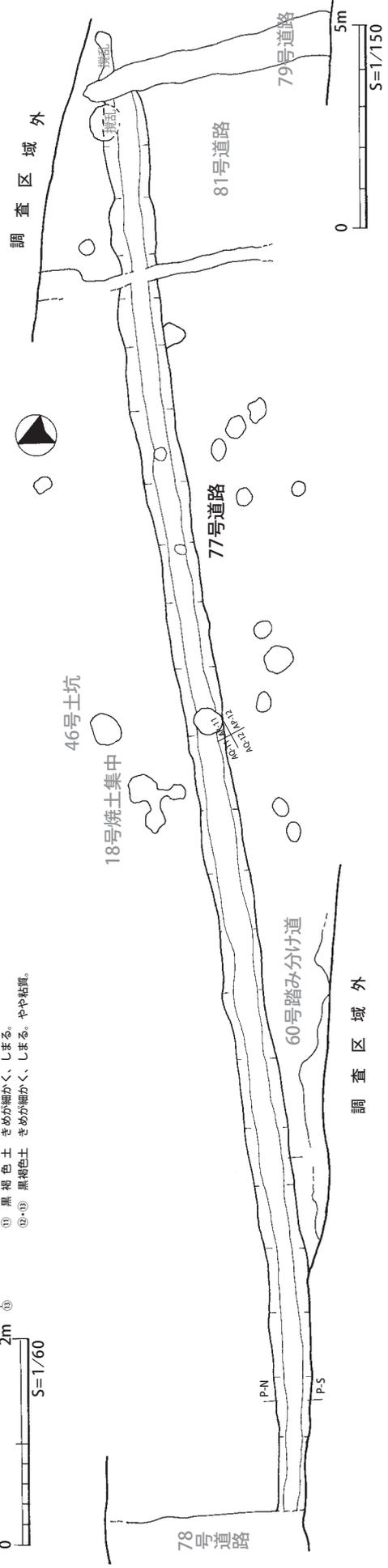
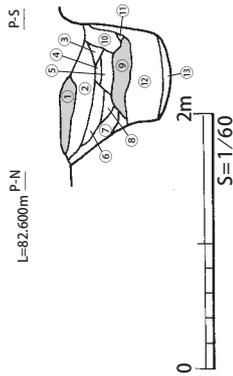
##### 45号土坑【第333図】

78号道路の底部に掘りこまれている。平面形状は1.45m×1.2mの楕円形を呈し、深さは1.6mを測り、一部オーバーハング状に掘りこまれている。遺構の性格は不明。



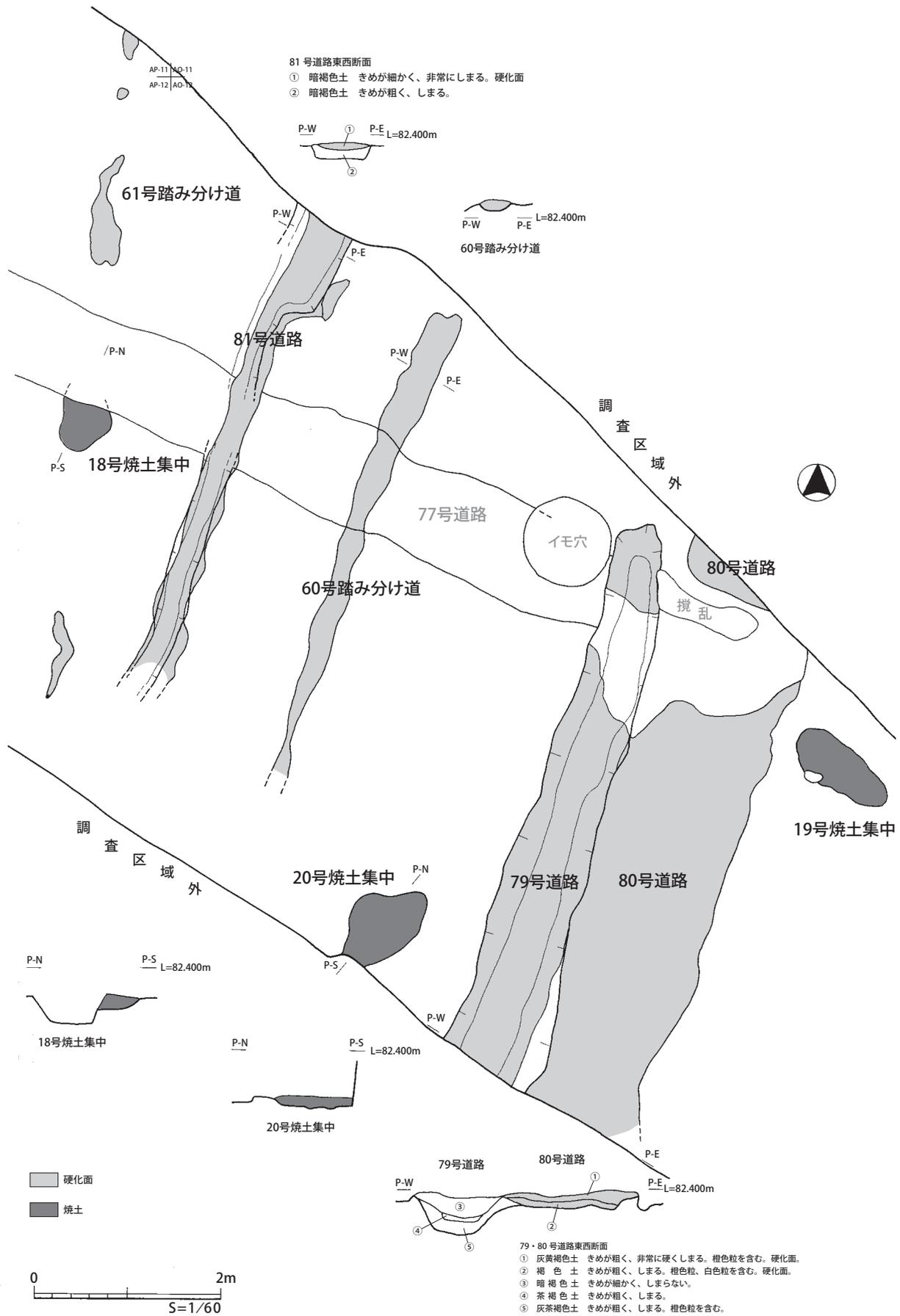
第331図 77号道路硬化面検出状況

- 77号道路南北断面
- ① 黒褐色土 きめが細かく、非常に硬くしまる。やや粘質。褐色粒を含む。硬化面。
  - ② 暗褐色土 きめが細かく、ややしまる。やや粘質。褐色粒を含む。
  - ③ 暗褐色土 きめが細かく、ややしまる。
  - ④ 暗褐色土 きめが細かく、ややしまる。
  - ⑤・⑥ 暗褐色土 きめが細かく、ややしまらない。
  - ⑦ 暗褐色土 きめが細かく、ややしまらない。
  - ⑧ 暗褐色土 きめが細かく、非常に硬くしまる。褐色粒を多く含む。硬化面。
  - ⑨ 暗褐色土 きめが細かく、非常に硬くしまる。褐色粒を多く含む。硬化面。
  - ⑩ 暗褐色土 きめが細かく、しまらない。
  - ⑪ 暗褐色土 きめが細かく、しまる。やや粘質。
  - ⑫・⑬ 黒褐色土 きめが細かく、しまる。やや粘質。

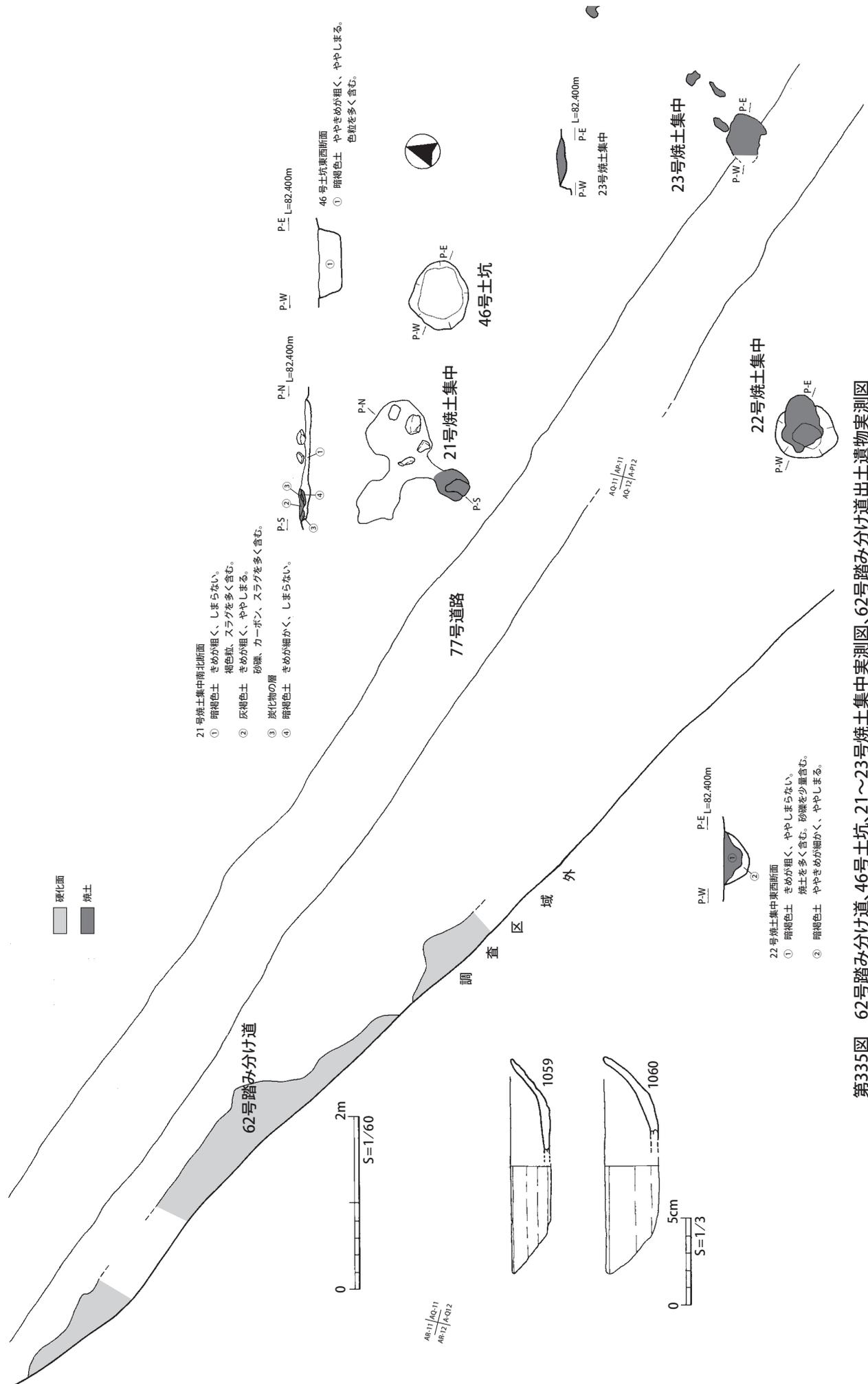


第332図 77号道路完掘状況

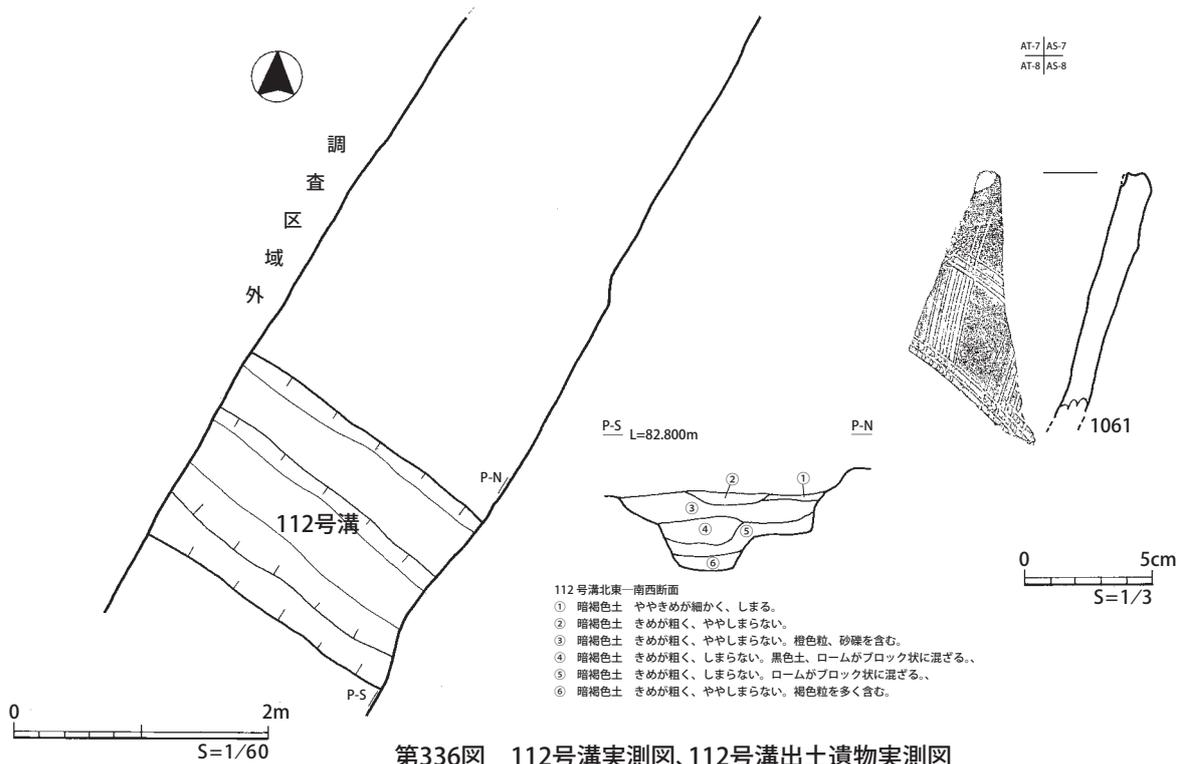




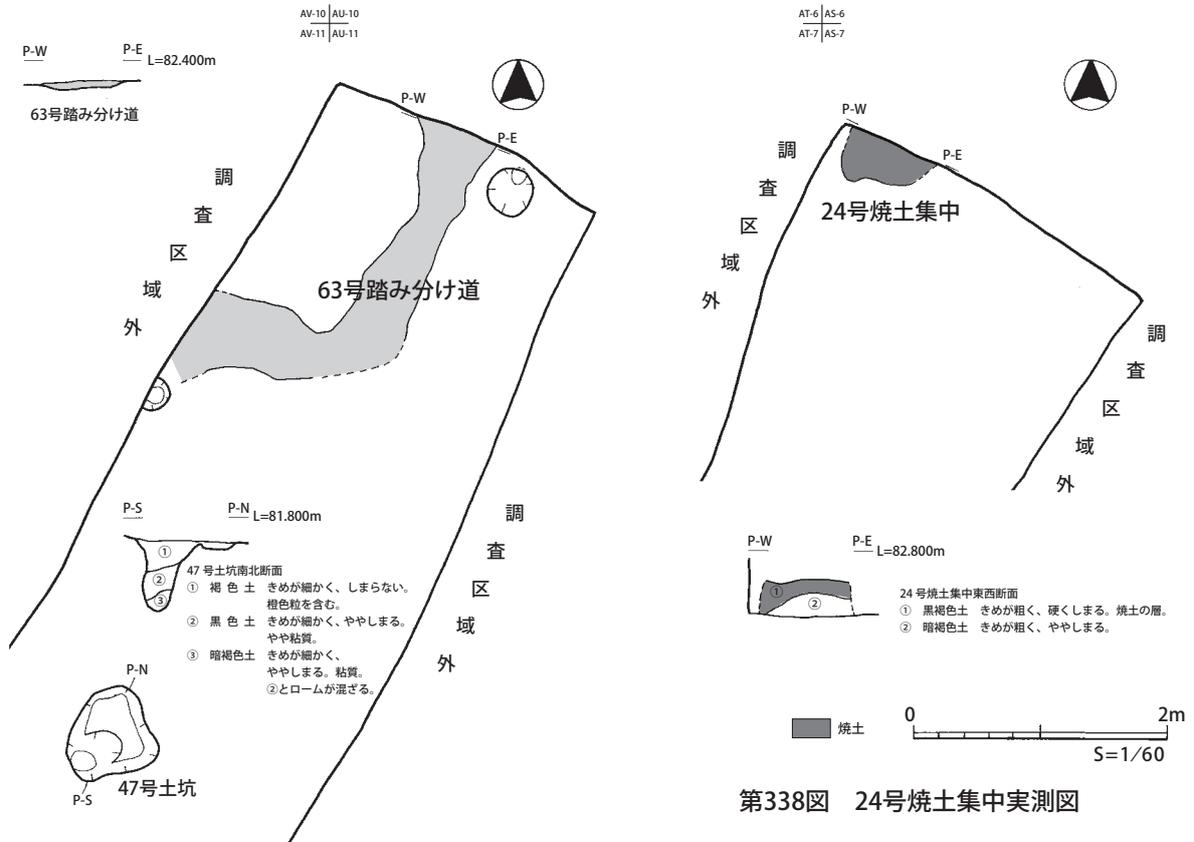
第334図 79～81号道路、60・61号踏み分け道、18～20号焼土集中実測図



第335図 62号踏み分け道、46号土坑、21~23号焼土集中実測図、62号踏み分け道出土遺物実測図

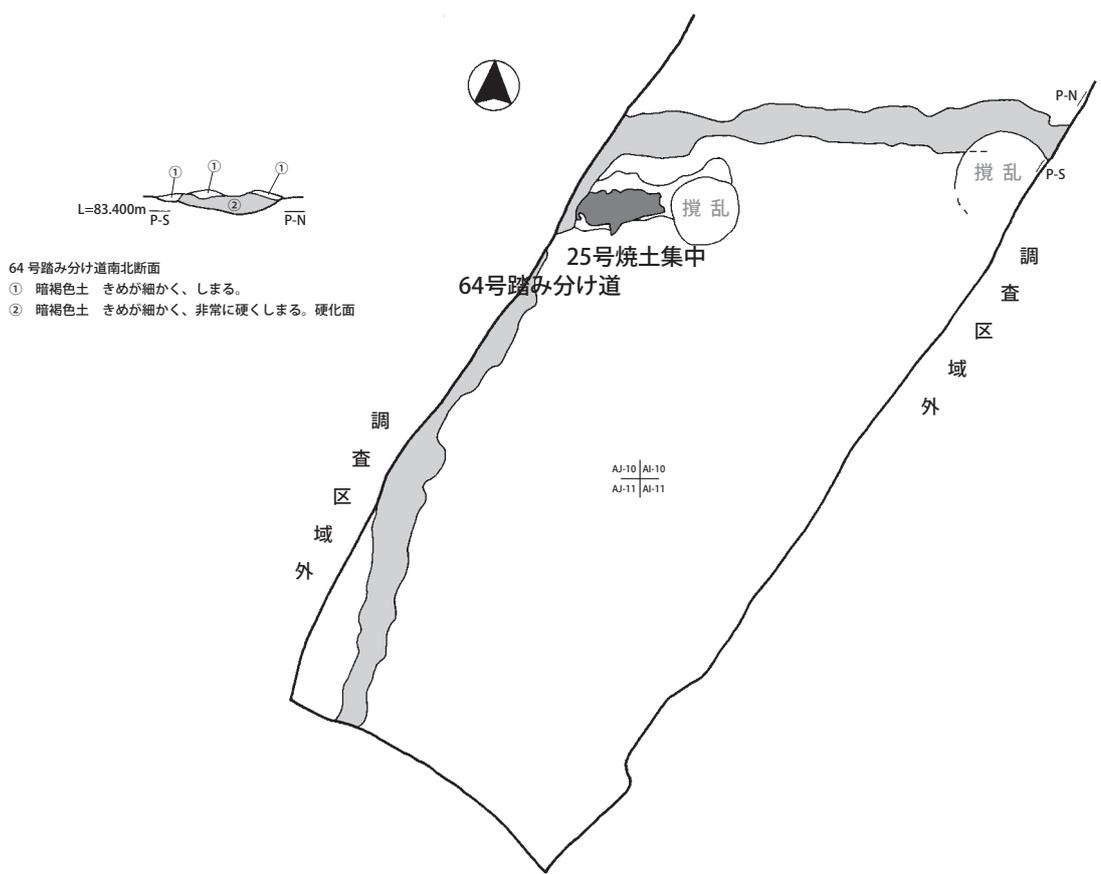


第336図 112号溝実測図、112号溝出土遺物実測図



第338図 24号焼土集中実測図

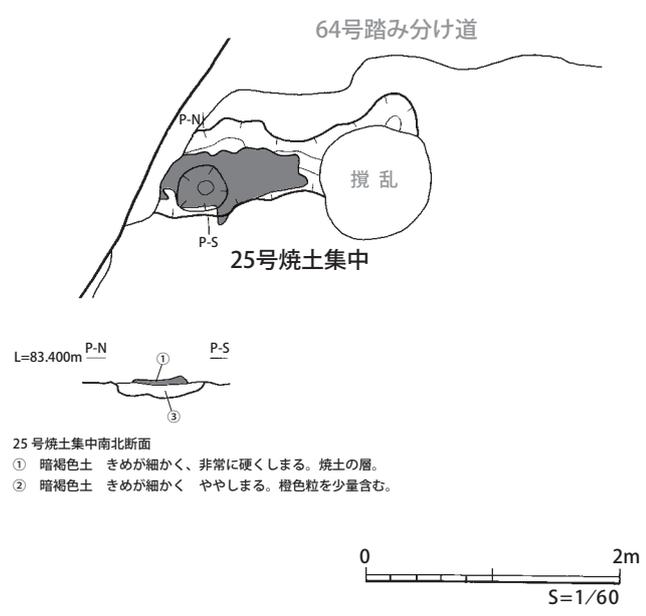
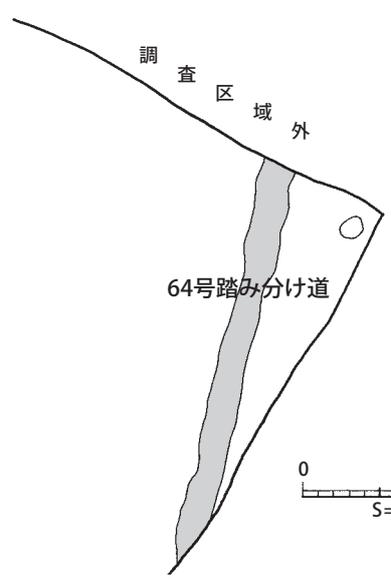
第337図 63号踏み分け道、47号土坑実測図



64号踏み分け道南北断面  
① 暗褐色土 きめが細かく、しまる。  
② 暗褐色土 きめが細かく、非常に硬くしまる。硬化面

硬化面  
焼土

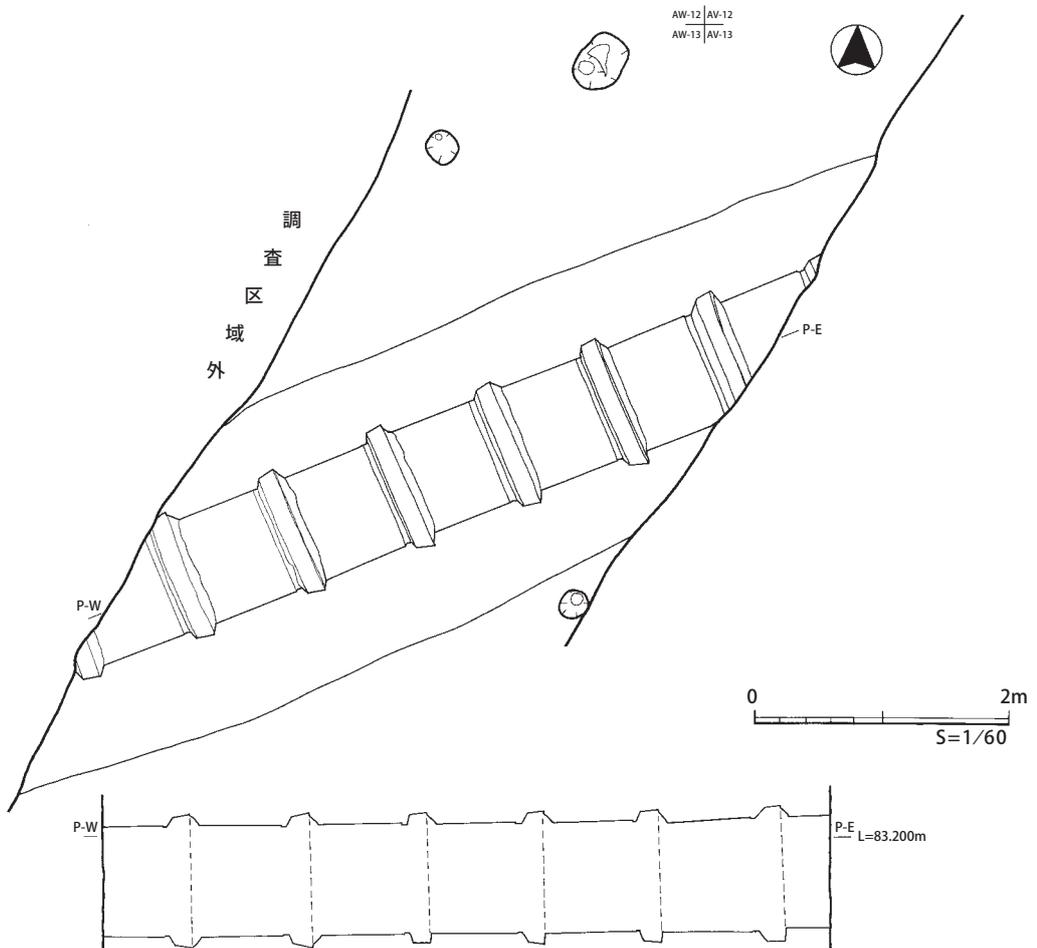
AK-11 | AJ-11  
AK-12 | AJ-12



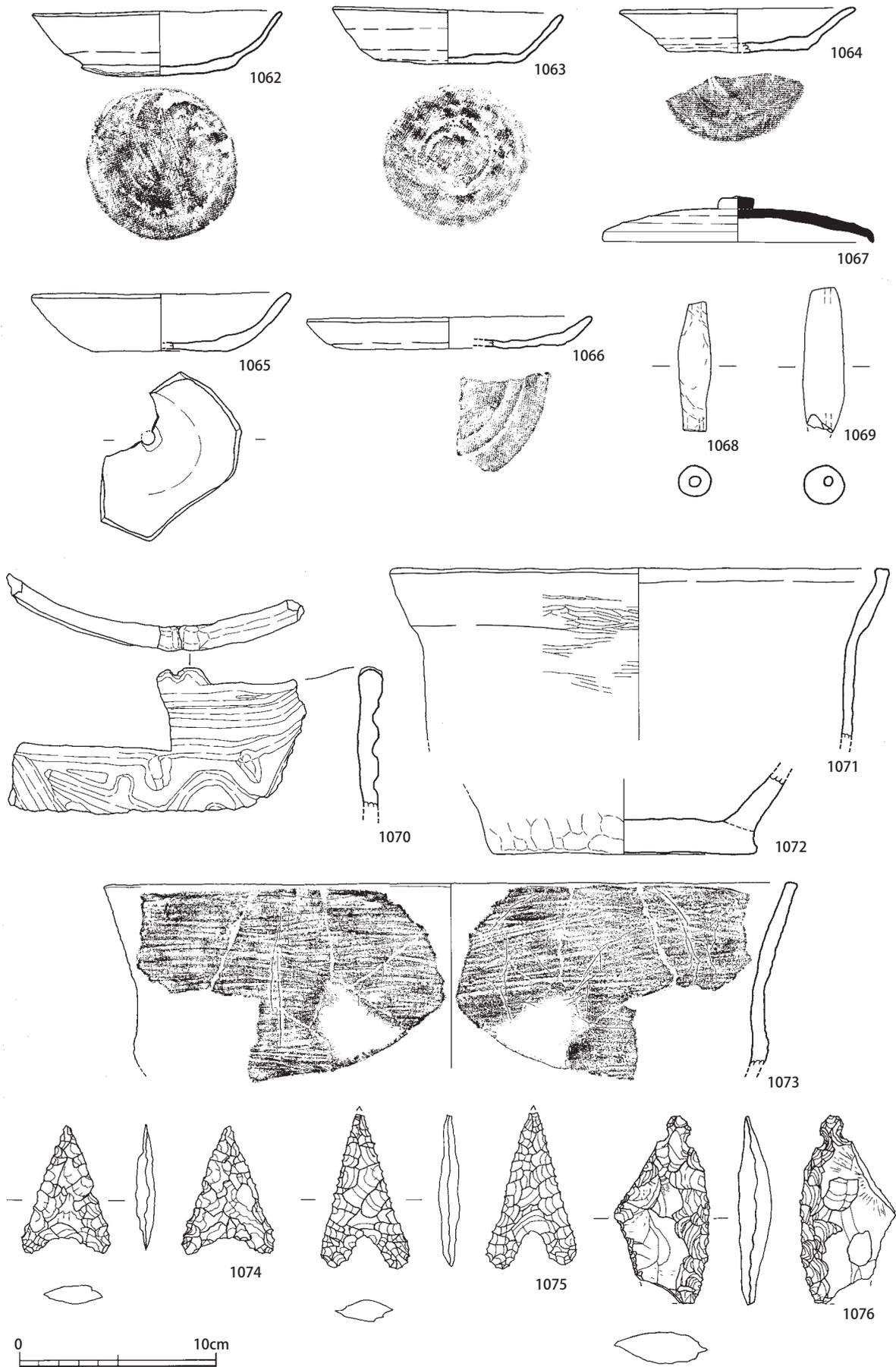
第339図 64号踏み分け道、25号焼土集中実測図



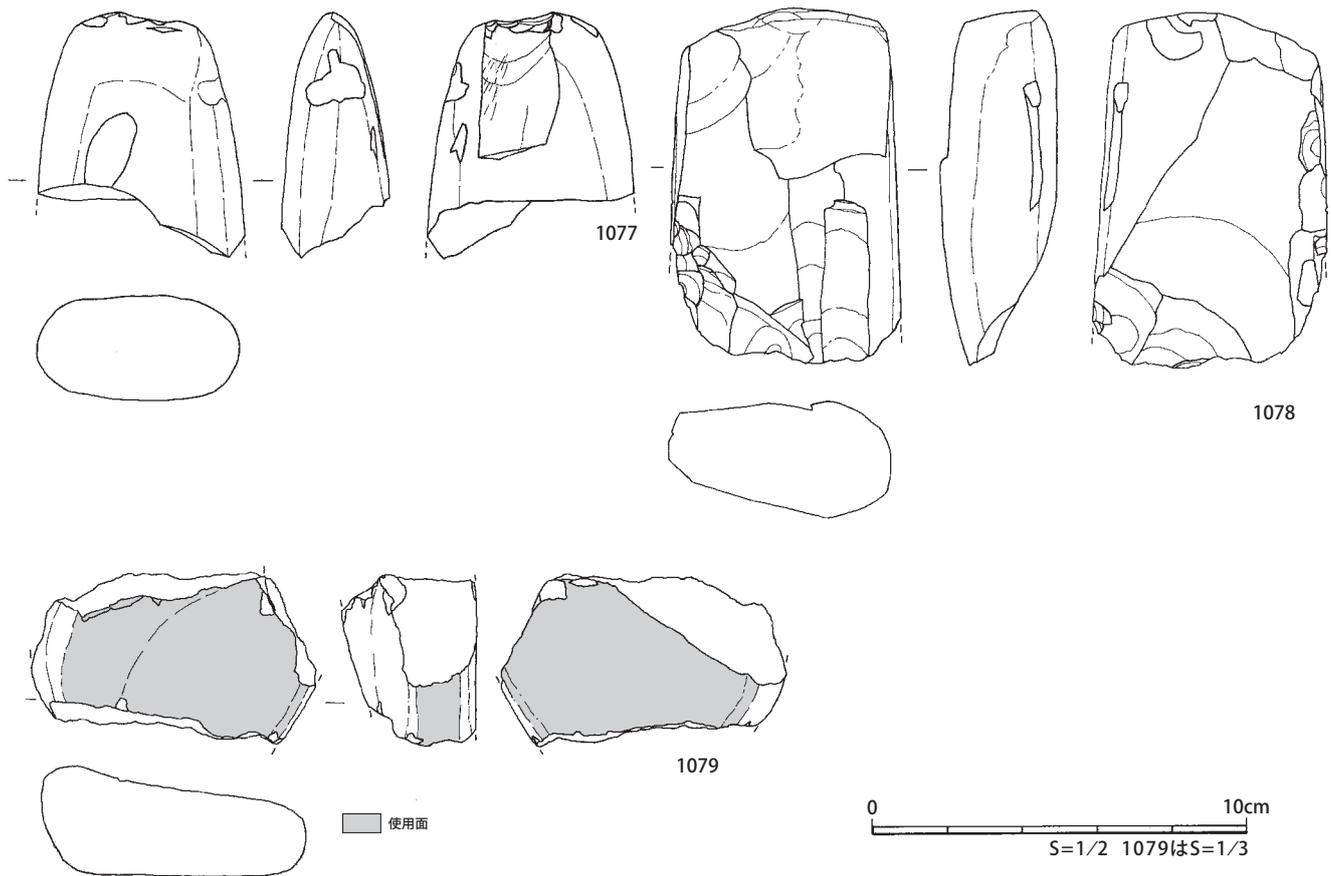
第340図 10号集石遺構実測図



第341図 土管実測図



第342图 E-2区出土遺物実測図



第343図 E-2区出土遺物実測図

46号土坑【第334図】

平面形状は0.7m×0.8mの楕円形を呈し、深さ0.25mを測る。

47号土坑【第337図】

平面形状は0.7m×0.8mのいびつな楕円形を呈し、深さ0.55mを測る。

【焼土集中】

18号焼土集中【第334図】

77号道路に切られている。61号踏み分け道の一部の可能性あり。

19号焼土集中【第334図】

長軸1.2m×短軸0.6mの範囲に、焼土が広がる。

20号焼土集中【第334図】

長軸1.0m×短軸0.7mの範囲に、焼土が広がる。

21号焼土集中【第335図】

不定形な平面形状を呈し、深さ0.1mを測る。上面に焼土が検出されたが、遺構の性格は不明。

22号焼土集中【第335図】

平面形状は0.6m×0.55mの楕円形を呈し、深さ0.3mを測る。上面に焼土が検出されたが、遺構の性格は不明。

23号焼土集中【第335図】

77号道路に切られている。焼土が拡散して検出された。

24号焼土集中【第338図】

攪乱されているが、0.3mほどの厚さに焼土が集中して検出された。

#### 25号焼土集中【第339図】

64号踏み分け道に隣接する。長軸2.0m×短軸0.7mのいびつな土坑の上面に焼土が集中する。

#### 【集石遺構】

#### 10号集石【第340図】

4m四方に、遺構礫の集中がみとめられたが、周辺に遺構は存在しないため、性格は不明。

#### 【その他】

#### 土管【第341図】

残長6.7m、直径は0.9m。0.7mごとに接合されており、接合部の厚さは1.05mを測る。敷設のための掘り込みは幅2.2mを測る。良質のコンクリートを素材とする土管であり、一帯は戦前戦後、陸軍の飛行場があったことから、関連した遺構と考えられる。



No.	調査区	グリッド	層序	遺構名	種別	器種	法量※( )は復元			焼成	色調						胎土						調整		備考
							器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)		内面/胎土		外面/釉色		赤黒	石灰	石英	雲母	長石	鉄質	その他	内	外		
											残長	最大径	孔径	残長										最大径	
81			2層		土製品	土鐘	残長3.5	最大径1.5	孔径0.3	良好	-	-	淡黄緑～ にぶい橙	7.5YR6/3～ 5YR6/3	○	○	○	○			-	ナデ	外面赤彩?		
82	A-10		攪乱		黒色土器	深鉢	残存3.7	-	-	良好	橙	5YR6/6	橙	7.5YR7/6	○	○	○	○	1~2		ナデ	ナデ	口縁割突文、外面波線文、スス付着		
83					黒色土器	深鉢?	残存5.3	-	-	良好	黄灰	2.5Y4/1	黒褐	10YR7/1	○	○	○	○			ミガキ	ミガキ	磨消縄文、後期		
84			攪乱		黒色土器	深鉢?	残存5.7	-	(10.8)	良好	灰黄	2.5Y6/2	にぶい黄橙	10YR7/4	○	○	○	○	1~4		ナデ	ミガキ	平底		
85					黒色土器	鉢型?	残存2.2	-	-	良好	にぶい橙	7.5YR7/4	橙	5YR6/6	○	○	○	○			ナデ	ナデ	割目突帯、直口、縄文後期～弥生初期		
90	A-9	P-22	2層		黒色土器	壺	残存21.2 残存21.2	16.0 (14.4)	最大径18.0	良好	にぶい橙	7.5YR7/4	浅黄橙	7.5YR8/4	○	○	○	○			ナデ、ハケ目、指頭痕	回転ナデ、ナデ、ハケ目 ハケ目、ナデ	脚台付、後期、野辺田式		
91	A-9	P-22	2層		黒色土器	壺	残存20.2	(17.6)	残存径21.7	良好	にぶい黄橙	10YR7/2	浅黄橙	10YR8/3	○	○	○	○			ハケ目、ナデ	ハケ目、ナデ	後期		
92	A-10				青磁	碗	残存2.4	-	-	良好	灰白	N7	オリーブ黄	5Y6/3							施釉	施釉	横溝井文、龍泉系Ⅱ類		
93					青磁	碗か	残存1.6	-	-	良好	灰白	N7	オリーブ黄	5Y6/3							施釉	施釉	真入あり、内面横書文		
94			硬化面下		土器器	坏	2.7	(12.2)	7.4	良好	橙	5YR7/8	橙	2.5YR6/6	○	○	○	○			回転ナデ	回転ナデ、ナデ	へら切り底、内外面赤彩		
95					土器器	坏	3.0	13.2	8.2	良好	明赤褐	5YR5/6	橙	5YR6/6	○	○	○	○	2~4		回転ナデ、ナデ、回転へらミガキ	回転ナデ、ナデ、ケズリ	へら切り底、内外面赤彩		
96					土器器	坏	2.8	12.7	7.6	良好	明赤褐	2.5YR5/8	橙	5YR6/6	○	○	○	○			回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ、ケズリ	へら切り底、内外面赤彩		
97					土器器	坏	2.8	13.2	8.8	良好	橙	5YR6/6	明赤褐	2.5YR5/6	○	○	○	○	2~4		回転ナデ、ナデ、回転へらミガキ	回転ナデ、ケズリ→ナデ→回転へらミガキ	へら切り底、内外面赤彩		
98			硬化面下		土器器	坏	2.7	(13.0)	(8.6)	良好	橙	7.5YR6/8	橙	7.5YR7/6	○	○	○	○			回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	へら切り底、内面赤彩		
99					土器器	坏	3.35	(14.6)	(9.2)	良好	にぶい赤褐	5YR5/4	明赤褐	5YR5/6	○	○	○	○			回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	へら切り底、内外面赤彩		
100					土器器	坏	2.2	(12.2)	(8.5)	良好	橙	5YR6/6	橙	5YR6/8	○	○	○	○			回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ケズリ	へら切り底、内外面赤彩		
101			硬化面		土器器	坏	残存1.4	-	(7.4)	良好	浅黄橙	7.5YR8/4	橙	7.5YR7/6	○	○	○	○	2~3		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ケズリ→ナデ→回転へらミガキ (明瞭でない)	へら切り底、内面赤彩、底面縁刻? 回転へらミガキ		
102	A-13		埋土		土器器	坏	2.8	(14.3)	(10.8)	良好	橙	5YR7/6	橙	7.5YR7/6	○	○	○	○			回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	へら切り底、内外面赤彩		
103			埋土		土器器	坏	4.1	(15.8)	(8.4)	やや不良	橙	5YR6/6	橙	5YR6/6	○	○	○	○			回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	へら切り底、内外面赤彩、底面スス付着		
104			硬化面下		土器器	皿	1.75	(14.2)	(11.0)	良好	明赤褐	5YR5/6	明赤褐	5YR5/6	○	○	○	○			回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	へら切り底、内外面赤彩		
105			表土		土器器	碗	6.2	(23.1)	13.8	良好	橙	7.5YR7/6	橙	7.5YR7/6	○	○	○	○			回転ナデ、ナデ	ナデ	へら切り底、内外面赤彩(割縁)		
106					土器器	蓋	残存2.4	(17.0)	-	良好	明赤褐	5YR5/8	明赤褐	5YR5/8	○	○	○	○			回転ナデ、ナデ、指オサエ?	回転ナデ、ナデ	内外面赤彩		
107					土器器	壺	残存9.8	(24.0)	-	良好	にぶい黄橙	10YR6/3	灰黄褐	10YR5/2	○	○	○	○	1~2		回転ナデ、ケズリ	回転ナデ、ナデ、ハケ目	内外面スス付着		
108					土器器	壺	残存7.35	(26.0)	-	良好	にぶい橙	7.5YR7/4	にぶい黄橙	10YR7/2	○	○	○	○	2~4		回転ナデ、ケズリ	回転ナデ、ナデ	外面スス付着、白色粘土付着		
109					土器器	壺	残存6.4	(24.6)	-	良好	にぶい黄橙	10YR7/3	浅黄橙	10YR8/4	○	○	○	○	1~3		回転ナデ、ケズリ	回転ナデ、ナデ、ハケ目	内外面黒く燻す		
110			硬化面下		土器器	壺	残存4.5	(21.2)	-	良好	灰褐	7.5YR6/2	にぶい橙	7.5YR7/3	○	○	○	○	2~4		回転ナデ、ケズリ	回転ナデ、ナデ	内外面スス付着		
111			残土集中		土器器	壺	残存5.2	(29.7)	-	良好	にぶい黄橙	10YR7/3	にぶい黄橙	10YR7/2	○	○	○	○	2		回転ナデ、ケズリ	回転ナデ、ナデ、ハケ目	内外面スス付着		
112					須恵器	坏	4.4	12.1~ 12.7	8.2	良好	灰オリーブ	7.5Y6/2	灰	10Y6/1	○			○			回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ケズリ→ナデ、自然釉	へら切り底、見込み研磨、底面工具痕?		
113					須恵器	碗	3.9	(10.2)	(6.3)	良好	灰白	10Y7/1	灰	7.5Y6/1				○	1~3		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	へら切り底		
114					須恵器	蓋	残存3.3	細径1.5	-	良好	灰	10Y6/1	オリーブ灰	10Y6/2				○	3		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	へら切り		
115			埋土		須恵器	碗	5.3	(16.1)	(7.5)	良好	灰白	10Y7/1	灰	7.5Y5/1				○		黒色粘	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ、自然釉	へら切り底		
116					須恵器	高台付坏	3.5	(17.8)	(13.4)	良好	灰黄褐	10YR6/2	にぶい黄橙	10YR6/3				○	2~4		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ、自然釉	へら切り底、見込み研磨		
117			硬化面		須恵器	皿	1.9	(13.7)	9.6	良好	灰白	N7	灰	N6				○	1~2		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	内外面黒く燻す		
118					黒色土器	坏	2.4	(12.6)	(10.0)	良好	灰黄褐	10YR6/2	灰褐	7.5YR6/2	○	○	○	○			ミガキ	ミガキ、ケズリ	内外面黒く燻す		
119					黒色土器	坏	2.55	(13.8)	(11.4)	良好	にぶい黄橙	10YR7/3	にぶい橙	7.5YR7/4	○	○	○	○			ミガキ	ミガキ、ケズリ	内外面黒く燻す		
120					土器器	瓶?	残存7.5	残幅5.5	-	良	にぶい橙	7.5YR7/3	明褐灰	7.5YR7/2	○	○	○	○	2~3		ナデ、指頭痕	ナデ			
121			残土集中		土器器	坏	3.1	(12.9)	8.3	良好	橙	5YR6/6	橙	5YR7/6	○	○	○	○			回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	へら切り底、内外面赤彩		
122			硬化面		土器器	坏	3.15	13.3	8.8	良好	灰黄褐	10YR6/2	橙	7.5YR6/6	○	○	○	○	3		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ、指頭痕	へら切り底、内外面赤彩、底面スス付着		
123			残土集中		土器器	坏	3.0	12.7	8.3	良好	橙	5YR6/6	にぶい橙	7.5YR7/4	○	○	○	○	2~4		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	へら切り底、内面赤彩		
124			硬化面		土器器	坏	2.3	(13.2)	(8.0)	良好	橙	2.5YR6/6	橙	5YR6/6	○	○	○	○			回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	へら切り底、内外面赤彩		
125			硬化面		黒色土器	坏	3.3	14.1	7.1	良好	にぶい黄橙	10YR7/4	にぶい黄橙	10YR7/4	○	○	○	○			ミガキ	ミガキ、ケズリ	内外面黒く燻す		
126			硬化面		土器器	蓋	残存1.9	(14.0)	-	良好	橙	5YR6/6	橙	5YR6/6	○	○	○	○			回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	内外面赤彩		
127			表土		土器器	蓋	残存2.9	(17.2)	-	良	にぶい赤褐	2.5YR5/4	にぶい橙	5YR6/4	○	○	○	○			回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	内外面赤彩、スス付着、二次焼成		
128					土器器	壺	残存9.2	(25.4)	-	良好	にぶい橙	7.5YR7/3	浅黄橙	7.5YR8/3	○	○	○	○	2~3		回転ナデ、ケズリ	回転ナデ、ナデ、ハケ目	外面スス付着		
129					須恵器	皿	1.45	(14.6)	(11.4)	良好	灰白	7.5Y7/1	灰	10Y6/1	○			○	黒色粘	回転ナデ、ナデ、ミガキ	回転ナデ、ナデ	へら切り底			
130			硬化面引下		須恵器	播鉢	残存4.3	-	-	良好	灰	5Y5/1	灰	5Y6/1	○			○			ナデ	回転ナデ、ナデ	7条一単位の横目		
131	A-11		硬化面下	10号道路	布目瓦	丸瓦	残長17.8	残幅6.7	厚さ1.5	良好	凹面:浅黄橙	10YR8/3	凸面:浅黄橙	7.5YR8/4	○	○	○	○			凹面:布目	凸面:ナデ、タタキ?			
132					須恵器	壺	残存4.3	(29.0)	-	良好	灰黄	2.5Y7/2	にぶい褐	7.5YR5/4				○	2	黒色粘	回転ナデ、自然釉?	回転ナデ、タタキ目	外面波状文		
133				15号道路	須恵器	播鉢	残存5.2	(26.4)	-	良好	灰オリーブ	5Y6/2	灰白	10Y7/1	○			○			ナデ	ナデ	5条以上一単位の横目、内面スス付着?		
134			AC-30	2層	土器器	坏	3.1	(14.2)	(8.8)	良好	橙	5YR6/6	橙	7.5YR7/6	○	○	○	○			回転ナデ、ナデ、回転へらミガキ	回転ナデ、ナデ、回転へらミガキ	へら切り底		
135					土器器	坏	残存3.8	(13.4)	7.6	良好	明赤褐	5YR5/6	橙	7.5YR7/6	○	○	○	○	1~2		回転ナデ、ナデ、回転へらミガキ	回転ナデ、ナデ、回転へらミガキ	へら切り底、内外面赤彩、スス付着		
136					土器器	坏	3.6	(14.2)	(9.8)	良好	にぶい橙	7.5YR7/4	にぶい黄橙	10YR7/4	○	○	○	○			回転ナデ、ナデ、ミガキ	回転ナデ、ナデ	へら切り底		
137			2層		土器器	坏	残存1.9	-	9.2	良好	橙	7.5YR7/6	橙	7.5YR6/6	○	○	○	○			回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	へら切り底、内外面赤彩、内面刺蝋		
138					土器器	坏	残存1.7	-	9.0	良好	にぶい橙	7.5YR7/4	にぶい黄橙	10YR6/4	○	○	○	○			回転ナデ、ナデ、回転へらミガキ	回転ナデ、ケズリ→ナデ→回転へらミガキ	へら切り底、内外面赤彩		
139					土器器	碗	5.1	(17.6)	(11.2)	良好	にぶい橙	5YR7/4	淡赤橙	2.5YR6/6	○	○	○	○			回転ナデ、ナデ	回転ナデ	内外面赤彩		
140					土器器	碗か鉢?	残存2.7	-	(12.2)	良好	橙	5YR6/6	橙	2.5YR7/4	○	○	○	○			回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	へら切り底、内外面赤彩		
141					土器器	碗か鉢?	残存1.7	-	(12.6)	良好	明赤褐	5YR5/6	明赤褐	5YR5/6	○	○	○	○			回転ナデ、ナデ				

観測 No.	調査 No.	グリッド	層 序	遺構名	種別	器種	法量※(は復元)			焼成	色調			胎土						調整		備考		
							高さ(cm)	口径(cm)	底径(cm)		内面/胎土		外面/胎土		丸形	石製	長尺	細面	赤色	黒色	その他		内	外
											内面	胎土	外面	胎土										
155	A-11				須恵器	甕?	残存3.2	(29.2)	-	良好	灰黄褐	10YR5/2	灰褐	5YR5/2	○	○	○	1~2	黒色胎	回転ナデ	回転ナデ、自然釉	上面磨着痕?		
156					瓦質土器	火舎?	残存3.6	-	-	良好	灰黄	2.5Y7/2	灰黄	2.5Y7/2	○	○	○			ナデ、ハケ目	回転ナデ	外面菊花状スタンプ、突帯		
158					布目瓦	丸瓦?	残長8.2	残幅6.0	厚さ2.0	良好	灰白	10YR8/2	灰白	2.5Y8/2	○	○	○			凹面、布目	凸面、ナデ			
159					布目瓦	丸瓦?	残長8.5	残幅6.5	厚さ1.6	良好	灰白	2.5Y8/2	淡黄	2.5Y8/3	○	○	○			凹面、布目	凸面、ナデ			
165	A-12				染付	皿	1.9	10.6	6.0	良好	灰白	10YR8/1	灰白(透明釉)	10YR8/1							施釉	施釉	裏付釉割、内面型模で染付、近代	
166					染付	碗か鉢?	残存2.2	-	(7.8)	良好	灰白	5YR/1	5GY7/1						黒色胎	施釉	施釉	見込み釉/目割割、貫入あり		
167					陶器	碗	残存1.8	-	3.5	良好	にぶい黄橙	10YR6/3	灰	7.5Y6/1							施釉	回転ナデ、ケズリ	見込み胎土目、削り出し高台	
168					陶器	碗	残存1.5	-	4.5	良好	淡黄	2.5Y8/3	灰白	7.5Y7/1					黒色胎	施釉	施釉	見込み、量付に砂目痕、貫入あり		
170	AB-30	2層			土師器	坏	残存2.0	-	8.2	良好	橙	7.5YR6/6	橙	7.5YR7/6	○	○	○			回転ナデ、ナデ→回転ヘラミガキ	回転ナデ、ナデ→回転ヘラミガキ	ヘラ切り底、内外面赤彩		
171	Z-27	2層			土師器	坏	残存3.0	(12.8)	8.1	良好	にぶい黄橙	10YR6/4	にぶい橙	7.5YR7/4	○	○	○				回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	ヘラ切り底、内外面赤彩	
172	AE-30	1層			土師器	坏	3.4	(14.7)	(8.0)	良好	にぶい橙	7.5YR7/4	にぶい橙	7.5YR7/4	○	○	○	3		回転ナデ、ナデ→回転ヘラミガキ	回転ナデ、ナデ、ミガキ	ヘラ切り底、内面赤彩		
173					一括	土師器	坏	2.4	(13.6)	(9.0)	良好	橙	5YR6/6	橙	7.5YR6/6	○	○	○				回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	ヘラ切り底、内外面赤彩
174	Y-29	2層			土師器	坏	2.6	(13.0)	(7.2)	良好	橙	7.5YR6/6	にぶい橙	7.5YR7/4	○	○	○				回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	ヘラ切り底、内外面赤彩、内面黒く剥離	
175	AD-30	2層			土師器	皿	1.5	(16.8)	(13.8)	良好	橙	5YR6/6	橙	2.5YR6/6	○		○	2			回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	ヘラ切り底、内外面赤彩	
176		1層			土師器	皿	1.45	(14.0)	(11.0)	良好	橙	2.5YR6/6	明赤褐	2.5YR5/6			○				回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	ヘラ切り底、内外面赤彩、内面割離	
177		1層			土師器	皿	1.6	(16.0)	(13.4)	良好	明赤褐	5YR5/6	橙	5YR6/6	○	○	○				回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	ヘラ切り底、内外面赤彩	
178		1層			土師器	鉢	残存0.7	(16.0)	(11.0)	良好	橙	7.5YR7/6	淡黄橙	7.5YR8/4	○	○	○	1			回転ナデ	回転ナデ、ナデ	内外面赤彩	
179					内黒土師器	高台付皿	残存1.3	(22.8)	-	良好	褐灰	5YR5/1	にぶい橙	7.5YR7/4	○	○	○				ナデ、ミガキ?	ナデ	ヘラ切り底、内面黒く燻す	
180		埋土	ピット3		土師器	蓋	残存2.4	(16.6)	-	良好	橙	5YR6/6	橙	7.5YR6/8	○	○	○	3			回転ナデ、ナデ	回転ナデ→回転ヘラミガキ	内外面赤彩	
181		1層			土師器	蓋	残存1.9	(17.4)	-	良好	橙	5YR6/6	黄橙	7.5YR7/8	○	○	○	2~3			回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	ヘラ切り、内外面赤彩	
182	Z-29	2層			土師器	甕	残存6.25	(28.4)	-	良好	にぶい橙	7.5YR7/3	淡黄橙	7.5YR8/4	○	○	○	1~5			回転ナデ、ケズリ	回転ナデ、ハケ目	内外面赤彩	
183	AE-30	1~2層			土師器	甕	残存5.6	(27.2)	-	良好	橙	7.5YR7/6	橙	7.5YR6/6	○	○	○	3~5			回転ナデ、ケズリ	回転ナデ、ナデ、指オサエ	内外面スス付着	
184	AB-30	2層			土師器	甕	残存8.0	(19.6)	-	良好	橙	5YR6/6	橙	5YR6/6	○	○	○	2~3			回転ナデ、ケズリ	回転ナデ、ハケ目	外面スス付着	
185		1層			土師器	甕	残存3.75	(17.8)	-	良好	淡黄橙	10YR8/4	にぶい黄橙	10YR7/3	○	○	○				回転ナデ、ケズリ	回転ナデ、ハケ目	外面スス付着	
186	AD-30	2層			土師器	鍋	残存4.3	(22.4)	-	良好	にぶい黄橙	10YR7/3	淡黄橙	10YR8/3	○	○	○	2			回転ナデ、ケズリ	回転ナデ、ハケ目	外面赤彩?	
187	Y-29	1層			須恵器	碗	3.2	(12.6)	(7.4)	良	灰白	5Y7/1	灰白	7.5Y7/1	○	○	○	2~4			回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	ヘラ切り底	
188		1層			須恵器	坏	3.4	(13.8)	(8.2)	良	灰白	10YR7/1	灰白	2.5Y7/1	○	○	○				回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	ヘラ切り底	
189		1層			須恵器	坏	残存3.65	(11.6)	(6.8)	良好	灰オリーブ	5Y6/2	灰白	5Y7/1				1	黒色胎	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	ヘラ切り底		
190	AD-30	2層			須恵器	碗	4.65	(13.2)	(7.0)	良好	灰黄	2.5Y6/2	灰褐	7.5YR4/2				3			回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ、自然釉	ヘラ切り底	
191	AC-30	2層			須恵器	甕	残存5.1	(26.0)	-	良好	灰オリーブ	5Y5/2	暗赤褐	5YR3/3					黒色胎	回転ナデ、自然釉	回転ナデ、自然釉、ハケ目?			
192	Y-29	1層			須恵器	甕	残存2.4	(26.0)	-	良好	にぶい黄	2.5Y6/3	黄灰	2.5Y6/1			○	3	黒色胎	回転ナデ、ナデ	回転ナデ			
193		2層			須恵器	甕	残存5.9	(18.2)	-	良好	灰オリーブ	5Y6/2	灰	10Y6/1						回転ナデ、同心円状当て具痕、自然釉	回転ナデ、タタキ目、自然釉			
194	Z-29	1層			須恵器	甕	残存6.25	-	-	良好	灰白	5Y7/1	暗赤褐	5YR3/4					黒色胎	回転ナデ、自然釉	回転ナデ、タタキ目、自然釉	外面磨書波状文		
195	Y-28	1層			黒色土器	坏	残存2.6	(12.6)	(9.8)	良好	灰黄褐	10YR5/2	灰黄褐	10YR5/2	○	○	○				ミガキ	ミガキ、ケズリ	内外面黒く燻す	
196	Z-29	1層			土師器	甕?	残存1.5	孔径0.7	-	良	にぶい黄橙	10YR6/3	淡黄橙	10YR8/3	○	○	○				ナデ	ナデ	焼成前穿孔	
197	AD-30	2層			土製品	土鉢	残存3.1	残存径1.2	孔径0.3	良好	-	-	にぶい黄橙	10YR7/3	○	○	○				-	ナデ		
198	AB-30	2層			土製品	土鉢	全長2.9	最大径1.7	孔径0.5	良好	-	-	淡黄	2.5Y8/3	○						-	ナデ	赤彩	
199	AD-30	2層			土製品	土鉢	残長3.1	残存径0.9	孔径0.25	良	-	-	淡黄	2.5Y7/3	○	○	○				-	ナデ		
200	AD-30	2層			縄文土器	深鉢	残存4.9	-	-	良好	灰黄褐	10YR6/2	にぶい褐	7.5YR5/3	○	○	○				ナデ、ミガキ	ミガキ	刺突文、磨消縄文	
217					染付	碗	残存1.2	-	(5.4)	良好	にぶい黄橙	10YR7/3	淡黄橙	10YR8/3							施釉	ケズリ	胎土染付?、高台砂付着、貫入あり	
218					土師器	碗	残存2.8	-	(6.6)	良好	明赤褐	2.5YR5/6	暗赤褐	2.5YR3/6	○	○	○	3			-	ナデ	外面スス付着	
219		一括			須恵器	碗	残存1.9	-	(9.6)	良好	暗灰黄	2.5Y5/2	暗灰黄	2.5Y5/2			○				回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	ヘラ切り底	
220		一括			瓦質土器	深鉢	残存5.0	-	-	良好	赤褐	5YR4/6	黄灰	2.5Y6/1	○	○	○				回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	内外面赤彩?1条一単位の際り目	
221					土師器	甕?	残存7.2	残幅6.7	-	良好	淡黄橙	7.5YR7/3	にぶい橙	7.5YR7/3	○	○	○				-	ナデ		
222					土師器	甕?	残存4.1	残幅3.5	-	良好	-	-	明赤褐	2.5YR5/6	○	○	○				-	ナデ	赤彩	
223			17号遺跡		土師器	甕?	残存4.8	残幅4.5	-	良好	-	-	暗灰黄	2.5Y5/2	○	○	○				-	ナデ		
224			10号土坑		土製品	紡錘車	直径6.3	-	厚さ0.8	良好	-	-	淡黄橙	10YR8/4	○	○	○				-	ナデ		
225			12号土坑		土師器	甕	残存4.5	(25.6)	-	良好	橙	7.5YR7/6	橙	7.5YR7/6	○	○	○				回転ナデ、ケズリ	回転ナデ、ハケ目	内外面スス付着	
226					土師器	碗	6.0	(16.8)	10.0	良好	橙	5YR6/6	橙	5YR6/6	○	○	○	1~5			回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	ヘラ切り底、10世紀代	
227					土師器	碗	残存5.0	-	(7.2)	良好	橙	5YR6/6	橙	7.5YR6/6	○	○	○	1~2			回転ナデ	回転ナデ、ナデ	外面に十字の模刻らしきものがあるが明確でない	
228	C-11	2層			土師器	碗	残存3.0	-	(7.8)	良好	橙	5YR6/6	橙	7.5YR6/6	○	○	○				回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	ヘラ切り底、内外面赤彩、高台内圧痕?	
229	C-11	2層			土師器	碗	残存2.7	-	8.0	良好	にぶい黄橙	10YR6/4	にぶい黄橙	10YR5/3	○	○	○	2~10			回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	ヘラ切り底、内外面赤彩、内面スス付着、底部工具痕	
230	E-12	2層			土師器	碗	残存2.8	-	7.6	良好	赤褐	2.5YR4/8	赤褐	2.5YR4/8	○	○	○				回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	ヘラ切り底、内外面赤彩、高台内スス付着	
231	C-11	表土			土師器	甕	残存7.0	(25.6)	-	良好	赤褐	5YR4/8	暗赤褐	5YR3/6	○	○	○	1~3	黒色胎	回転ナデ、ケズリ	回転ナデ、ハケ目	内外面スス付着、外面状こぼれ痕		
232		一括			土師器	甕	残存12.2	(25.0)	-	良好	灰黄褐	10YR5/2	にぶい黄橙	10YR5/3	○	○	○	3			回転ナデ、ケズリ	回転ナデ、ハケ目	外面スス付	
233					土師器	甕	残存6.7	(24.4)	-	良好	明褐	7.5YR5/6	橙	7.5YR6/6	○	○	○	4~7			回転ナデ、ケズリ	回転ナデ		
234					土師器	鍋	残存8.1	(19.5)	-	良好	にぶい橙	7.5YR6/4	橙	5YR6/6	○	○	○				回転ナデ、ケズリ	回転ナデ	内面炭化物付着	
235					土師器	甕	残存6.7	(26.4)	-	良好	明黄褐	10YR6/6	明赤褐	5YR5/6	○	○	○	1			回転ナデ、ケズリ	回転ナデ、ハケ目	二次焼成?	
236	C-11	2層			須恵器	坏	残存3.3	(12.8)	(8.0)	良好	灰黄	2.5Y6/2												

調査区	グリッド	層序	遺構名	種別	器種	法量※( )は復元			焼成	色調		胎土							調整		備考	
						器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)		内面/胎土	外面/釉色	赤鉄	石英	長石	霞石	石灰	その他	内	外			
																				残存率(%)		良好
247	C-13-14	2層		縄文土器	浅鉢	残存4.0	-	-	良好	にぶい黄橙	10YR5/3	にぶい黄橙	10YR7/3	○	○	○	○	2~3	ミガキ	ミガキ		
248	C-13-14	2層		縄文土器	深鉢	残存6.4	(29.2)	-	良好	浅黄橙	10YR5/3	にぶい黄橙	10YR7/3	○	○	○	○	2~3	ミガキ	ミガキ		
249	C-12	2層		弥生土器	長頸壺	残存6.0	-	-	やや不良	にぶい黄橙	10YR7/4	にぶい黄	7.5YR5/4	○	○	○	○	~3	ナデ、ハケ目	ナデ、ハケ目	底部突帯、突帯以下沈線文、外面赤彩	
250		1層		弥生土器	壺	残存3.4	-	-	良好	にぶい橙	7.5YR7/4	橙	7.5YR7/6	○	○	○	○		回転ナデ、ハケ目	回転ナデ、ハケ目	突帯、突帯下刺突文、古墳時代?	
251	D-12	2層		土製品	脚か	残存7.8	残幅3.0	残厚2.5	良好	-	-	にぶい橙	7.5YR6/4	○	○	○	○	2~8	-	ナデ、ケズリ、指頭痕	赤彩	
252		一括		土製品	土鍾	全長4.8	最大径1.2	孔径0.4	良好	-	-	灰黄褐	10YR6/2	○	○	○	○		-	ナデ		
253		1層		土製品	土鍾	残長4.6	最大径1.0	孔径0.3	良好	-	-	黄灰	2.5Y4/1	○	○	○	○		-	ナデ		
254				青磁	椀	残存2.7	-	-	良好	灰	5Y6/1	灰オリーブ	7.5Y5/2	○	○	○	○		施釉	施釉	掻蓮弁文	
268	G-12	2層		土器器	坏	2.65	(12.6)	(7.6)	良好	浅黄橙	7.5YR8/4	浅黄橙	10YR8/4	○	○	○	○	1	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	ヘラ切り底、内外面赤彩	
269	K-14	2層		土器器	碗	残存3.8	-	(9.0)	良好	橙	5YR6/6	橙	5YR6/6	○	○	○	○		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	ヘラ切り底、内外面赤彩、スス付着	
270		2層		土器器	碗	残存2.3	-	(7.8)	良	明赤褐	5YR5/6	明赤褐	5YR5/6	○	○	○	○		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	ヘラ切り底、高台内板状圧痕	
271	J-13	2層		土器器	碗	残存2.2	-	(7.6)	良好	明赤褐	5YR5/8	明赤褐	5YR5/8	○	○	○	○		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	内外面赤彩、底部穿孔	
272	L-9	2層		土器器	壺	残存4.7	(22.6)	-	良好	にぶい黄橙	10YR7/4	にぶい橙	7.5YR7/4	○	○	○	○	1~4	回転ナデ、ケズリ	回転ナデ、ハケ目		
273	G-13	2層		土器器	壺	残存5.9	(31.4)	-	良好	にぶい黄橙	10YR7/4	にぶい黄橙	10YR8/3	○	○	○	○	1~6	回転ナデ、ケズリ	回転ナデ、ナデ	内外面スス付着	
274	G-12	2層		土器器	壺	残存5.0	(22.8)	-	良好	橙	5YR6/6	橙	5YR6/6	○	○	○	○	1~3	回転ナデ、ケズリ	回転ナデ	外面赤彩?	
275	G-13	2層		須恵器	碗	4.4	13.8	8.2	良好	灰オリーブ	5Y5/2	灰オリーブ	5Y5/2	○	○	○	○	1~3	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ、自然釉	ヘラ切り底	
276				須恵器	碗	残存3.8	-	(8.6)	良好	暗灰黄	2.5Y5/2	暗灰黄	2.5Y5/2	○	○	○	○		回転ナデ、ナデ	回転ナデ	ヘラ切り底	
277	G-12	2層		須恵器	碗	4.4	13.4	(9.6)	良好	にぶい橙	5YR6/4	にぶい赤褐	2.5YR5/4	○	○	○	○		回転ナデ、ナデ	回転ナデ	ヘラ切り底、荒尾産か?	
278	K-12	2層		須恵器	碗	残存2.9	-	(8.4)	良好	黄灰	2.5Y6/1	黄灰	2.5Y6/1	○	○	○	○		回転ナデ、ナデ	回転ナデ	ヘラ切り底、高台内板状圧痕	
279	H-13	2層		須恵器	蓋	残存2.0	(15.2)	-	やや不良	暗灰黄	2.5Y5/2	灰オリーブ	5Y5/2	○	○	○	○	1~5	褐色釉	回転ナデ	回転ナデ	
280	M-4	2層		須恵器	壺	残存7.5	(16.4)	-	良好	灰黄	2.5Y6/2	灰	5Y6/1	○	○	○	○		褐色釉	回転ナデ	回転ナデ、タタキ目?	
281	J-12	2層		須恵器	瓶?	残存6.3	-	(8.7)	良好	黄灰	2.5Y5/1	黄灰	2.5Y5/1	○	○	○	○	1~2	回転ナデ、ナデ	ナデ		
282				表土	須恵器	壺	残存1.8	-	(22.0)	良好	灰黄	2.5Y6/2	にぶい黄	7.5YR6/3	○	○	○	○		褐色釉	回転ナデ、同心線状状状具	回転ナデ、タタキ目ナデ
283	K-9	2層		須恵器	壺	残存4.3	-	-	良好	褐灰	10YR6/1	褐灰	2.5Y6/2	○	○	○	○		褐色釉	回転ナデ	回転ナデ、ハケ目、自然釉	外面沈線
284	J-12	2層		布目瓦	平瓦?	残長6.9	残幅5.0	厚2.1	良好	凹面:にぶい黄褐	10YR5/3	凸面:にぶい黄	7.5YR5/4	○	○	○	○		凹面:布目	凸面:縞目	凸面赤彩?	
285	L-12	2層		土製品	土鍾	全長5.2	最大径1.2	孔径0.3	良好	-	-	にぶい黄	2.5Y6/3	○	○	○	○		-	ナデ	巻きつけて成形	
286	K-14	2層		土製品	土鍾	全長4.1	最大径1.0	孔径0.35	良好	-	-	明赤褐	10YR6/6	○	○	○	○		-	ナデ	巻きつけて成形	
287	K-13	2層		土製品	土鍾	全長3.9	最大径1.0	孔径0.45	良好	-	-	灰黄	2.5Y6/2	○	○	○	○		-	ナデ		
288	L-7	4層		土製品	土鍾	残長2.7	最大径1.0	孔径0.2	良好	-	-	にぶい黄橙	10YR7/4	○	○	○	○		-	ナデ		
290	G-13	2層		土器器	瓶?	残存6.2	残幅5.45	-	良好	浅黄橙	10YR8/4	浅黄橙	10YR8/4	○	○	○	○	1~3	ケズリ	ナデ		
291	F-12	2層		土器器	瓶?	残存3.1	残幅5.25	-	良好	-	-	にぶい黄橙	10YR6/4	○	○	○	○		-	ナデ、ハケ目	スス付着	
293	K-9	2層		縄文土器	深鉢	残存4.9	-	-	良好	黄灰	2.5Y5/1	黄灰	2.5Y4/1	○	○	○	○		滑石	ナデ?	ナデ?	滑石多く含む、光沢あり
294	K-12	2層		縄文土器	深鉢	残存3.6	-	-	良好	浅黄橙	10YR8/3	浅黄橙	10YR8/3	○	○	○	○		ミガキ	ミガキ	連続刺突文、X字文、貝殻痕(縄文(麻消縄文?)	
295	E-12	2層		縄文土器	小型深鉢	残存3.9	-	-	良好	明赤褐	5YR5/6	橙	5YR6/6	○	○	○	○	3	ミガキ	ミガキ	沈線文、屈曲刺突目	
296				表土	縄文土器	深鉢	残存3.3	-	良好	にぶい黄橙	10YR7/4	浅黄	2.5Y7/4	○	○	○	○		ナデ	回転ナデ	口唇部刻目、黒髪文	
297	L-12	3層上面		縄文土器	深鉢	残存5.0	-	6.0	良好	にぶい黄橙	10YR7/3	浅黄橙	10YR8/4	○	○	○	○		ナデ	ナデ、ミガキ	外裏スス付着、突出した上げ底	
298	L-11	2層		縄文土器	深鉢	残存5.2	-	9.6~10.5	良好	灰黄褐	10YR6/2	橙	7.5YR6/6	○	○	○	○		ナデ	ナデ	底面圧痕	
299	I-13	2層		縄文土器	鉢?	残存9.6	-	-	良好	灰黄	2.5Y6/2	にぶい黄橙	10YR7/4	○	○	○	○		ミガキ	ミガキ	突帯あり	
300	J-13	2層		土製品	耳環	長径2.4	短径2.0	厚2.0	良	-	-	暗灰黄	2.5Y5/2	○	○	○	○		-	ナデ、ミガキ	穿孔あり	
301	I-12-13	2層		弥生土器	高坏	残存4.2	-	-	やや不良	浅黄	2.5Y7/4	浅黄	2.5Y7/4	○	○	○	○	2	ナデ、ハケ目	ナデ、ハケ目		
302	L-14	2層		弥生土器	壺?	残存3.2	-	-	良	にぶい黄橙	10YR7/3	にぶい黄橙	10YR7/4	○	○	○	○		ハケ目	ハケ目	重弧文、兔耳式か	
303	K-11-12	2層		弥生土器	壺?	残存2.2	-	7.5	良好	にぶい黄橙	10YR7/4	にぶい黄橙	10YR7/4	○	○	○	○		ナデ	ハケ目	外面底部にハケ目	
304	G-13	2層		土器器	小皿	1.8	(8.6)	(7.5)	良好	にぶい橙	7.5YR7/4	にぶい黄	5YR7/4	○	○	○	○	1~2	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	糸切り底、底面板状圧痕	
305	K-14	2層		土器器	染付 椀	6.7	(11.4)	(5.4)	良好	灰白	7.5Y7/1	黄オリーブ(透色)	2.5GY7/1	○	○	○	○		施釉	施釉	藍付砂付着、内面沈線、外面墨線、丸文	
326				土器器	壺	残存6.1	(26.8)	-	良好	にぶい黄橙	10YR7/3	にぶい黄	7.5YR6/3	○	○	○	○		回転ナデ、ケズリ	回転ナデ、ハケ目	外面スス付着	
327				土器器	壺	残存8.6	(24.0)	-	良好	にぶい黄褐	10YR5/4	にぶい黄褐	10YR5/4	○	○	○	○		回転ナデ、ナデ、ケズリ	回転ナデ、ナデ	内外面スス付着	
328				土器器	壺	残存6.55	(25.7)	-	良好	橙	5YR6/6	にぶい橙	5YR6/4	○	○	○	○	1	回転ナデ、ケズリ	回転ナデ、ハケ目	白色粘土付着	
329				土器器	無頸壺	残存7.1	(29.6)	-	良好	橙	7.5YR6/6	橙	7.5YR6/6	○	○	○	○	1~5	回転ナデ、ナデ、ケズリ	回転ナデ、ナデ	内外面赤彩	
330				土器器	坏	2.7	(15.2)	(11.2)	良好	橙	7.5YR7/6	橙	7.5YR7/6	○	○	○	○	1~2	回転ナデ?	-	内外面著しく剥離	
331		上層	20号道路	須恵器	蓋	2.3	(13.8)	経径3.6	良	にぶい橙	5YR6/4	暗灰黄	2.5Y5/2	○	○	○	○		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ケズリ		
332			25号道路	土器器	坏	2.6	(14.0)	(9.0)	良	橙	5YR6/8	橙	5YR6/8	○	○	○	○		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	ヘラ切り底、内外面赤彩	
333			29号溝	須恵器	碗	4.3	(12.8)	(7.2)	良好	灰	5Y6/1	オリーブ灰	5GY5/1	○	○	○	○		回転ナデ	回転ナデ、ナデ		
334			13号土坑	土器器	皿	1.7	(18.0)	(12.8)	やや不良	橙	5YR6/8	橙	5YR6/6	○	○	○	○		回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラミガキ?	
335	T-17	2層		土器器	坏	2.9	(12.8)	(8.0)	良好	明赤褐	2.5YR5/8	明赤褐	2.5YR5/8	○	○	○	○		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	ヘラ切り底、内外面赤彩	
336				土器器	碗	残存2.4	-	(7.8)	良好	明赤褐	2.5YR5/8	明赤褐	2.5YR5/8	○	○	○	○		回転ナデ	回転ナデ、ナデ	ヘラ切り底、内外面赤彩、内面研磨	
337	T-15	2層		土器器	碗	残存3.5	-	(7.9)	良	橙	7.5YR6/6	橙	7.5YR6/6	○	○	○	○		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ		
338	V-13	掘乱		土器器	鉢?	残存1.6	-	(10.2)	良好	橙	7.5YR6/6	橙	7.5YR6/6	○	○	○	○	3	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	ヘラ切り底、内外面赤彩、底面板状圧痕	
339	U-15	2層		土器器	壺	残存7.7	(24.6)	-	良好	にぶい黄橙	10YR7/3	浅黄橙	10YR8/3	○	○	○	○	1~4	回転ナデ、ケズリ	回転ナデ、ハケ目	外面スス付着、二次焼成	
340	V-13	2層		土器器	鉢	残存6.6	(24.4)	-	良	橙	7.5YR6/6	橙	7.5YR6/6	○	○	○	○	2	回転ナデ、ケズリ	回転ナデ、ハケ目		
341	U-16	2層		内裏土器器?	坏	残存4.0	-	(7.0)	良好	にぶい黄橙	10YR6/4	にぶい黄橙	10YR7/3	○	○	○	○		ミガキ	ミガキ		
342	B-3	T-15	2層	須恵器	蓋	残存1.6	(15.2)	-	良好	黄褐	2.5Y5/3	暗灰黄	2.5Y5/2	○	○	○	○	1~3	回転ナデ、ナデ			







編年 No.	調査区	グリッド	層序	遺構名	種別	器種	法量※( )は復元		焼成	色調		胎土							調整		備考		
							器高(cm)	口径(cm)		底径(cm)	内面/胎土	外面/釉色	胎土	赤土	長石	礫石	黒土	砂	その他	内		外	
																							胎土
672					土師器	坏	3.7	(12.1)	(9.0)	良好	橙	5YR6/6	橙	7.5YR7/6	○	○	○	○	2~4	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	ヘラ切り底、内外面赤彩	
673		U-14	4層		土師器	坏	2.5	(13.4)	(9.0)	良好	橙	5YR6/8	橙	5YR7/8	○	○	○	○		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	ヘラ切り底、内外面赤彩	
674		P-14	1層		土師器	坏	3.1	(15.2)	(9.2)	良好	橙	7.5YR6/6	橙	5YR6/6	○	○	○	○		回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り底、内外面赤彩、外面スス付着	
675		P-14	2層		土師器	坏	3.6	(14.4)	(8.6)	良好	橙	5YR6/6	にぶい黄橙	10YR7/4~5YR6/6	○	○	○	○		回転ナデ	回転ナデ	内外面赤彩	
676		U-14	1層		土師器	碗	残存3.7	-	(10.8)	良好	にぶい橙	5YR6/4	にぶい橙	5YR6/4	○	○	○	○		回転ナデ	回転ナデ	内外面赤彩、墨付着、転用痕か	
677		P-15	1層		土師器	壺	2.5	15.3	総径4.2	良好	橙	5YR6/6	橙	5YR6/6	○	○	○	○		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	内外面赤彩	
678		R-17	2層		土師器	壺	残存4.5	(22.8)	-	良好	にぶい黄橙	10YR7/4	にぶい黄橙	10YR7/4	○	○	○	○	2~3	回転ナデ、ナズリ	回転ナデ、ナズリ	内外面赤彩	
679		S-15	3層		土師器	壺	残存7.3	(24.8)	-	良好	橙	7.5YR7/6	浅黄橙	10YR8/4	○	○	○	○	2~4	回転ナデ、ナズリ	回転ナデ、ハケ目	外面スス付着	
680		Q-16	2層		土師器	壺	残存6.7	(24.2)	-	良好	明黄褐	10YR7/6	浅黄橙	7.5YR8/6	○	○	○	○	1~3	回転ナデ、ナズリ	回転ナデ、ナズリ	外面スス付着	
681		P-14	1層		土師器	鉢	残存6.1	(20.8)	-	良好	橙	7.5YR6/6	橙	7.5YR6/6	○	○	○	○		回転ナデ、ナデ	回転ナデ	内外面赤彩、表面剥離	
682		R-17	2層		土師器	盃	残存6.6	(11.0)	-	良好	明黄褐	10YR6/6	明黄褐	10YR6/6	○	○	○	○		ヘラケズリ、ユビオサエ	ナデ、ユビオサエ	粗製のもの、装土器？	
683		R-16	2層		土師器	壺	残存8.1	残長5.9	残幅7.2	良好	にぶい橙	7.5YR6/4	にぶい黄橙	10YR8/4	○	○	○	○	1~10	ケズリ	ナデ		
684		P-15	2層下		土師器	壺	残存9.0	残長6.1	残幅9.3	良好	浅黄橙	7.5YR8/6	浅黄橙	7.5YR8/6	○	○	○	○	2	ケズリ	ナデ、ハケ目		
685		R-18	1層		土師器	壺	残存8.3	残長5.4	残幅8.0	良好	にぶい黄橙	10YR7/4	橙	5YR6/6	○	○	○	○	2~3	ナデ、ケズリ	ナデ		
686		V-14	3層		土師器	壺	残存8.3	残長4.7	残幅8.5	良好	にぶい黄橙	10YR7/3	橙	7.5YR6/6	○	○	○	○	2~3	ケズリ	ナデ		
687					土師器	壺	残存5.5	残長4.8	残幅6.7	良好	にぶい黄橙	10YR7/4	にぶい黄橙	10YR7/4	○	○	○	○	1~2	ケズリ	ナデ		
688		Y-12	1層		土師器	壺	残存7.4	残長4.4	残幅8.0	良好	にぶい黄橙	10YR6/4	暗灰黄	2.5Y4/2	○	○	○	○	2~3	ケズリ	ナデ	二次焼成？	
689					表土	土師器	壺	残存5.1	残長4.2	残幅5.5	良好	橙	5YR7/6	橙	7.5YR7/6	○	○	○	○	2~3	ケズリ	ナデ	
690	D-5	X-12	4層		土師器	壺	残存15.3	残長4.2	残幅7.2	良好	浅黄	2.5Y7/3	橙	2.5Y7/6	○	○	○	○		-	ナデ		
691		R-17	1層		土製品	土鉢	残長4.5	最大幅1.1	孔径0.3	良好	-	-	にぶい黄橙	10YR7/3	○	○	○	○		-	ナデ		
692		Y-12	1層		土製品	土鉢	残長3.5	最大幅1.1	孔径0.4	良好	-	-	橙	2.5YR6/8	○	○	○	○		-	ナデ	赤彩	
693		Z-12	表土1層		土製品	土鉢	残長4.8	最大幅1.9	孔径0.6~0.7	良好	-	-	明褐灰	7.5YR7/3	○	○	○	○		-	ナデ		
694		P-14	2層		土製品	紡錘車	残長6.8	残幅3.4	厚さ2.0	良好	にぶい黄橙	10YR7/3	灰黄褐	10YR6/2	○	○	○	○	2~4	-	ナデ	瓦の二次加工か？	
695					表土	土師器	碗	残長7.2	残幅3.2	厚さ2.4	良好	-	-	浅黄	2.5Y7/3	○	○	○	○	2	-	ケズリ、ナデ、ユビオサエ	赤彩 跡か？
696		R-16	2層		須恵器	碗	4.6	(11.8)	(8.8)	良好	暗灰黄	2.5Y5/2	にぶい黄褐	10YR5/3	○	○	○	○		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、自然釉	ヘラ切り底	
697		V-14	1層		須恵器	蓋	2.6	13.6	総径4.6	良好	褐灰	10YR4/1	にぶい黄褐	10YR5/3	○	○	○	○		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ケズリ、自然釉		
698		U-14	1層		須恵器	蓋	残存1.4	14.0	-	良好	暗灰黄	2.5Y5/2	にぶい黄褐	10YR5/4	○	○	○	○		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ケズリ、自然釉		
699		X-12	4層		須恵器	蓋	3.4	(14.4)	総径(3.9)	やや不良	浅黄橙	10YR8/4	にぶい黄褐	10YR5/3	○	○	○	○		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ケズリ		
700					表土	須恵器	蓋	2.3	(13.4)	総径4.6	良好	暗灰黄	2.5Y5/2	灰褐	5YR6/2	○	○	○	○		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ケズリ、自然釉	やや歪みあり
701					表土	須恵器	蓋	残存2.8	(15.2)	-	良好	褐灰	7.5YR6/1	褐灰	10YR6/1	○	○	○	○		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ、ケズリ	
702		U-14	1層		須恵器	蓋	1.5	(14.2)	総径2.2	良好	暗灰黄	2.5Y5/2	灰黄~灰	2.5Y6/2~5Y6/1	○	○	○	○		回転ナデ	回転ナデ、ケズリ		
703		Q-17	2層		須恵器	蓋	残存1.8	-	総径2.2	良好	黄灰	2.5Y6/1	灰	5Y6/1	○	○	○	○	1~2	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ケズリ		
704		R-16	2層		須恵器	蓋	残存1.0	(11.2)	-	良好	暗灰黄	2.5Y5/2	灰オリーブ	5Y5/2	○	○	○	○		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ケズリ、自然釉		
705		R-17	2層		須恵器	蓋	残存2.5	(20.4)	-	良好	灰黄	2.5Y7/2	浅黄	2.5Y7/3	○	○	○	○	1~4	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ、ケズリ		
706		X-13	1層		須恵器	蓋	残存3.5	(16.0)	-	良好	オリーブ黒	7.5Y3/1	灰オリーブ	7.5Y5/2	○	○	○	○		回転ナデ、ナデ、自然釉	回転ナデ、自然釉	歪みあり	
707		V-14	1層		須恵器	壺	残存6.2	-	10.8	良好	にぶい黄橙	10YR6/3	にぶい黄橙	10YR6/3	○	○	○	○		回転ナデ	回転ナデ	布目瓦転用の可能性あり	
708					弥生土器	坏か？	残存5.9	(14.0)	(11.6)	良好	黄赤褐	10YR6/4~2.5YR6/6	明赤褐	2.5YR5/6	○	○	○	○	1~4	回転ナデ	回転ナデ、ケズリ、自然釉、指痕		
710		T-15	2層		縄文土器	深鉢	残存8.0	-	-	良好	にぶい黄橙	10YR6/4	灰黄褐	10YR5/2	○	○	○	○		ナデ	条痕	口唇部具鋭刺突文	
711		S-16	2層下		縄文土器	浅鉢	残存11.0	(26.6)	-	良好	にぶい黄橙	10YR7/4	にぶい黄褐	10YR5/3	○	○	○	○		ミガキ	ミガキ	口縁部4条の凹線文、外面スス付着、後焼痕	
712		T-15	2層		縄文土器	深鉢	残存11.2	-	-	良好	にぶい黄橙	10YR6/4	褐灰	10YR4/1	○	○	○	○	1~3	ミガキ	条痕		
713		S-16	2層下		縄文土器	深鉢	残存14.0	(38.8)	-	良好	浅黄	2.5Y7/3	灰黄褐	10YR5/2	○	○	○	○	1~5	ナデ、ミガキ	ミガキ		
714		S-16	2層下		縄文土器	深鉢	残存16.1	(38.2)	-	良好	浅黄	2.5Y7/3	にぶい黄橙	10YR6/4	○	○	○	○	1	ミガキ	ミガキ		
715		T-15	2層		縄文土器	深鉢	残存2.6	-	6.7	良好	黒褐	2.5Y3/1	にぶい黄橙	10YR7/4	○	○	○	○	2	ナデ	ミガキ	上げ底、内面炭化物付着	
716					縄文土器	深鉢	残存2.4	-	6.4	良好	黄灰	2.5Y4/1	にぶい黄橙	10YR6/4	○	○	○	○	2	ナデ、ミガキ	ミガキ	上げ底	
717		T-15	2層		縄文土器	深鉢	残存1.7	-	5.5	良好	浅黄	2.5Y7/3	にぶい黄橙	10YR6/4	○	○	○	○		ミガキ	ミガキ	上げ底	
742					土師器	坏	3.0	14.2	8.7	良好	明赤褐	5YR5/6	橙	5YR6/6	○	○	○	○		回転ナデ	回転ナデ	内外面赤彩	
743					土師器	坏	3.1	(14.1)	(9.0)	良好	橙	5YR6/6	橙	5YR6/6	○	○	○	○		回転ナデ、回転ヘラミガキ	回転ナデ、回転ヘラミガキ	内外面赤彩	
744		S-20	1層		土師器	坏	3.1	(12.0)	(6.2)	良好	にぶい黄橙	10YR7/4	にぶい黄	2.5Y6/4	○	○	○	○		回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り底、内外面赤彩	
745		T-20	2層		土師器	坏	2.9	(14.0)	(8.2)	良好	にぶい橙	5YR7/4	橙	5YR6/6	○	○	○	○		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	ヘラ切り底、内外面赤彩	
746		T-19	表土		土師器	坏	2.3	(12.4)	(7.4)	良好	浅黄	2.5Y7/4	にぶい黄	2.5Y6/3	○	○	○	○		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	ヘラ切り底、底面板状圧痕	
747		S-19	2層		土師器	坏	5.0	(12.4)	(7.0)	良好	にぶい橙	7.5YR6/4	橙	5YR6/6	○	○	○	○	1~2	回転ナデ	回転ナデ		
748		S-20	1層		土師器	碗	6.2	(12.2)	7.2	良好	橙	5YR6/6	にぶい赤褐	5YR5/4	○	○	○	○		回転ナデ、ナデ	回転ナデ	内外面スス付着	
749					土師器	碗	残存4.3	-	(7.9)	良好	にぶい黄褐	10YR5/3	にぶい黄褐	10YR5/3	○	○	○	○		回転ナデ、ナデ	回転ナデ		
750		T-20	表土		黒色土器	碗	5.1	(12.4)	7.2	良好	黒	10YR1.7/1	にぶい黄橙	10YR6/4	○	○	○	○		ミガキ	回転ナデ、ナデ	内面黒く濡される、高台に赤彩	
751					黒色土器	坏	残存3.8	(11.5)	-	良好	黒	5Y2/1	灰白	10YR8/2	○	○	○	○	2	ミガキ	回転ナデ	内面黒く濡される	
752		S-19	2層		土師器	高坏	残存2.7	(18.4)	-	良好	明赤褐	5YR5/6	赤褐	5YR4/8	○	○	○	○		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	内外面赤彩	
753					土師器	壺	残存10.0	(28.2)	-	良好	にぶい黄橙	10YR7/4	明黄褐	10YR7/6	○	○	○	○	2	回転ナデ、ケズリ	回転ナデ、ハケ目	内外面スス付着	
754		T-20	1層		土師器	壺	残存5.9	(27.0)	-	良好	にぶい橙	7.5YR6/4	にぶい橙	7.5YR6/4	○	○	○	○		回転ナデ、ケズリ	回転ナデ、ナデ	外面スス付着	
755					土師器	壺	残存6.3	(27.0)	-	良好	橙	7.5YR7/6	橙	7.5YR6/6</									



観測No.	調査区	グリッド	層序	遺構名	種別	器種	法量※( )は復元		焼成	色調		胎土						調整		備考					
							器高(cm)	口径(cm)		底径(cm)	内面/胎土	外面/釉色	赤鉄	石英	長石	燧石	燧石	燧石	燧石		燧石	燧石	燧石	内	外
843		AD-18	2層		縄文土器	深鉢	残存6.8	-	-	良	にふい黄橙	10YR7/3	にふい橙	5YR7/4	○	○	○				ナデ、ケズリ?	ナデ	沈線文		
844		AD-18	2層		縄文土器	浅鉢	残存2.9	(21.5)	-	良	にふい黄橙	10YR7/2	明褐灰	7.5YR7/2	○	○	○	1~3			ミガキ	ミガキ	波状口縁、沈線文		
854					弥生土器	壺	残存5.8	(16.0)	-	良好	にふい黄橙	10YR6/4	灰黄褐	10YR6/2	○	○	○	1~2			ハケ目、ケズリ、ナデ	回転ナデ、ハケ目			
855					布目瓦	軒丸瓦	残存4.5	残長2.8	残幅6.2	良	-	-	にふい黄橙	10YR7/3	○	○					-	ナデ	蓮子文		
856					表土	布目瓦	軒丸瓦	残存3.2	残長2.8	残幅4.5	良	-	-	灰白	10YR8/2	○	○					-	ナデ	蓮子文	
857					表土	布目瓦	軒平瓦	残長8.0	残幅6.6	厚さ2.8	良	凹面:淡黄	2.5Y8/3	凸面:灰白	10YR8/2	○	○					凹面:ナデ	凸面:鈍目	唐草文	
858		AB-10-15			表土	布目瓦	丸瓦?	残長17.4	残幅11.1	厚さ2.4	良好	凹面:灰黄	2.5Y7/2	凸面:灰黄	2.5Y7/2	○	○				1~5	凹面:布目	凸面:ナデ		
859					表土	布目瓦	丸瓦?	残長15.2	残幅12.9	厚さ2.2	良好	凹面:淡黄橙	10YR8/3	凸面:淡黄橙	10YR8/3	○	○					凹面:布目	凸面:ナデ		
860		AE-20			表土	布目瓦	丸瓦?	残長24.5	残幅12.8	厚さ2.3	良好	凹面:灰白	2.5Y8/1	凸面:灰白	2.5Y8/1	○	○				3	凹面:布目	凸面:ナデ		
861	D-9	AC-17			表土	布目瓦	丸瓦?	残長17.2	残幅9.6	厚さ1.8	良好	凹面:淡黄	2.5Y7/3	凸面:淡黄	2.5Y7/4	○	○					凹面:布目	凸面:鈍目、ナデ		
862					表土	布目瓦	丸瓦?	残長15.2	残幅15.0	厚さ2.2	良	凹面:橙	7.5YR7/6	凸面:橙	7.5YR7/6	○	○				1~4	凹面:布目、ナデ	凸面:鈍目		
863					表土	布目瓦	丸瓦?	残長9.3	残幅9.7	厚さ1.9	良好	凹面:橙	7.5YR6/6	凸面:橙	7.5YR6/6	○	○					凹面:布目、ナデ	凸面:鈍目		
864		AB-10-15			表土	布目瓦	平瓦	残長16.5	残幅11.7	厚さ2.3	良	凹面:灰白	2.5Y8/2	凸面:灰白	2.5Y8/2	○	○					凹面:布目	凸面:鈍目		
865		AB-10-15			表土	布目瓦	平瓦	残長15.2	残幅15.1	厚さ2.5	良	凹面:黄灰	2.5Y5/1	凸面:灰	5Y5/1						1~2	凹面:布目、粗いハケ目?	凸面:鈍目、ナデ		
866		AB-10-15			表土	布目瓦	平瓦	残長11.7	残幅13.8	厚さ2.6	良	凹面:灰白	2.5Y8/2	凸面:黄灰	2.5Y6/1	○	○				2	凹面:布目、粗いハケ目?	凸面:鈍目、ナデ		
867					表土	布目瓦	平瓦	残長13.5	残幅9.5	厚さ2.2	良	凹面:灰白	5Y7/2	凸面:灰白	5Y7/2	○	○				2	凹面:布目、粗いハケ目?	凸面:鈍目		
868					埋土	59号道路	布目瓦	平瓦	残長8.2	残幅10.2	厚さ2.4	良	凹面:黄灰	2.5Y6/1	凸面:灰黄	2.5Y7/2							凹面:鈍目		
869					表土	布目瓦	平瓦	残長7.5	残幅12.2	厚さ2.8	良	凹面:淡黄橙	7.5YR8/3	凸面:淡黄橙	7.5YR8/4	○	○					凹面:布目、粗いハケ目?	凸面:鈍目		
870					表土	布目瓦	平瓦	残長11.6	残幅14.8	厚さ2.7	良	凹面:灰	5Y6/1	凸面:灰オリーブ	5Y6/2	○	○					凹面:布目、粗いハケ目?	凸面:鈍目		
871					埋土	31号土坑	須恵器	蓋	残存2.1	(18.2)	-	良好	褐灰	10YR5/1	灰褐	7.5YR4/2							回転ナデ、ナデ、自然釉	回転ナデ、自然釉	
872						土器	坏	3.2	(13.0)	(7.2)	良好	赤褐	2.5YR4/6	赤褐	2.5YR4/6								回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	へら切り底、内外面赤彩、スス付着
873		AB-34				土器	坏	3.1~3.5	11.5	7.2	良好	橙	5YR6/6	橙	5YR6/8	○							回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	へら切り底、内外面赤彩、底面板状圧痕
874		AB-34				土器	坏	3.1	(11.9)	(6.5)	良好	橙	7.5YR6/6	橙	7.5YR6/6								回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	へら切り底、内外面赤彩
875		AB-34				土器	坏	残存3.7	(12.2)	-	良好	橙	5YR6/6	橙	5YR6/6	○	○					3~5	回転ナデ	回転ナデ	へら切り底、内外面赤彩
876		AB-34				土器	皿	2.6	12.0	6.6	良好	にふい橙	7.5YR7/4	橙	7.5YR6/6	○	○						回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	へら切り底、内面赤彩
877		AB-34				土器	坏	残存2.4	(12.2)	(5.5)	良好	にふい黄橙	10YR6/4	にふい黄橙	10YR6/4	○	○						回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	へら切り底
878		AB-34			表土	土器	坏	2.8	(11.7)	(6.5)	良好	赤褐	5YR4/8	赤褐	5YR4/8							1	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	へら切り底、内外面赤彩、底面板状圧痕
879		AB-34				土器	碗	残存4.4	(12.4)	-	良好	橙	5YR6/8	橙	5YR6/8	○	○						回転ナデ	回転ナデ	
880		AB-34				土器	碗	5.2	12.5	7.0	良好	橙	7.5YR6/6	橙	5YR6/6	○	○						回転ナデ	回転ナデ、ナデ	へら切り底、内外面赤彩、疊付に圧痕、内面に線状の溝
881		AB-34				須恵器	蓋	1.7	(13.4)	(8.0)	良好	灰黄	2.5Y7/2	灰黄	2.5Y6/2								回転ナデ、ナデ	回転ナデ	へら切り底
882		AB-34	表土			須恵器	碗	残存4.9	-	7.6	不良	灰白	2.5Y8/1	灰白	2.5Y8/1	○	○						回転ナデ、ナデ、指オサエ	回転ナデ、ナデ	へら切り底
883		AB-34				土器	壺	残存5.6	(29.0)	-	良好	にふい黄橙	10YR7/4	明黄褐	10YR7/6	○	○						回転ナデ、ケズリ	回転ナデ	
884						埋土	須恵器	壺	残存35.0	19.8	-	良好	灰黄褐	10YR4/2	灰白	10YR7/1						2~3	同心円状当て具痕、タタキ目、自然釉	回転ナデ、格子状タタキ目、自然釉	
885		AB-34				土器	坏	2.9	(12.2)	(7.8)	良好	灰黄	2.5Y7/2	灰黄	2.5Y7/2	○	○						回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	へら切り底、内面赤彩
886		AB-34				土器	坏	2.3	14.5	-	良好	明褐	7.5YR5/6	にふい黄橙	10YR6/4	○	○						回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	内外面赤彩、スス付着、底面板状圧痕
887					表土	土器	坏	2.1	11.5	8.4	良好	にふい橙	7.5YR7/4	にふい橙	7.5YR6/4	○	○						回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	へら切り底、内面赤彩、内外面スス付着
888					表土	土器	坏	2.5	(13.2)	(10.0)	良好	橙	5YR6/6	にふい黄橙	10YR7/4	○	○						回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	へら切り底、内面赤彩、器状圧痕
889		AB-34	埋土			土器	碗	4.9	(12.3)	(7.0)	良好	にふい橙	7.5YR7/4	橙	7.5YR7/6	○	○				5	回転ナデ	回転ナデ	へら切り底、底面板状圧痕	
890		AB-34				土器	碗	3.6	(12.9)	(7.3)	良好	にふい橙	7.5YR7/4	にふい黄橙	10YR6/4								回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	へら切り底、内外面赤彩、内面スス付着
891					表土	土器	碗	5.0	13.3	7.1	良好	橙	5YR6/6	橙	5YR6/6	○	○				6	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	へら切り底、内外面赤彩	
892	D-10	AB-34				土器	碗	残存3.2	-	7.3	良好	明赤褐	5YR5/8	明赤褐	5YR5/8	○	○						回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	へら切り底、内外面赤彩、高台内板状圧痕
893			2層			土器	壺	6.25	(17.2)	(11.4)	良好	明赤褐	2.5YR5/8	明赤褐	2.5YR5/8	○	○						回転ナデ、ナデ	回転ナデ	へら切り底、内外面赤彩
894						土器	壺	残存9.0	(29.2)	-	良好	橙	5YR6/6	にふい橙	7.5YR6/4	○	○						回転ナデ、ケズリ	回転ナデ、ナデ	内外面スス付着
895		AB-34				土器	壺	残存7.0	(25.6)	-	良好	明黄褐	10YR6/6	橙	7.5YR6/6	○	○						回転ナデ、ケズリ	回転ナデ、ハケ目	
896					表土	土器	壺	残存5.3	(20.4)	-	良好	にふい黄橙	10YR7/4	橙	7.5YR6/6	○	○					3~4	回転ナデ、ケズリ	ナデ、ハケ目	内面スス付着
897					埋土	ビット24	土器	壺	残存3.7	(16.8)	-	良好	橙	5YR6/6	明赤褐	5YR5/6	○	○					回転ナデ、ケズリ	回転ナデ、ナデ	内外面スス付着
898						ビット28	須恵器	坏	3.1	12.0	7.6	良	にふい黄	2.5Y6/3	にふい黄	2.5Y6/3							回転ナデ、ナデ	回転ナデ	へら切り底、底面板状圧痕
899		AB-34				ビット1	須恵器	坏	3.1	14.0	8.8	良好	灰	5Y5/1	灰	5Y5/1	○	○					回転ナデ、ナデ、指頭痕	回転ナデ、ナデ、指頭痕	へら切り底、底面板状圧痕
900		AB-34				ビット78	須恵器	坏	3.4	(12.8)	(8.2)	良好	灰	5Y6/1	黄灰	2.5Y5/1					1	回転ナデ	回転ナデ、ナデ	へら切り底、底面板状圧痕?	
901					表土	須恵器	蓋	残存2.0	-	直径4.8	良好	灰	7Y5/1	灰	7.5Y1/1	○	○						回転ナデ、自然釉	へらケズリ、ナデ	
902					埋土	ビット6	須恵器	蓋	3.0	14.3	直径2.2	良好	にふい黄褐	10YR5/3	にふい黄褐	10YR5/4	○				2	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ、自然釉		
903						ビット23	須恵器	壺	残存7.8	(22.6)	-	良好	にふい褐	7.5YR5/3	灰黄褐	10YR5/2	○						回転ナデ、同心円状当て具痕、自然釉	回転ナデ、格子状タタキ目、自然釉	
904					表土	須恵器	壺	残存5.1	(22.0)	-	良好	にふい赤褐	5YR5/4	褐	10YR4/4						2	回転ナデ、当て具痕、自然釉	回転ナデ、格子状タタキ目、自然釉		
905		AC-37	2層			須恵器	壺	残存6.2	-	-	良好	褐灰	10YR6/1	灰赤	2.5YR4/2							ナデ、自然釉	回転ナデ、自然釉	外面1条の波状文	
906						ビット70	須恵器	無頭壺	残存11.6	-	-	良好	橙	5YR7/8	橙	5YR6/8							回転ナデ、同心円状当て具痕	回転ナデ、格子状タタキ目	
907					表土	土製品	土鉢	残長3.7	最大幅1.0	-	良好	-	-	にふい橙	5YR7/4	○	○						-	ナデ	
908					表土	土製品																			





掲載No.	調査区	グリッド	層序	種別	器種	石材	法量※( )は残存				形態的特徴	備考	
							長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
210		AD-30	2層	打製石器	剥片	黒曜石(西北九州産)	4.65	2.30	0.70	5.98	縦長剥片		
211		AD-30	2層	打製石器	剥片石器	安山岩	8.60	4.30	1.20	50.82	斜軸剥片		
212				打製石器	打製石斧	安山岩か	(11.10)	(8.00)	(1.95)	(194.1)	短冊形、扁平	基部欠損	
213				打製石器	打製石斧	緑色片岩	(6.80)	(8.75)	(1.50)	(131.0)	短冊形か	基部欠損	
214		AD-30	2層	打製石器	打製石斧	安山岩か	8.40	9.55	2.70	230.9	円盤形		
215		AB-30	2層	礫石器	磨石	輝石安山岩	(10.30)	(9.90)	(3.20)	(447)	不整形円形、扁平	基部欠損	
216		AB-30	2層	礫石器	敲石・磨石	輝石安山岩	(9.20)	(12.60)	(4.50)	(644)	円形、扁平	基部欠損	
255				石製品	硯	泥岩ホルンフェルスか?	(5.0)	(4.1)	1.0				
256		E-13	2層	打製石器	石鏃	チャート	(2.30)	(1.75)	(0.45)	(1.13)	凹基無茎鏃	片側脚部欠損	
257		D-12	2層	打製石器	石鏃	安山岩	2.35	1.80	0.35	0.99	凹基無茎鏃		
258		C-12	2層	打製石器	石鏃	チャート(青灰色)	(1.25)	(1.15)	0.15	(0.20)	凹基無茎鏃	先端部・片側脚部欠損	
259				打製石器	石鏃	安山岩(西北九州産)	(2.55)	(2.15)	(0.60)	(2.69)	凹基無茎鏃	先端部欠損	
260		C-13	2層	打製石器	石鏃	黒曜石(西北九州産)	2.40	1.40	0.35	0.55	凹基無茎鏃		
261	B-1	D-13	2層	打製石器	石鏃	黒曜石(姫島産)	(1.55)	(1.15)	(0.25)	(0.30)	凹基無茎鏃	先端部・片側脚部欠損	
262		C-13、14	2層	打製石器	石鏃	安山岩(西北九州産)	(1.80)	1.90	0.35	(0.74)	凹基無茎鏃	先端部欠損	
263				打製石器	石斧	緑色片岩	10.20	4.80	1.45	96.52	短冊形		
264		C-12	2層	打製石器	石斧	輝石安山岩	16.10	6.30	3.20	268	短冊形		
265		C-12	2層	打製石器	剥片	黒曜石(西北九州産)	3.85	2.00	0.80	3.53	縦長剥片		
266		E-13	2層	打製石器	二次加工剥片	黒曜石	2.90	1.50	0.40	1.60		自然面・素材剥離面を残す 右側上部縁辺・下部縁辺に細かい剥離調整	
267		C-10	2層	石製品	砥石	天草砥石	(4.2)	(1.5~2.3)	-	-		4面使用	
289		K-12	2層	石製品	紡錘車		直径4.0	孔径0.6	1.1	-		ミガキあり	
306		L-13	2層	打製石器	石鏃	黒曜石(西北九州産)	(2.85)	2.30	0.55	(2.31)	凹基無茎鏃	先端部欠損	
307				表土	打製石器	石鏃	黒曜石(西北九州産)	(2.50)	(1.75)	(0.40)	(1.01)	凹基無茎鏃	片側脚部欠損
308		L-7	2層	打製石器	石鏃	黒曜石(在地か西北九州産)	(1.95)	1.65	0.40	(0.81)	凹基無茎鏃	先端部欠損	
309		K-12	2層	打製石器	石鏃	黒曜石(姫島産)	(2.00)	(1.40)	0.50	(0.73)	凹基無茎鏃	先端部・片側脚部欠損	
310		M-4	2層	打製石器	石鏃	安山岩	(1.46)	1.55	0.30	(0.72)	平基無茎鏃	先端部欠損	
311		L-9	2層	打製石器	石鏃	黒曜石(西北九州産)	(1.60)	(1.25)	0.35	(0.49)	凹基無茎鏃	先端部・片側脚部欠損、未成品か	
312				表土	打製石器	石鏃	黒曜石(針尾産)	(2.40)	1.90	0.45	(1.44)	凹基無茎鏃	先端部わずかに欠損
313		G-13	2層	打製石器	打製石斧	緑色片岩	10.95	4.65	1.70	91.30	短冊形		
314		J-13	2層	打製石器	打製石斧	緑色片岩	9.45	4.20	0.90	49.30	短冊形	一部、磨耗による光沢あり	
315	B-2	I-13	2層	打製石器	打製石斧	安山岩か	12.00	6.85	1.70	202.2	短冊形、扁平		
316		J-13	2層	打製石器	打製石斧	輝石安山岩	12.05	6.90	1.95	203	短冊形	磨耗による色調の変化あり	
317				打製石器	打製石斧	流紋岩質安山岩	(9.95)	(5.40)	(2.05)	(151.4)	短冊形	刃部欠損	
318		B-29	2層	打製石器	打製石斧	輝石安山岩	(6.15)	(5.60)	(1.95)	(72.18)	短冊形	刃部欠損	
319			4層	磨製石器	磨製石斧	緑色片岩	(10.50)	(5.90)	(3.35)	(260)		刃部・基部欠損	
320				打製石器	打製石斧	流紋岩質安山岩	(6.50)	5.00	(1.55)	(69.12)	短冊形	基部欠損	
321				磨製石器	磨製石斧	結晶片岩か	(9.70)	(6.00)	(3.45)	(283)	給刃	基部欠損	
322		L-11	2層	磨製石器	磨製石斧	蛇紋岩	(4.40)	(4.70)	(2.80)	(56.23)	給刃	刃部のみの残存	
323		K-14	4層	打製石器	剥片	安山岩	6.55	4.10	1.15	32.4		背福と腹面で色合いが大きく違う	
324				表土	打製石器	剥片石器	安山岩	7.00	4.80	1.60	(42.66)	斜軸剥片	先端部一部欠損
325				打製石器	剥片石器	玄武岩質安山岩	(4.05)	(4.10)	(1.60)	(24.32)		左側縁欠損、磨製石斧の再加工と思われる	
359				打製石器	石鏃	黒曜石(西北九州産)	(2.20)	(1.35)	(0.35)	(0.73)	凹基無茎鏃	先端部・片側脚部わずかに欠損	
360				打製石器	石鏃	チャート	(2.95)	(1.25)	0.38	(1.9)	凹基無茎鏃か	脚部欠損、先端部わずかに欠損	
361				打製石器	石鏃	黒曜石(姫島産)	(1.30)	1.30	1.30	(0.37)	凹基無茎鏃	先端部欠損	
362				打製石器	二次加工剥片	黒曜石(西北九州産)	(1.70)	(1.55)	(0.35)	(0.78)	凹基無茎鏃	片脚部のみの残存	
363		U-13	一括		二次加工剥片	安山岩か	2.90	1.90	0.75	4.60		自然面・素材剥離面を残す。両側縁辺に剥離調整	
364	B-3	U-14	2層	打製石器	石匙	安山岩	3.30	3.90	1.30	10.59	つまみ有、横形、幅広剥片	刃部は鈍角	
365		R-13	表土	打製石器	剥片石器	安山岩	(4.20)	(2.75)	(1.10)	(13.59)	横長剥片		
366				打製石器	剥片石器	輝石安山岩	(7.35)	(5.30)	1.50	(66.18)	短冊形	刃部欠損、打製石斧と思われる	
367				打製石器	打製石斧	緑色片岩	(7.35)	(6.25)	(1.20)	(61.53)	短冊形、扁平	基部欠損	
368		U-13	2層	打製石器	剥片石器	流紋岩	6.35	7.20	1.50	61.76	幅広剥片	使用痕あり	
369				打製石器	打製石斧	輝石安山岩	(8.65)	(5.45)	(1.40)	(72.16)	短冊形、扁平	基部欠損	
370				磨製石器	磨製石斧	蛇紋岩	(4.30)	(4.20)	(1.20)	(29.6)		基部のみの残存	
393	B-4	T-30	3層	打製石器	石鏃	安山岩	(2.55)	(2.00)	0.40	(1.16)	凹基無茎鏃	片側脚部わずかに欠損	
394		S-27	3層	打製石器	石鏃	黒曜石(西北九州産)	2.15	1.65	0.60	1.58	凹基無茎鏃	全体に厚みあり	
395			3層	打製石器	石鏃	安山岩	2.80	1.80	0.30	1.47	凹基無茎鏃	基部に新しい欠損	
396				打製石器	石鏃	黒曜石(姫島産)	(1.95)	(1.40)	0.35	(0.68)	凹基無茎鏃	先端部・片側脚部欠損、着柄の痕跡が基部近くにスレ	
397			2層	打製石器	石鏃	黒曜石(針尾産)	(2.15)	1.75	0.35	(0.96)	凹基無茎鏃	先端部欠損	
398				打製石器	石鏃	黒曜石(西北九州産)	1.80	1.65	0.30	0.65	凹基無茎鏃		
399		Y-27	攪乱	打製石器	石鏃	黒曜石(西北九州産)	1.80	1.40	0.35	0.71	凹基無茎鏃	やや不整形	

第3表 出土遺物観察表

相対No.	調査区	グリッド	層序	種別	器種	石材	法量※( )は残存				形態的特徴	備考	
							長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
400	B-4		2層	打製石器	石錐未成品か	安山岩(西北九州産)	4.45	2.85	1.00	11.36	つまみ有		
401			2層	打製石器	剥片石器	安山岩(西北九州産)	4.50	8.50	1.50	62.57	横長剥片素材		
402					打製石器	打製石斧	緑色片岩	(3.65)	(5.15)	(0.75)	(17.34)	撥形か	基部のみの残存
403			2層	打製石器	打製石斧	輝石安山岩	(3.55)	(4.70)	(1.00)	(16.57)	撥形か	基部のみの残存	
404					打製石器	剥片	黒曜石(西北九州産)	3.05	3.20	0.85	7.72	幅広剥片	
405			2層	磨製石器	磨製石斧	砂岩	(5.35)	(3.60)	(2.15)	(30.12)	撥形か	刃部片側のみの残存	
406					磨製石器	磨製石斧	砂岩	(3.95)	(3.90)	(1.15)	(15.28)	撥形か	刃部のみの残存
407			2層	磨製石器	磨製石斧	砂岩	15.40	5.00	3.40	349	大型給刃石斧		
408			アカホヤ下		礫石器	敲石	輝石安山岩	7.90	7.25	4.60	319	円形、中央部窪む	
409					攪乱	磨製石器	砥石	流紋岩(天草砥石)	9.30	5.15	3.00	175.6	不整形
415	B-5			攪乱	打製石器	打製石斧	輝石安山岩	15.55	8.30	1.90	342.7	短冊形、扁平	
423	C-1			打製石器	二次加工剥片	黒曜石	7.30	(4.05)	1.55	(36.90)		自然面・素材剥離面を残す。左側欠損後取用か。上部・右側に剥離調整	
424			4層	打製石器	打製石斧	結晶片岩	(7.00)	(4.70)	(0.70)	(30.94)	扁平	刃部欠損	
425			A-9		打製石器	礫器?	不明	10.70	8.25	3.95	394.50		自然面残す。左側下～下部にかけて正面からの剥離調整
431	C-2		4層	打製石器	石鏃	黒曜石(西北九州産)	(3.10)	(1.70)	0.50	(1.32)	凹基無茎鏃	両脚部欠損	
432			表土	打製石器	石鏃	安山岩	(2.85)	(1.90)	0.40	(1.32)	凹基無茎鏃	先端部欠損	
433			4層	打製石器	石鏃	黒曜石(西北九州産)	1.95	1.75	0.20	0.57	凹基無茎鏃、縦長剥片		
434					剥片	安山岩	(4.00)	(1.45)	0.60	(2.50)		自然面・素材剥離面を残す。下部左側先端わずかに欠損。	
437	C-3		4層下	打製石器	石鏃	安山岩	(3.70)	(1.45)	0.45	(1.49)	凹基無茎鏃	片側脚部欠損	
438					剥片	安山岩か	(8.30)	5.45	1.90	(72.40)		使用痕あり。自然面・素材剥離面を残す。先端部わずかに欠損。右側縁辺に微細剥離	
439			4層	磨製石器	磨石	結晶片岩	(6.40)	(3.20)	(1.15)	(32.32)	平面形不明、扁平	一部のみの残存	
440					打製石器	剥片石器	黒曜石(針尾産)	4.80	9.05	2.60	110.00		石核と思われる
466		D-1	H-13	2層	打製石器	石鏃	黒曜石	(2.35)	(1.90)	0.46	(1.4)	凹基無茎鏃	片側脚部欠損
467	G-3		3層	打製石器	石鏃	安山岩	(1.85)	1.33	0.35	(0.6)	凹基無茎鏃	先端部欠損	
468	H-3		2層	打製石器	石鏃	黒曜石	(2.14)	1.42	0.31	(0.5)	凹基無茎鏃	先端部欠損	
469	F-3		3層	打製石器	石鏃	黒曜石	(2.05)	(1.25)	0.27	(0.5)	凹基無茎鏃	片側脚部欠損	
470	H-3		3層	打製石器	石鏃	安山岩	(2.86)	(1.22)	0.28	(0.7)	凹基無茎鏃	片側脚部欠損、もう一方の脚部も一部欠損	
471	I-3		3層	打製石器	石鏃	安山岩	2.78	2.32	0.73	3.6	平基無茎鏃		
472	F-3			打製石器	石鏃	安山岩	(1.57)	(1.47)	0.34	(0.5)	凹基無茎鏃	片側脚部欠損、先端部一部欠損	
473	H-3		2層	打製石器	石鏃	安山岩	(1.35)	1.33	0.42	(0.6)	平基無茎鏃	先端部一部欠損	
474	G-3		2層	打製石器	石鏃	チャート	(2.45)	(0.42)	1.25	(0.8)	凹基無茎鏃	片側脚部欠損	
475	F-3			打製石器	石鏃	黒曜石(西北九州産)	(1.65)	(1.40)	(0.35)	(0.53)	凹基無茎鏃	片脚部のみの残存	
476	D-2	F-3	1層	打製石器	安山岩(西北九州産)	3.05	7.75	1.95	37.39	横長剥片素材、船底形	曲刃		
477				打製石器	剥片	黒曜石(西北九州産)	2.25	2.30	1.65	3.56	不定形剥片		
478			I-3	1層	打製石器	剥片	安山岩	7.15	5.70	2.35	88.9		
505			B-5	1層	打製石器	石鏃	黒曜石	1.56	1.48	0.30	0.4	凹基無茎鏃	
506			D・E-3・4	3層	打製石器	石鏃	安山岩	(1.70)	(1.40)	(0.20)	(0.47)	凹基無茎鏃か	両脚部欠損
507					打製石器	石鏃	黒曜石(針尾産)	(2.35)	1.80	0.55	(1.79)	凹基無茎鏃	先端部欠損
508			A-5	3層	打製石器	石鏃	黒曜石(西北九州産)	2.30	1.50	0.40	0.76	凹基無茎鏃	
509					打製石器	石鏃	チャート(白色)	2.50	2.05	0.50	1.55	凹基無茎鏃	
510			B-4	2層	打製石器	石鏃	黒曜石(西北九州産)	1.25	1.40	0.40	0.43	凹基無茎鏃	
511			B-5	1層	打製石器	石鏃	チャート	1.65	1.50	0.40	0.42	凹基無茎鏃	
512	D-3	B-6	1層	打製石器	石鏃	黒曜石(西北九州産)	(2.10)	(1.50)	(0.40)	(0.86)	凹基無茎鏃	先端部わずかに欠損	
513		C-3	1層	打製石器	石鏃	安山岩(西北九州産)	(1.90)	(1.35)	0.30	(0.61)	凹基無茎鏃	先端部・片側脚部わずかに欠損	
514		B-5	2層	打製石器	石鏃	黒曜石(阿蘇産)	(2.00)	(1.60)	(0.40)	(1.02)	凹基無茎鏃	先端部わずかに欠損	
515		C-11	攪乱	打製石器	石鏃	安山岩(西北九州産)	(1.80)	(1.15)	0.25	(0.45)	凹基無茎鏃	先端部・両脚部わずかに欠損	
516			1・2層	打製石器	剥片石器	安山岩	(3.40)	(2.80)	(1.10)	(6.65)	二次加工剥片	右側縁欠損	
517			表土	打製石器		安山岩(西北九州産)	(5.30)	(6.10)	(2.60)	(84.85)	横長剥片素材	周縁部の大半と半部を欠損	
518			A-5	3層	打製石器	打製石斧	安山岩か	(10.30)	6.30	2.60	(193.7)	短冊形	基部欠損
519			B-7	2層	打製石器	打製石斧	緑色片岩	(9.70)	(5.65)	(1.20)	(82.07)	短冊形、扁平	刃部欠損
520					打製石器	打製石斧	緑色片岩	(7.70)	(4.85)	(0.90)	(38.68)	短冊形か、扁平	刃部欠損
521			一括	磨製石器	砥石	流紋岩(天草砥石)	(14.40)	(9.10)	4.40	(454)		上半部欠損	
522			磨製石器	砥石	流紋岩(天草砥石)	(6.50)	4.30	(3.10)	(105.1)		下部欠損、4面に使用痕		
523		A-6	3層	石器	磨石		12.5	10.3	6.8	-			
524		B-8	1層	石器	磨石		9.6	8.2	5.4	-			
546	D-3		表土	打製石器	石鏃	安山岩	(1.96)	1.56	0.35	(0.7)	凹基無茎鏃	片側脚部欠損	
547				打製石器	石鏃	安山岩	(1.60)	(1.50)	0.35	(0.57)	凹基無茎鏃	先端部欠損	
548		J-13	3層上面	打製石器	石鏃	黒曜石(姫島産)	(2.60)	1.80	3.75	(1.24)	凹基無茎鏃	先端部欠損	
549				打製石器	打製石斧	緑色片岩	9.50	3.95	1.15	62.23	短冊形	再加工品	
550				磨製石器	砥石	砂岩	(7.10)	(6.50)	2.10	(119.6)		両端部・片側縁欠損	

第3表 出土遺物観察表

掲載No	調査区	グリッド	層序	種別	器種	石材	法量※( )は残存				形態的特徴	備考
							長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
551	D-3		表土			不明	(3.50)	0.80	0.70	(4.31)		上部欠損。側面に擦痕。温石か？
634			表土	打製石器	石鏃	黒曜石	(2.96)	(2.00)	0.50	(1.8)	凹基無茎鏃	片側脚部わずかに欠損
635		L-12	2層	打製石器	石鏃	黒曜石(西北九州産)	(2.45)	(1.80)	0.40	(0.94)	凹基無茎鏃	片側脚部欠損
636				打製石器	石鏃	黒曜石	1.92	1.50	0.32	0.5	凹基無茎鏃	
637				打製石器	石鏃	安山岩	(2.65)	2.12	0.43	(2.1)	凹基無茎鏃	先端部欠損・片側脚部わずかに欠損
638		L-12	2層	打製石器	石鏃	黒曜石(西北九州産)	(1.50)	1.80	0.30	(0.54)	凹基無茎鏃	先端部欠損
639			表土	打製石器	石鏃	安山岩	1.62	1.72	0.35	0.5	凹基無茎鏃	
640		L-12	2層	打製石器	石鏃	黒曜石(西北九州産)	(1.90)	(1.40)	0.35	(0.49)	凹基無茎鏃	片側脚部欠損
641				打製石器	石匙	安山岩(西北九州産)	3.60	(7.50)	0.75	(12.04)	つまみ有、横型	片側刃部わずかに欠損
642		M-12	3層	打製石器	石匙	安山岩	4.90	(8.35)	0.85	(26.6)	つまみ有、横型	刃部片側欠損
643		K-12	2層	打製石器	石匙	安山岩	4.95	8.95	0.91	34.7	つまみ有、横型	挟入部に付着物、一部付着物による変質あり
644				打製石器	石匙	安山岩	3.75	(7.30)	0.75	(21.0)	つまみ有、横型	刃部片側欠損か
645		N-4	3層	打製石器	石匙	安山岩	4.07	(9.30)	0.83	(23.7)	つまみ有、横型	刃部片側一部欠損
646		N-11	2層	打製石器	剥片	安山岩	4.00	5.10	1.20	17.4		
647		L-13	2層	打製石器	剥片	安山岩	4.30	5.40	0.75	14.8		
648	D-4	K-13	2層	打製石器	打製石斧	片岩	6.85	3.90	0.65	20.8	短冊形、扁平	
649			表土	打製石器	打製石斧	安山岩か	12.40	7.55	1.90	179.6	短冊形、扁平	
650			表土	打製石器	打製石斧	安山岩	10.25	5.48	2.10	96.2		
651		L-12	2層	打製石器	打製石斧	片岩	9.15	5.75	0.95	(66.1)	短冊形、扁平	欠損部は使用時のものか
652				打製石器	打製石斧	片岩	9.80	5.65	0.90	38.6	短冊形、扁平	基部に挟入
653			表土	打製石器	打製石斧	安山岩か	10.45	6.40	1.40	105.2	短冊形、扁平	
654		L-12	2層	磨製石器	磨製石斧	安山岩か	(8.55)	(8.30)	(0.95)	(95.1)	短冊形、扁平	基部欠損
655		L-12	2層	磨製石器	磨製石斧	蛇紋岩	(8.45)	(4.10)	(1.55)	(64.1)		基部のみの残存
656		M-12	2層	磨製石器	磨製石斧か	片岩	(10.30)	(7.25)	(1.90)	(200.4)	短冊形、扁平	基部欠損、背面・腹面に等間隔線状擦痕あり
657		M-12	2層	磨製石器	磨製石斧	緑色片岩	(10.50)	(7.40)	(2.00)	(201)		基部欠損
658		N-11	2層	磨製石器	磨製石斧	片岩	(4.65)	(5.90)	(2.60)	(93.5)	太型蛤刃か	刃部のみの残存
659		K-13	2層	石器	台石	安山岩	24.1	最大18.5	-	7.0	両面使用	
660				磨製石器	砥石	砂岩	(15.60)	(9.40)	2.60	(419)		上部欠損
661				石器	磨石	砂岩ホルンフェルス	(5.2)	(4.7)	0.5	(20)	半月形	
709		R-18	1層	石製品	石鍋	滑石製	残存3.4	-	-	-	不明	
718		U-14	3層	打製石器	石鏃	黒曜石	1.15	1.12	0.23	0.2	凹基無茎鏃	
719		U-15	2層	打製石器	石鏃	黒曜石	(1.70)	(1.13)	0.31	(0.4)	凹基無茎鏃	片側脚部欠損
720				打製石器	石鏃	黒曜石(姫島産)	(1.90)	(1.40)	(0.40)	(0.59)	不明	基部欠損
721		S-16	1層	打製石器	石鏃	安山岩	(1.75)	1.80	0.40	(0.8)	凹基無茎鏃	先端部欠損
722		P-14	2層	打製石器	石鏃	黒曜石(小国産か)	(2.05)	(1.50)	0.40	(0.92)	不明	先端部・下部欠損
723			1層	打製石器	石鏃	黒曜石	(2.45)	(1.45)	0.34	(0.7)	凹基無茎鏃	片側脚部欠損、先端部ともう一方の脚部欠損
724		Q-15		打製石器	石鏃	安山岩	(2.76)	(2.00)	0.44	(1.5)	凹基無茎鏃	先端部・片側脚部欠損
725		X-13	4層	打製石器	石鏃未成品	黒曜石(西北九州産)	3.00	2.25	0.75	3.89	幅広剥片素材	
726		R-16	3層	打製石器	剥片	安山岩(西北九州産)	(2.05)	(3.05)	(0.35)	(2.16)	幅広剥片素材	下部欠損、二次加工あり
727		Q-16	2層	打製石器	剥片石器	安山岩	6.30	3.70	1.85	23.80	斜軸剥片	
728		S-16	2層	打製石器	剥片石器	安山岩	6.15	3.60	1.10	18.70		
729	D-5			打製石器	剥片	安山岩	4.75	3.15	0.55	9.8		背面に自然面あり
730			表土	打製石器	剥片石器	安山岩	5.90	4.30	1.20	27.97	縦長剥片	
731		S-15	2層	打製石器	打製石斧	安山岩か	(9.45)	(6.80)	(1.30)	(113.7)	短冊形、扁平	基部欠損
732				打製石器	打製石斧	片岩	17.15	6.75	1.40	175.5	短冊形、扁平	
733		T-15	2層	打製石器	打製石斧	片岩	(9.00)	7.05	(1.30)	(108.9)	短冊形、扁平	基部欠損
734		S-16	2層	打製石器	打製石斧	輝石安山岩	11.60	5.70	1.70	123.2	短冊形、扁平	基部はやや不整形
735		T-15	4層	打製石器	打製石斧	輝石安山岩	(10.1)	(5.40)	(1.50)	(109.9)	短冊形、扁平	刃部欠損
736		S-16	2層下	磨製石器	磨製石斧	安山岩	(19.75)	(6.70)	2.15	(197.7)		刃部側の約1/4を欠損
737		P-14	2層	磨製石器	磨製石斧	砂岩	11.50	4.65	2.90	(203.9)	蛤刃	刃部一部欠損
738			表土	磨製石器	磨製石斧	蛇紋岩	14.10	(5.10)	3.10	(311)	蛤刃	刃部左側欠損
739		T-15	2層	磨製石器	磨製石斧	蛇紋岩	(6.50)	(5.70)	(2.40)	(117.0)	蛤刃	刃部のみの残存
740			表土	磨製石器	砥石	砂岩	(9.25)	(5.50)	(3.90)	(221)	不整形長方形、中央部窪む	下部欠損
741		R-17	表土	磨製石器	砥石	砂岩	6.00	5.40	1.50	(75.23)	方形、扁平	
779	D-6	T-20	2層	打製石器	打製石斧	緑色片岩	(10.10)	(5.40)	(1.10)	(63.45)	撥形か	先端部欠損
780				礫石器	敲石・磨石	輝石安山岩	(12.60)	(7.35)	(8.20)	(1013)	楕円形	基部欠損
792				打製石器	石鏃	黒曜石(針尾産)	2.00	1.35	0.30	0.50	凹基無茎鏃	
793	D-7			打製石器	剥片	黒曜石(西北九州産)	1.40	3.00	0.90	2.71	横長剥片	
794				打製石器	打製石斧	緑色片岩	(3.20)	(5.00)	(0.85)	(17.69)	撥形か	刃部のみの残存
845	D-9			打製石器	石鏃	安山岩	(2.30)	(1.50)	0.50	(1.0)	凹基無茎鏃	片側脚部わずかに欠損か

第3表 出土遺物観察表

掲載No.	調査区	グリッド	層序	種別	器種	石材	法量※( )は残存				形態的特徴	備考	
							長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
846	D-9	AD-18	2層	打製石器	石鏃	黒曜石	2.10	1.70	0.35	0.9	凹基無茎鏃	端部欠損か	
847		AB-15	表土	打製石器	石鏃	安山岩	2.30	1.65	0.40	0.9	凹基無茎鏃		
848		AB-14	2層	打製石器	石鏃	安山岩	(1.90)	(2.00)	0.40	(0.6)	凹基無茎鏃	両方の脚部一部欠損	
849				打製石器	剥片	黒曜石(西北九州産)	(3.05)	(1.80)	(0.70)	(2.97)	縦長剥片	先端部欠損	
850		AE-20	表土	打製石器	打製石斧	変成岩か	12.40	5.70	1.95	179.5	短冊形か、扁平	磨減痕あり	
851		AB-14	2層	打製石器	打製石斧	輝石安山岩	(10.50)	(5.90)	(2.00)	(138.9)	短冊形	刃部欠損	
852				打製石器	打製石斧	輝石安山岩	(9.80)	(9.60)	(2.20)	(278.8)	短冊形か、扁平	基部欠損	
853				礫石器	台石	安山岩(阿蘇産)	14.55	8.85	4.90	922	長方形、扁平	角礫を分割して使用	
914		D-10		表土	打製石器	石鏃	黒曜石(西北九州産)	(2.35)	1.65	0.45	(1.11)	凹基無茎鏃	先端部わずかに欠損
915				2層	打製石器	石鏃	チャート	2.00	1.70	0.50	1.1	凹基無茎鏃	
916				打製石器	石鏃	黒曜石(西北九州産)	(1.90)	1.55	0.50	(1.06)	凹基無茎鏃	先端部・両脚部欠損	
917			表土	打製石器	石鏃	黒曜石(西北九州産)	(2.00)	(1.60)	0.35	(0.67)	凹基無茎鏃	片側脚部欠損	
918				打製石器	石鏃	安山岩	1.40	1.55	0.20	0.39	凹基無茎鏃		
919				打製石器	石鏃	黒曜石(西北九州産)	1.60	(1.20)	0.35	(0.36)	凹基無茎鏃	片側脚部欠損	
920				打製石器	石鏃	黒曜石(西北九州産)	(1.60)	(1.55)	(0.30)	(0.46)	凹基無茎鏃	先端部・片側脚部欠損	
921				打製石器	打製石斧	安山岩(阿蘇産)	(10.00)	5.85	2.65	(161.7)	撥形	先端部欠損	
922				打製石器	打製石斧	安山岩か?	15.45	6.50	2.00	285.50	短冊形、扁平		
923	AB-34			磨製石器	磨製石斧	緑色片岩	(5.90)	(7.70)	0.90	(46.86)		刃部一部のみ残存	
924	AB-34		打製石器	剥片	安山岩(西北九州産)	3.95	3.05	0.75	9.11	幅広剥片			
925			石製品	有孔石製品	天草磁石?	全長6.2	最大3.0	穿孔径0.5	2.8		磁石使用後、垂飾品としたか?		
926			礫石器	敲石・磨石	角閃石安山岩	(7.85)	(7.35)	(2.45)	(191.9)	楕円形か、扁平	一部のみ残存		
930	D-11			磨製石器	砥石	流紋岩(天草磁石)	(4.65)	(2.60)	(2.65)	(47.72)		下半部欠損、4面に使用痕	
968				打製石器	石鏃	黒曜石	(1.80)	(1.60)	0.30	(0.26)	凹基無茎鏃	片側脚部端部欠損	
969			4層	打製石器	石鏃	黒曜石	1.90	1.40	0.30	0.4	凹基無茎鏃		
970		L-44	4層	打製石器	石鏃	チャート	(3.90)	1.80	0.50	(2.2)	凹基無茎鏃	先端部わずかに欠損	
971		Q-39	2層	打製石器	石鏃	黒曜石(西北九州産)	(1.50)	(1.30)	(0.30)	(0.42)	凹基無茎鏃	片側脚部欠損	
972		P-39	4層	打製石器	石鏃	黒曜石(西北九州産)	(1.60)	(1.30)	0.30	(0.33)	凹基無茎鏃	片側脚部欠損	
973				打製石器	石鏃	安山岩	(2.60)	(1.80)	0.30	(0.55)	凹基無茎鏃	両脚部欠損	
974			4層	打製石器	石鏃	安山岩	2.00	1.50	0.45	0.9	凹基無茎鏃		
975		S-43	4層	打製石器	石鏃	チャート	2.10	1.90	0.50	1.0	凹基無茎鏃		
976		I-39		打製石器	石鏃	安山岩	(2.80)	1.70	0.35	(1.0)	凹基無茎鏃	先端部欠損	
977	M-41	4層	打製石器	石鏃	黒曜石(針尾産)	(2.60)	1.50	0.30	(0.74)	凹基無茎鏃	先端部・片側脚部欠損		
978			打製石器	石鏃	黒曜石	(2.15)	(1.80)	0.35	(0.64)	凹基無茎鏃	先端部欠損		
979			打製石器	石鏃	安山岩	2.55	2.00	0.40	(1.3)	凹基無茎鏃	ほぼ完形、新しい欠損あり		
980	L-44	4層	打製石器	石鏃	安山岩	(1.80)	1.40	0.30	(0.60)	凹基無茎鏃	先端部欠損		
981	I-39	4層	打製石器	石鏃	黒曜石	(2.10)	(1.00)	0.30	(0.3)	凹基無茎鏃	片側脚部欠損		
982	J-40	4層下	打製石器	石匙	安山岩	9.90	3.30	1.25	29.4	つまみ有、縦型			
983	H-38	4層	打製石器	剥片石器	安山岩	6.90	3.30	1.40	23.82	尖頭状			
984	P-45	4層	打製石器	石鏃	チャート(灰色)	2.35	0.95	0.35	0.76	つまみ無			
985			打製石器	剥片	黒曜石(西北九州産)	(3.25)	2.15	0.80	(5.65)	縦長剥片	先端部欠損		
986		表土	磨製石器	砥石	砂岩	(11.00)	(4.60)	(3.30)	(193.5)	楕円形、扁平	上部・片側縁欠損		
1037	D-12	A-42	4層	打製石器	石鏃	安山岩	(2.20)	1.80	0.40	(0.91)	凹基無茎鏃	先端部わずかに欠損	
1038		A-43	2層	打製石器	石鏃	安山岩	(2.10)	(1.60)	0.35	(0.85)	凹基無茎鏃	先端部・両脚部欠損	
1039		-B-32	2層	打製石器	石鏃	チャート(灰色)	(2.05)	1.40	0.35	(0.58)	凹基無茎鏃	先端部欠損	
1040			表土	打製石器	石鏃	黒曜石(西北九州産)	(1.85)	(0.65)	(0.35)	(0.33)	つまみ有	上部欠損	
1041				磨製石器	磨製石斧	緑色片岩	(8.80)	(5.10)	0.70	(48.71)		左側縁・基部欠損	
1042		A-42	2層	磨製石器	磨製石斧	緑色片岩	(5.80)	(4.50)	2.20	(65.48)		基部のみ残存	
1043				礫石器	台石	輝石安山岩	44.80	(15.10)	8.00	(500.1)		1/2以上欠損	
1054	D-13	-K-42	2~4層	打製石器	石鏃	安山岩	2.70	1.50	0.55	1.6	凹基無茎鏃		
1055			2層	打製石器	石鏃	黒曜石(針尾産)	(1.35)	(1.40)	0.35	(0.45)	凹基無茎鏃	両脚部欠損	
1056			2層	打製石器	石鏃	黒曜石(西北九州産)	(1.65)	(1.45)	0.40	(0.58)	凹基無茎鏃	先端部・左側縁部・左脚部欠損	
1057			表土	打製石器	石匙	安山岩	6.30	2.45	1.00	(14.19)	つまみ有、縦形	片側縁に刃部調整	
1074	E-2		4層	打製石器	石鏃	安山岩	2.23	1.52	0.32	0.7	凹基無茎鏃		
1075				打製石器	石鏃	チャート	(2.70)	1.51	0.36	(0.8)	凹基無茎鏃	先端部わずかに欠損	
1076		M-12	4層	打製石器	石匙	安山岩	(6.53)	3.20	1.12	(18.6)	つまみ有、縦型	先端部欠損か	
1077			4層	磨製石器	磨製石斧	泥岩	(6.60)	(5.50)	(2.90)	(115.9)		基部のみ残存	
1078				磨製石器	磨製石斧	泥岩	(9.55)	(6.15)	(3.10)	(258.1)		刃部欠損	
1079			礫石器	磨石	輝石安山岩	(6.90)	(11.30)	(5.40)	(502)	不整楕円形、扁平	一部のみ残存		

第3表 出土遺物観察表



掲載No.	調査区	グリッド	層序	遺構名	種別	器種	法量※( )は復元			焼成	色調			胎土						調整		備考				
							器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)		内面/胎土		外面/胎色		焼石	灰石	炭石	白灰	赤灰	その他	内		外			
											残存	復元	残存	復元												
1122	A-13	AB-29	2層		黒書土器(土群器)	碗	残存1.4	-	(7.4)	良好	にふい黄橙	10YR7/4	にふい黄橙	10YR7/4	○	○	○	○	○	ナデ	回転ナデ・ナデ	へう切り底、高台内墨書「井」?				
1123	B-2	J-12	2層		黒書土器(土群器)	?	残存2.0	-	-	良好	橙	5YR6/6	橙	5YR6/6	○					○	○	回転ナデ	回転ナデ	内外面赤彩、外面墨書「井」?		
1124	D-2	B-4	2層		赤書土器(土群器)	碗	残存2.2	-	7.2	良好	淡橙	5YR8/4	にふい橙	5YR7/4	○					○	○	2	回転ナデ・ナデ	回転ナデ・ナデ	へう切り底、内外面赤彩、高台内墨書「◎」?	
1125	D-3				赤書土器(土群器)	表土	残存0.8	-	-	良好	にふい黄橙	10YR7/4	にふい黄橙	10YR6/4	○					○	2~3		回転ナデ・ナデ	ナデ	へう切り底、底面板状圧痕・墨書「◎」?	
1126	D-10				赤書土器(土群器)	埋土	ビット27	残存3.0	-	8.7	良好	にふい赤褐	5YR5/3	にふい赤褐	5YR4/3							3		回転ナデ	回転ナデ・自然釉	へう切り底、高台内へう記号「十」
1127	D-4	O-11	2層		赤書土器(土群器)	環	残存2.3	-	(10.0)	良好	橙	7.5YR7/6	橙	7.5YR7/6	○					○	1~4		ナデ	回転ナデ・ケズリ	底面斜書「へう記号?」?「×」	
1128	B-3				赤書土器(土群器)	一括	残存3.0	-	(9.4)	良	浅黄橙	10YR8/4	にふい黄橙	10YR7/4	○								回転ナデ	回転ナデ・ナデ	へう切り底、底面墨書文字不明	
1129	D-11				黒刺土器(土群器)	皿?	-	-	-	良好	橙	5YR6/6	橙	5YR7/6	○								-	-	底面線刻あり	
1130	D-1	H-3	2層		赤書土器(土群器)	?	残存0.8	-	-	良好	橙	7.5YR7/6	橙	7.5YR7/6	○					○	○		ミガキ	ナデ	底面斜書「×」?	
1131	A-10				赤書土器(土群器)	8号道路	残存1.2	-	-	良好	橙	5YR6/6	にふい黄橙	10YR7/3	○					○	○		ナデ・回転ヘラミガキ	ナデ・回転ヘラミガキ	へう切り底、内外面赤彩、底面斜書	

掲載No.	調査区	グリッド	層序	遺構名	種別	器種	部首	備考
1132	C-3			15号踏み分け道	金属製品	九五式演習弾	本体	自衛隊管理 弾頭内木片あり
1133	C-3	I-20			金属製品	九五式演習弾	本体	自衛隊管理
1134	C-2				金属製品	九五式演習弾	本体	弾頭~中位 ガラス破片付着
1135	C-3				ガラス製品	九五式演習弾	発煙筒ガラス容器の蓋	
1136	C-3				金属製品	九五式演習弾	発煙筒ガラス容器固定用の金属板か?	縁一部欠損、円光を持つ金属板
1137	C-3				金属製品	九五式演習弾	ガラス容器下の金属板?	中央に突起。釘で木製の弾身に固定か?
1138	C-3	I-13			金属製品	九五式演習弾	弾体制止金具	メッキ痕
1139	C-3				金属製品	九五式演習弾	弾頭部木ねち	番線巻き付け、ネジ状
1140	C-3				金属製品		弾頭部木ねち	
1141	C-3				金属製品	九五式演習弾	釘	弾頭部コンクリ固定のための釘
1142	C-3				金属製品		釘	
1143	C-3				金属製品	九四式十挺代用爆弾		九四式十挺代用爆弾の部品と考えられる
1144	C-1			20号土坑 サブトレンチ内	金属製品	九四式十挺代用爆弾	弾頭の信管部分	金属製、「昭十六 6 × 阪」刻印
1145	C-1			20号土坑 サブトレンチ内	金属製品	九四式十挺代用爆弾	弾頭の信管部分	金属製、「十六」刻印
1146	C-3				金属製品	九四式十挺代用爆弾	弾頭の信管部分	金属製、「昭十六 10 × 」刻印
1147	C-3	I-13			金属製品	九四式十挺代用爆弾	弾頭の信管部分	弾頭の信管の先端部分、金属製、「昭十六 6 × 阪」刻印
1148	C-3	I-13			金属製品	九四式十挺代用爆弾	弾頭の信管部分	弾頭の信管の台座部分、表面に石灰白粒
1149	C-3				金属製品	九四式十挺代用爆弾	四翅尾翅部	
1150	C-3				金属製品	九四式十挺代用爆弾	四翅尾翅部	
1151	C-3	J-12			金属製品	九四式十挺代用爆弾	四翅尾翅部	
1152	C-3	H-23			金属製品	九四式十挺代用爆弾	四翅尾翅部	
1153	C-3	I-13			金属製品	九四式十挺代用爆弾	四翅尾翅部	
1154	C-3	H-23			金属製品	九四式十挺代用爆弾	四翅尾翅部	
1155	C-3	I-13			金属製品	九四式十挺代用爆弾	四翅尾翅部	
1156	C-3	H-23			金属製品	九四式十挺代用爆弾	四翅尾翅部	
1157	E-2	AQ-11			金属製品	九四式十挺代用爆弾	四翅尾翅部	
1158	C-1	H-20			金属製品	九四式十挺代用爆弾	四翅尾翅部	
1159	C-3				金属製品	九四式十挺代用爆弾	四翅尾翅部	四翅欠損
1160	C-3				金属製品	九四式十挺代用爆弾	四翅尾翅部	四翅欠損
1161	B-2			17号道路	金属製品	航空機部品か?	エンジン部品(アルミニウム)か?	
1162	B-2	C-12			金属製品	航空機部品か?	キャノピーの部品か?	板状、断面は弧状
1163	B-4			28号道路	金属製品	航空機部品か?	エンジンシリンダー(鉄製)	
1164	B-1			攪乱	金属製品	航空機部品か?	エンジンシリンダー(鉄製)	ボルト残る
1165	A-2			攪乱	金属製品	航空機部品か?		
1166	B-1			攪乱	金属製品	航空機部品か?		一部構造不明 航空機部品か?
1167	A-2			攪乱	金属製品	航空機部品か?	機械部品	
1168	B-2	D-12	2層		鉄製品	航空機部品か?	不明	管状、下部にネジ
1169	B-2	D-12	2層		鉄製品・銅製品	航空機部品か?	点火プラグ	銅製ワッシャー付属
1170	B-2	D-12	2層		鉄製品・銅製品	航空機部品か?	点火プラグ	銅製ワッシャー付属
1171	C-3				鉄製品・銅製品	航空機部品か?	エンジンバルブ	バルブガイド・バルブスプリング・スプリングシート含む バルブ下部の錆に木質の繊維付着
1172	B-2	K-12	2層		鉄製品	航空機部品か?	ロッカーアーム	
1173				一括	金属製品	航空機部品か?	不明(鉄)	鉄の質良好
1174	B-2			17号道路	金属製品	航空機部品か?	不明(鉄)	
1175	B-2	D-12	2層		金属製品	航空機部品か?	不明(銅?鉄?)	滑車?青付着、溶接痕あり

第3表 出土遺物観察表

掲載 No.	調査区	グリッド	層 序	遺構名	種 別	器 種	法 量			特 徴			種 類	備 考
							全長 (cm)	直径 (cm)	重量 (g)	弾尾形状	溝 ローレット	頭部 識別塗装		
1176	A-11	AF-24	1層		金属製品	12.7mm米軍機銃弾	5.8	1.3	41	狭窄	1条	残存せず	M-8徹甲焼夷弾か？	弾芯端部に鉛酸化物、M2普通弾などと区別できず
1177	A-11	AF-24	1層		金属製品	12.7mm米軍機銃弾	5.8	1.3	41	狭窄	1条	残存せず	M2普通弾か？	弾尾赤サビ
1178	A-11			9号道路 硬化面③	金属製品	12.7mm米軍機銃弾	6.7 (録含む)	1.3	43	狭窄	1条	残存せず	M2普通弾か？	弾尾赤サビ
1179	A-11		表土		金属製品	12.7mm米軍機銃弾	6.5	1.3	38	非狭窄	1条	残存せず	曳光弾	曳光剤残存か？弾尾赤サビ
1180	A-11			9号道路	金属製品	12.7mm米軍機銃弾	6.4	1.25	38	非狭窄	1条	残存せず	曳光弾	曳光剤残存か？
1181	A-12			9号道路	金属製品	12.7mm米軍機銃弾	6.1	1.3	41	非狭窄	1条	残存せず	曳光弾	型式不明、丹銅被甲、曳光剤残存か？
1182	A-11			9号道路	金属製品	12.7mm米軍機銃弾	6	1.3	40	狭窄	2条	水色？	M1焼夷弾	弾尾硬鉛露出
1183	A-12			9号道路 硬化面②下	金属製品	12.7mm米軍機銃弾	6	1.3	40	狭窄	2条	残存せず	M1焼夷弾	弾尾硬鉛露出
1184	B-2			攪乱	金属製品	12.7mm米軍機銃弾	9.9	2.0 (J.M.)	48					機関銃弾薬。カーネス社ヘルダイバー(SB2C)がグラマン社ヘルキャット(F8F)のものか？射印「LC44」(レイオンチイ陸軍弾薬工場1944年製)がリム径2.0cm、ケースマウス径1.3cm
1185	B-2			17号道路	金属製品	九九式特殊弾包	7.8	1.3 (実測)	25					日本陸軍が機関銃に用いた7.7mm弾薬。弾頭径0.8cm、薬莖径1.3cm

第3表 出土遺物観察表